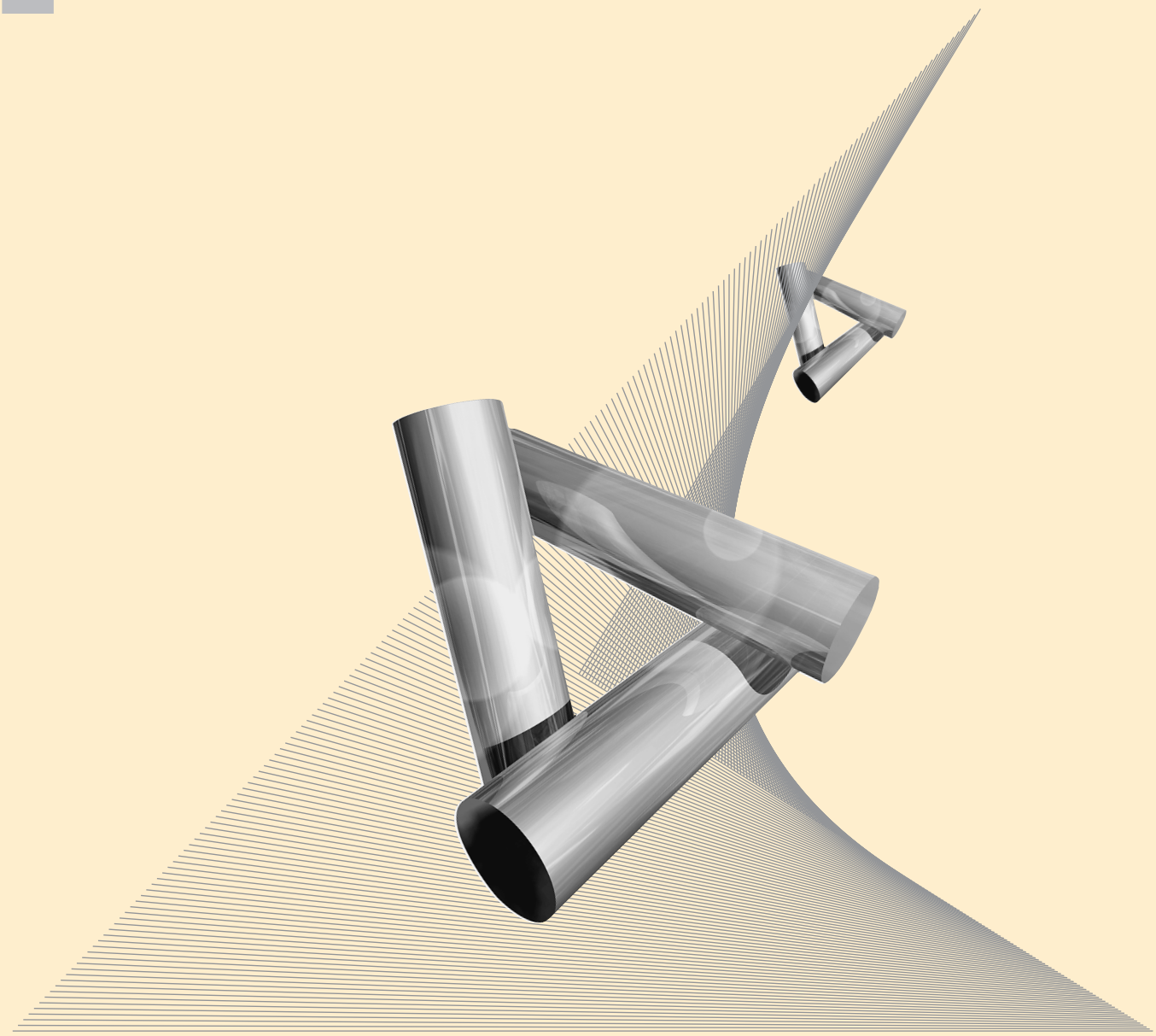
2006年度

シラバス
経済学部



獨協大学

経　済　学　部
シ　ラ　バ　ス
【　総　合　目　次　一　覧　】

◇【2003～2006 年度入学者】
　経済学科　学則別表・・・・・・・・・・・・・・・P.　2
　　開設科目・・・・・・・・・・・・・・・P.　3
　経営学科　学則別表・・・・・・・・・・・・・・・P. 12
　　開設科目・・・・・・・・・・・・・・・P. 13

◇【2001～2002 年度入学者】
　経済学科　学則別表・・・・・・・・・・・・・・・P. 22
　　開設科目・・・・・・・・・・・・・・・P. 24
　経営学科　学則別表・・・・・・・・・・・・・・・P. 32
　　開設科目・・・・・・・・・・・・・・・P. 34

◇【2000 年度以前入学者】
　経済学科　学則別表・・・・・・・・・・・・・・・P. 42
　　開設科目・・・・・・・・・・・・・・・P. 43
　経営学科　学則別表・・・・・・・・・・・・・・・P. 48
　　開設科目・・・・・・・・・・・・・・・P. 49

◆【2002 年度以前】体育
　体育科目・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P. 54

【シラバスの見方】

「シラバス」は、科目の担当教員が学期ごとの授業計画、講義概要、評価方法などを学生に周知することにより、受講する際の指針とし、授業の理解を深めることを目的に作成されたものです。

学生諸君は、シラバスをよく読んで、計画的な履修登録をしてください。

Ⅰ　目次について

1　検索方法

①　【総合目次一覧】で自分の入学年度・学科に該当する目次ページを確認してください。

②　目次の科目は学則別表と同じ順序で記載されています。

2　「履修不可」について

①　目次には「履修不可」学科が記載されています。他学部・他学科の履修をする際に参照してください。
「履修不可」欄に自分の所属学部・学科名が記されている場合は、その科目を履修することができません。

②　表記方法

外：　外国語学部	経：　経済学部	法：　法学部
独：　ドイツ語学科	済：　経済学科	律：　法律学科
英：　英語学科	営：　経営学科	国：　国際関係法学科
仏：　フランス語学科		
言：　言語文化学科		

Ⅱ　シラバスについて

①	②	担当者	③
講義目的、講義概要	授業計画		
④	⑤ 第１週 第２週 第３週 第４週 第５週 第６週 第７週 第８週 第９週 第１０週 第１１週 第１２週		
テキスト、参考文献	評価方法		
⑥	⑦		

春学期

①	②	担当者	③
講義目的、講義概要	授業計画		
④	⑤ 第１週 第２週 第３週 第４週 第５週 第６週 第７週 第８週 第９週 第１０週 第１１週 第１２週		
テキスト、参考文献	評価方法		
⑥	⑦		

秋学期

★　上段＝春学期科目
★　下段＝秋学期科目

①②　入学年度により科目名が異なります。
06年度　　・・・2006年度入学
03年度以降・・・2003年度～2006年度入学
01年度以降・・・2001年度～2006年度入学
02年度以前・・・1999年度～2002年度入学
00年度以前・・・1999年度～2000年度入学

③　担当教員氏名

④　授業の目的や講義全体の説明、学生への要望が記載されています。

⑤　学期の授業計画についての欄です。
各週ごとに講義するテーマが記載してあります。

⑥　授業で使用するテキストや参考となる文献が記載されています。

⑦　評価方法について記載されています。
成績の通知・・・成績通知表を郵送します。
春学期科目：　9月中旬
秋学期科目：　3月末
通年科目：　3月末

【注意】

1．　履修条件
担当教員が履修者に対して、その他の科目の履修や単位の修得などを条件としている科目があります。
必ずシラバス本文で確認してから登録してください。

2．　定員
経済学部の科目は、すべて定員が設けられています。
詳細は「授業時間割表」を参照してください。

学則別表

【2003～2006年度入学生用】

別表Ⅱ－１　経済学科

群	部門	授業科目	単位	必修	選択必修	選択
学科基礎科目	外国語	インターナショナルコミュニケーションⅠａ	1	4		12
		インターナショナルコミュニケーションⅠｂ	1			
		インターナショナルコミュニケーションⅡａ	1			
		インターナショナルコミュニケーションⅡｂ	1			
	経済・経営入門	基礎演習	2			
		経済学ａ	2	4		
		経済学ｂ	2			
		統計学ａ	2	4		
		統計学ｂ	2			
		コンピュータ入門ａ	2			
		コンピュータ入門ｂ	2			
		プレゼンテーション技法	2			
		経営学ａ	2			
		経営学ｂ	2			
		簿記原理ａ	2			
		簿記原理ｂ	2			
	関連科目	数学ａ	2			
		数学ｂ	2			
		高齢化社会論ａ	2			
		高齢化社会論ｂ	2			
		精神衛生論ａ	2			
		精神衛生論ｂ	2			
		医療・福祉概論ａ	2			
		医療・福祉概論ｂ	2			
		現代文化論ａ	2			
		現代文化論ｂ	2			
学科専門科目	演習・経済外国語	演習Ⅰａ	2	4		60
		演習Ⅰｂ	2			
		演習Ⅱａ	2			
		演習Ⅱｂ	2			
		経済外国語Ⅰａ	2	4		
		経済外国語Ⅰｂ	2			
		経済外国語Ⅱａ	2			
		経済外国語Ⅱｂ	2			
		卒業研究	4			
	経済理論・経済学史	マクロ経済学ａ	2	4		
		マクロ経済学ｂ	2			
		ミクロ経済学ａ	2	4		
		ミクロ経済学ｂ	2			
		経済学史ａ	2			
		経済学史ｂ	2			
		経済変動論ａ	2			
		経済変動論ｂ	2			
		経済社会学ａ	2			
		経済社会学ｂ	2			
		経済哲学ａ	2			
		経済哲学ｂ	2			
	経済統計・計量経済	経済統計論ａ	2			
		経済統計論ｂ	2			
		計量経済学ａ	2			
		計量経済学ｂ	2			
	経済政策	経済政策論ａ	2			
		経済政策論ｂ	2			
		経済開発論ａ	2			
		経済開発論ｂ	2			
		環境政策論ａ	2			
		環境政策論ｂ	2			
	経済史	日本経済史ａ	2			
		日本経済史ｂ	2			
		日本社会史ａ	2			
		日本社会史ｂ	2			
		東洋経済史ａ	2			
		東洋経済史ｂ	2			
		西洋経済史ａ	2			
		西洋経済史ｂ	2			
	国際経済	国際経済論ａ	2			
		国際経済論ｂ	2			
		国際金融論ａ	2			
		国際金融論ｂ	2			
	地域経済	日本経済論ａ	2			
		日本経済論ｂ	2			
		アメリカ経済論ａ	2			
		アメリカ経済論ｂ	2			
		ラテンアメリカ経済論ａ	2			
		ラテンアメリカ経済論ｂ	2			
		西ヨーロッパ経済論ａ	2			
		西ヨーロッパ経済論ｂ	2			
		東ヨーロッパ経済論ａ	2			
		東ヨーロッパ経済論ｂ	2			
		東アジア・中国経済論ａ	2			
		東アジア・中国経済論ｂ	2			
		オセアニア経済論ａ	2			
		オセアニア経済論ｂ	2			
		アフリカ経済論ａ	2			
		アフリカ経済論ｂ	2			
		東南アジア経済論ａ	2			
		東南アジア経済論ｂ	2			
		中東経済論ａ	2			
		中東経済論ｂ	2			
	金融経済	金融経済論ａ	2			
		金融経済論ｂ	2			
		金融システム論ａ	2			
		金融システム論ｂ	2			
	財政	財政学ａ	2			
		財政学ｂ	2			
		公共経済学ａ	2			
		公共経済学ｂ	2			
		日本財政論ａ	2			
		日本財政論ｂ	2			
		地方財政論ａ	2			
		地方財政論ｂ	2			
	環境・都市・経済地理	環境経済学ａ	2			
		環境経済学ｂ	2			
		都市経済学ａ	2			
		都市経済学ｂ	2			
		経済地理学ａ	2			
		経済地理学ｂ	2			
		交通経済論ａ	2			
		交通経済論ｂ	2			
	産業経済	産業政策論ａ	2			
		産業政策論ｂ	2			
		産業組織論ａ	2			
		産業組織論ｂ	2			
		産業構造論ａ	2			
		産業構造論ｂ	2			
	労働・社会政策	社会政策ａ	2			
		社会政策ｂ	2			
		労働経済学ａ	2			
		労働経済学ｂ	2			
関連専門科目	経営・会計	経営学原理ａ	2			
		経営学原理ｂ	2			
		企業論ａ	2			
		企業論ｂ	2			
		会計学ａ	2			
		会計学ｂ	2			
	統計・情報科学	応用統計学ａ	2			
		応用統計学ｂ	2			
		標本調査論ａ	2			
		標本調査論ｂ	2			
		データベース論ａ	2			
		データベース論ｂ	2			
		コンピュータシミュレーション論ａ	2			
		コンピュータシミュレーション論ｂ	2			
		マルチメディア論ａ	2			
		マルチメディア論ｂ	2			
		プログラミング論ａ	2			
		プログラミング論ｂ	2			
	政治・法律	法学ａ	2			
		法学ｂ	2			
		政治学総論ａ	2			
		政治学総論ｂ	2			
		民法ａ	2			
		民法ｂ	2			
		商法ａ	2			
		商法ｂ	2			
	総合講座・特殊講義	*総合講座ａ	2			
		*総合講座ｂ	2			
		*特殊講義ａ	2			
		*特殊講義ｂ	2			
経済学科カリキュラム合計				28	0	72
全学共通授業科目（別表Ⅳ）				8	6	14
卒業に必要な単位数合計				36	6	86
						128

備考（１）　卒業単位数は必修３６単位、選択必修６単位、選択８６単位で合計して最低１２８単位以上修得するものとする。１２８単位の内訳は、学科基礎科目２４単位以上、学科専門科目と関連専門科目のうちから７６単位以上、全学共通授業科目28単位以上である。

（２）　学科専門科目と関連専門科目（必修科目は除く）　のうち、２８単位までは経営学科および他学部ならびに教職課程授業科目の単位をもって代用できる。
他学部ならびに教職課程授業科目は１２単位以内とする。
なお、教職課程授業科目の単位の代用については別に定める。

（３）　*の講義科目は年度ごとに定める。　　（４）省略

（５）　　2004年度まで　　2005年度以降
部門名　労働・社会政策　⇒　労働・社会保障
科目名　社会政策a　⇒　社会保障論a
社会政策b　⇒　社会保障論b

○本表は、２００３年度入学者から適用する。

2003～2006年度入学生用

経　済　学　科

≪　学科基礎科目　≫

◇　外国語　◇

科目名	開講期	担当教員名	曜時	履修不可	ページ
インターナショナルコミュニケーションⅠa	春	各担当教員		外　法	1
インターナショナルコミュニケーションⅠb	秋	各担当教員		外　法	1
インターナショナルコミュニケーションⅡa	春	各担当教員		外　法	2
インターナショナルコミュニケーションⅡb	秋	各担当教員		外　法	2

◇　経済・経営入門　◇

科目名	開講期	担当教員名	曜時	履修不可	ページ
基礎演習（春）	春	阿部　正浩	木1	外　法	3
基礎演習（春）	春	有吉　秀樹	水2	外　法	4
基礎演習（春）	春	岡部　康弘	金4	外　法	5
基礎演習（春）	春	岡村　国和	木2	外　法	6
基礎演習（春）	春	上坂　卓郎	水2	外　法	7
基礎演習（春）	春	倉橋　透	月4	外　法	8
基礎演習（春）	春	黒川　文子	火5	外　法	9
基礎演習（春）	春	小林　哲也	水2	外　法	10
基礎演習（春）	春	斉藤　美彦	木2	外　法	11
基礎演習（春）	春	立田　ルミ	火1	外　法	12
基礎演習（春）	春	千代浦　昌道	火1	外　法	13
基礎演習（春）	春	全　載旭	木1	外　法	14
基礎演習（春）	春	冨田　幸弘	火4	外　法	15
基礎演習（春）	春	中野　隆史	水2	外　法	16
基礎演習（春）	春	波形　昭一	月1	外　法	18
基礎演習（春）	春	浜本　光紹	火1	外　法	19
基礎演習（春）	春	平井　岳哉	火4	外　法	20
基礎演習（春）	春	細田　哲	火1	外　法	21
基礎演習（春）	春	本田　浩邦	火1	外　法	22
基礎演習（春）	春	益山　光央	木2	外　法	23
基礎演習（春）	春	御園生　眞	木3	外　法	24
基礎演習（春）	春	森　健	水2	外　法	25
基礎演習（春）	春	森永　卓郎	火2	外　法	26
基礎演習（春）	春	山越　徳	火1	外　法	27
基礎演習（春）	春	山下　裕歩	金4	外　法	28
基礎演習（春）	春	山本　美樹子	水1	外　法	29
基礎演習（春）	春	湯田　雅夫	水2	外　法	30
基礎演習（春）	春	米山　昌幸	火1	外　法	31
基礎演習（秋）	秋	阿部　正浩	木1	外　法	3
基礎演習（秋）	秋	有吉　秀樹	水2	外　法	4
基礎演習（秋）	秋	岡部　康弘	金4	外　法	5
基礎演習（秋）	秋	岡村　国和	木2	外　法	6
基礎演習（秋）	秋	上坂　卓郎	水2	外　法	7
基礎演習（秋）	秋	倉橋　透	月4	外　法	8
基礎演習（秋）	秋	黒川　文子	火5	外　法	9
基礎演習（秋）	秋	斉藤　美彦	木2	外　法	11
基礎演習（秋）	秋	立田　ルミ	火1	外　法	12
基礎演習（秋）	秋	千代浦　昌道	火1	外　法	13
基礎演習（秋）	秋	全　載旭	木1	外　法	14
基礎演習（秋）	秋	中村　泰將	水2	外　法	17

基礎演習（秋）	秋	波形　昭一	月1		外　法	18
基礎演習（秋）	秋	浜本　光紹	火1		外　法	19
基礎演習（秋）	秋	平井　岳哉	火4		外　法	20
基礎演習（秋）	秋	細田　哲	火1		外　法	21
基礎演習（秋）	秋	本田　浩邦	火1		外　法	22
基礎演習（秋）	秋	益山　光央	木2		外　法	23
基礎演習（秋）	秋	御園生　眞	木3		外　法	24
基礎演習（秋）	秋	森　健	水2		外　法	25
基礎演習（秋）	秋	森永　卓郎	火2		外　法	26
基礎演習（秋）	秋	山越　徳	火1		外　法	27
基礎演習（秋）	秋	山下　裕歩	金4		外　法	28
基礎演習（秋）	秋	山本　美樹子	水1		外　法	29
基礎演習（秋）	秋	米山　昌幸	火1		外　法	31
基礎演習（秋）	秋	和田　智	火1		外　法	32
経済学a	春	倉橋　透	火4	営	外　法	34
経済学b	秋	倉橋　透	火4	営	外　法	34
経済学b	春	小林　進	火2	営	外　法	35
経済学a	秋	小林　進	火2	営	外　法	35
経済学a	春	野村　容康	火1	営	外　法	36
経済学b	秋	野村　容康	火1	営	外　法	36
経済学a	春	浜本　光紹	水2	営	外　法	37
経済学b	秋	浜本　光紹	水2	営	外　法	37
経済学a	春	森永　卓郎	火3	営	外　法	38
経済学b	秋	森永　卓郎	火3	営	外　法	38
統計学a	春	清田　秀憲	月3		法	39
統計学b	秋	清田　秀憲	月3		法	39
統計学a	春	清田　秀憲	月4		法	39
統計学b	秋	清田　秀憲	月4		法	39
統計学a	春	冨田　幸弘	木2		法	40
統計学b	秋	冨田　幸弘	木2		法	40
統計学a	春	冨田　幸弘	木3		法	40
統計学b	秋	冨田　幸弘	木3		法	40
統計学a	春	松井　敬	火2		法	41
統計学b	秋	松井　敬	火2		法	41
統計学a	春	松井　敬	火3		法	41
統計学b	秋	松井　敬	火3		法	41
コンピュータ入門a	春	各担当教員			外　法	42
コンピュータ入門b	秋	各担当教員			外　法	42
プレゼンテーション技法	秋	富澤　儀一	水3			43
経営学a	春	岡部　康弘	木2	営		44
経営学b	秋	岡部　康弘	木2	営		44
簿記原理a	春	井出　健二郎	月4			45
簿記原理b	秋	井出　健二郎	月4			45
簿記原理a	春	内倉　滋	月2			46
簿記原理b	秋	内倉　滋	月2			46
簿記原理a	春	金井　繁雅	月4			47
簿記原理b	秋	金井　繁雅	月4			47
簿記原理a	春	千葉　啓司	木4			48
簿記原理b	秋	千葉　啓司	木4			48
簿記原理a	春	中村　泰將	月2			49
簿記原理b	秋	中村　泰將	月2			49
簿記原理a	春	細田　哲	金4			50
簿記原理b	秋	細田　哲	金4			50
簿記原理a	春	松本　安司	火4			51
簿記原理b	秋	松本　安司	火4			51
簿記原理a	春	百瀬　房徳	木1			52
簿記原理b	秋	百瀬　房徳	木1			52

簿記原理a	春	湯田　雅夫	火1	53
簿記原理b	秋	湯田　雅夫	火1	53

◇　関連科目　◇

科目名	開講期	担当教員名	曜時	履修不可	ページ
数学a	春	高木　悟	月1	外　法	54
数学b	秋	高木　悟	月1	外　法	54
数学a	春	高木　悟	月2	外　法	54
数学b	秋	高木　悟	月2	外　法	54
高齢化社会論a	春	奥山　正司	月1		55
高齢化社会論b	秋	奥山　正司	月1		55
精神衛生論a	春	中野　隆史	火4	法	56
精神衛生論b	秋	中野　隆史	火4	法	56
医療・福祉概論a	春	藤井　賢一郎	土1		57
医療・福祉概論b	秋	藤井　賢一郎	土1		57
医療・福祉概論a	春	藤井　賢一郎	土2		57
医療・福祉概論b	秋	藤井　賢一郎	土2		57
現代文化論a	春	柴崎　信三	水3	外　法	58
現代文化論b	秋	柴崎　信三	水3	外　法	58

≪　学科専門科目　≫

◇　経済外国語　◇

科目名	開講期	担当教員名	曜時	履修不可	ページ
経済外国語Ⅰa	春	青木　雅明	月2	営　外　法	59
経済外国語Ⅰb	秋	青木　雅明	月2	営　外　法	59
経済外国語Ⅰa	春	有吉　秀樹	木2	営　外　法	60
経済外国語Ⅰb	秋	有吉　秀樹	木2	営　外　法	60
経済外国語Ⅰa	春	伊藤　為一郎	木3	営　外　法	61
経済外国語Ⅰb	秋	伊藤　為一郎	木3	営　外　法	61
経済外国語Ⅰa	春	岡部　康弘	木1	営　外　法	62
経済外国語Ⅰb	秋	岡部　康弘	木1	営　外　法	62
経済外国語Ⅰa	春	奥山　正司	月2	営　外　法	63
経済外国語Ⅰb	秋	奥山　正司	月2	営　外　法	63
経済外国語Ⅰa	春	金井　繁雅	月5	営　外　法	64
経済外国語Ⅰb	秋	金井　繁雅	月5	営　外　法	64
経済外国語Ⅰa	春	倉橋　透	水2	営　外　法	65
経済外国語Ⅰb	秋	倉橋　透	水2	営　外　法	65
経済外国語Ⅰa	春	黒川　文子	木4	営　外　法	66
経済外国語Ⅰb	秋	黒川　文子	木4	営　外　法	66
経済外国語Ⅰa	春	黒木　亮	木2	営　外　法	67
経済外国語Ⅰb	秋	黒木　亮	木2	営　外　法	67
経済外国語Ⅰa	春	小林　進	金2	営　外　法	68
経済外国語Ⅰb	秋	小林　進	金2	営　外　法	68
経済外国語Ⅰa	春	小林　哲也	金3	営　外　法	69
経済外国語Ⅰb	秋	小林　哲也	金3	営　外　法	69
経済外国語Ⅰa	春	齋藤　正章	月5	営　外　法	70
経済外国語Ⅰb	秋	齋藤　正章	月5	営　外　法	70
経済外国語Ⅰa	春	塩田　尚樹	月1	営　外　法	71
経済外国語Ⅰb	秋	塩田　尚樹	月1	営　外　法	71
経済外国語Ⅰa	春	千葉　啓司	木5	営　外　法	72
経済外国語Ⅰb	秋	千葉　啓司	木5	営　外　法	72
経済外国語Ⅰa	春	中村　泰將	水1	営　外　法	73
経済外国語Ⅰb	秋	中村　泰將	水1	営　外　法	73
経済外国語Ⅰa	春	波形　昭一	火2	営　外　法	74
経済外国語Ⅰb	秋	波形　昭一	火2	営　外　法	74

経済外国語Ⅰa	春	本田　浩邦	火2	営 外 法	75
経済外国語Ⅰb	秋	本田　浩邦	火2	営 外 法	75
経済外国語Ⅰa	春	益山　光央	火1	営 外 法	76
経済外国語Ⅰb	秋	益山　光央	火1	営 外 法	76
経済外国語Ⅰa	春	松本　栄次	火2	営 外 法	77
経済外国語Ⅰb	秋	松本　栄次	火2	営 外 法	77
経済外国語Ⅰa	春	御園生　眞	水1	営 外 法	78
経済外国語Ⅰb	秋	御園生　眞	水1	営 外 法	78
経済外国語Ⅰa	春	百瀬　房徳	火1	営 外 法	79
経済外国語Ⅰb	秋	百瀬　房徳	火1	営 外 法	79
経済外国語Ⅰa	春	森　健	水1	営 外 法	80
経済外国語Ⅰb	秋	森　健	水1	営 外 法	80
経済外国語Ⅰa	春	森永　卓郎	木4	営 外 法	81
経済外国語Ⅰb	秋	森永　卓郎	木4	営 外 法	81
経済外国語Ⅰa	春	山越　徳	火2	営 外 法	82
経済外国語Ⅰb	秋	山越　徳	火2	営 外 法	82
経済外国語Ⅰa	春	山下　裕歩	火3	営 外 法	83
経済外国語Ⅰb	秋	山下　裕歩	火3	営 外 法	83
経済外国語Ⅰa	春	山本　美樹子	水2	営 外 法	84
経済外国語Ⅰb	秋	山本　美樹子	水2	営 外 法	84
経済外国語Ⅰa	春	湯田　雅夫	水1	営 外 法	85
経済外国語Ⅰb	秋	湯田　雅夫	水1	営 外 法	85
経済外国語Ⅰa	春	米山　昌幸	水1	営 外 法	86
経済外国語Ⅰb	秋	米山　昌幸	水1	営 外 法	86
経済外国語Ⅰa（フランス語）	春	千代浦　昌道	水2	営 外 法	87
経済外国語Ⅰb（フランス語）	秋	千代浦　昌道	水2	営 外 法	87
経済外国語Ⅰa（中国語）	春	張　進山	木4	営 外 法	別途配布
経済外国語Ⅰb（中国語）	秋	張　進山	木4	営 外 法	別途配布
経済外国語Ⅰa（中国語）	春	全　載旭	木2	営 外 法	88
経済外国語Ⅰb（中国語）	秋	全　載旭	木2	営 外 法	88
経済外国語Ⅰa（留学生用）	春	J．ブローガン	月3	営 外 法	89
経済外国語Ⅰb（留学生用）	秋	J．ブローガン	月3	営 外 法	89
経済外国語Ⅰa（留学生用）	春	J．ブローガン	月4	営 外 法	89
経済外国語Ⅰb（留学生用）	秋	J．ブローガン	月4	営 外 法	89
経済外国語Ⅱa	春	岡村　国和	木3	営 外 法	90
経済外国語Ⅱb	秋	岡村　国和	木3	営 外 法	90
経済外国語Ⅱa	春	野村　容康	火2	営 外 法	91
経済外国語Ⅱb	秋	野村　容康	火2	営 外 法	91
経済外国語Ⅱa（中国語）	春	全　載旭	木3	営 外 法	92
経済外国語Ⅱb（中国語）	秋	全　載旭	木3	営 外 法	92

◇　経済理論・経済学史　◇

科目名	開講期	担当教員名	曜時	履修不可	ページ
マクロ経済学a	春	塩田　尚樹	火1	営	93
マクロ経済学b	秋	塩田　尚樹	火1	営	93
マクロ経済学a	春	山下　裕歩	水1	営	94
マクロ経済学b	秋	山下　裕歩	水1	営	94
ミクロ経済学a	春	秋吉　史夫	月4	営	95
ミクロ経済学b	秋	秋吉　史夫	月4	営	95
ミクロ経済学a	春	小林　進	金3	営	96
ミクロ経済学b	秋	小林　進	金3	営	96
経済学史a	春	黒木　亮	木3		97
経済学史b	秋	黒木　亮	木3		97
経済変動論a	春	山下　裕歩	月1		98
経済変動論b	秋	山下　裕歩	月1		98
経済社会学a		本年度休講			
経済社会学b		本年度休講			

経済哲学a		本年度休講			
経済哲学b		本年度休講			

◇ 経済統計・計量経済 ◇

科目名	開講期	担当教員名	曜時	履修不可	ページ
経済統計論a	春	松本　正信	水3		99
経済統計論b	秋	松本　正信	水3		99
計量経済学a	春	宮崎　憲治	木3		100
計量経済学b	秋	宮崎　憲治	木3		100

◇ 経済政策 ◇

科目名	開講期	担当教員名	曜時	履修不可	ページ
経済政策論a	春	阿部　正浩	木2		101
経済政策論b	秋	阿部　正浩	木2		101
経済開発論a	春	千代浦　昌道	金2	言	102
経済開発論b	秋	千代浦　昌道	金2	言	102
環境政策論a	春	塩田　尚樹	水1		103
環境政策論b	秋	塩田　尚樹	水1		103

◇ 経済史 ◇

科目名	開講期	担当教員名	曜時	履修不可	ページ
日本経済史a	春	奈倉　文二	水1		104
日本経済史b	秋	奈倉　文二	水1		104
日本社会史a	春	新井　孝重	木4		105
日本社会史b	秋	新井　孝重	木4		105
東洋経済史a		本年度休講			
東洋経済史b		本年度休講			
西洋経済史a	春	御園生　眞	火4		106
西洋経済史b	秋	御園生　眞	火4		106

◇ 国際経済 ◇

科目名	開講期	担当教員名	曜時	履修不可	ページ
国際経済論a	春	益山　光央	火3	営　法	107
国際経済論b	秋	益山　光央	火3	営　法	107
国際金融論a	春	山本　美樹子	月3	法	108
国際金融論b	秋	山本　美樹子	月3	法	108

◇ 地域経済 ◇

科目名	開講期	担当教員名	曜時	履修不可	ページ
日本経済論a	春	波形　昭一	火5	営　言　法	109
日本経済論b	秋	波形　昭一	火5	営　言　法	109
アメリカ経済論a	春	本田　浩邦	木2		110
アメリカ経済論b	秋	本田　浩邦	木2		110
ラテンアメリカ経済論a	春	松本　栄次	月2		111
ラテンアメリカ経済論b	秋	松本　栄次	月2		111
西ヨーロッパ経済論a	春	大西　健夫	金4		112
西ヨーロッパ経済論b	秋	大西　健夫	金4		112
東ヨーロッパ経済論a		本年度休講			
東ヨーロッパ経済論b		本年度休講			
東アジア・中国経済論a	春	全　載旭	水2	言	113
東アジア・中国経済論b	秋	全　載旭	水2	言	113
オセアニア経済論a	春	森　健	金3	言	114
オセアニア経済論b	秋	森　健	金3	言	114
アフリカ経済論a	春	原口　武彦	金2		115
アフリカ経済論b	秋	原口　武彦	金2		115
東南アジア経済論a		本年度休講			
東南アジア経済論b		本年度休講			

中東経済論a	春	平井　文子	月2		116
中東経済論b	秋	平井　文子	月2		116

◇　金融経済　◇

科目名	開講期	担当教員名	曜時	履修不可	ページ
金融経済論a	春	斉藤　美彦	水2		117
金融経済論b	秋	斉藤　美彦	水2		117
金融システム論a	春	斉藤　美彦	水1	営	118
金融システム論b	秋	斉藤　美彦	水1	営	118

◇　財政　◇

科目名	開講期	担当教員名	曜時	履修不可	ページ
財政学a	春	野村　容康	木3	営	119
財政学b	秋	野村　容康	木3	営	119
公共経済学a	春	伊藤　為一郎	月2		120
公共経済学b	秋	伊藤　為一郎	月2		120
日本財政論a		本年度休講			
日本財政論b		本年度休講			
地方財政論a	春	伊藤　為一郎	木4		121
地方財政論b	秋	伊藤　為一郎	木4		121

◇　環境・都市・経済地理　◇

科目名	開講期	担当教員名	曜時	履修不可	ページ
環境経済学a	春	浜本　光紹	火3		122
環境経済学b	秋	浜本　光紹	火3		122
都市経済学a	春	倉橋　透	金1		123
都市経済学b	秋	倉橋　透	金1		123
経済地理学a	春	犬井　正	火2		124
経済地理学b	秋	犬井　正	火2		124
交通経済論a		本年度休講			
交通経済論b		本年度休講			

◇　産業経済　◇

科目名	開講期	担当教員名	曜時	履修不可	ページ
産業政策論a		本年度休講			
産業政策論b		本年度休講			
産業組織論a	春	青木　雅明	月1		125
産業組織論b	秋	青木　雅明	月1		125
産業構造論a	春	山越　徳	木2		126
産業構造論b	秋	山越　徳	木2		126

◇　労働・社会保障　◇

科目名	開講期	担当教員名	曜時	履修不可	ページ
社会保障論a（社会政策a）	春	張　進山	月4		別途配布
社会保障論b（社会政策b）	秋	張　進山	月4		別途配布
労働経済学a	春	森永　卓郎	木2		127
労働経済学b	秋	森永　卓郎	木2		127

≪　関連専門科目　≫

◇　経営・会計　◇

科目名	開講期	担当教員名	曜時	履修不可	ページ
経営学原理a	春	黒川　文子	火4	営	136
経営学原理b	秋	黒川　文子	火4	営	136
経営学原理a	春	冨田　忠義	木3	営	137
経営学原理b	秋	冨田　忠義	木3	営	137
企業論a	春	平井　岳哉	木4	営	151
企業論b	秋	平井　岳哉	木4	営	151

会計学a	春	内倉　滋	火2	法	128
会計学b	秋	内倉　滋	火2	法	128

◇　統計・情報科学　◇

科目名	開講期	担当教員名	曜時	履修不可	ページ
応用統計学a	春	本年度休講		営	
応用統計学b	秋	本年度休講		営	
標本調査論a	春	松井　敬	金3	営	167
標本調査論b	秋	松井　敬	金3	営	167
データベース論a	春	高柳　敏子	月1	営	168
データベース論b	秋	高柳　敏子	月1	営	168
データベース論a	春	高柳　敏子	金4	営	168
データベース論b	秋	高柳　敏子	金4	営	168
コンピュータシミュレーション論a	春	冨田　幸弘	火2	営	169
コンピュータシミュレーション論b	秋	冨田　幸弘	火2	営	169
マルチメディア論a	春	立田　ルミ	水2	営	170
マルチメディア論b	秋	立田　ルミ	水2	営	170
マルチメディア論a	春	森　園子	水4	営	171
マルチメディア論b	秋	森　園子	水4	営	171
プログラミング論a	春	加藤　尚吾	月3	営　言	174
プログラミング論b	秋	加藤　尚吾	月3	営　言	174
プログラミング論a	春	高柳　敏子	金2	営　言	175
プログラミング論b	秋	高柳　敏子	金2	営　言	175
プログラミング論a	春	立田　ルミ	火2	営　言	176
プログラミング論b	秋	立田　ルミ	火2	営　言	176
プログラミング論a	春	森　園子	水3	営　言	177
プログラミング論b	秋	森　園子	水3	営　言	177

◇　政治・法律　◇

科目名	開講期	担当教員名	曜時	履修不可	ページ
法学a	春	内山　良雄	木3	外　法	187
法学b	秋	内山　良雄	木3	外　法	187
政治学総論a	春	杉田　孝夫	木1	外　法	188
政治学総論b	秋	杉田　孝夫	木1	外　法	188
民法a（春学期 週2回授業）	春	遠藤　研一郎	金1	法	189
民法b（春学期 週2回授業）	春	遠藤　研一郎	金2	法	189
民法a（春学期 週2回授業）	春	藤田　貴宏	水1	法	190
民法b（春学期 週2回授業）	春	藤田　貴宏	木4	法	190
商法a	春	藩　阿憲	水3	法	191
商法b	秋	藩　阿憲	水3	法	191

◇　総合講座・特殊講義　◇

科目名	開講期	担当教員名	曜時	履修不可	ページ
総合講座a	春	経済学部	水3		193
総合講座b	秋	経済学部	水3		193
特殊講義a（経済学入門）	春	黒木　亮	月1	法	194
特殊講義b（経済学入門）	秋	黒木　亮	月1	法	194
特殊講義a（経営学科で何が学べるか？）	春	経営学科	水3		195
特殊講義a（経済と法）	春	住田　裕子	木2		196
特殊講義b（企業と法）	秋	住田　裕子	木2		196
特殊講義a（ビジネス法のケーススタディ）	春	住田　裕子	木3		197
特殊講義a（ビジネス法のケーススタディ）	秋	住田　裕子	木3		197
特殊講義b（資本市場の役割と証券投資）	秋	経済学部	水4		別途配布

◇　留学生　◇

科目名	開講期	担当教員名	曜時	履修不可	ページ
日本事情a	春	守田　逸人	水3		198
日本事情b	秋	守田　逸人	水3		198
日本語Ⅱa	春	斉藤　明	月2		199
日本語Ⅱb	秋	斉藤　明	月2		199
日本語Ⅱa	春	斉藤　明	月3		199
日本語Ⅱb	秋	斉藤　明	月3		199
日本語Ⅱa	春	野村　美知子	木3		200
日本語Ⅱb	秋	東中川　かほる	木3		201
日本語Ⅱa	春	東中川　かほる	木4		201
日本語Ⅱb	秋	武田　明子	金3		202

学則別表

【2003～2006年度入学生用】

別表Ⅱ－２　経営学科

群	部門	授業科目	単位	必修	選択必修	選択
学科基礎科目	外国語	インターナショナルコミュニケーションⅠa	1	4		12
		インターナショナルコミュニケーションⅠb	1			
		インターナショナルコミュニケーションⅡa	1			
		インターナショナルコミュニケーションⅡb	1			
	経営・経済入門	基礎演習	2			
		経営学a	2	4		
		経営学b	2			
		簿記原理a	2	4		
		簿記原理b	2			
		コンピュータ入門a	2			
		コンピュータ入門b	2			
		プレゼンテーション技法	2			
		経済学a	2			
		経済学b	2			
		統計学a	2			
		統計学b	2			
	関連科目	数学a	2			
		数学b	2			
		高齢化社会論a	2			
		高齢化社会論b	2			
		精神衛生論a	2			
		精神衛生論b	2			
		医療・福祉概論a	2			
		医療・福祉概論b	2			
		現代文化論a	2			
		現代文化論b	2			
学科専門科目	演習・経営外国語	演習Ⅰa	2	4		64
		演習Ⅰb	2			
		演習Ⅱa	2			
		演習Ⅱb	2			
		経営外国語Ⅰa	2	4		
		経営外国語Ⅰb	2			
		経営外国語Ⅱa	2			
		経営外国語Ⅱb	2			
		卒業研究	4			
	経営	経営学原理a	2	4		
		経営学原理b	2			
		経営戦略論a	2			
		経営戦略論b	2			
		経営管理論a	2			
		経営管理論b	2			
		経営組織論a	2			
		経営組織論b	2			
		経営財務論a	2			
		経営財務論b	2			
		人的資源管理論a	2			
		人的資源管理論b	2			
		国際経営論a	2			
		国際経営論b	2			
	経営史	経営史a	2			
		経営史b	2			
		日本経営史a	2			
		日本経営史b	2			
	商業	マーケティング論a	2			
		マーケティング論b	2			
		広告論a	2			
		広告論b	2			
		行動科学論a	2			
		行動科学論b	2			
		保険論a	2			
		保険論b	2			
		貿易論a	2			
		貿易論b	2			
		証券市場論a	2			
		証券市場論b	2			
	企業	企業論a	2			
		企業論b	2			
		企業形態論a	2			
		企業形態論b	2			
		ベンチャービジネス論a	2			
		ベンチャービジネス論b	2			
		非営利組織マネジメント論a	2			
		非営利組織マネジメント論b	2			
		企業文化論a	2			
		企業文化論b	2			
		研究・開発マネジメントa	2			
		研究・開発マネジメントb	2			
	会計	会計学原理a	2			
		会計学原理b	2			
		財務会計論a	2			
		財務会計論b	2			
		管理会計論a	2			
		管理会計論b	2			
		社会会計論a	2			
		社会会計論b	2			
		原価計算論a	2			
		原価計算論b	2			
		会計監査論a	2			
		会計監査論b	2			
		税務会計論a	2			
		税務会計論b	2			
		経営分析論a	2			
		経営分析論b	2			
		上級簿記a	2			
		上級簿記b	2			
		国際会計論a	2			
		国際会計論b	2			
	情報科学	経営数学a	2			
		経営数学b	2			
		応用統計学a	2			
		応用統計学b	2			
		標本調査論a	2			
		標本調査論b	2			
		データベース論a	2			
		データベース論b	2			
		コンピュータシミュレーション論a	2			
		コンピュータシミュレーション論b	2			
		マルチメディア論a	2			
		マルチメディア論b	2			
		情報検索論a	2			
		情報検索論b	2			
		情報システム論a	2			
		情報システム論b	2			
		プログラミング論a	2			
		プログラミング論b	2			
		情報社会論a	2			
		情報社会論b	2			
		情報通信ネットワークa	2			
		情報通信ネットワークb	2			
		コンピュータネットワーク	2			
		コンピュータアーキテクチャ	2			
		情報と職業a	2			
		情報と職業b	2			
		アルゴリズム論a	2			
		アルゴリズム論b	2			
	経営システム工学	オペレーションズ･リサーチa	2			
		オペレーションズ･リサーチb	2			
		システムズエンジニアリングa	2			
		システムズエンジニアリングb	2			
		経営システム工学a	2			
		経営システム工学b	2			
関連専門科目	経済理論・経済政策	マクロ経済学a	2			
		マクロ経済学b	2			
		ミクロ経済学a	2			
		ミクロ経済学b	2			
		経済政策論a	2			
		経済政策論b	2			
	日本経済・国際経済	日本経済論a	2			
		日本経済論b	2			
		日本経済史a	2			
		日本経済史b	2			
		国際経済論a	2			
		国際経済論b	2			
	金融・財政	金融経済論a	2			
		金融経済論b	2			
		財政学a	2			
		財政学b	2			
	政治・法律	法学a	2			
		法学b	2			
		政治学総論a	2			
		政治学総論b	2			
		民法a	2			
		民法b	2			
		商法a	2			
		商法b	2			
		著作権法a	2			
		著作権法b	2			
	総合講座・特殊講義	*総合講座a	2			
		*総合講座b	2			
		*特殊講義a	2			
		*特殊講義b	2			

経営学科カリキュラム合計	24	0	76
全学共通授業科目（別表Ⅳ）	8	6	14
卒業に必要な単位数合計	32	6	90
	128		

備考　（1）　卒業単位数は必修３２単位、選択必修６単位、選択９０単位で合計して最低１２８単位以上修得するものとする。１２８単位の内訳は、学科基礎科目２４単位以上、学科専門科目と関連専門科目のうちから７６単位以上、全学共通授業科目28単位以上である。

（2）　学科専門科目と関連専門科目（必修科目は除く）のうち、２８単位までは経済学科および他学部ならびに教職課程授業科目の単位をもって代用できる。
他学部ならびに教職課程授業科目は１２単位以内とする。
なお、教職課程授業科目の単位の代用については別に定める。

（3）　*の講義科目は年度ごとに定める。　　（4）省略

（5）　2004年度まで　　2005年度以降
科目名　企業形態論a　⇒　企業経済論a
企業形態論b　⇒　企業経済論b

○本表は、２００３年度入学者から適用する。

2003～2006年度入学生用

経　営　学　科

≪　学科基礎科目　≫

◇　外国語　◇

科目名	開講期	担当教員名	曜時	履修不可	ページ
インターナショナルコミュニケーションⅠa	春	各担当教員		外　法	1
インターナショナルコミュニケーションⅠb	秋	各担当教員		外　法	1
インターナショナルコミュニケーションⅡa	春	各担当教員		外　法	2
インターナショナルコミュニケーションⅡb	秋	各担当教員		外　法	2

◇　経営・経済入門　◇

科目名	開講期	担当教員名	曜時	履修不可	ページ
基礎演習（春）	春	阿部　正浩	木1	外　法	3
基礎演習（春）	春	有吉　秀樹	水2	外　法	4
基礎演習（春）	春	岡部　康弘	金4	外　法	5
基礎演習（春）	春	岡村　国和	木2	外　法	6
基礎演習（春）	春	上坂　卓郎	水2	外　法	7
基礎演習（春）	春	倉橋　透	月4	外　法	8
基礎演習（春）	春	黒川　文子	火5	外　法	9
基礎演習（春）	春	小林　哲也	水2	外　法	10
基礎演習（春）	春	斉藤　美彦	木2	外　法	11
基礎演習（春）	春	立田　ルミ	火1	外　法	12
基礎演習（春）	春	千代浦　昌道	火1	外　法	13
基礎演習（春）	春	全　載旭	木1	外　法	14
基礎演習（春）	春	冨田　幸弘	火4	外　法	15
基礎演習（春）	春	中野　隆史	水2	外　法	16
基礎演習（春）	春	波形　昭一	月1	外　法	18
基礎演習（春）	春	浜本　光紹	火1	外　法	19
基礎演習（春）	春	平井　岳哉	火4	外　法	20
基礎演習（春）	春	細田　哲	火1	外　法	21
基礎演習（春）	春	本田　浩邦	火1	外　法	22
基礎演習（春）	春	益山　光央	木2	外　法	23
基礎演習（春）	春	御園生　眞	木3	外　法	24
基礎演習（春）	春	森　健	水2	外　法	25
基礎演習（春）	春	森永　卓郎	火2	外　法	26
基礎演習（春）	春	山越　徳	火1	外　法	27
基礎演習（春）	春	山下　裕歩	金4	外　法	28
基礎演習（春）	春	山本　美樹子	水1	外　法	29
基礎演習（春）	春	湯田　雅夫	水2	外　法	30
基礎演習（春）	春	米山　昌幸	火1	外　法	31
基礎演習（秋）	秋	阿部　正浩	木1	外　法	3
基礎演習（秋）	秋	有吉　秀樹	水2	外　法	4
基礎演習（秋）	秋	岡部　康弘	金4	外　法	5
基礎演習（秋）	秋	岡村　国和	木2	外　法	6
基礎演習（秋）	秋	上坂　卓郎	水2	外　法	7
基礎演習（秋）	秋	倉橋　透	月4	外　法	8
基礎演習（秋）	秋	黒川　文子	火5	外　法	9
基礎演習（秋）	秋	斉藤　美彦	木2	外　法	11
基礎演習（秋）	秋	立田　ルミ	火1	外　法	12
基礎演習（秋）	秋	千代浦　昌道	火1	外　法	13
基礎演習（秋）	秋	全　載旭	木1	外　法	14
基礎演習（秋）	秋	中村　泰將	水2	外　法	17

基礎演習（秋）	秋	波形　昭一	月1		外　法	18
基礎演習（秋）	秋	浜本　光紹	火1		外　法	19
基礎演習（秋）	秋	平井　岳哉	火4		外　法	20
基礎演習（秋）	秋	細田　哲	火1		外　法	21
基礎演習（秋）	秋	本田　浩邦	火1		外　法	22
基礎演習（秋）	秋	益山　光央	木2		外　法	23
基礎演習（秋）	秋	御園生　眞	木3		外　法	24
基礎演習（秋）	秋	森　健	水2		外　法	25
基礎演習（秋）	秋	森永　卓郎	火2		外　法	26
基礎演習（秋）	秋	山越　徳	火1		外　法	27
基礎演習（秋）	秋	山下　裕歩	金4		外　法	28
基礎演習（秋）	秋	山本　美樹子	水1		外　法	29
基礎演習（秋）	秋	米山　昌幸	火1		外　法	31
基礎演習（秋）	秋	和田　智	火1		外　法	32
経営学a	春	有吉　秀樹	水1	済	外　法	129
経営学b	秋	有吉　秀樹	水1	済	外　法	129
経営学a	春	上坂　卓郎	水1	済	外　法	130
経営学b	秋	上坂　卓郎	水1	済	外　法	130
経営学a	春	日下　泰夫	水1	済	外　法	131
経営学b	秋	日下　泰夫	水1	済	外　法	131
経営学a	春	小林　哲也	水1	済	外　法	132
経営学b	秋	小林　哲也	水1	済	外　法	132
経営学a	春	冨田　忠義	水1	済	外　法	133
経営学b	秋	冨田　忠義	水1	済	外　法	133
経営学a	春	平井　岳哉	水1	済	外　法	134
経営学b	秋	平井　岳哉	水1	済	外　法	134
簿記原理a	春	井出　健二郎	月4			45
簿記原理b	秋	井出　健二郎	月4			45
簿記原理a	春	内倉　滋	月2			46
簿記原理b	秋	内倉　滋	月2			46
簿記原理a	春	金井　繁雅	月4			47
簿記原理b	秋	金井　繁雅	月4			47
簿記原理a	春	千葉　啓司	木4			48
簿記原理b	秋	千葉　啓司	木4			48
簿記原理a	春	中村　泰將	月2			49
簿記原理b	秋	中村　泰將	月2			49
簿記原理a	春	細田　哲	金4			50
簿記原理b	秋	細田　哲	金4			50
簿記原理a	春	松本　安司	火4			51
簿記原理b	秋	松本　安司	火4			51
簿記原理a	春	百瀬　房徳	木1			52
簿記原理b	秋	百瀬　房徳	木1			52
簿記原理a	春	湯田　雅夫	火1			53
簿記原理b	秋	湯田　雅夫	火1			53
コンピュータ入門a	春	各担当教員			外　法	42
コンピュータ入門b	秋	各担当教員			外　法	42
プレゼンテーション技法	秋	富澤　儀一	水3			43
経済学a	春	米山　昌幸	火2	済	外　法	135
経済学b	秋	米山　昌幸	火2	済	外　法	135
統計学a	春	清田　秀憲	月3		法	39
統計学b	秋	清田　秀憲	月3		法	39
統計学a	春	清田　秀憲	月4		法	39
統計学b	秋	清田　秀憲	月4		法	39
統計学a	春	冨田　幸弘	木2		法	40
統計学b	秋	冨田　幸弘	木2		法	40
統計学a	春	冨田　幸弘	木3		法	40
統計学b	秋	冨田　幸弘	木3		法	40

統計学a	春	松井　敬	火2	法	41
統計学b	秋	松井　敬	火2	法	41
統計学a	春	松井　敬	火3	法	41
統計学b	秋	松井　敬	火3	法	41

◇　関連科目　◇

科目名	開講期	担当教員名	曜時	履修不可	ページ
数学a	春	高木　悟	月1	外　法	54
数学b	秋	高木　悟	月1	外　法	54
数学a	春	高木　悟	月2	外　法	54
数学b	秋	高木　悟	月2	外　法	54
高齢化社会論a	春	奥山　正司	月1		55
高齢化社会論b	秋	奥山　正司	月1		55
精神衛生論a	春	中野　隆史	火4	法	56
精神衛生論b	秋	中野　隆史	火4	法	56
医療・福祉概論a	春	藤井　賢一郎	土1		57
医療・福祉概論b	秋	藤井　賢一郎	土1		57
医療・福祉概論a	春	藤井　賢一郎	土2		57
医療・福祉概論b	秋	藤井　賢一郎	土2		57
現代文化論a	春	柴崎　信三	水3	外　法	58
現代文化論b	秋	柴崎　信三	水3	外　法	58

≪　学科専門科目　≫

◇　経営外国語　◇

科目名	開講期	担当教員名	曜時	履修不可	ページ
経営外国語Ⅰa	春	青木　雅明	月2	済　外　法	59
経営外国語Ⅰb	秋	青木　雅明	月2	済　外　法	59
経営外国語Ⅰa	春	有吉　秀樹	木2	済　外　法	60
経営外国語Ⅰb	秋	有吉　秀樹	木2	済　外　法	60
経営外国語Ⅰa	春	伊藤　為一郎	木3	済　外　法	61
経営外国語Ⅰb	秋	伊藤　為一郎	木3	済　外　法	61
経営外国語Ⅰa	春	岡部　康弘	木1	済　外　法	62
経営外国語Ⅰb	秋	岡部　康弘	木1	済　外　法	62
経営外国語Ⅰa	春	奥山　正司	月2	済　外　法	63
経営外国語Ⅰb	秋	奥山　正司	月2	済　外　法	63
経営外国語Ⅰa	春	金井　繁雅	月5	済　外　法	64
経営外国語Ⅰb	秋	金井　繁雅	月5	済　外　法	64
経営外国語Ⅰa	春	倉橋　透	水2	済　外　法	65
経営外国語Ⅰb	秋	倉橋　透	水2	済　外　法	65
経営外国語Ⅰa	春	黒川　文子	木4	済　外　法	66
経営外国語Ⅰb	秋	黒川　文子	木4	済　外　法	66
経営外国語Ⅰa	春	黒木　亮	木2	済　外　法	67
経営外国語Ⅰb	秋	黒木　亮	木2	済　外　法	67
経営外国語Ⅰa	春	小林　進	金2	済　外　法	68
経営外国語Ⅰb	秋	小林　進	金2	済　外　法	68
経営外国語Ⅰa	春	小林　哲也	金3	済　外　法	69
経営外国語Ⅰb	秋	小林　哲也	金3	済　外　法	69
経営外国語Ⅰa	春	齋藤　正章	月5	済　外　法	70
経営外国語Ⅰb	秋	齋藤　正章	月5	済　外　法	70
経営外国語Ⅰa	春	塩田　尚樹	月1	済　外　法	71
経営外国語Ⅰb	秋	塩田　尚樹	月1	済　外　法	71
経営外国語Ⅰa	春	千葉　啓司	木5	済　外　法	72
経営外国語Ⅰb	秋	千葉　啓司	木5	済　外　法	72
経営外国語Ⅰa	春	中村　泰將	水1	済　外　法	73
経営外国語Ⅰb	秋	中村　泰將	水1	済　外　法	73

経営外国語Ⅰa	春	波形　昭一	火2	済 外 法	74
経営外国語Ⅰb	秋	波形　昭一	火2	済 外 法	74
経営外国語Ⅰa	春	本田　浩邦	火2	済 外 法	75
経営外国語Ⅰb	秋	本田　浩邦	火2	済 外 法	75
経営外国語Ⅰa	春	益山　光央	火1	済 外 法	76
経営外国語Ⅰb	秋	益山　光央	火1	済 外 法	76
経営外国語Ⅰa	春	松本　栄次	火2	済 外 法	77
経営外国語Ⅰb	秋	松本　栄次	火2	済 外 法	77
経営外国語Ⅰa	春	御園生　眞	水1	済 外 法	78
経営外国語Ⅰb	秋	御園生　眞	水1	済 外 法	78
経営外国語Ⅰa	春	百瀬　房徳	火1	済 外 法	79
経営外国語Ⅰb	秋	百瀬　房徳	火1	済 外 法	79
経営外国語Ⅰa	春	森　健	水1	済 外 法	80
経営外国語Ⅰb	秋	森　健	水1	済 外 法	80
経営外国語Ⅰa	春	森永　卓郎	木4	済 外 法	81
経営外国語Ⅰb	秋	森永　卓郎	木4	済 外 法	81
経営外国語Ⅰa	春	山越　德	火2	済 外 法	82
経営外国語Ⅰb	秋	山越　德	火2	済 外 法	82
経営外国語Ⅰa	春	山下　裕歩	火3	済 外 法	83
経営外国語Ⅰb	秋	山下　裕歩	火3	済 外 法	83
経営外国語Ⅰa	春	山本　美樹子	水2	済 外 法	84
経営外国語Ⅰb	秋	山本　美樹子	水2	済 外 法	84
経営外国語Ⅰa	春	湯田　雅夫	水1	済 外 法	85
経営外国語Ⅰb	秋	湯田　雅夫	水1	済 外 法	85
経営外国語Ⅰa	春	米山　昌幸	水1	済 外 法	86
経営外国語Ⅰb	秋	米山　昌幸	水1	済 外 法	86
経営外国語Ⅰa（フランス語）	春	千代浦　昌道	水2	済 外 法	87
経営外国語Ⅰb（フランス語）	秋	千代浦　昌道	水2	済 外 法	87
経済外国語Ⅰa（中国語）	春	張　進山	木4	営 外 法	別途配布
経済外国語Ⅰb（中国語）	秋	張　進山	木4	営 外 法	別途配布
経営外国語Ⅰa（中国語）	春	全　載旭	木2	済 外 法	88
経営外国語Ⅰb（中国語）	秋	全　載旭	木2	済 外 法	88
経営外国語Ⅰa（留学生用）	春	J．ブローガン	月3	済 外 法	89
経営外国語Ⅰb（留学生用）	秋	J．ブローガン	月3	済 外 法	89
経営外国語Ⅰa（留学生用）	春	J．ブローガン	月4	済 外 法	89
経営外国語Ⅰb（留学生用）	秋	J．ブローガン	月4	済 外 法	89
経営外国語Ⅱa	春	岡村　国和	木3	済 外 法	90
経営外国語Ⅱb	秋	岡村　国和	木3	済 外 法	90
経営外国語Ⅱa	春	野村　容康	火2	済 外 法	91
経営外国語Ⅱb	秋	野村　容康	火2	済 外 法	91
経営外国語Ⅱa（中国語）	春	全　載旭	木3	済 外 法	92
経営外国語Ⅱb（中国語）	秋	全　載旭	木3	済 外 法	92

◇　経営　◇

科目名	開講期	担当教員名	曜時	履修不可	ページ
経営学原理a	春	黒川　文子	火4	済	136
経営学原理b	秋	黒川　文子	火4	済	136
経営学原理a	春	冨田　忠義	木3	済	137
経営学原理b	秋	冨田　忠義	木3	済	137
経営戦略論a	春	冨田　忠義	木2		138
経営戦略論b	秋	冨田　忠義	木2		138
経営管理論a	春	黒川　文子	木3		139
経営管理論b	秋	黒川　文子	木3		139
経営組織論a	春	高松　和幸	火2		140
経営組織論b	秋	高松　和幸	火2		140
経営財務論a	春	細田　哲	金3		141
経営財務論b	秋	細田　哲	金3		141

人的資源管理論a	春	岡部　康弘	水2		142
人的資源管理論b	秋	岡部　康弘	水2		142
国際経営論a	春	小林　哲也	木3	法	143
国際経営論b	秋	小林　哲也	木3	法	143

◇　経営史　◇

科目名	開講期	担当教員名	曜時	履修不可	ページ
経営史a	春	柳　敦	火4		144
経営史b	秋	柳　敦	火4		144
日本経営史a	春	奈倉　文二	水2		145
日本経営史b	秋	奈倉　文二	水2		145

◇　商業　◇

科目名	開講期	担当教員名	曜時	履修不可	ページ
マーケティング論a	春	有吉　秀樹	金3		146
マーケティング論b	秋	有吉　秀樹	金3		146
広告論a	春	市川　嘉彦	月2	外　法	147
広告論b	秋	市川　嘉彦	月2	外　法	147
行動科学論a		本年度休講			
行動科学論b		本年度休講			
保険論a	春	岡村　国和	月3		148
保険論b	秋	岡村　国和	月3		148
貿易論a	春	米山　昌幸	金1		149
貿易論b	秋	米山　昌幸	金1		149
証券市場論a	春	高橋　元	木2		150
証券市場論b	秋	高橋　元	木2		150

◇　企業　◇

科目名	開講期	担当教員名	曜時	履修不可	ページ
企業論a	春	平井　岳哉	木4	済	151
企業論b	秋	平井　岳哉	木4	済	151
企業経済論a		本年度休講			
企業経済論b		本年度休講			
ベンチャービジネス論a	春	上坂　卓郎	金2		152
ベンチャービジネス論b	秋	上坂　卓郎	金2		152
非営利組織マネジメント論a	春	本年度休講			
非営利組織マネジメント論b	秋	本年度休講			
企業文化論a	春	斉藤　善久	火5		153
企業文化論b	秋	斉藤　善久	火5		153
研究・開発マネジメントa	春	日下　泰夫	金2		154
研究・開発マネジメントb	秋	日下　泰夫	金2		154

◇　会計　◇

科目名	開講期	担当教員名	曜時	履修不可	ページ
会計学原理a	春	内倉　滋	水1		155
会計学原理b	秋	内倉　滋	水1		155
財務会計論a	春	中村　泰将	金2		156
財務会計論b	秋	中村　泰将	金2		156
管理会計論a	春	香取　徹	火4		157
管理会計論b	春	香取　徹	火5		157
社会会計論a	春	湯田　雅夫	月4		158
社会会計論b	秋	湯田　雅夫	月4		158
原価計算論a	春	齋藤　正章	月4		159
原価計算論b	秋	齋藤　正章	月4		159
会計監査論a	春	赤岩　茂	土1		160
会計監査論b	秋	赤岩　茂	土1		160
税務会計論a	春	平　仁	土2		161
税務会計論b	秋	平　仁	土2		161

経営分析論a	春	百瀬　房徳	火2		162
経営分析論b	秋	百瀬　房徳	火2		162
上級簿記a（商業）	春	井出　健二郎	月5		163
上級簿記b（商業）	秋	井出　健二郎	月5		163
上級簿記a（工業）	春	松本　安司	火3		164
上級簿記b（工業）	秋	松本　安司	火3		164
国際会計論a	春	五十嵐　則夫	木5		165
国際会計論b	秋	五十嵐　則夫	木5		165

◇　情報科学　◇

科目名	開講期	担当教員名	曜時	履修不可	ページ
経営数学a	春	高木　悟	月3		166
経営数学b	秋	高木　悟	月3		166
応用統計学a	春	本年度休講		済	
応用統計学b	秋	本年度休講		済	
標本調査論a	春	松井　敬	金3	済	167
標本調査論b	秋	松井　敬	金3	済	167
データベース論a	春	高柳　敏子	月1	済	168
データベース論b	秋	高柳　敏子	月1	済	168
データベース論a	春	高柳　敏子	金4	済	168
データベース論b	秋	高柳　敏子	金4	済	168
コンピュータシミュレーション論a	春	冨田　幸弘	火2	済	169
コンピュータシミュレーション論b	秋	冨田　幸弘	火2	済	169
マルチメディア論a	春	立田　ルミ	水2	済	170
マルチメディア論b	秋	立田　ルミ	水2	済	170
マルチメディア論a	春	森　園子	水4	済	171
マルチメディア論b	秋	森　園子	水4	済	171
情報検索論a	春	福田　求	水1		172
情報検索論b	秋	小畑　信夫	火2		172
情報検索論a	春	福田　求	水2		172
情報検索論b	秋	小畑　信夫	火5		172
情報システム論a	春	今福　啓	火4		173
情報システム論b	秋	今福　啓	火4		173
プログラミング論a	春	加藤　尚吾	月3	済　言	174
プログラミング論b	秋	加藤　尚吾	月3	済　言	174
プログラミング論a	春	高柳　敏子	金2	済　言	175
プログラミング論b	秋	高柳　敏子	金2	済　言	175
プログラミング論a	春	立田　ルミ	火2	済　言	176
プログラミング論b	秋	立田　ルミ	火2	済　言	176
プログラミング論a	春	森　園子	水3	済　言	177
プログラミング論b	秋	森　園子	水3	済　言	177
情報社会論a	春	柴崎　信三	水2		178
情報社会論b	秋	柴崎　信三	水2		178
情報通信ネットワークa	秋	今福　啓	火5		179
情報通信ネットワークb	春	三宅　真	金4		179
コンピュータネットワーク	春	冨澤　義一	水3		180
コンピュータアーキテクチャ	春	今福　啓	火5		181
情報と職業a	春	冨田　幸弘	水2		182
情報と職業b	秋	小林　哲也	水2		182
アルゴリズム論a	春	木村　昌史	月2		183
アルゴリズム論b	秋	木村　昌史	月2		183

◇ 経営システム工学 ◇

科目名	開講期	担当教員名	曜時	履修不可	ページ
オペレーションズ・リサーチa	春	正道寺　勉	月2		184
オペレーションズ・リサーチb	秋	正道寺　勉	月2		184
システムズエンジニアリングa	春	天笠　美知夫	水4		185
システムズエンジニアリングb	秋	天笠　美知夫	水4		185
経営システム工学a	春	日下　泰夫	火2		186
経営システム工学b	秋	日下　泰夫	火2		186

≪ 関連専門科目 ≫

◇ 経済理論・経済政策 ◇

科目名	開講期	担当教員名	曜時	履修不可	ページ
マクロ経済学a	春	塩田　尚樹	火1	済	93
マクロ経済学b	秋	塩田　尚樹	火1	済	93
マクロ経済学a	春	山下　裕歩	水1	済	94
マクロ経済学b	秋	山下　裕歩	水1	済	94
ミクロ経済学a	春	秋吉　史夫	月4	済	95
ミクロ経済学b	秋	秋吉　史夫	月4	済	95
ミクロ経済学a	春	小林　進	金3	済	96
ミクロ経済学b	秋	小林　進	金3	済	96
経済政策論a	春	阿部　正浩	木2	済	101
経済政策論b	秋	阿部　正浩	木2	済	101

◇ 日本経済・国際経済 ◇

科目名	開講期	担当教員名	曜時	履修不可	ページ
日本経済論a	春	波形　昭一	火5	済 言 法	109
日本経済論b	秋	波形　昭一	火5	済 言 法	109
日本経済史a	春	奈倉　文二	水1	済	104
日本経済史b	秋	奈倉　文二	水1	済	104
国際経済論a	春	益山　光央	火3	済 法	107
国際経済論b	秋	益山　光央	火3	済 法	107

◇ 金融・財政 ◇

科目名	開講期	担当教員名	曜時	履修不可	ページ
金融経済論a	春	斉藤　美彦	水2	済	117
金融経済論b	秋	斉藤　美彦	水2	済	117
財政学a	春	野村　容康	木3	済	119
財政学b	秋	野村　容康	木3	済	119

◇ 政治・法律 ◇

科目名	開講期	担当教員名	曜時	履修不可	ページ
法学a	春	内山　良雄	木3	外 法	187
法学b	秋	内山　良雄	木3	外 法	187
政治学総論a	春	杉田　孝夫	木1	外 法	188
政治学総論b	秋	杉田　孝夫	木1	外 法	188
民法a（春学期 週2回授業）	春	遠藤　研一郎	金1	法	189
民法b（春学期 週2回授業）	春	遠藤　研一郎	金2	法	189
民法a（春学期 週2回授業）	春	藤田　貴宏	水1	法	190
民法b（春学期 週2回授業）	春	藤田　貴宏	木4	法	190
商法a	春	藩　阿憲	水3	法	191
商法b	秋	藩　阿憲	水3	法	191
著作権法a	春	長塚　真琴	水1	法	192
著作権法b	秋	長塚　真琴	水1	法	192

◇ 総合講座・特殊講義 ◇

科目名	開講期	担当教員名	曜時	履修不可	ページ
総合講座a	春	経済学部	水3		193
総合講座b	秋	経済学部	水3		193
特殊講義a（経済学入門）	春	黒木　亮	月1		194
特殊講義b（経済学入門）	秋	黒木　亮	月1		194
特殊講義a（経営学科で何が学べるか？）	春	経営学科	水3		195
特殊講義a（経済と法）	春	住田　裕子	木2		196
特殊講義b（企業と法）	秋	住田　裕子	木2		196
特殊講義a（ビジネス法のケーススタディ）	春	住田　裕子	木3		197
特殊講義a（ビジネス法のケーススタディ）	秋	住田　裕子	木3		197
特殊講義b（資本市場の役割と証券投資）	秋	経済学部	水4		別途配布

◇ 留学生 ◇

科目名	開講期	担当教員名	曜時	履修不可	ページ
日本事情a	春	守田　逸人	水3		198
日本事情b	秋	守田　逸人	水3		198
日本語Ⅱa	春	斉藤　明	月2		199
日本語Ⅱb	秋	斉藤　明	月2		199
日本語Ⅱa	春	斉藤　明	月3		199
日本語Ⅱb	秋	斉藤　明	月3		199
日本語Ⅱa	春	野村　美知子	木3		200
日本語Ⅱb	秋	東中川　かほる	木3		201
日本語Ⅱa	春	東中川　かほる	木4		201
日本語Ⅱb	秋	武田　明子	金3		202

学則別表

別表Ⅱ　経済学部授業科目
別表Ⅱ－１　経済学科
別表Ⅱ－１－（１）　学科基礎科目群

群	部門	授業科目	単位	必修	選択
学科基礎科目	経済・経営入門	経済学ａ	2	4	24
		経済学ｂ	2		
		統計学ａ	2	4	
		統計学ｂ	2		
		コンピュータ入門ａ	2		
		コンピュータ入門ｂ	2		
		プレゼンテーション技法	2		
		経営学ａ	2		
		経営学ｂ	2		
		簿記原理ａ	2		
		簿記原理ｂ	2		
	外国語	第一外国語	2	8	
		第二外国語	2		
	社会科学	高齢化社会論ａ	2		
		高齢化社会論ｂ	2		
		社会学	4		
		法学	4		
		日本国憲法	4		
	人文科学	現代文化論ａ	2		
		現代文化論ｂ	2		
		文化人類学	4		
		心理学	4		
		歴史学（日本史･東洋史･西洋史）	4		
		哲学	4		
		文学（日本文学･世界文学）	4		
		国語	4		
	自然科学	地球環境論	4		
		数学ａ	2		
		数学ｂ	2		
		地理学	4		
	スポーツ・健康	精神衛生論	4		
		医療・福祉概論ａ	2		
		医療・福祉概論ｂ	2		
		スポーツ・健康論ａ	2		
		スポーツ・健康論ｂ	2		
		体育	2		
合計				16	24
				40	

別表Ⅱ－１－（2）　学科専門科目群

群	部門	授業科目	単位	必修	選択
学科専門科目	演習・経済外国語	基礎演習	2		
		演習Ⅰ	4	4	
		演習Ⅱ	4		
		経済外国語Ⅰａ	2	4	
		経済外国語Ⅰｂ	2		
		経済外国語Ⅱａ	2		
		経済外国語Ⅱｂ	2		
		卒業研究	4		
	経済理論・経済学史	マクロ経済学ａ	2	4	
		マクロ経済学ｂ	2		
		ミクロ経済学ａ	2	4	
		ミクロ経済学ｂ	2		
		経済学史ａ	2		
		経済学史ｂ	2		
		経済変動論ａ	2		
		経済変動論ｂ	2		
		経済社会学ａ	2		
		経済社会学ｂ	2		
		経済哲学ａ	2		
		経済哲学ｂ	2		
	経済統計・計量経済	経済統計論ａ	2		
		経済統計論ｂ	2		
		計量経済学ａ	2		
		計量経済学ｂ	2		
	経済政策	経済政策論ａ	2		
		経済政策論ｂ	2		
		経済開発論ａ	2		
		経済開発論ｂ	2		
		環境政策論ａ	2		
		環境政策論ｂ	2		
	経済史	日本経済史ａ	2		
		日本経済史ｂ	2		
		日本社会史ａ	2		
		日本社会史ｂ	2		
		東洋経済史ａ	2		
		東洋経済史ｂ	2		
		西洋経済史ａ	2		
		西洋経済史ｂ	2		
	国際経済	国際経済論ａ	2		
		国際経済論ｂ	2		
		国際金融論ａ	2		
		国際金融論ｂ	2		

別表Ⅱ－１－（３） 関連専門科目群

	地域経済	日本経済論ａ	2	
		日本経済論ｂ	2	
		アメリカ経済論ａ	2	
		アメリカ経済論ｂ	2	
		ラテンアメリカ経済論ａ	2	
		ラテンアメリカ経済論ｂ	2	
		西ヨーロッパ経済論ａ	2	
		西ヨーロッパ経済論ｂ	2	
		東ヨーロッパ経済論ａ	2	
		東ヨーロッパ経済論ｂ	2	
		東アジア・中国経済論ａ	2	
		東アジア・中国経済論ｂ	2	
		オセアニア経済論ａ	2	
		オセアニア経済論ｂ	2	
		アフリカ経済論ａ	2	
		アフリカ経済論ｂ	2	
		東南アジア経済論ａ	2	
		東南アジア経済論ｂ	2	
		中東経済論ａ	2	
		中東経済論ｂ	2	
	金融経済	金融経済論ａ	2	
		金融経済論ｂ	2	
		金融システム論ａ	2	
		金融システム論ｂ	2	
	財政	財政学ａ	2	
		財政学ｂ	2	
		公共経済学ａ	2	
		公共経済学ｂ	2	
		日本財政論ａ	2	
		日本財政論ｂ	2	
		地方財政論ａ	2	
		地方財政論ｂ	2	
	環境・都市・経済地理	環境経済学ａ	2	
		環境経済学ｂ	2	
		都市経済学ａ	2	
		都市経済学ｂ	2	
		経済地理学ａ	2	
		経済地理学ｂ	2	
		交通経済論ａ	2	
		交通経済論ｂ	2	
	産業経済	産業政策論ａ	2	
		産業政策論ｂ	2	
		産業組織論ａ	2	
		産業組織論ｂ	2	
		産業構造論ａ	2	
		産業構造論ｂ	2	
	労働・社会政策	社会政策ａ	2	
		社会政策ｂ	2	
		労働経済学ａ	2	
		労働経済学ｂ	2	

76

関連専門科目	経営・会計	経営学原理ａ	2		
		経営学原理ｂ	2		
		企業論ａ	2		
		企業論ｂ	2		
		会計学ａ	2		
		会計学ｂ	2		
	統計・情報科学	応用統計学ａ	2		
		応用統計学ｂ	2		
		標本調査論ａ	2		
		標本調査論ｂ	2		
		データベース論ａ	2		
		データベース論ｂ	2		
		コンピュータシミュレーション論ａ	2		
		コンピュータシミュレーション論ｂ	2		
		マルチメディア論ａ	2		
		マルチメディア論ｂ	2		
		プログラミング論ａ	2		
		プログラミング論ｂ	2		
	政治・法律	政治学総論	4		
		民法	4		
		商法	4		
	総合講座	*総合講座（１） ａ	2		
		*総合講座（１） ｂ	2		
		*総合講座（２） ａ	2		
		*総合講座（２） ｂ	2		
	特殊講義	特殊講義Ａ	4		
		特殊講義Ｂ	2		
合計				16	76
				92	

備 考

（１） 卒業単位数は必修３２単位、選択１００単位、合計して最低１３２単位以上修得するものとする。１３２単位の内訳は、学科基礎科目４０単位以上、学科専門科目と関連専門科目のうちから９２単位以上である。

（２） 学科専門科目と関連専門科目（必修科目は除く）のうち、２８単位までは経営学科および他学部ならびに教職課程授業科目の単位をもって代用できる。他学部科目および教職課程授業科目は１２単位以内とする。

なお、教職課程授業科目の単位の代用については別に定める。

（３） 第一外国語は、英語、ドイツ語、フランス語のうちいずれか一カ国語とする。英語を第一外国語とする場合、第二外国語はドイツ語、フランス語、スペイン語、中国語、ロシア語、韓国語のいずれか一カ国語とする。ドイツ語、フランス語を第一外国語とする場合、英語を第二外国語とする。第一外国語は一学年に４単位、二学年に４単位、合計８単位を修得するものとする。

（４） *の講義科目は年度ごとに定める。

（５） ａ・ｂおよびｂ科目は半年で完結する。

本表は、２００１年度入学者より適用する。

2001～2002年度入学生用

経　済　学　科

≪　学科基礎科目　≫

◇　経済・経営入門　◇

科目名	開講期	担当教員名	曜時	履修不可	ページ
経済学a	春	倉橋　透	火4	営 外 法	34
経済学b	秋	倉橋　透	火4	営 外 法	34
経済学b	春	小林　進	火2	営 外 法	35
経済学a	秋	小林　進	火2	営 外 法	35
経済学a	春	野村　容康	火1	営 外 法	36
経済学b	秋	野村　容康	火1	営 外 法	36
経済学a	春	浜本　光紹	水2	営 外 法	37
経済学b	秋	浜本　光紹	水2	営 外 法	37
経済学a	春	森永　卓郎	火3	営 外 法	38
経済学b	秋	森永　卓郎	火3	営 外 法	38
統計学a	春	清田　秀憲	月3	法	39
統計学b	秋	清田　秀憲	月3	法	39
統計学a	春	清田　秀憲	月4	法	39
統計学b	秋	清田　秀憲	月4	法	39
統計学a	春	冨田　幸弘	木2	法	40
統計学b	秋	冨田　幸弘	木2	法	40
統計学a	春	冨田　幸弘	木3	法	40
統計学b	秋	冨田　幸弘	木3	法	40
統計学a	春	松井　敬	火2	法	41
統計学b	秋	松井　敬	火2	法	41
統計学a	春	松井　敬	火3	法	41
統計学b	秋	松井　敬	火3	法	41
コンピュータ入門a		各担当教員		外 法	42
コンピュータ入門b		各担当教員		外 法	42
プレゼンテーション技法	秋	富澤　儀一	水3		43
経営学a	春	岡部　康弘	木2	営	44
経営学b	秋	岡部　康弘	木2	営	44
簿記原理a	春	井出　健二郎	月4		45
簿記原理b	秋	井出　健二郎	月4		45
簿記原理a	春	内倉　滋	月2		46
簿記原理b	秋	内倉　滋	月2		46
簿記原理a	春	金井　繁雅	月4		47
簿記原理b	秋	金井　繁雅	月4		47
簿記原理a	春	千葉　啓司	木4		48
簿記原理b	秋	千葉　啓司	木4		48
簿記原理a	春	中村　泰將	月2		49
簿記原理b	秋	中村　泰將	月2		49
簿記原理a	春	細田　哲	金4		50
簿記原理b	秋	細田　哲	金4		50
簿記原理a	春	松本　安司	火4		51
簿記原理b	秋	松本　安司	火4		51
簿記原理a	春	百瀬　房徳	木1		52
簿記原理b	秋	百瀬　房徳	木1		52
簿記原理a	春	湯田　雅夫	火1		53
簿記原理b	秋	湯田　雅夫	火1		53

◇ 外国語 ◇

科目名	開講期	担当教員名	曜時	履修不可	ページ
英語Ⅰ（講読）	通年	各担当教員		外 法	203
英語Ⅰ（会話）	通年	各担当教員		外 法	204
英語Ⅱ（講読）	通年	各担当教員		外 法	205
英語Ⅱ（総合）	通年	笠原　誠也	土1	外 法	206
英語Ⅱ（総合）	通年	沼　隆三	土2	外 法	207
英語（CAEL）	春	J．スティベンソン	水2	外 法	208
英語（CAEL）	秋	J．スティベンソン	水2	外 法	208
ドイツ語ⅠB	通年	各担当教員		外 法	209
ドイツ語ⅠC	通年	各担当教員		外 法	210
ドイツ語ⅡB	通年	各担当教員		外 法	211
ドイツ語ⅡC	通年	各担当教員		外 法	212
フランス語ⅠB	通年	各担当教員		外 法	213
フランス語ⅠC	通年	各担当教員		外 法	214
フランス語ⅡB	通年	各担当教員		外 法	215
フランス語ⅡC	通年	各担当教員		外 法	216
スペイン語Ⅰ（総合）	通年	各担当教員		外 法	217
スペイン語Ⅰ（会話）	通年	各担当教員		外 法	218
スペイン語Ⅱ（総合）	通年	各担当教員		外 法	219
スペイン語Ⅱ（会話）	通年	各担当教員		外 法	220
中国語Ⅰ（講読）	通年	各担当教員		外 法	221
中国語Ⅰ（会話）	通年	各担当教員		外 法	222
中国語Ⅱ（講読）	通年	各担当教員		外 法	223
中国語Ⅱ（会話）	通年	各担当教員		外 法	224
ロシア語Ⅰ（講読）	通年	齋藤　毅	水4	外 法	225
ロシア語Ⅰ（文法）	通年	佐藤　千登勢	金4	外 法	226
ロシア語Ⅱ（総合）	通年	齋藤　毅	水3	外 法	227
ロシア語Ⅱ（講読）	通年	佐藤　千登勢	金3	外 法	228
韓国語Ⅰ（文法）	通年	森　勇俊	土1	外 法	229
韓国語Ⅰ（文法）	通年	金　貞我	月1	外 法	230
韓国語Ⅰ（講読）	通年	森　貞美	土2	外 法	231
韓国語Ⅰ（講読）	通年	金　貞我	月2	外 法	232
韓国語Ⅱ（総合）	通年	森　貞美	土1	外 法	233
韓国語Ⅱ（講読）	通年	森　勇俊	土2	外 法	234

◇ 社会科学 ◇

科目名	開講期	担当教員名	曜時	履修不可	ページ
高齢化社会論a	春	奥山　正司	月1		55
高齢化社会論b	秋	奥山　正司	月1		55
社会学	通年	圓岡　偉男	火2	外 法	235
社会学	通年	圓岡　偉男	火4	外 法	235
法学	通年	内山　良雄	木3	外 法	187
日本国憲法		本年度休講		外 法	
現代文化論a	春	柴崎　信三	水3	外	58
現代文化論b	秋	柴崎　信三	水3	外	58
文化人類学		本年度休講		外 法	
心理学	通年	増田　直衛	月1	外 法	236
心理学	通年	増田　直衛	月2	外 法	236
歴史学（日本史）	通年	新井　孝重	木5	外 法	237
歴史学（日本史）	通年	丸浜　昭	火4	外 法	238
歴史学（東洋史）	通年	熊谷　哲也	木3	外 法	239
歴史学（西洋史）		本年度休講			
哲学	通年	谷口　郁夫	月2	外	240
哲学	通年	松丸　壽雄	金3	外	241
文学（日本文学）	通年	佐藤　毅	月1	外 法	242
文学（日本文学）	通年	福沢　健	月3	外 法	243
文学（世界文学）	通年	野々山　ミチコ	火5	外 法	244

国語	通年	梅津　正樹	土2	外　法	245
国語	通年	佐藤　毅	月2	外　法	246
国語	通年	長野　隆之	月1	外　法	247
国語	通年	長野　隆之	月2	外　法	248
国語	通年	福沢　健	月2	外　法	249
国語	通年	福沢　健	月4	外　法	249

◇　自然科学　◇

科目名	開講期	担当教員名	曜時	履修不可	ページ
地球環境論	通年	鈴木　滋	火2	外　法	250
数学a	春	高木　悟	月1	外　法	54
数学b	秋	高木　悟	月1	外　法	54
数学a	春	高木　悟	月2	外　法	54
数学b	秋	高木　悟	月2	外　法	54
地理学	通年	秋本　弘章	水2	言　法	251
地理学	通年	犬井　正	月2	言　法	252

◇　スポーツ・健康　◇

科目名	開講期	担当教員名	曜時	履修不可	ページ
精神衛生論	通年	中野　隆史	火4	法	56
医療・福祉概論a	春	藤井　賢一郎	土1		57
医療・福祉概論b	秋	藤井　賢一郎	土1		57
医療・福祉概論a	春	藤井　賢一郎	土2		57
医療・福祉概論b	秋	藤井　賢一郎	土2		57
スポーツ・健康論a	春	和田　智	金3	外	253
スポーツ・健康論b	秋	和田　智	金3	外	253

≪　学科専門科目　≫

◇　経済外国語　◇

科目名	開講期	担当教員名	曜時	履修不可	ページ
経済外国語Ⅰa	春	青木　雅明	月2	営　外　法	59
経済外国語Ⅰb	秋	青木　雅明	月2	営　外　法	59
経済外国語Ⅰa	春	有吉　秀樹	木2	営　外　法	60
経済外国語Ⅰb	秋	有吉　秀樹	木2	営　外　法	60
経済外国語Ⅰa	春	伊藤　為一郎	木3	営　外　法	61
経済外国語Ⅰb	秋	伊藤　為一郎	木3	営　外　法	61
経済外国語Ⅰa	春	岡部　康弘	木1	営　外　法	62
経済外国語Ⅰb	秋	岡部　康弘	木1	営　外　法	62
経済外国語Ⅰa	春	奥山　正司	月2	営　外　法	63
経済外国語Ⅰb	秋	奥山　正司	月2	営　外　法	63
経済外国語Ⅰa	春	金井　繁雅	月5	営　外　法	64
経済外国語Ⅰb	秋	金井　繁雅	月5	営　外　法	64
経済外国語Ⅰa	春	倉橋　透	水2	営　外　法	65
経済外国語Ⅰb	秋	倉橋　透	水2	営　外　法	65
経済外国語Ⅰa	春	黒川　文子	木4	営　外　法	66
経済外国語Ⅰb	秋	黒川　文子	木4	営　外　法	66
経済外国語Ⅰa	春	黒木　亮	木2	営　外　法	67
経済外国語Ⅰb	秋	黒木　亮	木2	営　外　法	67
経済外国語Ⅰa	春	小林　進	金2	営　外　法	68
経済外国語Ⅰb	秋	小林　進	金2	営　外　法	68
経済外国語Ⅰa	春	小林　哲也	金3	営　外　法	69
経済外国語Ⅰb	秋	小林　哲也	金3	営　外　法	69
経済外国語Ⅰa	春	齋藤　正章	月5	営　外　法	70
経済外国語Ⅰb	秋	齋藤　正章	月5	営　外　法	70
経済外国語Ⅰa	春	塩田　尚樹	月1	営　外　法	71
経済外国語Ⅰb	秋	塩田　尚樹	月1	営　外　法	71

経済外国語Ⅰa	春	千葉　啓司	木5	営 外 法	72
経済外国語Ⅰb	秋	千葉　啓司	木5	営 外 法	72
経済外国語Ⅰa	春	中村　泰將	水1	営 外 法	73
経済外国語Ⅰb	秋	中村　泰將	水1	営 外 法	73
経済外国語Ⅰa	春	波形　昭一	火2	営 外 法	74
経済外国語Ⅰb	秋	波形　昭一	火2	営 外 法	74
経済外国語Ⅰa	春	本田　浩邦	火2	営 外 法	75
経済外国語Ⅰb	秋	本田　浩邦	火2	営 外 法	75
経済外国語Ⅰa	春	益山　光央	火1	営 外 法	76
経済外国語Ⅰb	秋	益山　光央	火1	営 外 法	76
経済外国語Ⅰa	春	松本　栄次	火2	営 外 法	77
経済外国語Ⅰb	秋	松本　栄次	火2	営 外 法	77
経済外国語Ⅰa	春	御園生　眞	水1	営 外 法	78
経済外国語Ⅰb	秋	御園生　眞	水1	営 外 法	78
経済外国語Ⅰa	春	百瀬　房徳	火1	営 外 法	79
経済外国語Ⅰb	秋	百瀬　房徳	火1	営 外 法	79
経済外国語Ⅰa	春	森　健	水1	営 外 法	80
経済外国語Ⅰb	秋	森　健	水1	営 外 法	80
経済外国語Ⅰa	春	森永　卓郎	木4	営 外 法	81
経済外国語Ⅰb	秋	森永　卓郎	木4	営 外 法	81
経済外国語Ⅰa	春	山越　徳	火2	営 外 法	82
経済外国語Ⅰb	秋	山越　徳	火2	営 外 法	82
経済外国語Ⅰa	春	山下　裕歩	火3	営 外 法	83
経済外国語Ⅰb	秋	山下　裕歩	火3	営 外 法	83
経済外国語Ⅰa	春	山本　美樹子	水2	営 外 法	84
経済外国語Ⅰb	秋	山本　美樹子	水2	営 外 法	84
経済外国語Ⅰa	春	湯田　雅夫	水1	営 外 法	85
経済外国語Ⅰb	秋	湯田　雅夫	水1	営 外 法	85
経済外国語Ⅰa	春	米山　昌幸	水1	営 外 法	86
経済外国語Ⅰb	秋	米山　昌幸	水1	営 外 法	86
経済外国語Ⅰa（フランス語）	春	千代浦　昌道	水2	営 外 法	87
経済外国語Ⅰb（フランス語）	秋	千代浦　昌道	水2	営 外 法	87
経済外国語Ⅰa（中国語）	春	張　進山	木4	営 外 法	別途配布
経済外国語Ⅰb（中国語）	秋	張　進山	木4	営 外 法	別途配布
経済外国語Ⅰa（中国語）	春	全　載旭	木2	営 外 法	88
経済外国語Ⅰb（中国語）	秋	全　載旭	木2	営 外 法	88
経済外国語Ⅰa（留学生用）	春	J．ブローガン	月3	営 外 法	89
経済外国語Ⅰb（留学生用）	秋	J．ブローガン	月3	営 外 法	89
経済外国語Ⅰa（留学生用）	春	J．ブローガン	月4	営 外 法	89
経済外国語Ⅰb（留学生用）	秋	J．ブローガン	月4	営 外 法	89
経済外国語Ⅱa	春	岡村　国和	木3	営 外 法	90
経済外国語Ⅱb	秋	岡村　国和	木3	営 外 法	90
経済外国語Ⅱa	春	野村　容康	火2	営 外 法	91
経済外国語Ⅱb	秋	野村　容康	火2	営 外 法	91
経済外国語Ⅱa（中国語）	春	全　載旭	木3	営 外 法	92
経済外国語Ⅱb（中国語）	秋	全　載旭	木3	営 外 法	92

◇　経済理論・経済学史　◇

科目名	開講期	担当教員名	曜時	履修不可	ページ
マクロ経済学a	春	塩田　尚樹	火1	営	93
マクロ経済学b	秋	塩田　尚樹	火1	営	93
マクロ経済学a	春	山下　裕歩	水1	営	94
マクロ経済学b	秋	山下　裕歩	水1	営	94
ミクロ経済学a	春	秋吉　史夫	月4	営	95
ミクロ経済学b	秋	秋吉　史夫	月4	営	95
ミクロ経済学a	春	小林　進	金3	営	96
ミクロ経済学b	秋	小林　進	金3	営	96

経済学史a	春	黒木　亮	木3		97
経済学史b	秋	黒木　亮	木3		97
経済変動論a	春	山下　裕歩	月1		98
経済変動論b	秋	山下　裕歩	月1		98
経済社会学a		本年度休講			
経済社会学b		本年度休講			
経済哲学a		本年度休講			
経済哲学b		本年度休講			

◇　経済統計・計量経済　◇

科目名	開講期	担当教員名	曜時	履修不可	ページ
経済統計論a	春	松本　正信	水3		99
経済統計論b	秋	松本　正信	水3		99
計量経済学a	春	宮崎　憲治	木3		100
計量経済学b	秋	宮崎　憲治	木3		100

◇　経済政策　◇

科目名	開講期	担当教員名	曜時	履修不可	ページ
経済政策論a	春	阿部　正浩	木2		101
経済政策論b	秋	阿部　正浩	木2		101
経済開発論a	春	千代浦　昌道	金2		102
経済開発論b	秋	千代浦　昌道	金2		102
環境政策論a	春	塩田　尚樹	水1		103
環境政策論b	秋	塩田　尚樹	水1		103

◇　経済史　◇

科目名	開講期	担当教員名	曜時	履修不可	ページ
日本経済史a	春	奈倉　文二	水1		104
日本経済史b	秋	奈倉　文二	水1		104
日本社会史a	春	新井　孝重	木4		105
日本社会史b	秋	新井　孝重	木4		105
東洋経済史a		本年度休講			
東洋経済史b		本年度休講			
西洋経済史a	春	御園生　眞	火4		106
西洋経済史b	秋	御園生　眞	火4		106

◇　国際経済　◇

科目名	開講期	担当教員名	曜時	履修不可	ページ
国際経済論a	春	益山　光央	火3	営　法	107
国際経済論b	秋	益山　光央	火3	営　法	107
国際金融論a	春	山本　美樹子	月3	法	108
国際金融論b	秋	山本　美樹子	月3	法	108

◇　地域経済　◇

科目名	開講期	担当教員名	曜時	履修不可	ページ
日本経済論a	春	波形　昭一	火5	営　言　法	109
日本経済論b	秋	波形　昭一	火5	営　言　法	109
アメリカ経済論a	春	本田　浩邦	木2		110
アメリカ経済論b	秋	本田　浩邦	木2		110
ラテンアメリカ経済論a	春	松本　栄次	月2		111
ラテンアメリカ経済論b	秋	松本　栄次	月2		111
西ヨーロッパ経済論a	春	大西　健夫	金4		112
西ヨーロッパ経済論b	秋	大西　健夫	金4		112
東ヨーロッパ経済論a		本年度休講			
東ヨーロッパ経済論b		本年度休講			
東アジア・中国経済論a	春	全　載旭	水2	言	113
東アジア・中国経済論b	秋	全　載旭	水2	言	113
オセアニア経済論a	春	森　健	金3	言	114
オセアニア経済論b	秋	森　健	金3	言	114

アフリカ経済論a	春	原口　武彦	金2		115
アフリカ経済論b	秋	原口　武彦	金2		115
東南アジア経済論a		本年度休講			
東南アジア経済論b		本年度休講			
中東経済論a	春	平井　文子	月2		116
中東経済論b	秋	平井　文子	月2		116

◇　金融経済　◇

科目名	開講期	担当教員名	曜時	履修不可	ページ
金融経済論a	春	斉藤　美彦	水2		117
金融経済論b	秋	斉藤　美彦	水2		117
金融システム論a	春	斉藤　美彦	水1	営	118
金融システム論b	秋	斉藤　美彦	水1	営	118

◇　財政　◇

科目名	開講期	担当教員名	曜時	履修不可	ページ
財政学a	春	野村　容康	木3	営	119
財政学b	秋	野村　容康	木3	営	119
公共経済学a	春	伊藤　為一郎	月2		120
公共経済学b	秋	伊藤　為一郎	月2		120
日本財政論a		本年度休講			
日本財政論b		本年度休講			
地方財政論a	春	伊藤　為一郎	木4		121
地方財政論b	秋	伊藤　為一郎	木4		121

◇　環境・都市・経済地理　◇

科目名	開講期	担当教員名	曜時	履修不可	ページ
環境経済学a	春	浜本　光紹	火3		122
環境経済学b	秋	浜本　光紹	火3		122
都市経済学a	春	倉橋　透	金1		123
都市経済学b	秋	倉橋　透	金1		123
経済地理学a	春	犬井　正	火2		124
経済地理学b	秋	犬井　正	火2		124
交通経済論a		本年度休講			
交通経済論b		本年度休講			

◇　産業経済　◇

科目名	開講期	担当教員名	曜時	履修不可	ページ
産業政策論a		本年度休講			
産業政策論b		本年度休講			
産業組織論a	春	青木　雅明	月1		125
産業組織論b	秋	青木　雅明	月1		125
産業構造論a	春	山越　徳	木2		126
産業構造論b	秋	山越　徳	木2		126

◇　労働・社会政策　◇

科目名	開講期	担当教員名	曜時	履修不可	ページ
社会政策a	春	張　進山	月4		別途配布
社会政策b	秋	張　進山	月4		別途配布
労働経済学a	春	森永　卓郎	木2		127
労働経済学b	秋	森永　卓郎	木2		127

≪ 関連専門科目 ≫

◇ 経営・会計 ◇

科目名	開講期	担当教員名	曜時	履修不可	ページ
経営学原理a	春	黒川　文子	火4	営	136
経営学原理b	秋	黒川　文子	火4	営	136
経営学原理a	春	冨田　忠義	木3	営	137
経営学原理b	秋	冨田　忠義	木3	営	137
企業論a	春	平井　岳哉	木4	営	151
企業論b	秋	平井　岳哉	木4	営	151
会計学a	春	内倉　滋	火2	法	128
会計学b	秋	内倉　滋	火2	法	128

◇ 統計・情報科学 ◇

科目名	開講期	担当教員名	曜時	履修不可	ページ
応用統計学a	春	本年度休講		営	
応用統計学b	秋	本年度休講		営	
標本調査論a	春	松井　敬	金3	営	167
標本調査論b	秋	松井　敬	金3	営	167
データベース論a	春	高柳　敏子	月1	営	168
データベース論b	秋	高柳　敏子	月1	営	168
データベース論a	春	高柳　敏子	金4	営	168
データベース論b	秋	高柳　敏子	金4	営	168
コンピュータシミュレーション論a	春	冨田　幸弘	火2	営	169
コンピュータシミュレーション論b	秋	冨田　幸弘	火2	営	169
マルチメディア論a	春	立田　ルミ	水2	営	170
マルチメディア論b	秋	立田　ルミ	水2	営	170
マルチメディア論a	春	森　園子	水4	営	171
マルチメディア論b	秋	森　園子	水4	営	171
プログラミング論a	春	加藤　尚吾	月3	営　言	174
プログラミング論b	秋	加藤　尚吾	月3	営　言	174
プログラミング論a	春	高柳　敏子	金2	営　言	175
プログラミング論b	秋	高柳　敏子	金2	営　言	175
プログラミング論a	春	立田　ルミ	火2	営　言	176
プログラミング論b	秋	立田　ルミ	火2	営　言	176
プログラミング論a	春	森　園子	水3	営　言	177
プログラミング論b	秋	森　園子	水3	営　言	177

◇ 政治・法律 ◇

科目名	開講期	担当教員名	曜時	履修不可	ページ
政治学総論	通年	杉田　孝夫	木1	外　法	188
民法（春学期週2回）	春	遠藤　研一郎	金1・金2	法	189
民法（春学期週2回）	春	藤田　貴宏	水1・木4	法	190
商法	通年	藩　阿憲	水3	法	191

◇ 総合講座 ◇

科目名	開講期	担当教員名	曜時	履修不可	ページ
総合講座(1)a	春	経済学部	水3		193
総合講座(1)b	秋	経済学部	水3		193

◇ 特殊講義 ◇

科目名	開講期	担当教員名	曜時	履修不可	ページ
特殊講義A（経済学入門）	通年	黒木　亮	月1	法	194
特殊講義B（経営学科で何が学べるか）	春	経営学科	水3		195
特殊講義B（経済と法）	春	住田　裕子	木2		196
特殊講義B（企業と法）	秋	住田　裕子	木2		196
特殊講義B（ビジネス法のケーススタディ）	春	住田　裕子	木3		197
特殊講義B（ビジネス法のケーススタディ）	秋	住田　裕子	木3		197
特殊講義B（資本市場の役割と証券投資）	秋	経済学部	水4		別途配布

◇ 留学生 ◇

科目名	開講期	担当教員名	曜時	履修不可	ページ
日本事情a	春	未定	未定		198
日本事情b	秋	未定	未定		198
日本語Ⅱ	通年	斉藤　明	月2		199
日本語Ⅱ	通年	斉藤　明	月3		199
日本語Ⅱ	通年	（春）野村　美知子	木3		200
		（秋）東中川　かほる			201

学則別表

別表Ⅱ－２　経営学科

別表Ⅱ－２－（１）　学科基礎科目群

群	部門	授業科目	単位	必修	選択
学科基礎科目	経済・経営入門	経営学ａ	2	4	24
		経営学ｂ	2		
		簿記原理ａ	2	4	
		簿記原理ｂ	2		
		コンピュータ入門ａ	2		
		コンピュータ入門ｂ	2		
		プレゼンテーション技法	2		
		経済学ａ	2		
		経済学ｂ	2		
		統計学ａ	2		
		統計学ｂ	2		
	外国語	第一外国語	2	8	
		第二外国語	2		
	社会科学	高齢化社会論ａ	2		
		高齢化社会論ｂ	2		
		社会学	4		
		法学	4		
		日本国憲法	4		
	人文科学	現代文化論ａ	2		
		現代文化論ｂ	2		
		文化人類学	4		
		心理学	4		
		歴史学（日本史･東洋史･西洋史）	4		
		哲学	4		
		文学（日本文学･世界文学）	4		
		国語	4		
	自然科学	地球環境論	4		
		数学ａ	2		
		数学ｂ	2		
		地理学	4		
	スポーツ・健康	精神衛生論	4		
		医療・福祉概論ａ	2		
		医療・福祉概論ｂ	2		
		スポーツ・健康論ａ	2		
		スポーツ・健康論ｂ	2		
		体育	2		
合計				16	24
				40	

別表Ⅱ－２－（2）　学科専門科目群

群	部門	授業科目	単位	必修	選択
学科専門科目	演習・経営外国語	基礎演習	2		
		演習Ⅰ	4	4	
		演習Ⅱ	4		
		経営外国語Ⅰａ	2	4	
		経営外国語Ⅰｂ	2		
		経営外国語Ⅱａ	2		
		経営外国語Ⅱｂ	2		
		卒業研究	4		
	経営	経営学原理ａ	2	4	
		経営学原理ｂ	2		
		経営戦略論ａ	2		
		経営戦略論ｂ	2		
		経営管理論ａ	2		
		経営管理論ｂ	2		
		経営組織論ａ	2		
		経営組織論ｂ	2		
		経営財務論ａ	2		
		経営財務論ｂ	2		
		人的資源管理論ａ	2		
		人的資源管理論ｂ	2		
		国際経営論ａ	2		
		国際経営論ｂ	2		
	経営史	経営史ａ	2		
		経営史ｂ	2		
		日本経営史ａ	2		
		日本経営史ｂ	2		
	商業	マーケティング論ａ	2		
		マーケティング論ｂ	2		
		広告論ａ	2		
		広告論ｂ	2		
		行動科学論ａ	2		
		行動科学論ｂ	2		
		保険論ａ	2		
		保険論ｂ	2		
		貿易論ａ	2		
		貿易論ｂ	2		
		証券市場論ａ	2		
		証券市場論ｂ	2		
	企業	企業論ａ	2		
		企業論ｂ	2		
		企業形態論ａ	2		
		企業形態論ｂ	2		
		ベンチャービジネス論ａ	2		
		ベンチャービジネス論ｂ	2		
		非営利組織マネジメント論ａ	2		
		非営利組織マネジメント論ｂ	2		
		企業文化論ａ	2		
		企業文化論ｂ	2		
		研究・開発マネジメントａ	2		
		研究・開発マネジメントｂ	2		

別表Ⅱ－２－（３） 関連専門科目群

	会計	会計学原理ａ	2
		会計学原理ｂ	2
		財務会計論ａ	2
		財務会計論ｂ	2
		管理会計論ａ	2
		管理会計論ｂ	2
		社会会計論ａ	2
		社会会計論ｂ	2
		原価計算論ａ	2
		原価計算論ｂ	2
		会計監査論ａ	2
		会計監査論ｂ	2
		税務会計論ａ	2
		税務会計論ｂ	2
		経営分析論ａ	2
		経営分析論ｂ	2
		上級簿記ａ	2
		上級簿記ｂ	2
		国際会計論ａ	2
		国際会計論ｂ	2
	情報科学	経営数学ａ	2
		経営数学ｂ	2
		応用統計学ａ	2
		応用統計学ｂ	2
		標本調査論ａ	2
		標本調査論ｂ	2
		データベース論ａ	2
		データベース論ｂ	2
		コンピュータシミュレーション論ａ	2
		コンピュータシミュレーション論ｂ	2
		マルチメディア論ａ	2
		マルチメディア論ｂ	2
		情報検索論ａ	2
		情報検索論ｂ	2
		情報システム論ａ	2
		情報システム論ｂ	2
		プログラミング論ａ	2
		プログラミング論ｂ	2
		情報社会論ａ	2
		情報社会論ｂ	2
		情報通信ネットワークａ	2
		情報通信ネットワークｂ	2
		コンピュータネットワーク	2
		コンピュータアーキテクチャ	2
		情報と職業ａ	2
		情報と職業ｂ	2
		アルゴリズム論ａ	2
		アルゴリズム論ｂ	2
	経営システム	オペレーションズ･リサーチａ	2
		オペレーションズ･リサーチｂ	2
		システムズエンジニアリングａ	2
		システムズエンジニアリングｂ	2
		経営システム工学ａ	2
		経営システム工学ｂ	2

80

関連専門科目	経済理論・経済政策	マクロ経済学ａ	2		
		マクロ経済学ｂ	2		
		ミクロ経済学ａ	2		
		ミクロ経済学ｂ	2		
		経済政策論ａ	2		
		経済政策論ｂ	2		
	日本経済・国際経済	日本経済論ａ	2		
		日本経済論ｂ	2		
		日本経済史ａ	2		
		日本経済史ｂ	2		
		国際経済論ａ	2		
		国際経済論ｂ	2		
	金融･財政	金融経済論ａ	2		
		金融経済論ｂ	2		
		財政学ａ	2		
		財政学ｂ	2		
	政治・法律	政治学総論	4		
		民法	4		
		商法	4		
		著作権法	4		
	総合講座	*総合講座（１） ａ	2		
		*総合講座（１） ｂ	2		
		*総合講座（２） ａ	2		
		*総合講座（２） ｂ	2		
	特殊講義	特殊講義Ａ	4		
		特殊講義Ｂ	2		
合計				12	80
				92	

備 考

（１）卒業単位数は必修２８単位、選択１０４単位、合計して最低１３２単位以上修得するものとする。
１３２単位の内訳は、学科基礎科目４０単位以上、学科専門科目と関連専門科目のうちから９２単位以上である 。

（２）学科専門科目と関連専門科目（必修科目は除く）のうち、２８単位までは経済学科および他学部ならびに教職課程授業科目の単位をもって代用できる。他学部科目および教職課程授業科目は１２単位以内とする。
なお、教職課程授業科目の単位の代用については別に定める。

（３）第一外国語は、英語、ドイツ語、フランス語のうちいずれか一カ国語とする。英語を第一外国語とする場合、第二外国語はドイツ語、フランス語、スペイン語、中国語、ロシア語、韓国語のいずれか一カ国語とする。ドイツ語、フランス語を第一外国語とする場合、英語を第二外国語とする。
第一外国語は一学年に４単位、二学年に４単位、合計８単位を修得するものとする。

（４）*の講義科目は年度ごとに定める。

（５）ａ・ｂおよびｂ科目は半年で完結する。

本表は、２００１年度入学者より適用する。

ただし、２０００年度入学者は、高等学校１種免許状（情報）を取得する場合に限り、上記科目を履修することができる。

2001～2002年度入学生用

経　営　学　科

≪　学科基礎科目　≫

◇　経営・経済入門　◇

科目名	開講期	担当教員名	曜時	履修不可	ページ
経営学a	春	有吉　秀樹	水1	済 外 法	129
経営学b	秋	有吉　秀樹	水1	済 外 法	129
経営学a	春	上坂　卓郎	水1	済 外 法	130
経営学b	秋	上坂　卓郎	水1	済 外 法	130
経営学a	春	日下　泰夫	水1	済 外 法	131
経営学b	秋	日下　泰夫	水1	済 外 法	131
経営学a	春	小林　哲也	水1	済 外 法	132
経営学b	秋	小林　哲也	水1	済 外 法	132
経営学a	春	冨田　忠義	水1	済 外 法	133
経営学b	秋	冨田　忠義	水1	済 外 法	133
経営学a	春	平井　岳哉	水1	済 外 法	134
経営学b	秋	平井　岳哉	水1	済 外 法	134
簿記原理a	春	井出　健二郎	月4		45
簿記原理b	秋	井出　健二郎	月4		45
簿記原理a	春	内倉　滋	月2		46
簿記原理b	秋	内倉　滋	月2		46
簿記原理a	春	金井　繁雅	月4		47
簿記原理b	秋	金井　繁雅	月4		47
簿記原理a	春	千葉　啓司	木4		48
簿記原理b	秋	千葉　啓司	木4		48
簿記原理a	春	中村　泰將	月2		49
簿記原理b	秋	中村　泰將	月2		49
簿記原理a	春	細田　哲	金4		50
簿記原理b	秋	細田　哲	金4		50
簿記原理a	春	松本　安司	火4		51
簿記原理b	秋	松本　安司	火4		51
簿記原理a	春	百瀬　房徳	木1		52
簿記原理b	秋	百瀬　房徳	木1		52
簿記原理a	春	湯田　雅夫	火1		53
簿記原理b	秋	湯田　雅夫	火1		53
コンピュータ入門a		各担当教員		外 法	42
コンピュータ入門b		各担当教員		外 法	42
プレゼンテーション技法	秋	富澤　儀一	水3		43
経済学a	春	米山　昌幸	火2	済 外 法	135
経済学b	秋	米山　昌幸	火2	済 外 法	135
統計学a	春	清田　秀憲	月3	法	39
統計学b	秋	清田　秀憲	月3	法	39
統計学a	春	清田　秀憲	月4	法	39
統計学b	秋	清田　秀憲	月4	法	39
統計学a	春	冨田　幸弘	木2	法	40
統計学b	秋	冨田　幸弘	木2	法	40
統計学a	春	冨田　幸弘	木3	法	40
統計学b	秋	冨田　幸弘	木3	法	40
統計学a	春	松井　敬	火2	法	41
統計学b	秋	松井　敬	火2	法	41
統計学a	春	松井　敬	火3	法	41
統計学b	秋	松井　敬	火3	法	41

◇ 外国語 ◇

科目名	開講期	担当教員名	曜時	履修不可	ページ
英語Ⅰ（講読）	通年	各担当教員		外 法	203
英語Ⅰ（会話）	通年	各担当教員		外 法	204
英語Ⅱ（講読）	通年	各担当教員		外 法	205
英語Ⅱ（総合）	通年	笠原　誠也	土1	外 法	206
英語Ⅱ（総合）	通年	沼　隆三	土2	外 法	207
英語（CAEL）	春	J.　スティベンソン	水2	外 法	208
英語（CAEL）	秋	J.　スティベンソン	水2	外 法	208
ドイツ語ⅠB	通年	各担当教員		外 法	209
ドイツ語ⅠC	通年	各担当教員		外 法	210
ドイツ語ⅡB	通年	各担当教員		外 法	211
ドイツ語ⅡC	通年	各担当教員		外 法	212
フランス語ⅠB	通年	各担当教員		外 法	213
フランス語ⅠC	通年	各担当教員		外 法	214
フランス語ⅡB	通年	各担当教員		外 法	215
フランス語ⅡC	通年	各担当教員		外 法	216
スペイン語Ⅰ（総合）	通年	各担当教員		外 法	217
スペイン語Ⅰ（会話）	通年	各担当教員		外 法	218
スペイン語Ⅱ（総合）	通年	各担当教員		外 法	219
スペイン語Ⅱ（会話）	通年	各担当教員		外 法	220
中国語Ⅰ（講読）	通年	各担当教員		外 法	221
中国語Ⅰ（会話）	通年	各担当教員		外 法	222
中国語Ⅱ（講読）	通年	各担当教員		外 法	223
中国語Ⅱ（会話）	通年	各担当教員		外 法	224
ロシア語Ⅰ（講読）	通年	齋藤　毅	水4	外 法	225
ロシア語Ⅰ（文法）	通年	佐藤　千登勢	金4	外 法	226
ロシア語Ⅱ（総合）	通年	齋藤　毅	水3	外 法	227
ロシア語Ⅱ（講読）	通年	佐藤　千登勢	金3	外 法	228
韓国語Ⅰ（文法）	通年	森　勇俊	土1	外 法	229
韓国語Ⅰ（文法）	通年	金　貞我	月1	外 法	230
韓国語Ⅰ（講読）	通年	森　貞美	土2	外 法	231
韓国語Ⅰ（講読）	通年	金　貞我	月2	外 法	232
韓国語Ⅱ（総合）	通年	森　貞美	土1	外 法	233
韓国語Ⅱ（講読）	通年	森　勇俊	土2	外 法	234

◇ 社会科学 ◇

科目名	開講期	担当教員名	曜時	履修不可	ページ
高齢化社会論a	春	奥山　正司	月1		55
高齢化社会論b	秋	奥山　正司	月1		55
社会学	通年	圓岡　偉男	火2	外 法	235
社会学	通年	圓岡　偉男	火4	外 法	235
法学	通年	内山　良雄	木3	外 法	187
日本国憲法		本年度休講		外 法	
現代文化論a	春	柴崎　信三	水3	外	58
現代文化論b	秋	柴崎　信三	水3	外	58
文化人類学		本年度休講		外 法	
心理学	通年	増田　直衛	月1	外 法	236
心理学	通年	増田　直衛	月2	外 法	236
歴史学（日本史）	通年	新井　孝重	木5	外 法	237
歴史学（日本史）	通年	丸浜　昭	火4	外 法	238
歴史学（東洋史）	通年	熊谷　哲也	木3	外 法	239
歴史学（西洋史）		本年度休講			
哲学	通年	谷口　郁夫	月2	外	240
哲学	通年	松丸　壽雄	金3	外	241
文学（日本文学）	通年	佐藤　毅	月1	外 法	242
文学（日本文学）	通年	福沢　健	月3	外 法	243

文学（世界文学）	通年	野々山　ミチコ	火5	外　法	244
国語	通年	梅津　正樹	土2	外　法	245
国語	通年	佐藤　毅	月2	外　法	246
国語	通年	長野　隆之	月1	外　法	247
国語	通年	長野　隆之	月2	外　法	248
国語	通年	福沢　健	月2	外　法	249
国語	通年	福沢　健	月4	外　法	249

◇　自然科学　◇

科目名	開講期	担当教員名	曜時	履修不可	ページ
地球環境論	通年	鈴木　滋	火2	外　法	250
数学a	春	高木　悟	月1	外　法	54
数学b	秋	高木　悟	月1	外　法	54
数学a	春	高木　悟	月2	外　法	54
数学b	秋	高木　悟	月2	外　法	54
地理学	通年	秋本　弘章	水2	言　法	251
地理学	通年	犬井　正	月2	言　法	252

◇　スポーツ・健康　◇

科目名	開講期	担当教員名	曜時	履修不可	ページ
精神衛生論	通年	中野　隆史	火4	法	56
医療・福祉概論a	春	藤井　賢一郎	土1		57
医療・福祉概論b	秋	藤井　賢一郎	土1		57
医療・福祉概論a	春	藤井　賢一郎	土2		57
医療・福祉概論b	秋	藤井　賢一郎	土2		57
スポーツ・健康論a	春	和田　智	金3	外	253
スポーツ・健康論b	秋	和田　智	金3	外	253

≪　学科専門科目　≫

◇　経営外国語　◇

科目名	開講期	担当教員名	曜時	履修不可	ページ
経営外国語Ⅰa	春	青木　雅明	月2	済　外　法	59
経営外国語Ⅰb	秋	青木　雅明	月2	済　外　法	59
経営外国語Ⅰa	春	有吉　秀樹	木2	済　外　法	60
経営外国語Ⅰb	秋	有吉　秀樹	木2	済　外　法	60
経営外国語Ⅰa	春	伊藤　為一郎	木3	済　外　法	61
経営外国語Ⅰb	秋	伊藤　為一郎	木3	済　外　法	61
経営外国語Ⅰa	春	岡部　康弘	木1	済　外　法	62
経営外国語Ⅰb	秋	岡部　康弘	木1	済　外　法	62
経営外国語Ⅰa	春	奥山　正司	月2	済　外　法	63
経営外国語Ⅰb	秋	奥山　正司	月2	済　外　法	63
経営外国語Ⅰa	春	金井　繁雅	月5	済　外　法	64
経営外国語Ⅰb	秋	金井　繁雅	月5	済　外　法	64
経営外国語Ⅰa	春	倉橋　透	水2	済　外　法	65
経営外国語Ⅰb	秋	倉橋　透	水2	済　外　法	65
経営外国語Ⅰa	春	黒川　文子	木4	済　外　法	66
経営外国語Ⅰb	秋	黒川　文子	木4	済　外　法	66
経営外国語Ⅰa	春	黒木　亮	木2	済　外　法	67
経営外国語Ⅰb	秋	黒木　亮	木2	済　外　法	67
経営外国語Ⅰa	春	小林　進	金2	済　外　法	68
経営外国語Ⅰb	秋	小林　進	金2	済　外　法	68
経営外国語Ⅰa	春	小林　哲也	金3	済　外　法	69
経営外国語Ⅰb	秋	小林　哲也	金3	済　外　法	69
経営外国語Ⅰa	春	齋藤　正章	月5	済　外　法	70
経営外国語Ⅰb	秋	齋藤　正章	月5	済　外　法	70
経営外国語Ⅰa	春	塩田　尚樹	月1	済　外　法	71
経営外国語Ⅰb	秋	塩田　尚樹	月1	済　外　法	71

経営外国語Ⅰa	春	千葉　啓司	木5	済 外 法	72
経営外国語Ⅰb	秋	千葉　啓司	木5	済 外 法	72
経営外国語Ⅰa	春	中村　泰將	水1	済 外 法	73
経営外国語Ⅰb	秋	中村　泰將	水1	済 外 法	73
経営外国語Ⅰa	春	波形　昭一	火2	済 外 法	74
経営外国語Ⅰb	秋	波形　昭一	火2	済 外 法	74
経営外国語Ⅰa	春	本田　浩邦	火2	済 外 法	75
経営外国語Ⅰb	秋	本田　浩邦	火2	済 外 法	75
経営外国語Ⅰa	春	益山　光央	火1	済 外 法	76
経営外国語Ⅰb	秋	益山　光央	火1	済 外 法	76
経営外国語Ⅰa	春	松本　栄次	火2	済 外 法	77
経営外国語Ⅰb	秋	松本　栄次	火2	済 外 法	77
経営外国語Ⅰa	春	御園生　眞	水1	済 外 法	78
経営外国語Ⅰb	秋	御園生　眞	水1	済 外 法	78
経営外国語Ⅰa	春	百瀬　房徳	火1	済 外 法	79
経営外国語Ⅰb	秋	百瀬　房徳	火1	済 外 法	79
経営外国語Ⅰa	春	森　健	水1	済 外 法	80
経営外国語Ⅰb	秋	森　健	水1	済 外 法	80
経営外国語Ⅰa	春	森永　卓郎	木4	済 外 法	81
経営外国語Ⅰb	秋	森永　卓郎	木4	済 外 法	81
経営外国語Ⅰa	春	山越　徳	火2	済 外 法	82
経営外国語Ⅰb	秋	山越　徳	火2	済 外 法	82
経営外国語Ⅰa	春	山下　裕歩	火3	済 外 法	83
経営外国語Ⅰb	秋	山下　裕歩	火3	済 外 法	83
経営外国語Ⅰa	春	山本　美樹子	水2	済 外 法	84
経営外国語Ⅰb	秋	山本　美樹子	水2	済 外 法	84
経営外国語Ⅰa	春	湯田　雅夫	水1	済 外 法	85
経営外国語Ⅰb	秋	湯田　雅夫	水1	済 外 法	85
経営外国語Ⅰa	春	米山　昌幸	水1	済 外 法	86
経営外国語Ⅰb	秋	米山　昌幸	水1	済 外 法	86
経営外国語Ⅰa（フランス語）	春	千代浦　昌道	水2	済 外 法	87
経営外国語Ⅰb（フランス語）	秋	千代浦　昌道	水2	済 外 法	87
経済外国語Ⅰa（中国語）	春	張　進山	木4	営 外 法	別途配布
経済外国語Ⅰb（中国語）	秋	張　進山	木4	営 外 法	別途配布
経営外国語Ⅰa（中国語）	春	全　載旭	木2	済 外 法	88
経営外国語Ⅰb（中国語）	秋	全　載旭	木2	済 外 法	88
経営外国語Ⅰa（留学生用）	春	J．ブローガン	月3	済 外 法	89
経営外国語Ⅰb（留学生用）	秋	J．ブローガン	月3	済 外 法	89
経営外国語Ⅰa（留学生用）	春	J．ブローガン	月4	済 外 法	89
経営外国語Ⅰb（留学生用）	秋	J．ブローガン	月4	済 外 法	89
経営外国語Ⅱa	春	岡村　国和	木3	済 外 法	90
経営外国語Ⅱb	秋	岡村　国和	木3	済 外 法	90
経営外国語Ⅱa	春	野村　容康	火2	済 外 法	91
経営外国語Ⅱb	秋	野村　容康	火2	済 外 法	91
経営外国語Ⅱa（中国語）	春	全　載旭	木3	済 外 法	92
経営外国語Ⅱb（中国語）	秋	全　載旭	木3	済 外 法	92

◇　経営　◇

科目名	開講期	担当教員名	曜時	履修不可	ページ
経営学原理a	春	黒川　文子	火4	済	136
経営学原理b	秋	黒川　文子	火4	済	136
経営学原理a	春	冨田　忠義	木3	済	137
経営学原理b	秋	冨田　忠義	木3	済	137
経営戦略論a	春	冨田　忠義	木2		138
経営戦略論b	秋	冨田　忠義	木2		138
経営管理論a	春	黒川　文子	木3		139
経営管理論b	秋	黒川　文子	木3		139

経営組織論a	春	高松　和幸	火2		140
経営組織論b	秋	高松　和幸	火2		140
経営財務論a	春	細田　哲	金3		141
経営財務論b	秋	細田　哲	金3		141
人的資源管理論a	春	岡部　康弘	水2		142
人的資源管理論b	秋	岡部　康弘	水2		142
国際経営論a	春	小林　哲也	木3	法	143
国際経営論b	秋	小林　哲也	木3	法	143

◇　経営史　◇

科目名	開講期	担当教員名	曜時	履修不可	ページ
経営史a	春	柳　敦	火4		144
経営史b	秋	柳　敦	火4		144
日本経営史a	春	奈倉　文二	水2		145
日本経営史b	秋	奈倉　文二	水2		145

◇　商業　◇

科目名	開講期	担当教員名	曜時	履修不可	ページ
マーケティング論a	春	有吉　秀樹	金3		146
マーケティング論b	秋	有吉　秀樹	金3		146
広告論a	春	市川　嘉彦	月2	外	147
広告論b	秋	市川　嘉彦	月2	外	147
行動科学論a		本年度休講			
行動科学論b		本年度休講			
保険論a	春	岡村　国和	月3		148
保険論b	秋	岡村　国和	月3		148
貿易論a	春	米山　昌幸	金1		149
貿易論b	秋	米山　昌幸	金1		149
証券市場論a	春	高橋　元	木2		150
証券市場論b	秋	高橋　元	木2		150

◇　企業　◇

科目名	開講期	担当教員名	曜時	履修不可	ページ
企業論a	春	平井　岳哉	木4	済	151
企業論b	秋	平井　岳哉	木4	済	151
企業形態論a		本年度休講			
企業経済論b		本年度休講			
ベンチャービジネス論a	春	上坂　卓郎	金2		152
ベンチャービジネス論b	秋	上坂　卓郎	金2		152
非営利組織マネジメント論a	春	本年度休講			
非営利組織マネジメント論b	秋	本年度休講			
企業文化論a	春	斉藤　善久	火5		153
企業文化論b	秋	斉藤　善久	火5		153
研究・開発マネジメントa	春	日下　泰夫	金2		154
研究・開発マネジメントb	秋	日下　泰夫	金2		154

◇　会計　◇

科目名	開講期	担当教員名	曜時	履修不可	ページ
会計学原理a	春	内倉　滋	水1		155
会計学原理b	秋	内倉　滋	水1		155
財務会計論a	春	中村　泰将	金2		156
財務会計論b	秋	中村　泰将	金2		156
管理会計論a	春	香取　徹	火4		157
管理会計論b	春	香取　徹	火5		157
社会会計論a	春	湯田　雅夫	月4		158
社会会計論b	秋	湯田　雅夫	月4		158
原価計算論a	春	齋藤　正章	月4		159
原価計算論b	秋	齋藤　正章	月4		159

会計監査論a	春	赤岩　茂	土1		160
会計監査論b	秋	赤岩　茂	土1		160
税務会計論a	春	平　仁	土2		161
税務会計論b	秋	平　仁	土2		161
経営分析論a	春	百瀬　房徳	火2		162
経営分析論b	秋	百瀬　房徳	火2		162
上級簿記a（商業）	春	井出　健二郎	月5		163
上級簿記b（商業）	秋	井出　健二郎	月5		163
上級簿記a（工業）	春	松本　安司	火3		164
上級簿記b（工業）	秋	松本　安司	火3		164
国際会計論a	春	五十嵐　則夫	木5		165
国際会計論b	秋	五十嵐　則夫	木5		165

◇　情報科学　◇

科目名	開講期	担当教員名	曜時	履修不可	ページ
経営数学a	春	高木　悟	月3		166
経営数学b	秋	高木　悟	月3		166
応用統計学a	春	本年度休講		済	
応用統計学b	秋	本年度休講		済	
標本調査論a	春	松井　敬	金3	済	167
標本調査論b	秋	松井　敬	金3	済	167
データベース論a	春	高柳　敏子	月1	済	168
データベース論b	秋	高柳　敏子	月1	済	168
データベース論a	春	高柳　敏子	金4	済	168
データベース論b	秋	高柳　敏子	金4	済	168
コンピュータシミュレーション論a	春	冨田　幸弘	火2	済	169
コンピュータシミュレーション論b	秋	冨田　幸弘	火2	済	169
マルチメディア論a	春	立田　ルミ	水2	済	170
マルチメディア論b	秋	立田　ルミ	水2	済	170
マルチメディア論a	春	森　園子	水4	済	171
マルチメディア論b	秋	森　園子	水4	済	171
情報検索論a	春	福田　求	水1		172
情報検索論b	秋	小畑　信夫	火2		172
情報検索論a	春	福田　求	水2		172
情報検索論b	秋	小畑　信夫	火5		172
情報システム論a	春	今福　啓	火4		173
情報システム論b	秋	今福　啓	火4		173
プログラミング論a	春	加藤　尚吾	月3	済　言	174
プログラミング論b	秋	加藤　尚吾	月3	済　言	174
プログラミング論a	春	高柳　敏子	金2	済　言	175
プログラミング論b	秋	高柳　敏子	金2	済　言	175
プログラミング論a	春	立田　ルミ	火2	済　言	176
プログラミング論b	秋	立田　ルミ	火2	済　言	176
プログラミング論a	春	森　園子	水3	済　言	177
プログラミング論b	秋	森　園子	水3	済　言	177
情報社会論a	春	柴崎　信三	水2		178
情報社会論b	秋	柴崎　信三	水2		178
情報通信ネットワークa	秋	今福　啓	火5		179
情報通信ネットワークb	春	三宅　真	金4		179
コンピュータネットワーク	春	冨澤　義一	水3		180
コンピュータアーキテクチャ	春	今福　啓	火5		181
情報と職業a	春	冨田　幸弘	水2		182
情報と職業b	秋	小林　哲也	水2		182
アルゴリズム論a	春	木村　昌史	月2		183
アルゴリズム論b	秋	木村　昌史	月2		183

◇ 経営システム ◇

科目名	開講期	担当教員名	曜時	履修不可	ページ
オペレーションズ・リサーチa	春	正道寺　勉	月2		184
オペレーションズ・リサーチb	秋	正道寺　勉	月2		184
システムズエンジニアリングa	春	天笠　美知夫	水4		185
システムズエンジニアリングb	秋	天笠　美知夫	水4		185
経営システム工学a	春	日下　泰夫	火2		186
経営システム工学b	秋	日下　泰夫	火2		186

≪ 関連専門科目 ≫

◇ 経済理論・経済政策 ◇

科目名	開講期	担当教員名	曜時	履修不可	ページ
マクロ経済学a	春	塩田　尚樹	火1	済	93
マクロ経済学b	秋	塩田　尚樹	火1	済	93
マクロ経済学a	春	山下　裕歩	水1	済	94
マクロ経済学b	秋	山下　裕歩	水1	済	94
ミクロ経済学a	春	秋吉　史夫	月4	済	95
ミクロ経済学b	秋	秋吉　史夫	月4	済	95
ミクロ経済学a	春	小林　進	金3	済	96
ミクロ経済学b	秋	小林　進	金3	済	96
経済政策論a	春	阿部　正浩	木2	済	101
経済政策論b	秋	阿部　正浩	木2	済	101

◇ 日本経済・国際経済 ◇

科目名	開講期	担当教員名	曜時	履修不可	ページ
日本経済論a	春	波形　昭一	火5	済　言　法	109
日本経済論b	秋	波形　昭一	火5	済　言　法	109
日本経済史a	春	奈倉　文二	水1	済	104
日本経済史b	秋	奈倉　文二	水1	済	104
国際経済論a	春	益山　光央	火3	済　法	107
国際経済論b	秋	益山　光央	火3	済　法	107

◇ 金融・財政 ◇

科目名	開講期	担当教員名	曜時	履修不可	ページ
金融経済論a	春	斉藤　美彦	水2	済	117
金融経済論b	秋	斉藤　美彦	水2	済	117
財政学a	春	野村　容康	木3	済	119
財政学b	秋	野村　容康	木3	済	119

◇ 政治・法律 ◇

科目名	開講期	担当教員名	曜時	履修不可	ページ
政治学総論	通年	杉田　孝夫	木1	外　法	188
民法（春学期週2回）	春	遠藤　研一郎	金1・金2	法	189
民法（春学期週2回）	春	藤田　貴宏	水1・木4	法	190
商法（秋学期週2回）	通年	藩　阿憲	水3	法	191
著作権法	通年	長塚　真琴	水1	法	192

◇ 総合講座 ◇

科目名	開講期	担当教員名	曜時	履修不可	ページ
総合講座(1)a	春	経済学部	水3		193
総合講座(1)b	秋	経済学部	水3		193

◇ 特殊講義 ◇

科目名	開講期	担当教員名	曜時	履修不可	ページ
特殊講義A（経済学入門）	通年	黒木　亮	月1		194
特殊講義B（経営学科で何が学べるか）	春	経営学科	水3		195
特殊講義B（経済と法）	春	住田　裕子	木2		196
特殊講義B（企業と法）	秋	住田　裕子	木2		196
特殊講義B（ビジネス法のケーススタディ）	春	住田　裕子	木3		197
特殊講義B（ビジネス法のケーススタディ）	秋	住田　裕子	木3		197
特殊講義B（資本市場の役割と証券投資）	秋	経済学部	水4		別途配布

◇ 留学生 ◇

科目名	開講期	担当教員名	曜時	履修不可	ページ
日本事情a	春	守田　逸人	水3		198
日本事情b	秋	守田　逸人	水3		198
日本語Ⅱ	通年	斉藤　明	月2		199
日本語Ⅱ	通年	斉藤　明	月3		199
日本語Ⅱ	通年	（春）野村　美知子	木3		200
		（秋）東中川　かほる			201

学則別表

【2000年度以前入学生用】

別表Ⅱ　経済学部授業科目
別表Ⅱ－１　経済学科
別表Ⅱ－１－（１）　学科基礎科目群

群	部門	授業科目	単位	必修	選択
学科基礎科目	経済・経営入門	経済学	4	4	24
		統計学	4	4	
		情報処理概論	4		
		経営学	4		
		簿記原理	4		
	外国語	第一外国語	2	8	
		第二外国語	2		
	社会科学	高齢化社会論	4		
		社会学	4		
		法学（日本国憲法2単位を含む）	4		
	人文科学	現代文化論	4		
		文化人類学	4		
		心理学	4		
		歴史学（日本史･東洋史･西洋史）	4		
		哲学	4		
		文学（日本文学･世界文学）	4		
		国語	4		
	自然科学	地球環境論	4		
		数学	4		
		地理学	4		
	スポーツ・健康	精神衛生論	4		
		医療・福祉概論	4		
		スポーツ・健康論	4		
		体育	2		
合計				16	24
				40	

別表Ⅱ－１－（2）　学科専門科目群

群	部門	授業科目	単位	必修	選択
学科専門科目	演習・経済外国語	演習Ⅰ	4	4	68
		演習Ⅱ	4	4	
		経済外国語	4	4	
		外国書講読	4	4	
	経済理論・経済学史	マクロ経済学	4	4	
		ミクロ経済学	4	4	
		経済学史	4		
		経済変動論	4		
		経済社会学	4		
		経済哲学	4		
	経済統計・計量経済	経済統計論	4		
		計量経済学	4		
	経済政策	経済政策論	4		
		経済開発論	4		
	経済史	日本経済史	4		
		日本社会史	4		
		東洋経済史	4		
		西洋経済史	4		
	国際経済	国際経済論	4		
		国際金融論	4		
	地域経済	日本経済論	4		
		北アメリカ経済論	4		
		ラテンアメリカ経済論	4		
		西ヨーロッパ経済論	4		
		東ヨーロッパ経済論	4		
		東アジア・中国経済論	4		
		東南アジア・オセアニア経済論	4		
		中東・アフリカ経済論	4		
	金融経済	金融経済論	4		
		金融システム論	4		
	財政	財政学	4		
		公共経済学	4		
		日本財政論	4		
		地方財政論	4		
	環境・都市・経済地理	環境経済学	4		
		都市経済学	4		
		経済地理学	4		
	産業経済	産業政策論	4		
		産業組織論	4		
		産業構造論	4		
	交通・流通	交通経済論	4		
		流通経済論	4		
	労働・社会政策	社会政策	4		
		労働経済学	4		
関連専門科目	経営・会計	経営学原理	4		
		企業論	4		
		会計学	4		
	統計・情報科学	応用統計学	4		
		標本調査論	4		
		データベース論	4		
		コンピュータシミュレーション論	4		
		マルチメディア論	4		
		プログラミング論	4		
	政治・法律	政治学総論	4		
		民法	4		
		商法	4		
	総合講座	*総合講座（１）	4		
		*総合講座（２）	4		
	特殊講義	特殊講義Ａ	4		
		**特殊講義Ｂ	2		
合計				24	68
				92	

別表Ⅱ-1-（3）
関連専門科目群

備 考

（１）　卒業単位数は必修４０単位、選択９２単位、合計して最低１３２単位以上修得するものとする。１３２単位の内訳は、学科基礎科目４０単位以上、学科専門科目と関連専門科目のうちから９２単位以上である。

（２）　学科専門科目と関連専門科目（必修科目は除く）のうち、２８単位までは経営学科および他学部ならびに教職課程授業科目の単位をもって代用できる。他学部科目および教職課程授業科目は１２単位以内とする。

　なお、教職課程授業科目の単位の代用については別に定める。

（３）　第一外国語は、英語、ドイツ語、フランス語のうちいずれか一カ国語とする。英語を第一外国語とする場合、第二外国語はドイツ語、フランス語、スペイン語、中国語、ロシア語、韓国語のいずれか一カ国語とする。ドイツ語、フランス語を第一外国語とする場合、英語を第二外国語とする。第一外国語は一学年に４単位、二学年に４単位、合計８単位を修得するものとする。

（４）　*、** の講義科目は年度ごとに定める。

（５）　** は半年で完結する。

本表は、２０００年度入学者より適用する。

2000年度以前入学生用

経　済　学　科

≪　学科基礎科目　≫

◇　経営・経済入門　◇

科目名	開講期	担当教員名	曜時	履修不可	ページ
経済学	通年	倉橋　透	火4	営 外 法	34
経済学	通年	小林　進	火2	営 外 法	35
経済学	通年	野村　容康	火1	営 外 法	36
経済学	通年	浜本　光紹	水2	営 外 法	37
経済学	通年	森永　卓郎	火3	営 外 法	38
統計学	通年	清田　秀憲	月3	法	39
統計学	通年	清田　秀憲	月4	法	39
統計学	通年	冨田　幸弘	木2	法	40
統計学	通年	冨田　幸弘	木3	法	40
統計学	通年	松井　敬	火2	法	41
統計学	通年	松井　敬	火3	法	41
情報処理概論	通年	各担当教員		外 法	42
経営学	通年	岡部　康弘	木2	営	44
簿記原理	通年	井出　健二郎	月4		45
簿記原理	通年	内倉　滋	月2		46
簿記原理	通年	金井　繁雅	月4		47
簿記原理	通年	千葉　啓司	木4		48
簿記原理	通年	中村　泰將	月2		49
簿記原理	通年	細田　哲	金4		50
簿記原理	通年	松本　安司	火4		51
簿記原理	通年	百瀬　房徳	木1		52
簿記原理	通年	湯田　雅夫	火1		53

◇　外国語　◇

科目名	開講期	担当教員名	曜時	履修不可	ページ
英語Ⅰ（講読）	通年	各担当教員		外 法	203
英語Ⅰ（会話）	通年	各担当教員		外 法	204
英語Ⅱ（講読）	通年	各担当教員		外 法	205
英語Ⅱ（総合）	通年	笠原　誠也	土1	外 法	206
英語Ⅱ（総合）	通年	沼　隆三	土2	外 法	207
英語（CAEL）	春	J.　スティベンソン	水2	外 法	208
英語（CAEL）	秋	J.　スティベンソン	水2	外 法	208
ドイツ語ⅠB	通年	各担当教員		外 法	209
ドイツ語ⅠC	通年	各担当教員		外 法	210
ドイツ語ⅡB	通年	各担当教員		外 法	211
ドイツ語ⅡC	通年	各担当教員		外 法	212
フランス語ⅠB	通年	各担当教員		外 法	213
フランス語ⅠC	通年	各担当教員		外 法	214
フランス語ⅡB	通年	各担当教員		外 法	215
フランス語ⅡC	通年	各担当教員		外 法	216
スペイン語Ⅰ（総合）	通年	各担当教員		外 法	217
スペイン語Ⅰ（会話）	通年	各担当教員		外 法	218
スペイン語Ⅱ（総合）	通年	各担当教員		外 法	219
スペイン語Ⅱ（会話）	通年	各担当教員		外 法	220
中国語Ⅰ（講読）	通年	各担当教員		外 法	221
中国語Ⅰ（会話）	通年	各担当教員		外 法	222
中国語Ⅱ（講読）	通年	各担当教員		外 法	223
中国語Ⅱ（会話）	通年	各担当教員		外 法	224

ロシア語Ⅰ（講読）	通年	齋藤　毅	水4	外　法	225
ロシア語Ⅰ（文法）	通年	佐藤　千登勢	金4	外　法	226
ロシア語Ⅱ（総合）	通年	齋藤　毅	水3	外　法	227
ロシア語Ⅱ（講読）	通年	佐藤　千登勢	金3	外　法	228
韓国語Ⅰ（文法）	通年	森　勇俊	土1	外　法	229
韓国語Ⅰ（文法）	通年	金　貞我	月1	外　法	230
韓国語Ⅰ（講読）	通年	森　貞美	土2	外　法	231
韓国語Ⅰ（講読）	通年	金　貞我	月2	外　法	232
韓国語Ⅱ（総合）	通年	森　貞美	土1	外　法	233
韓国語Ⅱ（講読）	通年	森　勇俊	土2	外　法	234

◇　社会科学　◇

科目名	開講期	担当教員名	曜時	履修不可	ページ
高齢化社会論	通年	奥山　正司	月1		55
社会学	通年	圓岡　偉男	火2	外　法	235
社会学	通年	圓岡　偉男	火4	外　法	235
法学（日本国憲法2単位を含む）	通年	内山　良雄	木3	外　法	187

◇　人文科学　◇

科目名	開講期	担当教員名	曜時	履修不可	ページ
現代文化論	通年	柴崎　信三	水3	外	58
文化人類学		本年度休講		外　法	
心理学	通年	増田　直衛	月1	外　法	236
心理学	通年	増田　直衛	月2	外　法	236
歴史学（日本史）	通年	新井　孝重	木5	外　法	237
歴史学（日本史）	通年	丸浜　昭	火4	外　法	238
歴史学（東洋史）	通年	熊谷　哲也	木3	外　法	239
歴史学（西洋史）		本年度休講			
哲学	通年	谷口　郁夫	月2	外	240
哲学	通年	松丸　壽雄	金3	外	241
文学（日本文学）	通年	佐藤　毅	月1	外　法	242
文学（日本文学）	通年	福沢　健	月3	外　法	243
文学（世界文学）	通年	野々山　ミチコ	火5	外　法	244
国語	通年	梅津　正樹	土2	外　法	245
国語	通年	佐藤　毅	月2	外　法	246
国語	通年	長野　隆之	月1	外　法	247
国語	通年	長野　隆之	月2	外　法	248
国語	通年	福沢　健	月2	外　法	249
国語	通年	福沢　健	月4	外　法	249

◇　自然科学　◇

科目名	開講期	担当教員名	曜時	履修不可	ページ
地球環境論	通年	鈴木　滋	火2	外　法	250
数学	通年	高木　悟	月1	外　法	54
数学	通年	高木　悟	月2	外　法	54
地理学	通年	秋本　弘章	水2	言　法	251
地理学	通年	犬井　正	月2	言　法	252

◇　スポーツ・健康　◇

科目名	開講期	担当教員名	曜時	履修不可	ページ
精神衛生論	通年	中野　隆史	火4	法	56
医療・福祉概論	通年	藤井　賢一郎	土1		57
医療・福祉概論	通年	藤井　賢一郎	土2		57
スポーツ・健康論	通年	和田　智	金3	外	253

≪ 学科専門科目 ≫

◇ 経済外国語 ◇

科目名	開講期	担当教員名	曜時	履修不可	ページ
経済外国語	通年	青木　雅明	月2	営 外 法	59
経済外国語	通年	有吉　秀樹	木2	営 外 法	60
経済外国語	通年	伊藤　為一郎	木3	営 外 法	61
経済外国語	通年	岡部　康弘	木1	営 外 法	62
経済外国語	通年	奥山　正司	月2	営 外 法	63
経済外国語	通年	金井　繁雅	月5	営 外 法	64
経済外国語	通年	倉橋　透	水2	営 外 法	65
経済外国語	通年	黒川　文子	木4	営 外 法	66
経済外国語	通年	黒木　亮	木2	営 外 法	67
経済外国語	通年	小林　進	金2	営 外 法	68
経済外国語	通年	小林　哲也	金3	営 外 法	69
経済外国語	通年	齋藤　正章	月5	営 外 法	70
経済外国語	通年	塩田　尚樹	月1	営 外 法	71
経済外国語	通年	千葉　啓司	木5	営 外 法	72
経済外国語	通年	中村　泰將	水1	営 外 法	73
経済外国語	通年	波形　昭一	火2	営 外 法	74
経済外国語	通年	本田　浩邦	火2	営 外 法	75
経済外国語	通年	益山　光央	火1	営 外 法	76
経済外国語	通年	松本　栄次	火2	営 外 法	77
経済外国語	通年	御園生　眞	水1	営 外 法	78
経済外国語	通年	百瀬　房徳	火1	営 外 法	79
経済外国語	通年	森　健	水1	営 外 法	80
経済外国語	通年	森永　卓郎	木4	営 外 法	81
経済外国語	通年	山越　徳	火2	営 外 法	82
経済外国語	通年	山下　裕歩	火3	営 外 法	83
経済外国語	通年	山本　美樹子	水2	営 外 法	84
経済外国語	通年	湯田　雅夫	水1	営 外 法	85
経済外国語	通年	米山　昌幸	水1	営 外 法	86
経済外国語（フランス語）	通年	千代浦　昌道	水2	営 外 法	87
経済外国語（中国語）	通年	張　進山	木4	営 外 法	別途配布
経済外国語（中国語）	通年	全　載旭	木2	営 外 法	88
経済外国語（留学生用）	通年	J．ブローガン	月3	営 外 法	89
経済外国語（留学生用）	通年	J．ブローガン	月4	営 外 法	89
外国書講読	通年	岡村　国和	木3	営 外 法	90
外国書講読	通年	野村　容康	火2	営 外 法	91
外国書講読（中国語）	通年	全　載旭	木3	営 外 法	92

◇ 経済理論・経済学史 ◇

科目名	開講期	担当教員名	曜時	履修不可	ページ
マクロ経済学	通年	塩田　尚樹	火1	営	93
マクロ経済学	通年	山下　裕歩	水1	営	94
ミクロ経済学	通年	秋吉　史夫	月4	営	95
ミクロ経済学	通年	小林　進	金3	営	96
経済学史	通年	黒木　亮	木3		97
経済変動論	通年	山下　裕歩	月1		98
経済社会学		本年度休講			
経済哲学		本年度休講			

◇ 経済統計・計量経済 ◇

科目名	開講期	担当教員名	曜時	履修不可	ページ
経済統計論	通年	松本　正信	水3		99
計量経済学	通年	宮崎　憲治	木3		100

◇ 経済政策 ◇

科目名	開講期	担当教員名	曜時	履修不可	ページ
経済政策論	通年	阿部　正浩	木2		101
経済開発論	通年	千代浦　昌道	金2		102

◇ 経済史 ◇

科目名	開講期	担当教員名	曜時	履修不可	ページ
日本経済史	通年	奈倉　文二	水1		104
日本社会史	通年	新井　孝重	木4		105
東洋経済史		本年度休講			
西洋経済史	通年	御園生　眞	火4		106

◇ 国際経済 ◇

科目名	開講期	担当教員名	曜時	履修不可	ページ
国際経済論	通年	益山　光央	火3	営　法	107
国際金融論	通年	山本　美樹子	月3	法	108

◇ 地域経済 ◇

科目名	開講期	担当教員名	曜時	履修不可	ページ
日本経済論	通年	波形　昭一	火5	営　言　法	109
北アメリカ経済論	通年	本田　浩邦	木2		110
ラテンアメリカ経済論	通年	松本　栄次	月2		111
西ヨーロッパ経済論	通年	大西　健夫	金4		112
東ヨーロッパ経済論		本年度休講			
東アジア・中国経済論	通年	全　載旭	水2	言	113
東南アジア・オセアニア経済論	通年	森　健	金3	言	114
中東・アフリカ経済論	通年	原口　武彦	金2		115
中東・アフリカ経済論	通年	平井　文子	月2		116

◇ 金融経済 ◇

科目名	開講期	担当教員名	曜時	履修不可	ページ
金融経済論	通年	斉藤　美彦	水2		117
金融システム論	通年	斉藤　美彦	水1	営	118

◇ 財政 ◇

科目名	開講期	担当教員名	曜時	履修不可	ページ
財政学	通年	野村　容康	木3	営	119
公共経済学	通年	伊藤　為一郎	月2		120
日本財政論		本年度休講			
地方財政論	通年	伊藤　為一郎	木4		121

◇ 環境・都市・経済地理 ◇

科目名	開講期	担当教員名	曜時	履修不可	ページ
環境経済学	通年	浜本　光紹	火3		122
都市経済学	通年	倉橋　透	金1		123
経済地理学	通年	犬井　正	火2		124

◇ 産業経済 ◇

科目名	開講期	担当教員名	曜時	履修不可	ページ
産業政策論		本年度休講			
産業組織論	通年	青木　雅明	月1		125
産業構造論	通年	山越　徳	木2		126

◇ 交通・流通 ◇

科目名	開講期	担当教員名	曜時	履修不可	ページ
交通経済論		本年度休講			
流通経済論		本年度休講			

◇ 労働・社会政策 ◇

科目名	開講期	担当教員名	曜時	履修不可	ページ
社会政策	通年	張　進山	月4		別途配布
労働経済学	通年	森永　卓郎	木2		127

≪ 関連専門科目 ≫

◇ 経営・会計 ◇

科目名	開講期	担当教員名	曜時	履修不可	ページ
経営学原理	通年	黒川　文子	火4	営	136
経営学原理	通年	冨田　忠義	木3	営	137
企業論	通年	平井　岳哉	木4	営	151
会計学	通年	内倉　滋	火2	法	128

◇ 統計・情報科学 ◇

科目名	開講期	担当教員名	曜時	履修不可	ページ
応用統計学	通年	本年度休講		営	
標本調査論	通年	松井　敬	金3	営	167
データベース論	通年	高柳　敏子	月1	営	168
データベース論	通年	高柳　敏子	金4	営	168
コンピュータシミュレーション論	通年	冨田　幸弘	火2	営	169
マルチメディア論	通年	立田　ルミ	水2	営	170
マルチメディア論	通年	森　園子	水4	営	171
プログラミング論	通年	加藤　尚吾	月3	営　言	174
プログラミング論	通年	高柳　敏子	金2	営　言	175
プログラミング論	通年	立田　ルミ	火2	営　言	176
プログラミング論	通年	森　園子	水3	営　言	177

◇ 政治・法律 ◇

科目名	開講期	担当教員名	曜時	履修不可	ページ
政治学総論	通年	杉田　孝夫	木1	外　法	188
民法（春学期週2回）	春	遠藤　研一郎	金1・金2	法	189
民法（春学期週2回）	春	藤田　貴宏	水1・木4	法	190
商法	通年	藩　阿憲	水3	法	191

◇ 総合講座 ◇

科目名	開講期	担当教員名	曜時	履修不可	ページ
総合講座(1)	通年	経済学部	水3		193

◇ 特殊講義 ◇

科目名	開講期	担当教員名	曜時	履修不可	ページ
特殊講義A（経済学入門）	通年	黒木　亮	月1	法	194
特殊講義A（情報通信ﾈｯﾄﾜｰｸ）	通年	(春) 三宅　真	金4		179
		(秋) 今福　啓	火5		179
特殊講義B（経営学科で何が学べるか）	春	経営学科	水3		195
特殊講義B（経済と法）	春	住田　裕子	木2		196
特殊講義B（企業と法）	秋	住田　裕子	木2		196
特殊講義B（ビジネス法のケーススタディ）	春	住田　裕子	木3		197
特殊講義B（ビジネス法のケーススタディ）	秋	住田　裕子	木3		197
特殊講義B（資本市場の役割と証券投資）	秋	経済学部	水4		別途配布

◇ 留学生 ◇

科目名	開講期	担当教員名	曜時	履修不可	ページ
日本事情Ⅰ	通年	守田　逸人	水3		198
日本語Ⅱ	通年	斉藤　明	月2		199
日本語Ⅱ	通年	斉藤　明	月3		199
日本語Ⅱ	通年	(春) 野村　美知子	木3		200
		(秋) 東中川　かほる			201

学則別表

【2000年度以前入学生用】

別表Ⅱ－２　経営学科

別表Ⅱ－2－（１）　学科基礎科目群

群	部門	授業科目	単位	必修	選択
学科基礎科目	経営・経済入門	経営学	4	4	24
		簿記原理	4	4	
		情報処理概論	4		
		経済学	4		
		統計学	4		
	外国語	第一外国語	2	8	
		第二外国語	2		
	社会科学	高齢化社会論	4		
		社会学	4		
		法学（日本国憲法2単位含む）	4		
	人文科学	現代文化論	4		
		文化人類学	4		
		心理学	4		
		歴史学（日本史･東洋史･西洋史）	4 4		
		哲学	4		
		文学（日本文学･世界文学）	4		
		国語	4		
	自然科学	地球環境論	4		
		数学	4		
		地理学	4		
	スポーツ・健康	精神衛生論	4		
		医療・福祉概論	4		
		スポーツ・健康論	4		
		体育	2		
合計				16	24
				40	

別表Ⅱ－2－（2）　学科専門科目群

群	部門	授業科目	単位	必修	選択
学科専門科目	演習・経営外国語	演習Ⅰ	4	4	72
		演習Ⅱ	4	4	
		経営外国語	4	4	
		外国書講読	4	4	
	経営	経営学原理	4	4	
		経営戦略論	4		
		経営管理論	4		
		経営組織論	4		
		経営財務論	4		
		経営労務論	4		
		国際経営論	4		
	経営史	経営史	4		
		日本経営史	4		
	商業	マーケティング論	4		
		広告論	4		
		行動科学論	4		
		保険論	4		
		貿易論	4		
		証券市場論	4		
	企業	企業論	4		
		企業形態論	4		
		ベンチャー･ビジネス論	4		
		協同組合論	4		
	会計	会計学原理	4		
		財務会計論	4		
		管理会計論	4		
		社会会計論	4		
		原価計算論	4		
		会計監査論	4		
		税務会計論	4		
		経営分析論	4		
		上級簿記	4		
	情報科学	経営数学	4		
		応用統計学	4		
		標本調査論	4		
		データベース論	4		
		コンピュータシミュレーション論	4		
		マルチメディア論	4		
		情報検索論	4		
		情報システム論	4		
		プログラミング論	4		
	管理工学	オペレーションズ･リサーチ	4		
		システムズ･エンジニアリング	4		
		管理工学	4		
		高齢者エルゴノミクス	4		
関連専門科目	経済理論・経済政策	マクロ経済学	4		
		ミクロ経済学	4		
		経済政策論	4		
	日本経済・国際経済	日本経済論	4		
		日本経済史	4		
		国際経済論	4		
	金融・財政	金融経済論	4		
		財政学	4		
	政治・法律	政治学総論	4		
		民法	4		
		商法	4		
	総合講座	*総合講座（１）	4		
		*総合講座（２）	4		
	特殊講義	特殊講義Ａ	4		
		**特殊講義Ｂ	2		
合計				20	72
				92	

別表Ⅱ-2-(3)
関連専門科目群

備 考

（１）卒業単位数は必修３６単位、選択９６単位、合計して最低１３２単位以上修得するものとする。１３２単位の内訳は、学科基礎科目４０単位以上、学科専門科目と関連専門科目のうちから９２単位以上である 。

（２）学科専門科目と関連専門科目（必修科目は除く）のうち、２８単位までは経済学科および他学部ならびに教職課程授業科目の単位をもって代用できる。他学部科目および教職課程授業科目は１２単位以内とする。

なお、教職課程授業科目の単位の代用については別に定める。

（３）第一外国語は、英語、ドイツ語、フランス語のうちいずれか一カ国語とする。英語を第一外国語とする場合、第二外国語はドイツ語、フランス語、スペイン語、中国語、ロシア語、韓国語のいずれか一カ国語とする。ドイツ語、フランス語を第一外国語とする場合、英語を第二外国語とする。第一外国語は一学年に４単位、二学年に４単位、合計８単位を修得するものとする。

（４）*、** の講義科目は年度ごとに定める。

（５）** は半年で完結する。

本表は、２０００年度入学者より適用する。

2000年度以前入学生用

経　営　学　科

≪　学科基礎科目　≫

◇　経営・経済入門　◇

科目名	開講期	担当教員名	曜時	履修不可	ページ
経営学	通年	有吉　秀樹	水1	済 外 法	129
経営学	通年	上坂　卓郎	水1	済 外 法	130
経営学	通年	日下　泰夫	水1	済 外 法	131
経営学	通年	小林　哲也	水1	済 外 法	132
経営学	通年	冨田　忠義	水1	済 外 法	133
経営学	通年	平井　岳哉	水1	済 外 法	134
簿記原理	通年	井出　健二郎	月4		45
簿記原理	通年	内倉　滋	月2		46
簿記原理	通年	金井　繁雅	月4		47
簿記原理	通年	千葉　啓司	木4		48
簿記原理	通年	中村　泰將	月2		49
簿記原理	通年	細田　哲	金4		50
簿記原理	通年	松本　安司	火4		51
簿記原理	通年	百瀬　房徳	木1		52
簿記原理	通年	湯田　雅夫	火1		53
情報処理概論	通年	各担当教員		外 法	42
経済学	通年	米山　昌幸	火2	済 外 法	135
統計学	通年	清田　秀憲	月3	法	39
統計学	通年	清田　秀憲	月4	法	39
統計学	通年	冨田　幸弘	木2	法	40
統計学	通年	冨田　幸弘	木3	法	40
統計学	通年	松井　敬	火2	法	41
統計学	通年	松井　敬	火3	法	41

◇　外国語　◇

科目名	開講期	担当教員名	曜時	履修不可	ページ
英語Ⅰ（講読）	通年	各担当教員		外 法	203
英語Ⅰ（会話）	通年	各担当教員		外 法	204
英語Ⅱ（講読）	通年	各担当教員		外 法	205
英語Ⅱ（総合）	通年	笠原　誠也	土1	外 法	206
英語Ⅱ（総合）	通年	沼　隆三	土2	外 法	207
英語（CAEL）	春	J.　スティベンソン	水2	外 法	208
英語（CAEL）	秋	J.　スティベンソン	水2	外 法	208
ドイツ語ⅠB	通年	各担当教員		外 法	209
ドイツ語ⅠC	通年	各担当教員		外 法	210
ドイツ語ⅡB	通年	各担当教員		外 法	211
ドイツ語ⅡC	通年	各担当教員		外 法	212
フランス語ⅠB	通年	各担当教員		外 法	213
フランス語ⅠC	通年	各担当教員		外 法	214
フランス語ⅡB	通年	各担当教員		外 法	215
フランス語ⅡC	通年	各担当教員		外 法	216
スペイン語Ⅰ（総合）	通年	各担当教員		外 法	217
スペイン語Ⅰ（会話）	通年	各担当教員		外 法	218
スペイン語Ⅱ（総合）	通年	各担当教員		外 法	219
スペイン語Ⅱ（会話）	通年	各担当教員		外 法	220
中国語Ⅰ（講読）	通年	各担当教員		外 法	221
中国語Ⅰ（会話）	通年	各担当教員		外 法	222
中国語Ⅱ（講読）	通年	各担当教員		外 法	223

中国語Ⅱ（会話）	通年	各担当教員		外　法	224
ロシア語Ⅰ（講読）	通年	齋藤　毅	水4	外　法	225
ロシア語Ⅰ（文法）	通年	佐藤　千登勢	金4	外　法	226
ロシア語Ⅱ（総合）	通年	齋藤　毅	水3	外　法	227
ロシア語Ⅱ（講読）	通年	佐藤　千登勢	金3	外　法	228
韓国語Ⅰ（文法）	通年	森　勇俊	土1	外　法	229
韓国語Ⅰ（文法）	通年	金　貞我	月1	外　法	230
韓国語Ⅰ（講読）	通年	森　貞美	土2	外　法	231
韓国語Ⅰ（講読）	通年	金　貞我	月2	外　法	232
韓国語Ⅱ（総合）	通年	森　貞美	土1	外　法	233
韓国語Ⅱ（講読）	通年	森　勇俊	土2	外　法	234

◇　社会科学　◇

科目名	開講期	担当教員名	曜時	履修不可	ページ
高齢化社会論	通年	奥山　正司	月1		55
社会学	通年	圓岡　偉男	火2	外　法	235
社会学	通年	圓岡　偉男	火4	外　法	235
法学（日本国憲法2単位を含む）	通年	内山　良雄	木3	外　法	187

◇　人文科学　◇

科目名	開講期	担当教員名	曜時	履修不可	ページ
現代文化論	通年	柴崎　信三	水3	外	58
文化人類学		本年度休講		外　法	
心理学	通年	増田　直衛	月1	外　法	236
心理学	通年	増田　直衛	月2	外　法	236
歴史学（日本史）	通年	新井　孝重	木5	外　法	237
歴史学（日本史）	通年	丸浜　昭	火4	外　法	238
歴史学（東洋史）	通年	熊谷　哲也	木3	外　法	239
歴史学（西洋史）		本年度休講			
哲学	通年	谷口　郁夫	月2	外	240
哲学	通年	松丸　壽雄	金3	外	241
文学（日本文学）	通年	佐藤　毅	月1	外　法	242
文学（日本文学）	通年	福沢　健	月3	外　法	243
文学（世界文学）	通年	野々山　ミチコ	火5	外　法	244
国語	通年	梅津　正樹	土2	外　法	245
国語	通年	佐藤　毅	月2	外　法	246
国語	通年	長野　隆之	月1	外　法	247
国語	通年	長野　隆之	月2	外　法	248
国語	通年	福沢　健	月2	外　法	249
国語	通年	福沢　健	月4	外　法	249

◇　自然科学　◇

科目名	開講期	担当教員名	曜時	履修不可	ページ
地球環境論	通年	鈴木　滋	火2	外　法	250
数学	通年	高木　悟	月1	外　法	54
数学	通年	高木　悟	月2	外　法	54
地理学	通年	秋本　弘章	水2	言　法	251
地理学	通年	犬井　正	月2	言　法	252

◇　スポーツ・健康　◇

科目名	開講期	担当教員名	曜時	履修不可	ページ
精神衛生論	通年	中野　隆史	火4	法	56
医療・福祉概論	通年	藤井　賢一郎	土1		57
医療・福祉概論	通年	藤井　賢一郎	土2		57
スポーツ・健康論	通年	和田　智	金3	外	253

≪ 学科専門科目 ≫

◇ 経営外国語 ◇

科目名	開講期	担当教員名	曜時	履修不可	ページ
経営外国語	通年	青木　雅明	月2	済 外 法	59
経営外国語	通年	有吉　秀樹	木2	済 外 法	60
経営外国語	通年	伊藤　為一郎	木3	済 外 法	61
経営外国語	通年	岡部　康弘	木1	済 外 法	62
経営外国語	通年	奥山　正司	月2	済 外 法	63
経営外国語	通年	金井　繁雅	月5	済 外 法	64
経営外国語	通年	倉橋　透	水2	済 外 法	65
経営外国語	通年	黒川　文子	木4	済 外 法	66
経営外国語	通年	黒木　亮	木2	済 外 法	67
経営外国語	通年	小林　進	金2	済 外 法	68
経営外国語	通年	小林　哲也	金3	済 外 法	69
経営外国語	通年	齋藤　正章	月5	済 外 法	70
経営外国語	通年	塩田　尚樹	月1	済 外 法	71
経営外国語	通年	千葉　啓司	木5	済 外 法	72
経営外国語	通年	中村　泰將	水1	済 外 法	73
経営外国語	通年	波形　昭一	火2	済 外 法	74
経営外国語	通年	本田　浩邦	火2	済 外 法	75
経営外国語	通年	益山　光央	火1	済 外 法	76
経営外国語	通年	松本　栄次	火2	済 外 法	77
経営外国語	通年	御園生　眞	水1	済 外 法	78
経営外国語	通年	百瀬　房徳	火1	済 外 法	79
経営外国語	通年	森　健	水1	済 外 法	80
経営外国語	通年	森永　卓郎	木4	済 外 法	81
経営外国語	通年	山越　徳	火2	済 外 法	82
経営外国語	通年	山下　裕歩	火3	済 外 法	83
経営外国語	通年	山本　美樹子	水2	済 外 法	84
経営外国語	通年	湯田　雅夫	水1	済 外 法	85
経営外国語	通年	米山　昌幸	水1	済 外 法	86
経営外国語（フランス語）	通年	千代浦　昌道	水2	済 外 法	87
経営外国語（中国語）	通年	張　進山	木4	済 外 法	別途配布
経営外国語（中国語）	通年	全　載旭	木2	済 外 法	88
経営外国語（留学生用）	通年	J．ブローガン	月3	済 外 法	89
経営外国語（留学生用）	通年	J．ブローガン	月4	済 外 法	89
外国書講読	通年	岡村　国和	木3	済 外 法	90
外国書講読	通年	野村　容康	火2	済 外 法	91
外国書講読（中国語）	通年	全　載旭	木3	済 外 法	92

◇ 経営 ◇

科目名	開講期	担当教員名	曜時	履修不可	ページ
経営学原理	通年	黒川　文子	火4	済	136
経営学原理	通年	冨田　忠義	木3	済	137
経営戦略論	通年	冨田　忠義	木2		138
経営管理論	通年	黒川　文子	木3		139
経営組織論	通年	高松　和幸	火2		140
経営財務論	通年	細田　哲	金3		141
経営労務論	通年	岡部　康弘	水2		142
国際経営論	通年	小林　哲也	木3	法	143

◇ 経営史 ◇

科目名	開講期	担当教員名	曜時	履修不可	ページ
経営史	通年	柳　敦	火4		144
日本経営史	通年	奈倉　文二	水2		145

◇ 商業 ◇

科目名	開講期	担当教員名	曜時	履修不可	ページ
マーケティング論	通年	有吉　秀樹	金3		146
広告論	通年	市川　嘉彦	月2	外	147
行動科学論		本年度休講			
保険論	通年	岡村　国和	月3		148
貿易論	通年	米山　昌幸	金1		149
証券市場論	通年	高橋　元	木2		150

◇ 企業 ◇

科目名	開講期	担当教員名	曜時	履修不可	ページ
企業論	通年	平井　岳哉	木4	済	151
企業形態論		本年度休講			
ベンチャー・ビジネス論	通年	上坂　卓郎	金2		152
協同組合論	通年	本年度休講			

◇ 会計 ◇

科目名	開講期	担当教員名	曜時	履修不可	ページ
会計学原理	通年	内倉　滋	水1		155
財務会計論	通年	中村　泰将	金2		156
管理会計論	春	香取　徹	火4・火5		157
社会会計論	通年	湯田　雅夫	月4		158
原価計算論	通年	齋藤　正章	月4		159
会計監査論	通年	赤岩　茂	土1		160
税務会計論	通年	平　仁	土2		161
経営分析論	通年	百瀬　房徳	火2		162
上級簿記（商業）	通年	井出　健二郎	月5		163
上級簿記（工業）	通年	松本　安司	火3		164

◇ 情報科学 ◇

科目名	開講期	担当教員名	曜時	履修不可	ページ
経営数学	通年	高木　悟	月3		166
応用統計学	通年	本年度休講		済	
標本調査論	通年	松井　敬	金3	済	167
データベース論	通年	高柳　敏子	月1	済	168
データベース論	通年	高柳　敏子	金4	済	168
コンピュータシミュレーション論	通年	冨田　幸弘	火2	済	169
マルチメディア論	通年	立田　ルミ	水2	済	170
マルチメディア論	通年	森　園子	水4	済	171
情報検索論	通年	春　福田 求	水1		172
		秋　小畑 信夫	火2		172
情報検索論	通年	春　福田 求	水2		172
		秋　小畑 信夫	火5		172
情報システム論	通年	今福　啓	火4		173
プログラミング論	通年	加藤　尚吾	月3	済　言	174
プログラミング論	通年	高柳　敏子	金2	済　言	175
プログラミング論	通年	立田　ルミ	火2	済　言	176
プログラミング論	通年	森　園子	水3	済　言	177

◇ 管理工学 ◇

科目名	開講期	担当教員名	曜時	履修不可	ページ
オペレーションズ・リサーチ	通年	正道寺　勉	月2		184
システムズ・エンジニアリング	通年	天笠　美知夫	水4		185
管理工学	通年	日下　泰夫	火2		186
高齢者エルゴノミクス		本年度休講			

≪ 関連専門科目 ≫

◇ 経済理論・経済政策 ◇

科目名	開講期	担当教員名	曜時	履修不可	ページ
マクロ経済学	通年	塩田　尚樹	火1	済	93
マクロ経済学	通年	山下　裕歩	水1	済	94
ミクロ経済学	通年	秋吉　史夫	月4	済	95
ミクロ経済学	通年	小林　進	金3	済	96
経済政策論	通年	阿部　正浩	木2	済	101

◇ 日本経済・国際経済 ◇

科目名	開講期	担当教員名	曜時	履修不可	ページ
日本経済論	通年	波形　昭一	火5	済　言　法	109
日本経済史	通年	奈倉　文二	水1	済	104
国際経済論	通年	益山　光央	火3	済　法	107

◇ 金融・財政 ◇

科目名	開講期	担当教員名	曜時	履修不可	ページ
金融経済論	通年	斉藤　美彦	水2	済	117
財政学	通年	野村　容康	木3	済	119

◇ 政治・法律 ◇

科目名	開講期	担当教員名	曜時	履修不可	ページ
政治学総論	通年	杉田　孝夫	木1	外　法	188
民法（春学期週2回）	春	遠藤　研一郎	金1・金2	法	189
民法（春学期週2回）	春	藤田　貴宏	水1・木4	法	190
商法	通年	藩　阿憲	水3	法	191

◇ 総合講座 ◇

科目名	開講期	担当教員名	曜時	履修不可	ページ
総合講座(1)	通年	経済学部	水3		193

◇ 特殊講義 ◇

科目名	開講期	担当教員名	曜時	履修不可	ページ
特殊講義A（経済学入門）	通年	黒木　亮	月1	法	194
特殊講義A（情報通信ﾈｯﾄﾜｰｸ）	通年	（春）三宅　真	金4		179
		（秋）今福　啓	火5		179
特殊講義B（経営学科で何が学べるか）	春	経営学科	水3		195
特殊講義B（経済と法）	春	住田　裕子	木2		196
特殊講義B（企業と法）	秋	住田　裕子	木2		196
特殊講義B（ビジネス法のケーススタディ）	春	住田　裕子	木3		197
特殊講義B（ビジネス法のケーススタディ）	秋	住田　裕子	木3		197
特殊講義B（資本市場の役割と証券投資）	秋	経済学部	水4		別途配布

◇ 留学生 ◇

科目名	開講期	担当教員名	曜時	履修不可	ページ
日本事情Ⅰ	通年	守田　逸人	水3		198
日本語Ⅱ	通年	斉藤　明	月2		199
日本語Ⅱ	通年	斉藤　明	月3		199
日本語Ⅱ	通年	（春）野村　美知子	木3		200
		（秋）東中川　かほる			201

2002年度以前入学生用

体　育　科　目

種　　目	開講学期	曜日時限	担当者	ページ
インラインスケート	通年	水 1	和田　智	254
	通年	土 2	和田　智	254
ゴルフ	通年	月 1	山中　邦夫	255
	通年	月 2	山中　邦夫	255
	通年	金 1	吉田　卓司	256
	通年	金 2	吉田　卓司	256
サッカー	通年	月 2	松本　光弘	257
	通年	月 3	松本　光弘	257
	通年	水 1	松原　裕	258
	通年	木 3	桧山　康	259
スポーツエクササイズ	通年	水 2	梶野　克之	260
ソフトボール	通年	火 1	池垣　功一	261
	通年	火 2	池垣　功一	261
	通年	木 1	萩野　元祐	262
	通年	木 2	萩野　元祐	262
	通年	金 2	太田　朝博	263
バスケットボール	通年	水 1	依田　珠江	264
	通年	水 2	依田　珠江	264
	通年	金 1	依田　珠江	264
	通年	金 2	依田　珠江	264
バドミントン	通年	火 2	梶野　克之	265
	通年	火 3	梶野　克之	265
	通年	木 3	梶野　克之	265
	通年	金 3	太田　朝博	266
バレーボール	通年	月 1	小川　又八郎	267
	通年	月 3	小川　又八郎	267
	通年	土 1	依田　珠江	268
	通年	土 2	依田　珠江	268
フットサル	通年	木 1	松原　裕	269
	通年	木 2	桧山　康	270
フリスビー	通年	金 1	和田　智	271
	通年	土 1	和田　智	271
ボールルームダンス	通年	月 2	青柳　多恵子	272
	通年	火 1	青柳　多恵子	272
	通年	水 2	青柳　多恵子	272
硬式テニス	通年	火 2	松原　裕	273
	通年	火 3	松原　裕	273
	通年	木 1	田中　茂宏	274
	通年	木 3	田中　茂宏	274
	通年	金 3	依田　珠江	275
卓球	通年	月 1	新宮司　親治	276
	通年	月 3	新宮司　親治	276
	通年	火 1	松原　裕	277
	通年	土 1	小山　さなえ	278
	通年	土 2	小山　さなえ	278

種　　目	開講学期	曜日時限	担当者	ページ
アウトドアレクリエーション アウトドア山岳	春学期	火 3 集中	青柳　多恵子	279
アウトドアレクリエーション アウトドア海浜・ウィンドサーフィン	春学期	水 2 集中	和田　智	280
アウトドアレクリエーション アウトドア海浜・ウィンドサーフィン	春学期	金 2 集中	和田　智	280
バランストレーニング スノースポーツ	秋学期	土 1 集中	松原　裕	281
スケートトレーニング アイススポーツ	秋学期	火 2 集中	和田　智	282

03 年度以降	インターナショナルコミュニケーションⅠa	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
担当者が複数ですので、各担当教員によるクラス別ガイダンスにしたがってください。 この授業は、経済学部の１年生のために設けられたものであり、International Communication (IC)とは、Test of English for International Communication (TOEIC)の用語からとったものであり、国際的に通用する日常的な実用英語の習得を目指す科目です。日常のコミュニケーションが英語で話せる（speaking)、書ける（writing)、読める（reading)、聞ける(listening)という４つの内容が自然にできるようにすることを主眼としています。講師陣はすべて英語を母国語とする外国人講師です。受講者はネイティブの先生から直に英語を聞き、かつ、話す訓練ができます。	1　ガイダンス 2 ~ 4　Unit 1 and teachers own materials 5 ~ 8　Unit 2 and teachers own materials 9 ~ 12　Unit 3 and teachers own materials
テキスト、参考文献	**評価方法**
Business Venture I 必ず教科書を買うこと。 解答などの書き込みのある中古本を使用しないこと。	各担当教員による。 4 回以上の欠席した場合は原則不可（F）となる。

03 年度以降	インターナショナルコミュニケーションⅠb	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
担当者が複数ですので、各担当教員によるクラス別ガイダンスにしたがってください。 この授業は、経済学部の１年生のために設けられたものであり、International Communication (IC)とは、Test of English for International Communication (TOEIC)の用語からとったものであり、国際的に通用する日常的な実用英語の習得を目指す科目です。日常のコミュニケーションが英語で話せる（speaking)、書ける（writing)、読める（reading)、聞ける(listening)という４つの内容が自然にできるようにすることを主眼としています。講師陣はすべて英語を母国語とする外国人講師です。受講者はネイティブの先生から直に英語を聞き、かつ、話す訓練ができます。	1 ~ 3　Unit 4 and teachers own materials 4 ~ 6　Unit 5and teachers own materials 7 ~ 9　Unit 6 and teachers own materials 10 ~ 12　Review and teachers own materials
テキスト、参考文献	**評価方法**
Business Venture I	各担当教員による。 4 回以上の欠席した場合は原則不可（F）となる。

03 年度以降	インターナショナルコミュニケーションⅡ a	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
担当者が複数ですので、各担当者によるクラス別ガイダンスにしたがってください。 この授業は、経済学部の 2 年生のために設けられたものであり、International Communication (IC)とは、Test of English for International Communication (TOEIC)の用語からとったものであり、国際的に通用する日常的な実用英語の習得を目指す科目です。日常のコミュニケーションが英語で話せる（speaking)、書ける（writing)、読める（reading)、聞ける(listening)という４つの内容が自然にできるようにすることを主眼としています。講師陣はすべて英語を母国語とする外国人講師です。受講者はネイティブの先生から直に英語を聞き、かつ、話す訓練ができます。	1　ガイダンス 2 ~ 4　Unit 7 and teachers own materials 5 ~ 8　Unit 8 and teachers own materials 9 ~ 12　Unit 9 and teachers own materials
テキスト、参考文献	**評価方法**
Business Venture I	各担当教員による。 4 回以上の欠席した場合は原則不可（F）となる。

03 年度以降	インターナショナルコミュニケーションⅡ b	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
担当者が複数ですので、各担当者によるクラス別ガイダンスにしたがってください。 この授業は、経済学部の 2 年生のために設けられたものであり、International Communication (IC)とは、Test of English for International Communication (TOEIC)の用語からとったものであり、国際的に通用する日常的な実用英語の習得を目指す科目です。日常のコミュニケーションが英語で話せる（speaking)、書ける（writing)、読める（reading)、聞ける(listening)という４つの内容が自然にできるようにすることを主眼としています。講師陣はすべて英語を母国語とする外国人講師です。受講者はネイティブの先生から直に英語を聞き、かつ、話す訓練ができます。	1 ~3　Unit 10 and teachers own materials 4 ~ 6　Unit 11 and teachers own materials 7 ~ 9　Unit 12 and teachers own materials 10 ~ 12　Review and teachers own materials
テキスト、参考文献	**評価方法**
Business Venture I	各担当教員による。 4 回以上の欠席した場合は原則不可（F）となる。

06 年度	基礎演習	担当者	阿部　正浩

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的 どうすれば他人とのコミュニケーションが上手くいくのでしょうか。この演習では、上手なレポートの作成と上手なプレゼンテーションの仕方について学習します。テキストの筆者は30年以上にわかり「プロの」経営コンサルタントに「書く技術」と「考える技術」を指導しています。彼女の「技」を一緒に盗みましょう。 講義概要 テキストをベースにしながら、「書く技術」と「考える技術」を習得していきます。そのため、毎回OJT(On the Job Training)をする必要があり、受講者は OJTを通して「技」を盗むことになりま す。具体的には毎回テキストに書かれているように沿ってレジュメを作成してもらい、報告しても らいます。また、自分の興味のあることについて レポートを提出してもらいます。詳細については第一回目の授業で説明します	1. オリエンテーション 2. 第1章　（教員がレジュメを作成、報告します） 3. 第2章　（受講生がレジュメを作成、報告します） 4. 第3章　（受講生がレジュメを作成、報告します） 5. 第4章　（受講生がレジュメを作成、報告します） 6. 図書館オリエンテーションの実施 7. 第5章　（受講生がレジュメを作成、報告します） 8. 第6章　（受講生がレジュメを作成、報告します） 9. 第7章　（受講生がレジュメを作成、報告します） 10.　第8章　（受講生がレジュメを作成、報告します） 11.　第9章（受講生がレジュメを作成、報告します） 12.　レポートの発表（全員によるレポートの報告会）
テキスト、参考文献	**評価方法**
バーバラ・ミント、『新版.考える技術・書く技術』、ダイヤモンド社	授業中の報告内容とレポート

06 年度	基礎演習	担当者	阿部　正浩

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的 どうすれば他人とのコミュニケーションが上手くいくのでしょうか。この演習では、上手なレポートの作成と上手なプレゼンテーションの仕方について学習します。テキストの筆者は30年以上にわかり「プロの」経営コンサルタントに「書く技術」と「考える技術」を指導しています。彼女の「技」を一緒に盗みましょう。 講義概要 テキストをベースにしながら、「書く技術」と「考える技術」を習得していきます。そのため、毎回OJT(On the Job Training)をする必要があり、受講者は OJTを通して「技」を盗むことになりま す。具体的には毎回テキストに書かれているように沿ってレジュメを作成してもらい、報告しても らいます。また、自分の興味のあることについて レポートを提出してもらいます。詳細については第一回目の授業で説明します	1. オリエンテーション 2. 第1章　（教員がレジュメを作成、報告します） 3. 第2章　（受講生がレジュメを作成、報告します） 4. 第3章　（受講生がレジュメを作成、報告します） 5. 第4章　（受講生がレジュメを作成、報告します） 6. 図書館オリエンテーションの実施 7. 第5章　（受講生がレジュメを作成、報告します） 8. 第6章　（受講生がレジュメを作成、報告します） 9. 第7章　（受講生がレジュメを作成、報告します） 10.　第8章　（受講生がレジュメを作成、報告します） 11.　第9章（受講生がレジュメを作成、報告します） 12.　レポートの発表（全員によるレポートの報告会）
テキスト、参考文献	**評価方法**
バーバラ・ミント、『新版.考える技術・書く技術』、ダイヤモンド社	授業中の報告内容とレポート

06 年度	基礎演習	担当者	有吉　秀樹

講義目的、講義概要	授業計画
本講義の目的は、小論文作成を通じて、問題点整理能力・思考力･表現力を身につけることにある。これらの能力は、試験答案の作成、レポートや論文の執筆などで欠かすことはできない。また、後の社会人生活においても大いに役立つものと期待される。	①　3 週に 1 回のペースで小論文の課題を与え、それに各自解答を用意する。 ②　各自の解答を発表し合い、良い点･改善すべき点を皆でディスカッションする。 ③　教員が解答のポイントを説明する。 ④　教員が模範解答を示す。 現在用意している小論文のテーマは 「リストラに負けない転職の決め手」 「プロ野球の活性化に必要なことは？」 など
テキスト、参考文献	**評価方法**
適宜プリント配布する	出席状況とディスカッションの参加状況により評価する

06 年度	基礎演習	担当者	有吉　秀樹

講義目的、講義概要	授業計画
本講義の目的は、小論文作成を通じて、問題点整理能力・思考力･表現力を身につけることにある。これらの能力は、試験答案の作成、レポートや論文の執筆などで欠かすことはできない。また、後の社会人生活においても大いに役立つものと期待される。	①　3 週に 1 回のペースで小論文の課題を与え、それに各自解答を用意する。 ②　各自の解答を発表し合い、良い点･改善すべき点を皆でディスカッションする。 ③　教員が解答のポイントを説明する。 ④　教員が模範解答を示す。 現在用意している小論文のテーマは 「リストラに負けない転職の決め手」 「プロ野球の活性化に必要なことは？」 など
テキスト、参考文献	**評価方法**
適宜プリントを配布する	出席状況とディスカッションの参加状況により評価する

06 年度	基礎演習	担当者	岡部　康弘

講義目的、講義概要	授業計画
本講座の目的は、経営学が我々の日常の経済生活に深く結びついていること、及びかなり幅広い領域に関連していることを理解さる。受講生に経営学に興味を持たせるとことに主眼がある。講義方法は、短いケースの分析を通して、その根底にある経営学の理論を学ぶという方法を取る。	１．ＳＷＯＴ分析 ２．事業ドメイン ３．ターゲティング ４．マトリックス ５．ＰＰＭ ６．ポジショニング ７．モチベーション ８．インセンティブ ９．組織変革 １０．価格政策 １１．評価制度 １２．ポーターの３つの戦略
テキスト、参考文献	**評価方法**
特になし。毎回講義資料を配布する。	出席、試験、レポートによる。

06 年度	基礎演習	担当者	岡部　康弘

講義目的、講義概要	授業計画
本講座の目的は、経営学が我々の日常の経済生活に深く結びついていること、及びかなり幅広い領域に関連していることを理解さる。受講生に経営学に興味を持たせるとことに主眼がある。講義方法は、短いケースの分析を通して、その根底にある経営学の理論を学ぶという方法を取る。	１．ＳＷＯＴ分析 ２．事業ドメイン ３．ターゲティング ４．マトリックス ５．ＰＰＭ ６．ポジショニング ７．モチベーション ８．インセンティブ ９．組織変革 １０．価格政策 １１．評価制度 １２．ポーターの３つの戦略
テキスト、参考文献	**評価方法**
特になし。毎回講義資料を配布する。	出席、試験、レポートによる。

06 年度	基礎演習	担当者	岡村　国和

講義目的、講義概要	授業計画
この講義の目的は、１年生が大学での専門的知識を修得できるようになるためにはどのような勉強方法が効果的であるかを理解し、それを身につけることにあります。経済学部の学生として何を学び、それをどのように現実社会で生かしていくかについてのビジョンを持ち、さらに将来、各専門コースに分かれてそれぞれの専門科目の講義を受ける際に、いま学んでいる講義がこれから専攻する他の専門科目にどのように関連しているのかを明確にイメージできるようにすることが重要だと思います。 第２学年次の専門演習（ゼミナール）への架け橋として、経済学・経営学の基礎的な話が解るように工夫した講義を行います。	1 開講にあたって、基本的な授業の進め方やテーマの選び方などについて説明します。 2 テーマ選定作業とその際に注意すべき事項の検討や参考文献などの探し方など。 3 社会科学の勉強の仕方（方法論）の概説。レポートの書き方や図表の読み方などの解説。 4 具体的なトピックやテーマなどを探し出してどのように考えていけばよいかを検討します。 5 当面は関心のある新聞記事に基づいて各自コメントの提出をお願いします。 6 各自の自由テーマに基づいてプレゼンテーションを実際に行います。 7 講義のまとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
適宜指示します。当面は資料をプリントして配布します。	講義参加者の平常点により行いますので、特に期末試験などは予定していません。

06 年度	基礎演習	担当者	岡村　国和

講義目的、講義概要	授業計画
この演習では、大学での講義を受ける際に必要な準備や組立てテーマの組立て方などを講義します。また、日頃あまり考えることがない時事問題などについても取り上げ、皆で考えていきます。 春学期と同様に、第２学年次の専門演習（ゼミナール）への架け橋として、経済学や経営学の基礎的な話が分かるように工夫した講義を行います。 また、問題意識を培いながらテーマを発見し、次にそれをレポートにまとめる時の手順、議論の展開の仕方、さらに効果的なプレゼンテーション技法などについて講義します。 なお、この科目は自分で考える習慣を付けることが大切な科目なので、日頃から新聞やニュース等にこまめに目を通しておくことが必要だと思います。	1 開講にあたって、基本的な授業の進め方やテーマの選び方などについて説明します。 2 テーマ選定作業とその際に注意すべき事項の検討や参考文献などの探し方。 3 社会科学の勉強の仕方（方法論）の概説。レポートの書き方や図表の読み方などの解説。 4 具体的なトピックやテーマなどを探し出してどのように考えていけばよいかを検討します。 5 当面は関心のある新聞記事に基づいて各自コメントの提出をお願いします。 6 各自のテーマに基づいてプレゼンテーションを実際に行います。 7 講義のまとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
適宜指示します。当面は資料をプリントして配布します。	講義参加者の平常点により行いますので、特に期末試験などは予定していません。

06 年度	基礎演習	担当者	上坂　卓郎

講義目的、講義概要	授業計画
諸君はいま大学受験から開放されほっとしていることと思いますが、就職活動までの時間は残念ながら多くありません。従って本学の学生としてなにを主に学ぶか、どのように効率よく学ぶか、その学問は将来どのように役に立つかなどを、着々と考えて勉強をすすめていく必要があります。待ちの姿勢ではなく、自らのこれからの人生を設計し、自立していくために勉強することを期待します。 この講義では毎回課題をこなしながら、考えたり、議論していきたいと思います。講義の中で「自分」というものを持ち、それを「他人」にぶつけて「新しい自分」を意識して形成していくことを望みます。授業計画やパソコン演習の日程は講義の進捗に合わせて変更がありうる。第１回から参加してください	1　はじめに、自分を考える（現状認識） 2　大学での学習の進め方、ノートをとる 3　読み方・レポートの書き方の基本 4　経済の読み方（１） 5　経済の読み方（２） 6　経済の読み方（３） 7　企業の読み方（１） 8　企業の読み方（２） 9　企業の読み方（３） 10　企業の読み方（４） 11　レポートを作成する 12　自分の今後の戦略を構想する ※　進捗にあわせて内容を変更する可能性がある
テキスト、参考文献	**評価方法**
開講時に指示する	毎回の出席と課題作成・発表などを総合勘案して行う。詳細は開講時に説明する。

06 年度	基礎演習	担当者	上坂　卓郎

講義目的、講義概要	授業計画
基礎演習春学期と同様。履修する場合は第１回から参加してください。	基礎演習春学期と同様
テキスト、参考文献	**評価方法**
開講時に指示する	基礎演習春学期と同様

06 年度	基礎演習	担当者	倉橋　透

講義目的、講義概要	授業計画
【講義目的】 　大学で勉強するにあたり必要なことは、問題意識を持つことと、問題意識に沿ってさまざまな情報を収集・整理し自分なりの考えをまとめ他の人にわかりやすく伝える技術を得ることである。また、他の人の発表の問題点・論点を把握し討論する技術を得ることも必要である。 　しかし、問題意識や上に述べた技術は黙っていて得られるものではなく、それなりの努力が必要である。この講義では、問題意識を持つこと、上に述べた技術を得ることの練習をする。 【講義概要】 　この講義では、テキストを各自から順番に発表し、全員で議論する。テキストは今後の日本の経済社会に係るものなので、受講者はこのテーマについての問題意識を持つことができるであろう。 　最後に、今後の日本について自分なりの考えをまとめ、レポートとして提出してもらう。	１　講義の進め方についてガイダンス ２　教員から発表（発表の仕方をみていただきたい） ３～１１　受講生から発表 １２　今後の日本についての討論会（全員で） ちなみに取り扱うテーマは １　変わる日本社会のかたち ２　鍵をにぎる団塊世代 ３　ビジネスマンの新しい現実 ４　漂流する若者たち ５　世代が対立する高齢社会 ６　家族の絆と子どもの未来 ７　男と女の戦略 ８　地球環境の危機 ９　グローバル経済の奔流 １０　不安定化するアジア

テキスト、参考文献	評価方法
テキスト:『日本の論点』編集部編「１０年後の日本」（文春新書４７９）	出席（欠席１回につき４点減点)、授業態度及びレポートによる。分担しているのに欠席した場合は加えて５点減点。ただし病気等理由のある場合には減点しない。

06 年度	基礎演習	担当者	倉橋　透

講義目的、講義概要	授業計画
【講義目的】 　大学で勉強するにあたり必要なことは、問題意識を持つことと、問題意識に沿ってさまざまな情報を収集・整理し自分なりの考えをまとめ他の人にわかりやすく伝える技術を得ることである。また、他の人の発表の問題点・論点を把握し討論する技術を得ることも必要である。 　しかし、問題意識や上に述べた技術は黙っていて得られるものではなく、それなりの努力が必要である。この講義では、問題意識を持つこと、上に述べた技術を得ることの練習をする。 【講義概要】 　この講義では、テキストを各自から順番に発表し、全員で議論する。テキストは今後の日本の経済社会に係るものなので、受講者はこのテーマについての問題意識を持つことができるであろう。 　最後に、今後の日本について自分なりの考えをまとめ、レポートとして提出してもらう。	１　講義の進め方についてガイダンス ２　教員から発表（発表の仕方をみていただきたい） ３～１１　受講生から発表 １２　今後の日本についての討論会（全員で） ちなみに取り扱うテーマは １　変わる日本社会のかたち ２　鍵をにぎる団塊世代 ３　ビジネスマンの新しい現実 ４　漂流する若者たち ５　世代が対立する高齢社会 ６　家族の絆と子どもの未来 ７　男と女の戦略 ８　地球環境の危機 ９　グローバル経済の奔流 １０　不安定化するアジア

テキスト、参考文献	評価方法
テキスト:『日本の論点』編集部編「１０年後の日本」（文春新書４７９）	出席（欠席１回につき４点減点)、授業態度及びレポートによる。分担しているのに欠席した場合は加えて５点減点。ただし病気等理由のある場合には減点しない。

06 年度	基礎演習	担当者	黒川　文子

講義目的、講義概要	授業計画
今後、経営学を勉強する上で、また 2 年次以降の演習に参加するための最低限必要とされるスキルを身に付けていきます。 ノートの取り方、レジュメの書き方、レポートの作成方法、プレゼンテーション、資料収集、ディスカッション等のスキルを高めていきます。また、工場見学やフィールドワークを通して、実際に自分自身の目で企業経営を把握します。	1　資料収集方法 2　ノートの取り方、レジュメの書き方、レポートの作成方法 3　配布資料を通してのディスカッション（1） 4　配布資料を通してのディスカッション（2） 5　工場見学 6　フィールドワーク 7　フィールドワークの成果の発表（1） 8　フィールドワークの成果の発表（2） 9　配布資料を通してのディスカッション（3） 10　配布資料を通してのディスカッション（4） 11　配布資料を通してのディスカッション（5） 12　配布資料を通してのディスカッション（6）
テキスト、参考文献	**評価方法**
未定	出席と授業態度によって、総合的に評価する。

06 年度	基礎演習	担当者	黒川　文子

講義目的、講義概要	授業計画
今後、経営学を勉強する上で、また 2 年次以降の演習に参加するための最低限必要とされるスキルを身に付けていきます。 ノートの取り方、レジュメの書き方、レポートの作成方法、プレゼンテーション、資料収集、ディスカッション等のスキルを高めていきます。また、工場見学やフィールドワークを通して、実際に自分自身の目で企業経営を把握します。	1　資料収集方法 2　ノートの取り方、レジュメの書き方、レポートの作成方法 3　配布資料を通してのディスカッション（1） 4　配布資料を通してのディスカッション（2） 5　工場見学 6　フィールドワーク 7　フィールドワークの成果の発表（1） 8　フィールドワークの成果の発表（2） 9　配布資料を通してのディスカッション（3） 10　配布資料を通してのディスカッション（4） 11　配布資料を通してのディスカッション（5） 12　配布資料を通してのディスカッション（6）
テキスト、参考文献	**評価方法**
未定	出席と授業態度によって、総合的に評価する。

06 年度	基礎演習	担当者	小林　哲也

講義目的、講義概要	授業計画
大学生活の目的は、自分の頭で考えることのできる自立した精神を養うことだと思います。そのためのツールが、「教養」や「専門」などの学科目であり、図書館をはじめとする諸施設です。基礎演習は、こうしたツールを使いこなすための準備と考えてください。 今年は、「グローバリゼーション」および「情報社会」のテーマを中心に、調べごとをしたり、グループで議論をしていきます。これらのテーマに関心がある人の参加を歓迎します。	以下のような内容を、参加者の皆さんと勉強していきます。 1．大学・学問へのオリエンテーション 2．テキストの読み方・レジュメの作り方 3．「グローバリゼーション」をめぐる議論 4．「情報社会」をめぐる議論 5．インターネットを実現している仕組み
テキスト、参考文献	**評価方法**
参加者と相談して決めますが、当面はこちらから配布します。このテーマをめぐる議論の概要を知りたい人は、こんな本をどうぞ。 スーザン・ジョージ『オルター・グローバリゼーション宣言』作品社	参加態度＋レポート

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画
テキスト、参考文献	**評価方法**

06 年度	基礎演習	担当者	斉藤　美彦

講義目的、講義概要	授業計画
経済学部における学習において重要である「演習」参加のために最低限必要となることは何かを共に学ぶことを目的とする。 具体的には、「演習」における最低限のマナー、レジュメの作成方法、プレゼンテーションの方法について説明し、「演習」を活性化させるにはどうすればよいかを共に探求していくこととしたい。	1. ガイダンス 2. 新聞の読み方 3. 「演習」におけるレジュメの作り方 4. 口頭発表の技法 5. 専門書の読み方（1） 6. 専門書の読み方（2） 7. 専門書の読み方（3） 8. 専門書の読み方（4） 9. 専門書の読み方（5） 10. 専門書の読み方（6） 11. 専門書の読み方（7） 12. まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
日本経済新聞のほか簡単な金融に関する本を輪読する予定である。	出席・授業態度およびレポートによる。 3 回以上欠席した場合においては単位は認定しない。

06 年度	基礎演習	担当者	斉藤　美彦

講義目的、講義概要	授業計画
春学期と同じ。	春学期と同じ。
テキスト、参考文献	**評価方法**
日本経済新聞のほか簡単な金融に関する本を輪読する予定である。	出席・授業態度およびレポートによる。 3 回以上欠席した場合においては単位は認定しない。

06 年度	基礎演習	担当者	立田　ルミ

講義目的、講義概要	授業計画
これから大学で学ぶに当たって必要な基礎的な知識や調査方法やコンピュータ技能などを身につけ、個人やグループで調査研究ができることを目標とする。基礎演習では、コンピュータに関する特定のテーマについて書物や雑誌、新聞記事、インターネットを用いて調査を行い、調査結果をまとめてワープロで作成する。また、データを収集し、表計算ソフトを用いてグラフを作成する。それらの結果を統合してプレゼンテーションソフトを用いて一人一人発表し、基礎演習の受講生からの評価についてメールなどを用いて交換することにより、調査方法、調査内容、調査結果の文書化、プレゼンテーションの方法の基礎を身につける。	1　基礎演習の概要 2　情報の集め方 3　情報の整理とワープロの利用方法 4　ワープロによる発表 5　統計データの集め方 6　データの整理と表計算ソフトの利用 7　表計算ソフトによる発表 8　プレゼンテーションツールの利用 9　プレゼンテーションツールによる調査内容発表 効果的な発表方法 10　ホームページ作成 11　ホームページによる調査内容の発表 12　ディスカッション 個人発表の自己評価と他者評価
テキスト、参考文献	**評価方法**
授業時に指定	出席２0%、授業内での発表 40%、リポート 40%

06 年度	基礎演習	担当者	立田　ルミ

講義目的、講義概要	授業計画
これから大学で学ぶに当たって必要な基礎的な知識や調査方法やコンピュータ技能などを身につけ、個人やグループで調査研究ができることを目標とする。基礎演習では、コンピュータに関する特定のテーマについて書物や雑誌、新聞記事、インターネットを用いて調査を行い、調査結果をまとめてワープロで作成する。また、データを収集し、表計算ソフトを用いてグラフを作成する。それらの結果を統合してプレゼンテーションソフトを用いて一人一人発表し、基礎演習の受講生からの評価についてメールなどを用いて交換することにより、調査方法、調査内容、調査結果の文書化、プレゼンテーションの方法の基礎を身につける。	1　基礎演習の概要 2　情報の集め方 3　情報の整理とワープロの利用方法 4　ワープロによる発表 5　統計データの集め方 6　データの整理と表計算ソフトの利用 7　表計算ソフトによる発表 8　プレゼンテーションツールの利用 9　プレゼンテーションツールによる調査内容発表 効果的な発表方法 10　ホームページ作成 11　ホームページによる調査内容の発表 12　ディスカッション 個人発表の自己評価と他者評価
テキスト、参考文献	**評価方法**
授業時に指定	出席２0%、授業内での発表 40%、リポート 40%

06 年度	基礎演習	担当者	千代浦　昌道

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的 　充実した大学生活を送るためのあらゆる基礎的知識・情報・ノウハウの短期修得。	1. 大学の授業について 2. 経済学とはどんな学問か？ 3. 経済と経済学の基礎知識とキーワード 4. 新聞経済記事の読み方 5. 専門書・文献の探し方、図書館の上手な利用法など 6. 統計資料の種類・特徴・見方・利用法など 7. 経済学とパソコン・インターネットの利用法、簡単な統計処理法、グラフの描き方など 8. 上手なノートやメモの取り方 9. レポート・論文の書き方・まとめ方 10. あるテーマについて討論してみる 11. 経済・経営英語の基礎知識 12. 外国語専門書・文献の読み方・利用法
テキスト、参考文献	**評価方法**
授業の進展に沿って、参考書などを指示する。	出席状況、授業への熱意・貢献度、提出レポートの内容などで総合的に評価する。

06 年度	基礎演習	担当者	千代浦　昌道

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的 　充実した大学生活を送るためのあらゆる基礎的知識・情報・ノウハウの短期修得。	1. 大学の授業について 2. 経済学とはどんな学問か？ 3. 経済と経済学の基礎知識とキーワード 4. 新聞経済記事の読み方 5. 専門書・文献の探し方、図書館の上手な利用法など 6. 統計資料の種類・特徴・見方・利用法など 7. 経済学とパソコン・インターネットの利用法、簡単な統計処理法、グラフの描き方など 8. 上手なノートやメモの取り方 9. レポート・論文の書き方・まとめ方 10. あるテーマについて討論してみる 11. 経済・経営英語の基礎知識 12. 外国語専門書・文献の読み方・利用法
テキスト、参考文献	**評価方法**
授業の進展に沿って、参考書などを指示する。	出席状況、授業への熱意・貢献度、提出レポートの内容などで総合的に評価する。

06 年度	基礎演習	担当者	全　載旭

講義目的、講義概要	授業計画
この授業は新聞の経済記事を読みこなし、それを自分なりに論理的に考える力を養うことを目的としている。 そのために経済学の基礎的な知識を正確に学び、現実に起こっている経済問題に応用している。 １．日本経済、アジア経済を理解するための基礎的な経済用語を学ぶ。 ２．与えられた課題に対して報告レジュメを作成し、発表の練習をする。 （自分の意思を的確に表現し、相手に伝えることは、今後みなさんがいかなる仕事をするにしても絶対に必要なことです。また、基礎的な知識を習得するのは少し根気がいりますが、ごく基本的な知識でさまざまな事柄がすっきり理解できる楽しさをぜひ味わってほしいと思っています。）	1.　日本の長期不況 2.　デフレ 3.　ゼロ金利 4.　銀行の危機 5.　財政の危機 6.　日本経済の課題 7.　日本経済の展望 8.　アジア経済の動向（Ⅰ） 9.　アジア経済の動向（Ⅱ） 10.　レジュメの作成 11.　レジュメの作成及び発表の練習（Ⅰ） 12.　レジュメの作成及び発表の練習（Ⅱ）
テキスト、参考文献	**評価方法**
必要に応じて資料を配布する。	授業の平常の参加状況（出欠）、レジュメ作成・報告への取り組み姿勢などを勘案して評価する。

06 年度	基礎演習	担当者	全　載旭

講義目的、講義概要	授業計画
この授業は新聞の経済記事を読みこなし、それを自分なりに論理的に考える力を養うことを目的としている。 そのために経済学の基礎的な知識を正確に学び、現実に起こっている経済問題に応用している。 １．日本経済、アジア経済を理解するための基礎的な経済用語を学ぶ。 ２．与えられた課題に対して報告レジュメを作成し、発表の練習をする。 （自分の意思を的確に表現し、相手に伝えることは、今後みなさんがいかなる仕事をするにしても絶対に必要なことです。また、基礎的な知識を習得するのは少し根気がいりますが、ごく基本的な知識でさまざまな事柄がすっきり理解できる楽しさをぜひ味わってほしいと思っています。）	１．日本の長期不況 ２．デフレ ３．ゼロ金利 ４．銀行の危機 ５．財政の危機 ６．日本経済の課題 ７．日本経済の展望 ８．アジア経済の動向（Ⅰ） ９．アジア経済の動向（Ⅱ） 10.レジュメの作成 11.レジュメの作成及び発表の練習（Ⅰ） 12.レジュメの作成及び発表の練習（Ⅱ）
テキスト、参考文献	**評価方法**
必要に応じて資料を配布する。	授業の平常の参加状況（出欠）、レジュメ作成・報告への取り組み姿勢などを勘案して評価する。

06 年度	基礎演習	担当者	冨田　幸弘

講義目的、講義概要	授業計画
大学生がどのように講義ノートをとるのか。同じ講義なのに、異なる形のノートをとり、データや資料の整理がずいぶん違う。いろいろな疑問は、講義だけではなく、学内活動全般にわたって起きてくる。この大学生活での各種の疑問やその時々の意思表示の仕方について、みんなで考えて、実際の形ある表現をしてみたい。こんなことを考えて、基礎演習を有効に活用できれば、大学生としての準備が徐々に整うのではと思っています。 この基礎演習では、時間を２つに分け、前半は、各種データの扱い方や、ニュースにおける問題点などについて考えます。後半は、ホームページ（ＨＰ）の作成を通して、自分自身を表現する力を養います。	１　基礎演習概説 ２　ＨＰの基本（ＨＴＭＬ）・統計学と経済学 ３　ＨＰ作成１（ページ構成）・平均は万能か ４　ＨＰ作成２（画像、背景）・企業収益での平均 ５　ＨＰ作成３（文書整形）・ベースの異なる比率 ６　ＨＰ作成４（文字飾り）・比率と指数 ７　ＨＰ作成５（リスト）・平均株価 ８　ＨＰ作成６（リンク）・偏差値 ９　ＨＰ作成７（フレーム）・回帰と変動 １０　ＨＰ作成８（テーブル）・統計学と法学 １１　ＨＰ作成９（アップロード）・統計学と医学 １２　基礎演習のまとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
必要なものは、プリントで配布します。	レポート・発表・出席などで総合評価します。

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画
テキスト、参考文献	**評価方法**

06 年度	基礎演習	担当者	中野　隆史

講義目的、講義概要	授業計画
大学で何をどう学ぶか、どのようにして充実した大学生活を送るかを考えていく。そのための基盤として、健康管理に気をつけることと、良い生活習慣を身につけることが重要である。 学習・研究の方法論として、テーマの見つけ方、資料情報の検索の仕方、資料情報の整理分析の仕方、結果の発表の仕方を学ぶ。これらを各自が自主的に調べ、レポートし、討論する。並行して、テキスト（医療経済、社会保障に関する入門書）の輪読を行う。担当の箇所を精読した上、分からないところを調べ、レジュメを作り、報告し、討論する。これらを通して学問の方法を身につけることを目標とする。	1　オリエンテーション 2　研究・学習テーマの見つけ方 3　図書館の使い方 4　文献の探し方 5　資料情報の整理分析の仕方 6　自分の考えをまとめ結論を導く 7　レポートの書き方（1） 8　レポートの書き方（2） 9　論文の書き方 １０ 口頭発表の仕方 １１ 討論の仕方 １２ まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
下記を最初の授業までに購入しておくこと。 木下是雄：レポートの組み立て方．ちくま学芸文庫，1994. 広井良典：日本の社会保障．岩波新書，1999.	出席、プレゼンテーション、討論での発言、レポートで評価する。

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画
テキスト、参考文献	**評価方法**

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画

テキスト、参考文献	評価方法

06 年度	基礎演習	担当者	中村　泰將

講義目的、講義概要	授業計画
この「基礎演習」の授業は、私の専門領域である会計学の勉強はしません。専門科目の勉強は、2 年生．3 年生の専門ゼミである「演習Ⅰ・Ⅱ」で行います。この授業では、皆さんが高校の授業から大学の授業へ脱皮するためのアカデミック・スキル（大学生活で必要な基本的技法）を学びます。すなわち、大学で自分が自主的にどのように学ぶかの「学ぶ方法」を学びます。 具体的には次の 5 つについて学びます。 ① 大学においてどのように学ぶかの「学ぶ姿勢」（attitude）を学びます。 ② 自分の言いたいことをどのように発表する(プレゼンテーション)かを学びます。 ③ 現代社会のさまざまな問題(トピックス)についての「切り口」（access）を学びます。 ④ どのように新聞、雑誌、著書を読んだらよいかの「読み方」を学びます。 ⑤ リポートの「書き方」を学びます。(図書館で文献の検索方法も含みます。) 授業内容：新聞等のトピックスについてリポートを作成し、２，３分程度の発表を行います。	1．自己紹介(２，３分以内、準備してくること。) 2．図書館の利用の仕方(1 回) 3．新聞のトピックスを選び、それについて自分の意見をリポートに書き、2 分以内の発表を行う(8 回)。 4．証券取引所の見学と取引所でのセミナー 5．ゼミの選び方、コースの選び方、授業科目の選択の仕方。 6．将来の進路について、実社会の経験者に聞きます。 7．「本の読み方」「本の選び方」について学びます。

テキスト、参考文献	評価方法
授業でそのつど紹介します。	授業で与えられた課題およびアサイメントを取り組む姿勢を評価する。３回以上の欠席は(F)評価となります。

06 年度	基礎演習	担当者	波形　昭一

講義目的、講義概要	授業計画
基礎演習の目標は、経済学部に入学した若い諸君に、まずは経済を学ぶことの面白さ、楽しさを知ってもらうことにある。したがって、あまり型にはまらないトーク形式の授業にしたいので、教材には新聞（朝日新聞）を使うことにした。具体的には最初の授業で指示する。 なお、経済を学ぶには経済辞典が絶対に必要である。必ず購入すること。大学で 4 年間使える金森久雄ほか編『経済辞典（第 4 版)』(有斐閣）が最適。	新聞を教材にした自由なトーク形式の授業としたいので、とくに定型的な授業計画は立てない。毎日、新聞に目を通す癖を身につけ、社会の動きに関心を持つような若者になってもらいたい。
テキスト、参考文献	**評価方法**
学生諸君と相談して決定する。	出席状況、教室での積極的な発言、学期末試験などで総合評価。

06 年度	基礎演習	担当者	波形　昭一

講義目的、講義概要	授業計画
春学期と同じ。	春学期と同じ。
テキスト、参考文献	**評価方法**
春学期と同じ。	春学期と同じ。

06 年度	基礎演習	担当者	浜本　光紹

講義目的、講義概要	授業計画
大学での学習に必要な基本的能力および方法について習得することを目標とする。 入学したばかりの１年生は，講義の形式，試験，レポート課題などの大学での授業・評価方法に直面すると，高校までの学習の仕方では対応が難しいと感じられたり，とまどったりすることが多いと想像される。この基礎演習では，こうした点を考慮して，初年度から大学の講義および試験に充分対応できるよう，学習を進めるうえで必要な能力や方法を身につけるとともに，2 年次より始まる専門科目の演習も視野に入れて，報告・発表・議論の仕方を，比較的取り組みやすい題材を用いて実践を通じて習得していく。知的好奇心の旺盛な学生の参加を望む。	1　文献・研究レジュメの書き方 2　輪読などを通じた文献の読み方・報告の仕方 3　ディベート（3 回程度予定） 4　レポート・論文作成の礼儀作法 5　関心のある題材についてのレポート作成（グループでの作業による） 注：以上の５つのテーマはそれぞれ２～４回の講義回数にわたって取り組む。
テキスト、参考文献	**評価方法**
講義のなかで指示，あるいはコピーの配布を行なう。	出席などの平常点，およびレポートによって評価する。

06 年度	基礎演習	担当者	浜本　光紹

講義目的、講義概要	授業計画
大学での学習に必要な基本的能力および方法について習得することを目標とする。 入学したばかりの１年生は，講義の形式，試験，レポート課題などの大学での授業・評価方法に直面すると，高校までの学習の仕方では対応が難しいと感じられたり，とまどったりすることが多いと想像される。この基礎演習では，こうした点を考慮して，初年度から大学の講義および試験に充分対応できるよう，学習を進めるうえで必要な能力や方法を身につけるとともに，2 年次より始まる専門科目の演習も視野に入れて，報告・発表・議論の仕方を，比較的取り組みやすい題材を用いて実践を通じて習得していく。知的好奇心の旺盛な学生の参加を望む。	1　文献・研究レジュメの書き方 2　輪読などを通じた文献の読み方・報告の仕方 3　ディベート（3 回程度を予定） 4　レポート・論文作成の礼儀作法 5　関心のある題材についてのレポート作成（グループでの作業による） 注：以上の５つのテーマはそれぞれ２～４回の講義回数にわたって取り組む。
テキスト、参考文献	**評価方法**
講義のなかで指示，あるいはコピーの配布を行なう。	出席などの平常点，およびレポートによって評価する。

06 年度	基礎演習	担当者	平井　岳哉

講義目的、講義概要	授業計画
大学生としての入門講義と位置づけ、「話す」、「読む」、「書く」のコミュニケーション能力に関する基本的事柄について授業を行います。 一連の作業を行うことによって、今後必要になるプレゼンテーション（自己主張などの発表など）やレポートの作成に関係する知識や技能について習得してほしいと思います。できるだけわかりやすい題材を使って、楽しめる内容にするとともに、受講者の出席を喚起していきたいと考えています。 図書館の利用法についても、機械があったら授業に組み込みたいと思います。	１オリエンテーション ２話す①（グループ討議、救命ボートゲーム） ３話す②（グループ討議、ＫＪ法） ４話す③（グループ討議、ＫＪ法） ５話す④（個人発表、商品売り込みプレゼン） ６話す⑤（交渉） ７話す⑥（ディベート） ８読む、書く①（論旨の要約、見出しつけ） ９読む、書く②（表、グラフの活用） １０読む、書く③（絵からストーリーを書く） １１読む、書く④（長文の感想、自分の主張） １２読む、書く⑤（課題作文）
テキスト、参考文献	**評価方法**
特に指定しない。	期末レポートと出席、それから授業での貢献を重視します。数回のミニレポートも行う予定です。

06 年度	基礎演習	担当者	平井　岳哉

講義目的、講義概要	授業計画
春学期と同じ	春学期と同じ
テキスト、参考文献	**評価方法**
春学期と同じ	春学期と同じ

06 年度	基礎演習	担当者	細田　哲

講義目的、講義概要	授業計画
講義の目的 　右記の授業計画に示したテーマを題材にして、学生諸君が以下の事項をマスターすることを目標とする。 ○　テーマに合致した資料の収集・整理 ○　適格なレポートの作成 ○　プレゼンテーション（口頭発表） 　同時に企業（組織）を考察する場合の次のような基本的事項について理解する。 ○　企業は何を目的としてどのように組織化され、各階層の人々は日々どのような意思決定を行ない、活動しているのか。 ○　企業目標の達成度は、資本市場（投資家）から厳しく評価されている。どのような方法により、企業評価がなされるべきか。 ○　企業は、企業目標達成のため、他企業との競争下、日々革新を迫られている。革新の手法には、どのような方法が存在するのか。	各テーマについて概説する。なお、学生諸君には適宜レポート作成を求める。また、口頭発表の演習を行なう。 １．　はじめに。ライブドア事件とは。 ２．　企業とは。株式会社とは。 ３．　企業と資本市場。 ４．　企業の利害関係者とコーポレート・ガバナンス。 ５．　企業の投資意思決定。 ６．　企業の資金調達意思決定。 ７．　企業の財務リスク管理。 ８．　企業の財務報告。 ９．　企業評価（１）。 １０．　企業評価（２）。 １１．　企業組織再編の手法、事業内容、財務のリストラクチャリング。 １２．　日本企業の経営課題。
テキスト、参考文献	**評価方法**
井手正介、高橋文郎「ゼミナール経営財務入門」（日経）。重要な文献については、適宜、コピーを配布する。	出席状況、レポートの内容、口頭発表を総合的に評価する

06 年度	基礎演習	担当者	細田　哲

講義目的、講義概要	授業計画
春学期と同一である。	春学期と同一である。
テキスト、参考文献	**評価方法**
春学期と同一である。	春学期と同一である。

06 年度	基礎演習	担当者	本田　浩邦

講義目的、講義概要	授業計画
「グローバリゼーションを考える」というテーマで、文献を読み進めます。 今日の世界には政治、経済、社会、文化、宗教などをめぐり実に多くの問題があります。社会科学は個々の分野からそれらの断片を扱いうるにすぎません。しかし、私たちがそれぞれ関心のある問題を掘り下げ、議論することをつうじて、一人では理解できないこと、一人では解決できないことの糸口を見いだすことができるかもしれません。 このゼミでは、できるだけ多くの文献を読むことによって、今日の社会問題についての関心を培いたいと思います。社会問題に関心があり、読書の意欲がある人を歓迎します。	さしあたり以下の文献を輸読します。 ジャン・ジグレール『世界の半分が飢えるのはなぜ？――ジグレール教授がわが子に語る飢餓の真実』合同出版、2003 年 、1680 円
テキスト、参考文献	**評価方法**
	出席、平常点、その他による。

06 年度	基礎演習	担当者	本田　浩邦

講義目的、講義概要	授業計画
「グローバリゼーションを考える」というテーマで、文献を読み進めます。 今日の世界には政治、経済、社会、文化、宗教などをめぐり実に多くの問題があります。社会科学は個々の分野からそれらの断片を扱いうるにすぎません。しかし、私たちがそれぞれ関心のある問題を掘り下げ、議論することをつうじて、一人では理解できないこと、一人では解決できないことの糸口を見いだすことができるかもしれません。 このゼミでは、できるだけ多くの文献を読むことによって、今日の社会問題についての関心を培いたいと思います。社会問題に関心があり、読書の意欲がある人を歓迎します。	さしあたり以下の文献を輸読します。 ジャン・ジグレール『世界の半分が飢えるのはなぜ？――ジグレール教授がわが子に語る飢餓の真実』合同出版、2003 年 、1680 円
テキスト、参考文献	**評価方法**
	出席、平常点、その他による。

06 年度	基礎演習	担当者	益山　光央

講義目的、講義概要	授業計画
経済学をはじめとしてさまざまな学問分野で必要となる基礎的な事柄、あるいは大学生として知っておくべき「常識」を扱います。具体的には経済学の入門書を使って、レポート、発表などの訓練をします。受講生には各自関心のあるテーマでの発表を義務づけます。 　参考文献、資料はそのつど指示します。 毎回出席調査します。	１　　入門 ２　　獨協大学の学習環境 ３　　レポート作成について ４　　発表と議論 ５　　発表と議論 ６　　発表と議論 ７　　発表と議論 ８　　発表と議論 ９　　発表と議論 １０　発表と議論 １１　発表と議論 １２　発表と議論
テキスト、参考文献	**評価方法**
	出席１５％、発表７０％　レポート１５％

06 年度	基礎演習	担当者	益山　光央

講義目的、講義概要	授業計画
経済学をはじめとしてさまざまな学問分野で必要となる基礎的な事柄、あるいは大学生として知っておくべき「常識」を扱います。具体的には経済学の入門書を使って、レポート、発表などの訓練をします。受講生には各自関心のあるテーマでの発表を義務づけます。 　参考文献、資料はそのつど指示します。 毎回出席調査します。	１　　入門 ２　　獨協大学の学習環境 ３　　レポート作成について ４　　発表と議論 ５　　発表と議論 ６　　発表と議論 ７　　発表と議論 ８　　発表と議論 ９　　発表と議論 １０　発表と議論 １１　発表と議論 １２　発表と議論
テキスト、参考文献	**評価方法**
	出席１５％、発表７０％　レポート１５％

06 年度	基礎演習	担当者	御園生　眞

講義目的、講義概要	授業計画
大学での学習・研究の基礎となる、図書館の利用方法、インターネットによる情報検索、新聞・雑誌・専門書の読み方、レポートの作成方法などについて説明し、その習得を目標とする。 （注意） 履修者は必ず第 1 回の授業から出席すること。 授業のマナーを守り遅刻をしない。	1　ガイダンスと序論 2　図書館の利用方法、参考図書の利用 3　図書館の利用方法、蔵書の検索 4　インターネットによる情報検索 5　新聞・雑誌の記事や専門書の読み方 6　（続） 7　（続） 8　レポートの作成方法 9　（続） 10　（続） 11　（続） 12　まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
新聞記事のコピーやプリントなどを使用する。	出席とレポートの提出（数回実施）。 3 回以上欠席した場合は単位が認定されない。

06 年度	基礎演習	担当者	御園生　眞

講義目的、講義概要	授業計画
春学期に同じ。	春学期に同じ。
テキスト、参考文献	**評価方法**
プリントなどを利用する。	出席とレポートの提出（数回実施）。 3 回以上欠席した場合は単位が認定されない。

06 年度	基礎演習	担当者	森　健

講義目的、講義概要	授業計画
この演習の目的は、第一に、これから本格的に経済学を学ぶための準備として、経済学的な考え方とはどういうものであるかを、いくつかの身近な題材を例にとりながら学ぶことにある。第二は、ディベート方式によって、経済的な考え方、論考・議論の進め方、情報収集の仕方、既存の関連する議論の調査（サーベイ）の仕方などを学ぶ。さらにディベートは、仲間を得ることによって、自分だけではなかなか引き出せない自分自身の創造性を実感する機会となることを期待している。第三の目的は、平易な経済学のテキストを使って、初歩的な経済学の理論を学ぶと共に、レジメの作り方、発表の仕方を学ぶ。最後に、論文の書き方、執筆上の決まりを学ぶこととしたい。	1　経済学で何を学ぶか。 2　経済学的な考え方：実例の検証（1） 3　経済学的な考え方：実例の検証（2） 4　ディベートのやり方 5　情報収集の仕方 6　ディベートの実施 7　平易な経済学のテキストのグループ発表訓練。 8　平易な経済学のテキストのグループ発表訓練。 10　平易な経済学のテキストのグループ発表訓練。 11　平易な経済学のテキストのグループ発表訓練。 12　論文の書き方
テキスト、参考文献	**評価方法**
未定	普段点

06 年度	基礎演習	担当者	森　健

講義目的、講義概要	授業計画
この演習の目的は、第一に、これから本格的に経済学を学ぶための準備として、経済学的な考え方とはどういうものであるかを、いくつかの身近な題材を例にとりながら学ぶことにある。第二は、ディベート方式によって、経済的な考え方、論考・議論の進め方、情報収集の仕方、既存の関連する議論の調査（サーベイ）の仕方などを学ぶ。さらにディベートは、仲間を得ることによって、自分だけではなかなか引き出せない自分自身の創造性を実感する機会となることを期待している。第三の目的は、平易な経済学のテキストを使って、初歩的な経済学の理論を学ぶと共に、レジメの作り方、発表の仕方を学ぶ。最後に、論文の書き方、執筆上の決まりを学ぶこととしたい。	1　経済学で何を学ぶか。 2　経済学的な考え方：実例の検証（1） 3　経済学的な考え方：実例の検証（2） 4　ディベートのやり方 5　情報収集の仕方 6　ディベートの実施 7　平易な経済学のテキストのグループ発表訓練。 8　平易な経済学のテキストのグループ発表訓練。 10　平易な経済学のテキストのグループ発表訓練。 11　平易な経済学のテキストのグループ発表訓練。 12　論文の書き方
テキスト、参考文献	**評価方法**
未定	普段点

06 年度	基礎演習	担当者	森永　卓郎

講義目的、講義概要	授業計画
通常の大学の講義のなかでは学べないビジネスマンとして活躍するための技術を学びます。	1．企画書の作り方 2．発想の技術 3．フローチャートの作り方 4．ディベートの仕方 5．営業の方法 6．見積書の作り方 7．プレゼンテーション資料の作成 8．プレゼンテーション
テキスト、参考文献	**評価方法**
必要に応じてプリントを配ります	出席、レポート

06 年度	基礎演習	担当者	森永　卓郎

講義目的、講義概要	授業計画
通常の大学の講義のなかでは学べないビジネスマンとして活躍するための技術を学びます。	1．企画書の作り方 2．発想の技術 3．フローチャートの作り方 4．ディベートの仕方 5．営業の方法 6．見積書の作り方 7．プレゼンテーション資料の作成 8．プレゼンテーション
テキスト、参考文献	**評価方法**
必要に応じてプリントを配ります	出席、レポート

06 年度	基礎演習	担当者	山越　徳

講義目的、講義概要	授業計画
経済学の理論がどのような前提や考え方によって成り立っているのか、またその理論が現実の経済を、またその変化をどの程度捉え、説明しているのか、何が捉えられていないのかを通して、経済学や経済を身近に感ずるとともに、現在の経済における諸問題を共に考え、理解を進めていくことにする。 そのため、講義の最初の頃は、種々の資料やデータを使って、経済学の考え方や理論、経済の大きさや構造について説明していくが途中からは受講生の関心や興味のある問題、疑問に思っていることや理解が不明確な事柄について採り上げて共に議論し学習する方法もとる。なおその対象は限定しない。積極的な取組みを望みたい。	1. 経済学とは：家計、企業、産業、地域社会、国の経営、経済学・経済学の対象など、なおこの時学生の関心事を提出してもらう 2. 経済と理論：現実の経済、理論図式、統計データ、実証分析についてとそれらの関係を事例を挙げて考える。 3. 経済統計データ：統計データとは、分類、時系列とクロスセクション 4. 統計データの見方、読み方 統計の意味するもの 5. 統計学、経済学の文献 基本的文献、古典などについて 6. 以後受講生から出された、テーマや課題、質問等により、議論し考察をすすめていく。 7. 議論しだいでは、その関連について調べてきてもらうよう要請し、その報告で議論していくこともありうる
テキスト、参考文献	**評価方法**
要望があれば受講生と相談の上決めることもありうるが、基本文献リストおよび資料のコピーは配布する	出席のみならず講義、議論への参加およびその内容ならびにレポート等で評価

06 年度	基礎演習	担当者	山越　徳

講義目的、講義概要	授業計画
同上	同上
テキスト、参考文献	**評価方法**
同上	同上

06 年度	基礎演習	担当者	山下　裕歩

講義目的、講義概要	授業計画
「経済学的に考える」といった表現を見聞きすることがしばしばあります。この演習では「経済学的」とはどういうことかを受講生みんなで考えていくことを目的とします。また、経済学的に考える場合と経済学的に考えない場合の相違、優劣などを考えて行きたいと思います。 具体的には、授業計画にあげているテーマについて（受講生との相談で他のテーマを考える場合もあります）受講生全員で考えて行きます。 必ずしも、授業一回で１つのテーマを終わらせるわけではありません。最初の授業は、どういう形式で議論していくかの見本的な講義をしますので受講生は極力出席して下さい。	１．見本講義 ２．人間と動物の違い ３．何のために働くのか ４．今日と明日の違い ５．過去・現在・未来 ６．合理性と非合理性 ７．人と人との相互作用 ８．協力と裏切り ９．偶然と必然 １０．林檎の木の値段
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト：なし	出席、授業での報告・発言により評価する。

06 年度	基礎演習	担当者	山下　裕歩

講義目的、講義概要	授業計画
講義計画にある経済学的テーマについて、受講生全員で考え、討論していきます。第一回目の講義では、その後の授業形式の見本講義を行いますので、極力出席してください。	１．機会の平等と結果の平等 ２．１万円札の「価値」 ３．人間の行動原理 ４．企業の行動原理 ６．正規雇用と非正規雇用 ７．男女間格差 ８．株価の変動 ９．リスクのある社会 １０．能力給と年功賃金
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト：なし	出席、授業での報告・発言により評価する。

06 年度	基礎演習	担当者	山本　美樹子

講義目的、講義概要	授業計画
経済学部に入学した１年生が日本経済、経済学とはどういうものなのかを肌で感じてもらうことを目的とし、新聞、雑誌等で日ごろの日本経済の中で問題となっていることをとりあげ全員で理解する、というゼミナール形式をとる。 その中で各自興味のあるテーマを見つけ、学年末にそのテーマでレポートを提出してもらう。	1. イントロダクション 講義の進め方 2. 前回配布した記事をについて疑問を持ったこと、自分の考えを各自述べていく。 3. 同 4. 同 5. 同 6. 同 7. 同 8. 各自興味をもったことについてレポートを作成するための中間報告(3，4 名) 9. 同 10. 同 11. レポート最終報告 12. レポート最終報告
テキスト、参考文献	**評価方法**
次回までに読んでおく記事を毎回配布する	出席と授業態度、レポート

06 年度	基礎演習	担当者	山本　美樹子

講義目的、講義概要	授業計画
経済学部に入学した１年生が日本経済、経済学とはどういうものなのかを肌で感じてもらうことを目的とし、新聞、雑誌等で日ごろの日本経済の中で問題となっていることをとりあげ全員で理解する、というゼミナール形式をとる。 その中で各自興味のあるテーマを見つけ、学年末にそのテーマでレポートを提出してもらう。	1. イントロダクション 講義の進め方 2. 前回配布した記事をについて疑問を持ったこと、自分の考えを各自述べていく。 3. 同 4. 同 5. 同 6. 同 7. 同 8. 各自興味をもったことについてレポートを作成するための中間報告(3，4 名) 9. 同 10. 同 11. レポート最終報告 12. レポート最終報告
テキスト、参考文献	**評価方法**
次回までに読んでおく記事を毎回配布する	出席と授業態度、レポート

06 年度	基礎演習	担当者	湯田　雅夫

講義目的、講義概要	授業計画
企業の環境経営について学習します。 ① まず、はじめに、皆さん一人一人の日常生活を振り返ってみましょう。 ② 皆さんの日常生活を精査すると、それらは、エネルギー、水、紙、食料などに分類でき、物量で測定することが可能です。 ③ この物量について、「リデュース」「リユーズ」「リサイクル」を実行すれば、お金をかけない地球環境にやさしい生活が実現します。 ④ 企業も上記の活動をより専門的な視点から環境保全活動に取り組んでいます。 ⑤ 大企業や公営企業で実践されている『環境経営』について、学習しましょう。	1. オリエンテーション 本演習の進め方 2. 個別研究テーマの選択 3. 資料の入手方法 インターネットの活用他 4. 入手資料の確認、不足資料の確認 5. レポート作成方法① 6. レポート作成方法② 7. レポート作成方法③ 8. レポート中間報告会① 9. レポート中間報告会② 10. 質問、修正 11. レポート提出日 12. レポートの講評
テキスト、参考文献	**評価方法**
その都度指示します。	レポートと出席状況から総合的に評価します。

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画
テキスト、参考文献	**評価方法**

06 年度	基礎演習	担当者	米山 昌幸

講義目的、講義概要	授業計画
講義の目的 　大学でこれから専門分野の研究を始めるための準備として、主体的な学習姿勢を身に付けて、情報の収集、レジュメやレポートの作成といった、パソコンを使った知的生産の方法を身に付けることが目的です。 講義概要 　大学での学問の心得や方法について理解してもらった後で、パソコンを使用した知的生産の方法を学びます。また専門領域における研究テーマの探し方、レポートや論文の作成方法などについて学びます。また、受講生には実際に各自でテーマを設定して、レポートを作成してもらいます。 　なお、新しい教科書の使用を検討していますが、シラバス原稿を書いている時点でまだ刊行されていませんので、未定です。	1. なぜ大学で学ぶのか 2. 講義ノートの取り方とレジュメの作成 3. レジュメの作成方法と発表の仕方 4. 調査・研究の方法 5. レポート・論文テーマの探し方 6. 先行研究・関連文献の探し方・利用上の注意 7. 経済データ・情報の収集 8. レポート・論文の書き方―論文の目的と構成の方法 9. 図表の作り方・使い方 10. 脚注の付け方と参考文献リストの作成方法 11. プレゼンテーションの技法 12. プレゼンテーションの実習
テキスト、参考文献	**評価方法**
未定。小浜裕久『経済論文の技法―データで語る・データを語る』(日本評論社、2006 年 3 月刊行予定)を予定。	出席状況、報告、およびレポートの総得点によって評価する。毎回必ず講義に出席できる勉学熱心な学生に限る。評価基準は第 1 回目の授業で説明する。

06 年度	基礎演習	担当者	米山 昌幸

講義目的、講義概要	授業計画
講義の目的 　大学でこれから専門分野の研究を始めるための準備として、主体的な学習姿勢を身に付けて、情報の収集、レジュメやレポートの作成といった、パソコンを使った知的生産の方法を身に付けることが目的です。 講義概要 　大学での学問の心得や方法について理解してもらった後で、パソコンを使用した知的生産の方法を学びます。また専門領域における研究テーマの探し方、レポートや論文の作成方法などについて学びます。また、受講生には実際に各自でテーマを設定して、レポートを作成してもらいます。 　なお、新しい教科書の使用を検討していますが、シラバス原稿を書いている時点でまだ刊行されていませんので、未定です。	1. なぜ大学で学ぶのか 2. 講義ノートの取り方とレジュメの作成 3. レジュメの作成方法と発表の仕方 4. 調査・研究の方法 5. レポート・論文テーマの探し方 6. 先行研究・関連文献の探し方・利用上の注意 7. 経済データ・情報の収集 8. レポート・論文の書き方―論文の目的と構成の方法 9. 図表の作り方・使い方 10. 脚注の付け方と参考文献リストの作成方法 11. プレゼンテーションの技法 12. プレゼンテーションの実習
テキスト、参考文献	**評価方法**
未定。小浜裕久『経済論文の技法―データで語る・データを語る』(日本評論社、2006 年 3 月刊行予定)を予定。	出席状況、報告、およびレポートの総得点によって評価する。毎回必ず講義に出席できる勉学熱心な学生に限る。評価基準は第 1 回目の授業で説明する。

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画

テキスト、参考文献	評価方法

06 年度	基礎演習	担当者	和田　智

講義目的、講義概要	授業計画
自分の興味のあるテーマについて、調べ、まとめ、表現するということをコンピュータを利用してできるようになることを目標とします。具体的には、自分の設定したテーマに沿って、コンピュータ上で、情報を収集し、それを自分の実力に応じた方法でまとめ、最終的なレポートとして自分のホームページ上で発表してもらいます。 講義の目標を達成するためのコンピュータの利用方法について学びます。同時に自分のテーマについて調べ、ホームページを完成させていく過程で出てきた内容、技術に関する問題点を全員で話し合い解決していく形式で授業を進めていきます。 小人数のクラスなので、できるだけそのメリットを生かせる形式で授業を行いたいと思います。 ホームページ作成など、コンピュータをこれから積極的に利用したいと思っている学生で、授業の進行に合わせた毎回の宿題を実施する意欲のある学生の受講を望みます。	1　オリエンテーション 2　ホームページ作成のための準備 1 電子メールの利用とホームページの設定 3　ホームページ作成のための準備 2 FTP の利用と P2P 技術 4　インターネット電話の利用 5　オンライン取引について 1 6　オンライン取引について 2 7　掲示板を例にネット利用の現状と問題点 8　ホームページ作成と著作権 9　ホームページの多様な表現方法 10　自分のホームページの発表 1 11　自分のホームページの発表 2 12　まとめ

テキスト、参考文献	評価方法
特になし	出席回数、授業への参加姿勢、毎回の宿題、レポートとしてのホームページの内容

01 年度以降 00 年度以前	経済学 a　（経済学科） 経済学	担当者	倉橋　透

講義目的、講義概要	授業計画
【講義目的】 　皆さんがコンビニでパンを買うところから、政府が不良債権対策を行うところまで、経済学は世の中の実に広い範囲の活動に関係する学問である。その意味で、経済学的な考え方は現代に生きる一人ひとりが身に付けるべきものである。 　本講義は、皆さんが今後経済学を深く勉強していくにあたっての基礎知識を提供し、経済学的な考え方を身に付けてもらうことを目的とする。 【講義内容】 　春学期はミクロ経済学の分野を扱う。 　テキストに沿って講義を行うが、進度は受講者の理解度をみながら調整する。	１．ミクロ経済学とは ２．需要と供給 ３．需要曲線と消費者行動 ４．費用の構造と供給行動 ５．市場取引と資源配分 ６．独占の理論 ７．企業と産業の経済学 ８．市場の失敗と補正 ９．不完全情報の経済学 １０．消費者行動の理論 １１．国際貿易と海外直接投資
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト：伊藤元重『入門　経済学』第 2 版（日本評論社）	レポート及び定期試験による。

01 年度以降 00 年度以前	経済学 b　（経済学科） 経済学	担当者	倉橋　透

講義目的、講義概要	授業計画
【講義目的】 　皆さんがコンビニでパンを買うところから、政府が不良債権対策を行うところまで、経済学は世の中の実に広い範囲の活動に関係する学問である。その意味で、経済学的な考え方は現代に生きる一人ひとりが身に付けるべきものである。 　本講義は、皆さんが今後経済学を深く勉強していくにあたっての基礎知識を提供し、経済学的な考え方を身に付けてもらうことを目的とする。 【講義内容】 　秋学期はマクロ経済学の分野を扱う。 　テキストに沿って講義を行うが、進度は受講者の理解度をみながら調整する。	１．マクロ経済学とは ２．マクロ経済における需要と供給 ３．有効需要と乗数メカニズム ４．貨幣の機能 ５．マクロ経済政策 ６．インフレと失業 ７．財政政策のマクロ分析 ８．経済成長と経済発展 ９．財政・金融政策のメカニズム：ＩＳ－ＬＭ分析 １０．総需要と総供給：物価の決定 １１．国際金融と国際マクロ経済学
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト：伊藤元重『入門　経済学』第 2 版（日本評論社）	レポート及び定期試験による。

01 年度以降 00 年度以前	経済学 b　（経済学科） 経済学	担当者	小林　進

講義目的、講義概要	授業計画
最近は経済学の重要性が増しているにもかかわらず、たとえば多重債務者の増加にみられるように経済学の基礎が十分に理解できていないことが憂慮されるので、１年生を対象にしたこの講義では特に経済理論の必要性を十分に理解できるように講義を進める。また身近な経済の話題を通じて経済学への関心を高めたい。	最初の講義のときにプリントを配布 （マクロ経済学を中心にして講義）
テキスト、参考文献	**評価方法**
使用しない。参考文献は講義の中で指示する。	学期末試験

01 年度以降 00 年度以前	経済学 a　（経済学科） 経済学	担当者	小林　進

講義目的、講義概要	授業計画
最近は経済学の重要性が増しているにもかかわらず、たとえば多重債務者の増加にみられるように経済学の基礎が十分に理解できていないことが憂慮されるので、１年生を対象にしたこの講義では特に経済理論の必要性を十分に理解できるように講義を進める。また身近な経済の話題を通じて経済学への関心を高めたい。	最初の講義のときにプリントを配布 （ミクロ経済学を中心にして講義）
テキスト、参考文献	**評価方法**
使用しない。参考文献は講義の中で指示する。	学期末試験

01 年度以降 00 年度以前	経済学 a　（経済学科） 経済学	担当者	野村　容康

講義目的、講義概要	授業計画
講義概要　経済学を初めて学ぶ学生を対象に、現代経済学の基礎的な理論について概説する。前期は、家計と企業に代表される個別経済主体の行動分析に焦点を当て(ミクロ経済分析)、後期は、一国経済全体の視点から国民所得決定の理論、財政･金融政策等について議論する(マクロ経済分析)。 **講義目的**　身の回りの様々な経済現象がどのように経済理論によって説明されるかを自分なりに考察できるようにするため、まずは経済学の基礎的な「文法」と「用語」を習得することが本講義の目的である。	１．　経済学の目的と方法 ２．　家計の行動① ３．　家計の行動② ４．　家計の行動③ ５．　企業の行動① ６．　企業の行動② ７．　企業の行動③ ８．　不完全競争の理論 ９．　市場の理論① １０．　市場の理論② １１．　厚生経済学の基本定理 １２．　市場の失敗
テキスト、参考文献	**評価方法**
特に指定しない。参考文献については、初回の講義にて指示する。	原則として試験の成績で評価する。 出席を考慮する場合もある。

01 年度以降 00 年度以前	経済学 b　（経済学科） 経済学	担当者	野村　容康

講義目的、講義概要	授業計画
講義概要　経済学を初めて学ぶ学生を対象に、現代経済学の基礎的な理論について概説する。前期は、家計と企業に代表される個別経済主体の行動分析に焦点を当て(ミクロ経済分析)、後期は、一国経済全体の視点から国民所得決定の理論、財政･金融政策等について議論する(マクロ経済分析)。 **講義目的**　身の回りの様々な経済現象がどのように経済理論によって説明されるかを自分なりに考察できるようにするため、まずは経済学の基礎的な「文法」と「用語」を習得することが本講義の目的である。	１．　マクロ経済学の体系 ２．　国民所得の諸概念 ３．　消費と貯蓄の理論 ４．　投資の理論 ５．　国民所得決定の理論 ６．　生産物市場の分析 ７．　金融市場の分析 ８．　IS-LM 分析 ９．　インフレとデフレ １０．　財政赤字と日本経済 １１．　開放マクロ経済 １２．　まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
特に指定しない。参考文献については、初回の講義にて指示する。	原則として試験の成績で評価する。 出席を考慮する場合もある。

01 年度以降 00 年度以前	経済学 a　（経済学科） 経済学	担当者	浜本　光紹

講義目的、講義概要	授業計画
本講義では，現実の経済の仕組みを理解し，理論的に考察するうえで必要な分析道具であるマクロ経済学およびミクロ経済学の基礎を習得し，経済理論を用いながら現実の経済問題の本質的要因を探り処方箋を考える力を養うことを目標とする。 経済学 a では，国民所得の決定メカニズムおよびマクロ経済における家計・企業・政府の各部門の関係について解説する。	1　経済学という学問について 2　マクロ経済学の課題について 3　家計の消費・貯蓄行動 4　企業の投資行動 5　企業の資金調達と株価市場 6　貨幣と経済活動 7　マクロ経済モデル
テキスト、参考文献	**評価方法**
福田・照山『マクロ経済学・入門』有斐閣	定期試験の結果に出席状況を加味して評価する。

01 年度以降 00 年度以前	経済学 b　（経済学科） 経済学	担当者	浜本　光紹

講義目的、講義概要	授業計画
経済学 b では，経済学 a の講義内容を踏まえて，マクロ経済政策の効果や失業問題，および為替レートの決定メカニズムなどについて解説する。続いて，ミクロ経済学を取り上げ，需要と供給および経済厚生について解説し，規制緩和や環境税などの経済政策・公共政策の基礎理論について講義を行なう。 受講を希望する学生は，経済学 a を既習であることが望ましい。	1　マクロ経済政策 2　労働市場と失業 3　開放マクロ経済 4　ミクロ経済学の課題について 5　需要曲線と供給曲線 6　社会的余剰の考え方 7　競争市場と独占 8　市場の失敗と公共政策 9　環境政策の理論と実際
テキスト、参考文献	**評価方法**
経済学 a で用いたものを引き続き使用するほか，ミクロ経済学についてはプリントを配布する予定である。	定期試験の結果に出席状況を加味して評価する。

01 年度以降 00 年度以前	経済学 a　（経済学科） 経済学	担当者	森永　卓郎

講義目的、講義概要	授業計画
経済学の最も基礎的な理論を実体経済とのつながりを考慮しながら学びます。ここでは、経済学全体の体系とミクロ経済学を中心に講義を行います。	1．経済学とニューエコノミー 2．経済学的な考え方 3．取引と貿易 4．需要・供給と価格 5．需要・供給分析の応用 6．不完全市場入門
テキスト、参考文献	**評価方法**
スティグリッツ「入門経済学」東洋経済新報社	試験

01 年度以降 00 年度以前	経済学 b　（経済学科） 経済学	担当者	森永　卓郎

講義目的、講義概要	授業計画
経済学の最も基礎的な理論を実体経済とのつながりを考慮しながら学びます。ここでは、マクロ経済学を中心に講義を行います。	1．公共部門 2．マクロ経済学と完全雇用 3．経済成長 4．失業とマクロ経済学 5．インフレーションとデフレーション
テキスト、参考文献	**評価方法**
スティグリッツ「入門経済学」東洋経済新報社	試験

01 年度以降 00 年度以前	統計学 a 統計学	担当者	清田　秀憲

講義目的、講義概要	授業計画
統計学は理学、工学、経済学、医学、社会学など色々な分野で応用されている。この講座では統計学の基礎的な概念を学習して、それをどのように応用するかを学ぶ。 春学期では確立、確立分布などを学習する。	1．統計的方法 1-1　母集団と標本 1-2　記述統計と推測統計 2．標本データの整理 2-1　データの整理 2-2　平均とばらつき 3．確立 3-1　順列と組み合わせ 3-2　事象と標本空間 4．確立分布 4-1　確率変数と確立分布 4-2　確率分布の平均と分散 5．いろいろな確立分布 （2項、ポアソン、一様、正規など）
テキスト、参考文献	**評価方法**
本田 勝 著『基本統計学』産業図書 （統計用）電卓を各自用意すること	出席、レポート、試験による

01 年度以降 00 年度以前	統計学 b 統計学	担当者	清田　秀憲

講義目的、講義概要	授業計画
春学期につづいて、この学期では応用を目的とした項目を学習する。特に推定、検定の具体的な問題を処理する。	1．標本分布 （中心極限定理、2項分布の正規近似　χ^2分布） 2．推定 （母平均の推定、母分散の推定） 3．仮説検定 （母平均の検定、母平均の差の検定） 4．相関係数 5．χ^2検定
テキスト、参考文献	**評価方法**
本田 勝 著『基本統計学』産業図書 （統計用）電卓を各自用意すること	出席、レポート、試験による

01 年度以降 00 年度以前	統計学 a 統計学	担当者	冨田　幸弘

講義目的、講義概要	授業計画
近代統計学の手法は、品質管理、種々の調査、実験データの処理などを通じて広く社会一般に受け入れられ、経済学や経営学を含む諸科学にも多くの貢献をしてきている。特に、近年のコンピュータの発達は、データの取り扱いと統計的方法への接近を容易にしてきている。こうしたことから、統計学の背景にある科学的方法としての理論の枠組みとその重要さを十分に理解し、応用力を身につけることを目標としている。 その内容は、以下のとおりである。 （1）データの整理 （2）確率分布	1　統計学とは、評価・受講上の注意など 2　データの整理（1）位置の尺度・散布の尺度 3　データの整理（2）度数分布表・ヒストグラム 4　データの整理（3）各種のグラフ・指数 5　データの整理（4）簡便法 6　データの整理（5）相関係数・回帰直線 7　データの整理（6）計算演習とまとめ 8　確率・順列と組合せ・二項定理 9　確率分布（1）二項分布・漸化式 １０　確率分布（2）正規分布・標準化 １１　確率分布（3）その他の確率分布 １２　確率分布の計算演習とまとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
参考文献などは、必要に応じて紹介する。	定期試験の結果により評価する。 出席状況・レポートなども考慮する。

01 年度以降 00 年度以前	統計学 b 統計学	担当者	冨田　幸弘

講義目的、講義概要	授業計画
近代統計学の手法は、品質管理、種々の調査、実験データの処理などを通じて広く社会一般に受け入れられ、経済学や経営学を含む諸科学にも多くの貢献をしてきている。特に、近年のコンピュータの発達は、データの取り扱いと統計的方法への接近を容易にしてきている。こうしたことから、統計学の背景にある科学的方法としての理論の枠組みとその重要さを十分に理解し、応用力を身につけることを目標としている。 その内容は、以下のとおりである。 （1）統計的推定 （2）統計的仮説検定	1　春学期の復習、評価・受講上の注意など 2　母集団と標本・標本調査・中心極限定理 3　統計的推定（1）平均 4　統計的推定（2）比率 5　統計的仮説検定（1）概説 6　統計的仮説検定（2）平均 7　統計的仮説検定（3）等分散 8　統計的仮説検定（4）比率 9　統計的仮説検定（5）分割表 １０　統計的仮説検定（6）その他検定 １１　統計的仮説検定（7）推定と検定のまとめ １２　統計学のまとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
参考文献などは、必要に応じて紹介する。	定期試験の結果により評価する。 出席状況・レポートなども考慮する。

01 年度以降 00 年度以前	統計学 a 統計学	担当者	松井　敬

講義目的、講義概要	授業計画
近代統計学の手法は、品質管理、種々の調査、実験データの処理などを通じて広く社会一般に受け入れられ、経済学、経営学を含む諸科学に大きく貢献してきた。近年は、コンピュータなどのデータ処理システムの発展もあって、人間活動のあらゆる分野で広く利用されている。本講義は、統計学の基礎的な概念と方法について正確な知識と応用能力を身につけることを目的とする。統計学は現実への応用に大きく関わった学問なので、出来るだけ具体的な問題を意識し、適宜計算演習をまじえながら進めてゆく。 内容は記述的な統計から現代統計学の枠組み、データの得られるメカニズム（モデル）などである。 試験問題は講義中の演習問題が中心になるので、普段からキチンと出席し、テーマ毎に理解しておくことが大切である。	1．統計学とはどんな学問か、なぜ統計学を学ぶのか。ほかに授業の進め方、方針。 2．統計的な見方、考え方とは。データを測定する尺度。 3．データを記述するための尺度の意味と特徴、計算など。 4．探索的なデータ解析の方法と考え方。 5．２つの変数間の関連性を説明する尺度について。 6．２つの変数間の "線型" な関係を調べる。回帰直線。 7．確率―統計と確率の接点。確率の基本的な考え方。 8．データの得られるしくみ。データとそのモデル（分布）。 9．現代統計学の枠組み―母集団と標本。 10. 離散型の分布―二項分布，ポアソン分布など。 11. 連続型の分布―正規分布の意味と特徴など。 12. 正規分布とその周辺の事柄について。春学期のまとめ。
テキスト、参考文献	**評価方法**
池田、松井、冨田、馬場著『統計学』―データから現実をさぐる、内田老鶴圃。	期末の試験と出席による。

01 年度以降 00 年度以前	統計学 b 統計学	担当者	松井　敬

講義目的、講義概要	授業計画
本講義では、統計的応用のための様々な手法の意味や考え方を説明する。データは実験、観察、調査など社会の様々な場から得られるが、データの処理にはその背景にある諸条件を勘案しつつ、適切な統計的方法を選択する必要がある。その際に留意すべき点や問題となる点を明確にしながら説明してゆきたい。 取り扱うのは推定、検定、ノンパラメトリック法などで、それぞれの方法が、どのような考え方で組み立てられているかを詳説したい。また、統計的概念の理解は、実際にデータに対峙し、計算を行うことで（データ処理によって）深まってゆくので、随時演習を行い、各手法がより十分に理解されるようにしたい。例題や演習問題には積極的に取り組んでいただきたい。	1．データ解析の考え方―母集団と標本の枠組み、統計的推測について。 2．統計的推定―点推定、最尤推定、標本分布など。 3．比率と母平均の推定、推定量の意味、性質、比較。 4．区間推定。サンプルの大きさを決める方法。 5．統計的仮説検定の考え方。 6．比率の検定―考え方と定式化。１標本と２標本。 7．正規分布の母平均の検定など。 8．２×２分割表の考え方と方法。ｒ×ｃ表。 9．適合度検定。 10. ノンパラメトリックな方法。符号検定など。 11. 順位にもとづく検定など。 12. 統計的推測：統計的方法の枠組みと様々な手法の関連を再考する。秋学期のまとめ。
テキスト、参考文献	**評価方法**
池田、松井、冨田、馬場著『統計学』―データから現実をさぐる、内田老鶴圃。	期末の試験と出席による。

01 年度以降 00 年度以前	コンピュータ入門 a 情報処理概論	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
この講義では，大学でのレポート作成やゼミでのプレゼンテーションにおいて必要となるワードプロセッサ，表計算ソフト，プレゼンテーションソフトの基本的な使い方を，Microsoft Office を使用した実習により身につけることを目的とします．また，リレーショナルデータベースと呼ばれる，大規模なデータ管理の際に使用されるデータの作成についても扱います． 注） この講義は複数の教員により行われるため，各テーマが取り扱われる順序や時間配分については，担当教員によって異なることがあります．	1. 授業の進め方について 2. ネットワークの利用および ID の管理について 3. ワードプロセッサの使用法 1－文章の作成，各種書式の設定 4. ワードプロセッサの使用法 2－図形描画，表の作成，数式の入力 5. 表計算ソフトの使用法 1－表の入力，グラフの作成 6. 表計算ソフトの使用法 2－関数を用いた計算 7. 表計算ソフトの使用法 3－マクロを用いた計算 8. プレゼンテーションソフトの使用法 1－スライドの作成，プレゼンテーション方法 9. プレゼンテーションソフトの使用法 2－アニメーションの設定 10. データベースの作成 1－ソフトの概要とデータの入力方法 11. データベースの作成 2－データの関連付け，検索 12. 授業のまとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
各担当教員が授業時間内に指定するテキスト，参考文献を使用してください．	各担当教員の指定する評価方法に従ってください．

01 年度以降 00 年度以前	コンピュータ入門 b 情報処理概論	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
コンピュータを用いて作業を行う際には，市販のアプリケーションソフトを使用するだけではなく，コンピュータプログラムを作成し，既存のソフトでは出来ないことを実行させることも可能です．プログラムを作成するには，プログラム言語の文法を覚えることに加えて，「アルゴリズム」と呼ばれる，コンピュータに問題を解決させる手順について考えることが必要になります． この講義では，Java，C 言語，Visual Basic などのコンピュータ言語の一つを使用して，プログラム作成の基礎を学びます．使用する言語は担当教員ごとに異なりますが，各種の言語を用いたプログラム法を学び，基礎的な問題解決の手順をプログラムで表現できるようになることを目指します．	1. 授業の進め方について 2. コンピュータ言語の文法 1－使用言語の特徴とプログラムの作成方法 3. コンピュータ言語の文法 2－変数と配列，演算式 4. コンピュータ言語の文法 3－条件分岐，繰り返し 5. コンピュータ言語の文法 4－関数，ファイル処理 6. アルゴリズム 1－ソート 7. アルゴリズム 2－数値計算法 8. アルゴリズム 3－乱数を用いた計算 9. 基礎的な問題のプログラム作成 1（各担当教員が指定した問題を，数回の講義に分けて作成します） 10. 基礎的な問題のプログラム作成 2 11. 基礎的な問題のプログラム作成 3 12. 授業のまとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
各担当教員が授業時間内に指定するテキスト，参考文献を使用してください．	各担当教員の指定する評価方法に従ってください．

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画

テキスト、参考文献	評価方法

01 年度以降	プレゼンテーション技法	担当者	富澤　儀一

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的 プレゼンテーションの基本と、新しい時代の最新技術をふまえた「デジタル・プレゼンテーション」の資料作成と発表を実践する。 **講義概要** 次の 3 項目を主軸として、プレゼンテーションの基本を学んだ上で各自が、発表を行う。 （1）日本式と欧米式の発表方法を融合し、効果的な標準手法を学習する。 （2）プレゼンテーションの基本技法とパソコン・液晶プロジェクタとを組み合わせ、最適なデジタル・プレゼンテーションを提示する。 （3）デジタル・プレゼンテーション計画、デザイン、発表の 3 つを組み合わせ、プレゼンテーションの生産性、効率の向上を目指す。 **学習態度・目標** プレゼンテーションは「伝えたいこと」が相手に伝わることである。プレゼンテーションには「発表」のほかに「送呈」の意味がある。相手にプレゼントするような気持ちで発表するに他ならない。相手の立場に立って発表するように練度を高めて発表しよう。	１．ガイダンス ２．プレゼンテーションの進め方 ３．デジタル・プレゼンテーション ４．発表題目（1）：自己紹介の発表資料作成 ５．発表：自己紹介（第 1 回） ６．発表：自己紹介（第 2 回） ７．発表題目（2）：次の題目から 1 問選択して、発表資料の作成を行う。（第 1 回） （1）パン屋の戦略 （2）ローンの返済 （3）PID による水面制御 （4）ロトカボルテラの捕食モデル ８．発表資料の作成（第 2 回） ９．発表資料の作成（第 3 回） １０．発表（第 1 回） １１．発表（第 2 回） １２．発表（第 3 回） １３．再発表（不合格者に対して）

テキスト、参考文献	評価方法
授業の資料は、「¥¥dainet¥tomizawa」に格納するので、授業前に印刷する。	出席（授業数の 2/3 以上の出席が必要）、授業中の演習、期末テスト

01 年度以降 00 年度以前	経営学 a　（経済学科） 経営学	担当者	岡部　康弘

講義目的、講義概要	授業計画
経営学は、かなり幅広い学問領域を含んでいる。主たるものでも、戦略論、組織論、組織行動論、人的資源論、国際経営論等がある。本講座はこれらの領域を浅く広くカバーする。講義方法は、チョーク・アンド・トークではなく、奇数回はＰＰＴを使いなるべくわかり易く企業の実例をあげて理論の説明をする。偶数回は理論を使いケース分析をグループで討論し、プレゼンテーションを行う。	１．　モチベーション ２．　公平じゃない ３．　リーダーシップ ４．　メトロバンク ５．　経営分析モデル ６．　SWOT, PPM, PESTLE ７．　コミュニケーション ８．　何も知らされなかったセイウチ ９．　グローバル化 １０．　シティバンク １１．　国家間の文化の違い １２．　フランスのディズニー
テキスト、参考文献	**評価方法**
特になし。毎回講義資料を配布する。	出席、試験、レポートによる。

01 年度以降 00 年度以前	経営学 b　（経済学科） 経営学	担当者	岡部　康弘

講義目的、講義概要	授業計画
経営学は、かなり幅広い学問領域を含んでいる。主たるものでも、戦略論、組織論、組織行動論、人的資源論、国際経営論等がある。本講座はこれらの領域を浅く広くカバーする。講義方法は、チョーク・アンド・トークではなく、奇数回はＰＰＴを使いなるべくわかり易く企業の実例をあげて理論の説明をする。偶数回は理論を使いケース分析をグループで討論し、プレゼンテーションを行う。	１．　国際企業の組織構造 ２．　ユニリバーの組織変革 ３．　意思決定 ４．　ジョンソン＆ジョンソン ５．　パワーとポリティクス ６．　GM のパルマ工場 ７．　紛争・対立 ８．　アメリカン航空のトラブル ９．　企業文化 １０．　モトローラーの高い業績の企業風土は維持できたか １１．　人的資源管理 １２．　アムコの人材育成
テキスト、参考文献	**評価方法**
特になし。毎回講義資料を配布する。	出席、試験、レポートによる。

01 年以降 00 年以前	簿記原理 a 簿記原理	担当者	井出　健二郎

講義目的、講義概要	授業計画
黒字だ、赤字だ、と新聞で見たことがあるかも。バイト先の店長も、「アッ―、利益だ損だ」ということもあるでしょう。こうした言葉は、実は『簿記』からできた言葉なのです。 簿記は皆さんの将来にも関係しています。学部を問わず、『資格』は強い味方になります。簿記に関する資格は日本商工会議所の主催する検定試験が定評あります。さらに、公認会計士や税理士など独立開業して活躍できるものもあれば、国税専門官など公務員として、あるいは米国会計士として海外で活躍することもできることになります。 講義はまったくの初心者を対象としていきます。大学でも一つくらいは資格をなぁ―、というきっかけでも結構です。まずは簿記の基礎の基礎から入っていくことにします。 また、外国語学部・法学部などの他学部の方にも無理なく簿記がわかるようになり、資格に結びつくよう講義したいと思っています。	1　講義にあたってのイントロダクション 2　簿記とは何ですか 3　簿記の手続　　仕訳 4　簿記の手続　　仕訳 5　簿記の手続　　転記 6　簿記の手続　　試算表 7　簿記の手続　　貸借対照表 8　簿記の手続　　損益計算書 9　簿記の手続　　精算表 10　個別の処理　現金預金 11　個別の処理　商品売買 12　まとめ

テキスト、参考文献	評価方法
開講時に指定します。	出席 50%、試験等 40%、その他 10%

01 年以降 00 年以前	簿記原理 b 簿記原理	担当者	井出　健二郎

講義目的、講義概要	授業計画
日本商工会議所簿記検定 3 級試験をクリアできるような内容を扱っていきます。当然のことながら、簿記原理 a での理解が前提となります。 ということは、講義をすると同時に、問題等をできる限りといていくということになります。	1　講義にあたってのイントロダクション 2　個別の取引　掛取引 3　個別の取引　売買目的有価証券 4　個別の取引　固定資産 5　個別の取引　貸倒れ 6　個別の取引　減価償却 7　個別の取引　手形 8　個別の取引　その他の債権・債務 9　個別の取引　決算整理事項 10　個別の取引　精算表 11　個別の処理　伝票の処理 12　まとめ

テキスト、参考文献	評価方法
開講時に指定します。	出席 50%、試験等 40%、その他 10%

01 年度以降 00 年度以前	簿記原理 a 簿記原理	担当者	内倉　滋

講義目的、講義概要	授業計画
企業会計は、しばしば「事業の言語」であると言われる。言葉にはすべて文法があるように、企業会計という１つの言語にも「文法」に相当するものがある。「簿記原理」という科目は、いわば、その企業会計の「文法」に相当するものの基本的部分を純粋に形式的に解明していく分野であると言うことができよう。 会計という言語は、今日では１つの世界共通語である。それゆえその「文法」に相当するものの中身もまた、基本的には共通的なものであろう。本講義では、そうした共通的な中身のうちの、とりわけ‘最大公約数’の部分だけを、丹念に議論していきたいと考えている。そのうち「簿記原理 a」では、‘決算整理’を含まない、「分記法」を前提とした「簿記一巡の手続き」までの内容を取り扱うこととなる。	1 企業の財政状態と貸借対照表……簿記の目的；資本；貸借対照表の内容 2 企業の経営成績と損益計算書……簿記の第２目的の達成方法；損益計算書等式（損益計算書） 3 取引と取引の分解……期首B/S と「取引」記録からのB/S・P/L の作成；「取引」記録のルール 4 仕訳帳と総勘定元帳その１：「仕訳」……設例による説明 5 その２：「勘定口座」……その必要性；勘定口座の形式；勘定口座への記入ルール 6 その３：「仕訳帳と元帳」……仕訳帳；元帳(形式、「仕丁」欄、「摘要」欄、「相手勘定科目」) 7 試算表と精算表その１：「試算表」……決算について；合計試算表；残高試算表；合計残高試算表 8 試算表と精算表その２：「精算表」……仮設例の提示（次回と共通）；精算表の原理 9 「勘定の振替え」という技法について……定義；具体例による説明 10 決算手続その１：純損益の振替……決算の第１の目的（＝資本金勘定を正しい値に修正） 11 決算手続その２：帳簿の締切りと繰越試算表……財務諸表の作成を含む 12 総復習……同形式の問題により、期末試験の予行演習
テキスト、参考文献	**評価方法**
① 中村泰將 編著、『演習 現代簿記』(中央経済社)。 ② 現代会計教育研究会 編、『簿記練習帳 ３級商業簿記』(多賀出版)。	評価の中心は期末試験の結果である。その際には、相対評価を基本とし、絶対評価を加味したい。

01 年度以降 00 年度以前	簿記原理 b 簿記原理	担当者	内倉　滋

講義目的、講義概要	授業計画
「簿記原理 a」の知識を前提としてこの「簿記原理 b」では、「商品３分法」や各種の「決算整理」といったディテールを内容的に付け加えていき、‘会計言語’の文法の中身を、より実際の会計実践に近い形のものに深化させていくこととしたい。	1 現金と預金・有価証券……当座借越･有価証券の評価の問題を含む 2 商品の３分法その１……設例の提示；“修正された”分記法；３分法 3 商品の３分法その２……値引・返品の処理；諸経費の処理 4 仕入と売上の記帳その１……帳簿の種類；仕入帳・売上帳；掛け売買の記帳（貸倒れの問題含む） 5 仕入と売上の記帳その２：商品有高帳……その必要性・位置付け；移動平均法と先入先出法 6 貸倒引当金繰入と貸倒引当金……貸倒れの見越しの意義；原理；償却債権の取立て 7 受取手形と支払手形……手形の種類；簿記上の勘定と処理；手形の裏書譲渡；手形記入帳 8 有形固定資産……固定資産の記帳；減価償却（意義、毎期の減価償却費、売却時の処理） 9 その他の債権債務・資本金と引出金……その他の債権・債務の処理；個人企業の資本の記帳 10 収益・費用の見越しと繰延べ……設例の提示；収益・費用の繰延べ；収益・費用の見越し 11 決算整理項目と決算整理仕訳･振替仕訳……８桁精算表の作成を含む 12 総復習……同形式の問題により、期末試験の予行演習
テキスト、参考文献	**評価方法**
「簿記原理 a」と同様。	「簿記原理 a」と同様。

01 年度以降 00 年度以前	簿記原理 a 簿記原理	担当者	金井　繁雅

講義目的、講義概要	授業計画
複式簿記の計算原理を探究することに主眼を置き、商企業の経済活動つまり取引を正確に記録・計算・整理する能力を身につけることを目的とする。 複式簿記の原理および計算構造を学び、複式簿記の一連の手続を習得し、商企業の日常取引の記帳処理と決算処理を理解してもらう。まず、資産、負債、資本、収益および費用という５つの概念とその相互関係、資本等式や貸借対照表等式を解説し、資本をストックとして捉えて利益を計算する財産法と資本をフローとして捉えて利益を計算する損益法の計算原理を理解してもらう。さらに、簿記の対象である取引を分解し、仕訳帳に記入し、それを総勘定元帳に転記し、決算において試算表を作成し、その記録の正確性を検証し、精算表を作成し、決算本手続である帳簿決算の手続を経て、損益計算書や貸借対照表などの財務諸表を作成するという簿記手続の全体像を把握してもらう。	①　簿記の意義と目的 ②　資産・負債・資本の諸概念 ③　収益・費用の諸概念 ④　財産法と損益法 ⑤　取引と勘定記入 ⑥　仕訳と転記 ⑦　試算表と精算表 ⑧　帳簿決算手続 ⑨　現金・預金の会計処理 ⑩　売買目的有価証券の会計処理 ⑪　商品勘定の３分法 ⑫　仕入帳と売上帳
テキスト、参考文献	**評価方法**
中村泰將 編著『演習 現代簿記』 中央経済社	定期試験の結果に出席率を加味して、総合的に成績評価を行う。

01 年度以降 00 年度以前	簿記原理 b 簿記原理	担当者	金井　繁雅

講義目的、講義概要	授業計画
本講義では、基本的な簿記手続の一巡の理解を前提として、企業の複雑な日常取引の会計処理の理解を目的とするとともに、種々の計算表の作成にも習熟してもらうこととする。 ここでは、財産法(ストック計算)や損益法(フロー計算)とよばれている複式簿記の計算構造を再確認しながら、各勘定科目毎に詳細な検討を加えていくことにする。具体的には、企業の日常の諸取引の仕訳を通して種々の会計処理を概説し、それを総勘定元帳へ転記していく主要簿の流れとともに、各勘定科目の詳細を記録する補助元帳や補助記入帳などの補助簿の流れも検討することにする。また、初級簿記の完全な理解のために、複雑な試算表や精算表の作成に多くの時間を取ることにしたい。 簿記は数多くの練習問題を繰り返し解くという勉学態度が要求されるので、講義の前半では、各項目のポイントを説明し、後半で練習問題を解答するという形式で講義を進めることとする。	①　商品勘定の３分法 ②　仕入帳・売上帳・商品有高帳 ③　得意先元帳と仕入先元帳 ④　手形取引の記帳 ⑤　その他の債権・債務について ⑥　貸倒れと貸倒引当金 ⑦　固定資産と減価償却 ⑧　資本金と引出金 ⑨　収益と費用の見越・繰延 ⑩　試算表の作成と伝票会計 ⑪　８桁精算表の作成 ⑫　財務諸表の作成
テキスト、参考文献	**評価方法**
中村泰將 編著　『演習現代簿記』　中央経済社	定期試験の結果に出席率を加味して総合的に成績評価を行う

01 年度以降 00 年度以前	簿記原理 a 簿記原理	担当者	千葉　啓司

講義目的、講義概要	授業計画
講義の目的 　簿記は、企業が行う経済活動を記録する手段であり、最終的に企業が一年間の活動の結果、どれだけ利益を上げたか、またいかなる財政状態にあるかを計算し、表示するための基礎資料を提供する。簿記が企業のどのような経済活動を記録の対象としているか、そしてどのように記録するのか。これには一定の規則があり、この規則は簿記をコンピュータ化するときにも非常に役に立っている。これらの規則のうち基本的なものを習得することが本講義の目的である。 講義概要 　まず、現在企業において広く使われている簿記の全体的な仕組み、体系について解説を加える。つぎに取引の記録の目的および基本原則、取引記録の集計および決算の意味を概説する。そして企業が行う一般的な取引のうち、現金・預金に関する取引および商品売買に関する取引を取り上げ、その取引の仕組みと簿記における記録の仕方について説明する。	1　簿記の意義、役割、体系 2　簿記における記録の対象と記録方法 3　仕訳と勘定 4　記録の集計 5　決算の意味と方法 6　勘定の体系 7　現金・預金の取引とその記録１ 　現金と現金出納帳 8　現金・預金の取引とその記録２ 　小切手と当座預金、当座借越 9　商品売買取引とその記録１ 　分記法、総記法、三分法、掛取引 10　商品売買取引とその記録２ 　仕入帳、商品有高帳 11　商品売買取引とその記録３ 　売上原価の算定 12　まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
百瀬房徳著『体系複式簿記』森山書店 加古宜士監修『段階式日商簿記ワークブック 3 級商業簿記』税務経理協会	ほぼ毎回行う予定の練習問題、出席状況と期末試験によって成績を総合的に評価する。

01 年度以降 00 年度以前	簿記原理 b 簿記原理	担当者	千葉　啓司

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的 　本講義の目的は 2 つある。1 つ目は簿記原理 a の知識を前提に、より多くの企業の取引およびその記録方法を習得することである。これらを習得することで簿記の記録の規則をより正確に理解することができるようになる。 　2 つ目は、簿記の最終的な目的ともいえる決算について学習することである。決算についての正しい理解を得て初めて簿記の体系を理解することができる。 講義概要 　まず、簿記原理 a の知識を呼び戻すべく、復習の講義をする。つぎに簿記の基本を理解するために不可欠といえる各種の取引の記録方法について解説を加える。その後、決算の意義、手続きについて詳細な説明を行っていくことにする。	1　簿記原理 a の復習 2　手形取引とその記録１ 　約束手形と為替手形 3　手形取引とその記録 　手形の裏書と手形の売却 4　その他の債権債務取引とその記録１ 　前払い金・前受金、未収金・未払金 　商品券、貸付金・借入金 5　その他の債権債務取引とその記録２ 　立替金・預り金、仮払金・仮受金 6　引当金 　引当金の意義・種類、貸倒引当金 7　有価証券の取引とその記録１ 　有価証券の分類、取得、売却、評価 8　固定資産の取引とその記録 　固定資産の取得、減価償却 9　資本取引とその記録 　個人事業の資本、株式会社の資本 10　決算１　決算整理仕訳のまとめ 　収益・費用の整理 11　決算２　試算表・財産目録の作成 12　決算３　精算表の作成
テキスト、参考文献	**評価方法**
百瀬房徳著『体系複式簿記』森山書店 加古宜士監修『段階式日商簿記ワークブック 3 級商業簿記』税務経理協会	ほぼ毎回行う予定の練習問題、出席状況と期末試験によって成績を総合的に評価する。

01 年度以降 00 年度以前	簿記原理 a 簿記原理	担当者	中村　泰將

講義目的、講義概要	授業計画
授業目的： 　コンピュータの発達により、計算技術と記憶能力は急速に高まり、また正確な計算も可能になった。しかし、経済活動を理路整然と記録し、計算する技術と原理は、コンピュータに取って代わることはできない。なぜならば、コンピュータにインプットするデータは、簿記の技術と原理から生み出され、人間が考えなければならないからである。 　本講座の目的は、企業の利益を計算したり、財産の有高を計算したりする、記録と計算のシステムを学ぶことである。 授業概要： 　春学期は、簿記の基本原理を学び、簿記の一連のプロセス[経済活動の識別→仕訳→勘定→試算表→(精算表)→決算→B/S と P/L の作成]を学ぶことである。これを「簿記のワン・サイクル」とよぶ。ここまでが簿記の基本的構造である。	1. 簿記とは何か。 2. 複式簿記の基本構造 3. 簿記上の取引と種類 4. 貸借対照表と損益計算書 5. 勘定 6. 仕訳 7. 仕訳帳と総勘定元帳 8. 試算表 9. 精算表 10. 決算(1) 11. 決算(2) 12. 現金と当座預金
テキスト、参考文献	**評価方法**
中村泰將編著『演習　現代簿記』中央経済社	出席・宿題・小テスト（20%）、定期試験(80%)

01 年度以降 00 年度以前	簿記原理 b 簿記原理	担当者	中村　泰將

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的：春学期と同様。 講義概要： 　秋学期は、春学期で学んだ「簿記の記録と計算の原理」を基礎に、種々の新しい勘定科目が登場してくるので、それらをどのように各種の帳簿に記録し、計算するかを学ぶである。	1. 商品の仕入・管理・販売の処理 (1)商品の売買利益の計算 (2)商品の 3 分法 (3)商品有高帳の作成 (4)仕入帳と売上帳 2. 有価証券の処理 3. 固定資産の処理 4. その他の債権・債務 5. 手形の取引 6. 資本金と引出金の処理 7. 決算の修正手続き(1) 8. 〃 (2) 9. 〃 (3) 10. 8 桁精算表の作成(1) 11. 〃 (2) 12. 演習問題 (3)
テキスト、参考文献	**評価方法**
中村泰將編著『演習　現代簿記』中央経済社	春学期と同じ

01 年以降 00 年以前	簿記原理 a 簿記原理	担当者	細田　哲

講義目的、講義概要	授業計画
講義の目標 「複式簿記」の基本的仕組み、簿記一巡の手続きについて理解すること。また企業における基本的な取引について記帳し、決算手続きを遂行し、損益計算書、貸借対照表作成ができるようになることを目標とする。 講義概要 春学期講義は、学生諸君が複式簿記を理解し、簡単な精算表の作成、決算本手続を遂行できるようにすることを目的とする。講義の個々のテーマを列挙すると、次の通りである。 ・ 複式簿記とは ・ 簿記の仕組み ・ 試算表と精算表 ・ 決算(Ⅰ)	1.1.複式簿記とは(1)　a)簿記の目的と種類 2.1.複式簿記とは(2)　b)複式簿記の計算要素 3.2.簿記の仕組み(1) a)取引と勘定、b)勘定記入法 4.2.簿記の仕組み(2) a)取引と勘定、b)勘定記入法 5.2.簿記の仕組み(3) c)仕訳と転記、d)仕訳帳と総勘定元帳 6.2.簿記の仕組み(4) c)仕訳と転記、d)仕訳帳と総勘定元帳 7.3.試算表と精算表(1) a)試算表の作成、b)精算表の作成 8.3.試算表と精算表(2) a)試算表の作成、b)精算表の作成. 9.4.決算(Ⅰ)(1)　a)決算の意味と手続 10.4.決算(Ⅰ) (2)　b)大陸式決算法、c)英米式決算法 11.4.決算(Ⅰ) (3)　b)大陸式決算法、c)英米式決算法 12.4.決算(Ⅰ)(4) d)損益計算書と貸借対照表の作成、e)開始記入
テキスト、参考文献	**評価方法**
中村泰将（編著）「講座　現代簿記」（中央経済社）	期末試験の結果による。

01 年以降 00 年以前	簿記原理 b 簿記原理	担当者	細田　哲

講義目的、講義概要	授業計画
秋学期講義は、学生諸君が次の事項を容易に遂行できるようにすることを目的とする。個々の取引に対する記帳、8桁精算表の作成、決算本手続の遂行、損益計算書と貸借対照表の作成である。講義の個々のテーマを列挙すると、次の通りである。 ・ 現金・預金取引の記帳 ・ 商品売買取引の記帳 ・ 手形取引の記帳 ・ その他の取引の記帳 ・ 決算(Ⅱ)決算整理 ・ 損益計算書と貸借対照表の作成	1.5.現金･預金取引の記帳 2.6.商品売買取引の記帳(1)　a)分記法、3 分法 3.6.商品売買取引の記帳(2) b)仕入帳と売上帳、c)商品有高帳 4.6.商品売買取引の記帳(3)　b)仕入帳と売上帳、 c)商品有高帳、d)掛取引の記帳 5.7.手形取引の記帳(1)　a)約束手形と為替手形、 b)受取手形勘定と支払手形勘定、 c)手形の裏書と割引 6.7.手形取引の記帳(2) a)受取手形記入帳と支払手形記入帳 b)不渡手形、f) 手形貸付金と手形借入金 7.8.その他の取引の記帳 a)その他の債権、債務取引、b)有価証券取引 c)固定資産取引、d)営業費等の取引 8.9.決算(Ⅱ)決算整理(1) a)決算整理の意味、b)棚卸減耗損及び商品評価損 9.9.決算(Ⅱ)決算整理(2) c)有価証券評価損、d)固定資産の減価償却 10.9.決算(Ⅱ)決算整理(3) e)費用・収益の繰延と見越、f)８桁精算表の作成 11.9.決算(Ⅱ)決算整理(4) e)費用・収益の繰延と見越、f)８桁精算表の作成 12.損益計算書と貸借対照表の作成
テキスト、参考文献	**評価方法**
中村泰将（編著）「講座　現代簿記」（中央経済社）	期末試験の結果による。

01 年度以降 00 年度以前	簿記原理 a 簿記原理	担当者	松本　安司

講義目的、講義概要	授業計画
近年，会計の知識があれば理解しやすいだろうニュースが増えているように，会計に対するニーズは高まっていると思われます。 簿記は会計を理解するための基礎知識であり，簿記を理解していれば，将来会計理論を学習した際，理解が容易になります。 この講義では，日本商工会議所簿記検定 3 級の範囲を対象にします。しかし，その知識が 3 級検定のみに留まることなく，将来 2 級以上や会計学を学習するときに役立つように講義するつもりです。 ですから受講する皆さんも，結果だけを覚えるのではなく，「なぜそうなるのか」を常に念頭に　置いて受講してください。 また，簿記は定期試験前にまとめて勉強するには非常に不向きな科目ですので，授業に出席し問題を解いて理解するという 1 週間の繰り返しを欠かさないようにしてください。	1. 貸借対照表 2. 損益計算書 3. 仕訳と転記 4. 商品売買（1） 5. 商品売買（2） 6. 現金・預金 7. 売掛金・買掛金 8. その他の債権・債務（1） 9. その他の債権・債務（2） 10. 手形（1） 11. 手形（2） 12. 試算表・精算表
テキスト、参考文献	**評価方法**
『段階式日商簿記 3 級商業簿記』, 『段階式ワークブック日商簿記 3 級商業簿記』 2 冊とも　加古宜士・穐山幹夫監修，税務経理協会	定期試験 7 割　課題提出 3 割

01 年度以降 00 年度以前	簿記原理 b 簿記原理	担当者	松本　安司

講義目的、講義概要	授業計画
簿記原理 a では主として実際の取引について学習しますが，簿記原理 b では，主として財務諸表を作成するための作業（試算表の作成や決算整理手続）について学習します。 抽象的な話が多くなり，また集中力が要求されることも多くなってきます。 授業を理解するだけでなく練習することが，前期よりもよりいっそう重要になります。 また簿記原理 b は，簿記原理 a の知識がなければ試験で良い点が取れるということはあり得ないので，夏期休暇中に簿記原理 a の復習をしておくことはもちろんのこと，忘れていたことがあるたびに復習をしておいてください。	1. 試算表・精算表 2. 決算整理 3. 貸倒損失と貸倒引当金 4. 有価証券 5. 固定資産（1） 6. 固定資産（2） 7. 費用収益の繰延 8. 費用収益の見越し 9. 資本と税金 10. 試算表の作成（1） 11. 試算表の作成（2） 12. 精算表の作成
テキスト、参考文献	**評価方法**
『段階式日商簿記 3 級商業簿記』, 『段階式ワークブック日商簿記 3 級商業簿記』 2 冊とも　加古宜士・穐山幹夫監修，税務経理協会	定期試験 7 割　課題提出 3 割

01 年度以降 00 年度以前	簿記原理 a 簿記原理	担当者	百瀬　房徳

講義目的、講義概要	授業計画
簿記原理では、複式簿記を内包した簿記を取り上げる。この簿記を商業簿記と称する。複式簿記は、取引の借方と貸方による仕訳に基づき勘定に分解し、元帳における勘定へ転記し、このシステムを通じて、事業の資産、負債および資本の増減を測定する。この勘定システムと事業体の組織に関連して、各勘定の意義および機能と、各勘定の具体的な処理について基本的な理解を深める。	1　複式簿記の現代における意義 2　複式簿記の体系および簿記における取引とは何か 3　仕訳の基本的原理および取引勘定への転記 4　補助簿への記入および試算表の作成 5　精算表の作成原理および損益勘定と残高勘定への転記 6　取引パターン別の仕訳例の説明 7　パターン別に仕訳された例の勘定への転記 8　例題による取引の仕訳および勘定への転記 9　例題による精算表の作成および決済に際しての損益勘定および残高勘定の完成 10　練習問題 取引の仕訳帳記入および仕訳帳から元帳への転記 11　練習問題 試算表の作成および精算表の作成 12　練習問題 元帳の締め切りによる損益勘定および残高勘定の完成、および試算表および精算表の作成
テキスト、参考文献	**評価方法**
百瀬 房徳「体系複式簿記」森山書店	テスト

01 年度以降 00 年度以前	簿記原理 b 簿記原理	担当者	百瀬　房徳

講義目的、講義概要	授業計画
複式簿記の基本的勘定システムを理解した後、各勘定について、勘定とそれに関連する補助簿の記入を具体的に理解する。そして、最終的に決算制度に関連して、試算表および精算表の作成を通じて、損益勘定から損益計算表を、残高勘定（大陸法）から貸借対照表を作成するプロセスを理解する。	1　現金勘定と現金出納帳 2　当座預金と当座預金出納帳、および小口現金と小口現金出納帳 3　商品勘定の記入方法 単純な商品勘定、混合商品勘定および商品勘定の分割 4　仕入勘定と仕入帳、商品の仕入価格および商品の返品と値引き 5　売上勘定と売上帳 6　繰越商品勘定と商品有高帳、および棚卸減耗損および商品評価損 7　売掛金勘定と得意先元帳、および買掛金勘定と仕入先元帳 8　受取手形勘定と受取手形記入帳、および支払手形勘定と支払手形記入帳 9　その他の債権・債務の諸勘定、有価証券勘定 10　固定資産の諸勘定 特に減価償却による処理 11　決算前の諸勘定の整理について 12　決算 勘定の締め切り、損益勘定および残高勘定（大陸法）の完成、および８桁精算表の作成
テキスト、参考文献	**評価方法**
百瀬 房徳「体系複式簿記」森山書店	テスト

01 年度以降 00 年度以前	簿記原理 a 簿記原理	担当者	湯田　雅夫

講義目的、講義概要	授業計画
本講義は、受講生全員が日本商工会議所検定 3 級の実力を修得するよう、初級簿記の原理と技法を懇切丁寧に解説する。 複式簿記の基礎的な原理と技法を修得させることを主眼として、講義と記帳・計算練習を並行して行う。 受講生は、授業の進歩度に応じて教科書の練習問題について、記帳練習を重ねる必要がある。	1. イントロダクション： 講義概要ならびに授業の進め方 2. 簿記の歴史 3. 第 1 章　簿記の意義と目的； 第 2 章　資産・負債・資本と貸借対照表 4. 第 2 章　東京商会の事例解説； 第 3 章　収益・費用と損益計算書 5. 第 4 章　取引；第 5 章　勘定 6. 第 6 章　仕訳と転記 7. 第 7 章　帳簿 8. 第 8 章　簿記一巡の手続き 9. 第 9 章　現金預金 10. 第 10 章　商品売買 11. 第 10 章　商品売買 12. 第 11 章　有価証券 第 12 章　売掛金と買掛金
テキスト、参考文献	**評価方法**
上田・小川・渋谷・湯田『演習　商業簿記入門』 中央経済社	期末試験と授業中に行う小テスト、出席状況から総合的に評価する。

01 年度以降 00 年度以前	簿記原理 b 簿記原理	担当者	湯田　雅夫

講義目的、講義概要	授業計画
本講義は、受講生全員が日本商工会議所検定 3 級の実力を修得するよう、初級簿記の原理と技法を懇切丁寧に解説する。 複式簿記の基礎的な原理と技法を完全に修得させることを主眼として、講義と記帳・計算練習を並行して行う。 受講生は、授業の進歩度に応じて教科書の練習問題について、記帳練習を重ねる必要がある。	1. 第 13 章　その他の債権・債務 2. 第 14 章　手形 3. 第 15 章　貸倒れと貸倒引当金 4. 第 16 章　固定資産；第 17 章　資本金と引出金 5. 第 18 章　収益・費用の繰延と見越 6. 第 19 章　決算予備手続 7. 第 19 章　決算予備手続 8. 第 20 章　例題解説 9. 第 20 章　決算本手続 10. 第 20 章　決算本手続 11. 総合問題 12. 本講義の結びとして、 「簿記学習の継続」の必要性を指摘。
テキスト、参考文献	**評価方法**
上田・小川・渋谷・湯田『演習　商業簿記入門』 中央経済社	期末試験と授業中に行う小テスト、出席状況から総合的に評価する。

01 年以降 00 年以前	数学 a 数学	担当者	高木　悟

講義目的、講義概要	授業計画
経済・経営学を学ぶ上で，線形代数（行列など）や解析（微積分など）の知識が必要になることが多々ある．この講義では，線形代数として主に，行列の計算や連立１次方程式の解法について解説する．実践力をつけるため，講義だけでなく問題演習の時間をとり，各自問題を解いてもらう．また，理解度をはかるために課題や宿題を出すこともある．問題演習中は机間巡視をするので，授業中に理解できなかった点や解き方がわからない点などを質問するとよい．なお，「経営数学ａ」では線形代数の知識を利用した応用問題を多く扱うので，興味があれば受講するとよい．この講義で得た知識を活用し，実際の経済・経営学の問題を解決できるようになることを望む．	１．ガイダンス ２．行列の定義 ３．行列の演算 ４．行列と連立１次方程式 ５．行列の基本変形 ６．簡約な行列 ７．連立１次方程式の解法 ８．正則行列 ９．行列式の定義 １０．行列式の性質 １１．クラーメルの公式 １２．経済・経営学への応用
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキストは特に指定しない．参考書は授業中に紹介する．	授業中の課題・宿題・出席，学期末のレポートにより総合的に評価する．

01 年以降 00 年以前	数学 b 数学	担当者	高木　悟

講義目的、講義概要	授業計画
経済・経営学を学ぶ上で，線形代数（行列など）や解析（微積分など）の知識が必要になることが多々ある．この講義では，解析として主に，関数と極限，微分，偏微分，グラフ描画や極値について解説する．実践力をつけるため，講義だけでなく問題演習の時間をとり，各自問題を解いてもらう．また，理解度をはかるために課題や宿題を出すこともある．問題演習中は机間巡視をするので，授業中に理解できなかった点や解き方がわからない点などを質問するとよい．なお，「経営数学ｂ」では解析の知識を利用した応用問題を多く扱うので，興味があれば受講するとよい．この講義で得た知識を活用し，実際の経済・経営学の問題を解決できるようになることを望む．	１．ガイダンス ２．多項式関数・有理関数 ３．逆関数・無理関数 ４．指数関数・対数関数 ５．極限と微分の定義 ６．微分演習 ７．グラフ描画と極値 ８．多変数関数の微分（偏微分） ９．偏微分演習 １０．多変数関数の極値 １１．条件付き極値 １２．経済・経営学への応用
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキストは特に指定しない．参考書は授業中に紹介する．	授業中の課題・宿題・出席，学期末のレポートにより総合的に評価する．

01 年度以降 00 年度以前	高齢化社会論 a 高齢化社会論	担当者	奥山　正司

講義目的、講義概要	授業計画
講義概要 半年間を通して、人口高齢化がもたらす社会的インパクトや老年期における高齢者の社会生活の変化及び老人福祉、老後保障の動向などについて学ぶ。 前半では、人口高齢化、寿命、健康寿命、エイジズム、家族、居住形態、ライフ・サイクル、就業など高齢者の客観的な生活の様相についての側面から講義し、高齢（化）社会の全体像を明らかにする。	1. 授業の進め方と授業の内容について 2. ジェロントロジィと 離脱理論、活動理論 3. 人口高齢化と高齢化社会・エイジング（加齢、Aging）平均余命、長寿社会、エイジズム等について 4. 高齢者と家族、老親子の居住形態を、縦断的、横断的に比較する 5. ライフ・サイクル、家族周期と老年期 6. ライフ・サイクルの過程及び高齢者の生きかたについて、戦前と戦後との比較 7. 高齢者と生計をとりまく経済状況はどのような状況か。 8. 高齢者世帯の所得水準、高齢者世帯の所得構造、高齢者世帯消費水準などについて。 9. 高齢者と就業・雇用について、高齢者の就業意向とその現実、高年齢雇用を概説する
テキスト、参考文献	**評価方法**
小笠原祐次・橋本泰子・浅野仁編『高齢者福祉』（新版）有斐閣	出席、レポート、試験による総合評価

01 年度以降 00 年度以前	高齢化社会論 b 高齢化社会論	担当者	奥山　正司

講義目的、講義概要	授業計画
講義概要 半年間を通して、老人福祉、老後保障の動向などについて学ぶ。 人口高齢化、寿命、健康寿命、長寿社会、エイジズム、家族、居住形態、ライフ・サイクル、就業など高齢者の客観的な生活の様相について学んだことを基礎にして、後半では、老人福祉、老後保障，介護保険などの側面について講義し、高齢（化）社会の全体像を明らかにする。	1.在宅福祉及び施設福祉 ゴールドプラン，新ゴールドプラン、ゴールドプラン２１とはどのような計画か。特別養護老人ホーム、養護老人ホーム、軽費老人ホーム、有料老人ホーム、ケア付き集合住宅などの整備状況 2.高齢者と介護保険制度 介護保険法の制度と保険料の地域格差、及び利用者がどのような問題をかかえているのか等。 高齢者及び高齢化対策と社会保障、財政支出 老後保障の柱となるのは公的年金である。その歴史と現状、将来にむけての問題点とは何か。 3.諸外国の高齢者対策 福祉先進国といわれるスエーデン、デンマーク、イギリス、その対極にあるアメリカの高齢者対策の状況について。
テキスト、参考文献	**評価方法**
小笠原祐次・橋本泰子・浅野仁編『高齢者福祉』（新版）有斐閣	出席、レポート、試験による総合評価

03 年度以降 02 年度以前	精神衛生論 a 精神衛生論	担当者	中野　隆史

講義目的、講義概要	授業計画
現代の社会では心の健康に関連するできごとが大きな問題となっている。とくに長引く経済不況下で中高年の自殺が増加し、自殺者は年間２万人から３万人へと激増したままである。精神衛生（=精神保健=メンタルヘルス）の知識は現代を生きる上で不可欠である。本講義では精神保健と精神医学の基本的な知識を身につけることによって、自己を理解し、自身の学生生活とその後の人生を豊かにし、友人・家族など身近な人、職場の同僚や部下に対する援助のできる社会人を育成することを目標とする。 精神保健の概念とその実践の対象から講義を始める。次いで精神保健の理解に必要な精神医学の基本的知識を学ぶ。これらを踏まえて、ライフサイクルから見た精神保健すなわち各ライフステージにおける発達課題とその障害について考えていく。講義全体を通して、自分の身の回りの実例やマスメディアの報道などを精神保健の視点からとらえ、これらの事例に関する討論を通じて精神保健の知識と理解を深めてゆく。	1 オリエンテーション 精神衛生（=精神保健）を学ぶ意味 2 精神保健の実践の対象―健常者の精神の健康管理、精神保健不全者への対応、精神障害に対する社会的偏見 3 精神医学の基本的知識（1） 精神障害の概念・成因・分類 4 精神医学の基本的知識（2）心因性精神障害 神経症（不安障害など）、心因反応（PTSD など） 5 精神医学の基本的知識（3）内因性精神障害 うつ病（気分障害）、統合失調症 6 精神医学の基本的知識（4）精神科の治療 薬物療法、精神療法、精神科リハビリテーション 7 ライフサイクルから見た精神保健（1）乳幼児期 基本的信頼感、分離個体化、精神遅滞、広範性発達障害 8 ライフサイクルから見た精神保健（2）児童期 社会化、注意欠陥/多動障害(ADHD) 9 ライフサイクルから見た精神保健（3）思春期・青年期 自我同一性、モラトリアム、不登校、統合失調症 10 ライフサイクルから見た精神保健（4）成人期 職場不適応、ストレス反応、うつ病、自殺 11 ライフサイクルから見た精神保健（5）老年期 老化、喪失体験、うつ病、痴呆（ｱﾙﾂﾊｲﾏｰ病など） 12 まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキストはとくに指定しない。必要に応じてレジュメを配布する。参考文献は講義の際に紹介する。	試験の成績による。

03 年度以降 02 年度以前	精神衛生論 b 精神衛生論	担当者	中野　隆史

講義目的、講義概要	授業計画
精神保健（=メンタルヘルス）や精神障害の問題は一部の特別な人だけのものではない。現代のストレスフルな社会（虐待、いじめ、リストラ‥‥）では誰もが必ず関わることがある問題である。「明日はわが身」である。本講義では健常者の精神的健康の維持増進のためのストレス対処法やメンタルヘルス不全者への対応などの基本的な知識を身につけることによって、自己を理解し、自身の学生生活とその後の人生を豊かにし、友人・家族など身近な人、職場の同僚や部下に対する援助のできる社会人を育成することを目標とする。 精神衛生論 a を踏まえて、それぞれの生活の場から見た精神保健を考えていく。さらに、精神障害の予防と精神の健康管理（精神的健康の保持増進）、わが国の精神科医療の現状について学ぶ。講義全体を通して、自分の身の回りの実例やマスメディアの報道などを精神保健の視点からとらえ、これらの事例に関する討論を通じて精神保健の知識と理解を深めてゆく。	1 生活の場から見た精神保健（1）家族の精神保健 夫婦関係、親子関係、育児不安、育児支援 2 生活の場から見た精神保健（2）学校の精神保健（1） 小中高校―学校精神保健、スクールカウンセラー 3 生活の場から見た精神保健（3）学校の精神保健（2） 大学―保健センター、摂食障害、統合失調症、うつ病 4 生活の場から見た精神保健（4）職場の精神保健（1） 労働安全衛生法、産業精神保健 5 生活の場から見た精神保健（5）職場の精神保健（2） メンタルヘルスケア、産業保健サービスシステム、 6 生活の場から見た精神保健（6）地域の精神保健 地域リハビリテーション、社会復帰のための社会資源 7 わが国の精神科医療の現状 入院治療中心から通院治療中心へ 8 精神障害の予防と健康管理（1） 心の健康づくり、ストレスとその対処法 9 精神障害の予防と健康管理（2） 専門機関、専門家 10 精神障害の予防と健康管理（3） 医療システム、保健システム、福祉システム 11 精神障害の予防と健康管理（4） 再発予防、復職システム 12 まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキストはとくに指定しない。必要に応じてレジュメを配布する。参考文献は講義の際に紹介する。	試験の成績による。

01 年度以降 00 年度以前	医療・福祉概論 a 医療・福祉概論	担当者	藤井　賢一郎

講義目的、講義概要	授業計画
平成 18 年度政府予算案では、社会保障関係費は約 20.6 兆円で、一般会計約 46.4 兆円の 44.4%にのぼっている。少子高齢化が進み、人口減少社会に突入する中で、年金、医療、介護などの社会保障関係費はますますわが国にとって重い負担となりつつある。 春学期の講義の目的は、少子高齢化を迎えるわが国の人口学的特性、負担と給付のあり方を探ると共、年金制度を理解し、若い学生諸君に、今後の社会保障制度のあり方、将来の社会のあり方を議論してもらうことである。また、実生活にも役立つ知識を身につけることも目指している。 ※ほぼ毎回、学生同士の簡単な議論や、意見発表を行う型式で授業を進める。	1　ガイダンス 2　少子高齢化・人口減少の人口学的理解（1） 3　少子高齢化・人口減少の人口学的理解（2） 4　社会保障の国際比較（1） 5　社会保障の国際比較（2） 6　社会保障の国際比較（3） 7　税と社会保険料／負担と給付 8　年金制度（1）制度改革のゆくえ 9　年金制度（1）基礎理解 10　年金制度（2）制度改正の行方 11　年金制度（3） 12　厚生行政とレントシーキング（薬害エイズ問題を素材として） ※選択希望者は、第１回目に、必ず出席すること。第１回目に欠席すると、単位取得に大きな支障がある。 授業ＨＰ参照のこと http://homepage2.nifty.com/fujiken_0330/dokkyo_uni_h15/
テキスト、参考文献	**評価方法**
特になし	期末定期試験による。ただし、授業中の発言回数を勘案する（第１回目の授業で説明するので、必ず出席すること）

01 年度以降 00 年度以前	医療・福祉概論 b 医療・福祉概論	担当者	藤井　賢一郎

講義目的、講義概要	授業計画
病院や診療所を使用したことがない人は、まず存在しないが、医療サービスがどのような仕組みで提供され、どのように費用負担されているかを知る人は少ない。また、親の介護や自分の介護を気にかける人は少なくないが、介護保険制度について理解している人は多くない。 高齢化が進む中で、費用負担の面から、医療保険制度も介護保険制度をどのように維持していくかが問われる中で、一般国民が制度の仕組みを理解していないため、国民の側にたった議論が行われていないのが現状である。 秋学期の講義の目的は、少子高齢化を迎えるわが国の医療制度、介護保険制度を理解し、若い学生諸君に、今後の社会保障制度のあり方、将来の社会のあり方を議論してもらうことである。また、実生活にも役立つ知識を身につけることも目指している。 ※ほぼ毎回、学生同士の簡単な議論や、意見発表を行う型式で授業を進める。	1　ガイダンス 2　医療保険の仕組み（1）（ＴＶＣＭの民間保険に加入する必要があるの？） 3　医療保険の仕組み（2）（あなたの入っている保険はなに？） 4　医療保険の仕組み（3）（病院にかかるとどのくらい払う必要があるの？） 5　わが国の医療の課題（1） 6　わが国の医療の課題（2） 7　わが国の医療の課題（3） 8　医療制度のまとめ 9　介護保険制度（1）（介護保険制度の概要） 10　介護保険制度（2）（要介護認定とケアマネジメント） 11　介護保険制度（3）（サービスの内容） 12　秋学期のまとめ ※選択希望者は、第１回目に、必ず出席すること。第１回目に欠席すると、単位取得に大きな支障がある。 授業ＨＰ参照のこと http://homepage2.nifty.com/fujiken_0330/dokkyo_uni_h15/
テキスト、参考文献	**評価方法**
藤井賢一郎監修「介護保険制度とは」東京都社会福祉協議会	期末定期試験による。ただし、授業中の発言回数を勘案する（第１回目の授業で説明するので、必ず出席すること）

01 年度以降 00 年度以前	現代文化論 a 現代文化論	担当者	柴崎　信三

講義目的、講義概要	授業計画
「文明」を意味する civilization が「市民」という言葉とかかわっているのに対し、「文化」を意味する culture はその語源として「農耕」と深くかかわっている。このことはわれわれの暮らしを取り巻く文化が、グローバル化する世界と地域や民族などローカルな価値とのせめぎ合いのなかで生成・発展していることの証でもあろう。 この春学期の授業では２０世紀のグローバリゼーションを導いた米国の覇権とそれに伴う文化的影響力の功罪を、歴史をたどりながら見て行きたい。ここで取り上げる「文化」の素材は、通常われわれが念頭に浮かべる芸術や伝統的な表現、ライフスタイルなどにとどまらず、広くその社会システムや価値観、モラルなどに及ぶ幅広い領域にわたる。大英帝国をはじめ、過去の歴史のなかで世界的な覇権をふるった「帝国」のパワーとの対比のなかで、米国のいわゆる「ソフトパワー」の優位性がどのように形成されていったのか。またイラク戦争の経緯をはじめ、その覇権の陰りは世界にとって何を意味するのか。 ビジネスや国際関係、消費市場などを支えるルールの普遍化という視点からも、文化モデルとしての米国の功罪を掘り下げて考えてみたい。	1　はじめに 2　「帝国」の様式 3　米国型民主主義の誕生 4　フランクリン型人間像 5　フォーディズム 6　大量消費社会の光と影 7　Social　capital 8　市場原理とビジネス倫理 9　ベトナム戦争と米国の正義 10　ハリウッドと大衆文化 11　冷戦後から 9/11 へ 12　まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
各回、資料を提供する。佐伯啓思『新「帝国」アメリカを解剖する』（ちくま新書）などを参考文献とする。	定時試験の成績に平常の授業で課すリポートの実績を勘案して評価する。

01 年度以降 00 年度以前	現代文化論 b 現代文化論	担当者	柴崎　信三

講義目的、講義概要	授業計画
日本は古来、中国大陸という大きな文明に接する列島としてその深い影響を受けてきた。アジアの先頭を切って近代国家に生まれ変わり、欧米列強に対抗するなかで大国となってゆく歩みには、その地政学的な条件が刻印されている。欧米とアジアを結ぶ経済大国となり、グローバリズムの渦に置かれた現在においても、その基礎条件を足場にした「日本モデル」は世界に対しビジネスや大衆文化など幅広い領域で独特の影響力を広げている。 １９世紀末から２０世紀はじめにかけて欧米社会に広がった「ジャポニスム」が西欧と異なる文化の発見だったのならば、「脱亜入欧」をスローガンにした日本の近代化と戦後の「日本型システム」の成功は普遍的な経済システムにおける異文化の発見ということもできる。 秋学期のこの授業では「日本」をモデルにして文化における「普遍」と「特殊」の関係を考えたい。集団主義や終身雇用制度など欧米の競争システムとは異質に見える社会の仕組みや、アニメーション、ファッションなど大衆文化の世界的な評価の意味を考えるなかで、ローカルな価値とグローバリズムをつなぐ文化の鍵を探りたい。	1　はじめに 2　脱亜入欧とジャポニスム 3　日本型システム 4　集団主義と天皇制 5　アメリカニズムの受容 6　ものつくりの優位性 7　高度成長と総中流社会 8　日本礼賛と日本たたき 9　日本的経営 10　信頼の構造 11　Japanese　cool 12　まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
各回、資料を提供する。夏目漱石『三四郎』（新潮文庫）荒井一博『文化の経済学』（文春新書）などを参考文献とする。	定時試験の成績に平常授業で行うリポートの実績を勘案して評価する。

01 年以降 00 年以前	経済外国語Ｉa・経営外国語Ｉa 経済外国語・経営外国語	担当者	青木　雅明

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的 経済学の基本的な英文が読めるようになってもらいます。 講義概要 　下記テキストの１章を用い、①音読、②専門用語および基本となる事実と理論の解説、③日本語訳の作成、④訳文の講評、⑤その他を行う翻訳教室です。 　毎回、配布したテキストと中型英和辞書を必ず持参してください。	最初の授業時に説明します。
テキスト、参考文献	**評価方法**
Stiglits,J.E.（1997）“Economics 2nd Edition”,W.W.Norton	翻訳文、出席・遅刻による。欠席 4 回を超えると単位権を喪失します。（遅刻 2 回で欠席 1 回の扱い）

01 年以降 00 年以前	経済外国語Ｉb・経営外国語Ｉb 経済外国語・経営外国語	担当者	青木　雅明

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的 経済学の基本的な英文が読めるようになってもらいます。 講義概要 　下記テキストの１章を用い、①音読、②専門用語および基本となる事実と理論の解説、③日本語訳の作成、④訳文の講評、⑤その他を行う翻訳教室です。 　毎回、配布したテキストと中型英和辞書を必ず持参してください。	最初の授業時に説明します。
テキスト、参考文献	**評価方法**
Stiglits,J.E.（1997）“Economics 2nd Edition”,W.W.Norton	翻訳文、出席・遅刻による。欠席 4 回を超えると単位権を喪失します。（遅刻 2 回で欠席 1 回の扱い）

01 年度以降 00 年度以前	経済外国語Ｉa・経営外国語Ｉa 経済外国語・経営外国語	担当者	有吉　秀樹

講義目的、講義概要	授業計画
本講義では、マーケティング戦略の外国文献の抜粋を輪読する。この分野の読解は、単語の表面的な意味を直訳するだけでは困難であり、その背景となっている経営に関する諸問題を理解する必要がある。英文読解力と経営学に関する基礎知識の両方を体得してもらえれば幸いである。	1.　オリエンテーション 2～3.　Marketing: An Overview 4～5.　Marketing Management 6～7.　Selecting and Evaluating Target Markets 8～9.　Marketing Research and Information Systems 10～11.　Analyzing Buyer Behavior 12.　まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
適宜プリント配布する	出席状況と期末試験により総合的に評価する

01 年度以降 00 年度以前	経済外国語Ｉb・経営外国語Ｉb 経済外国語・経営外国語	担当者	有吉　秀樹

講義目的、講義概要	授業計画
本講義では、マーケティング戦略の外国文献の抜粋を輪読する。この分野の読解は、単語の表面的な意味を直訳するだけでは困難であり、その背景となっている経営に関する諸問題を理解する必要がある。英文読解力と経営学に関する基礎知識の両方を体得してもらえれば幸いである。	1～2.　Product and Price Decisions 3～4.　Pricing 5～6.　Promotion: An Overview 7～8.　Advertising and Publicity 9～11.　International Marketing 12.　まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
適宜プリントを配布する	出席状況と期末試験により総合的に評価する

01 年度以降 00 年度以前	経済外国語Ｉａ・経営外国語Ｉａ 経済外国語・経営外国語	担当者	伊藤　爲一郎

講義目的、講義概要	授業計画
経済ニュースや論文を読んで読解力・専門用語の理解等を高めることを目標とします。 受講者は予習をして参加し、内容を理解しておくことを希望します。 教材を受講者が輪読する形で進めます。	
テキスト、参考文献	**評価方法**
開講時にプリントを配布します。	平常点と期末試験の成績を加味して評価します。

01 年度以降 00 年度以前	経済外国語Ｉｂ・経営外国語Ｉｂ 経済外国語・経営外国語	担当者	伊藤　爲一郎

講義目的、講義概要	授業計画
経済ニュースや論文を読んで読解力・専門用語の理解等を高めることを目標とします。 受講者は予習をして参加し、内容を理解しておくことを希望します。 教材を受講者が輪読する形で進めます。	
テキスト、参考文献	**評価方法**
開講時にプリントを配布します。	平常点と期末試験の成績を加味して評価します。

01 年度以降 00 年度以前	経済外国語Ｉａ・経営外国語Ｉａ 経済外国語・経営外国語	担当者	岡部　康弘

講義目的、講義概要	授業計画
経済・経営系の英語に慣れることを目的とする。題材として、春学期は日経ウィークリーのような日本の経済時事問題を英語で書かれている雑誌を使う。	
テキスト、参考文献	**評価方法**
毎回資料を配布する。	出席と試験による。

01 年度以降 00 年度以前	経済外国語Ｉｂ・経営外国語Ｉｂ 経済外国語・経営外国語	担当者	岡部　康弘

講義目的、講義概要	授業計画
経済経営系の記事・論文を早く正確に読める能力の育成をはかる。経済経営系のボキャブラリーを増加し、アングロ・アメリカン的論理の運び方を学ぶ。題材として学術誌と大衆誌の中間的なもの、例えばEconomist などを使う予定である。	
テキスト、参考文献	**評価方法**
毎回資料を配布する。	出席と試験による。

01 年度以降 00 年度以前	経済外国語Ｉａ・経営外国語Ｉａ 経済外国語・経営外国語	担当者	奥山 正司

講義目的、講義概要	授業計画
２１世紀を目前にして本格的な高齢社会をむかえようとしている日本社会では、高齢化や高齢者に関しては、社会福祉や保健･医療だけでなく、経済的、法律的な問題などさまざまな視点から論ぜられるようになってきている。こうした中で、特に寝たきり老人や痴呆老人など要介護老人を対象とした介護にかかわる狭義の福祉や保健・医療などについては、今後どのようにしていくかというきわめて重要な課題がある。本年度はそれらの課題を視野に入れながら、高齢化について考える力を身につけさせる。	日本における高齢化の状況を基本的な社会経済的な動向と関連させながら学ぶ。 １． 人口高齢化の側面 人口高齢化の要因及び状況 世帯･家族の変化と人口 ２． 高齢化の側面と社会経済的な状況 労働力、世代間扶養 ３．社会保障、高齢者への保健福祉
テキスト、参考文献	**評価方法**
授業のはじめに配布する。	出席、レポート、試験等の合計点によって評価する。

01 年度以降 00 年度以前	経済外国語Ｉｂ・経営外国語Ｉｂ 経済外国語・経営外国語	担当者	奥山 正司

講義目的、講義概要	授業計画
２１世紀を目前にして本格的な高齢社会をむかえようとしている日本社会では、高齢化や高齢者に関しては、社会福祉や保健･医療だけでなく、経済的、法律的な問題などさまざまな視点から論ぜられるようになってきている。こうした中で、特に寝たきり老人や痴呆老人など要介護老人を対象とした介護にかかわる狭義の福祉や保健・医療などについては、今後どのようにしていくかというきわめて重要な課題がある。本年度はそれらの課題を視野に入れながら、高齢化について考える力を身につけさせる。	日本における高齢化の状況と基本的な保健福祉について学ぶ。 高齢者福祉の歴史 明治時代から昭和の 20 年代までの 高齢者福祉について 老人福祉法制定以降の高齢者福祉について 在宅福祉サービス 施設福祉サービス 介護保険サービスなどについて
テキスト、参考文献	**評価方法**
授業のはじめに配布する。	出席、レポート、試験等の合計点によって評価する。

01 年度以降 00 年度以前	経済外国語Ｉａ・経営外国語Ｉａ 経済外国語・経営外国語	担当者	金井　繁雅

講義目的、講義概要	授業計画
経済社会の変動にともなって企業を取り巻く環境は大きく変化し、会計はさまざまな問題を抱えるようになった。これらの問題の一つとして、企業活動の国際化・グローバル化を背景とした会計処理や国際会計基準の設定が問題となっている。会計基準は、それぞれの国において独自の経済・法律および文化などを背景に形成されており、各国の企業が公表する財務諸表はそれぞれの国の会計基準に基づいて作成される。したがって、それらの財務諸表を単純に比較することはできない。そこに会計基準の国際的調和化の必要性が生まれてくるわけである。 この科目では、国際会計に関するテキストを中心に精読し、会計の国際的側面を多面的に検討することにする。	
テキスト、参考文献	**評価方法**
開講時にコピーを配布する。	定期試験の結果に出席率を加味して総合的に成績評価を行う。

01 年度以降 00 年度以前	経済外国語Ｉｂ・経営外国語Ｉｂ 経済外国語・経営外国語	担当者	金井　繁雅

講義目的、講義概要	授業計画
春学期と同一内容です。	
テキスト、参考文献	**評価方法**
開講時にコピーを配布する。	定期試験の結果に出席率を加味して総合的に成績評価を行う。

01 年度以降 00 年度以前	経済外国語Ｉa・経営外国語Ｉa 経済外国語・経営外国語	担当者	倉橋　透

講義目的、講義概要	授業計画
【講義目的】 　この講義では、日本経済をオンタイムで扱ったテキストを題材に、経済英語独特の言い回し及び日本語の経済用語に慣れることを目的とする。 　なお、テキストを通じて日本経済の現状についての理解が深まる点でも効果があろう。 【講義概要】 　テキストを分担して、英文を音読し和訳する。 　各自が分担する範囲は前の講義の際に指定する。	各月の“Monthly Economic Report”及び”Economy Watchers Survey”を読む。
テキスト、参考文献	**評価方法**
授業中に配布（内閣府の”Monthly Economic Report”及び”Economy Watchers Survey”）	出席（一回４点）及び定期試験による。なお、分担しているにもかかわらず欠席した場合は５点減点する。ただし、病気等理由のある場合は出席扱いとする。

01 年度以降 00 年度以前	経済外国語Ｉb・経営外国語Ｉb 経済外国語・経営外国語	担当者	倉橋　透

講義目的、講義概要	授業計画
【講義目的】 　この講義では、日本経済をオンタイムで扱ったテキストを題材に、経済英語独特の言い回し及び日本語の経済用語に慣れることを目的とする。 　なお、テキストを通じて日本経済の現状についての理解が深まる点でも効果があろう。 【講義概要】 　テキストを分担して、英文を音読し和訳する。 　各自が分担する範囲は前の講義の際に指定する	各月の“Monthly Economic Report”及び”Economy Watchers Survey”を読む。
テキスト、参考文献	**評価方法**
授業中に配布（内閣府の”Monthly Economic Report”及び”Economy Watchers Survey”）	出席（一回４点）及び定期試験による。なお、分担しているにもかかわらず欠席した場合は５点減点する。ただし、病気等理由のある場合は出席扱いとする。

01 年度以降 00 年度以前	経済外国語Ｉa・経営外国語Ｉa 経済外国語・経営外国語	担当者	黒川　文子

講義目的、講義概要	授業計画
本講義では、国際人として活躍するために必要である国際ビジネスに関する知識を獲得し、かつ実践的な英語能力を習得することを目標とする。 グローバル企業で働くためには、外国人とのコミュニケーション能力が必須となる。しかし、ビジネス英語の能力には、単なる会話能力だけではなく、相手の国の文化や、習慣、エチケットに関する知識まで含まれる。異文化を理解した上で国際ビジネスに携わるならば、ビジネスで成功することがより容易となるであろう。本講義ではそのようなニーズに答えるために、ビジネスに関する英語の読解、英作文の勉強をしていきます。	1　Knowledge is Power, But Whose? 2　The Magic of Harry Potter 3　The Fast-Food Revolution… 4　Beauty is in the Eye of the Beholder 5　One World, One Language? 6　A Gray Future? 7　'Til Death Us Do Part? Marriage and Divorce in the 21st Century 8　The Pursuit of Happiness 9　The World Through Rose-tinted Glasses 10　… And the Slow-Food Rebellion 11　Articles of International Business (1) 12　Articles of International Business (2)
テキスト、参考文献	**評価方法**
John Barton et al., *"Knowledge is Power",* SEIBIDO, 2005.	期末試験と出席によって、総合的に評価する。

01 年度以降 00 年度以前	経済外国語Ｉb・経営外国語Ｉb 経済外国語・経営外国語	担当者	黒川　文子

講義目的、講義概要	授業計画
本講義では、経営学の入門から専門書、論文までの読解できる能力を身につけることが目標である。 この分野の読解は、単なる表面的な語句上の意味を学ぶのではなく、その語の背景となっている経営状況を理解しなければ、正しい読解は不可能である。 経営に関する基本的文献を、まずテキストを使って輪読する。ある程度、経営学用語を用いた英文に慣れた後に、英文雑誌や新聞から抜粋した経営に関する論文や記事を配布して、講義を進める。	1　The War for Talent 2　China and India-the Future of the World? 3　A　Global Balancing Act 4　The Ethics of Cloning 5　Information Overload and Multi-tasking Madness 6　Why the Internet Will Destroy the World 7　Energy Problems-Blackouts in America, Britain and Italy 8　Globalization-A Global Solution? 9　The Nature of Terrorism-One Man's Freedom Fighter is Another Man's Terrorist 10　What is Democracy? 11　Articles of International Business (1) 12　Articles of International Business (2)
テキスト、参考文献	**評価方法**
John Barton et al., *"Knowledge is Power",* SEIBIDO, 2005.	期末試験と出席によって、総合的に評価する。

01 年度以降 00 年度以前	経済外国語Ｉa・経営外国語Ｉa 経済外国語・経営外国語	担当者	黒木　亮

講義目的、講義概要	授業計画
講義目標 本講義の目的は，経済英語に慣れることである．丁寧に翻訳をつけ，ゆっくりと文献を読み進めることによって，基礎的な読解力を養う． 講義概要 あらかじめ担当者を決めず，毎回ランダムに当て，ひとり数行ずつ，できるだけ多くの人に訳出してもらう． 受講者への要望 毎回しっかり予習をし，辞書（単語の使われ方や例文が数多く紹介されているもの）を持参して授業に臨んでください．	講義概要の通り下記の章を読んでいく。 Introduction Chapter 1　The Power of Markets
テキスト、参考文献	**評価方法**
Charles Wheelan *Naked Economics*, W. W. Norton, 2002.	出席状態，予習の程度，報告（翻訳）の内容，小テスト，期末テスト．

01 年度以降 00 年度以前	経済外国語Ｉb・経営外国語Ｉb 経済外国語・経営外国語	担当者	黒木　亮

講義目的、講義概要	授業計画
講義目標 本講義の目的は，経済英語に慣れることである．丁寧に翻訳をつけ，ゆっくりと文献を読み進めることによって，基礎的な読解力を養う． 講義概要 あらかじめ担当者を決めず，毎回ランダムに当て，ひとり数行ずつ，できるだけ多くの人に訳出してもらう． 受講者への要望 毎回しっかり予習をし，辞書（単語の使われ方や例文が数多く紹介されているもの）を持参して授業に臨んでください．	講義概要の通り下記の章を読んでいく。 Chapter 2　Incentives Matter
テキスト、参考文献	**評価方法**
Charles Wheelan *Naked Economics*, W. W. Norton, 2002.	出席状態，予習の程度，報告（翻訳）の内容，小テスト，期末テスト．

01 年度以降 00 年度以前	経済外国語Ｉａ・経営外国語Ｉａ 経済外国語・経営外国語	担当者	小林　進

講義目的、講義概要	授業計画
経済学の文献を通じて英語の力を一層向上させたいか、または現在の英語の実力を維持したい人の受講が望ましい。英語の能力は努力を怠ると簡単に下がってしまうので、受講者は日頃の予習を十分に行うことが大切である。なお再履修者には英語の基礎力をつけるために数回のレポートを求めるので十分注意して履修登録を行ってほしい。	受講者のレベルを考慮しながら講義の中で述べる
テキスト、参考文献	**評価方法**
未定（プリント配布の予定）	平常の出欠と授業態度を重視する。さらに期末の試験を加味して評価する。

01 年度以降 00 年度以前	経済外国語Ｉｂ・経営外国語Ｉｂ 経済外国語・経営外国語	担当者	小林　進

講義目的、講義概要	授業計画
経済学の文献を通じて英語の力を一層向上させたいか、または現在の英語の実力を維持したい人の受講が望ましい。英語の能力は努力を怠ると簡単に下がってしまうので、受講者は日頃の予習を十分に行うことが大切である。なお再履修者には英語の基礎力をつけるために数回のレポートを求めるので十分注意して履修登録を行ってほしい。	受講者のレベルを考慮しながら講義の中で述べる
テキスト、参考文献	**評価方法**
未定（プリント配布の予定）	平常の出欠と授業態度を重視する。さらに期末の試験を加味して評価する。

01 年度以降 00 年度以前	経済外国語Ｉa・経営外国語Ｉa 経済外国語・経営外国語	担当者	小林　哲也

講義目的、講義概要	授業計画
経済関係のニュースを、英語で収集・分析するための基礎的な英語力の養成を目的とする。 ニュースの中には、国内（日本語）での報道と、海外のメディアによる報道とで大きな視点の違いがあることが多い。また紛争地域に関する報道、あるいはグローバリゼーションや経済格差をめぐる報道などでは、発信するメディアの立場によっても、同一の事件が全く異なった「ニュース」になることもしばしばである。 日本経済に生じている変化や世界の流れを読むうえでも、複数の視点による「ニュース」を理解することが是非とも必要である。とはいえ、基本は日本語の新聞記事をきちんと理解すること、基礎的な英語力をつけることからはじめなければならない。 本講義では、英字新聞や雑誌の読解力をつけることをめざすが、同時に単語力やリスニング力などの基本的な英語力も養成する。そのために毎時間の小テストとテキストの予習が課せられる。基本的に通年の履修が前提である。	１．　英語のニュース・日本語のニュース ２．　サバイバル英語のすすめ ３．　News in the world business ４．　News in the world business ５．　News in the world business ６．　News in the world business ７．　News in the world business ８．　News in the world business ９．　News in the world business １０．News in the world business １１．News in the world business １２．News in the world business

テキスト、参考文献	評価方法
Business Week 各号 Voice of America（インターネット・ラジオ）	小テストを含めた平常点＋定期試験

01 年度以降 00 年度以前	経済外国語Ｉb・経営外国語Ｉb 経済外国語・経営外国語	担当者	小林　哲也

講義目的、講義概要	授業計画
経済関係のニュースを、英語で収集・分析するための基礎的な英語力の養成を目的とする。後期は、英語で読む・調べる・書くをテーマに、プレゼンテーション演習を取り入れる。参加者は、各自テーマを設定し、英語の資料やソースにあたり、英語で発表することが課せられる。	１．　英語で読む・書く・調べる ２．　英語で読む　　新聞・雑誌 ３．　英語で読む　　インターネット ４．　英語で聞く　　ニュース番組 ５．　英語で聞く　　インターネット・ラジオ ６．　英語で調べる　辞書・資料の調べ方 ７．　英語で調べる　検索エンジンの使い方 ８．　英語で書く　　身近な文章 ９．　英語で書く　　専門用語 １０．英語で発表する　　プレゼンとは １１．英語で発表する　　演習１ １２．英語で発表する　　演習２

テキスト、参考文献	評価方法
西村肇『サバイバル英語のすすめ』筑摩新書	授業への参加態度＋発表レポート

01 年度以降 00 年度以前	経済外国語Ｉa・経営外国語Ｉa 経済外国語・経営外国語	担当者	齋藤　正章

講義目的、講義概要	授業計画
外国語で書かれた良書は日本語で読めることが少なくありません。最近では、海外で出版されるのとほぼ同時に翻訳されることもあります。また、インターネットの進展によって翻訳支援ツールも充実してきています。こうした状況は、読解のための語学力はさして高める必要はないと感じさせるかもしれません。しかし、それらはあくまでも「他人の訳」であって自分のものではありません。原著にある微妙なニュアンスは、原著を読んだ人にしか分からないものです。本講義では、原著の内容を自分の言葉で理解するための読解力の養成を目標としています。	皆さんに和訳してもらいますので、積極的に授業に参加して下さい。 講義を進めていくと、問題なのは英語力ではなく、経済や経営あるいは社会に関する問題意識の欠如や知識不足が原因で読みこなせないという場面に出くわすことが多いです。こういう場合は、基礎概念を平易に解説しながら進めていきます。
テキスト、参考文献	**評価方法**
開講時に指示します。	試験 70 点、出席、発表などの平常点 30 点の合計 100 点。

01 年度以降 00 年度以前	経済外国語Ｉb・経営外国語Ｉb 経済外国語・経営外国語	担当者	齋藤　正章

講義目的、講義概要	授業計画
外国語で書かれた良書は日本語で読めることが少なくありません。最近では、海外で出版されるのとほぼ同時に翻訳されることもあります。また、インターネットの進展によって翻訳支援ツールも充実してきています。こうした状況は、読解のための語学力はさして高める必要はないと感じさせるかもしれません。しかし、それらはあくまでも「他人の訳」であって自分のものではありません。原著にある微妙なニュアンスは、原著を読んだ人にしか分からないものです。本講義では、原著の内容を自分の言葉で理解するための読解力の養成を目標としています。	皆さんに和訳してもらいますので、積極的に授業に参加して下さい。 講義を進めていくと、問題なのは英語力ではなく、経済や経営あるいは社会に関する問題意識の欠如や知識不足が原因で読みこなせないという場面に出くわすことが多いです。こういう場合は、基礎概念を平易に解説しながら進めていきます。
テキスト、参考文献	**評価方法**
開講時に指示します。	試験 70 点、出席、発表などの平常点 30 点の合計 100 点。

01 年度以降 00 年度以前	経済外国語Ｉa・経営外国語Ｉa 経済外国語・経営外国語	担当者	塩田　尚樹

講義目的、講義概要	授業計画
経済学に必要な英語と数学の基礎力の習得を目指します. 英文を正確に読めることが何よりも重要です．したがって，文法や構文のとらえ方などにこだわりながら，読む量よりも，読み方の質を重視した授業を展開する予定です. 使用するテキストは，経済学で使用する数学の基礎部分全体をほぼ網羅しています.「ミクロ経済学」,「マクロ経済学」のような，経済学科の理論系の科目を理解するために非常に有効です. なお，授業方針の確認，担当日の確定，および，履修上の注意など重要な連絡をするため，第一回目の授業は必ず出席してください.	担当者の発表と質疑応答を中心として進めていきます. 事前に担当日を決めておいて，毎回数人ずつ順番に発表してもらう予定です. 担当者は必ず，発表用のレジュメを作成し，クラス全体に配布するようにして下さい.
テキスト	**評価方法**
Chiang, A.C. *Fundamental Methods of Mathematical Economics,* McGraw-Hill	発表，授業態度，および，出席状況で評価します.

01 年度以降 00 年度以前	経済外国語Ｉb・経営外国語Ｉb 経済外国語・経営外国語	担当者	塩田　尚樹

講義目的、講義概要	授業計画
経済外国語Ｉa からの継続履修を前提としますが，どうしても経済外国語Ｉb だけを履修したい方は，相談に応じますので申し出てください. 経済学に必要な英語と数学の基礎力の習得を目指します. 英文を正確に読めることが何よりも重要です．したがって，文法や構文のとらえ方などにこだわりながら，読む量よりも，読み方の質を重視した授業を展開する予定です. 使用するテキストは，経済学で使用する数学の基礎部分全体をほぼ網羅しています.「ミクロ経済学」,「マクロ経済学」のような，経済学科の理論系の科目を理解するために非常に有効です. なお，進度調整や胆道日の決定など重要な連絡をするため，第一回目の授業は必ず出席してください.	担当者の発表と質疑応答を中心として進めていきます. 事前に担当日を決めておいて，毎回数人ずつ順番に発表してもらう予定です. 担当者は必ず，発表用のレジュメを作成し，クラス全体に配布するようにして下さい.
テキスト	**評価方法**
Chiang, A.C. *Fundamental Methods of Mathematical Economics,* McGraw-Hill	発表，授業態度，および，出席状況で評価します.

01 年度以降 00 年度以前	経済外国語Ｉa・経営外国語Ｉa 経済外国語・経営外国語	担当者	千葉　啓司

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的 　簿記・会計分野の英文を読み、簿記および会計学が英米でどのように考えられているかを理解することが本講義の目的である。英米では日本のように簿記と会計学が区別されずに、Accounting の名の下に体系化されている。簿記原理で学習した知識を生かして英文が読み進められるようにしていきたい。 講義概要 　簿記および会計学の基礎概念と貸借対照表（Balance Sheet）の内容について学習する。英文に慣れてもらうために多くの文章を読んでもらうことになる。そのため比較的平易な文章のテキストが選ばれている。	1　Basic Concepts 2　Elements of Balance Sheet 3　Assets ,Liabilities and Equity 4　Dual-Aspect Concept 5　Money-Measurement Concept 　Entity Concept 6　Going-Concern Concept 7　Assets-Management Concept 8　Balance Sheet Items 　Assets 9　Balance Sheet Items 　Liabilities 10　Balance Sheet Items 　Current Ratio 11　Balance Sheet Items 　Equity 12　Key Points to Remember
テキスト、参考文献	**評価方法**
R.N.Anthony and L.K.Breitner *Core Concepts of Accounting* Peason Prentice Hall,2003	ほぼ毎回行う予定の練習問題、出席状況と期末試験によって成績を総合的に評価する。

01 年度以降 00 年度以前	経済外国語Ｉb・経営外国語Ｉb 経済外国語・経営外国語	担当者	千葉　啓司

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的 　簿記・会計分野の英文を読み、簿記および会計学が英米でどのように考えられているかを理解することが本講義の目的である。英米では日本のように簿記と会計学が区別されずに、Accounting の名の下に体系化されている。簿記原理で学習した知識を生かして英文が読み進められるようにしていきたい。 講義概要 　資産・負債の分類といった貸借対照表項目にかかわる事柄、損益計算書にかかわる事柄、簿記にかかわる事柄について学習する。簿記の基本的な体系の英語表現を解説する。	1　Current Assets 2　Noncurrent Assets 3　Current Liabilities 4　Noncurrent Liabilities 5　Balance Sheet Changes 1 6　Balance Sheet Changes 2 7　Income Measurement 8　The Account 9　Debit and Credit 10　The Ledger and The Journal 11　The Closing Process 12　Key Points to Remember
テキスト、参考文献	**評価方法**
R.N.Anthony and L.K.Breitner *Core Concepts of Accounting* Peason Prentice Hall,2003	ほぼ毎回行う予定の練習問題、出席状況と期末試験によって成績を総合的に評価する。

01 年度以降 00 年度以前	経済外国語Ｉa・経営外国語Ｉa 経済外国語・経営外国語	担当者	中村　泰將

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的： 1. 英文を意味内容を的確に理解すること。 2. 専門用語をできるだけ覚えること。 3. 辞書は妻子の辞書を使い、辞書を引きのではなく、読むことに心がけること。 講義概要： 本講座は、アメリカの代表的なビッグ・ビジネスを取り上げ、これらの企業がどのようにして世界のトップに上り詰めたか、これらの企業の経営戦略は一体どのようなものかについて本「テキスト」を通じて学ぶことを目的とするものである。世界のトップの経営者はどのような経営理念を持っているのかを学ぶことも本講座の目的である。 ファースト・フッドのマクドナルド、自動車のフォード、ソフト・ドリンクのコカ・コーラ、コピー機のゼロックス、テーマ・パークのディズニーランド、小売店のシアーズ、通信の AT&T などの企業などをとり上げる。 なお、これらの企業のアニュアル・リポートを入手し、それを利用して企業の状態を調べることも行なう。	1.　コカ・コーラ 2.　〃 3.　〃 4.　ディズニーランド 5.　〃 6.　〃 7.　フォード、GM 8.　〃 9.　〃 10.　マクドナルド 11.　〃 12.　〃
テキスト、参考文献	**評価方法**
“BIG BUSINESS in AMERICA”(ビジネスとアメリカ文化） by 廣原真由子、Blake Baxter、SEIBIDO，2001 年	出席重視(3 回以上欠席者は認めない)、授業の購読、定期試験、アサイメントなどの総合評価。

01 年度以降 00 年度以前	経済外国語Ｉb・経営外国語Ｉb 経済外国語・経営外国語	担当者	中村　泰將

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的、講義概要は春学期と同じである。	1.　シアーズ 2.　〃 3.　ゼロックス 4.　〃 5.　IBM 6.　〃 7.　AT&T 8.　〃 9.　フォード、GM 10.　〃 11.　アメリカン・ライフと先端技術 12.　〃
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキストは、春学期の続きである。	評価基準は、春学期と同じである。

01 年度以降 00 年度以前	経済外国語Ｉa・経営外国語Ｉa 経済外国語・経営外国語	担当者	波形　昭一

講義目的、講義概要	授業計画
あらゆる分野についていえることだが、経済学･経営学についても基礎的知識の習得が重要である。基礎がしっかりしていないと、その後の発展が望めないからである。その意味で本講義では、特に経済学の基礎を外国語（英語）で習得することに目標をおく。下記の教科書は経済学の基礎を平明な英語で解説しており、本講義の目的にかなっていると思われる。学生諸君の輪読を中心に授業を進めていきたい。当たり前のことだが、予習を必ずやることを義務づける。	1．Chap.1　A　Matter　of　Choice 2． 3． 4． 5．Chap.2　Meaning　of　Micro 6． 7． 8． 9．Chap.3　Meaning　of　Macro 10. 11. 12.
テキスト、参考文献	**評価方法**
John Tilmant 著（新井恵理注解）『Economics in Our Life』成美堂	定期試験に平常授業中の熱意（出席状況、発表状況）を加味して評価する。

01 年度以降 00 年度以前	経済外国語Ｉb・経営外国語Ｉb 経済外国語・経営外国語	担当者	波形　昭一

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的およびその概要は春学期と同様。春学期授業を受けていなければ理解できないというわけではないが、春学期授業を受けておくほうが望ましい。	1．Chap.4　Politics　&　Policy 2． 3． 4． 5．Chap.5　At　Least　in　Theory 6． 7． 8． 9．Chap.6　The　International　Arena 10. 11. 12.
テキスト、参考文献	**評価方法**
春学期と同じ。継続使用。	春学期と同じ。

01 年以降 00 年以前	経済外国語Ｉa・経営外国語Ｉa 経済外国語・経営外国語	担当者	本田　浩邦

講義目的、講義概要	授業計画
語学力はわれわれが生きていく上での大きな武器です。この授業の目的は、経済英語の学習をつうじて英語に親しみ、基礎的な力を身につけることです。週１回という限られた時間ですが、できるだけたくさんリーディングとリスニングを行いたいと思います。 ■ Grammar　毎回授業のはじめに簡単な文法テストを行います。 ■ Listening　繰り返しリスニングをします。1 年続けるだけでもかなり聞き取れるようになるはずです。 ■ Reading　経済関連の記事を速読します。 ■ Presentation　学期末に英語に関する事柄を調べて発表します。一人１０分程度。	授業は３つの部分で構成されます。 ① Grammar (15min) ② Listening (30min) ③ Reading (30 min)
テキスト、参考文献	**評価方法**
随時配布します。必ず毎回、英和中辞典を持参してください。	出席、毎回の文法テスト、その他平常点による。

01 年以降 00 年以前	経済外国語Ｉb・経営外国語Ｉb 経済外国語・経営外国語	担当者	本田　浩邦

講義目的、講義概要	授業計画
語学力はわれわれが生きていく上での大きな武器です。この授業の目的は、経済英語の学習をつうじて英語に親しみ、基礎的な力を身につけることです。週１回という限られた時間ですが、できるだけたくさんリーディングとリスニングを行いたいと思います。 ■ Grammar　毎回授業のはじめに簡単な文法テストを行います。 ■ Listening　繰り返しリスニングをします。1 年続けるだけでもかなり聞き取れるようになるはずです。 ■ Reading　経済関連の記事を速読します。 ■ Presentation　学期末に英語に関する事柄を調べて発表します。一人１０分程度。	授業は３つの部分で構成されます。 ① Grammar (15min) ② Listening (30min) ③ Reading (30 min)
テキスト、参考文献	**評価方法**
随時配布します。必ず毎回、英和中辞典を持参してください。	出席、毎回の文法テスト、その他平常点による。

01 年以降 00 年以前	経済外国語Ｉa・経営外国語Ｉa 経済外国語・経営外国語	担当者	益山　光央

講義目的、講義概要	授業計画
テキサスインスツルメント社製の関数電卓 BAII plus の英文マニュアルに挑戦する。受講生は電卓を購入し、電卓とマニュアルのセットで受講することとなる。電卓操作をマスターしたのちに、さまざまな経済計算に移る。教材の電卓は高価なので、一年間、落ち着いてじっくり学習することのできる受講生を希望する。	1　基本操作 2　基本操作 3　基本操作 4　基本操作 5　基本操作 6　基本操作 8　複利と単利 9　割引現在価値 １０　割引現在価値 １１　投資 １２　投資
テキスト、参考文献	**評価方法**
TI 社製関数電卓　BAII Plus	出席５０％、試験５０％

01 年以降 00 年以前	経済外国語Ｉb・経営外国語Ｉb 経済外国語・経営外国語	担当者	益山　光央

講義目的、講義概要	授業計画
春学期に引き続き電卓操作の習得を目標とする。	1　償還 2　償還 3　償還 4　基本操作 5　基本操作 6　基本操作 7　基本操作 8　対数と指数 9　対数と指数 １０　三角関数 １１　三角関数 １２　まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
TI 社製関数電卓　BAII Plus	出席５０％、試験５０％

01 年度以降 00 年度以前	経済外国語Ｉａ・経営外国語Ｉａ 経済外国語・経営外国語	担当者	松本　栄次

講義目的、講義概要	授業計画
経済地理または環境経済関係の外国書（英文）または論文をテキストに、学術的英文の読解力を高める。とくに、単なる直訳ではなく、内容のイメージを的確に把握できるような能力を養う。	毎回、無差別にできるだけ多数の人を指名し、訳出・内容説明を担当してもらう。
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキストはプリントして配布する。	出席状況、授業中の発表の成績、および定期試験により総合的に評価する。

01 年度以降 00 年度以前	経済外国語Ｉｂ・経営外国語Ｉｂ 経済外国語・経営外国語	担当者	松本　栄次

講義目的、講義概要	授業計画
a と同じ。	a と同じ。
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキストはプリントして配布する。	出席状況、授業中の発表の成績、および定期試験により総合的に評価する。

01 年度以降 00 年度以前	経済外国語Ｉａ・経営外国語Ｉａ 経済外国語・経営外国語	担当者	御園生　眞

講義目的、講義概要	授業計画
経済英語に慣れると同時に、読解力の向上を目指す。 毎回ランダムに当て、できるだけ多くの人に訳出してもらう。 定期試験を実施するとともに、簡単な小テストを頻繁に実施する予定。 （注意） 毎回しっかり予習して出席する。 辞書（電子辞書でもよい）を毎回必ず持参する。 授業のマナーを守り遅刻しない。	
テキスト、参考文献	**評価方法**
プリントを使用する予定。辞書などについては第１回の授業で説明する。	出席、試験成績、訳出内容、予習内容で評価。3 回以上欠席した場合は単位が認定されない。

01 年度以降 00 年度以前	経済外国語Ｉｂ・経営外国語Ｉｂ 経済外国語・経営外国語	担当者	御園生　眞

講義目的、講義概要	授業計画
春学期に同じ。	
テキスト、参考文献	**評価方法**
プリントを使用する予定。辞書などについては第１回の授業で説明する。	出席、試験成績、訳出内容、予習内容で評価。3 回以上欠席した場合は単位が認定されない。

01 年度以降 00 年度以前	経済外国語Ｉa・経営外国語Ｉa 経済外国語・経営外国語	担当者	百瀬　房徳

講義目的、講義概要	授業計画
ヨーロッパ経済共同体が、1993 年より形成され、現在では欧州連合（EU）として拡大している。この形成のために種々の制度が統一されてきた。そのうちの付加価値税を通じて、統一過程を理解する。 ヨーロッパで発展した付加価値税が日本において消費税として導入された。その意味では、付加価値税について知識を得ておくことは意義があろう。	1　The European Economic Community 2　The Aims of the European Community 3　The White Paper 4　The Community's Institutions The European Parliament 5　The Community's Institutions The Council of Ministers 6　The Community's Institutions The Court of Justice 7　The Financial Means of The Community 8　The Value Added Tax 9　VAT in The Community
テキスト、参考文献	**評価方法**
Ernst & Young：VAT in Europe	テスト

01 年度以降 00 年度以前	経済外国語Ｉb・経営外国語Ｉb 経済外国語・経営外国語	担当者	百瀬　房徳

講義目的、講義概要	授業計画
付加価値税が、ヨーロッパ経済共同体の共通の税となり、かつその財源になって以来、非常に大きな役割を果たすようになってきた。付加価値税の基礎概念、計算方法、付加価値税を全加盟国に導入するための障壁の除去等について理解する。この付加価値税の考え方は、日本の消費税の基礎となっている。	1　Harmonization of VAT in The European Community General 2　Harmonization of VAT in The European EC Council Directive 3　The Proposals for Future Harmonization 4　Commission's Proposals for a Single Market 5　The 1987 Proposals for The Commission Removal of　Fiscal Barriers 6　The 1987 Proposals for The Commission The Clearing System 7　The 1987 Proposals for The Commission The Approximation of VAT Rates 8　The 1987 Proposals for The Commission Services
テキスト、参考文献	**評価方法**
	テスト

01年以降 00年以前	経済外国語Ｉａ・経営外国語Ｉａ 経済外国語・経営外国語	担当者	森　健

講義目的、講義概要	授業計画
先ず、辞書なしで読む訓練をする。テレビや新聞でよく取り上げているような事柄に関する英文の経済社会記事（論文を含む）を用意するので、知っている語句のみを手掛かりに、自分の持っている知識を総動員して他の知らない単語の意味、さらに、大意を想像する（当て推量する）ことに専念する。自分の持っている知識（日本語の）が多ければ当て推量は限りなく真実に近づく。この訓練を続ければ英文に対する抵抗感は薄れ、単なる暗号解きになる。 この講義を通じて、英文経済記事への心理的抵抗感をなくし、日頃から日本語で書かれた新聞、経済誌、あるいはテレビ解説等で経済問題に触れておくごとが、英文記事を理解する早道であることを痛感してくれることを願っている。	特記するような計画は持たないが、教材には、日本経済の国際化、アジア太平洋諸国の経済事情等に関するものをできるだけ選び、教員もこの周辺の問題の解説を行う予定である。
テキスト、参考文献	**評価方法**
プリント配布。	普段点と定期試験。出席率が一定基準に達しない場合は採点の対象としない。

01年以降 00年以前	経済外国語Ｉｂ・経営外国語Ｉｂ 経済外国語・経営外国語	担当者	森　健

講義目的、講義概要	授業計画
先ず、辞書なしで読む訓練をする。テレビや新聞でよく取り上げているような事柄に関する英文の経済社会記事（論文を含む）を用意するので、知っている語句のみを手掛かりに、自分の持っている知識を総動員して他の知らない単語の意味、さらに、大意を想像する（当て推量する）ことに専念する。自分の持っている知識（日本語の）が多ければ当て推量は限りなく真実に近づく。この訓練を続ければ英文に対する抵抗感は薄れ、単なる暗号解きになる。 この講義を通じて、英文経済記事への心理的抵抗感をなくし、日頃から日本語で書かれた新聞、経済誌、あるいはテレビ解説等で経済問題に触れておくごとが、英文記事を理解する早道であることを痛感してくれることを願っている。	特記するような計画は持たないが、教材には、日本経済の国際化、アジア太平洋諸国の経済事情等に関するものをできるだけ選び、教員もこの周辺の問題の解説を行う予定である。
テキスト、参考文献	**評価方法**
プリント配布。	普段点と定期試験。出席率が一定基準に達しない場合は採点の対象としない。

01 年度以降 00 年度以前	経済外国語Ｉａ・経営外国語Ｉａ 経済外国語・経営外国語	担当者	森永　卓郎

講義目的、講義概要	授業計画
経済記事を読むためには英語の知識と経済の知識の双方が必要です。この講義では、その時どきの新聞記事を読むなかで、その背景となる経済現象を学びます。記事の英語は平易なものを用います。	毎週、講義後に課題の記事を配布し、発表者を決めて、翌週その記事の内容を議論します。
テキスト、参考文献	**評価方法**
プリントを配ります	出席、試験

01 年度以降 00 年度以前	経済外国語Ｉｂ・経営外国語Ｉｂ 経済外国語・経営外国語	担当者	森永　卓郎

講義目的、講義概要	授業計画
経済記事を読むためには英語の知識と経済の知識の双方が必要です。この講義では、その時どきの新聞記事を読むなかで、その背景となる経済現象を学びます。記事の英語は平易なものを用います。	毎週、講義後に課題の記事を配布し、発表者を決めて、翌週その記事の内容を議論します。
テキスト、参考文献	**評価方法**
プリントを配ります	出席、試験

01 年度以降 00 年度以前	経済外国語Ｉａ・経営外国語Ｉａ 経済外国語・経営外国語	担当者	山越　徳

講義目的、講義概要	授業計画
この課目は、外国語（英語）を通して、経済の新しい動きや姿について触れると同時に、専門用語についての知識を増して、国際化の進行に少しでも順応できるようにすることを意図している。そこで本講では、ニュービジネス、新商品、技術変化、グロバリゼーション、産業集積、地域活性化、雇用問題などの中から、いくつかのペーパーを選び出し、それを読み、議論し、理解を進めていくことにする。そのためより多くの課題に触れるよう、多くのペーパーに取り組みたい。	なるべく多くの論文を読み進めるため、1 回につき４～５頁は読み進めていきたい。
テキスト、参考文献	**評価方法**
順次、ペーパーのコピーを授業で配布	課題ペーパー（講義中に配布）を訳し、レポートを提出したものと、期末テストの結果および出席と授業の受け答えによる。

01 年度以降 00 年度以前	経済外国語Ｉｂ・経営外国語Ｉｂ 経済外国語・経営外国語	担当者	山越　徳

講義目的、講義概要	授業計画
Ｉａの課題のペーパーを更に読み進めていく。したがってＩａを受け継いで履修するのが望ましい。	同上
テキスト、参考文献	**評価方法**
同上	同上

01 年度以降 00 年度以前	経済外国語Ｉａ・経営外国語Ｉａ 経済外国語・経営外国語	担当者	山下　裕歩

講義目的、講義概要	授業計画
経済・経営分野の入門的書籍から適当な題材を選択し、それを輪読していく形で進めます。 内容を理解し、正確に日本語訳することを目標とします。 あらゆる分野でいえることですが、専門書を読む場合、その分野以外ではほとんど使わないような単語が出てきたり、あるいは、通常とは少し意味の違う特殊な意味である単語を用いたりします。同時に、これらの単語は専門用語として対応する日本語があり、日本語としても専門用語の意味を正しく理解する必要があります。	配布したテキストを輪読する。数行ごとに担当者をあらかじめ決めておき、担当者は授業時に、担当部分の解説と日本語訳を行うものとする。
テキスト、参考文献	**評価方法**
1 回目の授業時にテキストとしてプリントを配布する。	出席、授業での報告、定期テストにより評価する。

01 年度以降 00 年度以前	経済外国語Ｉｂ・経営外国語Ｉｂ 経済外国語・経営外国語	担当者	山下　裕歩

講義目的、講義概要	授業計画
春学期と同じ形式。	春学期と同じ形式。
テキスト、参考文献	**評価方法**
1 回目の授業時にテキストとしてプリントを配布する。	出席、授業での報告、定期テストにより評価する。

01 年度以降 00 年度以前	経済外国語Ｉa・経営外国語Ｉa 経済外国語・経営外国語	担当者	山本　美樹子

講義目的、講義概要	授業計画
英字新聞や英語の雑誌の経済記事を読みながら、日常の経済活動についての認識を深めていく。記事は英字新聞やエコノミスト英字版、フィナンシャルタイムス等から取り上げる。日ごろの日本経済に関わることをトピックスとしたものを取り上げる。	1．　イントロダクション 演習の進め方とプリントを配る 2．　記事を輪読していく。次回のプリントを配布 3．　同上 4．　同上 5．　同上 6．　同上 7．　同上 8．　同上 9．　同上 10.　同上 11.　同上 12.　同上　(秋学期初回のプリントを配布)
テキスト、参考文献	**評価方法**
毎回次回のプリントを配布する	出席、授業態度(予習の有無)、学期末試験

01 年度以降 00 年度以前	経済外国語Ｉb・経営外国語Ｉb 経済外国語・経営外国語	担当者	山本　美樹子

講義目的、講義概要	授業計画
英字新聞や英語の雑誌の経済記事を読みながら、日常の経済活動についての認識を深めていく。記事は英字新聞やエコノミスト英字版、フィナンシャルタイムス等から取り上げる。国際経済、国際禁輸に関わるものを取り上げる。	1．　輪読をする。次回のプリントを配布。 2．　同上 3．　同上 4．　同上 5．　同上 6．　同上 7．　同上 8．　同上 9．　同上 10.　同上 11.　同上 12.　同上
テキスト、参考文献	**評価方法**
なし、 毎回次回のプリントを配布する	出席、授業態度(予習の有無)、学期末試験

01 年度以降 00 年度以前	経済外国語Ｉａ・経営外国語Ｉａ 経済外国語・経営外国語	担当者	湯田　雅夫

講義目的、講義概要	授業計画
環境領域の文献をテキストに選定する。テキストの内容を理解し、併せて、専門用語が身につくよう、授業を進める。	１．オリエンテーション（テキストの概要） ２．～１３．テキストの輪読、内容の解説
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト：未定（基本書を選定） 参考文献：その都度指定	定期試験、授業への積極的参加度、出席回数を勘案して、総合評価する

01 年度以降 00 年度以前	経済外国語Ｉｂ・経営外国語Ｉｂ 経済外国語・経営外国語	担当者	湯田　雅夫

講義目的、講義概要	授業計画
環境領域の文献をテキストに選定する。テキストの内容を理解し、併せて、専門用語が身につくよう、授業を進める。	１．～１３．テキストの輪読、内容の解説
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト：未定（基本書を選定） 参考文献：その都度指定	定期試験、授業への積極的参加度、出席回数を勘案して、総合評価する

01 年度以降 00 年度以前	経済外国語Ｉa・経営外国語Ｉa 経済外国語・経営外国語	担当者	米山　昌幸

講義目的、講義概要	授業計画
講義では、英文文献の多読を行い、貿易と開発について考えていきます。貿易自由化は発展途上国の経済開発(経済発展)にどのような影響を与えるのか、そしてWTOのドーハ･ラウンド(正式には、ドーハ開発アジェンダ)ではどのような貿易自由化を目指すのがよいのか、といったテーマについて考察する文献を取り上げたいと考えています。 基本的には受講者の輪読で授業を進め、必要に応じて解説を加えて補足します。報告者にはレジュメを作成しそのレジュメをもとに報告してもらいます。英文和訳よりもむしろ内容理解に重点を置き、毎回できるだけ多くの分量を読み進みたいと思います。 受講者は予習、復習が不可欠ですし、欠席は禁物です。	授業は輪読で進めますので、授業のペースは受講生の報告ペースで決まります。
テキスト、参考文献	**評価方法**
Stiglitz, Joseph E. and Andrew Charlton, *Fair Trade for All: How Trade Can Promote Development*, Oxford University Press, 2005.(予定)	出席状況、報告、レポート、および定期試験の総得点によって評価する。毎回必ず講義に出席できる勉学熱心な学生に限る。評価基準は第１回目の授業で説明する。

01 年度以降 00 年度以前	経済外国語Ｉb・経営外国語Ｉb 経済外国語・経営外国語	担当者	米山　昌幸

講義目的、講義概要	授業計画
講義では、英文文献の多読を行い、貿易と開発について考えていきます。貿易自由化は発展途上国の経済開発(経済発展)にどのような影響を与えるのか、そしてWTOのドーハ･ラウンド(正式には、ドーハ開発アジェンダ)ではどのような貿易自由化を目指すのがよいのか、といったテーマについて考察する文献を取り上げたいと考えています。 基本的には受講者の輪読で授業を進め、必要に応じて解説を加えて補足します。報告者にはレジュメを作成しそのレジュメをもとに報告してもらいます。英文和訳よりもむしろ内容理解に重点を置き、毎回できるだけ多くの分量を読み進みたいと思います。 受講者は予習、復習が不可欠ですし、欠席は禁物です。	授業は輪読で進めますので、授業のペースは受講生の報告ペースで決まります。
テキスト、参考文献	**評価方法**
Stiglitz, Joseph E. and Andrew Charlton, *Fair Trade for All: How Trade Can Promote Development*, Oxford University Press, 2005.(予定)	出席状況、報告、レポート、および定期試験の総得点によって評価する。毎回必ず講義に出席できる勉学熱心な学生に限る。評価基準は第１回目の授業で説明する。

01 年以降 00 年以前	経済外国語Ｉａ・経営外国語Ｉａ（フランス語） 経済外国語・経営外国語	担当者	千代浦　昌道

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的 　比較的やさしいフランス語の経済関連文献の講読を通じて、フランス・ヨーロッパ等を中心とする世界経済の現状を理解する。 講義概要 　フランス経済・社会の現状に関する易しいテキストを講読する。 　授業内容の難易度は、受講者の経済学・フランス語などの修得レベルに合わせて調整する。	第1回 (1)授業の進め方、テキスト・参考文献、成績評価方法などについての説明 (2)最近のフランスの政治経済情勢の基礎知識 (3)受講者のフランス語修得度の調査 第2回目以降はテキストを使用する。
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト:C. ボームルー、長谷川公昭著『時事フランス語(2006年版)』朝日出版社 参考文献:小林　茂「新聞のフランス語」(白水社、1984)	各学期の期末試験ならびに出欠、授業への熱意・貢献度などを総合的に評価する。

01 年以降 00 年以前	経済外国語Ｉｂ・経営外国語Ｉｂ（フランス語） 経済外国語・経営外国語	担当者	千代浦　昌道

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的 　比較的やさしいフランス語の経済関連文献の講読を通じて、フランス・ヨーロッパ等を中心とする世界経済の現状を理解する。 講義概要 　新聞、雑誌等に掲載されたやさしい経済関連記事を講読する。	第1回 (1)授業の進め方、テキスト・参考文献、成績評価方法などについての説明 (2)最近のフランスの政治経済情勢の基礎知識 (3)受講者のフランス語修得度の調査 第2回目以降はテキストを使用する。
テキスト、参考文献	**評価方法**
新聞、雑誌等の記事のコピーを随時配布する。	各学期の期末試験ならびに出欠、授業への熱意、貢献度などを総合的に評価する。

01 年度以降 00 年度以前	経済外国語Ｉａ・経営外国語Ｉａ（中国語） 経済外国語・経営外国語	担当者	全　載旭

講義目的、講義概要	授業計画
この授業では中国語の初級段階を終え、さらに中国語の学習を継続しようとする学生、特に中国経済に関心のある学生を対象にする。ただし授業の内容は履修者の中国語習得レベルに合わせて調整する。 最初には、中国語の基礎的な文法を勉強する。中国経済関連記事を選び、それに沿って授業を進めるが必要に応じて講義もする 中国経済に強い関心を持ち、これから中国語を学ぼうとする学生の履修も歓迎する。	
テキスト、参考文献	**評価方法**
必要に応じて資料を配布する。	出席状況と筆記試験によって評価する

01 年度以降 00 年度以前	経済外国語Ｉｂ・経営外国語Ｉｂ（中国語） 経済外国語・経営外国語	担当者	全　載旭

講義目的、講義概要	授業計画
中国語や中国経済をもっと深く勉強する。 中国経済が抱えているいろいろな問題を、理解できるように授業を進めていきたい。	
テキスト、参考文献	**評価方法**
必要に応じて資料を配布する。	出席状況と筆記試験によって評価する

01 年度以降 00 年度以前	経済外国語Ｉa・経営外国語Ｉa（留学生） 経済外国語・経営外国語	担当者	J. ブローガン

講義目的、講義概要

Students joining this class will have had varied English learning experiences. The main aim of the course is to develop the ability to converse in simple, non-specialized English. The main vocabulary and grammatical structures to be used the following week will be given out at the end of each class and students will be expected to translate and add to the vocabulary list before the class. Techniques to improve the ability to keep a conversation going will be shown and emphasis will be on improving these techniques rather than just developing a large vocabulary. In this first semester we will cover the main areas of grammar by talking about things we do, have done and will do in our everyday life. The emphasis will be on spoken conversational English.

テキスト、参考文献

Students should have an A4 folder to hold the printouts that will be provided for each class. They must also bring a dictionary to class. An electronic dictionary is highly recommended.

評価方法

Class participation and individual improvement will be the most important factors in grading. Final grades will be based on class work and assigned work, so good attendance is essential. Two times late will equal one time absent and more than three times absent per semester will mean a failing grade.

授業計画

Week 1: Describing people: physical appearances and personalities
Personal information, family and friends
Week 2: Describing things: physical appearances and functions
Week 3: Daily routines (i): the things you do regularly
Using 5W/1H questions to keep a conversation going
Week 4: Daily routines (ii): the things you do regularly
How often you do things in your regular routines, when and for how long each time
Week 5: Daily routines (iii): the things you do regularly
Talking about the past and future
Week 6: Complaints, offers and requests
Week 7: Likes and Dislikes (i): *How you feel about things and activities*
Week 8: Likes and Dislikes (ii): *How much you like or dislike a thing or activity*
Week 9: Abilities (i): *Talking about things you can do*
Week 10: Abilities (ii): *Talking about how good you, and other people, are at doing things*
Week 11: Giving directions: *How to give and understand directions*
Week 12: Plans for the summer:
Talking about future definite, and not so definite, plans

01 年度以降 00 年度以前	経済外国語Ｉb・経営外国語Ｉb（留学生） 経済外国語・経営外国語	担当者	J. ブローガン

講義目的、講義概要

In this second semester we will look at some techniques for maintaining and building vocabulary and on summarizing what we read and hear. In the second half of the semester students will be given short stories, which they will summarize and present to the rest of the class the following week. The emphasis will be on written English.

テキスト、参考文献

Students should have an A4 folder to hold the printouts that will be provided for each class. They must also bring a dictionary to class. An electronic dictionary is highly recommended.

評価方法

Class participation and individual improvement will be the most important factors in grading. Final grades will be based on class work and assigned work, so good attendance is essential. Two times late will equal one time absent and more than three times absent per semester will mean a failing grade.

授業計画

Week 1: Past experiences (i):
Talking about what we did this summer and planning an essay
Week 2: Past experiences (ii)
Going over the 'What I did this summer' essay with classmates
Week 3: Mixing up languages
A look at some of the reasons behind common mistakes
Week 4: Suffixes and Prefixes
How to guess the meaning of new words
Week 5: How to keep and build on what we know
Some techniques for reviewing and building vocabulary
Week 6: Retelling a story (i) *Creating and summarizing stories*
Week 7: Retelling a story (ii) *Creating and summarizing stories*
Week 8: Retelling a story (iii) *Creating and summarizing stories*
Week 9: Retelling a story (iv) *Creating and summarizing stories*
Week 10: Retelling a story (v) *Creating and summarizing stories*
Week 11: Retelling a story (vi) *Creating and summarizing stories*
Week 12: Review
A look at some of the things we have learned and a plan for where to go from here

01 年度以降 00 年度以前	経済外国語Ⅱa・経営外国語Ⅱa 外国書講読	担当者	岡村　国和

講義目的、講義概要	授業計画
本講義の目的は、外国の福祉制度、特に英国の福祉制度や社会保障のアウトラインを知ることにあります。できるだけ平易な文章を選びますが、福祉をめぐる一般用語は専門用語のように一部難解というか普段耳にしない単語、あるいは知っている単語でも決まった専門訳がある単語が出てきますので、注意が必要です。ここを乗り切れば、内容的には我が国も制度とあまり変わりませんので、比較的とりつきやすいと思います。その理由は、日本自体が英国の制度を多く取り入れているからです。 なお、適宜トピックスなどを取り入れていきますので、関連書物（邦文）を図書館などで探して予習・復習することをお薦めします。	参考書などは随時紹介します。 翻訳書がないテキストを使用しますが、関連した内容については邦文の書籍が多数ありますので、概要を知ることはそれ程努力をしなくてもできるかと思います。 ただし、福祉関連の単語は固有の意味を持った専門用語がありますので、解説時に特に注意して指示しますので、注意して下さい。
テキスト、参考文献	**評価方法**
初回に用意しますが、履修者と相談して変更することも可能です。	出席を重視し、講義中の発表回数や小テスト等で評価します。

01 年度以降 00 年度以前	経済外国語Ⅱb・経営外国語Ⅱb 外国書講読	担当者	岡村　国和

講義目的、講義概要	授業計画
秋学期も基本的には春学期と同様の方法で講義を進めます。 ここでは特に年金問題を中心に考えていきますが、福祉全般について興味がある履修者については相談の上、プレゼンテーションを導入することも考えています。 なお、秋学期は特に CD を使って実践的な短文のリスニングの練習を随時行うことを計画していますので、希望があればその旨お知らせ下さい。	参考書などは随時紹介します。 翻訳書がないテキストを使用しますが、関連した内容については邦文の書籍が多数ありますので、概要を知ることはそれ程努力をしなくてもできるかと思います。 ただし、福祉関連の単語は固有の意味を持った専門用語がありますので、解説時に特に注意して指示しますので、注意して下さい。
テキスト、参考文献	**評価方法**
初回に用意しますが、履修者と相談して変更することも可能です。	出席を重視し、講義中の発表回数や小テスト等で評価します。

01 年度以降 00 年度以前	経済外国語Ⅱa・経営外国語Ⅱa 外書講読	担当者	野村　容康

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的　私たちの生活に身近な存在である税制に関する基礎的なテキストを題材にして、そうした個々の税金の仕組み、経済に与える影響、各国での実施状況などについて学んでいく。本講義を終了する頃には、英語の専門書の内容が辞書を引きながらでも何とか理解できるようになることを期待している。 **講義概要**　あらかじめ報告者にその担当箇所を割当て、英文を日本語に訳してもらい、その邦訳に対してコメントを加える形で講義を進める。テキストを一区切り読み終えた段階で、それまでの内容や専門用語に関する小テストを行う。	
テキスト、参考文献	**評価方法**
未定	出席状況・発表の出来・小テストの結果を勘案して評価する。

01 年度以降 00 年度以前	経済外国語Ⅱb・経営外国語Ⅱb 外書講読	担当者	野村　容康

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的　私たちの生活に身近な存在である税制に関する基礎的なテキストを題材にして、そうした個々の税金の仕組み、経済に与える影響、各国での実施状況などについて学んでいく。本講義を終了する頃には、英語の専門書の内容が辞書を引きながらでも何とか理解できるようになることを期待している。 **講義概要**　あらかじめ報告者にその担当箇所を割当て、英文を日本語に訳してもらい、その邦訳に対してコメントを加える形で講義を進める。テキストを一区切り読み終えた段階で、それまでの内容や専門用語に関する小テストを行う。	
テキスト、参考文献	**評価方法**
未定	出席状況・発表の出来・小テストの結果を勘案して評価する。

01 年度以降 00 年度以前	経済外国語Ⅱａ・経営外国語Ⅱａ（中国語） 外国書講読	担当者	全　載旭

講義目的、講義概要	授業計画
この授業では経済・経営外国語Ⅰ（中国語）を履修し、さらに中国経済に関心のある学生を対象にする。 ただし経済・経営外国語Ⅰ（中国語）を履修しなくてもこの授業が履修できる中国語の能力があれば対象にする。授業の内容は履修者の中国語習得レベルに合わせて調整する。 中国政治・経済に関する新聞記事を取り上げて授業を進めるが、必要に応じて講義もする。	
テキスト、参考文献	**評価方法**
必要に応じて資料を配布する。	出席状況と筆記試験によって評価する

01 年度以降 00 年度以前	経済外国語Ⅱｂ・経営外国語Ⅱｂ（中国語） 外国書講読	担当者	全　載旭

講義目的、講義概要	授業計画
最近の中国経済の動向や日中経済関係などの経済関連記事を選び、それに沿って授業を進める。 講読資料の選択には学生諸君の提案も可能である。	
テキスト、参考文献	**評価方法**
必要に応じて資料を配布する。	出席状況と筆記試験によって評価する

01 年度以降 00 年度以前	マクロ経済学 a マクロ経済学	担当者	塩田　尚樹

講義目的、講義概要	授業計画
マクロ経済理論の標準的な内容の理解をめざします．新聞・雑誌などの経済記事を読むための基礎知識としても有効です． まず，「一国全体の経済活動をどのようにとらえるか」ということからスタートし，GDP・国民所得・雇用量といった経済指標を解説します．それから，これらの水準がどのような要因によって決まるのかということに目を向けて，さらに貨幣や証券の需給との関係についても検討します．また，経済活動における金融機関の積極的な役割についても触れる予定です．なお，右の計画は最速の場合を想定しています． 見慣れない記号や用語が多く登場すると思います．また内容も，はじめは抽象的に感じられるかもしれません．けれども，一度『ノル』と後は一本調子です．一気に見通しがよくなると思います．そこまで辛抱してください． 「各人の授業を受ける権利」は「他の人の授業を受ける権利」を侵害しない範囲内で行使されるべきだと考えますので，授業態度のよくない人は退出してもらいます．	1. マクロ経済学的な視点の必要性 2. GDP とは？（簡単な計算例） 3. 国民経済計算の三面等価 4. GDP 決定の理論 5. 財政政策の効果 6. 貨幣とは？ 7. 証券市場と利子率 8. GDP と利子率の同時均衡 9. 財政政策の効果の修正 10. 金融機関の主体的行動 11. 金融政策の効果 12. まとめ

参考文献	評価方法
菊本義治 他(1999)「マクロ経済学」勁草書房	定期試験で評価します．なお，講義中の私語などの迷惑行為で減点する場合があります．

01 年度以降 00 年度以前	マクロ経済学 b マクロ経済学	担当者	塩田　尚樹

講義目的、講義概要	授業計画
2006 年度の「マクロ経済学 a」の内容の理解を前提として進めます．履修しなかった人は独習が必要です． なお，春学期の進度に応じて授業計画を変更する場合がありますので，第一回目の授業には必ず出席してください． まず，対基準年比や成長率など経済変数の長期の動きをとらえる概念について解説します．その後，「工場を新設する，機械を増設する」といった企業の投資行動が，経済全体の生産力を増大させる，という側面に目を向け，景気循環，および，経済成長について分析します．また，人口成長や技術革新が経済活動にどのように影響するのか，についても考察します． なお，春学期同様，「各人の授業を受ける権利」は「他の人の授業を受ける権利」を侵害しない範囲内で行使されるべきだと考えますので，授業態度のよくない人は退出してもらいます．	1. 春学期の概要と秋学期の授業計画の確認 2. 対基準年比，成長率，および，寄与率 3. さまざまな「平均」概念 4. ラスパイレス指数とパーシェ指数 5. 指数概念の応用例 6. 投資の二面性 7. 「望ましい」投資と経済成長率 8. 人口成長と技術革新の影響 9. 現実的な投資活動と不安定性 10. 経済成長についての異なる見方 11. 不安定性は解消されるか? 12. まとめ

参考文献	評価方法
菊本義治 他(1999)「マクロ経済学」勁草書房	定期試験で評価します．なお，講義中の私語などの迷惑行為で減点する場合があります．

01 年度以降 00 年度以前	マクロ経済学 a マクロ経済学	担当者	山下　裕歩

講義目的、講義概要	授業計画
マクロ経済学は、一国の経済活動全体を国内総生産、利子率、失業率、貨幣供給量といった変数を用いて記述する学問である。この講義では、マクロ経済学の入門・初級を扱う。 主要な目的は、上記のような経済変数がいかにして決定されるのかを考えることである。そのための基本的なマクロ経済モデルである、45 度線モデル、IS－LM モデル、総需要総供給モデル（AD－AS モデル）、古典派モデルを学習する。上記４つのモデルの類似点・相違点を理解することが最終目標である。 進展具合によっては、授業計画の後半部分を秋学期のマクロ経済学ｂで講義する場合があるので、秋学期も受講することが望ましい。	１．マクロ経済学とは？ ２．完全雇用と不完全雇用 ３．セイ法則と有効需要原理 ４．消費 ５．45 度線モデル ６．投資 ７．貨幣 ８．IS－LM モデル ９．AD-AS モデル １０．古典派のモデル １１．財政政策 １２．金融政策
	評価方法
レジメを配布する。 参考文献は授業中に紹介する。	期末テストの点数を基本としながら、小テスト、レポート、出席も考慮して総合的に評価する。

01 年度以降 00 年度以前	マクロ経済学 b マクロ経済学	担当者	山下　裕歩

講義目的、講義概要	授業計画
春学期のマクロ経済学ａで学習したことを基礎知識としながら、国際経済を分析するマクロ経済モデルへ拡張すること、経済成長を分析するマクロ経済モデルへ拡張することを主に考えます。	１．インフレーション ２．国際収支 ３．開放経済 ４．IS-LM-BP モデル ５．為替レート ６．経済成長の原動力 ７．ソローモデル ８．ハロッド・ドーマーモデル ９．人的資本 １０．研究開発
テキスト、参考文献	**評価方法**
レジメを配布する。 参考文献は授業中に紹介する。	期末テストの点数を基本としながら、小テスト、レポート、出席も考慮して総合的に評価する。

01 年度以降 00 年度以前	ミクロ経済学 a ミクロ経済学	担当者	秋吉　史夫

講義目的、講義概要	授業計画
＜講義の目的＞ 私達は様々な経済現象に直面しています。ミクロ経済学は、経済現象を理解し、うまく対処するための便利な道具を提供してくれます。この授業では、ミクロ経済学の基礎的な道具の使い方を解説し、皆さんが経済学を自由に使いこなすための橋渡しになることを目的としています。 具体的には、第 1 に諸概念の直感的な理解を得ることを目的とします。第 2 に諸概念の抽象的な記号表現をマスターすることを目的とします。以上は専門課程に進み、応用をおこなうときに必要不可欠なものとなります。 ＜講義の方針＞ できるだけ予備知識を前提とせず、授業内で自己完結した形で講義を行います。身近な経済現象をミクロ経済学で分析するとどうなるか？を折に触れて解説します。	1　イントロダクションおよび最大化の計算の仕方 2　独占市場：利潤を最大にする価格設定 3　ナッシュ均衡：駆け引きのとらえ方 4　ゲーム理論 1（戦略形）：ジャンケン型のゲーム 5　ゲーム理論 2（展開形）：時間をともなうゲーム 6　他のゲーム理論の応用例 7　寡占市場 1：生産量での競争 8　寡占市場 2：価格での競争 9　不確実性について 10　時間が余れば補足的なトッピクスを説明します。 11　時間が余れば補足的なトッピクスを説明します。 12　時間が余れば補足的なトッピクスを説明します。

テキスト、参考文献	評価方法
参考文献: ①大西広・三土修平編 『新しい教養のすすめ経済学』昭和堂　2002 年　②神戸伸輔著 『入門　ゲーム理論と情報の経済学』日本評論社　2004 年	試験で評価します。

01 年度以降 00 年度以前	ミクロ経済学 b ミクロ経済学	担当者	秋吉　史夫

講義目的、講義概要	授業計画
講義の目的・方針ともに、春学期と同じです。秋学期は完全競争市場についての講義をします。	1　イントロダクション 2　市場における需要と供給の作用 3　弾力性とその応用 4　需要、供給、および政府の政策 5　消費者、生産者、市場の効率性 6　応用：課税の費用 7　応用：国際貿易 8　外部性 9　公共財と共有資源 10　時間が余れば補足的なトッピクスを説明します。 11　時間が余れば補足的なトッピクスを説明します。 12　時間が余れば補足的なトッピクスを説明します。

テキスト、参考文献	評価方法
N・グレゴリー・マンキュー著『マンキュー経済学 I ミクロ編　第 2 版』　東洋経済新報社　2005 年	試験で評価します。

01 年度以降 00 年度以前	ミクロ経済学 a ミクロ経済学	担当者	小林　進

講義目的、講義概要	授業計画
受講者が経済理論を理解して現実の経済問題に応用できる水準に達することを目標とする。ただし受講者のすべての人のレベルが必ずしも高いとはいえないので、場合によっては初歩的な経済理論についても随時触れる予定である。参考書については（原則として本学図書館にあるもの）必要に応じて推薦し、受講者の一層の学習努力を促すようにする。	最初の講義のときにプリント配布 （完全競争を中心として講義）
テキスト、参考文献	**評価方法**
使用しない。参考文献は講義の中で指示する。	学期末試験

01 年度以降 00 年度以前	ミクロ経済学 b ミクロ経済学	担当者	小林　進

講義目的、講義概要	授業計画
受講者が経済理論を理解して現実の経済問題に応用できる水準に達することを目標とする。ただし受講者のすべての人のレベルが必ずしも高いとはいえないので、場合によっては初歩的な経済理論についても随時触れる予定である。参考書については（原則として本学図書館にあるもの）必要に応じて推薦し、受講者の一層の学習努力を促すようにする。	最初の講義のときにプリント配布 （不完全競争を中心として講義）
テキスト、参考文献	**評価方法**
使用しない。参考文献は講義の中で指示する。	学期末試験

01 年度以降 00 年度以前	経済学史 a 経済学史	担当者	黒木　亮

講義目的、講義概要	授業計画
講義の目的 本講義の目的は，経済学の形成過程を追体験し，経済理論への理解を深めてゆくための手がかりとして，経済学者が実際に取り組んだ問題や社会的背景，時代的文脈を考察することである. 講義の概要 近代自由主義社会の確立を基礎づけた 17 世紀の経済思想から，19 世紀末の経済思想までを通覧する.	1　ガイダンス 　　経済学史とはどのような学問か 2　ロックとヒューム 　　市場社会の成立を支えた思想 3　フランソワ・ケネー 　　人類最初のエコノミスト 4-5 アダム・スミス 　　市場社会の仕組みを解明した経済学の父 6　ジェレミー・ベンサム 　「最大多数の最大幸福」を夢想した功利主義者 7　トーマス・ロバート・マルサス 　　市場社会における貧困と「人口の原理」 8　デイビッド・リカードウ 　　古典派経済学の体系化 9　ジョン・スチュアート・ミル 　　功利主義思想と古典派経済学の批判的統合 10-11 カール・マルクス 　　資本主義社会と古典派経済学への根源的批判 12　まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
高哲男編『自由と秩序の経済思想』名古屋大学出版会，2002.	レポート，期末試験.

01 年度以降 00 年度以前	経済学史 b 経済学史	担当者	黒木　亮

講義目的、講義概要	授業計画
講義の目的 本講義の目的は，経済学の形成過程を追体験し，経済理論への理解を深めてゆくための手がかりとして，経済学者が実際に取り組んだ問題や社会的背景，時代的文脈を考察することである. 講義の概要 19 世紀末の経済思想から，われわれの社会を支え，将来を基礎づけるであろう経済思想までを通覧する.	1　ガイダンス 　　春季から秋季への橋渡し 2　グスタフ・シュモラー 　　新歴史学派の社会政策思想 3　カール・メンガー 　　主観主義のミクロ経済学 4　ジェヴォンズとワルラス 　　経済学の数理科学化 5-6　アルフレッド・マーシャル 　　「冷静な頭脳と暖かい心」の経済学 7-8　ソースティン・ヴェブレン 　　大量生産・大量消費社会の制度分析 9　ヨゼフ・シュンペーター 　　企業者の創造的破壊が生み出すダイナミクス 10-11 ジョン・メイナード・ケインズ 　　貨幣経済のマクロ分析 12　まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
高哲男編『自由と秩序の経済思想』名古屋大学出版会，2002.	レポート，期末試験.

01 年度以降 00 年度以前	経済変動論 a 経済変動論	担当者	山下　裕歩

講義目的、講義概要	授業計画
現実の経済においては、あらゆる経済変数が変動している。GDP、失業率、貨幣供給量、為替レートなどが例である。 この講義では、次のことを考えていくことを目標とする。 第一に、これらの変数は、何故変動するのか。 第二に、変動することは良いことなのか悪いことなのか。 第三に、変動することが悪いことである場合、変動を停止させることは出来るか。 まず、春学期では、経済変動を経済成長論の観点から学習する。	1．経済変動とは？ 2．経済の主役 3．均衡と不均衡 4．数学の準備 5．経済成長論の概説 6．ソローモデル 7．ハロッド・ドーマーモデル 8．人的資本 9．内生的成長モデル
テキスト、参考文献	**評価方法**
講義の時に、レジメを配布し、教科書は特に指定しない。 参考書は講義中に適宜紹介する。	期末テストの点数を基本としながら、小テスト、レポート、出席も考慮して総合的に評価する。

01 年度以降 00 年度以前	経済変動論 b 経済変動論	担当者	山下　裕歩

講義目的、講義概要	授業計画
秋学期では、経済変動論を主に景気循環論の観点から考える。	1．景気循環論の概説 2．乗数加速度モデル 3．実物的景気循環論 4．不決定性 5．カオス 6．制度 7．ミクロ・マクロループ 8．停滞と成長 9．複数均衡
テキスト、参考文献	**評価方法**
講義の時に、レジメを配布し、教科書は特に指定しない。 参考書は講義中に適宜紹介する。	期末テストの点数を基本としながら、小テスト、レポート、出席も考慮して総合的に評価する。

01 年度以降 00 年度以前	経済統計論 a 経済統計論	担当者	松本　正信

講義目的、講義概要	授業計画
経済統計は現に経済現象のほとんどあらゆる方面に関連し、また実際の調査もなされているから、これを全て講義の対象としたのではとても時間が足りないし、また大学の経済学講義の一環としての意義も乏しい。それらは実社会にあって実際に必要になってから参照すればよい。 本講では「経済統計」をば、むしろ体系的、方法的ならびに経済理論的な対応において次の三部構成でなされよう（秋学期内容を含む）。すなわち経済統計学の理論的枠組みを理解していただくことが、講義の狙いである。ゆえに受講生は「経済統計論 a」「経済統計論 b」を共に履修すること。 第Ⅰ部　指数の問題、その成り立ちと理論的根拠 第Ⅱ部　国民所得統計と産業連関表 第Ⅲ部　時系列分析と回帰分析 以上、詳しくは授業計画を見られよ。ただし、講義の順序はこの通りとは限らない。	以下の項目を各 1～3 回にわたる講義で進める予定である。 序　論　経済と経済統計と経済学 第Ⅰ部　指数 1　指数について（指数理論） 2　平均値について 3　物価指数と数量指数 4　消費者物価指数（付論：消費者選考理論とヴォルトケウィッチの関係式） 5　その他の物価指数の例と各種デフレーター 6　生産数量と生産指数－いくつかの代表例 第Ⅱ部　国民所得統計と産業連関表 1　国民所得統計と国民所得分析 2　社会会計の考え方とマトリックス （2 の付論：コンピュータ通信システムの発達と国民総背番号制） 3　新 SNA 4　産業連関表 5　産業連関分析とその応用 （経済統計論 b へ続く）
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト：　森田優三『経済統計読本』東洋経済新報社、1991 年（21 刷） 参考文献：　講義の都度指示	春学期末定期試験によって評価する。

01 年度以降 00 年度以前	経済統計論 b 経済統計論	担当者	松本　正信

講義目的、講義概要	授業計画
経済統計は現に経済現象のほとんどあらゆる方面に関連し、また実際の調査もなされているから、これを全て講義の対象としたのではとても時間が足りないし、また大学の経済学講義の一環としての意義も乏しい。それらは実社会にあって実際に必要になってから参照すればよい。 本講では「経済統計」をば、むしろ体系的、方法的ならびに経済理論的な対応において三部構成でなされよう（「経済統計論 a」参照）。すなわち経済統計学の理論的枠組みを理解していただくことが、講義の狙いである。ゆえに本講義は受講生諸君が「経済統計論 a」履修していることを前提として行う。 以上、詳しくは授業計画を見られよ。ただし、講義の順序はこの通りとは限らない。	以下の項目を各 1～3 回にわたる講義で進める予定である。 第Ⅲ部　時系列分析と回帰分析 1　時系列データとその解析 2　時系列分析　― トレンド（趨勢、傾向線）、循環変動、季節変動、不規則変動　― 3　時系列分析の方法　― 移動平協法、趨勢線のあてはめ、他　― 4　景気動向指数　― ディフュージョン・インデックス　― 5　回帰分析と回帰方程式 6　計量経済学の方法 7　構造推計と将来予測
テキスト、参考文献	**評価方法**
経済統計論 a と同じ	秋学期末定期試験によって評価する。

01 年度以降 00 年度以前	計量経済学 a 計量経済学	担当者	宮崎　憲治

講義目的、講義概要	授業計画
計量経済学は、経済データと経済モデルを使って経済現象を解明する学問です。経済モデルについては、各種の経済学の授業で、いくつかは既に学習済みであり、またこれから学習するでしょう。この春学期の「計量経済学 a」では、基礎的な数理統計学の考え方および、経済データへの応用を、基本から講義します。この講義は数学になじみがない方も努力をすれば受講可能です。	経済統計とは何か データの特性値 度数分布 多変数データの整理 データの加工 経済変数間の関係分析 確率変数と確率分布 標本分布と確率モデル 推定と検定 回帰モデルによる統計的分析
テキスト、参考文献	**評価方法**
参考書(教科書という意味でない)：田中勝人『経済統計』岩波書店・鳥居泰彦『初めての統計学』日本経済新聞社	受講者数が 50 人を超える場合は定期テスト、50 人以下の場合はレポート

01 年度以降 00 年度以前	計量経済学 b 計量経済学	担当者	宮崎　憲治

講義目的、講義概要	授業計画
計量経済学は、経済データと経済モデルを使って経済現象を解明する学問です。経済モデルについては、各種の経済学の授業で、いくつかは既に学習済みであり、またこれから学習するでしょう。この秋学期の「計量経済学 b」では、春学期の「計量経済学 a」を前提に、経済データへの応用を、より深く講義します。この講義は数学になじみがない方も努力をすれば受講可能です。	計量経済学とは 最小２乗法 単純回帰分析 多重回帰モデル モデルの関数型と特殊な変数 Ｆ検定と構造変化の検定 分布ラグ・モデル 標準的仮定の意味と不均一分散 攪乱項の系列相関 説明変数と攪乱項の相関 同時方程式モデル
テキスト、参考文献	**評価方法**
参考書(教科書という意味でない)：山本拓『計量経済学』新生社・白砂提津耶『例題で学ぶ初歩からの計量経済学』日本評論社	受講者数が 50 人を超える場合は定期テスト、50 人以下の場合はレポート

01 年度以降 00 年度以前	経済政策論 a 経済政策論	担当者	阿部　正浩

講義目的、講義概要	授業計画
この授業では、法と経済に関する様々なトピックスについて講義をします。 日々様々な経済問題が司法の場で解決されています。たとえば、マンション景観問題や知的財産所有権の問題などですが、これらには法学と経済学の狭間に重要な問題をはらんでいると考えられています。 この授業では、法と経済、および関連する諸政策を分析するための基礎的枠組みを講義します。	１．はじめに ２．情報の経済学 I ３．情報の経済学 II ４．モラルハザード I ５．モラルハザード II ６．予備日 ７．アドバースセレクション I ８．アドバースセレクション II ９．アドバースセレクション III １０．　インセンティブ契約 I １１．　インセンティブ契約 II １２．　インセンティブ契約 III
テキスト、参考文献	**評価方法**
授業中に指示する。	授業中のレポートと期末テストによる。

01 年度以降 00 年度以前	経済政策論 b 経済政策論	担当者	阿部　正浩

講義目的、講義概要	授業計画
上記参照のこと。なお、春学期の授業を履修していない者は、秋学期の履修を原則として認めない。	１．法と経済学入門 ２．コミットメントと完備契約 I ３．コミットメントと完備契約 II ４．情報開示 I ５．情報開示 II ６．予備日 ７．契約法の経済学 I ８．契約法の経済学 II ９．契約法の経済学 III １０．　不完備契約とコーポレート・ガバナンス I １１．　不完備契約とコーポレート・ガバナンス II １２．　不完備契約とコーポレート・ガバナンス III
テキスト、参考文献	**評価方法**
授業中に指示する。	授業中のレポートと期末テストによる。

01 年度以降 00 年度以前	経済開発論 a 経済開発論	担当者	千代浦　昌道

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的 経済開発の歴史、理論、戦略などを分析し、それらを発展途上国の経済開発の現状にどのように適合させれば健全で持続可能な発展ができるかを探る。また、その目的のために先進国はどのような協力ができるかを考える。 講義概要 経済開発論の総論部分である。経済開発論の学問的位置づけ、統計で見た発展途上国の現状・定義・分類ならびに経済開発に関連する基礎知識の充実を図る。	1. 経済開発論をなぜ学ぶか／授業の進め方／参考文献・統計資料の紹介 2. 経済開発論の学問的位置づけ／理論・政策・戦略／成長と発展 3. 経済開発論と価値観・世界観／経済成長は望ましいか 4. 発展途上国の定義と分類 5. 人間開発指標（HDI）とセンの思想 6. 国連ミレニアム開発目標（MDGs）と達成目標 7. 経済成長と所得分配 8. 人口の増加・都市化問題 9. 全要素生産性と社会・文化的諸条件 10. 教育と開発 11. 参加型開発と女性 12. ガバナンスと経済発展 13. 地球環境問題と持続的成長
テキスト、参考文献	**評価方法**
特に指定しない。	期末の定期試験による。随時に出欠をとり評価の参考資料とする。

01 年度以降 00 年度以前	経済開発論 b 経済開発論	担当者	千代浦　昌道

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的 経済開発の歴史、理論、戦略などを分析し、それらを発展途上国の経済開発の現状にどのように適合させれば健全で持続可能な発展ができるかを探る。また、その目的のために先進国はどのような協力ができるかを考える。 講義概要 経済開発論の各論部分である。まず経済発展の理論、開発政策・戦略の概略を説明し、つぎに農業・農村開発、工業化、国際貿易、外国直接投資流入、債務問題、国際援助等が途上国経済開発に与えるさまざまな影響を明らかにする。	1．経済発展のモデル（古典派、K. マルクス、ハロッド＝ドマー理論、ロストウ、ガーシェンクロン、シュンペーター、新古典派、チェネリー、従属理論、E.F.シューマッハー、新自由主義、新混合経済主義） 2．農業・農村開発の重要性（植民地経済とモノカルチャー、農地改革、農業開発と農村開発） 3．工業化と開発戦略（均整成長論とﾋﾞｯｸﾞﾌﾟｯｼｭ、不均整成長論と連関効果） 4．国際貿易と開発（重商主義とアダム・スミス、比較生産費の原理、プレビッシュ＝シンガー・テーゼ、従属理論、新国際経済秩序、輸入代替工業化、輸出促進工業化、関税と為替レート、地域経済統合の進展） 5．多国籍企業と発展途上国（直接投資理論、多国籍企業と途上国経済） 6．国際収支と途上国債務問題（国際収支構造と経済発展、累積債務問題、世銀／IMF批判、債務＝環境スワップ） 7．国際援助と開発（国際政治の潮流と第三世界、国際援助の現状、人間の基本的ニーズ、構造調整融資、草の根援助とNGO、国際援助の展望）
テキスト、参考文献	**評価方法**
特に指定しない。	期末の定期試験による。随時に出欠をとり評価の参考資料とする。

01 年度以降	環境政策論 a	担当者	塩田　尚樹

講義目的、講義概要	授業計画
環境政策の手段の有効性について，ミクロ経済学の立場から検討します．環境問題の具体的なトピックとしては，主として地球温暖化問題を取り上げます． 環境税や排出量取引のような「経済的」手段が，直接規制などの「非経済的」手段と比べてどう優れているのかが主要論点です．ここでは，ミクロ経済学で学ぶ資源配分の効率性についての考え方が基礎になります． なおこの講義では履修者の予備知識に配慮し，利用するミクロ経済理論の抽象度を二段階に分ける予定です．春学期は，主に図を使って理論を展開します．企業行動･家計行動について，まず極限概念をまったく使用せずに解説を試み，その後ミクロ経済学でおなじみの限界費用・限界便益といった概念との関連について解説する予定です． 「各人の授業を受ける権利」は「他の人の授業を受ける権利」を侵害しない範囲内で行使されるべきだと考えますので，授業態度のよくない人は退出してもらいます． 「ミクロ経済学」,「公共経済学」,「環境経済学」などの科目を合わせて履修すると，相互に理解が深まると思います．強制ではありませんが，履修選択の際の参考にしてください．	1　授業のねらいと方針 2　地球温暖化問題の概説(1) 3　地球温暖化問題の概説(2) 4　環境問題の経済学的把握 5　利潤と単位当たり変化量のグラフ化 6　企業行動と環境汚染による家計の被害 7　市場均衡と社会的最適汚染量 8　ピグー税による「最適性」の回復 9　ピグー税の難点 10　汚染削減費用の最小化 11　排出量取引制度 12　まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
塩田尚樹「環境税の経済学的基礎」（ホームページよりダウンロード可能にする予定）	定期試験で評価します．なお，講義中の私語などの迷惑行為で減点する場合があります．

01 年度以降	環境政策論 b	担当者	塩田　尚樹

講義目的、講義概要	授業計画
今年度の「環境政策論 a」の内容の理解を前提として進めます．履修しなかった人は，独習してください． 「環境政策の手段の有効性について，ミクロ経済学の立場から検討する」というテーマは春学期と全く同じですが，議論の一般性を追求するため，利用するミクロ経済理論が少し抽象的になります．分析ツールとして，「微分による関数の極値問題の解法」などの数学的概念を使用します．履修者の知識に合わせて数学的準備の時間を設定しますので，第一回目の授業には必ず出席してください．なお，春学期の進度に応じて授業計画を変更する場合があります． 春学期同様，「各人の授業を受ける権利」は「他の人の授業を受ける権利」を侵害しない範囲内で行使されるべきだと考えますので，授業態度のよくない人は退出してもらいます． 「ミクロ経済学」,「公共経済学」,「環境経済学」などの科目を合わせて履修すると，相互に理解が深まると思います．強制ではありませんが，履修選択の際の参考にしてください．	1　授業のねらいと方針 2　関数の平均変化率 3　微分係数と導関数 4　最適化問題の解法(1) 5　最適化問題の解法(2) 6　企業行動(1) 7　企業行動(2) 8　家計行動 9　市場均衡と資源配分の効率性 10　ピグー税の効果 11　汚染削減費用の最小化 12　まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
履修者の予備知識を確認し，講義中に指示します．	定期試験で評価します．なお，講義中の私語などの迷惑行為で減点する場合があります．

01 年度以降 00 年度以前	日本経済史 a 日本経済史	担当者	奈倉　文二

講義目的、講義概要	授業計画
本講義は、戦前（第二次大戦前）日本における独特の資本主義成立・発展過程を述べながら、とくに財閥などの大企業システムはどのように成立し、どのような特徴をもっていたのか、を明らかにする。 国際環境との関連に留意しながら、日本資本主義の成立発展過程（とくに独占資本形成確立過程）を概観した上で、1920 年代を中心に「戦前日本型大企業システム」の特徴を明らかにし（全体構造及び財閥・紡績独占・国家資本の類型別）、さらに鉄鋼独占についてやや詳述する。 現在作成中の講義要綱が間に合えばテキストとして使用する。間に合わない場合は、講義資料を必要に応じて配布する。	**1**　はじめに **2**　幕末維新期の経済社会（発展段階と構造） **3**　日本資本主義の形成（1870 年代～90 年代） **4**　同（その２） **5**　資本主義の確立と帝国主義転化（1900 年前後） **6**　独占資本の確立過程（1907 年頃～1920 年代） **7**　同（その２） **8**　戦前日本型大企業システム （財閥・紡績独占・国家資本） **9**　同（その２） **10**　同（その３） **11**　鉄鋼独占（その１） **12**　同　　（その２） （項目・順序は変更することがあり得る。）
テキスト、参考文献	**評価方法**
講義要綱（仮称『日本資本主義の発展と産業企業』）。 大石嘉一郎『日本資本主義の歩み』東京大学出版会、 その他必要に応じて指示する。	筆記試験。

01 年度以降 00 年度以前	日本経済史 b 日本経済史	担当者	奈倉　文二

講義目的、講義概要	授業計画
本講義は、昭和恐慌・準戦時経済及び戦時経済から「戦後改革」を経て「高度成長」に至る日本資本主義の構造変化・発展過程を述べながら、とりわけ日本独特の大企業システムがいかなる歴史過程のもとで、どのような特徴をもって形成されてきたのかを明らかにする。 現在作成中の講義要綱が間に合えばテキストとして使用する。間に合わない場合は、講義資料を必要に応じて配布する。 「日本経済史 a」の受講をしていることが講義内容理解の上で望ましい。	**1**　はじめに **2**　金解禁・昭和恐慌と準戦時経済（1931～36） **3**　旧財閥の転換と新興コンツェルン **4**　戦時統制経済（1937～45）の特徴 **5**　戦時「重化学工業化」と独占資本 **6**　戦後改革と財閥解体 **7**　日本資本主義の復興・再建 **8**　企業集団の形成 **9**　日本経済の「高度成長」と寡占資本間競争 **10**　重化学工業化と鉄鋼独占 **11**　企業集団の発展 **12**　企業集団体制の定着（と変容） （項目・順序は変更することがあり得る。）
テキスト、参考文献	**評価方法**
講義要綱（仮称『日本資本主義の発展と産業企業』）。 山本・寺谷・奈倉『近代日本経済史』有斐閣（新書）、 その他必要に応じて指示する。	筆記試験。

01 年度以降 00 年度以前	日本社会史 a 日本社会史	担当者	新井　孝重

講義目的、講義概要	授業計画
◎　十四世紀の物質文化と東アジア交通との関係を論ずる ・　バサラ大名の美意識 ・　大陸からの経済の波 ・　ユニークな「元」帝国 ・　にぎわう東シナ海 ・　貿易の構造 ・　禅律文化の国際性	1　大名たちの競争的な浪費 2　「自由狼藉」・綾羅錦繍・唐物 3　新安沖沈没船に積まれていた物資 4　中国経済の世界規模の拡がり 5　拡がりの起動力となった「元」 6　海の交通、泉州・寧波に浮かぶ船 7　中国の船・日本の船 8　戦争と貿易の共存 9　再び新安船から考える　「寺社造営料唐船」 10　貿易を担う組織 11　中国に渡る日本の僧 12　禅文化が日本列島にもたらしたもの
テキスト、参考文献	**評価方法**
村井章介編『南北朝の動乱』(吉川弘文館、2003 年)	出席状態 試験成績

01 年度以降 00 年度以前	日本社会史 b 日本社会史	担当者	新井　孝重

講義目的、講義概要	授業計画
◎　十四世紀における悪党と天皇子息たちの動きを内乱史の中で観察する。 ・　宮(みや)の武力の淵源　(悪党狼藉) ・　宮の武力の爆発　(元弘内乱) ・　宮の武力の終息　(幕府成立) ・　網野史学を読む	1　「武勇」のかたち 2　〈悪〉の変化、〈悪〉の増殖 3　権力を飲み込む 4　楠木乱国 5　大衆に依拠する天皇(そのⅠ) 6　大衆に依拠する天皇(そのⅡ) 7　動きを止める武士 8　武士の生き残り策(そのⅠ) 9　武士の生き残り策(そのⅡ) 10　列島に散る宮たち 11　観応擾乱期の常陸親王 12　中世の権威と卑賤観をめぐって
テキスト、参考文献	**評価方法**
村井章介編『南北朝の動乱』(吉川弘文館、2003 年)	出席状態 試験成績

01 年度以降 00 年度以前	西洋経済史 a 西洋経済史	担当者	御園生　眞

講義目的、講義概要	授業計画
現代経済の起点となる産業革命について、そのモデル的事例であるイギリス産業革命を対象とし、特徴と問題点を新しい視点を加えつつ多面的に考察する。 （注意） 最新のシラバスは、第 1 回の授業で配布するので履修者は必ず出席すること。 授業のマナーを守り遅刻しない。 このシラバスの予定は変更される場合がある。 試験は持ち込みなし、論述問題で行う。 教職課程の科目として履修する場合は、3 年生で履修すること。4 年で履修すると教育実習などにより出席回数が不足するので注意すること。	1　ガイダンスと序論 2～3　イギリス産業革命の前提条件 4～11　イギリス産業革命の展開 資本と労働力 技術革新 企業家 貿易構造 12　まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
第 1 回の授業で説明する。	単位認定の条件は、8 回以上の授業出席と試験成績 60 点以上の両方を満たすこと。

01 年度以降 00 年度以前	西洋経済史 b 西洋経済史	担当者	御園生　眞

講義目的、講義概要	授業計画
後発諸国は、イギリス産業革命をモデルとしつつ独自の産業革命・工業化を展開する。この後発諸国の産業革命の特徴と問題点について、大陸ヨーロッパの諸国の事例を対象として考察する。 （注意） 最新のシラバスは第 1 回の授業で配布するので 履修者は必ず出席すること。 授業のマナーを守り遅刻しない。 このシラバスの予定は変更される場合がある。 試験は持ち込みなし、論述問題で行う。 教職課程の科目として履修する場合は、3 年生で履修すること。4 年で履修すると教育実習などにより出席回数が不足するので注意すること。	1　ガイダンスと序論 2～4　後発国の産業革命・工業化の前提条件 5～8　後発国の産業革命・工業化の展開 9～11　後発国の産業革命・工業化の特徴と問題点 12　まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
第 1 回の授業で説明する。	単位認定の条件は、8 回以上の授業出席と試験成績 60 点以上の両方を満たすこと。

01 年以降 00 年以前	国際経済論 a 国際経済論	担当者	益山　光央

講義目的、講義概要	授業計画
国際経済を理解するのに最低限必要と思われる基本的事項を講義します。講義の中心は貿易理論、国際貿易の一般均衡、貿易政策となります。講義で扱う内容は、よりすすんだ諸理論を学ぶのに必須の事項なので厳密な展開を心がけたい。	1　入門 2　リカード的比較優位説 3　ヘクシャー・オリーン定理 4　ヘクシャー・オリーン定理 5　国際貿易の一般均衡 6　国際貿易の一般均衡 7　経済成長と貿易 8　国際生産要素移動 9　国際生産要素移動 １０　関税・輸入数量制限 １１　関税・輸入数量制限 １２　まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
大山道広・伊藤元重『国際貿易』　岩波書店	定期試験８０％、出席２０％

01 年以降 00 年以前	国際経済論 b 国際経済論	担当者	益山　光央

講義目的、講義概要	授業計画
春学期に扱った貿易理論とともに国際経済学の柱である国際収支調整メカニズムに関連する事柄を学びます。 国際収支の赤字、黒字からはじまり、だんだんと高度な内容へと移行します。すべて基本的内容なので、きちんと理解する必要があります。 春学期の国際経済論 a を履修しているほうがより理解が深まります。	1　国際収支と国民所得勘定 2　国際収支と国民所得勘定 3　外国為替市場 4　外国為替市場 5　外国為替市場 6　固定相場制下の所得決定 7　固定相場制下の所得決定 8　変動相場制下の所得決定 9　変動相場制下の所得決定 １０　国際収支と財政・金融政策 １１　国際資本移動と財政・金融政策 １２　まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
未定	定期試験８０％、出席２０％

01 年度以降 00 年度以前	国際金融論 a 国際金融論	担当者	山本　美樹子

講義目的、講義概要	授業計画
現実の国際的現象を理解する上で基本となる事柄についての説明をしていく。 最低限の理論的な分析も含め、あくまでも現実の経済の現象を理解することを目標とする。 春学期は原則として国際金融論の基本的な事柄について講義を進めていく。 講義はパワーポイントを使ってする。	１．　**イントロダクション** ２．　**国際収支構造** ①　国際収支表 ３．　②　経常収支が黒字であることの意味 ４．　③　経常収支の金融的側面 ５．　④　J カーブ効果 ６．　**外国為替市場と為替レート** ①　外国為替相場 ７．　②　リスクヘッジ ８．　③　投機(i) ９．　投機(ii) １０．　④　介入 １１．**外国為替相場決定の理論** ①　アセットアプローチ １２．　②　フローアプローチ 購買力平価説
テキスト、参考文献	**評価方法**
未定 講義初回に提示	講義時の小テストと 学期末試験

01 年度以降 00 年度以前	国際金融論 b 国際金融論	担当者	山本　美樹子

講義目的、講義概要	授業計画
春学期に学んだことを基礎として、国際金融論にとって応用的なことを中心に講義する。 また 21 世紀に進んでいるリージョナリズムを背景として、今後の通貨体制について考えていく。	１．　**固定相場制** ①　金本位制 ２．　②　IMF のブレトンウッズ体制 ３．　**開放マクロ経済学** ①　外国貿易乗数 ４．　②　固定相場制の開放マクロ経済政策 ５．　③　マンデルフレミングモデル ６．　④　変動相場制の開放マクロ経済政策 ７．　⑤　国際政策協調 ８．　**国際資本移動** ①　国際資本取引の拡大 ９．　②　金融デリバティブ取引１ １０．　**リージョナリズムと国際通貨体制** ①　欧州通貨統合 １１．　②　東アジアの通貨統合 １２．　**まとめ**
テキスト、参考文献	**評価方法**
未定 講義時に提示	講義時の小テストと 学期末試験

01 年度以降 00 年度以前	日本経済論 a 日本経済論	担当者	波形　昭一

講義目的、講義概要	授業計画
現在の日本経済を理解するには、その生い立ちを知っておくことが重要である。とりわけ高度成長期についての知識が不可欠である。そのため「日本経済論 a」では、高度成長期における日本経済の問題を中心に講義する。 なお、本講義は内容上、春学期・秋学期を通して聴講するのが望ましい。	1．はじめに 2．戦後民主化政策と経済改革 3．戦後経済復興対策 4．ドッジ・ラインとシャウプ勧告 5．朝鮮戦争と日本経済 6．高度成長時代の到来 7．高度成長の構造 8．高度成長の精神的土台 9．高度成長の時代背景 10．高度成長の終焉(1)　ドル・ショック 11．高度成長の終焉(2)　オイル・ショック 12．日本経済の構造転換
テキスト、参考文献	**評価方法**
主に統計表などのプリントを配布。	学期末試験の結果（通年講義は春学期・秋学期の合計）で評価する。相対評価方法を採用。

01 年度以降 00 年度以前	日本経済論 b 日本経済論	担当者	波形　昭一

講義目的、講義概要	授業計画
1970 年代後半から日本経済をめぐる内外の諸環境は大きく構造転換し、その結果として現在の日本経済がある。したがって「日本経済論 b」では、春学期の講義をふまえつつ、70 年代後半からの日本経済の構造変化、その結果としてのバブル経済と「失われた 10 年」について論述し、そのうえで近年たたかわされた日本経済再建論議の当否と小泉内閣の構造改革施策の位置づけを試みたい。 なお、本講義は内容上、春学期・秋学期を通して聴講するのが望ましい。	1．スタグフレーションとトリレンマ 2．レーガノミクス 3．グローバル化の波 4．日本経済のバブル化 5．バブル経済の発生原因 6．バブル経済の崩壊 7．複合不況 8．「失われた１０年」とその意味 9．景気対策か構造改革か(1) 10．景気対策か構造改革か(2) 11．小泉内閣の構造改革施策 12．まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
主に統計表などのプリントを配布。	学期末試験の結果（通年講義は春学期・秋学期の合計）で評価する。相対評価方法を採用。

01年以降 00年以前	アメリカ経済論a 北アメリカ経済論	担当者	本田　浩邦

講義目的、講義概要	授業計画
現代アメリカ経済の発展を、その歴史、理論、政策の諸側面から講義します。 春学期では、１９３０年代の大恐慌とニューディールから戦後５０年代までをお話します。アメリカの大恐慌には多くの未解明の問題が含まれており、今日でも多くの経済学者がこの時代の解明に取り組んでいます。現在の経済政策をめぐるさまざまな論争でも頻繁に言及される特別な時代であり、この時代をよく理解することは、現代の経済学の骨格を理解する上でとても重要だと思います。	１　ガイダンス　受講上の注意　評価方法の説明 ２　大恐慌とニューディール――発生と展開 ３　大恐慌とニューディール――発生と展開 ４　大恐慌とニューディール――新しいシステム ５　大恐慌とニューディール――新しいシステム ６　大恐慌とニューディール――主要な論争点 ７　大恐慌とニューディール――主要な論争点 ８　戦時経済体制 ９　ケインズ経済学 １０　戦後第１期：戦後成長体制 １１　戦後第１期：戦後成長体制 １２　現代アメリカ経済史研究の課題――まとめ

テキスト、参考文献	評価方法
配布プリントおよび萩原伸次郎・中本悟編『現代アメリカ経済』（日本評論社、２４００円）	定期試験による。

01年以降 00年以前	アメリカ経済論b 北アメリカ経済論	担当者	本田　浩邦

講義目的、講義概要	授業計画
戦後６０年代から今日までのアメリカ経済の発展をお話しします。戦後のアメリカ経済は１９６０年代末を境にいろいろな経済指標が悪化します。 前半は、長期的な視点に立ってこの時期にどのような変化が起こったのか、またそれらは今日から見てどのような意味を持つのかを考えたいと思います。後半は、現在のアメリカ経済の問題をさまざまな側面から見て行きたいと思います。少し難しい話題も出てきますが、アメリカ経済の発展や現在の構造の大まかな輪郭をつかんでもらいたいと思います。	１　授業のアウトライン､受講上の注意 評価方法の説明 ２　冷戦体制から６０年代「ゆたかな社会」へ ３　ニクソンショックと低成長期への移行 ４　レーガノミクス ５　プラザ合意とその後の国際マネーフロー ６　１９９０年代のマクロ経済 ７　産業基盤の変化とIT革命 ８　金融資本市場と制度改革 ９　財政政策と債務拡大 １０　所得格差の長期的変化 １１　アメリカ経常収支赤字の持続可能性 １２　現代アメリカ経済論の課題――まとめ

テキスト、参考文献	評価方法
配布プリントおよび萩原伸次郎・中本悟編『現代アメリカ経済』（日本評論社、２４００円）	定期試験による。

01 年度以降 00 年度以前	ラテンアメリカ経済論 a ラテンアメリカ経済論	担当者	松本　栄次

講義目的、講義概要	授業計画
自然的基盤、歴史的背景、政治的社会的特性などの分析の上に立って、ラテンアメリカ全域の経済の特性について多面的に考察する。 ラテンアメリカ経済の特徴をもたらした自然的基盤と歴史的背景などについて概観したうえで、ラテンアメリカ経済の発展過程について通覧する。さらに、変革期にある現代のラテンアメリカ経済の状況、およびこの地域の社会・経済が抱える諸問題とその将来展望について考察する。	1　ラテンアメリカ地域の特徴 2　世界におけるラテンアメリカ（LA）経済 3　LA 経済の自然的基盤(1)土地条件と資源 4　LA 経済の自然的基盤(2)農牧林業環境 5　LA 経済の歴史的背景(1)先住民文化とその影響 6　LA 経済の歴史的背景(2)植民地時代のＬＡ 7　LA 経済の発展過程(1)植民地期の経済 8　LA 経済の発展過程(2)輸出経済期の経済 9　LA 経済の発展過程(3)輸入代替工業化期の経済 10　現代の LA 経済(1)債務危機と「失われた 10 年」 11　現代の LA 経済(2)新自由主義経済とラテンアメリカ 12　まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
国本伊代・中川文雄：『ラテンアメリカ研究への招待（改訂新版)』新評論、2005 年	定期試験の成績と出席状況を総合して行う。

01 年度以降 00 年度以前	ラテンアメリカ経済論 b ラテンアメリカ経済論	担当者	松本　栄次

講義目的、講義概要	授業計画
自然的基盤、歴史的背景、政治的社会的特性などの分析の上に立って、多面的に、国および地方レベルの地域の経済について考察する。 おもに、ラテンアメリカ経済の一つの中核をなすブラジルをとりあげ、その特色のある産業経済の発展過程および諸地域における経済活動の特質を考察し、同国の経済発展の現状と問題点を指摘する。また、アマゾン川流域地域（アマゾニア）を事例としてとりあげ、その自然環境・住民と社会・地域経済の特性、および国際的関心の高い経済開発と環境保全の調和の問題について考察する。	1　ラテンアメリカ経済とブラジル 2　ブラジル経済の地理的基盤 3　現在のブラジル経済と社会 4　ブラジルの諸地域と経済 5　ブラジル産業史の特質 6　アマゾニアの自然生態的基盤 7　アマゾニアの居住と開発の歴史 8　現代アマゾニアの経済(1)：農牧林業の盛衰 9　現代アマゾニアの経済(2)：アマゾニア総合開発 10　アマゾニアにおける開発と環境問題 11　アマゾニアにおける経済開発と生態系保全調和の道 12　まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
M. グールディング他著(山本･松本訳)：『恵みの洪水－アマゾン沿岸の生態と経済』同時代社、2001 年	定期試験の成績と出席状況を総合して評価する。

01 年度以降 00 年度以前	西ヨーロッパ経済論 a 西ヨーロッパ経済論	担当者	大西　健夫

講義目的、講義概要	授業計画
２００４年に２５ヵ国に拡大した EU は、12 ヶ国のユーロ通貨圏を内包する、西ヨーロッパのみならず東欧・中欧に広がる世界最大の地域経済共同体を形成している。この意味で、「西」ヨーロパ経済という用語は意味を失っている。 この授業では、先ず、地域経済統合の意味を理解するため、世界経済秩序を概説し、そこにおける地域経済統合の位置付けをＮＡＦＴＡ，ＡＦＴＡ，ＥＵなどを例として解説する。 その上で、世界経済における EU 経済の位置付け、その発展と構造を分析し、EU および加盟国経済が抱える諸問題を説明する。 授業レジメは下記参照のこと。 ¥¥dainet¥dohnishi ここから“Europe A”	1. 戦後世界経済秩序の形成 2. ヨーロッパ経済の形成 3. 国際貿易秩序、WTO における EU 4. 国際決済秩序、IMF における EU 5. 世界の地域経済統合における EU 6. 貿易取引と地域経済統合 7. 国際収支表にみるヨーロッパ経済 8. ヨーロッパの産業構造 9. ヨーロッパの主要企業 10. ヨーロッパの雇用問題 11. ヨーロッパの金融市場 12. EU における経済統合
テキスト、参考文献	**評価方法**
授業で指示する。	期末に論文形式での試験を行い、評価する

01 年度以降 00 年度以前	西ヨーロッパ経済論 b 西ヨーロッパ経済論	担当者	大西　健夫

講義目的、講義概要	授業計画
２００４年に 25 ヵ国に拡大した EU は、12 ヶ国のユーロ通貨圏を内包する、西ヨーロッパのみならず東欧・中欧に広がる世界最大の地域経済共同体である。この授業は、ヨーロッパの経済安全保障体制として発足した石炭鉄鋼共同体が地域経済共同体へと発展していく過程を概観し、単一通貨ユーロ導入により超国家的金融政策の一元化にまで進展した EU の構造と機能を解説する。 先ず、EC から EU までの統合過程を概説し、さらに、共同市場の拡大と深化がヨーロッパ経済を活性化してゆくメカニズムを分析する。 そして、単一通貨ユーロの導入と通貨同盟のメカニズムと今後の課題、拡大 EU 経済の可能性とその問題点を分析する。 授業レジメは下記参照のこと。 ¥¥dainet¥dohnishi ここから“Europe B”	1. 戦後世界経済秩序の形成 2. ヨーロッパ経済の形成 3. ヨーロッパ統合の理念 4. 石炭鉄鋼共同体 5. 関税同盟と共通政策 6. 域内貿易の進展 7. 単一欧州議定書と共同市場の完成 8. マーストリヒト条約による EU 9. 経済・通貨同盟 10. EU の組織機構 11. EU の法的地位 12. EU の拡大と深化
テキスト、参考文献	**評価方法**
授業で指示する	期末に論文形式での試験を行い、評価する

01 年度以降 00 年度以前	東アジア・中国経済論 a 東アジア・中国経済論	担当者	全　載旭

講義目的、講義概要	授業計画
本講義は，その動向が，今や世界の経済に大きなインパクトをもたらすようになった中国経済を中心に論ずる。今年度は，通論的な地域経済論とは趣を変え，東アジアの経済成長と中国の体制移行をともによく体現していると考えられる「中小企業」「産業集積」を切り口に，論じていく予定である。雇用の場，起業家の自己実現の場，市場の変化への迅速で弾力的な対応が可能な供給者として，中小企業は市場経済の存続と発展に不可欠の存在である。ただし，現在の中国では，中小企業の役割・性質は市場経済におけるそれにとどまらず，移行期に固有の役割や問題を含んでいる。そこでこの講義では，中国における中小企業の現状，政策と問題点について，主に実際に調査を行なった個別事例にもとづきながら論じていく。	1．中国経済の全般的な動向（1） 2．中国経済の全般的な動向（2） 3．中国経済の全般的な動向（3） 4．なぜ中小企業なのか？（1） 5．なぜ中小企業なのか？（2） 6．なぜ中小企業なのか？（3） 7．村の経済と企業（1） 8．村の経済と企業（2） 9．村の経済と企業（3） 10．産業のつながりと中小零細企業（1） 11．産業のつながりと中小零細企業（2） 12．産業のつながりと中小零細企業（3）
テキスト、参考文献	**評価方法**
駒形哲也『移行期・中国の中小企業論』税務経理協会，2005年。 その他必要に応じて資料を配布する。	毎回の出席と学期末の試験の結果による。

01 年度以降 00 年度以前	東アジア・中国経済論 b 東アジア・中国経済論	担当者	全　載旭

講義目的、講義概要	授業計画
本講義は，その動向が，今や世界の経済に大きなインパクトをもたらすようになった中国経済を中心に論ずる。今年度は，通論的な地域経済論とは趣を変え，東アジアの経済成長と中国の体制移行をともによく体現していると考えられる「中小企業」「産業集積」を切り口に、論じていく予定である。春学期の講義をふまえつつ、中国における中小企業の現状､政策と問題点について、主に実際に調査を行なった個別事例にもとづきながら論じていく。 また貿易と投資を通じて急速に緊密化している日中経済関係の現状と今後のあり方について考察する。新たな地域協力「東アジア共同体」構築にも関心を向けてもらいたい。	1．体制改革と「産業集積」（1） 2．体制改革と「産業集積」（2） 3．体制改革と「産業集積」（3） 4．中国の信用保険制度 5．中小企業発展の特徴 6．日・中経済関係（1） 7．日・中経済関係（2） 8．東アジア共同体（1） 9．東アジア共同体（2） 10．東アジア共同体（3） 11．世紀東アジアと中国経済（1） 12．２１世紀東アジアと中国経済（2）
テキスト、参考文献	**評価方法**
駒形哲哉『移行期・中国の中小企業論』税務経理協会、2005年。 その他必要に応じて資料を配布する。	毎回の出席と学期末の試験の結果による。

01 年以降 00 年以前	オセアニア経済論 a 東南アジア・オセアニア経済論	担当者	森　健

講義目的、講義概要	授業計画
この講義では、オーストラリアを中心に取り上げる。但し、オーストラリアを理解するために必要な場合は、他のアジア太平洋諸国についても言及する。 近年、オーストラリアは、先進国の中でトップクラスの好調な経済運営を続ける国として、また、自国およびアジア太平洋地域の貿易・投資の自由化に熱心な国として、さらに、多様な文化の維持、発展に努め、世界で最も人気の高い移住先国、留学先としても知られている。しかし、同国は７０年代中期から８０年代にかけては、経済パフォーマンスの最も悪い国の一つであった。また、かつては名だたる保護貿易主義国であり、有色人種移民を排除する人種差別国家でもあった。オーストラリアがこのような政策転換を行った理由は何か。新政策はどのような変化をもたらしてしてきたのか。この講義では、このような課題について、経済的視点を中心に据えながら、自然環境、歴史条件、文化的背景、政治社会体制、地政学的環境など、多様な切り口から解明する。これらの切り口の中で、春学期においては、自然条件、歴史条件、および、１９７０年代初頭までの、文化的背景について取り上げる予定である。	1　講義の目的。地域研究の意義。ビデオ教材によるオーストラリア社会概観。 2　総論：オーストラリア社会構造変化の大きな流れ（1） 3　総論：オーストラリア社会構造変化の大きな流れ（2） ＜注意＞　この「総論」は、年間を通じるこの講義の基本的なメッセージ（仮設）を述べるもので特に重要。 4　歴史：流刑囚労働と羊毛産業の発展 5　歴史：金発見とその影響（1） 6　歴史：金発見とその影響（2） 7　歴史：平等主義、仲間主義の起源。 ：１９世紀に３０年続いた好況 8　歴史：１８９０年代の恐慌とその影響 9　歴史：連邦結成から第二次大戦終了まで（1） 10　歴史：連邦結成から第二次大戦終了まで（2） 歴史：経済ナショナリズム 11　文化：エトス、アイデンティティ問題 12　文化：アボリジニ
テキスト、参考文献	**評価方法**
プリント中心。なお、テキストとしては使用しないが、次の書物は講義を理解する上で有用。竹田いさみ。森健編『オーストラリア入門』東大出版会　２００５年（第５刷）	定期試験

01 年以降 00 年以前	オセアニア経済論 b 東南アジア・オセアニア経済論	担当者	森　健

講義目的、講義概要	授業計画
（講義目的と概要については春学期「オセアニア経済論 a」を参照。秋学期では、春学期に引き続き、多文化社会化政策、政治社会体制、対外経済政策、産業構造変化、日豪関係などを切り口としてオーストラリアを分析する。なお、この講義は事実上、１年間で完結しているので、春学期の講義を履修しておくこと。）	1　前期講義の復習を兼ねたオーストラリア歴史概観 2　移民政策の変化 3　女性進出と家族 4　多文化主義社会化政策導入の経緯 5　反多文化主義の流れ 6　政治システム 7　１９７０年代以前の主要政策体系 8　ホーク＝キーティング労働党政権の政策（1） 9　ホーク＝キーティング労働党政権の政策（2） 10　ハワード保守連立政権の政策（1） 11　ハワード保守連立政権の政策（2） 12　日豪関係
テキスト、参考文献	**評価方法**
（春学期「オセアニア経済論 a 」に同じ）	（春学期「オセアニア経済論 a 」に同じ）

01 年度以降 00 年度以前	アフリカ経済論 a 中東・アフリカ経済論	担当者	原口　武彦

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的 　世界の中でも今日もっとも経済的に停滞しているとされているアフリカ地域 (特にサハラ以南アフリカ)を、経済的側面だけでなく、政治・社会・歴史・文化面も加えて多角的に捉えて、まずアフリカの歴史と現状についての正確な基礎知識の修得を目指す。その上でアフリカが今日、直面している諸問題について考察する。そしてそれらの諸問題が世界の国ぐに、とくに日本とそこで生活しているわたくしたちにどのような関わりをもっているのか考えてみる。 講義概要 　アフリカ大陸、特にサハラ以南アフリカに焦点をあて、その歴史的背景―奴隷貿易、植民地化、政治的独立、構造調整と政治的民主化―と、政治・経済・社会・文化の特質を紹介する。 　講義では合計 6 年間にわたる「担当者」の現地滞在中の撮りためたスライドやビデオ映像を援用して、よりなじみやすい、臨場感をかもしだせる内容のものにすることを心がける。	１．　講師の自己紹介、授業の進め方 ２．　日本のアフリカ研究 ３．　アフリカの地域区分 ４．　スライドによるアフリカ概観 I (世界史の中のアフリカ) ５．　スライドによるアフリカ概観 II (アフリカの食糧生産) ６．　スライドによるアフリカ概観 III (アフリカの輸出作物) ７．　スライドによるアフリカ概観 IV (アフリカの宗教) ８．　スライドによるアフリカ概観 V (アフリカの服飾文化) ９．　ビデオ上映（アフリカの結婚式） １０．ビデオ上映（アフリカの結婚式）その２ １１．アフリカの部族と国家 １２．まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
参考文献 原口武彦著『部族と国家』アジア経済研究所、1996 年。 原口武彦著『アビジャン日誌』アジア経済研究所、1992 年。	出席率と期末試験

01 年度以降 00 年度以前	アフリカ経済論 b 中東・アフリカ経済論	担当者	原口　武彦

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的 　アフリカ経済論 a に同じ。 講義概要 　今日のアフリカ諸国が直面している諸問題―食糧生産、人口移動、環境、国内紛争、難民、エイズなど―についてその現実を正確に把握する。またアフリカ理解のために提示されている方法論―経済学、政治学、Ethnicity 論など―を批判的に検討する。	１．　オリエンテーション ２．　ビデオ上映（NHK ETV 特集『アフリカの現在』） ３．　エイズ問題 ４．　食糧問題 ５．　国内紛争と民主化 ６．　アフリカと経済学 ７．　アフリカと経済学（その２） ８．　アフリカの言語問題 ９．　アフリカの言語問題（その２） １０．アフリカと Ethnicity 論 １１．アフリカと Ethnicity 論（その２） １２．まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
参考文献 北川勝彦・高橋基樹編著『アフリカ経済論』 ミネルヴァ書房、2004 年。 平野克己編『アフリカ経済学宣言』アジア経済研究所、2003 年。	出席率と期末試験

01 年度以降 00 年度以前	中東経済論 a 中東・アフリカ経済論	担当者	平井　文子

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的 　中東は、その政治地理的位置に加え、大量の石油埋蔵・生産ゆえに、20 世紀初頭より西欧列強およびアメリカの植民地支配ないし軍事的、政治経済的干渉と文化的影響を受けてきた。それらに対する民族的抵抗と、国内、域内権力闘争が、中東を戦争と紛争の絶えることのない地域とさせた。本講では伝統と近代化のせめぎあうポストコロニアル（植民地以後）時代の中東の政治経済文化的状況を、パレスチナ問題、ナショナリズム（アラビズム）、石油経済、グローバル経済化、イスラミズム台頭、そしてアメリカの中東政策を軸に見ていきたい。 講義概要 　指定テキストの第Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅶ章を取り上げ、内容をしっかり学ぶ。学生諸君に中東の歴史とその特徴を知ることで正確な中東認識を持ってもらうことを狙いとする。出来る限り、ビデオや体験談を織り交ぜるとともに、必要なプリントを配布して学生諸君の理解を深めるようにしたい。途中でレポート提出もある。	1、授業の進め方、参考文献の紹介 2、テキスト第Ⅰ章　中東を概観する－その１，２ 3、　同上　－その３ 4、第Ⅱ章　イスラーム－その１，２ 5、　同上　－その３，４ 6、第Ⅲ章　近代中東とアラブ民族主義－その１，２ 7、　同上　－その３，４ 8、第Ⅶ章　パレスチナ問題－その１，２ 9、　同上　－その３ 10、　同上　－その４ 11、　同上　－その５，６ 12、調整日
テキスト、参考文献	**評価方法**
「現代用語の基礎知識」特別編集『**中東**』第 3 版、自由国民社、2002 年	期末試験、その他による

01 年度以降 00 年度以前	中東経済論 b 中東・アフリカ経済論	担当者	平井　文子

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的 　中東経済論 a と同じ 講義概要 指定テキストの第Ⅴ、Ⅵ、Ⅸ、Ⅹ、　章を取り上げる。石油と中東経済および政治・軍事干渉との関係を多面的に捉えるとともに、産油国と非産油国の経済開発の相違、急激な社会経済変化、失業と貧困化、イスラミズムの台頭、そしてアメリカの「反テロ」攻勢について考察する。途中でレポート提出をしてもらう。	1、授業の進め方と参考文献の紹介 2、テキスト第Ⅸ章　中東の石油と経済－その１，２ 3、　同上　－その３，４ 4、　同上　－その５，６，７ 5、第Ⅴ章　ペルシャ湾　－その１，２ 6、　同上　－その３，４ 7、　同上　－その５，６ 8、第Ⅵ章　イラン　－その１，２ 9、　同上　－その３，４，５ 10、第Ⅹ章　同時多発テロ以降の中東安全保障　－その１，２，３ 11、第　章　同時多発テロと新しい中東の国際関係 12、調整日
テキスト、参考文献	**評価方法**
「現代用語の基礎知識」特別編集『**中東**』第 3 版、自由国民社、2002 年	期末試験、その他による

01 年度以降 00 年度以前	金融経済論 a 金融経済論	担当者	斉藤　美彦

講義目的、講義概要	授業計画
（目的） 金融の基礎を理解し、金融に関連した新聞記事が読め、議論ができるようになることを目的とする。 （概要） 講義は、まずマネーと銀行業とのかかわり、すなわちマクロ的に貨幣供給はどのように行われているかの解説からはじめる。そして銀行業による貨幣供給と決済システムとの関わりについても解説する。その後に金融におけるフローとストック、金融取引における金利の役割等について解説する。	1. マネー（貨幣）と銀行業（1） ＊現代のマネーと決済システム 2. マネー（貨幣）と銀行業（2） ＊銀行の信用創造機能 3. マネー（貨幣）と銀行業（3） ＊マネーの価値とインフレーション 4. マネー（貨幣）と銀行業 ＊マネーの変遷 5. 金融のフローとストック（1） 6. 金融のフローとストック（2） ＊金融業の役割 7. 金融のフローとストック（3） 8. 金融のフローとストック（4） ＊金融取引・金融資産の全体図 9. 金利・資産価格・利回り（1） ＊シグナルとしての金利 10. 金利・資産価格・利回り（2） ＊資産市場における金利 11. 金利・資産価格・利回り（3） 12. 金利・資産価格・利回り（4）
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト：辻信二『新版　金融と銀行』学文社、1995 年	期末試験およびレポートによる。

01 年度以降 00 年度以前	金融経済論 b 金融経済論	担当者	斉藤　美彦

講義目的、講義概要	授業計画
（目的） 金融政策、国際金融、現下の金融問題等についての議論を理解でき、自分なりの見解をもつことができるようになることを目的とする。 （概要） 金融政策の基本から、日本銀行による「量的緩和」政策の実際および問題点についてまでの解説を行う。その後に国際金融の基本、禁煙の金融に関わる諸問題等を幅広く解説する。	1. 中央銀行の役割（1） ＊内生的貨幣供給説と外生的貨幣供給説 2. 中央銀行の役割（2） ＊金融政策の目的と波及経路 3. 中央銀行の役割（3） ＊金融政策の手段と準備預金制度 4. 中央銀行の役割（4） ＊「量的緩和」政策採用後の金融政策 5. 金融の国際的側面（1） 6. 金融の国際的側面（2） ＊国際通貨制度の変遷 7. 金融の国際的側面（3） ＊銀行の国際業務 8. 近年の金融状況・銀行経営（1） ＊金融自由化の進展 9. 近年の金融状況・銀行経営（2） ＊金融の「証券化」 10. 近年の金融状況・銀行経営（3） 11. 近年の金融状況・銀行経営（4） 12. 近年の金融状況・銀行経営（5）
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト：辻信二『新版　金融と銀行』学文社、1995 年 この他については講義中に指示する。	期末試験およびレポートによる。

01 年度以降 00 年度以前	金融システム論 a 金融システム論	担当者	斉藤　美彦

講義目的、講義概要	授業計画
（目的） 世界各国の金融システムはそれぞれの国の歴史等を反映して個性的なものとして発展してきた。そしてそれらはグローバリゼーションの進展の過程で変化してきていることを理解することを目的とする。 （概要） 近代的な銀行業・金融システムが世界でもっとも早く発達し、今日においても世界の金融の中心のひとつであるイギリスの金融システムについての解説を中心とする。講義では預金取扱機関および機関投資家だけでなく、金融法制、監督体制についても解説を行う。また、イギリスとの比較の観点から大陸ヨーロッパ諸国やアメリカの金融システムについても簡単に解説し、EU の金融統合についても解説することとする。	1. イギリスの金融システム（1） ＊金融システムの長期的傾向 2. イギリスの金融システム（2） ＊金融サービス市場法と金融サービス機構（ＦＳＡ） 3. イギリスの金融システム（3） ＊商業銀行の再編 4. イギリスの金融システム（4） ＊マーチャントバンクとウィンブルドン現象 5. イギリスの金融システム（5） ＊住宅金融組合 6. イギリスの金融システム（6） ＊信託貯蓄銀行（ＴＳＢ） 7. イギリスの金融システム（7） ＊国民貯蓄銀行 8. イギリスの金融システム（8） 9. イギリスの金融システム（9） 10. イギリスの金融システム（10） ＊機関投資家（年金基金・保険会社・投資信託） 11. EU の金融統合 12. アメリカ・大陸ヨーロッパ諸国の金融システム
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト：斉藤美彦『イギリスの貯蓄金融機関と機関投資家』日本経済評論社、1999 年。（その他プリントを配布する）　参考文献：講義中に指示する。	期末試験およびレポートによる。

01 年度以降 00 年以前	金融システム論 b 金融システム論	担当者	斉藤　美彦

講義目的、講義概要	授業計画
（目的） 日本の金融システムおよび規制・監督制度の特性を理解し、近年の金融システムの変化とその要因について理解できるようになることを目的とする。 （概要） 戦後日本の金融システムの特徴およびそれが近年どのように変化してきたかを各種金融機関の変貌とともに解説する。また、近年の金融機関、規制において重要なトピックスについても解説する。	1. 戦後的制度としての専門金融機関制度 2. 日本の金融機関（1） ＊普通銀行等預金取扱金融機関 3. 日本の金融機関（2） ＊保険会社・ノンバンク 4. 日本の金融機関（3） ＊証券会社と証券市場 5. 日本の金融機関（4） ＊公的金融機関 6. 高度成長期の金融構造 7. 規制・監督（1） ＊金融監督機関と新たな監督体制 8. 規制・監督（2） ＊自己資本比率規制と早期是正措置 9. 金融自由化とバブルの形成 10. バブルの崩壊と金融機関の破綻・預金保険 11. 金融制度改革とビッグバン 12. 金融危機と金融大再編
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト：講義開始時に指示する。 参考文献：日本銀行銀行論研究会編『金融システムの再生に向けて』有斐閣、2001 年。その他講義中に指示する。	期末試験およびレポートによる。

01 年度以降 00 年度以前	財政学 a 財政学	担当者	野村　容康

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的 本講義では、財政赤字、税制改革、年金改革、公共事業といったわが国の財政問題を考えていく際の手掛かりとなるように財政学の基礎的事項について概説する。本講の受講を通じて、財政の基礎的な制度とその機能について理解を深め、現実の財政問題について自分なりに考える力を身につけてほしい。 **講義概要** 春学期はどちらかと言えば政府の支出活動面に重点を置きながら、財政の機能とわが国財政の現状、公共支出に関する理論、政府債務の問題、公的年金問題等について解説する。 **受講者への要望** 受講生は新聞などを通じてできるだけ財政制度改革、税制改正の動向についてフォローし、わが国の財政に関する問題意識を高めてほしい。なお、受講のためにはミクロ経済学の基礎的知識を習得していることが望ましい。	1．財政とは何か 2．財政学とその変遷 3．資源配分の調整機能 4．財政と所得再分配 5．財政政策の理論① 6．財政政策の理論② 7．公共財の理論① 8．公共財の理論② 9．わが国財政の現状 10．公債の制度と理論 11．公的老齢年金① 12．公的老齢年金②
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト 里中恆志･八巻節夫『新財政学』文眞堂 参考書　大島通義･神野直彦･金子勝『日本が直面する財政問題』八千代出版	定期試験の成績で評価する。 出席は考慮しない。

01 年度以降 00 年度以前	財政学 b 財政学	担当者	野村　容康

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的 （財政学 a 参照） **講義概要** 秋学期は政府収入の中で最も重要な租税に関する議論（租税理論、制度、税制改革論等）に焦点を絞って授業を進める。 **受講者への要望** （財政学 a 参照）	1．租税の意義と根拠 2．租税の基礎的概念 3．課税の公平性と中立性 4．租税の転嫁と帰着 5．包括的所得税論 6．支出税と最適課税の考え方 7．二元的所得税の考え方 8．個人所得課税 9．法人所得課税 10．間接消費課税 11．資産課税 12．グローバル化と課税
テキスト、参考文献	**評価方法**
（財政学 a 参照）	（財政学 a 参照）

01 年度以降 00 年度以前	公共経済学 a 公共経済学	担当者	伊藤　爲一郎

講義目的、講義概要	授業計画
わたしたちの日々の生活は公共部門の活動によって支えられています。上下水道、ゴミ処理、教育、福祉、警察、外交、国防などさまざまな公共サービスの恩恵をうけています。公共部門と民間部門 の経済活動とはどのような関係があるのか、公的規制はどうあるべきか、公共部門の活動を活性化するにはどのように対応するべきか。 経済の発展とともに公共部門の活動領域は量的にも質的にも大きく変動してきました。その歴史的変遷をたどりながら、現代の公共部門の諸活動の特徴を明らかにします。	はじめに　生活と公共サービス 生産と公共サービス 消費と公共サービス 公共部門と市場の関係 市場の失敗をめぐる議論 公共部門とは。 公共部門の失敗をめぐる議論 公共部門存在の理由 公共部門の活動領域の拡大 生産と生活の社会化の進展 公共政策の展開 公共政策の多様化と総合性 主体の多様化 中央政府と地方政府 分権の推進力 公共部門の新しい課題 グローバル化 守備範囲の再検討
テキスト、参考文献	**評価方法**
講義中文献の紹介をし、関連するプリントを配布します。	期末テストおよび小テストの成績により評価します。

01 年度以降 00 年度以前	公共経済学 b 公共経済学	担当者	伊藤　爲一郎

講義目的、講義概要	授業計画
わたしたちの日々の生活は公共部門の活動によって支えられています。上下水道、ゴミ処理、教育、福祉、警察、外交、国防などさまざまな公共サービスの恩恵をうけています。公共部門と民間部門 の経済活動とはどのような関係があるのか、公的規制はどうあるべきか、公共部門の活動を活性化するにはどのように対応するべきか。 経済の発展とともに公共部門の活動領域は量的にも質的にも大きく変動してきました。その歴史的変遷をたどりながら、現代の公共部門の諸活動の特徴を明らかにします。	はじめに　財政の現状と課題 文献紹介 租税国家の危機 公債の累増 公共サービスの供給と財源調達 なぜ租税が必要か 公平な租税とは 租税原則と租税配分 わが国の租税構造の変遷とその特徴 所得に課せられる税 消費に課せられる税 資産に課せられる税 少子高齢化社会の到来と財政 少子化対策と年金 地方財政の発展 地域の経済的自立と発展 経済再生と財政改革
テキスト、参考文献	**評価方法**
講義中文献の紹介をし、関連するプリントを配布します。	期末テストおよび小テストの成績により評価します。

01 年度以降 00 年度以前	地方財政論 a 地方財政論	担当者	伊藤　爲一郎

講義目的、講義概要	授業計画
地方財政は「行政のデパート」といわれるように、義務教育、警察、消防、上・下水道、商工政策のような地域振興政策、まちづくり等多様な公共サービスを供給しています。 地方公共団体のこのような活動を金銭面からとらえたものが地方財政です。」住民の日常生活と密接に関連している地方財政の役割を明らかにすることが目標です。 都道府県から市町村までおよそ３３００もあった地方団体は、平成の大合併によって一気に１８００台に急減しました。自然条件、地理的要因、産業構造、人口構成等が多様な自治体がそれぞれの資源を有効に活用して、地域が活力を持って自立して生きていくことができるように知恵と工夫を凝らすことをもとめられています。	はじめに　文献紹介 地方財政の現状 地方政府と中央政府 経済の発展と地方財政の機能の拡大 地方財政の国際比較 地方財政の多様性 地方分権の推進・町村合併 機関委任事務の廃止 地方税・財源の改革をめぐる議論 地方財政の課題
テキスト、参考文献	**評価方法**
講義の中で紹介します	期末テスト及び中間での小テストの成績により評価します

01 年度以降 00 年度以前	地方財政論 b 地方財政論	担当者	伊藤　爲一郎

講義目的、講義概要	授業計画
地方財政は「行政のデパート」といわれるように、義務教育、警察、消防、上・下水道、商工政策のような地域振興政策、まちづくり等多様な公共サービスを供給しています。 地方公共団体のこのような活動を金銭面からとらえたものが地方財政です。」住民の日常生活と密接に関連している地方財政の役割を明らかにすることが目標です。 都道府県から市町村までおよそ３３００もあった地方団体は、平成の大合併によって一気に１８００台に急減しました。自然条件、地理的要因、産業構造、人口構成等が多様な自治体がそれぞれの資源を有効に活用して、地域が活力を持って自立して生きていくことができるように知恵と工夫を凝らすことをもとめられています。	はじめに 地方財政の状況 地方政府サービスと財源 財源配分をめぐる対立の歴史 地方税 地方財政調整制度 地方交付税制度 国庫支出金制度 地方債制度 地方分権の推進 地方におけるまちづくり 地方自治と行財政改革
テキスト、参考文献	
講義の中で紹介します	期末テスト及び中間での小テストの成績により評価します

01 年度以降 00 年度以前	環境経済学 a 環境経済学	担当者	浜本　光紹

講義目的、講義概要	授業計画
近年の環境問題の深刻化とともに，環境保全と経済活動の調和を求めて，新たな社会経済システムの構築への模索が試みられている。本講義では，経済学の立場から，環境破壊が進行する要因を検討し，環境保全型社会経済システムの構築のために環境政策はどのように設計される必要があるのかについて考えていく。 「環境経済学 a」では，環境経済学の理論的基礎，環境資源の貨幣的評価とその手法，および環境問題の解決において司法や行政が果たす役割について講義を行なう。	1　イントロダクション･･･環境経済学がいかなる分析視点から環境問題を考察するのかについて解説する。 2　費用便益分析･･･環境と開発をめぐる問題における費用便益分析の意義・限界について考察する。 3　環境評価手法･･･経済理論に則った環境価値の評価手法の意義と限界について考察する。 4　環境問題の調整のあり方と環境政策･･･環境問題の調整において司法や行政が果たす役割について理論的に検討する。 注：以上の４つのテーマはそれぞれ２～４回の講義にわたって解説が行なわれる。また，参考文献については講義中に適宜指示する。
テキスト、参考文献	**評価方法**
バリー・C・フィールド『環境経済学入門』日本評論社，および講義中に配布するプリント	定期試験による。

01 年度以降 00 年度以前	環境経済学 b 環境経済学	担当者	浜本　光紹

講義目的、講義概要	授業計画
「環境経済学 b」では，日本や米国，欧州における現実の環境政策の諸事例を検討しながら，地球温暖化に代表されるような地球環境問題に対処するための環境政策の設計はいかにあるべきかということに関する政策的含意を導き出していく。 この講義は，環境経済学 a の講義内容を前提として行なわれるので，これを既習のうえで受講することが望ましい。	1　日本の環境政策･･･日本の公害問題とその対策について，1960～70 年代の環境政策を中心に検討する。 2　米国の環境政策･･･米国の酸性雨対策において導入されている二酸化硫黄排出許可証取引制度について検討する。 3　地球温暖化･･･地球温暖化をめぐる国際的取り組みの経緯を解説し，京都メカニズムの課題について考察する。 4　環境税制改革･･･欧州における環境税導入の事例を検討しながら環境保全型社会経済システムの構築に向けた税体系のあり方を考察する。 5　廃棄物とリサイクルの経済分析･･･近年法制化が進むリサイクル関連法を題材に，循環型社会のあり方を検討する。 注：以上の４つのテーマはそれぞれ２～４回の講義にわたって解説が行なわれる。また，参考文献については講義中に適宜指示する。
テキスト、参考文献	**評価方法**
講義中に配布するプリント，および バリー・C・フィールド『環境経済学入門』日本評論社	定期試験による。

01 年度以降 00 年度以前	都市経済学 a 都市経済学	担当者	倉橋　透

講義目的、講義概要	授業計画
【講義目的】 　個人がアパートを借りたり住宅を買ったりする、企業が自分の会社のオフィスを証券化する、地方公共団体が寂れた中心市街地の活性化を図るなど都市に係る話題は我々の周りにあふれている。この講義は、こうした都市をめぐる諸問題の最新の状況を述べるとともに、ミクロ経済学を応用し分析することを目的とする。 【講義概要】 　春学期は身近なところで土地、住宅市場、交通問題（主に交通渋滞)、都市環境問題について述べる。	１．　土地市場（地代の決まり方） ２．　土地市場（地価の決まり方、その１） ３．　土地市場（地価の決まり方、その２） ４．　不動産の証券化と J－REIT ５．　不動産金融工学（その１） ６．　不動産金融工学（その２） ７．　住宅市場（住宅価格の決まり方） ８．　住宅市場（住宅ローンの証券化） ９．　交通問題（道路の混雑料金） １０．交通問題（道路建設のメリットと費用） １１．交通問題（新駅建設による地価上昇の恩恵はだれが受けるべきか） １２．都市環境問題（都市環境の価値をどう図るか、よりよい環境をどう実現するのか）
テキスト、参考文献	**評価方法**
プリントを配布する。参考文献は宮尾尊弘『現代都市経済学』第２版（日本評論社)、金本良嗣『都市経済学』（東洋経済新報社）とする。また講義中に追加する。	定期試験及びレポートによる。

01 年度以降 00 年度以前	都市経済学 b 都市経済学	担当者	倉橋　透

講義目的、講義概要	授業計画
【講義目的】 　個人がアパートを借りたり住宅を買ったりする、企業が自分の会社のオフィスを証券化する、地方公共団体が寂れた中心市街地の活性化を図るなど都市に係る話題は我々の周りにあふれている。この講義は、こうした都市をめぐる諸問題の最新の状況を述べるとともに、ミクロ経済学を応用し分析することを目的とする。 【講義概要】 　秋学期は都市全体を対象に、その発生、発展、経営方策を述べる。	１．　都市と都市問題（都市の定義、都市の成立原因） ２．　都市と都市問題（交通費や競争の産業の立地への影響） ３．　都市と都市問題（市場の失敗と都市問題の発生原因） ４．　都市と都市問題（集積の利益は計測できるか） ５．　都市の発展段階（都市の発展段階） ６．　都市の発展段階（地方都市の中心市街地の空洞化と対策） ７．　都市の発展段階（大都市ニュータウンの将来） ８．　都市と土地利用（オフィスや住宅の立地決定メカニズム） ９．　都市と土地利用（土地利用規制とその経済的影響） １０．都市と財政（都市の財政状況） １１．都市と財政（まちづくり交付金と国、地方のあるべき関係） １２．少子高齢化と日本の都市（これからどうなるのか）
テキスト、参考文献	**評価方法**
プリントを配布する。参考文献は宮尾尊弘『現代都市経済学』第２版（日本評論社)、金本良嗣『都市経済学』（東洋経済新報社）とする。また講義中に追加する	定期試験及びレポートによる。

01 年度以降 00 年度以前	経済地理学 a 経済地理学	担当者	犬井　正

講義目的、講義概要	授業計画
講義の目標 経済地理学は経済の諸事象の地理的配置を説明し、経済地域の成立・構造・機能を明らかにすることを目的とする。経済事象は農業、工業、商業など多岐にわたるので、本講義では農業地理学を主体にしながら、経済地理学の方法と内容を学んでいく。 **講義概要** 単に講義による農業地理学の理論だけでなく、フィールドワークをおこなうとともに、スライドなどを用いできるだけ農業の具体的な現実のすがたが把握できるように努める。また、適当なトピックスを選んで、ディベート形式などもとり入れ、受講者の意見を発表する場も設定する。さらに受講者は与えられた課題に関する小論を提出し、レポート・論文の書き方の基本を習得する。	1. 本講義の受講の心構え、講義方法、講義内容等についてのオリエンテーションを行い受講者数を決定。 2. 経済地理学の研究方法と研究対象について、経済学と地理学の方法の相違をふまえながら講述する。 3. 経済地理学研究のためのデータの収集とその活用の方法。特にセンサスデータ、地図の活用などを中心として。 4. 農業活動と自然環境との関係を、具体的な農業地域を事例にして考察する。 5. 農業生産と農業労働力を中心として、専業・兼業別農家の経営形態の地域的差異を考察する。 6. 農業経営規模と土地の保有形態を中心として、農業経営形態や他産業との競合を視点として考察する。 7. 農産物と市場・流通・輸送形態の関係について具体的な農業地域を事例として考察する。 8. 国家と農業政策、土地利用と土地利用計画・政策について考察する。 9. 日本と世界の諸地域の農業経営形態の差異と農業地域区分の方法を考察する。 10・11. 東京近郊洪積台地上の農業地域のフィールドワーク実施（日曜日に振り替えて実施する）。 12. 春学期のまとめと評価。フィールドワークのレポート提出
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト：D. グリッグ著『農業地理学』1997 年、農林統計協会	試験、およびフィールドワークのレポート結果と講義への貢献度などから総合的に判定する。毎回必ず講義に積極的に出席できる勉学意欲旺盛な者に限る。

01 年度以降 00 年度以前	経済地理学 b 経済地理学	担当者	犬井　正

講義目的、講義概要	授業計画
講義の目標 経済地理学は経済の諸事象の地理的配置を説明し、経済地域の成立・構造・機能を明らかにすることを目的とする。経済事象は農業、工業、商業など多岐にわたるので、本講義では農業地理学を主体にしながら、経済地理学の方法と内容を学んでいく。 **講義概要** 単に講義による農業地理学の理論だけでなく、VTR やスライドなどを用いできるだけ農業の具体的な現実の姿がたが把握できるように努める。また、適当なトピックスを選んで、ディベート形式などもとり入れ、受講者の意見を発表する場も設定する。さらに課題テーマの小論を提出し、レポート・論文の書き方の基本を習得する。	1. 日本の農業の特色と農業地域の概観。 2. 首都圏の農業地域の構造と特色。 3. 輸送園芸農業地域の構造と特色。 4. 米作地域の農業経営の特色と問題点。〈小論提出〉 5. 農産物の自由化と日本の農業の関係を文化、経済の視点からみる。 6. イギリスの農業の特色と農業地域の概観。 7. イギリスの LFA 地域と集約農業地域の特色を考察する。 8. イギリスの工業化する農業と農業地域の特色。 9. 農産物の過剰生産と農業補助金政策をイギリスの小麦、日本の米を対象にして考察し、それぞれの国の農業地域の対応の仕方を考察する。 10. 同上 11. パネルディスカッションの実施。 12. 秋学期の講義のまとめと評価。パネルディスカッションのレポート提出。
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト：D. グリッグ著『農業地理学』1997 年、農林統計協会	試験、およびレポート結果と講義への貢献度などから総合的に判定する。毎回必ず講義に積極的に出席できる勉学意欲旺盛な者に限る

01 年以降 00 年以前	産業組織論 a 産業組織論	担当者	青木　雅明

講義目的、講義概要	授業計画
経済学の一分野である産業組織論（Industrial Organization）の基本的考え方と手法、応用分野について学びます。産業組織論は、財貨・サービス、労働、資本の各市場において生産者または供給者と消費者または需要者の行動を研究しますが、それらに影響を与える市場の構造や政府の規制その他の条件を明らかにします。その成果を経済政策に応用します。 産業組織論の基礎となっているのはミクロ経済学ですので、産業組織論を応用する経済政策はミクロ経済政策です。その中心は競争政策または独占禁止政策ですが、近年その他の分野にも拡大しています。 企業の機能と構造、独占企業の行動、垂直的制限、競争の形態、市場参入の効果、カルテルなどについて学びます。	1．オリエンテーション 2．産業組織分析の基礎概念 3．企業① 4．企業② 5．独占企業の行動① 6．独占企業の行動② 7．垂直的制限① 8．垂直的制限② 9．競争の形態 10．市場参入① 11．市場参入② 12．カルテル①
テキスト、参考文献	**評価方法**
長岡貞男・平尾由紀子『産業組織の経済学』 日本評論社　1998 年	定刻出席の状況および企業家伝記・テキスト・講義内容に関連したテーマのレポート作成によって評価します。

01 年以降 00 年以前	産業組織論 b 産業組織論	担当者	青木　雅明

講義目的、講義概要	授業計画
産業組織論 a に引き続いて情報の非対称性と企業行動、企業の戦略的行動、技術進歩と研究開発競争、知的財産権、共同研究開発、貿易と直接投資、規制と規制改革などについて学びます。	1．オリエンテーション 2．カルテル② 3．情報の非対称性と企業行動① 4．情報の非対称性と企業行動② 5．企業の戦略的行動 6．技術進歩と研究開発競争① 7．技術進歩と研究開発競争② 8．知的財産権 9．共同研究開発とネットワーク外部性 10．貿易と直接投資 11．規制と規制改革 12．まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
長岡貞男・平尾由紀子『産業組織の経済学』 日本評論社　1998 年	定刻出席の状況および企業家伝記・テキスト・講義内容に関連したテーマのレポート作成によって評価します。

01 年度以降 00 年度以前	産業構造論 a 産業構造論	担当者	山越　徳

講義目的、講義概要	授業計画
経済の発展、成長に伴い、様々な側面の経済構造が変化することはよく知られており、またその変化がより一層の発展、成長を促す。本講義ではそれらの構造変化の主たる産業構造の変動に注目し、近代的経済発展、産業社会の形成、生産技術構造、それらを支える経済構造、相互依存関係を考察し、高度経済成長や重化学工業化の意味を考える。そのため、その姿を捉える有力な分析道具の１つである産業連関表についても解説、それを用いた日本経済の分析についてもデータを用いて見ていくことにする。 11. 産業連関表による分析Ⅱ：素原材料系統の転換、工業原材料と生産規模、ユニットストラクチャー、構造転換、規模別Ｉ－Ｏ表 12. 産業連関表による分析Ⅲ：資本マトリックス、産職マトリックス、地域Ｉ－０表、国際Ｉ－０表、国際分業、公害Ｉ―0表	1. 経済成長、経済発展：経済成長とは、Ｓ．クズネッツの指標、経済構造の変化、工業化、高度化、多様化 2. 近代的経済発展：１人当り国民所得、ＧＮＰ，労働生産性、産業規模、産業社会、産業革命 3. 産業の概念：産業の経済学、生産構造、生産技術、産業分類、分業、産業統計、商品ベースと企業ベース 4. 経済成長と産業構造Ⅰ：経済進歩の歴史過程、エネルギー集約化、基本三部門分類、ペティの法則、ＡＭＳ分類 5. 経済成長と産業構造Ⅱ:労働力構成と所得構成,成長の弾性、所得弾性、時系列データとクロスセクションデータ 6. 経済成長と産業構造Ⅲ：発展段階説、製造業内部の構造と発展、消費財と投資財、最終財と中間財、輸入と国産化、輸入代替、生産規模 7. 経済成長と産業構造Ⅳ：輸入指向型工業化、先進工業国とＮＩＥＳ、雁行形態、重化学工業化、ローマクラブ、石油危機 8. 産業連関表とはⅠ：新ＳＮＡ、投入係数、産出係数、逆行列，中間投入，中間需要，最終需要，付加価値部門、直接および間接の生産波及、相互依存関係 9. 産業連関表とはⅡ：産業特性、感応度係数と影響度係数、前方連関と後方連関、投入係数の固定性と変化、貿易構造、スカイライン分析 10. 産業連関表による分析Ⅰ：構造変化の要因分析、投入係数の変化と技術変化、生産プロセスと産業部門、部門の再配列、ブロック化、三角形化、部門の独立性
テキスト、参考文献	**評価方法**
宮沢健一『産業の経済学』第２版(東洋経済新報社) 米倉誠一郎『経営革命の構造』(岩波新書)	レポート(課題は講義の中で提示)と期末テストによる。

01 年度以降 00 年度以前	産業構造論 b 産業構造論	担当者	山越　徳

講義目的、講義概要	授業計画
産業構造論 a の講義内容を踏まえて、石油危機後の激しい構造変化、サービス経済化、ソフト化、情報化、国際化などの変動の事例の分析を通して、新しく出てきた経済の諸問題、これまでの構造変化の指標にとってかわるべき新しい指標、産業構造の捉え方をいっしょに考察していくことにする。 11. 産業と地域Ⅱ：大都市産業、産業集積、地域の取組みの事例 12. 経済政策、産業政策、労働政策の結びつき、地域活力、インキュベータ、自治体の役割	1. 産業構造の新しい方向Ⅰ：サービス化、ソフト化、情報化、多様化、高度化、複合化、国際化、構造変化の指標、 2. 産業構造の新しい指標Ⅱ：財とサービス、サービスの生産物と生産性、有形財と無形財、間接労働と直接労働、労働投入と評価、構造変化の流れ 3. 産業内部の構造変化・ケーススタディⅠ：３つのオートメーション、高度経済成長期の生産技術と 80 年代、90 年代の生産技術、技術波及 4. 産業内部の構造変化・ケーススタディⅡ：鉄鋼、電機、時計、印刷、銀行、小売などの事例 5. 産業内部の構造変化・ケーススタディⅢ：ロボットとコンピューター、労働への影響分析 6. 産業内部の構造変化・ケーススタディⅣ：ME 革命と IT 化、何がおきているか 7. 構造変化と就業構造Ⅰ：労働力の需要と供給、人口構造、産業構造と職業構造、基幹労働力と縁辺労働力、性別労働力 8. 構造変化と就業構造Ⅱ：日本の労働市場、新規学卒労働力、大企業と中小企業、雇用制度、雇用慣行、雇用調整、労働の属性 9. 構造変化と就業構造Ⅲ：ソフト化、知識集約化と職業構造および女子労働 10. 産業と地域Ⅰ：地域活性化と産業、国際化と地域、大企業と中小企業、地場産業
テキスト、参考文献	**評価方法**
関満博『フルセット型産業構造を越えて』(中公新書) 清成忠男、橋本寿朗『日本型産業集積の未来像』(日本経済新聞社)他	レポート(課題は講義の中で提示)と期末テストによる。

01 年度以降 00 年度以前	労働経済学 a 労働経済学	担当者	森永　卓郎

講義目的、講義概要	授業計画
労働経済学は、労働分野の諸問題を経済学の枠組みで解明する学問です。 この講義では、労働経済学の基礎理論を学びます。経済学の知識はあったほうが望ましいですが、知識がなくても理解できるように講義を進めます。	1．労働経済学とは何か 2．労働供給 3．労働需要 4．失業 5．雇用調整 6．労働市場における情報の役割 7．労働力フロー
テキスト、参考文献	**評価方法**
清家篤「労働経済」東洋経済新報社	試験

01 年度以降 00 年度以前	労働経済学 b 労働経済学	担当者	森永　卓郎

講義目的、講義概要	授業計画
労働経済学は、労働分野の諸問題を経済学の枠組みで解明する学問です。 この講義では、労働経済学の理論を現実の経済・社会に適用して、現代の雇用システムの問題点を探ります。	1．経済の構造変化と雇用制度 2．賃金と労働時間の経済分析 3．高齢者雇用の経済分析 4．労使関係
テキスト、参考文献	**評価方法**
清家篤「労働経済」東洋経済新報社	試験

01 年度以降 00 年度以前	会計学 a 会計学	担当者	内倉　滋

講義目的、講義概要	授業計画
企業会計もまた１つの言語であるとしばしば評されるが、言語を対象とした科学の分野には、その文法を純粋形式的に明らかにしていく「構文論」と、言葉の持つ意味の解明を試みる「意味論」と、社会的制度の中での言葉の用いられ方を研究する「語用論」とがある。本講義は、「簿記原理」という構文論の知識を前提に(それゆえ、少なくとも「簿記原理ａ」を修得していることが望ましい)、それに内容的な意味付けを試みていくところの、会計学における「意味論」に相当するものである。その後に展開される会計学における「語用論」（＝「経営分析論」等の応用・専門学科目）への１つの橋渡しとなるものだ、とも言える。 なお授業計画は右に掲げるとおりであるが、おおむね「会計学ａ」では、会社の決算書の作成にかかわる諸ルールの概要説明をしていきたい。	1 本講義の目的等 2 テキスト第１章 決算書から見える世界[≒会計学の２つの領域] 3 テキスト第２章 会計と決算 その１：複式簿記の基本概念 4 テキスト第２章 会計と決算 その２：取引の仕訳 5 テキスト第２章 会計と決算 その３：勘定口座への転記 6 テキスト第２章 会計と決算 その４:貸借対照表,損益計算書 の実際 7 テキスト第２章 会計と決算 その ５:間接法によるキャッシュフロー計算書 8 テキスト第２章 会計と決算 その ６:直接法によるキャッシュフロー計算書 9 テキスト第２章 会計と決算 その ７:連結財務諸表の作成 10 テキスト第２章 その８:制度会計 11 テキスト第３章 第１，２節：損益計算の基礎 12 テキスト第３章 第３節：資産評価の基礎
テキスト、参考文献	**評価方法**
山浦久司･廣本敏郎 編著、『ガイダンス企業会計入門[第２版]』(白桃書房)	評価の中心は期末試験の結果である。その際には、相対評価を基本とし、絶対評価を加味したい。

01 年度以降 00 年度以前	会計学 b 会計学	担当者	内倉　滋

講義目的、講義概要	授業計画
「会計学ａ」の知識を前提として「会計学ｂ」では、‘会計監査論’，‘管理会計論’，‘経営分析論’，‘税務会計論’といった領域の諸問題を、テキストブックに沿った形で講義していきたい。	1 テキスト第３章 決算書のルール 第４節 利益処分の会計 2 テキスト第３章 決算書のルール 第５，６節：会計基準 3 テキスト第４章 :製造会社の決算書[≒原価計算論] 第１節 4 テキスト第４章 :製造会社の決算書[≒原価計算論] 第２節 その１：総合原価計算 5 テキスト第４章 :製造会社の決算書[≒原価計算論] 第２節 その２：総合原価計算(続) 6 テキスト第４章 :製造会社の決算書[≒原価計算論] 第２節 その３：標準原価計算 7 テキスト第５章 決算書の信頼性を確かめる[≒会計監査論] 8 テキスト第６章 決算書の内部利用[≒管理会計論] 第２節：ＣＶＰ分析 9 テキスト第６章 決算書の内部利用[≒管理会計論] 第４節：差額原価収益分析 10 テキスト第７章 決算書を読んでみよう[≒経営分析論] 11 テキスト第８章 決算書と税金[≒税務会計論]…その３ 12 特論
テキスト、参考文献	**評価方法**
「会計学ａ」と同様。	「会計学ａ」と同様。

01 年度以降 00 年度以前	経営学 a　（経営学科） 経営学	担当者	有吉　秀樹

講義目的、講義概要	授業計画
本講義は、会社の経営がどのように行なわれているものなのかについて、大まかに理解してもらうことを目的としている。今後学ぶ様々な専門科目への理解の橋渡しとなれば幸いである。 同一教員の経営学 b の既履修者は履修できないので注意すること。	1. オリエンテーション 2. 会社の設立 3. ベンチャー企業見学 4. 会社の業務活動①～売上から入金までの流れ 5. 会社の業務活動②～工場のしくみ 6. 工場見学 7. 会社の資金調達 8. 会社の経営業績①～決算書の仕組み 9. 会社の経営業績②～時系列で見る 10. 会社の経営業績③～他社比較で見る 11. 会社の経営業績④～比率で見る 12. まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
適宜プリント配布する	レポートと期末試験により総合的に評価する

01 年度以降 00 年度以前	経営学 b　（経営学科） 経営学	担当者	有吉　秀樹

講義目的、講義概要	授業計画
本講義は、会社の経営がどのように行なわれているものなのかについて、大まかに理解してもらうことを目的としている。今後学ぶ様々な専門科目への理解の橋渡しとなれば幸いである。 同一教員の経営学 a の既履修者は履修できないので注意すること。	1. オリエンテーション 2. 会社の設立 3. ベンチャー企業見学 4. 会社の業務活動①～売上から入金までの流れ 5. 会社の業務活動②～工場のしくみ 6. 工場見学 7. 会社の資金調達 8. 会社の経営業績①～決算書の仕組み 9. 会社の経営業績②～時系列で見る 10. 会社の経営業績③～他社比較で見る 11. 会社の経営業績④～比率で見る 12. まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
適宜プリントを配布する	レポートと期末試験により総合的に評価する

01 年度以降 00 年度以前	経営学 a　（経営学科） 経営学	担当者	上坂　卓郎

講義目的、講義概要	授業計画
この講義は経営学科の学生として学科専門の学習を進める上で、また将来企業人として仕事をする上で必要となる「企業」や「経営」に関する基礎的知識の習得をめざす。また諸君の企業に対する関心の惹起や見方を形成するための契機や導入になるような講義を意図している。講義は基本的にテキストに沿って行います。なお講義と並行して日頃より新聞やニュース等で企業の動向に関心を持つこと。 まじめで、真摯な学習態度をこころがけてください。1 学年の必修科目ですから必ず出席をし、単位を取得することが重要です。 なお同一教員の経営学 b の既履修者は履修できないので注意すること。	1　変貌するビジネス 2　会社制度と企業経営 3　会社の目的と業績評価（1） 4　会社の目的と業績評価（2） 5　経営戦略の策定（1） 6　経営戦略の策定（2） 7　経営組織の姿、中間小テスト 8　ＩＴ革新とネットワーク組織（企業間組織） 9　人的資源戦略 10　財務戦略（1） 11　財務戦略（2） 12　まとめ、期末テスト
テキスト、参考文献	**評価方法**
高橋宏幸ほか著『現代経営・入門』有斐閣、2002 年。また参考資料を適宜配布する	中間小テスト・期末定期試験が主体なので必ず受験すること。また出席も勘案する可能性がある。

01 年度以降 00 年度以前	経営学 b　（経営学科） 経営学	担当者	上坂　卓郎

講義目的、講義概要	授業計画
経営学 a と同一。従って同一教員の経営学 a の既履修者は履修できないので注意すること。	経営学 a と同一
テキスト、参考文献	**評価方法**
経営学 a と同様	経営学 a と同様

01 年度以降 00 年度以前	経営学 a　（経営学科） 経営学	担当者	日下　泰夫

講義目的、講義概要	授業計画
入門講座として、経営学の基本的な概念を説明する。 《変化の時代》の経営学が極めて興味深い学問領域であることを理解できるような講義をめざしている。 講義の前半（1～6）は経営学の基本的な概念を説明する。後半（7～11）は、現在、経営の重要課題として脚光を浴びている技術経営/研究開発マネジメントを、いくつかの視点から考察する。最後に、経営学と関係の深い経営システム工学と経営学との接点を紹介する。 講義の終わりには、最新のトピックスについても出来るだけ紹介する。 同一教員の経営学 b の既履修者は履修できないので注意すること。	1　企業と外部環境 2　経営資源とマネジメント 3　経営戦略 4　環境経営 5　経営と情報 6　コーポレート・ガバナンス 7　イノベーション:プロダクト・イノベーション 8　イノベーション：テクノイノベーションと技術戦略 9　イノベーション：マーケティング・イノベーション 10 研究開発（R&D）組織と人材マネジメント 11 経営のグローバル化と研究開発 12 経営学と経営システム工学
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト：日本経済新聞社（編）『ベーシック経営入門』、参考文献は開講時に紹介する。	期末試験と出席状況で評価する。

01 年度以降 00 年度以前	経営学 b　（経営学科） 経営学	担当者	日下　泰夫

講義目的、講義概要	授業計画
入門講座として、経営学の基本的な概念を説明する。 《変化の時代》の経営学が極めて興味深い学問領域であることを理解できるような講義をめざしている。 講義の前半（1～6）は経営学の基本的な概念を説明する。後半（7～11）は、現在、経営の重要課題として脚光を浴びている技術経営/研究開発マネジメントを、いくつかの視点から考察する。最後に、経営学と関係の深い経営システム工学と経営学との接点を紹介する。 講義の終わりには、最新のトピックスについても出来るだけ紹介する。 同一教員の経営学 a の既履修者は履修できないので注意すること。	1　企業と外部環境 2　経営資源とマネジメント 3　経営戦略 4　環境経営 5　経営と情報 6　コーポレート・ガバナンス 7　イノベーション:プロダクト・イノベーション 10　イノベーション：テクノイノベーションと技術戦略 11　イノベーション：マーケティング・イノベーション 10 研究開発（R&D）組織と人材マネジメント 11 経営のグローバル化と研究開発 12 経営学と経営システム工学
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト：日本経済新聞社（編）『ベーシック経営入門』、参考文献は開講時に紹介する。	期末試験と出席状況で評価する。

01 年度以降 00 年度以前	経営学 a　（経営学科） 経営学	担当者	小林　哲也

講義目的、講義概要	授業計画
現代企業をめぐる情報化と国際化の動きを中心に、経営学の基礎的な学習を進めることを目的とする。 現代企業を取り巻く条件は、急速に変化している。情報技術革命が、企業の組織や戦略に大きな変化をもたらすようになってきた。またアジア諸国の工業化にともなって、世界の産業地図は大きく描き直されようとしている。いわゆる日本的経営も、システムとして再検討されるようになってきた。 本講義では、主として日本企業の経験に学びながら、経営学の基本的な知識とともに、現代企業の直面する新しい課題について議論していく。 同一教員の経営学 b の既履修者は履修できないので注意すること。	1．　経済学と経営学 　　勉強の進め方・ノートの取り方 2．　情報技術革命のインパクト 3．　「失われた 10 年」と日米企業 4．　現代における技術革新と競争優位 5．　日本的生産システムの確立と進化 6．　情報化とネットワーク 7．　---経済・経営情報検索術--- 8．　世界の多国籍企業 9．　技術革新と新しい国際分業 10.　日本企業の海外進出 11.　グローバリゼーション 12.　日本的経営の行方
テキスト、参考文献	評価方法
テキストは特に定めないが参考書として、 　三橋規宏他『ゼミナール日本経済入門』	小レポートおよび定期試験

01 年度以降 00 年度以前	経営学 b　（経営学科） 経営学	担当者	小林　哲也

講義目的、講義概要	授業計画
現代企業をめぐる情報化と国際化の動きを中心に、経営学の基礎的な学習を進めることを目的とする。 現代企業を取り巻く条件は、急速に変化している。情報技術革命が、企業の組織や戦略に大きな変化をもたらすようになってきた。またアジア諸国の工業化にともなって、世界の産業地図は大きく描き直されようとしている。いわゆる日本的経営も、システムとして再検討されるようになってきた。 本講義では、主として日本企業の経験に学びながら、経営学の基本的な知識とともに、現代企業の直面する新しい課題について議論していく。 同一教員の経営学 a の既履修者は履修できないので注意すること。	1．　経済学と経営学 　　勉強の進め方・ノートの取り方 2．　情報技術革命のインパクト 3．　「失われた 10 年」と日米企業 4．　現代における技術革新と競争優位 5．　日本的生産システムの確立と進化 6．　情報化とネットワーク 7．　---経済・経営情報検索術--- 8．　世界の多国籍企業 9．　技術革新と新しい国際分業 10.　日本企業の海外進出 11.　グローバリゼーション 12.　日本的経営の行方
テキスト、参考文献	評価方法
テキストは特に定めないが参考書として、 　三橋規宏他『ゼミナール日本経済入門』	小レポートおよび定期試験

01 年度以降 00 年度以前	経営学 a　（経営学科） 経営学	担当者	冨田　忠義

講義目的、講義概要	授業計画
企業、経営、管理をキーワードとして取り上げて、実践学としての現代経営学について概説する。はじめて経営学を学ぶ受講生を前提にして、最新の内容と入門的易しさとを両立させたいと考えている。本講義は、「経営学入門の入門」である。 ここでは現代企業とその経営の解明を、現代経営学の最新の研究成果の紹介を通して行う。まず経営学の研究対象と研究方法について概説し、この学問が企業の経営と管理を実践学的方法で研究するものであることを明らかにする。次に企業についてその種類や性格、他の企業との関係の仕方について概説する。最後に、現代企業についてその目的や理念、戦略を、激動する企業環境と関連させて概説して、全体として現実の企業行動を専門的に理解するための経営学的見方を教授する。 同一教員の経営学 b の既履修者は履修できないので注意すること。	1　春学期授業計画の概要 2　経営と管理 3　経営職能 4　企業形態 5　株式会社 6　企業間関係 7　企業集団 8　経営理念 9　経営社会責任 10　経営環境 11　経営戦略 12　春学期授業のまとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
河野重榮『マネジメント要論』八千代出版	期末試験の結果と、授業出席状況による

01 年度以降 00 年度以前	経営学 b　（経営学科） 経営学	担当者	冨田　忠義

講義目的、講義概要	授業計画
企業、経営、管理をキーワードとして取り上げて、実践学としての現代経営学について概説する。はじめて経営学を学ぶ受講生を前提にして、最新の内容と入門的易しさとを両立させたいと考えている。本講義は、「経営学入門の入門」である。 ここでは現代企業とその経営の解明を、現代経営学の最新の研究成果の紹介を通して行う。まず経営学の研究対象と研究方法について概説し、この学問が企業の経営と管理を実践学的方法で研究するものであることを明らかにする。次に企業についてその種類や性格、他の企業との関係の仕方について概説する。最後に、現代企業についてその目的や理念、戦略を、激動する企業環境と関連させて概説して、全体として現実の企業行動を専門的に理解するための経営学的見方を教授する。 同一教員の経営学 a の既履修者は履修できないので注意すること。	1　秋学期授業計画の概要 2　経営と管理 3　経営職能 4　企業形態 5　株式会社 6　企業間関係 7　企業集団 8　経営理念 9　経営社会責任 10　経営環境 11　経営戦略 12　秋学期授業のまとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
河野重榮『マネジメント要論』八千代出版	期末試験の結果と、授業出席状況による

01 年度以降 00 年度以前	経営学 a　（経営学科） 経営学	担当者	平井　岳哉

講義目的、講義概要	授業計画
経営とは、複数の人々が集まり、特定の目的を達成するために協働するもので、その場合、知恵をしぼって効率的と思われる最善の方法を講じることです。 そこには、①組織の形成、②人を動かす仕組み、③成功の確率が高まるための戦略の策定、などいろいろな工夫が必要です。 この授業では、経営学全般の項目について、できるだけわかりやすい事例を使って基礎的な知識の習得を図ります。 同一教員の経営学 b の既履修者は履修できないので注意すること。	1　オリエンテーション 2　組織 3　分業と協業 4　モチベーション 5　リーダーシップ 6　競争と協調 7　人の配置と育成 8　事業評価 9　マーティング １０　情報活用 １１　生産戦略 １２　経営戦略
テキスト、参考文献	**評価方法**
教科書は、特に指定しない。 参考書は、高村寿一　『ベーシック経営入門』（日経文庫）	期末試験の結果と授業での貢献

01 年度以降 00 年度以前	経営学 b　（経営学科） 経営学	担当者	平井　岳哉

講義目的、講義概要	授業計画
春学期と同じ 同一教員の経営学 a の既履修者は履修できないので注意すること。	春学期と同じ
テキスト、参考文献	**評価方法**
春学期と同じ	春学期と同じ

01 年度以降 00 年度以前	経済学 a　（経営学科） 経済学	担当者	米山　昌幸

講義目的、講義概要	授業計画
私たちが経済学を勉強するのは、経済学の理論的枠組みを用いて現実の経済社会についての理解を深め、さらには問題解決の手掛かりを見出すためです。 講義の目的は、はじめて経済学を勉強する学生に、経済学が現実経済を理解する上で、どのように有用であるかを知ってもらい、経済学に興味をもってもらうこと、そして分析用具としての経済学の基礎的な考え方を理解してもらうこと、この 2 つです。この講義は、経済学を学ぼうとする初心者をおもな対象としています。経済学を学ぶ初心者としては経済学部の学生も他学部の学生も同じです。新聞記事を参照したり経済データを提示して、経済学的な考え方になれてもらうようにしたいと考えています。 経済学の分野は、ミクロ経済学とマクロ経済学に大別されます。春学期は、ミクロ経済学の分野を中心に講義します。ビジネスの問題や企業や産業の現場の事例もできるだけ取り上げていきます。 今年度新しい教科書を検討していますが、シラバス原稿を書いている時点でまだ刊行されていませんので、未定です。したがいまして授業計画もあくまでも目安と考えてください。	1. 経済学とは何か 2. 完全競争市場 3. 市場メカニズム 4. 需給の変化 5. 消費者余剰 6. 生産者余剰 7. 市場均衡 8. 弾力性 9. 市場介入の効果 10. 生産者行動の理論 11. 消費者行動の理論 12. 不完全競争
テキスト、参考文献	**評価方法**
未定。清野一治『ミクロ経済学入門』(シリーズ・新エコノミクス)(2006 年 3 月刊行予定)を予定。	出席状況、練習問題、および定期試験の総得点によって評価する。毎回必ず講義に出席できる勉学熱心な学生に限る。評価基準は第 1 回目の授業で説明する。

01 年度以降 00 年度以前	経済学 b　（経営学科） 経済学	担当者	米山　昌幸

講義目的、講義概要	授業計画
私たちが経済学を勉強するのは、経済学の理論的枠組みを用いて現実の経済社会についての理解を深め、さらには問題解決の手掛かりを見出すためです。 講義の目的は、はじめて経済学を勉強する学生に、経済学が現実経済を理解する上で、どのように有用であるかを知ってもらい、経済学に興味をもってもらうこと、そして分析用具としての経済学の基礎的な考え方を理解してもらうこと、この 2 つです。この講義は、経済学を学ぼうとする初心者をおもな対象としています。経済学を学ぶ初心者としては経済学部の学生も他学部の学生も同じです。新聞記事を参照したり経済データを提示して、経済学的な考え方になれてもらうようにしたいと考えています。 経済学の分野は、ミクロ経済学とマクロ経済学に大別されます。秋学期は、マクロ経済学の分野を中心に講義します。 今年度新しい教科書を検討していますが、シラバス原稿を書いている時点でまだ刊行されていませんので、未定です。したがいまして授業計画もあくまでも目安と考えてください。	1. マクロ経済学とは何か 2. 所得循環 3. インフレーション 4. 失業 5. 貯蓄と投資 6. 経済成長 7. 景気循環 8. 貨幣システム 9. 所得・支出分析 10. 生産物市場と貨幣市場 11. 労働市場 12. 開放マクロ経済学の基礎
テキスト、参考文献	**評価方法**
未定。二神孝一『マクロ経済学入門』(シリーズ・新エコノミクス)(日本評論社、2006 年 3 月刊行予定)を予定。	出席状況、練習問題、および定期試験の総得点によって評価する。毎回必ず講義に出席できる勉学熱心な学生に限る。評価基準は第 1 回目の授業で説明する。

01 年度以降 00 年度以前	経営学原理 a 経営学原理	担当者	黒川　文子

講義目的、講義概要	授業計画
経営学が他の学問領域と異なる最も基本的かつ重要な問題を中心に講義する。その上に立って、今日的問題、すなわち規制緩和、企業の国際化と空洞化、E ビジネス等をアプローチする。経営学ほど変化の激しい領域はないので、原理を把握していれば、どのような状況にもうまく対処できよう。 講義では、経営学の理論の紹介だけでなく、実際の企業のケースを取り上げて、理解しやすいように授業を進めていく。経営学原理 a では、企業の目的、株式会社制度などの企業経営の基本的なコンセプトを理解した上で、経営戦略の策定について学習する。	1　企業経営とは何か 2　変貌する現代のビジネス 3　企業とビジネスの関係 4　ニュービジネスの登場と経営革新 5　現代の会社制度と企業経営 6　資本主義経済と株式会社 7　経済のグローバル化と株式会社の機構改革 8　企業の目的と業績評価 9　業績評価尺度 10　多角化企業と競争環境 11　持続的競争優位と戦略 12　職務とは何か
テキスト、参考文献	**評価方法**
未定	期末試験と出席によって、総合的に評価する。

01 年度以降 00 年度以前	経営学原理 b 経営学原理	担当者	黒川　文子

講義目的、講義概要	授業計画
経営学原理 b では、まず経営戦略と密接な関係にある組織について講義する。最近、「アウトソーシング」や「バーチャル・コーポレーション」などで注目を浴びている「IT 革新とネットワーク組織」についても見ていく。 次に、生産、マーケティング、人的資源等の現代的な経営オペレーション・システムについて理解を深める。最後に、経営倫理やイノベーションとベンチャーといった、現代の経営にとって重要な問題についても焦点をあてて講義していく。	1　機能別組織とプロセス組織 2　事業別組織とカンパニー制 3　IT 革新とネットワーク組織 4　伝統的な組織間関係 5　日本的な企業グループと系列 6　伝統的なジョブ・ショップと流れ作業生産 7　モジュール組立方式とセル生産 8　トヨタのカンバン方式とリーン生産 9　マーケティング戦略 10　人的資源戦略 11　経営倫理 12　イノベーションとベンチャー
テキスト、参考文献	**評価方法**
未定	期末試験と出席によって、総合的に評価する。

01 年度以降 00 年度以前	経営学原理 a 経営学原理	担当者	冨田　忠義

講義目的、講義概要	授業計画
われわれにとって「企業」とは一体なにか、その「経営」はどのような種類の人間によって、どのように行われているのか。本講義は、この種の疑問にたいして、経営学の最新の研究成果を概観することで答えようとしている。 講義では、組織の行動を基本的に方向づけ特色を与える企業目的と経営理念、経営の担い手としての専門経営者（CEO）の機能と役割、取締役会などの最高経営機関の仕組み、経営管理の過程と要素機能、問題解決と意思決定の過程、計画技法とコントロール技法、組織構造と組織過程、組織の活性化などの個別テーマ、および、経営管理機能について研究を進めてきた現代経営学の生成と発展などに関して順次考察する。	1　春学期授業計画の概要 2　（経営学方法論）経営学の対象 3　マネジメント経営学の方法 4　実践経営学の方法 5　（経営理念）現代企業の目的 6　経営理念 7　経営社会責任 8　（経営リーダーシップ論） 最高経営機関とその機能 9　株主総会、取締役会 10　CEO（最高経営責任者） 11　コーポレート・ガバナンス 12　春学期授業のまとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト河野重榮『マネジメント要論』八千代出版 参考文献小椋康宏『経営学原理＜第２版＞』学文社	期末試験の結果と、授業出席状況による

01 年度以降 00 年度以前	経営学原理 b 経営学原理	担当者	冨田　忠義

講義目的、講義概要	授業計画
われわれにとって「企業」とは一体なにか、その「経営」はどのような種類の人間によって、どのように行われているのか。本講義は、この種の疑問にたいして、経営学の最新の研究成果を概観することで答えようとしている。 講義では、組織の行動を基本的に方向づけ特色を与える企業目的と経営理念、経営の担い手としての専門経営者（CEO）の機能と役割、取締役会などの最高経営機関の仕組み、経営管理の過程と要素機能、問題解決と意思決定の過程、計画技法とコントロール技法、組織構造と組織過程、組織の活性化などの個別テーマ、および、経営管理機能について研究を進めてきた現代経営学の生成と発展などに関して順次考察する。	1　秋学期授業計画の概要 2　（マネジメント技法論） マネジメント・プロセス 3　問題解決と意思決定 4　戦略策定技法、計画技法、コントロール技法 5　（経営組織論）組織構造と組織過程 6　組織の類型化、経営組織の設計、権限と責任 7　リーダーシップ 8　経営組織の活性化 9　（経営管理学説史） 現代経営学の生成と発展 テイラーとフォード 10　ファヨールとフォレット 11　バーナードとサイモン 12　秋学期授業のまとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト河野重榮『マネジメント要論』八千代出版 参考文献小椋康宏『経営学原理＜第２版＞』学文社	期末試験の結果と、授業出席状況による

01 年度以降 00 年度以前	経営戦略論 a 経営戦略論	担当者	冨田　忠義

講義目的、講義概要	授業計画
受講者が現代企業の行動を戦略的な観点から理解できるようにしたいというのが、本講義の狙いである。そこで、現代的な経営戦略理論を理解するための基礎概念、経営戦略の種類と類型、経営戦略を策定するための技法などについて概説する。経営戦略論の入門編である。 ここでは企業の戦略策定について、理論と技法の両面から学ぼうとしている。まず、経営戦略とは如何なるものか明確にして、戦略策定上の重要変数として、経営目標、経営環境、経営資源を取り上げて考察し、多様な経営戦略を類型化して、全体を把握する。次に、経営戦略の一般的な策定法について学ぶ。こうした準備の後で、拡大化戦略、多角化戦略など個々の戦略策定法について考察する。	1　春学期授業計画の概要 2　（経営戦略の基礎）経営環境と経営戦略 3　環境に含まれる機会と脅威 4　（経営戦略の構造）戦略策定の関連変数 5　経営目標、経営環境、経営資源 6　効果的な経営戦略の要件 7　（経営戦略の類型）類型化の方法 8　全社戦略、事業戦略 9　競争戦略 10　（経営戦略の策定過程）問題解決思考 11　戦略策定過程の一般化 12　春学期授業のまとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
河野重榮『マネジメント要論』八千代出版	期末試験の結果と、授業出席状況による

01 年度以降 00 年度以前	経営戦略論 b 経営戦略論	担当者	冨田　忠義

講義目的、講義概要	授業計画
受講者が現代企業の行動を戦略的な観点から理解できるようにしたいというのが、本講義の狙いである。そこで、現代的な経営戦略理論を理解するための基礎概念、経営戦略の種類と類型、経営戦略を策定するための技法などについて概説する。経営戦略論の入門編である。 ここでは企業の戦略策定について、理論と技法の両面から学ぼうとしている。まず、経営戦略とは如何なるものか明確にして、戦略策定上の重要変数として、経営目標、経営環境、経営資源を取り上げて考察し、多様な経営戦略を類型化して、全体を把握する。次に、経営戦略の一般的な策定法について学ぶ。こうした準備の後で、拡大化戦略、多角化戦略など個々の戦略策定法について考察する。	1　秋学期授業計画の概要 2　（成長戦略の策定）事業拡大化戦略 3　事業多角化戦略 4　（製品ライフサイクル戦略）製品寿命 5　成熟期に移行する業界の経営戦略 6　（リストラ戦略）リストラの必要性 7　リストラ戦略の策定 8　（事業ポートフォリオ・マネジメント） 9　多産業型企業の事業選択戦略 10　（ポーターの競争戦略論）競争戦略の基本型 11　競争優位の構築、価値連鎖 12　秋学期授業のまとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
河野重榮『マネジメント要論』八千代出版	期末試験の結果と、授業出席状況による

01 年度以降 00 年度以前	経営管理論 a 経営管理論	担当者	黒川　文子

講義目的、講義概要	授業計画
経営管理論ほど、時代の変化とともに進展した領域はない。古くは、単なる工場内の管理から、今日では、経営管理論は地球環境問題を含めて議論されている。アメリカでは経営学といえば経営管理論と同一視されているほど、経営学の中心領域であるので、基本的な事項を十分時間をかけて講義する。 経営管理論 a では、まず今日の企業制度を理解してから、経営管理論の歴史的展開を考察していく。	1　今日の企業制度 2　現代企業のコーポレート・ガバナンス 3　現代社会の変化と企業経営 4　企業組織のマネジメント機能について 5　現代における経営者（CEO）の機能と責任 6　テイラーの科学的管理法 7　ファヨールの管理論 8　管理過程学派 9　人間関係論とホーソン実験 10　従来の管理機能論の枠組み 11　クーンツ理論 12　管理機能論の新展開
テキスト、参考文献	**評価方法**
未定	期末試験と出席によって、総合的に評価する。

01 年度以降 00 年度以前	経営管理論 b 経営管理論	担当者	黒川　文子

講義目的、講義概要	授業計画
経営管理論 b では、働く人の人間的側面に焦点を当てて、いかに動機づけをすべきかについて理解を深めていく。次に、目標達成に向けて、組織のメンバーに影響を及ぼすリーダーの多様なリーダーシップについても見ていく。 最後に、変化の激しい企業環境の中で、どのような経営組織が環境に適合するかを考えた上で、経営者の役割を再確認していく。	1　動機づけの諸理論 2　マグレガーの X 理論と Y 理論 3　マズローの欲求段階論 4　動機づけ―衛生理論 5　期待理論 6　リーダーシップ論の多様な発展 7　オハイオ州立大学・リーダーシップ・プログラム 8　マネジリアル・グリッド論 9　企業文化と経営 10　経営組織の編成原理 11　経営組織の活性化 12　経営組織の革新
テキスト、参考文献	**評価方法**
未定	期末試験と出席によって、総合的に評価する。

01 年度以降 00 年度以前	経営組織論 a 経営組織論	担当者	高松　和幸

講義目的、講義概要	授業計画
この講義では，伝統的組織論から近代組織論への発展を前提として，とくに近代組織論の内容について理解を深めることを目的とする。組織論においては，組織を取り巻く環境の土台のうえに，個人と組織との関わりがもっとも重要な課題であり，こうした諸問題をとりあげて論述する。 また講義では，非営利組織（ＮＰＯ）について、NPO の事業・活動など、その運営の多様性も併せて講義する。将来、NPO での活躍が期待される事業や組織運営での基礎を理解すると同時に、事例に基づく学習を行う。その周辺の諸問題をとりあげる予定である。	1. 伝統的組織論①…古典的組織論の特徴 2. 伝統的組織論②…ファヨールやクーンツ 3. 近代組織論①…バーナード 4. 近代組織論②…マーチ＝サイモン理論 5. 経営組織モデルの発展段階…経営組織モデル 6. 組織とモチベーション理論① 7. 組織とモチベーション理論② 8. 組織とコンティンジェンシー理論① 9. 協働システムとしての組織① 10. 協働システムとしての組織② 11. 意思決定システムとしての組織① 12. 意思決定システムとして組織②
テキスト、参考文献	**受講条件・評価方法**
高松和幸著『経営組織論講義（増補版)』創成社，2003. 高松和幸著『ＮＰＯマネジメント』五絃舎、2002 年.	受講条件：ｂも履修すること 評価方法：期末定期試験・平常授業の課題など

01 年度以降 00 年度以前	経営組織論 b 経営組織論	担当者	高松　和幸

講義目的、講義概要	授業計画
この講義では，伝統的組織論から近代組織論への発展を前提として，とくに近代組織論の内容について理解を深めることを目的とする。組織論においては，組織を取り巻く環境の土台のうえに，個人と組織との関わりがもっとも重要な課題であり，こうした諸問題をとりあげて論述する。 講義では，伝統的組織論を出発点として，人間関係論におけるモチベーション理論やコンティンジェンシー理論をとりあげ，そのうえで近代組織論として，協働システムとしての組織，意思決定システムとしての組織，生存可能システムとしての組織に重点をおいて，その周辺の諸問題をとりあげて講義する。	1. 組織均衡の理論① 2. 組織均衡の理論② 3. ゴーイング・コンサーンとしての組織① 4. ゴーイング・コンサーンとしての組織② 5. 組織とコンフリクト 6. 組織とサイバネティクス① 7. 組織とサイバネティクス② 8. 生存可能システムとしての組織① 9. 生存可能システムとしての組織② 10. 組織のカタストロフィー・モデル 11. 組織と必要多様性の法則 12. 組織における自律性の概念
テキスト、参考文献	**受講条件・評価方法**
高松和幸著『経営組織論講義（増補版)』創成社，2003. 高松和幸著『ＮＰＯマネジメント』五絃舎、2002 年.	受講条件：a を履修していること 評価方法：期末定期試験・平常授業の課題など

01 年以降 00 年以前	経営財務論 a 経営財務論	担当者	細田　哲

講義目的、講義概要	授業計画
講義の目的 我が国において「間接金融」主導型の金融システムは崩壊しつつあり、各国資本市場は、それぞれ高度化、多様化、国際化を遂げつつある。したがって、経営者（財務担当者）は、資本市場により関心を払って財務的意思決定を行わなければならない状況となっている。そこで、「資本市場」志向の財務的意思決定のあり方について説明し、同時に、日本企業が採用してきた財務政策の特色と問題点について検討する。 講義概要 各週別の講義予定を見られたい。	1.1.企業の目的と財務政策 a)市場型経済における消費・貯蓄・投資の決定 b)企業による市場を通じる価値創造 2.1.企業の目的と財務政策 c)資本市場の役割 d)企業の財務的意思決定のフレームワーク 3.2.資産の価値をどう評価するか a)現在価値の評価 4.2.資産の価値をどう評価するか　b)債権の評価 5.3.株式の価値はどう決まる a)配当割引モデルの考え方 b)一定成長配当割引モデルと株価収益率 6.3.株式の価値はどう決まる　c)配当割引モデルの応用、d)日本の株価水準と期待収益率 7.4.リスクをどう測るか　a)投資リスクの尺度 8.4.リスクをどう測るか　b)ポートフォリオのリスク. 9.4.リスクをどう測るか　c)ベータ値と資本資産評価モデル 10.5.資本コストとは何か a)資本コストとは、b)投資のキャッシュ･フロー 11.5.資本コストとは何か　c)資本コストの推計方法 12.5.資本コストとは何か d)日本企業の資本コストの計算例 e)資本コストと資金コスト
テキスト、参考文献	**評価方法**
・井手正介、高橋文郎著「ビジネス・ゼミナール　経営財務入門」（日本経済新聞社）	期末試験の結果による。

01 年以降 00 年以前	経営財務論 b 経営財務論	担当者	細田　哲

講義目的、講義概要	授業計画
講義の目的 我が国において「間接金融」主導型の金融システムは崩壊しつつあり、各国資本市場は、それぞれ高度化、多様化、国際化を遂げつつある。したがって、経営者（財務担当者）は、資本市場により関心を払って財務的意思決定を行わなければならない状況となっている。そこで、「資本市場」志向の財務的意思決定のあり方について説明し、同時に、日本企業が採用してきた財務政策の特色と問題点について検討する。 講義概要 各週別の講義予定を見られたい。	1.6.望ましい資本構成とは a)完全資本市場における資本構成と企業価値 2.6.望ましい資本構成とは b)法人税や倒産可能性が企業価値に与える影響 3.6.望ましいし資本構成とは c)企業価値の最大化と株価の最大化 d)資本構成決定の現実的な考慮点 e)日本企業の資本構成の動向 4.7.配当政策の考え方 a)配当政策の理論、b)配当政策をめぐる問題点 5.7.配当政策の考え方 c)株式配当と株式分割、d)日米企業の配当政策 6.8.自社株取得 a)自社株取得の本質、b)自社株取得の利用動機 7.8.自社株取得 c)自社株取得と株価評価 d)自社株取得をめぐる我が国の現状 8.9.リスク管理とディリバティブの利用 a)ディリバティブとは何か 9.9.リスク管理とディリバティブの利用 b)ディリバティブを利用した金利リスク管理 c)企業財務とリスク管理 10.10.企業の合併・買収 11.11.日本の伝統的な金融システムの特色と問題点 12.12.日本企業の財務政策の課題
テキスト、参考文献	**評価方法**
・井手正介、高橋文郎著「ビジネス・ゼミナール　経営財務入門」（日本経済新聞社）	期末試験の結果による。

01 年度以降 00 年度以前	人的資源管理論 a 経営労務論	担当者	岡部　康弘

講義目的、講義概要	授業計画
今日企業を取り巻く経営環境は刻々と変化する。国境を越えた競争の激化、マイノリティー、女性等の新たな労働者の労働市場への参入、労働者の価値観の変化、消費者の嗜好の多様化、政府の規制緩和あるいは規制の強化等である。企業は生き残るためにはこのような市場の変化に敏感に対応しないといけない。 このような要請に充分に答えることができなかった従来の人事管理論（Personnel Management）と異なり、人的資源管理（ＨＲＭ）は企業の経営戦略と結びつき戦略を履行するため能動的に人材育成などの人事政策・慣行を総合的に考えるものである。企業のミッションや経営戦略は、どんなに立派でも実行できないと意味がない。結局、企業の経営は人の問題に帰着する。ＨＲＭは企業を人の面から分析する。講義奇数回はＰＰＴを使い理論の説明をする。講義偶数回は前回の理論を使ったケース分析をグループで討論しプレゼンを行う。	１．　HRM とはなにか。 ２．　人を基に創られた企業 ３．　戦略的 HRM 環境 ４．　融合戦略と Chaparral 製鉄の人 ５．　グローバル環境 ６．　人的資源と国際的合併 ７．　職務分析 ８．　次の CEO を選ぶ１つの方法 ９．　採用 １０．　リクルーターの強さ １１．　選別と配置 １２．　リスクの高い従業員を雇うことは割に合うか。

テキスト、参考文献	評価方法
毎回講義資料を配布する。DeNish & Griffin (2002) *Human Resource Management*.　Houghton Mifflin Company	出席、試験、レポートによる。

01 年度以降 00 年度以前	人的資源管理論 b 経営労務論	担当者	岡部　康弘

講義目的、講義概要	授業計画
今日企業を取り巻く経営環境は刻々と変化する。国境を越えた競争の激化、マイノリティー、女性等の新たな労働者の労働市場への参入、労働者の価値観の変化、消費者の嗜好の多様化、政府の規制緩和あるいは規制の強化等である。企業は生き残るためにはこのような市場の変化に敏感に対応しないといけない。 このような要請に充分に答えるため、人的資源管理（ＨＲＭ）は企業の経営戦略と結びつき戦略を履行するため能動的に人材育成などの人事政策・慣行を総合的に考えるものである。企業のミッションや経営戦略は、どんなに立派でも実行できないと意味がない。結局、企業の経営は人の問題に帰着する。ＨＲＭは企業を人の面から分析する。	１．　評価管理 ２．　HRM に於ける倫理的ジレンマ ３．　教育訓練 ４．　ボーイングは将来に向かって訓練する。 ５．　キャリア開発 ６．　多様なキャリアパスを通して価値ある従業員を保持する。 ７．　報酬制度 ８．　コンチネンタル航空の驚くべき方向転換 ９．　福利厚生 １０．　柔軟な福利は全ての範囲にわたる。 １１．　多様性の管理 １２．　エイボンのやり方

テキスト、参考文献	評価方法
毎回講義資料を配布する。DeNish & Griffin (2002) *Human Resource Management*.　Houghton Mifflin Company	出席、試験、レポートによる。

01 年度以降 00 年度以前	国際経営論 a 国際経営論	担当者	小林　哲也

講義目的、講義概要	授業計画
グローバリゼーションの原動力の一つは、多国籍企業である。現代企業は、財の生産や販売のみならず、情報や金融の世界でもグローバル化を進めている。生産・流通・広告・金融など各分野での技術革新により、国際分業が新たな形で再編成されつつある。 本講義では、企業の国際化に伴う諸問題を包括的に議論し、グローバリゼーションを理解するための理論的枠組みを提供することを目的とする。 通年受講が望ましい。前半では、グローバリゼーションと情報化の流れの中で、新しい競争の時代を迎えている現代企業像の概要を解説する。	１．　はじめに グローバリゼーションの時代と多国籍企業 現代経済における多国籍企業 ２．　現代企業の理論 巨大企業と「豊かな」社会 ３．　現代企業の理論 コーポレートガバナンスの変貌 ４．　現代企業の理論 フォード主義から日本的生産システムへ ５．　現代企業の理論 情報技術革命と企業組織 ６．　現代企業の理論 多国籍企業と直接投資 ７．　多国籍企業と新しい国際分業 技術革新と国際分業の再編成 ８．　情報技術革命と日米企業 IT 革命のインパクト ９．　情報技術革命と日米企業 企業組織と経営戦略の変貌 １０．情報技術革命と日米企業 生産性と競争優位をめぐって １１．情報技術革命と日米企業 IT と新しい「ビジネス・モデル」 １２．情報技術革命と日米企業 情報化社会と日本的経営論の再審
テキスト、参考文献	**評価方法**
授業中に、適宜指示する	定期試験による

01 年度以降 00 年度以前	国際経営論 b 国際経営論	担当者	小林　哲也

講義目的、講義概要	授業計画
後半では、多国籍企業の活動にかかわるケーススタディを中心として、 グローバリゼーションの現状を分析していく。	１．　日本企業の国際化 システムとしての日本企業 ２．　日本企業の海外進出 戦後復興から 1990 年代まで ３．　日本企業の海外進出 アメリカの日系企業 ４．　日本企業の海外進出 ヨーロッパの日系企業 ５．　日本企業の海外進出 アジアへの進出と撤退 ６．　日本企業の海外進出 「チャイナ・ショック」以降の国際分業 ７．　日本企業の海外進出 「摩擦」の政治経済学 ８．　情報技術革命と世界的な産業の再編成 ハイテク産業の覇権をめぐって ９．　情報技術革命と世界的な産業の再編成 自動車産業を中心として １０．情報技術革命と世界的な産業の再編成 知的財産権をめぐって １１．情報技術革命と世界的な産業の再編成 日本企業の課題 １２．まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
授業中に、適宜指示する	定期試験による

01 年度以降 00 年度以前	経営史 a 経営史	担当者	柳　敦

講義目的、講義概要	授業計画
欧米を中心とし、企業経営行動の歴史的変遷をたどる。各時期、各地域における企業行動の合理性（あるいは非合理性）を歴史的制約、文化的側面をも含めて考える。 近代工業化以前の企業活動を概観し、次いで、英国における産業革命の特徴と企業経営の問題を検討する。	1　経営史の課題と問題 2　ヨーロッパ前近代における企業と経営（1） 3　ヨーロッパ前近代における企業と経営（2） 4　ヨーロッパ前近代における企業と経営（3） 5　重商主義とアダム・スミス 6　資本主義とその精神 7　英国産業革命とその特徴（1） 8　英国産業革命とその特徴（2） 9　英国産業革命期の企業経営（1） 10　英国産業革命期の企業経営（2） 11　工場制の導入と規律の変化 12　まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
必要に応じて紹介する。	期末試験の成績によって評価を行う。

01 年度以降 00 年度以前	経営史 b 経営史	担当者	柳　敦

講義目的、講義概要	授業計画
欧米を中心とし、企業経営行動の歴史的変遷をたどる。各時期、各地域における企業行動の合理性（あるいは非合理性）を歴史的制約、文化的側面をも含めて考える。 後発工業国であるフランス、ドイツ、米国の事例を検討しながら 19 世紀における企業経営のありかたを考察し、次いで、20 世紀型企業経営の問題を考える。	1　19 世紀フランスにおける工業化とその特徴 2　19 世紀フランス企業経営の特徴 3　19 世紀ドイツにおける工業化とその特徴 4　19 世紀ドイツ企業経営の特徴 5　19 世紀における小売業界での変化と特徴 6　19 世紀米国における工業化とその特徴 7　19 世紀米国企業経営の特徴 8　ビッグビジネスの展開と独占禁止法 9　科学的管理法の展開 10　企業組織の問題 11　フォードとＧＭ 12　まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
必要に応じて紹介する。	期末試験の成績によって評価を行う。

01 年度以降 00 年度以前	日本経営史 a 日本経営史	担当者	奈倉　文二

講義目的、講義概要	授業計画
本講義では日本の大企業経営の形成発展について個別企業や経営者など具体的事例をあげながら明らかにする。 まず、資本主義成立発展過程に即して、大企業システム形成上の様々な事例と問題点を国家と企業及びその国際的諸関係に留意しながら明らかにする。財閥・国有企業・外資系企業についてはやや立ち入った検討を加え、コーポレート・ガヴァナンスについてもその後の変化を念頭に置きつつ考察する。 具体的イメージを持てるようにＶＴＲも活用する予定。講義内容を理解する上で「日本経済史 a」をも受講することが望ましい。 現在作成中の講義要綱（仮称『日本資本主義の発展と産業企業』、「日本経済史」と共通）が間に合えばテキストとして使用する。	1　はじめに 2　幕末維新と政商（小野組・島田組と三井） 3　外商の活動と外資規制（グラバーと高島炭坑） 4　「近代化」・「工業化」の担い手（渋沢と岩崎） 5　会社制度の導入・発展（紡績・鉄道・銀行） 6　官業払い下げ、「政商から財閥へ」 7　「番頭経営」と専門経営者 8　国有国営企業と軍事関連企業 9　外資系企業の進出（英米系企業中心） 10　日本企業の中国進出（満鉄と在華紡） 11　財閥コンツェルンと持株会社 （財閥のコーポレート・ガヴァナンス） 12　外資系会社とコーポレート・ガヴァナンス （日本製鋼所を中心に） （項目・順序は変更あり得る。）
テキスト、参考文献	**評価方法**
宇田川・中村編『マテリアル日本経営史』（有斐閣）、経営史学会編『日本経営史の基礎知識』（有斐閣）、その他適宜指示する。	筆記試験

01 年度以降 00 年度以前	日本経営史 b 日本経営史	担当者	奈倉　文二

講義目的、講義概要	授業計画
本講義では、戦前から戦後にかけての大企業経営の変遷について具体的事例をあげながら明らかにする。 まず、大企業経営のあり方が 1930 年代に変化したことを官民関係の変容、新興コンツェルンの蓄積様式（旧財閥との比較）、外資系企業の展開と規制、軍需産業の展開などについて明らかにする。さらに、戦後大企業システムの形成発展について、財閥解体、企業集団の形成、「日本型企業システム」「日本的経営」「日本的経営者支配」の内容、重化学大企業（鉄鋼・家電・自動車）の発展様式、企業集団とコーポレート・ガヴァナンスなどについて述べる。 ＶＴＲも活用する予定。「日本経営史 a」「日本経済史 a, b」をも受講することが望ましい。 現在作成中の講義要綱が間に合えばテキストとして使用する。	1　はじめに 2　日本製鉄の設立と官民関係 3　新興コンツェルン（日産など）と旧財閥 4　外資系企業の展開と規制（石油・自動車） 5　軍需産業の展開（三菱重工と中島飛行機） 6　財閥解体（集排法・独禁法含む）の経営史的意義 7　企業集団形成（株式持合・社長会・系列融資） 8　「日本型企業システム」・「日本的経営」・「日本的経営者支配」 9　耐久消費財（家電・自動車）大企業の発展 10　鉄鋼寡占資本間の競争と協調（新日鉄） 11　企業集団・系列とコーポレート・ガヴァナンス 12　展望：持株会社解禁・「経営統合」・４大（→３大）メガバンクと企業集団の変容 （項目・順序は変更あり得る。）
テキスト、参考文献	**評価方法**
宇田川・中村編『マテリアル日本経営史』（有斐閣）、経営史学会編『日本経営史の基礎知識』（有斐閣）、その他適宜指示する。	筆記試験

01 年度以降 00 年度以前	マーケティング論 a マーケティング論	担当者	有吉　秀樹

講義目的、講義概要	授業計画
マーケティングは、消費者のニーズを企業の目標である利益獲得に結びつけるための、経営上の重要なツールである。ただ単に「作れば売れる」という大量生産・大量消費の時代が終わりを告げた現在、消費者の嗜好はますます個別化してきている。どのような消費者をターゲットとするのか、そのような消費者の手元に確実に自社商品・サービスを届けるためには、どのような手段を用いたらよいのかといった問題について、マーケティングは答えを与えてくれる。講義では、マーケティング戦略と企業全体の戦略との関係を常に意識しながら、論理的かつ事例を交えて具体的に解説したいと思う。 教員による一方的な講義ではなく、双方向性やディスカッションを重視するので、教科書の該当箇所を事前に読んできていることが望ましい。	1. マーケティングとは何か? 2. 企業戦略･事業戦略とマーケティング戦略の関係 3. 企業理念の重要性とその設定･変更 4. 企業目標の選定 5. 外部環境要因の分析① 6. 外部環境要因の分析② 7. 内部環境要因の分析① 8. 内部環境要因の分析② 9. 企業戦略の策定①～プロダクト･ライフサイクルの分析 10. 企業戦略の策定②～アンゾフの成長戦略 11. 企業戦略の策定③～競争上の地位と企業戦略 12. まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
柏木重秋『マーケティング総論』　同文館　1997 年 適宜授業中にプリントを配布します	授業中の発言と期末試験により評価する。

01 年度以降 00 年度以前	マーケティング論 b マーケティング論	担当者	有吉　秀樹

講義目的、講義概要	授業計画
マーケティングは、消費者のニーズを企業の目標である利益獲得に結びつけるための、経営上の重要なツールである。ただ単に「作れば売れる」という大量生産・大量消費の時代が終わりを告げた現在、消費者の嗜好はますます個別化してきている。どのような消費者をターゲットとするのか、そのような消費者の手元に確実に自社商品・サービスを届けるためには、どのような手段を用いたらよいのかといった問題について、マーケティングは答えを与えてくれる。講義では、マーケティング戦略と企業全体の戦略との関係を常に意識しながら、論理的かつ事例を交えて具体的に解説したいと思う。 教員による一方的な講義ではなく、双方向性やディスカッションを重視するので、教科書の該当箇所を事前に読んできていることが望ましい。	1. 目標売上高と目標利益の算定 2. 市場細分化と標的市場の選定 3. ポジショニング 4. マーケティング目標の設定①～販売予測 5. マーケティング目標の設定②～販売分析 6. マーケティング目標の設定③～販売高計画と販売割当 7. 製品戦略 8. 価格戦略 9. 流通経路戦略 10. プロモーション戦略 11. マーケティング戦略の実行と監査 12. まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
柏木重秋『マーケティング総論』　同文館　1997 年 適宜プリントを配布します	授業中の発言と期末レポートにより評価する。

01 年度以降 00 年度以前	広告論 a 広告論	担当者	市川　嘉彦

講義目的、講義概要	授業計画
【講義の目的】 現代社会における広告の機能を明らかにします。 また、企業の広告について、マーケティング戦略やブランド戦略、コミュニケーション戦略の視点から解説し、実際の広告計画の立案の過程を明らかにします。 【講義の概要】 1. 現代広告の潮流について考えます。 2. 広告の機能について考えます。 3. 広告主、メディア、広告業界の仕組みと、その動向について取り上げます。 4. マーケティング戦略やブランド戦略、コミュニケーション戦略のプランニングのプロセスを明らかにします。 5. CM を通じて、企業やマーケティング戦略の背景を明らかにします。	1. 現代広告の潮流と課題 2. 広告の定義と機能 3. 広告の目的と広告の種類 4. マーケティング戦略と広告 5. ブランド戦略と広告 6. 広告のターゲットと広告の種類 7. 広告ビジネスの全体像 8. 広告主の役割 9. 広告会社の機能 10. 広告メディアの動向（マスメディア） 11. 広告メディアの動向（Web、SP） 12. 事例研究①
テキスト、参考文献	**評価方法**
■ 梶山皓『広告入門＜新版＞』日経文庫、2002 年 11 月 ■ 足立勝彦・市川嘉彦『ブランド・インサイト』晃洋書房、2005 年 10 月	出席、レポート、試験による。

01 年度以降 00 年度以前	広告論 b 広告論	担当者	市川　嘉彦

講義目的、講義概要	授業計画
【講義の目的】 現代社会における広告の機能を明らかにします。 また、企業の広告について、マーケティング戦略やブランド戦略、コミュニケーション戦略の視点から解説し、実際の広告計画の立案の過程を明らかにします。 【講義の概要】 1. 現代広告の潮流について考えます。 2. 広告の機能について考えます。 3. 広告主、メディア、広告業界の仕組みと、その動向について取り上げます。 4. マーケティング戦略やブランド戦略、コミュニケーション戦略のプランニングのプロセスを明らかにします。 5. CM を通じて、企業やマーケティング戦略の背景を明らかにします。	1. 広告計画の全体フロー 2. 広告目標の設定 3. マーケティング戦略の立案①（ターゲット・インサイト） 4. マーケティング戦略の立案②（ポジショニング戦略） 5. アカウント・プラニング 6. ブランド戦略の立案 7. クリエーティブ戦略の立案 8. 広告制作 9. メディア戦略の立案 10. 広告効果の測定 11. 事例研究② 12. 事例研究③
テキスト、参考文献	**評価方法**
■ 梶山皓『広告入門＜新版＞』日経文庫、2002 年 11 月 ■ 足立勝彦・市川嘉彦『ブランド・インサイト』晃洋書房、2005 年 10 月	出席、レポート、試験による。

01 年度以降 00 年度以前	保険論 a 保険論	担当者	岡村　国和

講義目的、講義概要	授業計画
本講義の目的は、幅広い現実の保険現象を理解し、現在進行中の保険事業をめぐる環境変化を分析する能力を収得することにあります。 　春学期の目標は保険理論の理解であり、主として保険の技術や原則を講義します。保険の本質的機能を十分理解すれば、近接他業との相互関係や環境変化・市場再編の方向が理解でき、また保険における契約者保護の重要性を知ることができるはずです。 　例えば、大手生保会社（上位４社）が保険業法に基づいて設立された相互会社（非営利中間法人）であることは、意外と知られていないと思います。なお、なるべく丁寧に講義を進めるために、進度により保険各論の一部を割愛することがあります。	1　講義の進め方、保険学の学問的位置づけなど。 2　リスクの一般理論について。 3　保険の歴史について。 4　期待効用に基づく保険モデルの解説。 5　保険の構造（1）：保険の理論的構造の概観。 6　保険の構造（2）：主として損害保険の主要概念 7　保険の構造（3）：「危険負担の一般原則」および「損害填補の一般原則」とその例外について。 8　保険の構造（4）：因果関係論、保険契約者が守るべき各種の義務について。 9　保険各論（1）：生命保険の仕組みや機能について。 10 保険各論（2）：自動車保険、火災保険について。 11 保険各論（3）：傷害保険、責任保険について。 12 春学期のまとめ。
テキスト、参考文献	**評価方法**
主としてプリントを配布して講義しますが、 **欠席者には再配布しません**ので注意して下さい。	定期試験により評価しますが、小テストなどを随時行うことがあります。

01 年度以降 00 年度以前	保険論 b 保険論	担当者	岡村　国和

講義目的、講義概要	授業計画
秋学期は保険会社の経営についての講義を中心に講義を進めます。具体的には保険業の収益構造や保険市場の構造的変化を講義します。 　収益面では、バブル期までの生保業の中心的な収益の源泉が、保険販売収益ではなく金融収益であったことを知っているでしょうか。金融を巡る環境変化が経済全体の流れを悪くし、デフレスパイラルが発生しています。このような金融・経済の環境変化に対応できない会社は自然淘汰（ダーウィニズム）されるのですが、自然淘汰とは弱肉強食を意味するのではなく、「自然環境の変化に順応できない種（会社）は滅びる」と言うことを意味しており、現代の経営学に通じるものです。さて、保険業はどのような生き残りを演じるのでしょうか？	1　秋学期の講義目的や内容について 2　保険経営の特徴 3　保険市場の概要と主要な問題 4　保険企業の形態 5　保険経営の特殊性（1）：価値循環の転倒性、保険技術的危険などについて。 6　保険経営の特殊性（2）：保険料の算定、アンダーライティングについて。 7　保険の限界とその拡張。 8　損害保険の収益構造。 9　生命保険の収益構造。 10　保険規制をめぐる問題。 11　保険における消費者保護の現状。 12　秋学期のまとめ。
テキスト、参考文献	**評価方法**
主としてプリントを配布して講義しますが、 **欠席者には再配布しません**ので注意して下さい。	定期試験により評価しますが、小テストなどを随時行うことがあります。

01 年度以降 00 年度以前	貿易論 a 貿易論	担当者	米山　昌幸

講義目的、講義概要	授業計画
貿易論は、財・サービスの国際取引や資本・労働・経営資源の国際移動を分析対象とする学問分野である。 講義の目的は、国際貿易や貿易政策の基礎理論を修得して、現実の国際経済のテーマを考察するための理論的根拠を得ることである。国際貿易のメカニズムやさまざまなテーマを考察するうえでの理論の有用性を理解してもらいたい。あわせて実際のデータを提示して国際貿易の実態についての理解も深めていきたい。 春学期は、一般均衡モデルを用いて伝統的な国際貿易の基礎理論を中心に講義する。貿易論でもっとも重要な概念である比較優位を説明し、貿易パターン、貿易利益、比較優位を決める要因などを説明する。 ミクロ経済学の基礎的なところから貿易論の分野へつなげるように、できるだけていねいに説明していくので、理論を学んで厳密な議論ができるようになってほしい。この講義では、大学生にとって理論的な思考方法を身につけることの大切さを説いていきたい。	1. リカードの比較生産費説(1) 2. リカードの比較生産費説(2) 3. 補論: 最適消費点の決定―無差別曲線分析― 4. リカードの比較生産費説(3) 5. ヘクシャー＝オリーン理論―固定投入係数のケース(1) 6. ヘクシャー＝オリーン理論―固定投入係数のケース(2) 7. ヘクシャー＝オリーン理論―固定投入係数のケース(3) 8. 国際貿易の基礎理論(1) 9. 国際貿易の基礎理論(2) 10. 国際貿易の基礎理論(3) 11. 貿易と経済成長(1) 12. 貿易と経済成長(2)
テキスト、参考文献	**評価方法**
配布プリントに沿って授業を行う。	出席状況、練習問題、および定期試験の総得点によって評価する。毎回必ず講義に出席できる勉学熱心な学生に限る。評価基準は第 1 回目の授業で説明する。

01 年度以降 00 年度以前	貿易論 b 貿易論	担当者	米山　昌幸

講義目的、講義概要	授業計画
貿易論は、財・サービスの国際取引や資本・労働・経営資源の国際移動を分析対象とする学問分野である。 講義の目的は、国際貿易や貿易政策の基礎理論を修得して、現実の国際経済のテーマを考察するための理論的根拠を得ることである。国際貿易のメカニズムやさまざまなテーマを考察するうえでの理論の有用性を理解してもらいたい。あわせて実際のデータを提示して国際貿易の実態についての理解も深めていきたい。 秋学期は、部分均衡モデルを用いて貿易政策の基礎理論を説明したのち、個別テーマを問題接近的に講義する。コメの輸入自由化、環境と貿易、WTO(世界貿易機関)とFTA(自由貿易協定)、緊急輸入制限措置(セーフガード)やアンチ･ダンピング措置など、個別テーマを理論的に考察する。 ミクロ経済学の基礎的なところから貿易論の分野へつなげるように、できるだけていねいに説明していくので、理論を学んで厳密な議論ができるようになってほしい。この講義では、大学生にとって理論的な思考方法を身につけることの大切さを説いていきたい。	1. 貿易政策の目的 2. 貿易政策の手段 3. 補論: 市場メカニズムと厚生分析 4. 部分均衡分析による貿易利益 5. 貿易政策の効果―部分均衡･小国モデル(1) 6. 貿易政策の効果―部分均衡･小国モデル(2) 7. 輸出国の貿易政策―部分均衡･小国モデル 8. 貿易政策の効果―部分均衡･大国モデル 9. コメの輸入自由化―関税化と生産補助金を伴う段階的関税引き下げの厚生分析 10. 環境と貿易 11. WTO(世界貿易機関)と FTA(自由貿易協定) 12. 自由貿易と保護貿易―グローバリゼーションと貿易紛争
テキスト、参考文献	**評価方法**
配布プリントに沿って授業を行う。	出席状況、練習問題、および定期試験の総得点によって評価する。毎回必ず講義に出席できる勉学熱心な学生に限る。評価基準は第 1 回目の授業で説明する。

01 年度以降 00 年度以前	証券市場論 a 証券市場論	担当者	高橋　元

講義目的、講義概要	授業計画
わが国の経済は、所謂バブルの発生と崩壊を経て、長くその後遺症に悩まされてきた。そうした中で、証券や証券市場は、バブル発生・崩壊から今日に至るまで、重要な役割を演じている。 一方、国際化や経済改革の進展に伴い、証券市場を巡る環境変化は著しく、その機能の充実が一段と求められる方向にある。特に、間接金融から直接金融への流れが加速化していることから、経済活動の多くが証券との関わりを強めている。 本講義では、証券と証券市場を巡る制度、歴史、理論などを体系的に学ぶことにより、その国民経済的な意義を明らかにすることを目的とする。また、日々の出来事などについて実践的な解説を適宜施すことで、より理解を深めていきたい。 証券市場論 a では、証券の定義や証券市場のメカニズムなど、基本的な領域の知識涵養に努める。 また、講義は基本的に計画に沿って行うが金融資本市場の変化などに応じて流動的に対応する。	1. 講義の概要・進め方、評価方法等のガイダンス 2. 戦後の日本経済の発展と証券市場 3. 証券市場と制度改革 4. 証券の意義と種類 5. 証券市場の機能 6. 証券市場の沿革 7. 証券業務と証券会社 8. 証券市場の構成主体 9. 投資信託の仕組み 10. 証券化 11. 証券市場の現状と課題 12. 総括 ――まとめと期末試験へのアナウンス
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキストは特に指定しないが、参考文献として下記を挙げる。『入門現代の証券市場（第 2 版）』佐藤昇、木村由紀雄、高橋元、相澤幸悦／著、東洋経済／刊（2003 年）	出席状況、課題レポート内容、試験結果などを総合的に勘案し評価する。

01 年度以降 00 年度以前	証券市場論 b 証券市場論	担当者	高橋　元

講義目的、講義概要	授業計画
わが国の経済は、所謂バブルの発生と崩壊を経て、長くその後遺症に悩まされてきた。そうした中で、証券や証券市場は、バブル発生・崩壊から今日に至るまで、重要な役割を演じている。 一方、国際化や経済改革の進展に伴い、証券市場を巡る環境変化は著しく、その機能の充実が一段と求められる方向にある。特に、間接金融から直接金融への流れが加速化していることから、経済活動の多くが証券との関わりを強めている。 本講義では、証券と証券市場を巡る制度、歴史、理論などを体系的に学ぶことにより、その国民経済的な意義を明らかにすることを目的とする。また、日々の出来事などについて実践的な解説を適宜施すことで、より理解を深めていきたい。 証券市場論 b では、株式を中心に証券価格の評価などに関わる理論的な考察を行い、専門的且つ高度な知識の習得を図る。 また、講義は基本的に計画に沿って行うが金融資本市場の変化などに応じて流動的に対応する。	1. 講義の概要・進め方、評価方法等のガイダンス及び証券と証券市場の基礎知識 2. 証券の価格形成 3. 証券投資理論の基礎 4. 株式と株式会社 5. 株式投資尺度（その１） 6. 株式投資尺度（その 2） 7. リスク概念と制御 8. ポートフォリオ理論の基本概念 9. ポートフォリオ理論の実践モデル 10. デリバティブズ 11. 行動ファイナンスと新しい投資理論 12. 総括 ――まとめと期末試験へのアナウンス
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキストは特に指定しないが、参考文献として下記を挙げる。『入門現代の証券市場（第 2 版）』佐藤昇、木村由紀雄、高橋元、相澤幸悦／著、東洋経済／刊（2003 年）	出席状況、課題レポート内容、試験結果などを総合的に勘案し評価する。

01 年度以降 00 年度以前	企業論 a 企業論	担当者	平井　岳哉

講義目的、講義概要	授業計画
大学卒業後の進路として、就労の場である企業の存在は無視できないものがあります。学生における企業への問題意識は総じて希薄であり、企業に関する情報や知識も断片的・表層的なものでしかないものと考えられます。 企業論では、現代の日本企業における一連の諸制度や多面的な性格について、最新情報をとりまぜながら論じていくつもりです。特に昨今、日本的経営システムは大きな転換期を迎えていると言われています。その具体的な内容と今後の方向性について、ともに考えていきたいと思います。 春学期は企業内部の諸制度や仕組みに、秋学期は企業外部との関係にそれぞれ焦点を当てます。	1　オリエンテーション 2　会社の種類と形態 3　終身雇用 4　年功賃金 5　人事異動 6　昇進 7　労働組合 8　高齢者・女性雇用 9　採用 １０　教育・研修、人事評価 １１　福利厚生 １２　労働時間、休暇
テキスト、参考文献	**評価方法**
教科書は、特に指定しない。 春学期の参考文献は、津田眞澂　『新・人事労務管理』（有斐閣）	期末試験の結果と授業での貢献

01 年度以降 00 年度以前	企業論 b 企業論	担当者	平井　岳哉

講義目的、講義概要	授業計画
春学期と同じ	1　トップマネジメント 2　家族経営者と専門経営者 3　家族企業 4　横の企業グループ 5　縦の企業グループ 6　コーポレートガバナンス 7　系列取引 8　中小企業 9　ベンチャー企業 １０　社会貢献 １１　企業リスク １２　業界再編
テキスト、参考文献	**評価方法**
教科書は、特に指定しない。	期末試験の結果と授業での貢献

01 年度以降 00 年度以前	ベンチャービジネス論 a ベンチャー・ビジネス論	担当者	上坂　卓郎

講義目的、講義概要	授業計画
ベンチャー企業も一つの企業であるという基本認識に立って、企業の役割や機能をトータルに把握できるようにする。その理解の上に、ベンチャー企業特有の問題や政策支援の内容などを理解していく。 この講義を受講してすぐ起業できるわけではない。しかし、将来起業したり、独立する際に知っておくべき基礎的な知識の習得をめざす。また、起業に関心はなくとも、意欲ある企業人や社会人になろうとする人は受講してほしい。他学部の学生も歓迎です。 本科目では原則として出席はとりませんが、経験則として単位取得と講義の受講は強い正の相関関係にあるようです。各自判断のうえ受講してください。	１　会社とはなにか ２　会社の誕生（１） ３　会社の誕生（２） ４　会社の設立 ５　会社の成長と組織 ６　会社の資金調達 ７　ベンチャー企業支援政策 ８　ベンチャー企業と知財（特許）戦略 ９　資本市場の仕組み １０ベンチャー企業と上場市場の活用 １１外部講師講演（１） １２まとめと課題
テキスト、参考文献	**評価方法**
参考文献･･･松田修一『ベンチャー企業』日経文庫（2005）。毎回関連資料を配布する	定期試験を行う。なお追試、レポートはありませんので注意してください（特に４年生）。

01 年度以降 00 年度以前	ベンチャービジネス論 b ベンチャー・ビジネス論	担当者	上坂　卓郎

講義目的、講義概要	授業計画
ベンチャービジネス論 a と同様だが、より実務的な話題を盛り込んだ内容とする。	１　ベンチャー企業と資金繰り ２　ベンチャーキャピタルの役割（１） ３　ベンチャーキャピタルの役割（２） ４　ベンチャー企業評価 ５　起業家にとっての資本政策 ６　ベンチャー企業とビジネスリスク ７　プライベートエクィティとM&A、MBO ８　ベンチャー企業の成長戦略 ９　産業動向とベンチャー企業戦略立案 １０ビジネスエンジェルの役割 １１外部講師講演（２） １２経営再起とベンチャー企業、まとめと課題
テキスト、参考文献	**評価方法**
参考文献･･･松田修一『ベンチャー企業』日経文庫（2005）。毎回関連資料を配布する	定期試験を行う。なお追試、レポートはありませんので注意してください（特に４年生）。また秋のビジネスコンテスト本選出場者は成績に加味する予定

01 年度以降	企業文化論 a	担当者	齊藤　善久

講義目的、講義概要	授業計画
1）企業文化を学ぶことは企業は誰のために、何のために存在するかを考えることと同じです。 2）いい企業と悪い企業を見抜く目を養いながら優れた企業文化をつくりあげた創業者の発想を学びます。 3）実際に自分のキャリア・イメージを考え、キャリアプランをじぶんで立案する力を養います。 以上の目的で授業を行いますので**3年生の受講をお薦めします。**	①オリエンテーション ②企業文化とは何か ③ブレーンストーミング（いい仕事・いい職場とは） ④企業の社会的責任 ⑤ブレーンストーミング（よくない会社とは） ⑥企業文化の担い手 ⑦ブレーンストーミング（企業は誰のものか） ⑧企業と自分の進路の関係 ⑨ブレスト（自分のキャリアをマーケティングする） ⑩企業文化の将来 ⑪ブレスト ⑫ブレストの講評と表彰
テキスト、参考文献	**評価方法**
出席・ブレーンストーミング・レポートによる	参考「ファンタスティック・コーポレーション」 岡田芳郎　1992 年　日本マンパワー出版　他

01 年度以降	企業文化論 b	担当者	齊藤　善久

講義目的、講義概要	授業計画
春学期と同じです	基本的な進め方は春学期と同じですが 説明する事例やブレーンストーミング のテーマが異なってきます
テキスト、参考文献	**評価方法**
春学期と同じです	春学期と同じです

01 年度以降	研究・開発マネジメント a	担当者	日下　泰夫

講義目的、講義概要	授業計画
情報技術、バイオテクノロジー、新素材、ナノテクノロジー等の技術革新は、社会・経済、産業、経営、個人に大きな影響を与えつつある。企業発展の原動力はこうした企業の研究開発（R&D）によって支えられており、いかに競争優位の研究開発マネジメント・システムを構築するかは、企業経営の重大な関心事である。 本講義では、技術革新の動向、技術革新をはじめとするイノベーションを引き起こすための研究開発マネジメントの基本的な諸視点を事例を交えながら学習する。講義の終わりには最新のトピックスも出来るだけ紹介する。将来、社会人として、新商品、新サービス、新事業の開発に関わりたいと考えている人は、技術に関わる経営の戦略的マネジメント（技術経営（MOT）：Management of Technology）の理解は必須となろう。	1　ガイダンス、企業の未来と研究開発 2　環境変化と研究開発マネジメント１：日本企業の研究開発とその課題 3　環境変化と研究開発マネジメン 2 : 技術革新モデルと研究開発マネジメント 4　技術革新の潮流 1：技術の未来ロードマップ 5　技術革新の潮流 2 : 技術のライフサイクルとマネジメント 6　経営戦略と技術戦略 1 :経営戦略の枠組み、技術開発戦略 7　経営戦略と技術戦略 2：技術戦略の視点、事例にみるイノベーション 8　事業創造：事業のライフサイクルと技術・商品開発 9　商品開発 1 : 新しいパラダイム、プロダクト・イノベーションの諸概念と分析技法 10 商品開発 2:革新的な商品開発とコンセプト創造 11 研究開発とマーケティング 12 研究開発と人材育成
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト山之内昭夫『新・技術経営論』日本経済新聞社。	期末試験と出席状況で評価する。

01 年度以降	研究・開発マネジメント b	担当者	日下　泰夫

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的は春学期に同じ。 秋学期は、**研究開発に関わる重要なトピックス**について、その現状と課題を出来るだけ事例をまじえながら紹介する。 講義は春学期講義 a（基礎概念）の履修を前提に進める。講義の終わりには最新のトピックスも出来るだけ紹介する。	1　研究開発と環境マネジメント 2　環境経営に向けた自動車産業の研究・技術開発 3　研究開発と産学協同 4　研究開発と地域産業 5　研究開発と知財管理 6　研究開発とグローバル化 7　研究開発と情報システム 8　研究開発とアライアンス 9　商品開発における取り組みの視点 ―産学行コラボレーションに向けて ―講演内容から 10 研究開発マネジメントの研究：国際会議の動向 11 研究開発マネジメントにおける経営システム工学のアプローチ 12 企業における技術経営の取り組み（講演予定）
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト山之内昭夫『新・技術経営論』日本経済新聞社。	期末試験と出席状況で評価する。

01 年度以降 00 年度以前	会計学原理 a 会計学原理	担当者	内倉　滋

講義目的、講義概要	授業計画
本講義は、‘制度としての会計’の解明を目的とする。その目的のため、我が国における企業会計に関する慣習的な諸ルールを直接の分析対象に選び、その規定している内容と、それを支えている理論的な背景の紹介をしていきたい。 講義計画は右に掲げるとおりであるが、おおむね「会計学原理 a」では、会計学の領域のうちで従来から議論されてきた伝統的な部分の概要を紹介していく予定である。 なお、複式簿記の基本的知識を前提に議論を出発させるため、「簿記原理 a，b」を修得していること、または同等の知識のあることを履修の条件とする。	1　本講義の目的等 2　テキスト第１章 会計と会計理論 3　テキスト第２章 企業会計と関係法規 4　テキスト第３章 企業会計原則 5　テキスト第４章 貸借対照表 6　テキスト第５章 損益計算書 7　テキスト第６章 その１：間接法によるキャッシュ・フロー計算書の作成 8　テキスト第６章 その２：直接法によるキャッシュ・フロー計算書の作成 9　テキスト第８章 有価証券 10 テキスト第９章 固定資産 11 テキスト第 10 章 固定資産の減損と時価評価 12 テキスト第 11 章 繰延資産
テキスト、参考文献	**評価方法**
平井克彦・石津寿惠、『損益計算と情報開示』（白桃書房）	評価の中心は期末試験の結果である。その際には、相対評価を基本とし、絶対評価を加味したい。

01 年度以降 00 年度以前	会計学原理 b 会計学原理	担当者	内倉　滋

講義目的、講義概要	授業計画
「会計学原理 a」の、伝統的な会計学領域に関する知識を前提としてこの「会計学原理 b」では、‘連結財務諸表’，‘税効果会計’，‘外貨換算’，‘デリバティブ’といった、比較的新しい問題（ないし、最近においてその制度的中身が大幅に改変された領域）を講義の対象としたい。	1　テキスト第 12 章 負債 2　テキスト第 13 章 引当金 3　テキスト第 14 章 資本 その 1：資本金 4　テキスト第 14 章 資本 その 2：株式報酬, ストック・オプション 5　テキスト第 14 章 資本 その 3：利益処分 6　テキスト第 14 章 資本 その 4：組織変更 7　テキスト第 15･16 章 収益･費用の認識方法 8　テキスト第 17 章 連結会計 9　テキスト第 18 章 税務会計 10 テキスト第 19 章 税効果会計 11 テキスト第 20 章 外貨換算会計 12 テキスト第 21 章 デリバティブ会計
テキスト、参考文献	**評価方法**
「会計学原理 a」と同様。	「会計学原理 a」と同様。

01 年度以降 00 年度以前	財務会計論 a 財務会計論	担当者	中村　泰將

講義目的、講義概要	授業計画
本講座は、簿記を学び、これからより専門的な会計理論を学ぼうとするための講座です。例えば、簿記では純財産（資本）を増加させるのは、資本の出資と利益の増加です。この両者は同じ資本の増加なのにどのように異なるのか。「簿記」ではどのように（how）記録・計算するかを学びました。会計学では、なぜ（why）そうなるのかについての理由と論拠を学びます。 簿記は、会計理論に基づいて下された決定に従って計算するシステムです。ある取引が資本の増加なのか、利益の発生なのか、資本の減少なのか、費用の発生なのかは会計理論が決定するのです。 会計は企業で発生するさまざまな経済活動あるいは経済事象（インフレ、デフレ）などをあらかじめ決められたルール（「会計基準」という）にしたがって貨幣的言語で表現（「測定」という）し、伝達する行為です。 企業には、さまざまな出来事が発生します。会計はそれを貨幣で測定します。そこに他の学問と異なった会計の存在価値があります。 授業では、毎回講義のレジュメを配布し、理論ばかりでなく実際に企業でどのように会計が利用されているかを新聞、雑誌などを利用して説明します。	（総論） 1. 会計(学)とは、どのような学問か。 2. 企業会計の理論的構造は何か。 3. 企業会計の計算構造は何か。 4. 本および米国の会計制度はどのような仕組みになっているのか。 5. 「企業会計原則」の構造を学ぶ。 （各論） 6. 資産会計 （ア）資産の意義 （イ）資産の分類 （ウ）資産の評価 7. 流動資産の意義・分類・評価 8. 当座資産の意義・分類・評価 9. 有価証券の意義・分類・評価 10. 固定資産の意義・分類・評価・償却 11. 繰延資産の意義・評価・償却 12. 無形固定資産の意義・評価・償却
テキスト、参考文献	**評価方法**
新井清光著・加古宜士（補訂）『現代会計学』(第 7 版) 中央経済社 参考文献『会計法規集』中央経済社、税務経理協会など	出席・リポート、定期試験

01 年度以降 00 年度以前	財務会計論 b 財務会計論	担当者	中村　泰將

講義目的、講義概要	授業計画
秋学期は、講義目的については春学期と同様です。 春学期に単位を落としても、秋学期は履修できます。 秋学期の財務会計の範囲としては、貸借対照表の貸方側の負債と資本から始まります。 負債は、年金の問題、リースの問題などが入り、計算の構造が割引キャッシュフローでもって測定する形になります。 資本では、商法の会社法が 70 年ぶりに改正され、資本の分類、資本の項目なども変わり、自己株式の会計、合併の会計処理など新たな会計基準が登場してきました。 損益会計では、あくまでも近代会計は損益の計算を重視していますから、利益の計算は重要です。 連結財務諸表は、今日の企業の系列、統合化、再編などと相まってますます企業グループの財務諸表の重要性が高まってきています。米国では、連結財務諸表が中心ですし、日本でも連結財務諸表が個別財務諸表よりも主たる財務諸表となっております。	1. 負債会計(1) ①負債の概念・分類・評価 2. 負債会計(2) ①引当金の意義、②引当金の設定目的、③引当金の設定要件 3. 資本会計(1) ①資本会計の領域と意義、②資本会計の経済的分類と法律的分類 4. 資本会計(2) ①払込資本、②増資・減資の会計 5. 資本会計(3) ①評価替資本と受像資本の会計 6. 資本会計(4) 7. 損益会計(1) 8. 損益会計(2) 9. 損益会計(3) 10. 財務諸表の種類とその意義 11. 連結財務諸表(1) 12. 連結財務諸表(2)
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト、参考文献とも春学期に同じです。	評価方法も春学期に同じです。

01 年度以降 00 年度以前	管理会計論 a 管理会計論（春学期週 2 回授業）	担当者	香取　徹

講義目的、講義概要	授業計画
黒字製品をたくさん作ったら利益が減った? 在庫がたまるほど利益が増えた? 不良在庫はいくらで処分するの? 原価が変わるって本当ですか? などなど原価節減、利益拡大など、わかるようでわからない問題から複雑で不確定な現実の問題まで、企業はさまざまな問題に直面しています。このようなコスト低減や利益拡大のための改善活動や管理活動をすすめるためにはキャッシュフローにもとづく会計情報を利用して分析しなければなりません。 管理会計論 a では、キャッシュフローによる経済的な意思決定の考え方、意思決定のタイプと判断基準などの短期的利益計画・管理の問題についてケーススタディの演習をします。 履修に当っては簿記原理を受講しているか、日商の 3 級程度の簿記の知識が必要です。また、授業中にノートパソコンを持っている人はぜひ持参してください。	1. 管理会計とは、最近のトピックスから 2. 意思決定とキャッシュフロー、木村さんの場合 3. テニスクラブの選び方 4. 関連原価・無関連原価、ギャラリー綺羅 5. 貢献利益とは、小金井工業 6. 赤字製品と黒字製品、神奈川工業 7. 減価償却費とキャッシュフロー、YG 工業 8. Constraints(制約)の話、 市場制約と生産能力制約　北村製作所 9. KAIZEN(改善)の効果 10. 意思決定の問題のタイプ 11. 意思決定の問題のタイプ、独立案 12. 意思決定の問題のタイプ、排反案

テキスト、参考文献	評価方法
伊藤・香取『キャッシュフロー管理会計』 中央経済社	試験 100 点、課題 10 点

01 年度以降 00 年度以前	管理会計論 b（春学期開講） 管理会計論（春学期週 2 回授業）	担当者	香取　徹

講義目的、講義概要	授業計画
管理会計論 b では､フリーキャッシュフローと企業価値、投資計画の評価基準など長期の利益計画問題を検討します。 Excel を使ってキャッシュフローのシミュレーション・モデルを作成して分析したいと思います。 履修に当っては簿記原理を受講しているか、日商の 3 級程度の簿記の知識が必要です。また、授業中にノートパソコンを持っている人は大変便利ですので、ぜひ持参してください。	1. 管理会計の最近のトピックス 2. キャッシュフローと資金の時間価値(1) 3. キャッシュフローと資金の時間価値(2) 4. フリーキャッシュフローと企業価値 5. Excel によるキャッシュフロー計算実習(1)基本 6. Excel によるキャッシュフロー計算実習(2)財務諸表 7. Excel によるキャッシュフロー計算実習(3)経済性 8. 投資案の評価基準 9. 投資案のタイプによる選択(1) 10. 投資案のタイプによる選択(2) 11. 投資案のタイプによる選択(3) 12. キャッシュフローによる管理会計

テキスト、参考文献	評価方法
伊藤・香取『キャッシュフロー管理会計』 中央経済社	試験 100 点、課題 10 点

01 年度以降 00 年度以前	社会会計論 a 社会会計論	担当者	湯田　雅夫

講義目的、講義概要	授業計画
大企業、公営企業で普及している環境経営、環境会計を社会会計の視点から講義します。 環境経営、環境会計は、21 世紀の企業経営において必要不可欠のものです。環境経営と環境会計の内容を出来るだけわかりやすく、講義していきます。 皆さんも、新聞や雑誌で取り上げている環境問題に関する記事を出来るだけ読むように心がけてください。 **「社会会計論 a」と「社会会計論 b」は、連続した講義なので、「春学期」「秋学期」共履修すること。**	1　オリエンテーション 社会会計、環境会計、環境会計の学び方、 研究対象 2　環境経営、環境会計の研究方法と関連領域 3　人類の歴史と環境問題 4　地球環境問題ならびに国際的取組み 5　国連の環境への取り組み① 6　国連の環境への取り組み② 7　循環型経済社会構築と諸課題 8　持続可能性と企業活動の 3 つの領域 9　環境会計の体系 3 つのアプローチ 10　環境会計アプローチの事例 11　環境会計アプローチに対する批判的考察 12　春学期のまとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
湯田雅夫『講義ノート』 参考文献はその都度指示します。	レポートと出席状況から総合的に評価します。

01 年度以降 00 年度以前	社会会計論 b 社会会計論	担当者	湯田　雅夫

講義目的、講義概要	授業計画
春学期に引き続き、環境経営、環境会計の具体的内容を講義します。 物量計算としての環境負荷計算と貨幣計算としての環境原価計算、そしてその組み合わせから環境効率を明らかにすることが出来ます。地球の環境容量との関連で、この環境効率を高めることは、大変重要です。 皆さん一人一人は、この講義で得た知識と技術を、是非、社会で実践してください。 **「社会会計論 a」と「社会会計論 b」は、連続した講義なので、「春学期」「秋学期」共履修すること。**	1　秋学期オリエンテーション 2　環境負荷計算 物量計算 3　環境原価計算 貨幣計算 4　環境原価と環境負荷を統合する環境経営 5　国際標準 ISO と EMAS の内容と課題 6　環境監査 内部監査と外部監査 環境審査員の役割 7　環境効率 環境効率革命に向けて 8　環境効率 企業の事例 9　環境報告書の基本構造ならびに入手方法 10　環境報告書の評価方法 11　秋学期のまとめ 12　授業のまとめと講評
テキスト、参考文献	**評価方法**
湯田雅夫『講義ノート』 参考文献はその都度指示します。	期末試験と出席状況から総合的に評価します。

01 年度以降 00 年度以前	原価計算論 a 原価計算論	担当者	齋藤　正章

講義目的、講義概要	授業計画
講義の目的 　原価計算には、大きく分けて、財務会計目的と管理会計目的という２つの目的があります。財務会計目的のための原価計算を「制度原価計算」といいますが、これは財務諸表作成のために必要な原価数値を計算する手続き全般を指します。他方、管理会計目的の原価計算は、経営管理のための原価計算で、企業の生産システム、製造技術、情報技術などの進歩や市場環境の変化に伴い、従来のシステムからの変革を迫られています。本講義は、この２つの視点から企業における原価計算の役割や手続きについて理解を深めることを目標としています。 講義概要 　「原価計算基準」にもとづく原価計算制度の枠内の実際原価計算と標準原価計算、枠外の直接原価計算を中心に講義を行います。	1. 原価計算総説 2. 原価とは何か 3. 原価計算の基礎手続き 4. 原価の費目別計算（１） 5. 原価の費目別計算（２） 6. 原価の費目別計算（３） 7. 原価の部門別計算（１） 8. 原価の部門別計算（２） 9. 原価の部門別計算（３） 10. 個別原価計算（１） 11. 個別原価計算（２） 12. 個別原価計算（３）
テキスト、参考文献	**評価方法**
『入門　原価計算』(清水孝・長谷川惠一・奥村雅史著) 中央経済社	出席 10%，定期試験の結果 90%で評価します。

01 年度以降 00 年度以前	原価計算論 b 原価計算論	担当者	齋藤　正章

講義目的、講義概要	授業計画
講義の目的 　原価計算には、大きく分けて、財務会計目的と管理会計目的という２つの目的があります。財務会計目的のための原価計算を「制度原価計算」といいますが、これは財務諸表作成のために必要な原価数値を計算する手続き全般を指します。他方、管理会計目的の原価計算は、経営管理のための原価計算で、企業の生産システム、製造技術、情報技術などの進歩や市場環境の変化に伴い、従来のシステムからの変革を迫られています。本講義は、この２つの視点から企業における原価計算の役割や手続きについて理解を深めることを目標としています。 講義概要 　「原価計算基準」にもとづく原価計算制度の枠内の実際原価計算と標準原価計算、枠外の直接原価計算を中心に講義を行います。	1. 総合原価計算（１） 2. 総合原価計算（２） 3. 総合原価計算（３） 4. 総合原価計算（４） 5. 総合原価計算（５） 6. 総合原価計算（６） 7. 総合原価計算（７） 8. 標準原価計算（１） 9. 標準原価計算（２） 10. 直接原価計算（１） 11. 直接原価計算（２） 12. 原価計算の新展開
テキスト、参考文献	**評価方法**
『入門　原価計算』(清水孝・長谷川惠一・奥村雅史著) 中央経済社	出席 10%，定期試験の結果 90%で評価します。

01 年度以降 00 年度以前	会計監査論 a 会計監査論	担当者	赤岩　茂

講義目的、講義概要	授業計画
（講義目的） わが国経済も 20 世紀末のバブル経済崩壊を受け、会計制度の変革（会計ビッグバン）が推進された。また、それと合わせて監査制度の変革もすすめられ、新たな制度で実務が推進されるようになった。 公認会計士・監査法人による財務諸表監査制度は、財務諸表の適正表示についての意見を表明することを通じて投資家保護を目的としているが、それを通じて証券市場の信頼性の確立という重大な目的を有している。 本講義では、理論的な背景を説明するが、実際の監査実務の事例をもとに、監査基準及び監査手続の理解を深めることを目的とする。 （講義概要） 本講義は、基本的にはテキストを使用する。このため、予習を確実に行うことが望まれる。	1　財務諸表監査の意義と目的 2　監査基準 3　財務諸表監査の生成と発展 4　日本における監査制度の発展 5　監査の目的と二重責任 6　監査人の適格性 7　監査の実施～リスク・アプローチ 8　監査の実施～監査計画と内部統制 9　監査の実施～監査手続と監査調書 10　監査の実施～監査判断と監査証拠 11　監査の実施～監査判断と合理的保証概念 12　監査の実施～実務上の課題
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト：八田進二編著『新版　監査論を学ぶ』同文舘 参考文献：日本公認会計士協会編『監査実務指針ハンドブック』中央経済社	出席（３０点）と試験（７０点）による。

01 年度以降 00 年度以前	会計監査論 b 会計監査論	担当者	赤岩　茂

講義目的、講義概要	授業計画
（講義目的） わが国経済も 20 世紀末のバブル経済崩壊を受け、会計制度の変革（会計ビッグバン）が推進された。また、それと合わせて監査制度の変革もすすめられ、新たな制度で実務が推進されるようになった。 公認会計士・監査法人による財務諸表監査制度は、財務諸表の適正表示についての意見を表明することを通じて投資家保護を目的としているが、それを通じて証券市場の信頼性の確立という重大な目的を有している。 本講義では、春学期に習得した知識をもとに監査報告の内容を理解する。また、現在では、企業だけでなく、被監査組織体や監査対象も拡大している。そこで、非営利法人等の監査等関連問題も幅広く紹介することとする。 （講義概要） 本講義は、基本的にはテキストを使用する。ただし７回目以降は別途参考文献を指定する場合がある。春学期に引き続き予習を確実に行うことが望まれる。	1　監査報告～監査報告書の内容 2　監査報告～監査意見 3　監査関連問題～中間監査 4　監査関連問題～連結財務諸表監査 5　監査関連問題～内部監査と監査役監査 6　監査関連問題～システム監査 7　監査関連問題～監査委員監査と外部監査人監査 8　監査関連問題～非営利法人等に対する監査 9　監査関連問題～会社法と会計参与 10　監査関連問題～監査の国際的動向 11　監査関連問題～監査及び監査周辺の職業 12　総括
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト：八田進二編著『新版　監査論を学ぶ』同文舘 参考文献：日本公認会計士協会編『監査実務指針ハンドブック』中央経済社	出席（３０点）と試験（７０点）による。

01 年度以降 00 年度以前	税務会計論 a 税務会計論	担当者	平　仁

講義目的、講義概要	授業計画
本講座は、会計学と税法、特に法人税法が相互に影響しあっていることを踏まえて、法人税法を中心に講義を行う。経理実務においては、会計理論を差し置いて税法の規定が優先される逆基準性が当たり前のように行われています。強行法である税法が何ゆえに会計理論を越えて優先されるのかを、この講義を通じて理解してもらいたい。 税務会計論は経理実務に近い学問領域のため、実務的なテーマが中心となるが、本講座では、できる限り理論的側面に焦点を当てていきたい。また、裁判例や新聞等から題材を取り上げることもある。 なお、本講座を受講される方は、会計学の基本である「簿記原理 a 、 b」を受講済みであることを希望する。また、公認会計士や税理士、国税専門官等を目指して学習される方の積極的な受講、及び積極的な質問を期待する。	１．　イントロダクション、税法を学ぶ上での注意点 ２．　総論 ３．　実質主義 ４．　確定決算主義 ５．　益金の認識基準 ６．　益金の具体例 ７．　損金の認識基準 ８．　棚卸資産、減価償却資産 ９．　繰延資産、評価損 １０．役員報酬 １１．寄附金、交際費、使途不明金 １２．その他の損金
テキスト、参考文献	**評価方法**
成松洋一著　法人税法－理論と計算－　税務経理協会 2005	試験（講義内で解説した問題を出題、計算 50 点、理論 50 点、持込不可）。出席点 1 回 2 点加算（やむをえない理由で欠席する者はその旨の書面を提出）。

01 年度以降 00 年度以前	税務会計論 b 税務会計論	担当者	平　仁

講義目的、講義概要	授業計画
税務会計論 a における知識を前提として、特殊事例を検討する。	１．　有価証券取引の税務 ２．　企業組織再編税制 ３．　リース取引 ４．　借地権取引他 ５．　国際課税 ６．　留保金課税、使途秘匿金課税 ７．　税額控除 ８．　確定申告 ９．　青色申告 １０．連結納税制度 １１．更正の請求 １２．附帯税
テキスト、参考文献	**評価方法**
春学期に同じ	春学期に同じ

01 年度以降 00 年度以前	経営分析論 a 経営分析論	担当者	百瀬 房徳

講義目的、講義概要	授業計画
経営分析は、財務諸表分析として発展してきた。そして、このためには、統一した財務諸表の作成方法を促進させてきた。財務諸表の分析の始まりは、金融機関が貸付金の返済能力を診断したところにある。その後、証券市場では、収益性の分析を発展させてきた。現在では、特定の実体（例えば企業）の評価または診断、当該実体の属する産業の動向、国民経済の動向を分析するまでに発展している。歴史的発展過程をふまえる形で、経済環境と分析技法の二面により考察し、全体像の理解を深めることにする。	1　経営分析の現代における意義 2　米国の経済環境における手形市場の形成過程 3　手形市場、特に手形の割引に際しての銀行から見た信用分析の形成過程。 4　信用分析の側面から見た財務諸表 特に貸借対照表を中心に 5　信用分析における 2 対 1 の原則から体系的な分析への過程 6　信用分析のケーススタディ ウォール、ブリス 7　信用分析のケーススタディ ギルマン、ウォール、シュマルツ 8　収益性の分析および、その他の分析への発展 9　経営分析の意義とその限界 10　経営分析の主体とその目的 11　経営分析の種類
テキスト、参考文献	**評価方法**
前林 和寿「経営分析の基礎」森山書店	テスト

01 年度以降 00 年度以前	経営分析論 b 経営分析論	担当者	百瀬 房徳

講義目的、講義概要	授業計画
代表的企業の有価証券報告書総覧に記載されている財務諸表を資料として、体系的な分析をする。特に、安全性、収益性、生産性について、解説しながら分析数値を算出する。そして、この分析数値が何を意味するかを考察する。この分析をテーマごとにレポートを完成させ、提出してもらう。	1　安全性の分析(1)　比率分析 （レポート提出） 2　安全性の分析(2)　資金移動表の解説 3　安全性の分析(3)　資金移動表の作成 （レポート提出） 4　収益性の分析(1)　各種資本利益率 5　収益性の分析(2)　売上高利益率と資本回転率 （レポート提出） 6　収益性の分析(3)　利益増減の原因分析 （レポート提出） 7　生産性の分析(1)　付加価値の意義 8　生産性の分析(2)　付加価値の計算と数値の意味 9　生産性の分析(3)　付加価値表の作成 （レポート提出） 10　損益分岐点分析(1)　損益分岐点と意義 11　損益分岐点分析(2)　損益分岐点の計算と数値の意味 12　損益分岐点分析(3)　損益分岐点の計算 （レポポート提出）
テキスト、参考文献	**評価方法**
前林 和寿「経営分析の基礎」森山書店	前林 和寿「経営分析の基礎」森山書店

01 年度以降 00 年度以前	上級簿記 a（商業） 上級簿記	担当者	井出　健二郎

講義目的、講義概要	授業計画
簿記原理を受講された方を基本としています。簿記原理でのターゲットが個人企業でしたが、中小企業をイメージしたものが本講義です。 また、日本商工会議所の簿記検定試験 2 級の商業簿記対策に役立つような内容を盛り込んでいきます。	1　講義にあたってのイントロダクション 2　個別の取引　現金預金 3　個別の取引　手形 4　個別の取引　商品売買 5　個別の取引　特殊商品売買 6　個別の取引　債務保証 7　個別の取引　引当金 8　個別の取引　繰延資産 9　決算手続 10　まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
片山覚編著『中級商業簿記』創成社	出席 50%、試験等 40%、その他 10%

01 年度以降 00 年度以前	上級簿記 b（商業） 上級簿記	担当者	井出　健二郎

講義目的、講義概要	授業計画
a の講義同様に、日本商工会議所の簿記検定試験 2 級に主としてターゲットをあてて講義していきます。 講義はもちろんのこと、可能な限り演習に努める予定です。	1　講義にあたってのイントロダクション 2　決算手続 3　個別の取引　社債 4　本支店会計 5　本支店会計 6　本支店会計 7　精算表 8　精算表 9　精算表 10　まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
片山覚編著『中級商業簿記』創成社	出席 50%、試験等 40%、その他 10%

01 年度以降 00 年度以前	上級簿記（工業）a 上級簿記（工業）	担当者	松本　安司

講義目的、講義概要	授業計画
上級簿記（工業）では，日商簿記 2 級の工業簿記分野について講義します。この講義で学んだことが原価計算論や管理会計論においても役立つよう講義したいと考えています。 2 級以上になると分量も増えます。丸暗記は挫折のもとなので，理解することを心がけ，効率よく学習するよう心がけてください。 授業に出席し問題を解いて理解するという 1 週間の繰り返しを欠かさないことが一番効率の良い学習法だと信じています。	1　工業簿記とは 2　工業簿記の構造 3　材料費（1） 4　材料費（2） 5　労務費（1） 6　労務費（2） 7　経費（1） 8　経費（2） 9　製造間接費（1） 10　製造間接費（2） 11　個別原価計算（1） 12　個別原価計算（2）
テキスト、参考文献	**評価方法**
『段階式日商簿記 2 級工業簿記』 『段階式ワークブック日商簿記 2 級工業簿記』 2 冊とも岡本清・廣本敏郎監修，税務経理協会	定期試験 7 割，課題提出 3 割

01 年度以降 00 年度以前	上級簿記（工業）b 上級簿記（工業）	担当者	松本　安司

講義目的、講義概要	授業計画
上級簿記（工業）b では，上級簿記（工業）a にひきつづき，日商簿記 2 級の工業簿記分野について学習します。 授業に出席し問題を解いて理解するという 1 週間の繰り返しを欠かさないのはもちろんのこと，忘れていたことがあるたびに自ら調べて復習するという習慣を付けてください。	1.　総合原価計算（1） 2.　総合原価計算（2） 3.　総合原価計算（3） 4.　総合原価計算（4） 5.　標準原価計算（1） 6.　標準原価計算（2） 7.　標準原価計算（3） 8.　直接原価計算（1） 9.　直接原価計算（2） 10. 財務諸表の作成 11. 工場会計の独立 12. まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
『段階式日商簿記 2 級工業簿記』 『段階式ワークブック日商簿記 2 級工業簿記』 2 冊とも岡本清・廣本敏郎監修，税務経理協会	定期試験 7 割，課題提出 3 割

01 年度以降	国際会計論 a	担当者	五十嵐　則夫

講義目的、講義概要	授業計画
１．講義目的 わが国および世界の企業は、多国にわたり事業活動を行い、まさに多国籍企業としてグローバルな経営活動を展開している。近年、国際会計基準（IAS、IFRS）への注目が急速に高まってきている。日本での会計基準も、国際会計基準や米国会計基準を基に作成されている。 海外においては、会計ルールの統一化を図ろうとする動きが活発である。特に、ＥＵ（欧州連合）諸国が、ＩＡＳの導入に熱心であり、２００５年よりＥＵ域内の公開企業は、原則としてＩＡＳに準拠した連結財務諸表の作成が必要となる。国際会計基準委員会は（ＩＡＳＢ）は、会計基準の世界統一(convergence)を、目指して活動している。アメリカの FASB(財務会計基準委員会)もＩＡＳＢと共同研究などを行い、調和化・統一化の姿勢を見せている。このような世界の動きに対応して、特に EC の動きに対して、日本会計基準も IAS と同等性の義務づけの時期が 2007 年までとなった。会計基準は、まさに世界統一化へ動こうとしている。 ２．講義の概要 こうした状況を踏まえて、国際会計基準の主要なテーマごとに説明するとともに、日本基準と米国会計基準の相違についても説明する。本講座は、国際会計論 a と国際会計論 b で構成されるものである。	１．　国際会計基準の概要―国際会計基準委員会の組織、基準の設定手続きなど ２．　財務諸表の構成、表示および開示―ＩＡＳが対象にしている財務諸表の範囲、作成・表示・開示に関する基本的基準 ３．　連結財務諸表―意義、連結範囲、作成基準、個別財務諸表における子会社投資の会計など ４．　関連会社投資に対する会計―定義、範囲、投資の会計処理方法、持分法の具体的な適用方法など ５．　ジョイント・ベンチャーに対する持分の財務報告―意義、共同支配の事業、ＪＶ共同支配企業とＪＶとの取引の会計処理など ６．　外貨換算―外貨建て取引の会計、為替差額の認識、在外事業活動体の財務諸表の換算・開示 ７．　キャッシュ・フロー計算書―内容の理解、株主、経営者、投資家などにとってのキャッシュ・フローの重要性の理解 ８．　セグメント情報―セグメント情報の重要性の理解、マネージメント・アプローチ、開示セグメントの決定（重要性基準） ９．　収益の認識基準―定義と適用範囲、工事契約収益の認識、米国ＳＥＣの収益認識基準の考え方 １０．借入費用―会計処理、資産化の要件、資産化すべき借入費用の額、資産化の期間 １１．関連当事者取引―特定の利害関係を有する関連当事者との取引の報告の重要性を理解する。 １２．その他
テキスト、参考文献	評価方法
開講時に指定する。	授業の出席率と成績で評価する。

01 年度以降	国際会計論 b	担当者	五十嵐　則夫

講義目的、講義概要	授業計画
１．講義目的 わが国および世界の企業は、多国にわたり事業活動を行い、まさに多国籍企業としてグローバルな経営活動を展開している。近年、国際会計基準（IAS、IFRS）への注目が急速に高まってきている。日本での会計基準も、国際会計基準や米国会計基準を基に作成されている。 海外においては、会計ルールの統一化を図ろうとする動きが活発である。特に、ＥＵ（欧州連合）諸国が、ＩＡＳの導入に熱心であり、２００５年よりＥＵ域内の公開企業は、原則としてＩＡＳに準拠した連結財務諸表の作成が必要となる。国際会計基準委員会は（ＩＡＳＢ）は、会計基準の世界統一(convergence)を、目指して活動している。アメリカの FASB(財務会計基準委員会)もＩＡＳＢと共同研究などを行い、調和化・統一化の姿勢を見せている。このような世界の動きに対応して、特に EC の動きに対して、日本会計基準も IAS と同等性の義務づけの時期が 2007 年までとなった。会計基準は、まさに世界統一化へ動こうとしている。 ２．講義の概要 こうした状況を踏まえて、国際会計基準の主要なテーマごとに説明するとともに、日本基準と米国会計基準の相違についても説明する。本講座は、国際会計論 a と国際会計論 b で構成されるものである。	１．　金融商品―定義、認識および測定、認識の中止、金融資産の金融負債の測定、有価証券、債権の評価（貸倒引当金）、ﾃﾞﾘﾊﾞﾃｨﾌﾞ、ﾍｯｼﾞ会計 ２．　有形固定資産―有形および無形固定資産の認識、当初測定、減価償却、評価、除却・処分など ３．　減損会計―意義、減損の兆候、減損の認識・測定、洗い替えと切り離し法など ４．　リース会計―定義と分類、ファイナンス・リースとオペレーティング・リース、借手側の会計処理、貸手側の会計処理、セールス・アンド・リースバック取引 ５．　年金会計―給付アプローチ、年金債務の種類（PBO,ABO,VBO）、回廊方式、厚生年金基金の代行部分の返上の米国基準の会計処理、IAS/USGAAP/JAPAN の差異 ６．　法人所得税―税効果会計の意義、資産負債法、繰延税金資産の実現可能性、IAS／USGAAP／JAPAN の差異 ７．　企業結合―「取得」と「持分の結合」、取得の会計処理（パーチェス法）、持分の結合（持分ﾌﾟｰﾘﾝｸﾞ）の会計処理 ８．　ｽﾄｯｸ・ｵﾌﾟｼｮﾝの会計―費用の認識、測定基準日、失効の取り扱い、測定の取り扱い、費用認識の時期 ９．　研究開発費―定義、構成要素、認識、開発費の償却 １０．一株当たり利益―意義、投資家にとっての重要性、国際的企業・日本企業の実例 １１．財務諸表表示の国際比較 １２．その他
テキスト、参考文献	評価方法
開講時に指定する。	授業の出席率と成績で評価する。

01 年以降 00 年以前	経営数学 a 経営数学	担当者	高木　悟

講義目的、講義概要	授業計画
経済・経営学を学ぶ上で，線形代数（行列など）や解析（微積分など）の知識が必要になることが多々ある．この講義では，線形代数と数列，それらに関する経済・経営学の応用問題を扱う．前半は線形代数と数列の基礎概念について解説し，後半は線形代数と数列の知識を利用した応用問題の解法を紹介する．問題演習の時間もとり，各自問題を解いてもらう．また，理解度をはかるために課題や宿題を出すこともある．問題演習中は机間巡視をするので，授業中に理解できなかった点や解き方がわからない点などを質問するとよい．なお，解析に関する問題は後期の「経営数学ｂ」で扱う．また，「数学ａ」では線形代数についてより詳しく解説するので，必要があれば受講するとよい． この講義で得た知識を活用し，実際の経済・経営学の問題を解決できるようになることを望む．	１．ガイダンス ２．行列の定義と演算 ３．行列の基本変形 ４．行列式の定義と性質 ５．連立１次方程式の解法 ６．線形計画法 ７．等差数列・等比数列 ８．年利問題 ９．市場問題 １０．産業連関問題 １１．線形計画問題 １２．Excel を用いた解法
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキストは特に指定しない．参考書は授業中に紹介する．	授業中の課題・宿題・出席，学期末のレポートにより総合的に評価する．

01 年以降 00 年以前	経営数学 b 経営数学	担当者	高木　悟

講義目的、講義概要	授業計画
経済・経営学を学ぶ上で，線形代数（行列など）や解析（微積分など）の知識が必要になることが多々ある．この講義では，解析とそれに関する経済・経営学の応用問題を扱う．前半は解析の基礎概念について解説し，後半は解析の知識を利用した応用問題の解法を紹介する．問題演習の時間もとり，各自問題を解いてもらう．また，理解度をはかるために課題や宿題を出すこともある．問題演習中は机間巡視をするので，授業中に理解できなかった点や解き方がわからない点などを質問するとよい．なお，線形代数と数列に関する問題は前期の「経営数学ａ」で扱う．また，「数学ｂ」では解析についてより詳しく解説するので，必要があれば受講するとよい．この講義で得た知識を活用し，実際の経済・経営学の問題を解決できるようになることを望む．	１．ガイダンス ２．関数 ３．極限と微分 ４．グラフ描画と極値 ５．多変数関数の微分（偏微分） ６．多変数関数の極値 ７．条件付き極値 ８．損益分岐点問題 ９．在庫問題 １０．費用関数 １１．最適化問題１ １２．最適化問題２
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキストは特に指定しない．参考書は授業中に紹介する．	授業中の課題・宿題・出席，学期末のレポートにより総合的に評価する．

01 年度以降 00 年度以前	標本調査論 a 標本調査論	担当者	松井　敬

講義目的、講義概要	授業計画
新聞、ＴＶなどのメディア、官庁、企業など様々な機関から私たちの生活や社会にかかわる数多くの調査結果とその分析が公表されている。多くの場合、それらはあたかも私たちの総意であるかのように扱われているが、調査の実態は何であろうか。本講義では抽出の方法という観点から標本調査の問題点を整理してみる。 （注） ・数値計算用の数式はかなり多く、演習も面倒な内容のものが多い。それらを厭わない学生の受講を望む。 ・受講希望者は必ず第１回の講義から出席のこと。 ・できるだけ現実性を高めるため、理論内容を演習で補完している。そのため、出席と演習への貢献を大きく評価する。受講を考える学生はその点に十分留意していただきたい。	１．標本調査とは何か、その意味や方法、問題点など。講義の進め方―方針と受講生への要請。 ２．良いサンプルとは何か、そのための歴史的な試み。 ３．母集団と標本の枠組み。無作為抽出法の意味。 ４．単純無作為抽出法と標本のつくり方。乱数。 ５．推定量と標本分布。推定量の性質。 ６．母平均と母集団総計の推定量。誤差の評価。 ７．標準誤差、推定量の精度、推定量の相互比較。 ８．標本の大きさを決める際の考え方。 ９．層化無作為抽出法。構造模型。抽出の方法。 10. 同上。比例配分と最適配分。誤差評価と比較。 11. 層化抽出法における層の作り方、層の数。 12. 層化抽出法で、調査項目が複数個の場合の取り扱い。サンプルの大きさの決定。
テキスト、参考文献	**評価方法**
プリントを配布。インターネット上にもテキスト、資料をのせている。松井敬『標本調査論』、内田老鶴圃。	講義中の演習と出席。期末のレポート。

01 年度以降 00 年度以前	標本調査論 b 標本調査論	担当者	松井　敬

講義目的、講義概要	授業計画
本講義の目的は、「標本調査論 a」で述べたことと同じである。本講義でも、現在実際に行われている幾つかの抽出法を取り上げ、その方法や特徴を説明する。 基本的な概念や用語などの説明はすでに「標本調査論 a」で済んでいるので、「標本調査論ｂ」のみの受講は「a」の基本的な内容について十分に理解しておく必要がある。そのためにはインターネット上にテキストや用語集、Q&A を含めた諸情報が展開されているので、それらを参考にされたい。 受講希望者は必ず第１回の講義から出席のこと。また、演習も多く、出席と演習への貢献を大きく評価するので受講を考える学生はその点に十分留意すること。	１．系統抽出法。意味と方法。推定量とその分散。 ２．系統抽出法が有効な事例など。他の抽出法との関連。 ３．比推定の考え方と推定量。抽出法の実際。 ４．回帰推定の考え方と実際。抽出法の例。 ５．抽出確率が一定でない抽出法。究極の抽出法は？ ６．１段クラスターサンプリング。等確率抽出の場合。 ７．同上．確率比例抽出の場合。 ８．２段クラスターサンプリング。考え方、構造模型。 ９．同上、１段目が等確率抽出の場合。 10. 同上、１段目が確率比例抽出の場合。 11. 抽出法再考―様々な抽出法相互の関係、意味、比較など。実際の標本調査における問題。 12. 標本調査関連のＱ＆Ａ。まとめ。課題。
テキスト、参考文献	**評価方法**
プリントを配布。インターネット上にもテキスト、資料をのせている。松井敬『標本調査論』、内田老鶴圃。	講義中の演習と出席。期末のレポート。

01 年度以降 00 年度以前	データベース論 a データベース論	担当者	高柳　敏子

講義目的、講義概要	授業計画
はじめに、ﾌｧｲﾙｼｽﾃﾑの欠点を改善するために経験的に開発・改良されてきたﾃﾞｰﾀﾍﾞｰｽの歴史を概観する。 続いて、現在汎用機からﾊﾟｿｺﾝまで多くの専用ｿﾌﾄが作られ、使われている関係ﾃﾞｰﾀﾍﾞｰｽのもっとも単純な例として、身近な表計算ｿﾌﾄ(MS-Excel)のﾃﾞｰﾀﾍﾞｰｽ機能を利用し、実習しながらﾃﾞｰﾀﾍﾞｰｽおよびその検索の基礎を学ぶ。 表計算ｿﾌﾄは大変多彩な機能を持ったｿﾌﾄで、ﾃﾞｰﾀﾍﾞｰｽ機能も充実しており、ﾃﾞｰﾀﾍﾞｰｽおよび検索処理の入門および基礎を学習するには十分である。 実際のﾃﾞｰﾀﾍﾞｰｽとしては国勢調査の結果の人口情報と、古くから日本人が親しんでいる百人一首を利用し、それらの取り扱いを通じて数値中心のﾃﾞｰﾀﾍﾞｰｽと文字列中心のﾃﾞｰﾀﾍﾞｰｽの扱いの基礎を学ぶ。	1 ｶﾞｲﾀﾞﾝｽ、ﾃﾞｰﾀﾍﾞｰｽとは(1) ﾃﾞｰﾀﾍﾞｰｽ概観、簡単な歴史 2 ﾃﾞｰﾀﾍﾞｰｽとは(2) ﾃﾞｰﾀﾍﾞｰｽﾓﾃﾞﾙ（航海型、関係型、次世代型） 3 ﾃﾞｰﾀﾍﾞｰｽとは(3)　ﾃﾞｰﾀﾍﾞｰｽの三層ｽｷｰﾏ 4 ﾃﾞｰﾀﾍﾞｰｽとは(4)　ﾃﾞﾞｰﾀﾍﾞｰｽ管理ｼｽﾃﾑ 5 ﾃﾞｰﾀﾍﾞｰｽの実際(1) ﾃﾞｰﾀの準備、ﾚｺｰﾄﾞ、項目、ﾌｨｰﾙﾄﾞ 6 ﾃﾞｰﾀﾍﾞｰｽの実際(2)　ﾚｺｰﾄﾞの分類と集計 7 ﾃﾞｰﾀﾍﾞｰｽの実際(3)　ﾚｺｰﾄﾞの抽出 8 ﾃﾞｰﾀﾍﾞｰｽの実際(4) 条件検索(1)　文字列ﾃﾞｰﾀの条件設定 9 ﾃﾞｰﾀﾍﾞｰｽの実際(5) 条件検索(2)　数値ﾃﾞｰﾀの条件設定 10 ﾃﾞｰﾀﾍﾞｰｽの実際(6)　条件検索演習 11 ﾃﾞｰﾀﾍﾞｰｽの実際(7) ｸﾛｽ集計　2 項目の集計　3 項目の集計 12 ﾃﾞｰﾀﾍﾞｰｽの実際(8) 問題とまとめ

テキスト、参考文献	評価方法
テキスト：前田、松山、和高、高柳、石田共『Windows による情報活用』共立出版、2002 参考書：鈴木健司『データベースがわかる本』ｵｰﾑ社、1998	定期試験、1~2 回程度のﾚﾎﾟｰﾄおよび出席を加味して評価する。

01 年度以降 00 年度以前	データベース論 b データベース論	担当者	高柳　敏子

講義目的、講義概要	授業計画
この講義は「ﾃﾞｰﾀﾍﾞｰｽ論 a」の既習が前提となる。関係ﾃﾞｰﾀﾍﾞｰｽﾓﾃﾞﾙの理論と実際を実習を通して学習する。 はじめに、1970 年 E.F.Codd により提案され、現在ﾃｷｽﾄﾍﾞｰｽのﾃﾞｰﾀﾍﾞｰｽとして最も普及している関係ﾃﾞｰﾀﾍﾞｰｽの特徴を順に解説していく。その基礎となっている関係代数、二次元の表として表現される関係を示すﾃﾞｰﾀ構造、専用言語 SQL について、実際に専用ｿﾌﾄ(MS-Access)を使用しながら順に理解していく。 使用する主なﾃﾞｰﾀﾍﾞｰｽは、表計算ｿﾌﾄ（MS-Excel）上に用意されている国勢調査の結果を利用した人口情報と百人一首の情報である。これらが関係ﾃﾞｰﾀﾍﾞｰｽとして専用ｿﾌﾄ上でどのように取り扱われるか、また要求する検索が SQL 言語を使用してどのように表現されるか等を通して関係ﾃﾞｰﾀﾍﾞｰｽの実際を学ぶ。	1 関係ﾃﾞｰﾀﾍﾞｰｽ(1)　関係ﾃﾞｰﾀﾍﾞｰｽﾓﾃﾞﾙと SQL、ﾀﾌﾟﾙ、ｱﾄﾘﾋﾞｭｰﾄ、ﾄﾞﾒｲﾝ 2 関係ﾃﾞｰﾀﾍﾞｰｽ(2) ｷｰ、関数従属、正規形と正規化 3 関係ﾃﾞｰﾀﾍﾞｰｽ(3) 候補ｷｰ、主ｷｰ、外部ｷｰ、参照整合性 4 関係ﾃﾞｰﾀﾍﾞｰｽの実際(1) Excel 上の表の正規化と Access へのｲﾝﾎﾟｰﾄ 5 関係ﾃﾞｰﾀﾍﾞｰｽの実際(2) 関係の確認、主ｷｰの設定、関係間の関連付 6 関係ﾃﾞｰﾀﾍﾞｰｽの実際(3) ｸｴﾘｰの表現 QBE による検索 7 関係ﾃﾞｰﾀﾍﾞｰｽ(4) 関係代数の演算　和、査、積（共通部分）、直積、選択、射影、結合、商 8 関係ﾃﾞｰﾀﾍﾞｰｽ(5)　関係代数の演算と SQL 9 関係ﾃﾞｰﾀﾍﾞｰｽ(6)　SQL の構文と演算子 10 関係ﾃﾞｰﾀﾍﾞｰｽの実際(4)　QBE と SQL 11 関係ﾃﾞｰﾀﾍﾞｰｽの実際(5)　SQL による検索 12 関係ﾃﾞｰﾀﾍﾞｰｽの実際(6) SQL のﾃﾞｰﾀﾍﾞｰｽ定義、更新処理、まとめ

テキスト、参考文献	評価方法
テキスト：前田、松山、和高、高柳、石田共著『Windows による情報活用』共立出版、2002 参考書：芝野耕司『SQL がわかる本』ｵｰﾑ社、1998	定期試験、1~2 回程度のﾚﾎﾟｰﾄおよび出席を加味して評価する。

01 年度以降 00 年度以前	コンピュータシミュレーション論 a コンピュータシミュレーション論	担当者	冨田　幸弘

講義目的、講義概要	授業計画
情報処理の応用コースとして開設されている科目である。「コンピュータ入門」で学習した Excel をより高度に利用し、「プログラミング論」で学習した Visual Basic などのプログラミング言語も利用する。 さらに、経営科学の考え方とその分析方法を学習するとともに、コンピュータシミュレーションの技法についても学習する。 また、パソコンのより高度な利用法について学習するとともに、各自の興味に従ったコンピュータシミュレーションを作成する。 必ず、第一回目の講義に出席して、自分が履修可能であるかどうかを判断すること。	1　必要な基礎知識・評価・受講上の注意など 2　シミュレーションを必要とする経営科学と利用例 3　時系列データと経済変動 4　時系列分析と需要予測とシミュレーション 5　在庫の種類と費用 6　在庫管理とＡＢＣ分析 7　在庫管理シミュレーション 8　日程管理とＰＥＲＴ 9　日程管理シミュレーション １０　待ち行列問題 １１　待ち行列シミュレーション １２　経営科学とシミュレーションのまとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
参考文献などは、必要に応じて紹介する。 毎回の講義については、プリントを配布する。	数回のレポート、各自の作成したデータ処理の内容、出席状況などを考慮して総合評価する。

01 年度以降 00 年度以前	コンピュータシミュレーション論 b コンピュータシミュレーション論	担当者	冨田　幸弘

講義目的、講義概要	授業計画
情報処理の応用コースとして開設されている科目である。「コンピュータ入門」で学習した Excel をより高度に利用し、「プログラミング論」で学習した Visual Basic などのプログラミング言語も利用する。 さらに、経営科学の考え方とその分析方法を学習するとともに、コンピュータシミュレーションの技法についても学習する。 また、パソコンのより高度な利用法について学習するとともに、各自の興味に従ったコンピュータシミュレーションを作成する。 必ず、第一回目の講義に出席して、自分が履修可能であるかどうかを判断すること	1　必要な基礎知識・評価・受講上の注意など 2　一様乱数列とその発生法・検定 3　その他の乱数とモンテカルロシミュレーション 4　経営シミュレーション概説 5　シミュレーションモデルの作成手順 6　各経営部門などの要因関連構造 7　価格戦略シミュレーション 8　生産戦略シミュレーション 9　販売戦略シミュレーション １０　シミュレーションゲームと競争力決定構造 １１　部門管理ゲームの例 １２　コンピュータシミュレーションのまとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
参考文献などは、必要に応じて紹介する。 毎回の講義については、プリントを配布する。	各自の作成したシミュレーションゲームの内容・レポートなどを考慮して総合評価する。

01 年度以降 00 年度以前	マルチメディア論 a マルチメディア論	担当者	立田　ルミ

講義目的、講義概要	授業計画
マルチメディア作成のソフトウェアを利用して図形・画像処理、静止画、アニメーションに関する講義と実習を行う。ここでは、マルチメディアシステムがどのようなものかを、実例を挙げながら実習する。また図形・画像作成のためのソフトウェアを利用し、画像編集などの機能を学ぶ。さらに音声とアニメーション作成のためのソフトウェアを用いて実習する。これらで作成したファイルを、Word や Power Point で利用し、プレゼンテーションを行う。また、静止画画面作成のために必要なハードウェアとソフトウェアについて講義し、画像取り込みや合成方法について実習する。また、これらのマルチメディアに対するファイルと圧縮方法についても講義とデモンストレーション並びに実習すると共に、最終リポートとしてマルチメディア作品を制作する。	1　マルチメディアの基礎：講義 2　情報のデジタル表現：講義 3　静止画像の作成：講義と実習 4　画像ソフトとファイル形式：講義 5　静止画の作成：講義と実習 6　スキャナーの利用：講義と実習 7　デジカメ取り込みと画像処理：講義と実習 8　マルチメディアの処理：実習 9　アニメーション作成：講義と実習 10　プレゼンテーションツールの利用（1）：実習 11　プレゼンテーションツールの利用（2）：実習 音声、アニメーションの処理 12　マルチメディア作品作成：実習 マルチメディア作品を作成
テキスト、参考文献	**評価方法**
立田ルミ他『情報メディア入門』 実教出版	出席 20%、試験 40%、リポート 40%

01 年度以降 00 年度以前	マルチメディア論 b マルチメディア論	担当者	立田　ルミ

講義目的、講義概要	授業計画
インターネット上でのマルチメディアシステムがどのようなものかを、実例を挙げながら講義し、それらを作成するためにいくつかのソフトウェアを用いて実習を行なう。また、先輩の作成した作品を紹介する。ここでは、音声の取り込みおよび編集について講義と実習を行なう。またアニメーション作成のためのソフトウェアを用いて、アニメーション作成および音声入力を行なう。3D に関しては、ワイヤフレームモデルやサーフェスモデルなどのモデリングを行い、レンダリングを行なって作品を作成する。また、ビデオの取り込みのために必要なハードウェアとソフトウェアと、これらのマルチメディアに対するファイルと圧縮方法について講義とデモンストレーションを行い、ビデオクリップを用いて動画編集を行なう。最後リポートとして、受講生が独自の作品を制作しインターネット上に発表する。	1　インターネットとマルチメディア：講義 2　音声取り込みと処理：実習 3　音楽作成と編集：講義と実習 4　音楽作成と編集：講義と実習 5　ホームページ作成（1）：講義と実習 6　ホームページ作成（2）：講義と実習 7　ホームページ作成（3）：講義と実習 8　アニメーション作成：講義と実習 9　アニメーション作成：講義と実習 10　３Ｄ画像作成：講義と実習 11　ビデオ画像編集：講義と実習 ビデオ画像の合成と文字挿入 12　マルチメディア作品作成：実習 インターネット上に作品発表
テキスト、参考文献	**評価方法**
立田ルミ他『情報メディア入門』 実教出版	出席 20%、試験 40%、リポート 40%

01 年度以降 00 年度以前	マルチメディア論 a マルチメディア論	担当者	森　園子

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的：現在インターネット上でどのようなマルチメディアが利用され、インターネットでマルチメディア対応のプログラムを作成するためには、どのような手順が必要かを理解することを目標とする。そのために、いくつかのソフトウェアを利用して図形・画像処理・静止画・動画・音声処理に関する実習を行う。また、インターネットを用いてアメリカなどの大学にアクセスし、マルチメディアがどのような授業に使われているか、ネットワーク上でどのように利用されているかも紹介する。また、最新のマルチメディアの動向としての図形・画像処理・静止画・動画・音声を紹介する。 **講義概要**：春学期はマルチメディアシステムがどのようなものかを、CD-ROM などで実例を挙げながら実習する。また図形・画像作成のためのソフトウェアを利用し、フォトレタッチなどの機能を学ぶ。さらに音声とアニメーション作成のためのソフトウェアを用いて実習する。これらで作成したファイルを、WordやPowerPoint で利用する。また、静止画画面作成のために必要なハードウェアとソフトウェアについての事例を通して、色彩変換や合成方法についても学び、これらのマルチメディアに対するファイルと圧縮方法についても講義とデモンストレーションを通して実習すると共に、マルチメディア作品を制作する。	1. マルチメディアの基礎：年間予定、授業方法についての説明。 マルチメディアとは何か、マルチメディアで使う用語、マルチメディアの利用とは何か、どのコンピュータの部分でマルチメディアが重要かについての解説およびデモンストレーション。情報メディアについて 2. 情報のデジタル表現： アナログとデジタル、デジタル化のメリット、2進文字の表現 3. 静止画：ラスターグラフィック、ベクターグラフィック、ファイル形式 4. 画像ソフトとファイル形式：マルチメディアを扱うソフトとファイル形式の解説。ドロー系ソフト、ペイント系ソフト、プレゼンテーション画像ソフト、スライドショー画像ソフト解説。解像度、画像圧縮について解説。 5. 静止画の作成：大学にある画像作成ソフトウェアを用い、静止画像を作成。ファイル形式と記憶容量の確認。 6. スキャナー取り込みと画像処理：スキャナーのタイプ、解像度、カラーとグレイスケールの解説。スキャナーからの画像を取り込み、加工。 7. デジカメ取り込みと画像処理： デジカメによる画像取り込みと処理、画像の合成、効果の処理 8. ワープロによる画像処理： ワープロで静止画を扱う。ファイル形式と記憶容量の確認。 9. アニメーション作成(1)：静止画像とアニメーション、GIF アニメーション、ソフトウェアの解説と実習 10. アニメーションの作成(2)：バナー作成、写真の効果、トランジション 11. プレゼンテーションツールでマルチメディアを扱う：プレゼンテーションツールで図形、静止画、アニメーションを扱う。 12. マルチメディア作品作成：マルチメディア作品を作成する。
テキスト、参考文献	**評価方法**
立田ルミ他『情報メディア入門』実教出版 各種ソフトの参考文献については、 授業時に紹介する。	春学期：定期試験を行い、それを40%の評価とする。各実習でネットワーク上にリポートを提出してもらい、それを60％の評価とする。

01 年度以降 00 年度以前	マルチメディア論 b マルチメディア論	担当者	森　園子

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的：現在インターネット上でどのようなマルチメディアが利用され、インターネットでマルチメディア対応のプログラムを作成するためには、どのような手順が必要かを理解することを目標とする。そのために、いくつかのソフトウェアを利用して図形・画像処理・静止画・動画・音声処理に関する実習を行う。また、インターネットを用いてアメリカなどの大学にアクセスし、マルチメディアがどのような授業に使われているか、ネットワーク上でどのように利用されているかも紹介する。また、最新のマルチメディアの動向としての図形・画像処理・静止画・動画・音声を紹介する。 **講義概要**：秋学期はインターネット上でのマルチメディアシステムがどのようなものかを、インターネット上で実例を挙げながら講義し、それらを作成するために、いくつかのソフトウェアを用いて実習を行う。 ここでは、図形・画像作成のためのソフトウェアを利用し、三次元空間や画像変換などの機能を学ぶ。さらに音声とアニメーション作成ためのソフトウェアや、ワイヤフレームモデルやサーフェスモデルなどのモデルレンダリングなどを実習する。また、3D やビデオ画面作成のために必要なハードウェアとソフトウェアについて事例を通して学び、これらのマルチメディアに対するファイルと圧縮方法についても講義とデモンストレーション並びに実習すると共に、受講生が独自の作品を制作し、インターネット上に発表する。	1. インターネットとマルチメディア： インターネットの概説とマルチメディア作品の紹介と解説。 2. 音声取り込みと処理：オーディオファイル作成、ワープロで音声出力 3. 音楽作成と編集：音楽作成ソフトウェアの解説、音階、音の長さ、音色、音声ファイルの種類。 4. オーサリングソフトウェア(1)：プレゼンテーション向きソフトウェア、カードベースオーサリング、アイコンベースオーサリング、タイムベースオーサリング、オーサリングプログラムの紹介と解説。 5. オーサリングソフトウェア(2)：大学にあるオーサリングソフトウェアを使って、簡単なマルチメディア作品を作成する。 6. ネットワーク：ネットワーク対応のマルチメディア素材がどのように出来ているかを解説。ネットワークにあるマルチメディアのコースを探す。 7. 3D の概要：　3D ソフトウェアの解説。インターネット上で3Dを用いた作品の紹介。Java、JavaScript を用いたWeb ページの紹介。 8. 3D ソフトウェアの利用： 3D ソフトウェアを用いて、3D 作品の作成を行う。 9. 動画取り込みと編集： ビデオ標準、ビデオボード、デジタルビデオカメラの紹介と解説。 10. 動画処理：動画編集、音声貼り付け、エフェクト、テロップ作成 11. 作品作成：静止画、音声、3D、アニメーション、動画を統合させ、ネットワークに載せる。 12. 作品発表：受講生の作成したマルチメディア作品を発表し、ディスカッションを行う。
テキスト、参考文献	**評価方法**
立田ルミ他『情報メディア入門』実教出版 各種ソフトの参考文献については、 授業時に紹介する。	秋学期：定期試験を行い、それを40%の評価とする。各実習でネットワーク上にリポートを提出してもらい、それを60％の評価とする。

01 年度以降 00 年度以前	情報検索論 a 情報検索論	担当者	福田　求

講義目的、講義概要	授業計画
【目的】必要な情報を効果的に選択・入手する行為としての情報検索について理解を深める。特に，コンピュータ技術に基づく情報検索システムの知識を，解説および実習を通して体得する。 【概要】本講義ではまず，情報検索に関する基礎的な概念について解説し，情報検索を取り巻くシステムの仕組みを概観する。	1　オリエンテーション 2　情報検索の定義 3　情報検索の種類，歴史 4　データベースの定義，意義，構成要素，種類，歴史 5　索引語，シソーラス 6　前半部分のまとめ。質問受付。 7　情報検索関連作業のプロセス 8　検索式(1)：論理演算子 9　検索式(2)：トランケーション 10　検索式(3)：位置演算子，フィールド演算子 11　検索結果の評価 12　授業全体のまとめ。質問受付。
テキスト、参考文献	**評価方法**
適宜指示する。	期末試験（筆記試験またはレポート)。これに平常点を加味する。

01 年度以降 00 年度以前	情報検索論 b 情報検索論	担当者	小畑　信夫

講義目的、講義概要	授業計画
Introduction to Information Retrieval 講義の目的・概要 　情報検索システムの基本的な機能および検索方法について理解を深めることを目的とする。情報検索の流れを理解し、情報検索の基礎的技術を習得する。情報検索の基本的な方法および理論について解説する。 「情報」や「情報検索」の概念とその機能・目的を明らかにし，その上で情報の分析・加工・蓄積・探索など情報検索の主要なことがらについて、文系、社会科学系からのアプローチをする。「情報検索」がどういうものを指し、どういったところで活かされているか、今日的にどのような価値を有するかを論じる。その上で、技術的な把握、たとえば、各種検索エンジン、ゲートウェー、ポータルサイトなどの評価を行う。技術実習は、人数的な問題から、宿題＝レポート（電子メールにて提出）にすることが多い。授業の形態は、講義形式を中心とする。	第１回　ガイダンス（講義の目的と概要、授業の進め方） 　情報とは 第２回　情報検索とコンピュータ 第３回　代表的なデータベース 第４回　インターネットのしくみ（１） 第５回　インターネットのしくみ（２） 第６回　基本的な検索機能の理解 第７回　オフライン（パッケージ）での情報検索 第８回　ウェブを用いた情報検索（検索エンジンと情報検索術／検索システム） 第９回　情報と著作権 第 10 回　電子メールの利用形態／電子メール利用時の注意事項 第 11 回　検索技術の動向 第 12 回　試験 授業計画は、前後する可能性もある。
テキスト、参考文献	**評価方法**
教科書 講義資料は，プリントとして配布する。また参考書および関連文献は，講義の中で紹介する	出席，レポートおよび試験により，総合的に評価する。またレポート内容についての発表を課すことがある。

01 年度以降 00 年度以前	情報システム論 a 情報システム論	担当者	今福　啓

講義目的，講義概要	授業計画
天気予報を見てその日の行動を決定したり，製品の売り上げをもとに生産管理を行うように，情報は行動を決定する際にたいへん重要な役割を持っています．情報を効率よく的確に収集して処理することで，現代社会における活動を支援するためのシステムを，情報システムといいます．必要となる情報を適した形で利用するには，業務についての知識だけではなく，情報システムを構築する際に必要となるコンピュータやネットワーク，業務システムの分析法，モデル化手法や設計手法といった，幅広い知識が必要となります．情報システム論 a では，情報システムについての全体像を把握し，情報システムに関連する個々の基礎技術についての理解を深めることを目的とします．	1. 授業のガイダンス 2. 情報システムの基礎－全体像を見る 3. 情報システムの構成要素 1－ハードウェアとソフトウェア 4. 情報システムの構成要素 2－ネットワーク 5. 情報システムにおける処理方式－定型処理と非定型処理 6. 業務のモデル化とモデル化手法 7. システムの構築方法－構造化手法とオブジェクト指向アプローチ 8. 構造化手法による設計と問題点 9. オブジェクト指向アプローチの基礎 10. オブジェクト指向による設計 11. システムのシミュレーションと分析 12. 授業のまとめ
テキスト，参考文献	**評価方法**
特に指定しません．	期末試験と課題などの結果を総合して判断します．

01 年度以降 00 年度以前	情報システム論 b 情報システム論	担当者	今福　啓

講義目的，講義概要	授業計画
コンピュータを用いたシステムによりさまざまな問題を解決する際には，問題に適した解法をシステムに実装する必要があります．しかし，問題を解くにつれて状況が変化し，状況に応じた手順をあらかじめ用意することが出来ない場合には，その時々の状況に応じて解法を変化させる必要があります．情報システム論 b では，変化する状況に適応するように進化的に計算する手法や，過去に起こった状況をもとに学習して問題を解決する手法について学びます．また，それらの手法を用いたシミュレーション技法について学ぶことで，各手法が実際にどのように使われているのかを理解することを目標とします．	1. 授業のガイダンス 2. コンピュータによる問題解決について 3. 知的ソフトウェア１－エージェントとは 4. 知的ソフトウェア２－協調，競合する環境におけるエージェントのはたらき 5. 知的ソフトウェア３－マルチエージェントシステム 6. 最適化手法１－数学的手法と遺伝的アルゴリズム 7. 最適化手法２－遺伝的アルゴリズムによる問題解決 8. 機械学習１－ニューラルネットワーク 9. 機械学習２－Q 学習 10. 機械学習３－ニューラルネットワークによる問題解決 11. 知的ソフトウェアの構築－人工社会を用いたシミュレーション 12. 授業のまとめ
テキスト，参考文献	**評価方法**
特に指定しません．	期末試験と課題などの結果を総合して判断します．

01 年度以降 00 年度以前	プログラミング論 a プログラミング論	担当者	加藤　尚吾

講義目的、講義概要	授業計画
Windows の機能をフルに活用できるイベントドリブン型言語である Visual Basic.NET をプログラミング言語としてとりあげ、様々なソフトウェアがどのように開発されているかを理解することを目的とする。また、同時に実際にプログラミングをどうのようにすればよいかを理解することを目的とする。 基本的な命令から、その組み合わせまでを、例をあげて講義する。その後、ひとつひとつの命令に関して実際に Visual Basic.NET でプログラミングの演習を行う。 ほぼ毎回、演習課題を行ってもらう。最後に自分でテーマを決めて、ソフトウェアの製作を行う。	1. 授業のガイダンスとコンピュータ概説 : ソフトウェアの概略とコンピュータの構成 2. Visual Basic.NET の概略 : イベント、フォーム、プロジェクト、プロパティ 3. 簡単なプログラム作成（1）: アプリケーション開発手順、文字の入出力 4. 簡単なプログラム作成（2）: 四則演算 5. 簡単なプログラム作成（3）: キャッシュレジスター 6. 選択のあるプログラム作成（1）: アプリケーションの設計、コントロールの扱い方 7. 選択のあるプログラム作成（2）: 多くの選択のあるプログラムの処理 8. 選択のあるプログラム作成（3）: オプションボタン、チェックボタンの利用 9. 選択のあるプログラム作成（4）: リストボックス、ドラッグアンドドロップの利用 10. 繰り返しのあるプログラム作成（1）: If と Go To、For Next を用いた繰り返し 11. 繰り返しのあるプログラム作成（2）: Case 文、While 文 12. 総合問題作成 : いろいろなコントロールを用いて問題を作成する
テキスト、参考文献	**評価方法**
林　直嗣、室井勝子、鈴木三枝子著 : 実習－Visual Basic.NET、サイエンス社	出席、演習課題、レポート、試験で、総合的に評価する。

01 年度以降 00 年度以前	プログラミング論 b プログラミング論	担当者	加藤　尚吾

講義目的、講義概要	授業計画
プログラミング論 a で学んだ基礎的なプログラム作成方法を用いて、より複雑なプログラムを作成できることを目標とする。画像や音声などのマルチメディアがファイルとしてどのように扱われているかも理解することを目的としている。また、ファイルや Windows の他のアプリケーションとの連携についても理解し、さらにネットワーク対応のプログラムを作成することを目的とする。 本講義では、プログラミング論 a と同様に、Windows の機能をフルに活用できるイベントドリブン型言語である Visual Basic.NET をプログラミング言語としてとりあげる。 ほぼ毎回、演習課題を行ってもらう。最後に自分でテーマを決めて、ソフトウェアの製作を行う。	1. 図形の処理（1）: 直線を描く、曲線を描く 2. 図形の処理（2）: 円を描く、色を塗る 3. 図形の処理（3）: Windows の画像処理、タイマーの利用、 4. 図形の処理（4）: ドラッグアンドドロップの利用 5. 音声、動画の処理 : 音声を録音する、音声を再生する 6. 配列とコントロール配列 : 一元配列、コントロール配列の利用 7. プルダウンメニュー : コンボボックス、プルダウンメニューの利用 8. ファイルの利用（1）: テキストファイルの読み込み 9. ファイルの利用（2）: 画像ファイルの読み込み 10. ファイルの利用（3）: シーケンスファイルの作成 11. ファイルの利用（4）: シーケンスファイルの読み込みと利用 12. インターネットの利用 : Visual Basic.NET とホームページとのリンク
テキスト、参考文献	**評価方法**
林　直嗣、室井勝子、鈴木三枝子著 : 実習－Visual Basic.NET、サイエンス社	出席、演習課題、レポート、試験で、総合的に評価する。

01 年度以降 00 年度以前	プログラミング論 a プログラミング論	担当者	高柳　敏子

講義目的、講義概要	授業計画
はじめに、ｺﾝﾋﾟｭｰﾀの歴史を、ﾊｰﾄﾞｳｪｱおよびｿﾌﾄｳｪｱの両面から概観する。続いて、ｼﾐｭﾚｰﾀを利用して、仮想のｺﾝﾋﾟｭｰﾀとその上で動くｱｾﾝﾌﾞﾗ言語(COMETⅡおよびCASLⅡ)のﾌﾟﾛｸﾞﾗﾐﾝｸﾞおよび実習を通じて、ﾉｲﾏﾝ型ｺﾝﾋﾟｭｰﾀの動作や制御の仕組み、およびｺﾝﾋﾟｭｰﾀ内部における情報の表現、さらに基本的なﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑの仕組み等ｺﾝﾋﾟｭｰﾀの原理を学ぶ。 ﾉｲﾏﾝ型ｺﾝﾋﾟｭｰﾀは1945年にvon Neumannによって提案され、実現されたﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ内臓方式の電子計算機であるが、現在大型機からﾊﾟｿｺﾝに至るまで身の周りで稼動しているもののほとんどがﾉｲﾏﾝ型であり、見かけの進化に対してｺﾝﾋﾟｭｰﾀの内部構造は50年前とほとんどかわらない。基本原理は相変わらずﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ内臓方式、二進法、逐次制御であり、その基本およびﾌﾟﾛｸﾞﾗﾐﾝｸﾞの原理を理解するには、上述のような素朴で原始的はｺﾝﾋﾟｭｰﾀと言語がむしろ向いている。	1 ｶﾞｲﾀﾞﾝｽ、ｺﾝﾋﾟｭｰﾀの歴史(1) ﾊｰﾄﾞｳｪｱ、ﾉｲﾏﾝ型、世代論と記憶素子 2 ｺﾝﾋﾟｭｰﾀの歴史(2) ｿﾌﾄｳｪｱ、ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾐﾝｸﾞ言語、ｵﾍﾟﾚｰﾃｨﾝｸﾞｼｽﾃﾑ 3 ﾉｲﾏﾝ型ｺﾝﾋﾟｭｰﾀの構成とCOMETⅡ 五大装置、語・ﾋﾞｯﾄ構成、ｱﾄﾞﾚｯｼﾝｸﾞ、命令語、ﾚｼﾞｽﾀ 4 情報の表現(2) 整数と2の補数表記、2進法、16進法 5 CASLⅡﾌﾟﾛｸﾞﾗﾐﾝｸﾞ(1) CASLⅡの命令 (ｱｾﾝﾌﾞﾗ、ﾏｸﾛ、機械)、ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ形式 6 CASLⅡﾌﾟﾛｸﾞﾗﾐﾝｸﾞ(2) ﾛｰﾄﾞ・ｽﾄｱ命令、加減算命令、定数と領域の確保 7 CASLⅡｼﾐｭﾚｰﾀとその実行(3) ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑの入力、編集、ｱｾﾝﾌﾞﾙ、実行、記憶 8 CASLⅡﾌﾟﾛｸﾞﾗﾐﾝｸﾞ(4) 乗除算処理、ｼﾌﾄ演算 9 CASLⅡﾌﾟﾛｸﾞﾗﾐﾝｸﾞ(5) 比較演算、分岐処理 10 CASLⅡﾌﾟﾛｸﾞﾗﾐﾝｸﾞ(6) 繰り返し処理 11 CASLⅡﾌﾟﾛｸﾞﾗﾐﾝｸﾞ(7) 情報の表現(2) 文字の内部表現とその扱い 12 CASLⅡﾌﾟﾛｸﾞﾗﾐﾝｸﾞ(8) 総合問題、まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
随時必要な資料を提示する。 参考書：『CASLⅡﾌﾟﾛｸﾞﾗﾐﾝｸﾞ』ITEC、2001	定期試験、2回ほどのﾚﾎﾟｰﾄおよび出席を加味して評価する。

01 年度以降 00 年度以前	プログラミング論 b プログラミング論	担当者	高柳　敏子

講義目的、講義概要	授業計画
ここでは、上記「ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾐﾝｸﾞ論 a」の既習すなわちﾉｲﾏﾝ型のｺﾝﾋﾟｭｰﾀの基礎を理解していることが前提になる。 その上で主にｺﾝﾊﾟｲﾗｰ言語 C++をﾌﾟﾛｸﾞﾗﾐﾝｸﾞ言語として使用し、ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾐﾝｸﾞの基礎から、問題解決のためのｱﾙｺﾞﾘｽﾞﾑの実現へと、講義内容意を加速的に広げていくことにより、ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾐﾝｸﾞによりどのようなことが可能か、どのような手法が実際に使われているのか等が理解される。 Windowsﾏｼﾝの応用ｿﾌﾄを使用している限り、中でどのような手法が使われているか等をほとんど意識することもなく、一般には便利さのみに頼って利用するが、改めてｿﾌﾄの内部にも思いを寄せてみることができよう。	1 ｱｾﾝﾌﾞﾗとｺﾝﾊﾟｲﾗ 例題ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑの翻訳、連係編集、実行 2 C++言語とは 基本事項、文、ﾌﾞﾛｯｸ、ｺﾒﾝﾄ、整数の四則演算 3 C++ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾐﾝｸﾞ(1) 情報の表現(1) 実数 4 C++ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾐﾝｸﾞ(2) 判断・分岐、関係式、関係演算子、論理演算子 5 C++ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾐﾝｸﾞ(3) 繰り返し処理、配列 6 C++ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾐﾝｸﾞ(4) 情報の表現(2) 文字と文字列 7 C++ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾐﾝｸﾞ(5) 関数、ﾒｲﾝﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑとｻﾌﾞﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ 8 C++ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾐﾝｸﾞ(6) 関数の作成と利用 9 ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾐﾝｸﾞの応用(1) 基本的な整列 10 ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾐﾝｸﾞの応用(2) 探索処理 11 ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾐﾝｸﾞの応用(3) ﾌｧｲﾙ処理 12 ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾐﾝｸﾞの応用(4) 総合問題、まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
随時必要な資料を提示する。 参考書：K.Jamsa 著、春木良且訳『C++超入門』 第3版、ｱｽｷｰ出版、1999	定期試験、2回ほどのﾚﾎﾟｰﾄおよび出席を加味して評価する。

01 年度以降 00 年度以前	プログラミング論 a プログラミング論	担当者	立田　ルミ

講義目的、講義概要	授業計画
Visual Basic.NET をプログラミング言語として採りあげ、様々なソフトウェアがどのように開発されているかを理解し、実際にどのようにプログラミングすればよいかを理解する事を目標としている。 そのために、Windows の機能をフルに活用できくるオブジェクト記述型言語である Visual Basic.NET で実際にプログラミングを行うことにより、プロブラミングとはどういうことかを体得してもらうことを目的とする。 基本的な命令から始め、それらを組み合わせてどのようにプログラミングすればよいかを、例を挙げて講義し、それらの１つ１つの命令に対して解説と演習を行う。演習の課題として、1 週間に 1 度の課題提出をネットワーク上で行ってもらう。最後に自分でテーマを決めて、ソフトウェアの製作を行う。授業の最初に、先輩たちの作成したプログラムを紹介する。また、同じクラスの人たちの作ったプログラムも紹介する。	1　授業のガイダンスとコンピュータ概説:講義 2　Visual Basic.NET の概略:講義と実習 3　文字の表示：講義と実習 4　簡単な計算：講義と実習 5　関数の利用：講義と実習 6　飛び越し命令：講義と実習 7　条件判断による分岐：実習 8　コントロールによる分岐：実習 9　選択用コントロールによる分岐：実習 リストボックス、チェックボックスの利用 10　回数指定による繰り返し：講義と実習 If と Go To、 For Next を用いた繰り返し 11　条件指定による繰り返し：講義と実習 Case 文、While 文、Loop 文 12　総合問題作成:実習 いろいろなオブジェクトを用いて問題を作成する
テキスト、参考文献	**評価方法**
林　直嗣、室井勝子、鈴木三枝子著：実習 ―Visual Basic.NET、サイエンス社	出席 20%、リポート 40%、試験 40%

01 年度以降 00 年度以前	プログラミング論 b プログラミング論	担当者	立田　ルミ

講義目的、講義概要	授業計画
プログラミング論 a で学んだ基礎的なプログラム作成方法を用いて、より複雑なプログラムを作成できることを目的とする。ここでは、様々なソフトウェアがどのように開発されているかを理解し、実際にどのようにプログラミングすればよいかを理解する事を目標としている。そのために、Windows の機能を活用して Visual Basic.Net で実際にプログラミングを行う。また、画像や音声などのマルチメディアがファイルとしてどのように扱われているかも理解することを目的としている。また、ファイルや Windows の他のアプリケーションとの連携についても理解し、さらにネットワーク対応のプログラムを作成するにはどのような命令が必要かを理解することを目的とする。最後に自分でテーマを決めてソフトウェアの製作を行い、最終のリポートとする。	1　プログラムの分割：講義と実習 2　プログラムの構造化：講義と実習 3　配列の処理：講義と実習 4　配列の入出力：講義と実習 ドラッグアンドドロップの利用 5　文字列の処理：講義と実習 6　図形の描画：講義と実習 7　画像の取り扱い：実習 8　ファイル処理と記憶装置：講義と実習 9　シーケンシャルファイルの処理：講義と実習 10　ランダムファイルの処理：講義と実習 11　ファイルダイアログコントロール：講義と実習 12　インターネットの利用：講義と実習 Visual Basic.NET とホームページとのリンク
テキスト、参考文献	**評価方法**
林　直嗣、室井勝子、鈴木三枝子著：実習 ―Visual Basic.NET、サイエンス社	出席 20%、リポート 40%、試験 40%

01 年度以降 00 年度以前	プログラミング論 a プログラミング論	担当者	森　園子

講義目的、講義概要	授業計画
Visual Basic.NET をプログラミング言語として採りあげ、様々なソフトウェアがどのように開発されているかを理解し、実際にどのようにプログラミングすればよいかを理解する事を目標としている。そのために、Windows の機能をフルに活用できるベントドリブン型言語である Visual Basic.NET で実際にプログラミングを行うことにより、プロブラミングとはどういうことかを体得してもらうことを目的とする。基本的な命令から始め、それらを組み合わせてどのようにプログラミングすればよいかを、例を挙げて講義し、それらの１つ１つの命令に対して解説と演習を行う。演習の課題として、1 週間に 1 度の課題提出をネットワーク上で行ってもらう。最後に自分でテーマを決めて、ソフトウェアの製作を行う。授業の中で、先輩たちの作成したプログラムを紹介する。	1　授業のガイダンスとコンピュータ概説:講義 ソフトウェアの概略とコンピュータの構成 2　Visual Basic.NET の概略:講義と実習 イベント、フォーム、プロジェクト、プロパティ 3　簡単なプログラム作成（1）:講義と実習 アプリケーション開発手順、文字の入出力 4　簡単なプログラム作成（2）:講義と実習 四則演算 5　簡単なプログラム作成（3）:講義と実習 キャッシュレジスター 6　選択のあるプログラム作成（1）:講義と実習 アプリケーションの設計、コントロールの扱い方 7　選択のあるプログラム作成（2）:実習 多くの選択のあるプログラムの処理 8　選択のあるプログラム作成（3）: 実習 オプションボタン、チェックボタンの利用 9　選択のあるプログラム作成（4）: 実習 リストボックス、ドラッグアンドドロップの利用 10　繰り返しのあるプログラム作成（1）: 講義と実習 If と Go To、 For Next を用いた繰り返し 11　繰り返しのあるプログラム作成（12）: 講義と実習　Case 文、While 文 12　総合問題作成:実習 いろいろなコントロールを用いて問題を作成する
テキスト、参考文献	**評価方法**
林　直嗣、室井勝子、鈴木三枝子著：実習 ―Visual Basic.NET、サイエンス社	出席 20%、リポート 40%、試験 40%

01 年度以降 00 年度以前	プログラミング論 b プログラミング論	担当者	森　園子

講義目的、講義概要	授業計画
プログラミング論 a で学んだ基礎的なプログラム作成方法を用いて、より複雑なプログラムを作成できることを目的とする。ここでは、様々なソフトウェアがどのように開発されているかを理解し、実際にどのようにプログラミングすればよいかを理解する事を目標としている。そのために、Windows の機能を活用して Visual Basic.Net で実際にプログラミングを行う。また、画像や音声などのマルチメディアがファイルとしてどのように扱われているかも理解することを目的としている。また、ファイルや Windows の他のアプリケーションとの連携についても理解し、さらにネットワーク対応のプログラムを作成するにはどのような命令が必要かを理解することを目的とする。最後に自分でテーマを決めてソフトウェアの製作を行い、最終のリポートとする。	1　図形の処理（1）: 講義と実習 直線を描く、曲線を描く 2　図形の処理（2）: 講義と実習 円を描く、色を塗る 3　図形の処理（3）: 講義と実習 Windows の画像処理、 タイマーの利用 4　図形の処理（4）: 講義と実習 ドラッグアンドドロップの利用 5　音声・動画の処理：講義と実習 音声を録音する、音声を再生する 6　配列とコントロール配列：講義と実習 一次元配列、コントロール配列の利用 7　プルダウンメニュー：実習 コンボボックス、プルダウンメニューの利用 8　ファイルの利用（1）: 講義と実習 テキストファイルの読み込み 9　ファイルの利用（1）: 講義と実習 画像ファイルの読み込み 10 ファイルの利用（1）: 講義と実習 シーケンスファイルの作成 11 ファイルの利用（1）: 講義と実習 シーケンスファイルの読み込みと利用 12 インターネットの利用：講義と実習 Visual Basic.NET とホームページとのリンク
テキスト、参考文献	**評価方法**
林　直嗣、室井勝子、鈴木三枝子著：実習 ―Visual Basic.NET、サイエンス社	出席 20%、リポート 40%、試験 40%

01 年度以降	情報社会論 a	担当者	柴崎　信三

講義目的、講義概要

「ものつくり」を核にしてきた産業社会はコンピューターネットワークの普及によって大きく変貌している。それは単にビジネスのやりとりや企業組織を含めた社会の情報伝達の効率化にとどまらない文明的な変化といえる。

アルウィン・トフラーが『第三の波』で予測したこの変革は、かつて石炭や石油の普及によって経済社会のメカニズムばかりでなく人々の価値観や生き方までをも変えたエネルギー革命にも匹敵するともいわれる。

春学期の授業では、これまで土地や資本や労働力などに依拠して規模を広げてきた産業社会が情報技術（ＩＴ）によってかつてない市場の可能性を広げる一方、既存の秩序との摩擦を生み出している現状を検証しながら、それを支えるルールや社会の仕組みの問題点を探る。

材料や労働力を大量に使って規格的な商品やサービスの規模を競う社会から、情報技術を通した「差異」による競争が新たな価値を生む社会は、企業組織や人材の市場を再編するとともに、「知識」の価値を高めて先端技術をはじめとする未開の事業のフロンティアを拡大する。

企業と社会が直面するこうした変化の波を通して情報社会の光と影を浮き彫りにして行きたい。

授業計画

1　はじめに
2　「第三の波」
3　電子商取引が変える
4　企業ピラミッドの崩壊
5　ニューエコノミー論の検証
6　金融派生商品とＩＴバブル
7　知的財産が動かす社会
8　ネットとマスメディア
9　規制緩和と公益の視点
10　情報格差（デジタルデバイド）
11　エンロン破綻・ライブドア事件
12　まとめ

テキスト、参考文献

各回、資料を提供する。吉川元忠『情報エコノミー』（文春新書）を参考文献とする。

評価方法

定時試験の成績に平常の授業で課すリポートの実績を勘案して評価する。

01 年度以降	情報社会論 b	担当者	柴崎　信三

講義目的、講義概要

情報社会は個人と社会の利便性を高める一方で、個人と個人、あるいは個人と国家や企業、マスメディアなどとの関係でこれまでの民主主義や市場経済システムとの摩擦やリスクを生み出している。個人や組織の壁を超えて瞬時に情報が不特定の他者に伝達されるというネット社会の特性が、表現の自由やプライバシーの権利をはじめとする個人の権利を容易に侵犯する逆説がそこにはある。

秋学期の授業では「表現の自由」と個人情報保護を巡る問題など、情報社会が内部にかかえるリスクや秩序の揺らぎに焦点を当て、新たな公共性の確立を通したネットワーク社会の調和の条件を探る。

電子マネーの普及は取引や決済の効率化を通してビジネスのスピードの向上やコストダウンなどの効果を生む反面、「なりすまし」犯罪などの新たなリスクを広げる。ブランドや特許など知的財産が企業価値の大きな要素を占めるようになったが、過重な所有者の権益擁護から脱して社会的還元を求める声も強い。電子政府やセキュリティー化がすすむ社会では個人への監視が強まり、市民的な自由の低下も懸念されている。こうした情報社会のかかえる問題を通して新たな秩序形成の条件を探りたい。

授業計画

1　はじめに
2　電子政府と住基ネット
3　表現の自由とプライバシー
4　電子マネーと認証技術
5　知的財産権を巡って
6　ネット犯罪と社会リスク
7　監視社会と自由の行方
8　マスメディアの危機
9　情報化と揺らぐ社会倫理
10　情報の非対称化と政治
11　エシュロンー安全保障と情報
12　まとめ

テキスト、参考文献

各回、資料を提供する。西垣通『ＩＴ革命』（岩波新書）などを参考文献とする。

評価方法

定時試験の成績に平常授業で課すリポートの実績を勘案して評価する。

01 年度以降 00 年度以前	情報通信ネットワーク b 特殊講義 A（情報通信ネットワーク）	担当者	三宅　真

講義目的、講義概要	授業計画
携帯電話とインターネットに代表される情報通信ネットワークの発達によって，時間と空間の制約を越えて自由にコミュニケーションができる時代が訪れた。長い人類の歴史において画期的なことであり，産業革命に匹敵する情報革命の時代と言われるゆえんである。 この講義では，無線通信を含む情報通信ネットワークの全貌を，わかりやすく概説する。情報通信ネットワークの実際と発展動向を解説し，無線通信システムにおいて情報が伝達される仕組みとテクノロジーに関する基本的なことがらを，例題演習を交えながら解説する。 通信（＝コミュニケーション）の人間的・社会的な側面にも言及しながら，情報通信ネットワークのシステムとテクノロジーを，実例に則して概説する。同時に，いろいろな視点から課題を発見し，考えてゆくためのヒントを随所で指摘しながら，講義を進める。 この講義を通じて，受講生諸君が情報通信ネットワークについての正しい見識を身につけると共に，21 世紀の社会における情報通信ネットワークの展望と活用についての自らの考え方を確立することを期待する。	1．情報通信ネットワークの発展と最近の動向 2．情報通信における電気信号と無線電波の周波数 3．移動通信システムの実際 4．移動通信ネットワークの発展と最近の動向 5．携帯電話ネットワークと通信プロトコル 6．衛星通信システムの実際 7．衛星通信ネットワークの発展と最近の動向 8．静止衛星と衛星軌道 9．情報伝送とシャノンの通信系モデル 10．情報のディジタル化と情報量 11．符号化と情報伝送 12．まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキストは講義中に配布する。参考文献は， ・奥村，他『移動通信の基礎』電子情報通信学会 ・有本『現代情報理論』電子情報通信学会	出席とレポートによって評価する。

01 年度以降 00 年度以前	情報通信ネットワーク a 特殊講義 A（情報通信ネットワーク）	担当者	今福　啓

講義目的、講義概要	授業計画
インターネットを利用したり，複数のコンピュータを決められた形に接続してネットワークを構成することは容易に実現できます。しかし，コンピュータを設置して使用する環境に応じて，どのようなネットワークを構築すればよいのかは異なります．この授業では，環境にあわせてネットワークを構築するために必要となる知識を，基礎から身につけることを目的とします．	1. 授業の進め方について 2. インターネットとは 3. OSI 基本参照モデル 4. ネットワーク上でのアドレス 1－IP アドレス 5. ネットワーク上でのアドレス 2－MAC アドレス 6. グローバル IP アドレスとプライベート IP アドレス－NAT と NAPT 7. DNS の役割と構成 8. パケットのルーティングについて 9. ルーティングのプロトコルについて 10. ネットワークのセキュリティーファイアーウォールの役割 11. 次世代のネットワーク－IPv6 12. 授業のまとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
特に指定しません．	期末試験と課題などの結果を総合して判断します．

01 年度以降	コンピュータネットワーク	担当者	富澤　儀一

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的 　インターネットで使われている TCP/IP を講義と演習をまじえて学習する。これからネットワーク技術を学習しようと思っている学生が必ず身につけておかなくてはならない TCP/IP の基本である。 **講義概要** 　先ずコンピュータを学習するに必要な数表現を学習し、つぎにインターネットの標準プロトコルである TCP/IP の成り立ちを学んだ上で、TCP/IP がデータを目的地に届けるために、OS や通信ソフトでどのような処理をしているかを学ぶ。 **受講上の注意** 　本科目は、毎時間の学習の積み重ねである。したがって理解できないときは、その場で質問をし、疑問を後々まで残さない。欠席されたときは、友達に授業内容をよく聞いて欠落がないように注意してほしい。欠席が重なると理解不能となるので、欠席が予想される場合は、当該年度に受講せずに次年度に受講を繰り延べることを勧める。	１．ガイダンス、数表現・基数変換 ２．数表現・基数変換の演習 ３．ネットワークアーキテクチャとプロトコル ４．IP（IP ヘッダーの役割、IP の動作） ５．TCP（TCP ヘッダーの役割） ６．TCP（TCP の動作） ７．UDP（何もしないことに価値）、 　ICMP（調査・確認のためのプロトコル） ８．IP アドレス （１）ネットワーク・アドレスとホスト・アドレス （２）グローバル・アドレスとプライベートアドレス ９．パケット解析（１）コネクションの確立 １０．パケット解析（２）データ転送 １１．ネットワークコマンド実習（１） 　CUI の使い方、ipconfig, arp, nslookup コマンド １２．ネットワークコマンド実習（２） 　Ping コマンド
テキスト、参考文献	**評価方法**
授業用資料は、「¥¥dainet¥tomizawa」に格納するので、授業前に印刷する。	出席（授業数の 2/3 以上の出席が必要）、授業中の演習、期末テスト

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画
テキスト、参考文献	**評価方法**

01 年度以降	コンピュータアーキテクチャ	担当者	今福　啓

講義目的，講義概要	授業計画
この講義では，コンピュータのハードウェアの基本構造と，その動作原理を理解することを目的とします．身の回りにあるコンピュータがどのような要素により構成されているのか，また個々の構成要素がどのようにして動作しているのかを理解することで，コンピュータを利用する際の手助けとなる知識が得られることを目指します．	1. 授業の進め方について 2. コンピュータの基本構造－5 つの装置（入力装置，出力装置，演算装置，制御装置，記憶装置） 3. コンピュータの動作手順 4. 2 進数－整数および負の数の表現 5. 実数の表現－固定小数点，浮動小数点 6. コンピュータの演算 1－算術演算 7. コンピュータの演算 2－論理演算 8. 演算装置の構造 9. 制御装置の構造 10. 機械語の命令について 11. 命令語とプログラム 12. 授業のまとめ
テキスト，参考文献	**評価方法**
特に指定しません．	期末試験と課題などの結果を総合して判断します．

		担当者	

講義目的，講義概要	授業計画
テキスト，参考文献	**評価方法**

01 年度以降	情報と職業 a	担当者	冨田　幸弘

講義目的、講義概要	授業計画
情報化社会の急激な進展と、その社会の中で働くことについて考え、学習する。情報の獲得・利用する職業についての関わり方を学習し、情報に関わる職業人としての勤労観・倫理観などについても考える。 （1）報化社会での各種情報の開示と、個人情報の保護や危機管理について学習する。 （2）情報産業で関心の高い業界・業種・職種と変動する生活・ビジネスについて学習する。 （3）数人のグループを編成し、「情報と職業」について各種のテーマを設定し、研究成果を発表し、討論する。 高等学校の「情報科」の教員の免許取得に必要な法定科目であるので、必ず、第一回目の講義に出席して、自分が履修可能であるかどうかを判断すること。	1　情報について 2　情報化社会の情報システム・情報化社会の信頼性 3　基盤技術・開発技術・生産技術・新利便 4　インターネット・通信・衛生放送・災害と情報 5　情報開示の実態と責任・リスク管理 6　情報の収集と発信・個人情報の保護と責任 7　新時代の社会と職業・情報産業の職種 8　インターネットで変わる生活・ビジネス 9　情報社会の現象収集とその情報の分析 １０　情報の収集と発信にかかわる職業人の勤労と倫理 １１　教育現場での情報教育・教育方法の新規試み １２　まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
参考文献などは、必要に応じて紹介する。 毎回の講義概要については、プリントを配布する。	研究発表の内容、期末試験の結果、レポートの内容、出席状況などを考慮して総合評価する。

01 年度以降	情報と職業 b	担当者	小林　哲也

講義目的、講義概要	授業計画
情報社会の歴史的意義を解説した上で、インターネットをはじめとする情報技術が、社会に与えた影響について、議論してゆく。 ネットワークの仕組みやインターネットの特性などの技術的側面から、情報倫理や知的財産権などの、法や制度に関わる知識についても解説する。 本講義は、高等学校「情報科」教員の免許取得に必要な法定科目であるので、その心構えを持った学生の受講が望ましい。	1．　序論：情報と職業について 情報技術革命のインパクト 2．　インターネットの「爆発」 3．　インターネットの分権性と公開性 4．　IT 革命と企業組織 5．　IT 革命後のビジネス環境 ---電子取引市場 6．　IT 革命後のビジネス環境 ---仮想空間におけるハイテク 7．　IT 革命後のビジネス環境 ---模倣と創造 8．　国境を越える IT 空間 ヒト・モノ・カネ---市場の国際化 9．　IT 革命と知的財産権 １０．パブリック・ドメイン １１．デジタル・ディバイド 情報をめぐる諸格差 １２．情報化社会の諸問題 情報倫理
テキスト、参考文献	**評価方法**
近藤勲編著『情報と職業』丸善 ローレンス・レッシグ『コモンズ――ネット上の所有権強化は技術革新を殺す』翔泳社	小レポート＋定期試験

01 年度以降	アルゴリズム論 a	担当者	木村　昌史

講義目的、講義概要	授業計画
アルゴリズムとは、狭い意味ではコンピュータを用いた問題解決のための、プログラミングの前段階となる処理手順を意味する。それは人間の思考による処理のプロセスとは必ずしも同一ではなく、コンピュータ特有のものの場合も多い。ここではコンピュータ科学の基礎として、方法が確立されている決定的アルゴリズムについて学ぶ。 春学期 a では、そもそも問題解決とは何かという考え方から始め、結果が予測できる問題について、アルゴリズムの視覚化、図示化を行いながらその基本手法を理解する。基本的アルゴリズムは、大きな問題を扱っていく上での要素的手法であり、多くの分野に適用できる。授業では人数的に可能ならパソコンの実習も取り入れながら進めたい。プログラミングの知識は必要としないが、Excel の基本的な操作（関数やグラフの利用）程度は前提としたい。	1 アルゴリズムとは何か 　コンピュータによる問題解決の方法 2 条件判断・分岐・繰り返し 　Excel の関数の例 3 アルゴリズムの図示化 　JIS フローチャート、UML 4 データ構造とアルゴリズム 　スタックやキュー、データの表現 5 整列のアルゴリズム 　ソートの各種手法、クイックソート 6 整列と計算量 　アルゴリズムの効率の評価 7 探索のアルゴリズム 　線形探索法、二分探索法 8 ハッシュ法 　効率的な探索法、暗号化 9 木構造・索引付け 　二分木、B 木 10 文字列の探索 　KMP 法、BM 法 11 グラフの表現とアルゴリズム 　最短経路問題、ダイクストラアルゴリズム 12 春学期のまとめと補足 　実習のまとめ、補足
テキスト、参考文献	**評価方法**
特に指定しない。 授業時に Web 資料などを提示する予定である。	試験または実習レポート、および出席状況から総合的に評価する。

01 年度以降	アルゴリズム論 b	担当者	木村　昌史

講義目的、講義概要	授業計画
春学期 a では狭い意味での決定的アルゴリズムを扱ったが、秋学期 b ではより広い意味のコンピュータによる問題解決法としての非決定的アルゴリズムを採り上げる。 解決の方法が確立していない問題に対しては、コンピュータによる処理を適用しようとする以前に、問題に対する正しい分析や洞察が必要となる。例としてはゲームの必勝法や現象の将来予測などがあるが、まず適用ルールや条件などを深く分析することが必要である。解決へのアプローチとしては、コンピュータ特有の発見法的手法やシミュレーションの手法も加わる。こうした方法は実用的価値は十分ではあるが、あくまで近似的な手法であり、真の解答とは意味が異なることを理解する。また経済・経営分野に関連したアルゴリズムの例題も取り入れる。春学期と同様に Excel を応用したアルゴリズムの実習も行いたい。	1 ゲームの理論 　囚人のジレンマ、ゲームの必勝法 2 方程式の近似的解法 　高次方程式と解の存在 3 シミュレーションの方法 　乱数とモンテカルロ法 4 在庫管理の問題 　在庫数と発注のタイミング 5 待ち行列の問題 　サービス窓口の効率、通信量の問題 6 動的計画法 　フィボナッチ数列、ナップザック問題 7 巡回セールスマン問題 　複数都市を最短コスト訪問ルート 8 困難な問題と NP 完全問題 　P 問題、NP 問題、指数問題の類別 9 現代暗号の問題 　暗号のしくみ、RSA 暗号 10 複雑な問題とカオス 　カオスに含まれるフラクタル構造 11 株価変動の問題 　株価はランダムかフラクタルか？ 12 秋学期のまとめと補足
テキスト、参考文献	**評価方法**
特に指定しない。 授業時に Web 資料などを提示する予定である。	試験または実習レポート、および出席状況から総合的に評価する。

01 年度以降 00 年度以前	オペレーションズ・リサーチ a オペレーションズ・リサーチ	担当者	正道寺　勉

講義目的、講義概要	授業計画
オペレーションズ･リサーチ(Operations Research:一般には、略して OR と呼ばれる)は、軍事目的を達成させるために研究され始めたが、現在では限られた制約条件のもとで効率よく目的を達成するための手段として、広く利用されている。OR の範疇に入る手法はたくさんあるが、現実の問題を解くにあたっては、その問題をいかにしてモデル化するかが大変重要である(OR 手法の出番は、モデル化の後である)。本講義では、OR の基本となる考え方(モデル化の重要性を含む)とその応用について分かりやすく講義する。特に、経済学部の学生に興味のある話題を提供する積りである。 **受講者への要望**:本講義を受講するにあたり、統計学、経営数学、コンピュータの知識を持っていることが望ましい。	1. **OR の概要**：OR の歴史、OR の発展、OR の定義 2. **OR の考え方とモデル化の概念** モデル化の例、OR 手法の紹介 3. **ランチェスターの法則** 第二次世界大戦とランチェスター 4.-5. アルゴリズム アルゴリズムの重要性、再帰式と逐次近似、フィボナッチ数列と黄金分割 6. AHP【ゲーム感覚意思決定法】(1) AHP の概要（曖昧な状況下での意思決定） 7. AHP【ゲーム感覚意思決定法】(2) AHP の整合性、応用例 8.　AHP**【ゲーム感覚意思決定法】**(3)　演習 9.-10. **マルコフ過程** マルコフ過程の概要、マルコフ連鎖、推移確率、例題、演習 11. **線形計画法** (1) 線形計画法(LP)の概要、図による解法 12. **線形計画法** (2) 主問題と双対問題の関係、LP の一般形
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト／小田中敏男、正道寺勉：「初等オペレーションズ・リサーチ」、槇書店（1993） **参考文献**／開講時に随時紹介する。	試験を重視するが、出席とレポートも考慮して評価を行う。 一定の出席率を下回った場合には、単位は出さない。

01 年度以降 00 年度以前	オペレーションズ・リサーチ b オペレーションズ・リサーチ	担当者	正道寺　勉

講義目的、講義概要	授業計画
春学期の講義科目である「オペレーションズ･リサーチ a」に引き続き、経済学部の学生にとって有用な手法を選び、分かり易く講義する。また、講義の中では効率よく目的を達成するために必要な「最適化の考え方」や最新の OR (Operations Research) の研究動向についても触れる。 右の授業計画欄に示したトピックス以外にも OR の手法はたくさんあるが、時間の許す限りそれらの手法についても紹介する積りである。 **受講者への要望**:本講義を受講するにあたり、統計学、経営数学、コンピュータの知識を持っていることが望ましい。また、「オペレーションズ･リサーチ a」を履修していることが望ましい。	1. **線形計画法** (1) 線形計画問題の復習及び一般形 2. **線形計画法** (2) シンプレックスス法 3. **線形計画法** (3) 線形計画問題と輸送問題、輸送問題の解法 4. **線形計画法** (4) シンプレックス法の演習 5.-7. **最短経路問題** (1)、(2) 最短経路問題の概要、グラフによる表現、最適性の原理、作図による解法、演習 8. **ゲームの理論** (1) ゲームの理論の概要、利得行列の戦略 9. **ゲームの理論** (2)：混合戦略の考え方、演習 10. **ゲームの理論** (3) 囚人のジレンマ、チキンゲーム、ほか 11. PERT、CPM (1) PERT、CPM の概要、アローダイアグラム 12. PERT、CPM (2) クリティカルパスの求め方、完全 PERT
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト／小田中敏男、正道寺勉：「初等オペレーションズ・リサーチ」、槇書店（1993） **参考文献**／開講時に随時紹介する。	試験を重視するが、出席とレポートも考慮して評価を行う。 一定の出席率を下回った場合には、単位は出さない。

01 年度以降 00 年度以前	システムズエンジニアリング a システムズ・エンジニアリング	担当者	天笠　美知夫

講義目的、講義概要	授業計画
経営・経済システムや社会システムなどの大規模・複雑で、かつ、あいまい性をもつシステムの本質を把握し、設計・開発するにあたり主要な学問であるシステムズ・エンジニアリングの役割と具体的な方法論、ならびに情報システムとその効果的な活用法について理解と意識を高めることを目的とする。 本講義は概ね次に示す 2 つの部分から構成される。 ①システムズ・エンジニアリングの基本概念 ②システムズ・エンジニアリング の方法論 尚、理論を実証する意味で、必要に応じて、情報システムを活用しながら事例演習を行い、その報告書を作成させる。本講義を受講するための前提となる必修科目はない。	1　ｵﾘｴﾝﾃｰｼｮﾝ：受講者の確認・決定　年間予定、授業方法等の注意事項についての説明 2　ｼｽﾃﾑｽﾞ・ｴﾝｼﾞﾆｱﾘﾝｸﾞの基本概念(1) ｼｽﾃﾑの定義と特徴　ｼｽﾃﾑｱﾅﾘｼｽとｼﾝｾｼｽ　ｼｽﾃﾑ思考 3　基本概念(2)：　ｼｽﾃﾑ環境、ｻﾌﾞｼｽﾃﾑ、ｼｽﾃﾑの巨視的特性、自然ｼｽﾃﾑと人工ｼｽﾃﾑ、 4　ｼｽﾃﾑｽﾞ・ｴﾝｼﾞﾆｱﾘﾝｸﾞの問題とその解決法 Ill-defined problem　and well-defined problem 5　ｼｽﾃﾑ開発の手順と組織 6　ｼｽﾃﾑｽﾞ・ｴﾝｼﾞﾆｱﾘﾝｸﾞの方法論 7　問題の発見・創造とｼｽﾃﾑの構造化 8　構造モデルとグラフ理論(1) 9　構造モデルとグラフ理論(2) 10　構造モデルと KJ 法 11　構造モデル事例演習(1) 12　構造モデル事例演習(2)
テキスト、参考文献	**評価方法**
天笠美知夫『ｼｽﾃﾑ・情報と科学的アプローチ』ﾃｷｽﾄ資料予定 寺野寿郎『ｼｽﾃﾑ工学入門』共立出版 1985	事例演習およびそのﾚﾎﾟｰﾄと出席、ならびに期末試験の結果を考慮して総合的に評価する。

01 年度以降 00 年度以前	システムズエンジニアリング b システムズ・エンジニアリング	担当者	天笠　美知夫

講義目的、講義概要	授業計画
経営・経済システムや社会システムなどの大規模・複雑で、かつ、あいまい性をもつシステムの本質を把握し、設計・開発するにあたり主要な学問であるシステムズ・エンジニアリングの役割と具体的な方法論、ならびに情報システムとその効果的な活用法について、理解と意識を高めることを目的とする。 本講義は概ね次に示す 2 つの部分から構成される。 ①システムの価値評価、意思決定と予測 ②統計的な手法によるシステム認識 尚、理論を実証する意味で、必要に応じて、情報ｼｽﾃﾑを活用しながら事例演習を行い、その報告書を作成させる。本講義を受講するためにはシステムズ･エンジニアリング a を履修しておくことが望ましい	1　予測：デルファイ法とファジィデルファイ法(1) 2　デルファイ法とファジィデルファイ法(2) 3　予測演習 4　ｼｽﾃﾑの評価と意思決定、効用理論 5　価値工学によるｼｽﾃﾑ評価(1) 6　価値工学によるｼｽﾃﾑ評価(2) 7　価値工学演習 8　スケジューリング：PERT,CPM 9　統計的手法によるｼｽﾃﾑ認識　主成因分析法 10　統計的手法によるｼｽﾃﾑ認識演習 Questionnaire の作成、ｱﾝｹｰﾄ調査 11　ｱﾝｹｰﾄ調査、データの整理、パソコン入力 12　統計ｿﾌﾄｳｪｱを活用したｼｽﾃﾑ構造分析
テキスト、参考文献	**評価方法**
天笠美知夫『ｼｽﾃﾑ・情報と科学的アプローチ』テキスト資料予定 寺野寿郎『ｼｽﾃﾑ工学入門』共立出版 1985	事例演習およびそのﾚﾎﾟｰﾄと出席、ならびに期末試験の結果を考慮して総合的に評価する。

01 年度以降 00 年度以前	経営システム工学 a 管理工学	担当者	日下　泰夫

講義目的、講義概要	授業計画
変化の時代には、時代の潮流を的確につかみ、何が大切かを明確に認識し、次々と出現する新たな問題を解決する「問題解決能力・意思決定能力」が重要になる。本講義では、経営システム工学を初めて学ぶ人を念頭に置いて、その体系と技法を分かりやすく説明し、企業経営をはじめとして実社会で役立つ実践的な問題解決能力を修得することをめざしている。 春学期は、外部環境変化と経営システムの課題、経営システム工学の概念と役割などの基本的な考え方、経営システム工学の典型的な問題解決技法を学ぶ。表計算、プレゼンテーション、最適化、シミュレーションなど、パソコンによるデモを取り入れた講義を行う。講義の終わりには最新の経営トピックスも紹介する。	1　外部環境変化と経営システム工学 2　外部環境変化：サプライチェーンマネジメント（ＳＣＭ）、環境経営 3　経営システム工学の概念 1：企業活動の諸側面と管理のサイクル、個別管理 4　経営システム工学の概念 2：企業活動の諸側面、 経営活動の体系的・構造的理解 5　経営システム工学の概念 3：意思決定とは、意思決定の類型、外部環境変化と意思決定 6　経営システム工学の概念 4：科学・技術・工学、システムと経営システム、経営システム工学 7　問題解決技法１：モデル、最適化とシミュレーション 8　問題解決技法 2-品質管理-：ＱＣ７つ道具概説 9　問題解決技法 3-在庫管理- 10 問題解決技法 4-線形計画法（ＬＰ）1- 11 問題解決技法 5-線形計画法２：単体法 12 問題解決技法 6：線形計画法３；グラフによる解法、エクセル・ソフトによる解法、双対問題

テキスト、参考文献	評価方法
テキスト　日下泰夫『経営工学概論』中央経済社（適宜、資料を配布する）。	期末試験と出席状況で評価する。

01 年度以降 00 年度以前	経営システム工学 b 管理工学	担当者	日下　泰夫

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的は春学期に同じ。 秋学期は、実践の場で広く応用されている経済性工学（ＥＥ）と階層分析法（ＡＨＰ）の技法を取りあげ、いくつかの演習を行う。次いで、春期の諸概念と諸技法、秋期の諸技法の理解を前提に、問題解決法を体系的に分析し、経営システム工学の役割を考察する。最後に、情報化・創造化時代と経営システム工学、２１世紀に向けた経営システム工学の役割についての見解を述べ、将来、社会人として問題解決・意思決定の諸局面に遭遇するであろう皆さんへメッセージを送る。 各講義の終わりには最新の経営トピックスも出来るだけ紹介する。講義は春学期講義 a の履修を前提に進める。	1　問題解決技法 7-動的計画法(ＤＰ)１- 2　問題解決技法 8-動的計画法(DP)2-:アルゴリズムとプログラミング 3　問題解決技法 7-経済性工学(EE)1-:経済的な意思決定、諸概念 4　問題解決技法 8-経済性工学２-：投資分析の基礎手法 5　問題解決技法 9-階層分析法１（ＡＨＰ）- 6　問題解決技法 10-階層分析法２（ＡＨＰ）-：演習 7　問題解決法と経営システム工学１：外部環境変化とパラダイム、問題解決法 8　問題解決法と経営システム工学 2:問題解決の構造的分析、経営システム工学の役割 9　情報化・創造化時代と経営システム工学 1：意思決定と情報創造、ネットワーク経営 10 情報化・創造化時代と経営システム工学 2 11 新しい経営システム工学：問題解決・意思決定における経営システム工学の役割 12 経営システム工学を学ぶ人へのメッセージ

テキスト、参考文献	評価方法
テキスト　日下泰夫『経営工学概論』中央経済社（適宜、資料を配布する）。	期末試験と出席状況で評価する。

03 年度以降 01 年度～02 年度 00 年度以前	法学 a 法学 法学（日本国憲法 2 単位を含む）	担当者	内山　良雄

講義目的、講義概要	授業計画
法は、共同社会の中に生成し、社会とともに存在し、社会内で生起する紛争の未然防止・解決に指針を与え、その平穏・円滑な営みを支えています。我々も、共同社会の一員として、周囲の人々と関わりをもちながら生活している以上、法と無縁でいることはありえません。したがって、関わり合いをもつ可能性のある他者とは、人権感覚に裏打ちされた良好な信頼関係を築き、紛争が発生しないよう配慮し、不幸にして紛争が発生した場合にも、冷静かつ的確に対応することが必要となります。しかし、そのためには、法的素養を備えていることが強く求められるのです。 そこで本講義では、最初に法の基本概念を解説したうえで、憲法に規定された基本原理や人権についての議論、および社会のさまざまな場面と法の関わり合いについての議論を概観します。法のあり方を理解するとともに、法的なものの考え方を修得できるように配慮しながら、講義を進めていく予定です。	1．ガイダンス 2．法とは何か 3．法学とは何か 4．法の学び方 5．法体系の枠組みと法の分類 6．憲法の基本原理（1）－国民主権－ 7．憲法の基本原理（2）－平和主義、基本的人権尊重主義－ 8．国の統治機構 9．平等権 10．自由権（1）－精神的自由・経済的自由－ 11．自由権（2）－人身の自由－ 12．社会権 ＊　受講生の理解度に応じて進度を調整するので、このとおりに進まないことがあります。その場合、補講を行うことがあるので、あらかじめ、ご了承ください。
テキスト、参考文献	**評価方法**
大谷實編著『エッセンシャル法学［第 4 版］』成文堂	定期試験の答案に基づいて評価します。

03 年度以降 01 年度～02 年度 00 年度以前	法学 b 法学 法学（日本国憲法 2 単位を含む）	担当者	内山　良雄

講義目的、講義概要	授業計画
法は、共同社会の中に生成し、社会とともに存在し、社会内で生起する紛争の未然防止・解決に指針を与え、その平穏・円滑な営みを支えています。我々も、共同社会の一員として、周囲の人々と関わりをもちながら生活している以上、法と無縁でいることはありえません。したがって、関わり合いをもつ可能性のある他者とは、人権感覚に裏打ちされた良好な信頼関係を築き、紛争が発生しないよう配慮し、不幸にして紛争が発生した場合にも、冷静かつ的確に対応することが必要となります。しかし、そのためには法的素養を備えていることが強く求められるのです。 そこで本講義では、社会のさまざまな場面と法との関わり合いについての議論を概観します。法のあり方を理解するとともに、法的なものの考え方を修得できるように配慮しながら、講義を進めていく予定です。法の基本的な事柄は、「法学a」で取り扱いますので、「法学a」を受講してから本講義を受講することを推奨します。	1．裁判の仕組み 2．財産関係と法（1） 3．財産関係と法（2） 4．経済取引と法（1） 5．経済取引と法（2） 6．家族と法 7．犯罪・刑罰と法 8．労働と法 9．事故と法 10．社会保障・社会福祉 11．医療と法（1）－医療提供の理念－ 12．医療と法（2）－医療過誤－ ＊　受講生の理解度に応じて進度を調整するので、このとおりに進まないことがあります。その場合、補講を行うことがあるので、あらかじめ、ご了承ください。
テキスト、参考文献	**評価方法**
大谷實編著『エッセンシャル法学［第 4 版］』成文堂	定期試験の答案に基づいて評価します。

03 年度以降 02 年度以前	政治学総論 a 政治学総論	担当者	杉田　孝夫

講義目的、講義概要	授業計画
政治社会の構成主体である市民のための政治学という観点から講義する。同時に公務員試験科目や教職科目としての政治学の基本事項の修得を意識した構成である。 春学期は、現代国家の統治の正統性にかかわる諸原理と国際政治の諸原則と国際制度について講義する。 テキストの自主的な予習・復習を受講条件とする。	1　デモクラシー（１８章） 2　自由と自由主義（３章） 3　政治の論理と市場の論理（２章） 4　国家と権力（５章） 5　福祉国家（４章） 6　市民社会と国民国家（６章） 7　国内社会と国際関係（７層） 8　国際関係における安全保障（８章） 9　国際関係における富の配分（９章） 10　国際制度（１４章） 11　対外政策（１６章） （　）は教科書の該当する章
テキスト、参考文献	**評価方法**
教科書 New Liberal Arts Selection 政治学（有斐閣、2003）	学期末試験による

03 年度以降 02 年度以前	政治学総論 b 政治学総論	担当者	杉田　孝夫

講義目的、講義概要	授業計画
政治社会の構成主体である市民のための政治学という観点から講義する。同時に公務員試験科目や教職科目としての政治学の基本事項の修得を意識した構成である。 秋学期は、デモクラシーの政治体制のもとでの統治システムと政治過程の主要な論点について講義する。 テキストの自主的な予習・復習を受講条件とする。	1　議会（１０章） 2　政府（執政部）（１１章） 3　官僚制（１２章） 4　中央地方関係（１３章） 5　政策過程１５章） 6　制度と政策（１７章） 7　投票行動と政治の心理（１９章・２０章） 8　世論とメディア（２１章） 9　選挙と政治参加（２２章） １０　利益団体と政治（２３章） １１　政党（２４章） （　）は教科書の該当する章
テキスト、参考文献	**評価方法**
教科書 New Liberal Arts Selection 政治学（有斐閣、2003）	学期末試験による

03 年度以降 02 年度以前	民法 a・民法 b 民法（春学期週 2 回授業）	担当者	遠藤　研一郎

講義目的、講義概要	授業計画
【春学期週 2 回開講】 本講義は，(1)「民法総則」および「物権(担保物権を除く)」に関する諸制度,各条文の理解を深めるとともに,(2)民法の導入科目として,民法の全体像をも理解させることを目的とする。 授業は，以下のとおり，およそ 3 段階に分けて段階的に進める予定である（ただし，②および③は，組み合わせて実施する)。 ①第 1 段階(導入)･･･民法の全体構造・基本原理の理解 ②第 2 段階(基礎)･･･民法「総則」・「物権(担保物権を除く)」の諸制度・各条文の趣旨・要件・効果の基礎的理解 ③第 3 段階(展開)･･･「民法総則」「物権(担保物権を除く)」に関する基本的論点の検討	1．ガイダンス，民法導入(1)　契約 2．民法導入(2)　所有権，人 3．民法導入(3)　債務不履行，強制執行，担保 4．民法導入(4)　相続 5．総則基礎(1)　自然人① 6．総則基礎(2)　自然人②，物 7．総則基礎(3)　法律行為総説，無効・取消 8．総則基礎(4)　意思表示① 9．総則基礎(5)　意思表示② 10．総則展開(1)　総則における諸問題 11．総則基礎(6)　代理① 12．総則基礎(7)　代理② 13．総則展開(2)　総則における諸問題 14．総則基礎(8)　法人 15．総則基礎(9)　時効① 16．総則基礎(10)　時効② 17．物権基礎(1)　物権の基礎概念 18．物権基礎(2)　物権変動① 19．物権基礎(3)　物権変動② 20．物権展開(1)　物権法上の諸問題 21．物権基礎(4)　占有権 22．物権展開(2)　物権法上の諸問題 23．物権基礎(5)　所有権 24．物権基礎(6)　用益物権
テキスト、参考文献	**評価方法**
教科書は指定しない。各自が選定した基本書を使用すること。毎回，プリントを配布する。	期末試験を原則とするが，加点対象・任意提出のレポートを受付ける（詳細は，講義の際に説明)。

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画
テキスト、参考文献	**評価方法**

03 年度以降 02 年度以前	民法 a 民法（春学期週 2 回授業）	担当者	藤田　貴宏

講義目的、講義概要	授業計画
法律行為論及び物権変動論を中心に、民法（財産法）の基本的論点について講義します。	春学期週 2 回開講 １．ガイダンス ２．民法の全体像と基本概念 ３．意思表示の瑕疵と法律行為の有効性（１） ４．意思表示の瑕疵と法律行為の有効性（２） ５．意思表示の瑕疵と法律行為の有効性（３） ６．物権と債権 ７．物権変動（１） ８．物権変動（２） ９．物権変動（３） １０．　法律行為の無効・取消と第三者保護（１） １１．　法律行為の無効・取消と第三者保護（２） １２．　法律行為の無効・取消と第三者保護（３）
テキスト、参考文献	**評価方法**
大村敦志『基本民法 I 』（有斐閣）	学期末試験

03 年度以降 02 年度以前	民法 b 民法（春学期週 2 回授業）	担当者	藤田　貴宏

講義目的、講義概要	授業計画
法律行為論及び物権変動論を中心に、民法（財産法）の基本的論点について講義します。	春学期週 2 回開講 １．時効（１） ２．時効（２） ３．代理（１） ４．代理（２） ５．代理（３） ６．行為能力と法定代理 ７．所有権の効力（１） ８．所有権の効力（２） ９．共同所有 １０．　法人 １１．　法律行為論のまとめと補充 １２．　物権変動論のまとめと補充
テキスト、参考文献	**評価方法**
大村敦志『基本民法 I 』（有斐閣）	学期末試験

03 年度以降 02 年度以前	商法 a 商法	担当者	潘　阿憲

講義目的、講義概要	授業計画
本講義は、会社法のうち、主として株式会社に関する法的規制を取りあげる。本講義の目標としては、初学者が会社法について基本的、体系的な理解を得られることを主眼とする。したがって、まずは会社法上の諸制度について、その基本的な内容と果たすべき機能を理解し、個々の制度をめぐるこれまでの解釈論を把握しておくことが必要となる。それと同時に、会社法上の諸制度は、実際にどのように運用されているのか、当該法制度は果たして企業社会の実態に合致しているのか、問題点があるとすれば、これを如何に克服すべきであるのかといった視点から、会社法上の諸制度を動的にとらえることも必要だと考えられる。そこで、講義時には、関連する資料や重要な裁判例を適宜に取りあげ、会社上の諸制度をめぐる具体的な議論や紛争の事例を検討し、「生きた会社法」の修得を目指したいと考えている。	1　企業形態と会社 2　会社の設立(1) 3　会社の設立(2) 4　株式(1) 5　株式(2) 6　株式(3) 7　株主総会(1) 8　株主総会(2) 9　株主総会(3) 10　取締役と取締役会(1) 11　取締役と取締役会(2) 12　取締役と取締役会(3) 13　監査役と監査役会(1) 14　監査役と監査役会(2) 15　委員会設置会社
テキスト、参考文献	**評価方法**
平出慶道＝山本忠弘＝田澤元章編『新会社法概論』 青林書院、2006 年 4 月出版予定	筆記試験の成績による

03 年度以降 02 年度以前	商法 b 商法	担当者	潘　阿憲

講義目的、講義概要	授業計画
本講義は、会社法のうち、主として株式会社に関する法的規制を取りあげる。本講義の目標としては、初学者が会社法について基本的、体系的な理解を得られることを主眼とする。したがって、まずは会社法上の諸制度について、その基本的な内容と果たすべき機能を理解し、個々の制度をめぐるこれまでの解釈論を把握しておくことが必要となる。それと同時に、会社法上の諸制度は、実際にどのように運用されているのか、当該法制度は果たして企業社会の実態に合致しているのか、問題点があるとすれば、これを如何に克服すべきであるのかといった視点から、会社法上の諸制度を動的にとらえることも必要だと考えられる。そこで、講義時には、関連する資料や重要な裁判例を適宜に取りあげ、会社上の諸制度をめぐる具体的な議論や紛争の事例を検討し、「生きた会社法」の修得を目指したいと考えている。	1　株式会社の計算(1) 2　株式会社の計算(2) 3　株式会社の計算(3) 4　募集株式発行(1) 5　募集株式発行(2) 6　定款の変更 7　資本の減少 8　社債 9　事業譲渡等 10　会社の合併 11　会社の分割 12　株式交換・株式移転 13　会社の解散 14　会社の清算 15　持分会社
テキスト、参考文献	**評価方法**
平出慶道＝山本忠弘＝田澤元章編『新会社法概論』 青林書院、2006 年 4 月出版予定	筆記試験の成績による

03 年度以降 01 年度～02 年度	著作権法 a 著作権法	担当者	長塚　真琴

講義目的、講義概要	授業計画
本や CD やパッケージソフトなどの「中身」は、文章や音楽やコンピュータ・プログラムである。これらの「中身」を他人が勝手にコピーしたり、真似したりしたら、著作権法の出番である。 この講義は、著作権に関する基礎知識を身につけることを目的とする。著作権法の条文を学ぶが、法学部生以外でも努力すれば単位取得可能である。 下記の教科書とレジュメを用い、裁判例に関する画像やウェブサイトなど、視覚情報も重視しつつ講義を進める。レジュメは講義の始めにまとめて販売ないし配布する予定。 講義のサイトはこちら。 http://www2.dokkyo.ac.jp/~less0080/ ○履修上の注意：**情報教員免許取得のためには、「初めて」と「諸問題」の両方を履修する必要がある。**なお、急に休講したり、それに伴い学期末に補講をしたりする可能性がある。 ○著作権法の概要を簡略にまとめた参考文献として、常岡・小柳編『基本民事法』（成文堂）第 13 章「知的財産権法」（長塚執筆）がある。	1　ガイダンスと導入 2　著作物１ 3　著作物２ 4　著作者と著作権者 5　著作者人格権 6　著作権１ 7　著作権２ 8　著作権の制限１ 9　著作権の制限２ 10　著作権の譲渡とライセンス 11　著作隣接権 12　著作権の侵害
テキスト、参考文献	**評価方法**
教科書：福井健策『著作権とは何か』（集英社新書） 参考書：大渕哲也他『知的財産法判例集』（有斐閣）	定期試験と、講義中の小テストまたはレポートによる。出席は合否がきわどい場合のみ考慮する。

03 年度以降 01 年度～02 年度	著作権法 b 著作権法	担当者	長塚　真琴

講義目的、講義概要	授業計画
この講義では、著作権法に関する基礎知識を踏まえて、著作物の主要な分野について、実際に起こった紛争を詳しく解説する。その際、著作権処理の実務についてもできるだけ触れる。情報教員免許科目であることを考慮して、高校の教育活動において生じがちな著作権問題もとりあげる。 下記の２冊の教科書とレジュメを用い、裁判例に関する画像やウェブサイトなど、視覚情報も重視しつつ講義を進める。レジュメは講義の始め（夏休み明け）に、まとめて販売ないし配布する予定。 講義には、著作権法の条文を持参すること。入手のしかたはガイダンスの際に解説する。 講義のサイトはこちら。 http://www2.dokkyo.ac.jp/~less0080/ ○履修上の注意：この講義は応用編である。前期の「初めての著作権法」を履修するなどして、著作権法に関する基礎知識があることを前提とする。**基礎知識なしでこの講義をいきなり履修しても、単位を取得できない可能性がきわめて高い。**なお、急な休講やそれに伴う学期末補講の可能性がある。	1　ガイダンスと導入 2　言語著作物の紛争１ 3　言語著作物の紛争２ 4　音楽著作物の紛争１ 5　音楽著作物の紛争２ 6　美術著作物の紛争１ 7　美術著作物の紛争２ 8　映画著作物の紛争 9　プログラムとゲームをめぐる紛争１ 10　プログラムとゲームをめぐる紛争２ 11　高校教育と著作権 12　インターネットと著作権
テキスト、参考文献	**評価方法**
教科書：福井健策『著作権とは何か』（集英社新書）、大渕哲也他『知的財産法判例集』（有斐閣）	定期試験と、講義中の小テストまたはレポートによる。出席は合否がきわどい場合のみ考慮する。

03 年度以降 01 年度～02 年度 00 年度以前	総合講座 a 総合講座（1）a 総合講座（1）	担当者	経済学部

講義目的、講義概要	授業計画
「日本の改革」というタイトルの下で、学外から著名な方々を招き、講義をしてもらう。今後の日本は少子高齢化、グローバル化など、経済・社会を取り巻く環境が激しく変動していくと考えられます。これからの日本経済や社会がどのように変化していくのか、そして政府や民間企業はそうした環境変化にどう対応しようとしているのか。 総合タイトルの性質上、社会・政治・文化などあらゆるテーマが取り上げられる。それぞれの分野の研究者、専門家、実務家が長年にわたり蓄えてきた専門知識や最新情報のエッセンスを聞けることは得難いチャンスである。 **学外から講師をお招きするので、時間厳守で出席すること。また、講義中の私語は絶対に慎むよう切に要望する。**	第 1 回目の講義で説明する。
テキスト、参考文献	**評価方法**
講師により参考文献を指示することがある。	出席およびレポート、授業態度による。遅刻は認めない。 詳細は第 1 回目の授業で説明する。

03 年度以降 01 年度～02 年度 00 年度以前	総合講座 b 総合講座（1）b 総合講座（1）	担当者	経済学部

講義目的、講義概要	授業計画
春学期と同じ	第 1 回目の講義で説明する。
テキスト、参考文献	**評価方法**
講師により参考文献を指示することがある。	出席およびレポート、授業態度による。遅刻は認めない。 詳細は第 1 回目の授業で説明する。

03 年度以降 02 年度以前	特殊講義 a（経済学入門） 特殊講義 A（経済学入門）	担当者	黒木 亮

講義目的、講義概要	授業計画
講義の目的 本講義の目的は，「経済」の成り立ちや仕組みに関心をもち，自ら学んでいけるようになるための手がかりを提供することにある． 講義の概要 現実の経済社会に関する基礎知識をはじめ，「経済学」の成り立ちや仕組みなどについても触れながら，「経済を学び，経済学を習得する」ための入り口を提供する．	1　ガイダンス 2　価格設定をめぐる経済学的考察 3　合理的な経営戦略と「需要の価格弾力性」 4-5　安売り戦略の多様性とその背景 6　業界の構造と価格決定の仕組み 7　商品流通の基本構造 8　日本の流通業の変化とその制度的背景 9　ハブ・アンド・スポークの理論と問屋の機能 10　企業の流通戦略と経営戦略 11　企業の経営戦略と独禁法 12　まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
伊藤元重『ビジネス・エコノミクス』日本経済新聞社，2004 年．	レポート，期末試験．

03 年度以降 02 年度以前	特殊講義 b（経済学入門） 特殊講義 A（経済学入門）	担当者	黒木　亮

講義目的、講義概要	授業計画
講義の目的 本講義の目的は，「経済」の成り立ちや仕組みに関心をもち，自ら学んでいけるようになるための手がかりを提供することにある． 講義の概要 現実の経済社会に関する基礎知識をはじめ，「経済学」の成り立ちや仕組みなどについても触れながら，「経済を学び，経済学を習得する」ための入り口を提供する．	1　ガイダンス 2　資本主義 VS 社会主義：計画経済の問題点 3　市場の論理：裁定取引と「一物一価の法則」 4　市場における組織の論理：企業の存在意義 5　市場と組織の境界線：Voice と Exit 6　「情報の非対称性」と「逆選択」 7　「モラル・ハザード」とペイ・オフ 8　契約の不完全性とホールドアップ問題 9　多様な契約形態とエイジェンシー関係 10　ゲーム理論の考え方 11　ゲーム理論で読み解く競争社会と企業戦略 12　まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
伊藤元重『ビジネス・エコノミクス』日本経済新聞社，2004 年．	レポート，期末試験．

03 年度以降 02 年度以前	特殊講義 a（経営学科で何が学べるか？） 特殊講義 B（経営学科で何が学べるか）	担当者	経営学科

講義目的、講義概要	授業計画
この講義は、経営学科の新入生に対して、本学四年間で学ぶ学問領域の鳥瞰を得てもらうことを目的としています。したがって、全員が受講することが望ましい科目です。 諸君は大学受験から解放され、ほっとしていることと思いますが、就職活動までの時間は残念ながら多くありません。大学生活をエンジョイすると同時に、一人一人が経営学科学生として何を主に学ぶか、どのように効率よく学ぶか、その学問は将来どのように役に立つか、などを考えながら教科を選択し、学問を身につけて社会に巣立っていく必要があります。この科目は、そのための判断材料や情報を経営学科教員が提供します。 何をやったらよいのか、二年生からどのようなゼミを選択したらよいのかなど、戸惑いや不安を解消するために積極的に参加して、大学生活の見通しを良くしてください。また、疑問があれば質問をしてください。	1　ガイダンス 2　ビジネスコース（1） 3　ビジネスコース（2） 4　情報コース（1） 5　情報コース（2） 6　情報コース（3） 7　マネジメントコース（1） 8　マネジメントコース（2） 9　会計コース（1） 10　会計コース（2） 11　会計コース（3） 12　まとめ、科目選択、ゼミ登録など教務関連
テキスト、参考文献	**評価方法**
	授業開始時に説明する。

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画
テキスト、参考文献	**評価方法**

01 年度以降 00 年度以前	特殊講義 a（経済と法） 特殊講義 B（経済と法）	担当者	住田　裕子

講義目的、講義概要	授業計画
法律は，縁遠いものではなく，社会生活を送る上で必須のもの・・・生活の中のさまざまな場面において，法律がどのように使われているかを学びます 経済学部の学生のための，わかりやすい実践的な法律を修得する場です 春学期は，民法・刑法の基本を中心とします	１～２　法制度（民事責任・刑事責任） 民法，刑法の基礎知識 ３　錯誤・詐欺など ４　契約の始まりと終わり ５　物の貸し借り（使用貸借と賃貸借） ６　不動産の貸し借り（賃貸借・借地借家） ７　金銭の貸し借り（消費貸借） ８　不法行為（交通事故など） ９～１０　労働法 １１　親族・相続法 １２　その他特別法
テキスト、参考文献	評価方法
なし（当日，プリント配布）	出席（適宜アンケートを取ります），試験

01 年度以降 00 年度以前	特殊講義 b（企業と法） 特殊講義 B（企業と法）	担当者	住田　裕子

講義目的、講義概要	授業計画
法律は，縁遠いものではなく，社会生活を送る上で必須のもの・・・生活の中のさまざまな場面において，法律がどのように使われているかを学びます 経済学部の学生のための，わかりやすい実践的な法律を修得する場です 秋学期は，特別法を中心とし，より，応用的な事例について，説明します	１　民法，刑法の基本思想と概念 ２　経済犯罪のいろいろ ３～５　消費者契約法など消費者保護法 ６　著作権・特許権など知的財産法 ７　電子商取引法 ８　金融関係法 ９　会社法等商法 １０　労働法 １１～１２　その他特別法
テキスト、参考文献	評価方法
なし（当日，プリント配布）	出席（適宜アンケートを取ります），試験

01 年度以降 00 年度以前	特殊講義 a（ビジネス法のケーススタディ） 特殊講義 B（ビジネス法のケーススタディ）	担当者	住田　裕子

講義目的、講義概要	授業計画
社会生活を送る上で，知っておくべき法律，知っていると便利な法律・・これらを単に，知識としてではなく，生きる知恵として，身につけることを目指します 少人数講義の利点を活かして，今，問題となっている事例や判例などを配布された論文，記事，レジュメ等をもとに，各自の意見を述べ，ときには，討論をしながら，進めます さまざまな意見を受けつつ，多様な観点からその問題に迫っていき，多面的な思考力を養っていきます	（最初は，基礎的な法律知識を知る） 1　法律のいろいろ，法制度の概要 2　刑罰とはなにか・・・特に死刑制度や性犯罪について 3　民事責任とはなにか・・・不法行為責任・債務不履行責任について （以後は，経済取引や日常生活の中に潜むケースにおける法律問題を考える・・時事問題を中心に） 売買，不動産の貸借，金銭の貸借，消費者保護，労働関係（パート労働等を含む），電子商取引，交通事故等のケースなどを扱います
テキスト、参考文献	**評価方法**
なし（当日ないしは，事前にプリント等を配布）	出席（適宜アンケートを取ります），試験

01 年度以降 00 年度以前	特殊講義 a（ビジネス法のケーススタディ） 特殊講義 B（ビジネス法のケーススタディ）	担当者	住田　裕子

講義目的、講義概要	授業計画
社会生活を送る上で，知っておくべき法律，知っていると便利な法律・・これらを単に，知識としてではなく，生きる知恵として，身につけることを目指します 少人数講義の利点を活かして，今，問題となっている事例や判例などを配布された論文，記事，レジュメ等をもとに，各自の意見を述べ，ときには，討論をしながら，進めます さまざまな意見を受けつつ，多様な観点からその問題に迫っていき，多面的な思考力を養っていきます	（最初は，基礎的な法律知識を知る） 1　法律のいろいろ，法制度の概要 2　刑罰とはなにか・・・特に死刑制度や性犯罪について 3　民事責任とはなにか・・・不法行為責任・債務不履行責任について （以後は，経済取引や日常生活の中に潜むケースにおける法律問題を考える・・時事問題を中心に） 売買，不動産の貸借，金銭の貸借，消費者保護，労働関係（パート労働等を含む），電子商取引，交通事故等のケースなどを扱います
テキスト、参考文献	**評価方法**
なし（当日ないしは，事前にプリント等を配布）	出席（適宜アンケートを取ります），試験

01 年度以降 00 年度以前	日本事情 a 日本事情 I	担当者	守田　逸人

講義目的、講義概要	授業計画
“外国人・帰国学生ガイダンス”にて 詳細のお知らせをします。 外国人・帰国学生ガイダンス 対象：　新入生（特別入試入学者） 日：　4 月 7 日（金） 時：　13：00～14：00 場所：　5 棟 403 教室 ＜２年生以上の方へ＞ シラバスは 35 周年記念館教務課で配布する予定です。	
テキスト、参考文献	**評価方法**

01 年度以降 00 年度以前	日本事情 b 日本事情 I	担当者	守田　逸人

講義目的、講義概要	授業計画
テキスト、参考文献	**評価方法**

03 年度以降 02 年度以前	日本語Ⅱa 日本語Ⅱ	担当者	斎藤　明

講義目的、講義概要	授業計画
［1］教材　公表、出版された新聞、雑誌、単行本、日本の企業や官庁などの組織の内外で使用されている様々な文書や、個人が書いた各種の文章の実例等を使用する。これらの教材は、使用時に学生に配布する。 ［2］授業のねらい　外国人留学生のうち、日本語Ｉを履修したもののためのより進んだ科目として、今日の日本社会に一般に通用している文章を適切に理解し、日本人とのコミュニケーションを円滑に行える能力を習得することを目的とする。 ［3］教授法 毎時限、かならず実際に使われた文章を読んだり書きなおしたりする。文字教材のほか、音声テープやビデオテープも使用し、聴いたり話したりする能力も統合して発展させる。 ［4］その他　この科目は日本語Ｉを履修した者が履修するために設置される。	1　文書と文章１　文章を書くとはどういうことか 2　文書と文章２　文章の種類 3　文書と文章３　文書の形式 4　文書と文章４　文書の役割と目標 5　文書と文章５　主題と与えられた課題 6　文書と文章６　材料　参考書　メモ　カード　チャート 7　表記の技術１　現代仮名遣い　常用漢字　送りがな 8　表記の技術２　地名　人名　数字　記号 9　表記の技術３　図表　写真 10　表記の技術４　原稿用紙　レポート用紙　ワープロ 11　表記の技術５　訂正　校正 12　文章の構造１　文章の構成法
テキスト、参考文献	**評価方法**
授業時間中に指示する。	文章の全部や一部のかきかえ、一定のディスコースの要約、クイズ、スピーチ等のタスクを課す。 ・　前記のタスクを課した際に、常に一定の得点を与える。その得点を集積して評定の基礎とする。

03 年度以降 02 年度以前	日本語Ⅱb 日本語Ⅱ	担当者	斎藤　明

講義目的、講義概要	授業計画
春学期に同じ	13　文章の構造２　記述の順序 14　文章の構造３　序論　本論　結論 15　表現と論理１　表現の方法 16　表現と論理２　論理の展開 17　表現と論理３　題目　要約　キーワード 18　表現と論理４　文章の流れ 19　表現と論理５　ディスコース　パラグラフ　段落 20　事実と意見１　事実とはなにか 21　事実と意見２　意見とはなにか 22　わかりやすさ１　明確な主張 23　わかりやすさ２　簡潔な表現 24　わかりやすさ３　句や節の接続 25　わかりやすさ４　破格文　ねじれ文
テキスト、参考文献	**評価方法**
春学期に同じ	春学期に同じ

03 年度以降 02 年度以前	日本語Ⅱa 日本語Ⅱ	担当者	野村　美知子

講義目的、講義概要	授業計画
［講義目的］ 新聞記事・録画ビデオ等により現代日本事情に関する知識を増やすとともに、そのテーマについて各自意見を整理し、口頭で、また文章で表現できるように練習する。 ［講義概要］ 新聞記事・録画ビデオ等を使用し、はじめは教師が共通のテーマを提示、学生はその課題についてさらに自分で調べ、レポートにまとめ、レジュメを作成して発表する。次の段階では、各自がテーマを選び、同様のことを学生主体で行う。	1 授業についてのガイダンス　等 2 課題提示（ビデオ）、レジュメ作成練習 3 課題提示（新聞）、レジュメ作成練習 4 レポート課題提示、レポート作成の手順説明 5 レポート作成経過報告、 6 グループ内発表 レジュメ・小レポート提出 7 課題提示（ビデオ） 8 課題提示（新聞記事） 9 課題提示（ビデオ） 10 課題提示（新聞記事） 11 レポート作成経過報告 12 プレゼンテーション レジュメ・レポート提出
テキスト、参考文献	**評価方法**
木下是雄『レポートの組み立て方』（ちくま学芸文庫）筑摩書房、等	・課題提出、授業での発表 ・出席状況、授業への参加度・取り組み姿勢

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画
テキスト、参考文献	**評価方法**

03 年度以降 02 年度以前	日本語Ⅱa 日本語Ⅱ	担当者	東中川　かほる

講義目的、講義概要	授業計画
一般の日本人に読まれている著作を選び、速読でより多くのものを読破することを目標とする。 分野としては、経済学部生が多いことを考慮して、ビジネスや経済方面のものを主に取り入れているが、他分野の学生にも興味の湧くような著作を選んである。 授業は、輪読方法をとる。担当になった者は、レジュメをつくり、内容発表をして、質問を受ける。	1　教師担当『冒険投資家ジム・ロジャーズ世界大発見』 2　同 3　学生担当『創業　夢・情熱・執念・勇気の 117 人』 4　同 5　『会社がなぜ消滅したか』 6　同 7　『一生懸命って素敵なこと』 8　同 9　『顔が見えない日本人』 10　同 11　『トヨタ流『改善力』の鍛え方』 12　同
テキスト、参考文献	**評価方法**
	出席、発表、レジュメ、授業態度による。

03 年度以降 02 年度以前	日本語Ⅱb 日本語Ⅱ	担当者	東中川　かほる

講義目的、講義概要	授業計画
論文の書き方を学び、実際に書く。 総合日本語Ⅰにおいて、論文の書き方については、学んでいるが、実際には、書いていない。 この授業では、ただ参考書をまとめて論文にするのではなく、事例研究のまとめ方を学ぶ。 A4 で 20 枚の論文を提出しなければならない。	1　論文の書き方 2　事例研究ということ 3　タイトル、内容発表 4　図書館 5　参考文献 6　序 7　フイールドワークの準備 8　同 9　本文 10　まとめ 11　同 12　個人指導
テキスト、参考文献	**評価方法**
プリント配布	出席、授業態度、論文による。

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画

テキスト、参考文献	評価方法

03 年度以降 02 年度以前	日本語Ⅱb 日本語Ⅱ	担当者	武田　明子

講義目的、講義概要	授業計画
文章を書くということは、見えない相手（読み手）に自分を評価してもらうことである。読み手は文章を読んで、書き手の構成力、分析力、判断力といった知的活動力を評価する。書き手は自分の文章表現で自己アピールをして、これらの能力に対する、より高い評価を得なければならない。 自己アピールが上手にできるようになるには、理論的な文章を書くための基本的な「型」を踏襲することである。「型」は公的な文章（仕事の文章）のすべてに用意されている。この「型」を上手に応用できる者が高い評価を受けることになる。 この講義では、読み手に自分の能力を認めさせるための「型」を習得し、さまざまなジャンルのそれぞれの「型」を上手に応用できる技術に習熟することを目的とする。	１．テーマを絞る技術 ２．「型」を作る技術 ３．「型」を守って書く技術 ４．「型」を応用する技術 ５．小論文を序論に変える技術 ６．流れを作る技術 ７．事実と意見の区別を利用する技術 ８．結論を導く技術 ９．「型」の履歴書・エントリーシートへの転用技術 １０．「型」の基本的なビジネス文書への転用技術 １１．「型」のメールへの転用技術 １２．「型」の仕事の手紙への転用技術

テキスト、参考文献	評価方法
プリントを配布	出席２５％　　授業内提出２５％　　レポート５０％

02 年度以前	英語 I （講読）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
141/142 とともに、全学共通カリキュラムのコア科目である。通年で履修すること。 現代社会､文化などに関する講読を行う。 授業では連絡事項が多く、そのつど資料が配布されるのできちんと目を通し、しっかり学習してもらいたい。 ○教科書は担当教員の指示に従うこと。ただし、独仏の 111,112 は統一教科書。 ○TOEIC 語彙を身に付けるための統一副教材がある。必ず購入のこと。 ○教室外でのコンピュータによる英語学習が義務づけられている。オリエンテーションや授業内で配られる資料によく目を通し、しっかり学習すること。	授業計画と評価方法については、各担当者から個別のシラバスが配布されるので、それを参照のこと。 毎週、TOEIC 語彙副教材を範囲とした語彙小テストを実施するのでしっかり学習すること。 教室外でのコンピュータ学習に基づいた問題が期末テストに出題されるので、きちんと学習すること。 年度末(1 月)に全員 TOEIC 試験を受験するので、計画的に学習すること。
テキスト、参考文献	**評価方法**
教科書は担当教員の指示に従うこと。 TOEIC 語彙学習のための統一副教材は全員購入のこと。	各担当教員の指示に従うこと。

02 年度以前	英語 I （講読）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
141/142 とともに、全学共通カリキュラムのコア科目である。春学期から継続して通年で履修すること。 現代社会､文化などに関する講読を行う。 授業では連絡事項が多く、そのつど資料が配布されるのできちんと目を通し、しっかり学習してもらいたい。 ○教科書は担当教員の指示に従うこと。ただし、独仏の 111,112 は統一教科書。 ○TOEIC 語彙を身に付けるための統一副教材がある。必ず購入のこと。 ○教室外でのコンピュータによる英語学習が義務づけられている。オリエンテーションや授業内で配られる資料によく目を通し、しっかり学習すること。	授業計画と評価方法については、各担当者から個別のシラバスが配布されるので、それを参照のこと。 毎週、TOEIC 語彙副教材を範囲とした語彙小テストを実施するのでしっかり学習すること。 教室外でのコンピュータ学習に基づいた問題が期末テストに出題されるので、きちんと学習すること。 年度末（1 月）に全員 TOEIC 試験を受験するので、計画的に学習すること。
テキスト、参考文献	**評価方法**
教科書は担当教員の指示に従うこと。 TOEIC 語彙学習のための統一副教材は春学期に引き続いて使用する。	各担当教員の指示に従うこと。

02 年度以前	英語 I （会話）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
111/112 とともに、全カリ英語のコア科目と位置付けられている。通年で履修すること。 リスニング力・コミュニケーション力を高めるため、LL（語学実習室）または CAL（コンピュータ教室）で授業を行う。 ○統一教科書を用いる。 ○教室によって、カセット、MD などを持参する必要があるので、指示に従うこと。 ○TOEIC 試験を念頭に置いた小テストが毎週行われる。ふだんからリスニング力アップのために勉強しよう。 ○統一期末テストを行う。	春学期は教科書の前半部分を行う。 その他、TOEIC を念頭においたリスニング・書き取り練習を行う。積極的に取り組むこと。 毎週小テストがある。 統一期末テストを行う。 年度末(1 月)に全員 TOEIC 試験を受験するので、計画的に学習すること。
テキスト、参考文献	**評価方法**
統一教科書（Viva! San Francisco）使用。	各担当教員の指示に従うこと。

02 年度以前	英語 I （会話）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
111/112 とともに、全カリ英語のコア科目と位置付けられている。春学期に引き続き通年で履修すること。 リスニング力・コミュニケーション力を高めるため、LL（語学実習室）または CAL（コンピュータ教室）で授業を行う。 ○統一教科書を用いる。 ○教室によって、カセット、MD などを持参する必要があるので、指示に従うこと。 ○TOEIC 試験を念頭に置いた小テストが毎週行われる。ふだんからリスニング力アップのために勉強しよう。 ○統一期末テストを行う。	秋学期は教科書の前半部分を行う。 その他、TOEIC を念頭においたリスニング・書き取り練習を行う。積極的に取り組むこと。 毎週小テストがある。 統一期末テストを行う。 年度末(1 月)に全員 TOEIC 試験を受験するので、計画的に学習すること。
テキスト、参考文献	**評価方法**
統一教科書（Viva! San Francisco）使用。	各担当教員の指示に従うこと。

02 年度以前	英語Ⅱ（講読）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
全カリ英語では、English 111/112 をひとつのコア科目と位置付けているが、この English 211/212 はさらにその上位科目である。通年で履修すること。 現代社会におけるさまざまなトピックを盛り込んだ教材を用いた講読授業である。 すばやく趣旨を読み取る、読み取った内容をまとめる、それについて考え、意見を持つ、などの訓練を行う。 111/112 のレベルからさらに力を伸ばすべく、熱心に取り組んでもらいたい。 なお、教室外において、コンピュータを用いた語彙学習が義務付けられているので、積極的に取り組むこと。	授業計画と評価方法については、各担当者から個別のシラバスが配布されるので、それを参照のこと。 教室外でコンピュータを用いた語彙学習が義務付けられている。これに基づき、毎週語彙小テストが実施される。きちんと学習すること。 年度末(1 月)に全員 TOEIC 試験を受験するので、計画的に学習すること。
テキスト、参考文献	**評価方法**
各担当教員の指示に従うこと。	各担当教員の指示に従うこと。

02 年度以前	英語Ⅱ（講読）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
全カリ英語では、English 111/112 をひとつのコア科目と位置付けているが、この English 211/212 はさらにその上位科目である。春学期に引き続き、通年で履修すること。 現代社会におけるさまざまなトピックを盛り込んだ教材を用いた講読授業である。 すばやく趣旨を読み取る、読み取った内容をまとめる、それについて考え、意見を持つ、などの訓練を行う。 111/112 のレベルからさらに力を伸ばすべく、熱心に取り組んでもらいたい。 なお、教室外において、コンピュータを用いた語彙学習が義務付けられているので、積極的に取り組むこと。	授業計画と評価方法については、各担当者から個別のシラバスが配布されるので、それを参照のこと。 教室外でコンピュータを用いた語彙学習が義務付けられている。これに基づき、毎週語彙小テストが実施される。きちんと学習すること。 年度末(1 月)に全員 TOEIC 試験を受験するので、計画的に学習すること。
テキスト、参考文献	**評価方法**
各担当教員の指示に従うこと。	各担当教員の指示に従うこと。

02 年度以前	英語Ⅱ（総合）	担当者	笠原　誠也

講義目的、講義概要	授業計画
テキストは講読、文法、英作など総合的な英語の力が身に付くように作製されている。基本を重視したテキストであるため、既習の文法の復習にもなる。バランスのとれた英語をめざす意味でふだんあまりやらない英作にも力を入れる。	1. 動詞（1） 2. 動詞（2） 3. 進行形 4. 完了形 5. 名詞 6. 冠詞・数詞 7. 形容詞・副詞 8. 代名詞 9. 接続詞・前置詞 10. 助動詞 11. 総復習 12. まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
池永勝雅他著 Basic College English （桐原書店）	出席、小テスト、試験による。

02 年度以前	英語Ⅱ（総合）	担当者	笠原　誠也

講義目的、講義概要	授業計画
テキストは講読、文法、英作など総合的な英語の力が身に付くように作製されている。基本を重視したテキストであるため、既習の文法の復習にもなる。バランスのとれた英語をめざす意味でふだんあまりやらない英作にも力を入れる。	1. 比較 2. 不定詞 3. 分詞・動名詞 4. 態 5. 関係詞 6. 時制の一致・話法 7. 分詞構文 8. 仮定法 9. 文の種類 10. 動詞の種類と文型 11. 総復習 12. まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
池永勝雅他著 Basic College English （桐原書店）	出席、小テスト、試験による。

02 年度以前	英語Ⅱ（総合）	担当者	沼　隆三

講義目的、講義概要	授業計画
読解、文法、作文など英語の総合的な学力向上を目指し、文法に関しては、仮定法現在、総称人称、擬似関係代名詞省略、倒置構文などに留意。隠喩、風刺、皮肉、逆説などについても説明します。また、風俗・習慣・歴史・文化などに言及、教養教育的な面も併せ持つ授業とします。	（1）　教科書 61 頁～90 頁が春学期の学習部分。 （2）　1 回の授業（90 分）で約 3 頁進む予定。 （3）　予め辞書を引いて、予習をしてきていただく。 （4）　学生諸君の音読、和訳の後、解説と訂正訳をします。 （5）　Exercise（文法、英作文）は少しずつ指名し、1 回の授業で必ず 1 回は当たるようにします。
テキスト、参考文献	**評価方法**
Basic Skills in English (『基本英語表現法』)成美堂	前期試験の点数を基準にし、出席状況、授業中における発表の回数とその良否等を考慮して評価します。

02 年度以前	英語Ⅱ（総合）	担当者	沼　隆三

講義目的、講義概要	授業計画
読解、文法、作文など英語の総合的な学力向上を目指し、文法に関しては、仮定法現在、総称人称、擬似関係代名詞省略、倒置構文などに留意。隠喩、風刺、皮肉、逆説などについても説明します。また、風俗・習慣・歴史・文化などに言及、教養教育的な面も併せ持つ授業とします。	（1）　教科書 91 頁～120 頁が秋学期の学習部分。 （2）　1 回の授業（90 分）で約 3 頁進む予定。 （3）　予め辞書を引いて、予習をしてきていただく。 （4）　学生諸君の音読、和訳の後、解説と訂正訳をします。 （5）　Exercise（文法、英作文）は少しずつ指名し、1 回の授業で必ず 1 回は当たるようにします。
テキスト、参考文献	**評価方法**
Basic Skills in English (『基本英語表現法』)成美堂	後期試験の点数を基準にし、出席状況、授業中における発表の回数とその良否等を考慮して評価します。

02 年度以前	英語（CAEL）	担当者	Ｊ．スティベンソン

講義目的、講義概要	授業計画
In this class, you will study English intensively using a computer program called ぎゅっと E. As this class requires a lot of study and personal discipline, only students who are serious about improving their English should register. In addition to working through the ぎゅっと E program on your own, you must also do the following: - Introduce yourself to your teacher and classmates (by email); - Create and submit your own learning plan; - Keep a record of what you learn each week in a journal and complete 2 self-evaluations; - Prepare for and complete quizzes. Before registering for this course, you should find out more about ぎゅっと E at: <http://gyuto-e.jp/hkGE_hp/index2.htm> There is a demo version of ぎゅっと E at: <http://ecall-system.jp/gyuto-e/trial-h/start.do> Type in the user name (guest) and password (demo). Feel free to email the instructor at jodie@dokkyo.ac.jp if you have any questions.	This schedule may change. You will receive more detailed information in the first week of the semester. Week: 1. Course outline and introductions 2. Submit your study plan, start personal study 3. Personal study 4. Personal study 5. Quiz, personal study 6. Personal study, self-evaluation 1 7. Personal study 8. Personal study 9. Personal study 10. Personal study 11. Quiz, personal study, 12. Personal study, self-evaluation 2
テキスト、参考文献	**評価方法**
You do not need to buy a textbook for this class; however, there is a fee to use the Gyu-to E program.	This grading system may change. You will receive more information during the first week of the semester. Self - introduction 10%　Quizzes 30% Study plan 20%　Journals 30%　Self-evaluations 10%

02 年度以前	英語（CAEL）	担当者	Ｊ．スティベンソン

講義目的、講義概要	授業計画
In this class, you will study English intensively using a computer program called ぎゅっと E. As this class requires a lot of study and personal discipline, only students who are serious about improving their English should register. In addition to working through the ぎゅっと E program on your own, you must also do the following: - Introduce yourself to your teacher and classmates (by email); - Create and submit your own learning plan; - Keep a record of what you learn each week in a journal and complete 2 self-evaluations; - Prepare for and complete quizzes. Before registering for this course, you should find out more about ぎゅっと E at: <http://gyuto-e.jp/hkGE_hp/index2.htm> You can try a demo version of ぎゅっと E at: <http://ecall-system.jp/gyuto-e/trial-h/start.do> Type in the user name (guest) and password (demo). Feel free to email the instructor at jodie@dokkyo.ac.jp if you have any questions.	This schedule may change. You will receive more detailed information in the first week of the semester. Week: 1. Course outline and introductions 2. Submit your study plan, start personal study 3. Personal study 4. Personal study 5. Quiz, personal study 6. Personal study, self-evaluation 1 7. Personal study 8. Personal study 9. Personal study 10. Personal study 11. Quiz, personal study 12. Personal study, self-evaluation 2
テキスト、参考文献	**評価方法**
You do not need to buy a textbook for this class; however, there is a fee to use the Gyu-to E program.	This grading system may change. You will receive more information during the first week of the semester. Self - introduction 10%　Quizzes 30% Study plan 20%　Journals 30%　Self-evaluations 10%

02 年度以前	ドイツ語ＩB	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的 1）ドイツ語の基礎的能力の習得。具体的には、春学期＋秋学期の学習で「ドイツ語技能検定試験（独検）」4 級に合格できるレベル達成を目指します。 2）言語の学習を通して、同時にドイツ語圏の生活や文化に関する（できるだけアクチュアルな）情報獲得を図ります。 講義概要 　ドイツ語の基礎的な能力を、実際的な練習を通して身につけていきます。使用する教材は、「読み、書き、聞き、話す」ことを総合的に学べるよう考えられており、また使われている表現や語彙も、実際にドイツ語圏に旅行したり滞在するときに役立つものばかりです。 　授業は、日本人教員のもとで行われます。この授業を通して、ドイツ語の基本的な仕組みや語彙を、楽しく、かつ体系的に学ぶことができます。	『新々・じゃあ、またあした！（Tschüs, bis morgen! neu）・CD 付き』（同学社）2006 年 Lektion 1 ~ Lektion 3
テキスト、参考文献	**評価方法**
山本　淳：『新々・じゃあ、またあした！（Tschüs, bis morgen! neu）・CD 付き』（同学社）2006 年	学期末テスト、平常点、および授業への参加度に基づいて評価を行います。

02 年度以前	ドイツ語ＩB	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的 1）ドイツ語の基礎的能力の習得。具体的には、春学期＋秋学期の学習で「ドイツ語技能検定試験（独検）」4 級に合格できるレベル達成を目指します。 2）言語の学習を通して、同時にドイツ語圏の生活や文化に関する（できるだけアクチュアルな）情報獲得を図ります。 講義概要 　ドイツ語の基礎的な能力を、実際的な練習を通して身につけていきます。使用する教材は、「読み、書き、聞き、話す」ことを総合的に学べるよう考えられており、また使われている表現や語彙も、実際にドイツ語圏に旅行したり滞在するときに役立つものばかりです。 　授業は、日本人教員のもとで行われます。この授業を通して、ドイツ語の基本的な仕組みや語彙を、楽しく、かつ体系的に学ぶことができます。	『新々・じゃあ、またあした！（Tschüs, bis morgen! neu）・CD 付き』（同学社）2006 年 Lektion 4 ~ Lektion 6
テキスト、参考文献	**評価方法**
山本　淳：『新々・じゃあ、またあした！（Tschüs, bis morgen! neu）・CD 付き』（同学社）2006 年	学期末テスト、平常点、および授業への参加度に基づいて評価を行います。

02 年度以前	ドイツ語ＩC	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的 　ネイティヴ教員のもと、少しずつ段階を踏みながら、日常生活に関するさまざまなことがらが、ドイツ語で表現できるようになることを目指します。 講義概要 　ネイティヴ教員のもと、日常的な場面で使われる典型的な表現を、さまざまな実際的練習を通して身につけていきます。練習は段階的に進められますが、そこで何より重要なのは、声を出して練習し、身体で覚えること。この授業で、ぜひ「ドイツ語を使う楽しさ」を味わってみてください。	『CD 付・スツェーネン１　場面で学ぶドイツ語 (Szenen 1 integriert)』（三修社）2006 年 Lektion 1 ~ Lektion 6
テキスト、参考文献	**評価方法**
佐藤修子＋伊藤祐紀子 :『CD 付・スツェーネン１　場面で学ぶドイツ語（Szenen 1 integriert)』（三修社）2006 年	学期末テスト、平常点、および授業への参加度に基づいて評価を行います。

02 年度以前	ドイツ語ＩC	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的 　ネイティヴ教員のもと、少しずつ段階を踏みながら、日常生活に関するさまざまなことがらが、ドイツ語で表現できるようになることを目指します。 講義概要 　ネイティヴ教員のもと、日常的な場面で使われる典型的な表現を、さまざまな実際的練習を通して身につけていきます。練習は段階的に進められますが、そこで何より重要なのは、声を出して練習し、身体で覚えること。この授業で、ぜひ「ドイツ語を使う楽しさ」を味わってみてください。	『CD 付・スツェーネン１　場面で学ぶドイツ語 (Szenen 1 integriert)』（三修社）2006 年 Lektion 7 ~ Lektion 12
テキスト、参考文献	**評価方法**
佐藤修子＋伊藤祐紀子 :『CD 付・スツェーネン１　場面で学ぶドイツ語（Szenen 1 integriert)』（三修社）2006 年	学期末テスト、平常点、および授業への参加度に基づいて評価を行います。

02 年度以前	ドイツ語ⅡB	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的 1)1 年次に学習したことを復習し、さらにそれを発展させながら、一層のドイツ語能力向上を図ります。具体的には、2 年次春学期＋秋学期の学習を終えた段階で「ドイツ語技能検定試験（独検）」3 級に合格できるレベル達成を目指します。 2) 1 年次に続き、言語の学習を通して、同時にドイツ語圏の生活や文化に関する（できるだけアクチュアルな）情報の獲得を図ります。 講義概要 1 年次に学習したことを土台に、実際的な練習を通して、ドイツ語の応用能力を発展させていきます。 使用する教材は、「読み、書き、聞き、話す」ことを総合的に学べるよう考えられており、また使われている表現や語彙も、実際にドイツ語圏に旅行したり滞在するときに役立つものばかりです。 授業は日本人教員のもとで行われます。この授業を通して、ドイツ語の仕組みをより深く理解し、さらに語彙力を充実させていきましょう。	『Dialog － ステップアップ版』（郁文堂）2003 年 **Lektion 1 ~ 5**
テキスト、参考文献	**評価方法**
近藤＋小林＋新倉＋松尾：『Dialog － ステップアップ版』（郁文堂）2003 年	学期末テスト、平常点、および授業への参加度に基づいて評価を行います。

02 年度以前	ドイツ語ⅡB	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的 1)1 年次に学習したことを復習し、さらにそれを発展させながら、一層のドイツ語能力向上を図ります。具体的には、2 年次春学期＋秋学期の学習を終えた段階で「ドイツ語技能検定試験（独検）」3 級に合格できるレベル達成を目指します。 2) 1 年次に続き、言語の学習を通して、同時にドイツ語圏の生活や文化に関する（できるだけアクチュアルな）情報の獲得を図ります。 講義概要 1 年次に学習したことを土台に、実際的な練習を通して、ドイツ語の応用能力を発展させていきます。 使用する教材は、「読み、書き、聞き、話す」ことを総合的に学べるよう考えられており、また使われている表現や語彙も、実際にドイツ語圏に旅行したり滞在するときに役立つものばかりです。 授業は日本人教員のもとで行われます。この授業を通して、ドイツ語の仕組みをより深く理解し、さらに語彙力を充実させていきましょう。	『Dialog － ステップアップ版』（郁文堂）2003 年 **Lektion 6 ~10**
テキスト、参考文献	**評価方法**
近藤＋小林＋新倉＋松尾：『Dialog － ステップアップ版』（郁文堂）2003 年	学期末テスト、平常点、および授業への参加度に基づいて評価を行います。

02 年度以前	ドイツ語ⅡC	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的 　ネイティヴ教員のもと、1 年次に学習したことを土台にして、身近なことがらに関するドイツ語圏の事情を学び、さらにそれに対応する日本事情をドイツ語で表現できるようになることを目指します。 講義概要 　ネイティヴ教員のもと、さまざまな日常的テーマを扱いながら「話す、聞く、読む、書く」という 4 技能の一層の向上を図ります。 　対話、聞き取り、読み物、作文等、いろいろ変化に富んだ練習を行いますが、それによって実際的な言語応用能力を養成していきます。この授業で、ぜひ「ドイツ語で表現する楽しさ」を味わってみてください。	『CD 付き・スツェーネン 2　場面で学ぶドイツ語　ニューヴァージョン』（三修社）2004 年 Lekiton 1 ~ Lektion 6
テキスト、参考文献	**評価方法**
佐藤＋下田＋Papenthin+Oldehaver :『CD 付き・スツェーネン 2　場面で学ぶドイツ語　ニューヴァージョン』(三修社）2004 年	学期末テスト、平常点、および授業への参加度に基づいて評価を行います。

02 年度以前	ドイツ語ⅡC	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的 　ネイティヴ教員のもと、1 年次に学習したことを土台にして、身近なことがらに関するドイツ語圏の事情を学び、さらにそれに対応する日本事情をドイツ語で表現できるようになることを目指します。 講義概要 　ネイティヴ教員のもと、さまざまな日常的テーマを扱いながら「話す、聞く、読む、書く」という 4 技能の一層の向上を図ります。 　対話、聞き取り、読み物、作文等、いろいろ変化に富んだ練習を行いますが、それによって実際的な言語応用能力を養成していきます。この授業で、ぜひ「ドイツ語で表現する楽しさ」を味わってみてください。	『CD 付き・スツェーネン 2　場面で学ぶドイツ語　ニューヴァージョン』（三修社）2004 年 Lekiton 7 ~ Lektion 12
テキスト、参考文献	**評価方法**
佐藤＋下田＋Papenthin+Oldehaver :『CD 付き・スツェーネン 2　場面で学ぶドイツ語　ニューヴァージョン』(三修社）2004 年	学期末テスト、平常点、および授業への参加度に基づいて評価を行います。

02 年度以前	フランス語ＩB	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
この講座は週 2 回の授業でフランス語の初歩を習得することを目的としています。基本文法を学び、語彙を身につけて、簡単な会話ができるレベルに達することを目指します。教科書は INITIALvol.1 で、フランス人講師とのペアで授業を行います。Ｉ（総合 J）は日本人、Ｉ（総合 F）はフランス人講師が担当します（再履修クラスを除く）。 Ｉ（総合 J）ではとくに文法と語彙の習得が中心になります。文法や語彙に関する練習を数多く行います。実際に使えるフランス語を学びたい学生諸君にはぜひ取ってもらいたい授業です。 右の表は目安です。実際の進行は担当の先生方より指示があります。 なおこの講座はフランス語Ｉ（総合 F）とのペアでしか取れません。	1. 発音（1） 2. 発音（2） 3. unité 1 leçon 1 4. unité 1 leçon 2 5. unité 1 leçon 3 6. unité 1 leçon 4 7. unité 2 leçon 5 8. unité 2 leçon 6 9. unité 2 leçon 7 10. unité 2 leçon 8 11. unité 3 leçon 9 12. unité 3 leçon 10
テキスト、参考文献	**評価方法**
INITIAL vol.1	担当の各先生が指示します。

02 年度以前	フランス語ＩB	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
この講座は週 2 回の授業でフランス語の初歩を習得することを目的としています。基本文法を学び、語彙を身につけて、簡単な会話ができるレベルに達することを目指します。教科書は INITIALvol.1 で、フランス人講師とのペアで授業を行います。Ｉ（総合 J）は日本人、Ｉ（総合 F）はフランス人講師が担当します（再履修クラスを除く）。 Ｉ（総合 J）ではとくに文法と語彙の習得が中心になります。文法や語彙に関する練習を数多く行います。実際に使えるフランス語を学びたい学生諸君にはぜひ取ってもらいたい授業です。 右の表は目安です。実際の進行は担当の先生方より指示があります。 なおこの講座はフランス語Ｉ（総合 F）とのペアでしか取れません。	1. unité 3 leçon 11 2. unité 3 leçon 12 3. unité 4 leçon 13 4. unité 4 leçon 14 5. unité 4 leçon 15 6. unité 4 leçon 16 7. unité 5 leçon 17 8. unité 5 leçon 18 9. unité 5 leçon 19 10. unité 5 leçon 20 11. bilan（1） 12. bilan（2）
テキスト、参考文献	**評価方法**
INITIAL vol.1	担当の各先生が指示します。

02 年度以前	フランス語ＩＣ	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
この講座は週２回の授業でフランス語の初歩を習得することを目的としています。フランス語の会話の基礎と決まった言い回しを学び、実際的なフランス語の実力を身につけることを目指します。 フランス語Ｉ（総合 J）とペアになる授業ですが、このＩ（総合 F）はフランス人講師が担当いたします（再履修クラスを除く）。会話と決まった言い回し（expressions）を中心に学びます。使えるフランス語を身につけたい学生諸君にはＩ（総合 J）とともにぜひ取ってもらいたい授業です。 右に進行を示しますが、これは目安であって、実際の進行は先生によって異なります。 なおこの講座はフランス語Ｉ（総合 J）とのペアでしか取れません。	1. 発音（1） 2. 発音（2） 3. unité 1 leçon 1 4. unité 1 leçon 2 5. unité 1 leçon 3 6. unité 1 leçon 4 7. unité 2 leçon 5 8. unité 2 leçon 6 9. unité 2 leçon 7 10. unité 2 leçon 8 11. unité 3 leçon 9 12. unité 3 leçon 10
テキスト、参考文献	**評価方法**
INITIAL vol.1	担当の各先生が指示します。

02 年度以前	フランス語ＩＣ	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
この講座は週２回の授業でフランス語の初歩を習得することを目的としています。フランス語の会話の基礎と決まった言い回しを学び、実際的なフランス語の実力を身につけることを目指します。 フランス語Ｉ（総合 J）とペアになる授業ですが、このＩ（総合 F）はフランス人講師が担当いたします（再履修クラスを除く）。会話と決まった言い回し（expressions）を中心に学びます。使えるフランス語を身につけたい学生諸君にはＩ（総合 J）とともにぜひ取ってもらいたい授業です。 右に進行を示しますが、これは目安であって、実際の進行は先生によって異なります。 なおこの講座はフランス語Ｉ（総合 J）とのペアでしか取れません。	1. unité 3 leçon 11 2. unité 3 leçon 12 3. unité 4 leçon 13 4. unité 4 leçon 14 5. unité 4 leçon 15 6. unité 4 leçon 16 7. unité 5 leçon 17 8. unité 5 leçon 18 9. unité 5 leçon 19 10. unité 5 leçon 20 11. bilan（1） 12. bilan（2）
テキスト、参考文献	**評価方法**
INITIAL vol.1	担当の各先生が指示します。

02 年度以前	フランス語ⅡB	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
これは 1 年次のフランス語Ⅰ（総合 J）に引き続き、週 2 回の授業でフランス語の初歩を学ぶ講座です。基本文法事項を習得し、語彙を身につけて、簡単な会話ができるレベルに達することを目指します。 教科書は INITIAL で、フランス人講師とのペアで授業を行います。Ⅱ（総合 J）は日本人、Ⅱ（総合 F）はフランス人が担当します。 Ⅱ（総合 J）では文法と語彙の学習が中心になります。 右におおよその授業の進め方を示しますが、これは目安であって、実際の進行は担当の先生によって異なります。	1. INITIAL vol.1 unité 6 leçon 21 2. unité 6 leçon 22 3. unité 6 leçon 23 4. unité 6 leçon 24 5. INITIAL vol.2 unité 1 leçon 1 6. unité 1 leçon 2 7. unité 1 leçon 3 8. unité 1 leçon 4 9. unité 2 leçon 5 10. unité 2 leçon 6 11. unité 2 leçon 7 12. unité 2 leçon 8
テキスト、参考文献	**評価方法**
INITIAL vol.1 INITIAL vol.2	担当の各先生より指示があります。

02 年度以前	フランス語ⅡB	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
これは 1 年次のフランス語Ⅰ（総合 J）に引き続き、週 2 回の授業でフランス語の初歩を学ぶ講座です。基本文法事項を習得し、語彙を身につけて、簡単な会話ができるレベルに達することを目指します。 教科書は INITIAL で、フランス人講師とのペアで授業を行います。Ⅱ（総合 J）は日本人、Ⅱ（総合 F）はフランス人が担当します。 Ⅱ（総合 J）では文法と語彙の学習が中心になります。 右におおよその授業の進め方を示しますが、これは目安であって、実際の進行は担当の先生によって異なります。	1. unité 3 leçon 9 2. unité 3 leçon 10 3. unité 3 leçon 11 4. unité 3 leçon 12 5. unité 4 leçon 13 6. unité 4 leçon 14 7. unité 4 leçon 15 8. unité 4 leçon 16 9. unité 5 leçon 17 10. unité 5 leçon 18 11. unité 5 leçon 19 12. unité 5 leçon 20
テキスト、参考文献	**評価方法**
INITIAL vol.1 INITIAL vol.2	担当の各先生より指示があります。

02 年度以前	フランス語ⅡC	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
これは 1 年次のフランス語Ⅰ（総合 F）に引き続き、週 2 回の授業でフランス語の初歩を学ぶ講座です。基本文法事項を習得し、語彙を身につけて、簡単な会話ができるレベルに達することを目指します。 教科書は INITIAL で、フランス人講師とのペアで授業を行います。Ⅱ（総合 J）は日本人、Ⅱ（総合 F）はフランス人が担当します。 Ⅱ（総合 F）では決まった言い回しと会話がが中心になります。 右におおよその授業の進め方を示しますが、これは目安であって、実際の進行は担当の先生によって異なります。	1. INITIAL vol.1 unité 6 leçon 21 2. unité 6 leçon 22 3. unité 6 leçon 23 4. unité 6 leçon 24 5. INITIAL vol.2 unité 1 leçon 1 6. unité 1 leçon 2 7. unité 1 leçon 3 8. unité 1 leçon 4 9. unité 2 leçon 5 10. unité 2 leçon 6 11. unité 2 leçon 7 12. unité 2 leçon 8
テキスト、参考文献	**評価方法**
INITIAL vol.1 INITIAL vol.2	担当の先生より指示されます。

02 年度以前	フランス語ⅡC	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
これは 1 年次のフランス語Ⅰ（総合 F）に引き続き、週 2 回の授業でフランス語の初歩を学ぶ講座です。基本文法事項を習得し、語彙を身につけて、簡単な会話ができるレベルに達することを目指します。 教科書は INITIAL で、フランス人講師とのペアで授業を行います。Ⅱ（総合 J）は日本人、Ⅱ（総合 F）はフランス人が担当します。 Ⅱ（総合 F）では決まった言い回しと会話が中心になります。 右におおよその授業の進め方を示しますが、これは目安であって、実際の進行は担当の先生によって異なります。	1. INITIAL vol.2 unité 3 leçon 9 2. unité 3 leçon 10 3. unité 3 leçon 11 4. unité 3 leçon 12 5. unité 4 leçon 13 6. unité 4 leçon 14 7. unité 4 leçon 15 8. unité 4 leçon 16 9. unité 5 leçon 17 10. unité 5 leçon 18 11. unité 5 leçon 19 12. unité 5 leçon 20
テキスト、参考文献	**評価方法**
INITIAL vol.1 INITIAL vol.2	担当の先生より指示されます。

02 年度以前	スペイン語 I （総合）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
基本的に週二コマスペイン語を学習する学生を対象とし、スペイン語を初めて学ぶ学生のために、スペイン語文法の基礎と基礎的会話力の習得を目的とする。動詞の直説法現在形までの基礎的文法事項をまなび、また簡単な文を作り、自ら積極的に話し、聞き取る能力の獲得を目指す。 **基本的には、スペイン語 Ia(会話)，I Ca とのペア履修**を要望する。	① 発音・アクセント ② 名詞の性・数、冠詞 ③ 形容詞 ④ 動詞の活用 --- 直説法現在規則活用 ⑤ 動詞の活用 --- 直説法現在不規則活用 ⑥ ser, estar 動詞の使い方 基本的に採用教科書に沿って上記の文法項目を学習するが、学習状況を考慮しつつ、多く時間を割く項目と、そうでない項目ができる。 教科書の **Lección 5** までが進度の目安である。
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト: 福嶌教隆 著 “Español vivo” 朝日出版社 および、担当者が随時プリントを配布。 また、スペイン語－日本語辞書を用意してもらう。辞書については、最初の授業で説明するので、その後に購入していただきたい。	出席状況、定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。

02 年度以前	スペイン語 I （総合）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
スペイン語 Ia(文法)，I Ba に引き続き、**基本的に週二コマスペイン語を学習する学生を対象**とし、スペイン語文法の基礎と基礎的会話力の習得を目的とする。動詞の直説法点過去形までの基礎的文法事項をまなび、また簡単な文を作り、自ら積極的に話し、聞き取る能力の獲得を目指す。 **基本的には、会話コースのスペイン語 Ib(会話)，I Cb とのペア履修**を要望する。	① 動詞の活用 --- 直説法現在形の復習とまとめ ② 動詞の活用 --- 直説法現在形不規則の復習とまとめ ③ 代名詞の使い方 ④ 動詞の活用 --- 直説法点過去規則活用 ⑤ 動詞の活用 --- 直説法点過去不規則活用 ⑥ 動詞の活用 --- 直説法線過去規則活用 ⑦ 動詞の活用 --- 直説法線過去不規則活用 基本的に採用教科書に沿って上記の文法項目を学習するが、学習状況を考慮しつつ、多く時間を割く項目と、そうでない項目ができる。 教科書の **Lección 10** までが進度の目安である。
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト: 福嶌教隆 著 “Español vivo” 朝日出版社 また、担当者が随時プリントを配布。	出席状況、定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。

02 年度以前	スペイン語Ｉ（会話）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
基本的に週二コマスペイン語を学習する学生を対象とし、スペイン語を初めて学ぶ学生のために、文法学習に基づいて、基本的な日常会話ができるようにすることを目的にする会話中心のクラスである。スペイン語 Ｉ a(会話), ＩＣａ の担当者は、基本的にスペイン語を母語としている。スペイン語で積極的に意思疎通する姿勢も同時にやしなう。 **基本的には、文法コースであるスペイン語 Ia（文法), ＩBa とのペア履修**を要望する。	学習目標となる文法項目は、スペイン語 Ia（文法), ＩBa の項目と同じであるが、スペイン語 Ia（会話), ＩCa ではそれを用いた練習・運用に重きが置かれる。 学習項目に関してはスペイン語 Ia（文法), ＩBa の「授業計画」を参照のこと。
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト: 福嶌教隆 著 “Español vivo” 朝日出版社 および、担当者が随時プリント等を配布。 また、スペイン語－日本語辞書を用意してもらう。辞書については、最初の授業で説明するので、その後に購入していただきたい。	出席状況、定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。

02 年度以前	スペイン語Ｉ（会話）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
スペイン語 Ia（会話), ＩCa に引き続き、**基本的に週二コマスペイン語を学習する学生を対象**とし、文法学習に基づいて、基本的な日常会話ができるようにすることを目的にする会話中心のクラスである。スペイン語Ｉｂ（会話), ＩＣｂ の担当者は、基本的にスペイン語を母語としている。スペイン語で積極的に意思疎通する姿勢も同時にやしなう。 **基本的には、文法コースであるスペイン語 Ib（文法), ＩBb とのペア履修**を要望する。	学習目標となる文法項目は、スペイン語 Ib（文法), ＩBb の項目と同じであるが、スペイン語 Ib（会話), ＩCb ではそれを用いた練習・運用に重きが置かれる。 学習項目に関してはスペイン語 Ib（文法), ＩBb の「授業計画」を参照のこと。
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト: 福嶌教隆 著 “Español vivo” 朝日出版社 また、担当者が随時プリント等を配布。	出席状況、定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。

02 年度以前	スペイン語Ⅱ（総合）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
基本的に週二コマスペイン語を学習する学生を対象とした、スペイン語 IBab, Ⅰab(文法)の継続の授業である。過去形を中心に、比較表現・完了形などの基礎的文法事項をまなび、日常生活に支障のない文を作る能力、簡単な文の読解力、自ら積極的に話し、聞き取る能力の一層の獲得を目指す。 **基本的には、スペイン語Ⅱa(会話), ⅡCa とのペア履修**を要望する。	① 動詞の活用 --- 直説法点過去の復習 ② 動詞の活用 --- 直説法線過去 ③ 点過去と線過去の違い ④ 比較表現 ⑤ 過去分詞と現在分詞 基本的に採用教科書に沿って上記の文法項目を最低限学習するが、学習状況を考慮しつつ、多く時間を割く項目と、そうでない項目ができる。
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキストは最初の授業で指示する。(基本的にスペイン語Ⅰのテキストを引き継ぐ) および、担当者が随時プリントを配布。	出席状況、定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。

02 年度以前	スペイン語Ⅱ（総合）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
スペイン語ⅡBa, Ⅱa(文法) に引き続き、**基本的に週二コマスペイン語を学習する学生を対象**とする。接続法現在・命令表現までの基礎的文法事項をまなび、日常生活に支障のない文を作る能力、簡単な文の読解力、自ら積極的に話し、聞き取る能力の一層の獲得を目指す。初級スペイン語文法を終える。 **基本的には、会話コースのスペイン語Ⅱb(会話), ⅡCb とのペア履修**を要望する。	① 動詞の活用 --- 直説法現在完了形 ② 動詞の活用 --- 現在進行形 ③ 動詞の活用 --- 接続法現在形規則形 ④ 動詞の活用 --- 接続法現在形不規則形 ⑤ 命令表現 基本的に採用教科書に沿って上記の文法項目を学習するが、学習状況を考慮しつつ、多く時間を割く項目と、そうでない項目ができる。
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキストは最初の授業で指示する。(基本的にスペイン語Ⅰのテキストを引き継ぐ) および、担当者が随時プリントを配布。	出席状況、定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。

02 年度以前	スペイン語Ⅱ（会話）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
基本的に週二コマスペイン語を学習する学生を対象とし、過去形を中心に、比較表現・完了形などの基礎的文法事項をまなび、文法学習に基づいて、基本的な日常会話ができるようにすることを目的にする会話中心のクラスである。語学力だけではなく、スペイン語で積極的に意思疎通する姿勢も同時にやしなう。 **基本的には、文法コースであるスペイン語Ⅱa(文法)，ⅡBa とのペア履修**を要望する。	学習目標となる文法項目は、スペイン語ⅡBa,Ⅱa(文法)の項目と同じであるが、スペイン語ⅡCa，Ⅱa(会話）ではそれを用いた練習・運用に重きが置かれる。 学習項目に関してはスペイン語ⅡBa，Ⅱa(文法)の「授業計画」を参照のこと。
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキストは最初の授業で指示する。(基本的にスペイン語Ⅰのテキストを引き継ぐ) および、担当者が随時プリントを配布。	出席状況、定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。

02 年度以前	スペイン語Ⅱ（会話）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
スペイン語ⅡCa，Ⅱa(会話）に引き続き、**基本的に週二コマスペイン語を学習する学生を対象**とする。接続法現在・命令表現までの基礎的文法事項をまなび、文法学習に基づいて、基本的な日常会話ができるようにすることを目的にする会話中心のクラスである。語学力だけではなく、スペイン語で積極的に意思疎通する姿勢も同時にやしなう。 **基本的には、文法コースであるスペイン語Ⅱb(文法)，ⅡBb とのペア履修**を要望する。	学習目標となる文法項目は、スペイン語ⅡBb，Ⅱb(文法)の項目と同じであるが、スペイン語ⅡCb，Ⅱb(会話）ではそれを用いた練習・運用に重きが置かれる。 学習項目に関してはスペイン語ⅡBb，Ⅱb(文法)の「授業計画」を参照のこと。
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキストは最初の授業で指示する。(基本的にスペイン語Ⅰのテキストを引き継ぐ) および、担当者が随時プリントを配布。	出席状況、定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。

02 年度以前	中国語 I （講読）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
中国語の入門段階でまず習得しなければならないのは発音です。ピンイン（中国語表音ローマ字）を正しく読めるように繰り返し練習します。 　次に中国語の基礎文法を学び、中国語の語順の基本を理解することによって基礎的な日常表現を習得します。 　授業は音読を重視し色々な基礎文型を頭だけでなく「耳」と「口」を使って身体で覚えるようにすることが求められます。 　受講者の皆さんが積極的に授業に参加することを期待します。	第１回～第３回：テキスト　中国語の発音 第４回～第１２回：テキスト第１課～第６課 (内　容) 人称代名詞、指示代名詞、疑問詞、数量詞、動詞述語文、形容詞述語文、各種疑問文、連動文、動詞の重ね型、“是、有、在、”の用法、“也、都”の用法、月日・曜日・時刻の言い方　等等。 各クラスの学習状況に応じて進度を図りながら 上記の範囲を学びます。
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト：『中国語ポイント４２』白水社 推薦辞書：『プログレッシブ中国語辞典』小学館	期末試験と平常点（中間テスト、小テスト、出席、 課題の実行度、授業への姿勢など）によって評価します。

02 年度以前	中国語 I （講読）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
前期に引き続き文法事項と基礎文型を学びます。 　また前期で学んだ発音の基礎をさらに強化し、文の内容を理解しながら中国語のイントネーションを身につけるよう練習します。 　テキストに出ている単語数はそれほど多くないので、テキスト別冊の「自習単語帳」なども活用して発音・意味ともしっかり覚えてしまうことが求められます。	第１回～第１２回：テキスト第７課～第１２課 (内　容) 　各種介詞、各種動詞、動作・状態の進行と持続、 　結果補語、状態補語、方向補語、可能補語、 　完了を表す“了”、時間量の表し方、“把”構文、 　比較の表現　等等。 各クラスの学習状況に応じて進度を図りながら 上記の範囲を学びます。
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト：『中国語ポイント４２』白水社 推薦辞書：『プログレッシブ中国語辞典』小学館	期末試験と平常点（中間テスト、小テスト、出席、 課題の実行度、授業への姿勢など）によって評価します。

02 年度以前	中国語 I （会話）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
中国語の入門段階で最も重要なことは発音の習得です。発音の壁を越えると中国語の学習がうんと楽しくなり自信がついてきます。「耳」と「口」を精一杯駆使して根気よく練習することが大切です。会話文を歌を覚えるようにそのリズムを楽しみながら暗誦すると学習効果は一段と高まります。 　中国語の基礎力をつけるために発音のトレーニングをしながら会話文の基本文型とこの中で使われている初級文法事項についても学びます。 　受講者の皆さんが授業中に教師に積極的に質問することを歓迎します。	第１回～第３回：テキスト発音篇 第４回～第１２回：テキスト第１課～第８課 (内　容) 形容詞述語文、動詞述語文、名詞述語文、各種疑問文、“在”、“有”の用法、“了”の用法、数の数え方、量詞、比較の表現、結果補語、可能補語、助動詞“会、可以、想”他。 各クラスの学習状況に応じて進度を図りながら、上記の範囲を学びます。
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト：『表現する中国語』白帝社 推薦辞書：『プログレッシブ中国語辞典』	期末試験と平常点（中間テスト、小テスト、出席、課題の実行度、授業への姿勢）によって総合的に評価します。

02 年度以前	中国語 I （会話）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
中国語の入門段階で最も重要なことは発音の習得です。発音の壁を越えると中国語の学習がうんと 楽しくなり自信がついてきます。「耳」と「口」を 精一杯駆使して根気よく練習することが大切です。会話文を歌を覚えるようにそのリズムを楽しみながら暗誦すると学習効果は一段と高まります 　中国語の基礎力をつけるために発音のトレーニングをしながら会話文の基本文型とこの中で使われている初級文法事項についても学びます。 　受講者の皆さんが授業中に教師に積極的に質問 することを歓迎します	第１回～第１２回：テキスト第９課～第１６課 (内　容) 各種前置詞、様態補語、持続の“着”、主述述語文 助動詞“能、得”、方向補語、“把”構文、存現文、受身文、兼語文、“要”の用法、 その他さまざまな言い回し。 各クラスの学習状況に応じて進度を図りながら、上記の範囲を学びます。
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト：『表現する中国語』白帝社 推薦辞書：『プログレッシブ中国語辞典』	期末試験と平常点（中間テスト、小テスト、出席、課題の実行度、授業への姿勢など）によって総合的に評価します。

02 年度以前	中国語Ⅱ（講読）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
現代の中国に暮らす人々の生活や社会の状況を題材にした比較的長い文章の講読を通じて入門段階ですでに習得した文法・言いまわしを復習、確認しながらさらに新しい語句や表現を学びます。 授業では音読を重視します。文章の内容を理解した上でイントネーションに注意しながら長文の音読練習をすると中国語の発音は飛躍的に上達するからです。 このテキストの文章を講読することによって受講者の皆さんが言葉だけでなく激しく変貌を遂げつつある中国、そして昔から変わらぬ中国に関心を持ち、理解する一助になることを期待しています。 授業には辞書必携。	第１回～第１２回：テキスト第１課～第６課 （内　容） 各課文の読解と課文に出てくる重要語句や少々複雑な構文を短い例文を通して学びます。 各課の「練習問題」は復習を兼ねて原則として課題とし、次の授業で受講者の皆さんが解答します。
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト：『中国って　どんな国？』　白水社 辞書：『プログレッシブ中国語辞典』　小学館	期末試験と平常点（中間テスト、小テスト、出席、課題の実行度、授業への姿勢など）によって評価します。

02 年度以前	中国語Ⅱ（講読）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
現代の中国に暮らす人々の生活や社会の状況を題材にした比較的長い文章の講読を通じて入門段階ですでに習得した文法・言いまわしを復習、確認しながら春学期に続いてさらに新しい語句や表現を学びます。 授業では音読を重視します。文章の内容を理解した上でイントネーションに注意しながら長文の音読練習をすると中国語の発音は飛躍的に上達するからです。 このテキストの文章を講読することによって受講者の皆さんが言葉だけでなく激しく変貌を遂げつつある今の中国、そして昔から変わらぬ中国に関心を持ち、理解する一助になることを期待しています。 授業には辞書必携。	第１回～第１２回：テキスト第７課～第１２課 （内　容） 各課文の読解と課文に出てくる重要語句や少々複雑な構文を短い例文を通して学びます。 各課の「練習問題」は復習を兼ねて原則として課題とし、次の授業で受講者の皆さんが解答します。
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト：『中国って　どんな国？』　白水社 辞書：『プログレッシブ中国語辞典』　小学館	期末試験と平常点（中間テスト、小テスト、出席、課題の実行度、授業への姿勢など）によって評価します。

02 年度以前	中国語Ⅱ（会話）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
最初の１年間で習得した単語や会話の基礎表現を 復習・確認しながらさらに新しい表現を学び、コミュニケーション能力のレベルアップを目指します。 　テキストの会話文を使って日本人が中国でよく出会う場面の中で交わされる実用的で分かりやすい言い回しを勉強します。繰り返し聴き、声に出して読み、丸暗記すると学習効果が一層向上します。 　各課の「ポイント」には文法事項や慣用語句などを例文をつけて説明しています。この中には１年次ですでに学んだものもありますが復習、予習を重ねることで基礎文型、基礎表現をしっかり定着させることが大切です。 　テキストの巻末には「語句索引」がついてはいますが、予習・復習時には必ず辞書を引いて単語の意味を確認する習慣をつけると語彙の習得が容易になります。	第１回～第１２回：テキスト第１課～第６課 (内　容) ＜場面別会話＞ 　北京に到着 　ホテルにて 　はじめまして 　北京の変化は本当に大きい 　北京の交通 　友人を誘って外出
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト：『実用中国語会話』金星堂 推薦辞書：『プログレッシブ中国語辞典』小学館	期末試験と平常点（中間テスト、小テスト、出席、 課題の実行度、授業への姿勢など）によって評価します。

02 年度以前	中国語Ⅱ（会話）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
最初の１年間で習得した単語や会話の基礎表現を復習・確認しながらさらに新しい表現を学び、コミュニケーション能力のレベルアップを目指します。 　テキストの会話文を使って日本人が中国でよく出会う場面の中で交わされる実用的で分かりやすい言い回しを勉強します。繰り返し聴き、声に出して読み、丸暗記すると学習効果が一層向上します。 　各課の「ポイント」には文法事項や慣用語句などを例文をつけて説明しています。この中には１年次ですでに学んだものもありますが復習、予習を重ねることで基礎文型、基礎表現をしっかり定着させることが大切です。 　テキストの巻末には「語句索引」がついてはいますが、予習、復習時には必ず辞書を引いて単語の意味を確認する習慣をつけると語彙の習得が容易になります。	第１回～第１２回：テキスト第７課～第１２課 （内　容） ＜場面別会話＞ 　ごちそうする 　買い物 　道を尋ねる・友人を訪ねる 　電話をかける 　診察 　帰国
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト：『実用中国語会話』金星堂 推薦辞書：『プログレッシブ中国語辞典』小学館	期末試験と平常点（中間テスト、小テスト、出席、 課題の実行度、授業への姿勢など）によって評価します。

02 年度以前	ロシア語 I （講読）	担当者	斉藤　毅

講義目的、講義概要	授業計画
ロシアはヨーロッパ東端の国として独特の文化を育んできた国ですが、一方で、日本とは国境を接する隣国であり、両国は幕末・明治時代から密接な関係を持ってきました。大きく変動しつつある今日の国際社会においても、ロシアはきわめて重要な位置を占めており、日本との関係も、とくに経済の分野で、ますます進展してゆくことと思われます。 この授業はまったくの初心者を対象とし、アルファベット（キリル文字）の読み書きから始め、秋学期を含めた一年間でロシア語文法の初歩をマスターすることを目指します。 会話を中心とした「ロシア語 I Ba」と併せて受講することが原則ですが、単独での履修も可能です。	全体で教科書の第 9 課まで進むことを目標とします。 主な学習事項は以下の通りです。 1-6 アルファベット（キリル文字）の発音・書き方、 基本的な文型（平叙文、疑問文、否定文） 7 名詞の性、形容詞類の変化 8 動詞の現在変化（1） 9 場所の表現（1）（前置詞、名詞の格変化の導入） ロシアの歴史・文化・政治などについての基礎知識も、随時とりあげてゆきます。
テキスト、参考文献	**評価方法**
黒田龍之助『ロシア語文法への旅』（大学書林） 辞書・参考書等は授業時に紹介してゆきます。	①期末試験、②出席などの平常点。

02 年度以前	ロシア語 I （講読）	担当者	斉藤　毅

講義目的、講義概要	授業計画
「ロシア語 I Aa」の続編の授業です。「Aa」と同じ教科書をもちいて、引き続きロシア語文法を学んでゆきます。	全体で教科書の第 18 課まで進むことを目標とします。主な学習事項は以下の通りです。 10 場所の表現（2）（前置詞） 11 動詞の現在変化（2） 12 不規則動詞の現在変化 13 形容詞の変化 14 名詞の複数形 15 名詞の格変化（1）生格 16 名詞の格変化（2）対格 17 動詞の過去変化 18 運動の動詞、方向の表現
テキスト、参考文献	**評価方法**
黒田龍之助『ロシア語文法への旅』（大学書林） 辞書・参考書等は授業時に紹介してゆきます。	①期末試験、②出席などの平常点。

02 年度以前	ロシア語 I （文法）	担当者	佐藤　千登勢

講義目的、講義概要	授業計画
はじめてロシア語を学ぶ人を対象とします。 BRICs（ブリックス：著しい経済成長が期待される国々の頭文字ですね）のひとつとして注目を集め、確実に成長を遂げているロシア。改めて世界における主要な位置を占めるようになりました。政治、経済、文化と多岐にわたり日本との交流もますます拡大していきます。今後、ロシア語が重要な言語になることは間違いありません。 ロシアは、深くて美しい芸術（バレエ、音楽、映画、美術、文学）の伝統を誇る国ですが、最近では、テニスのシャラポワ、格闘技のヒョードル、世界的歌姫のネトレプコの活躍、なごみ系アニメキャラのチェブラーシカ、映画『ナイト・ウォッチ』の世界的ヒットなど、新たなエネルギーに満ちた魅力にも溢れています。 むろん、ロシア語そのものが美しいかたちと音を備えた、そして文法の体系も整った、美の結晶のような言語です。この授業では、発音、イントネーションを正しく身につけ、ロシア語で挨拶や自己紹介をしたり、買い物をしたりできるようにします。また、映像をとおして、ロシアの文化や生活習慣に触れる時間ももちます。今年は、「日本におけるロシア年」。ロシア関連のさまざまな催しが日本各地で行われます。折にふれて、情報をお伝えしましょう。	1　ガイダンス（ロシア語、そしてロシアについて）。 2　文字と発音。あいさつ。『チェブラーシカ』鑑賞。 3　文字と発音。名前の尋ね方。お詫びとお礼。『チェブラーシカ』を観る。。 4　「これは誰？」「これは何？」名詞の性。『チェブラーシカ』を観る。 5　国の名前を覚えよう。形容詞と名詞の関係。『チェブラーシカ』を観る。 6　家族の紹介。ロシア人の名前のしくみ。名前の愛称形。数をかぞえよう。『チェブラーシカ』を観る。 7　「ーは、どう？」所有代名詞と名詞の関係。ロシア語で足し算。「ロシアのバレエ」を観る。 8　「何をしているの？」動詞の人称変化。「ヤグディン、スルツカヤのスケート」を観る。 9　「ーが好き」名詞の格について。対格。「ロシアの民族舞踊とロシア民謡」を楽しむ。 10　「ーしたい」「ーをください」命令形。映画『戦争と平和』の舞踏会シーンを観る。 11　まとめと補足。 12　映画鑑賞。ダイナミックなモンタージュと流麗なカメラワークを堪能しましょう。
テキスト、参考文献	**評価方法**
中島由美他著『ロシア語へのパスポート』（改訂版）白水社　2005 年（CD 付き） その他、プリントを適宜配布します。	学期末に試験（リスニングとディクテーション）を行いますが、もっとも重要視するのは出席率です。

02 年度以前	ロシア語 I （文法）	担当者	佐藤　千登勢

講義目的、講義概要	授業計画
「ロシア語 I Ba」で身につけたことを生かして、買い物をしたり、道をたずねたり、カフェで食事ができるようにします。 地下鉄宮殿の名で知られるモスクワの美しい地下鉄は、駅のひとつひとつが個性的で芸術的。地下鉄巡りだけでも楽しめるほどです。交通手段も、路面電車、トロリーバスなど種類が多いので、交通手段を使い、地図を用いてモスクワ巡りをしてみましょう。もちろん、ロシア語を使って。私たちにはなじみのない、車内でのマナーにも触れます。 近年、ロシアでは日本食が人気ですが、ロシア人の間に健康志向とグルメ熱が高まっています。こうした最近の事情を含め、ロシアの食文化、ロシア料理について情報を得ながら、ロシア語で料理を注文できるようにします。 この授業で使用するテキストには CD が付いていますので、自宅で、すきな時にロシア語の音声を繰り返し聴いて楽しむことができます。宿題は出しませんが、自主的に CD を聴き、復唱することをお勧めします。 Говорим по-русски! Желаю вам успехов в учёбе!	1　春学期の復習。辞書について。アニメ映画『霧の中のハリネズミ』を観る。 2　「どこへー？」「どこでー？」方向と場所の区別。「モスクワの街なみ」を観る。 3　「いま、何時？」「何歳ですか？」数詞と名詞の関係。「ガガーリン、宇宙飛行の記録」を観る。 4　「どこへ行くの？」定動詞と不定動詞。「ロシア料理、ボルシチの作り方」を観る。 5　「ーはありますか？」「ーを持ってる？」生格。アニメ映画『きつねとウサギ』を観る。 6　カフェで料理を注文する。メニューの見方。「ロシア料理、モスクワのレストラン」を観る。 7　カフェで料理を注文する。「ロシア料理、モスクワのレストラン」を観る。 8　カフェで料理を注文する。「バレリーナ、プリセツカヤのインタヴューと演技」を観る。 9　「ーへはどう行くのですか？」交通手段の表現。映画『イワン雷帝』（一部）を観る。 10　モスクワの地図を使って道案内。映画『戦艦ポチョムキン』（一部）を観る。 11　まとめと補足。　12　映画鑑賞。
テキスト、参考文献	**評価方法**
中島由美他著『ロシア語へのパスポート』（改訂版）白水社　2005 年（CD 付き） その他、プリントを適宜配布します。	学期末に試験（リスニングとディクテーション）を行いますが、もっとも重要視するのは出席率です。

02 年度以前	ロシア語Ⅱ（総合）	担当者	斉藤　毅

講義目的、講義概要	授業計画
昨年度の「ロシア語Ⅰ A」の続編の授業です。昨年度と同じ教科書を用いて、引き続きロシア語文法を学んでゆきます。春学期のうちにこの教科書を終え、ロシア語文法の基礎をマスターすることを目標にします。ここまでくると、本格的な会話や、文章の読解を行なうことが出来るようになり、学ぶ楽しみもぐんと増すことと思います。 会話を中心とした「ロシア語Ⅱ B」と併せて受講することが原則ですが、単独での履修も可能です。 大学を卒業してしまうと、ロシア語を学ぶ機会も少なくなります。迷っている人は、とにかく最初の授業に足を運んでみてください。	教科書の第 18 課から始めます。学習事項としては、ロシア語文法の要めである「名詞の格変化」、および「動詞の体」が中心になります。さらに、アルファベットの筆記体、および辞書の引き方を練習します（ロシア語の場合、辞書の引き方を「練習」する必要があるのです)。 その他、ロシアの映画を何本か見る予定です。
テキスト、参考文献	**評価方法**
黒田龍之助『ロシア語文法への旅』(大学書林) 辞書・参考書等は授業時に紹介してゆきます。	①期末試験、②出席などの平常点。

02 年度以前	ロシア語Ⅱ（総合）	担当者	斉藤　毅

講義目的、講義概要	授業計画
「ロシア語Ⅱ　Aa」の続編の授業です。春学期に終えられなかった文法事項を習得したあと、プリント教材をもちいて、簡単な文章読解の練習を行なってゆきます。最終的に、辞書を引きながら、自力でロシア語の文章を読めるだけの力をつけることを目標にします。	春学期に教科書を終えられなかった場合は、その続きをやり、その後、プリント教材をもちいて、読解の練習を行ないます。これまで学んだ文法事項の復習や、基本単語の習得にも力を入れます。 さらに、受講者の皆さんの関心に応じて、ロシアの文化についても話してゆきたいと思います。
テキスト、参考文献	**評価方法**
黒田龍之助『ロシア語文法への旅』(大学書林) およびプリント教材 辞書・参考書等は授業時に紹介してゆきます。	①期末試験、ないしはレポート、②出席などの平常点。

02 年度以前	ロシア語Ⅱ（講読）	担当者	佐藤　千登勢

講義目的、講義概要	授業計画
「ロシア語Ⅰ」の既修者、あるいはロシア語の初歩を学んだことのある人なら誰でも履修できます。 この授業は、すでに学習したロシア語を生かして、買い物をしたり、スポーツ観戦をしたり、簡単なメールやお祝いカードを書いたりできるようにします。使用する教科書は（第 11 課から始めます)、会話表現と文法がバランスよく学べる内容になっています。CD も付いているので、発音のチェックや反復練習がいつでもできますね。「読む・話す・書く」の総合的な力をつけるのがこの授業の目的です。そして、できれば、毎年１０月におこなわれるロシア語検定試験にも挑戦してほしい（昨年度も、この授業を受けた先輩が検定に挑戦し、みごと合格しました)。せっかく学ぶロシア語。表現や文法事項をひとつひとつ着実に積み重ねながら、結実させたいですね。 また、ロシアの美しい芸術や最近のロシア事情に触れるため、毎回、映像を観る時間ももちます。コミュニケーションの手段としてばかりでなく、その背景にある文化や自然や慣習に支えられたロシア語に親しんでほしいと思います。ちなみに今年は、「日本におけるロシア年」。ロシア関連のさまざまな催しが日本各地でおこなわれます。折にふれて、情報をお伝えしましょう。	1　ガイダンス（授業について。みなさんの要望も訊く） 2　11 課「ーはありますか？」「ーを持っていますか？」映画『エルミタージュ幻想』（一部）を観る。 3　１週間のスケジュールをたてよう。未来形の復習。「シャラポワ・インタビュー」 4　スポーツ観戦の表現。「ーはどこ？」方向と場所の復習。「ヤグディン・インタビュー」 5　「誰に手紙を書くの？」「誰と住んでいるの？」「誕生日おめでとう！」与格と造格。映画『こねこ』（一部） 6　「ーおめでとう！」「ーをお祈りします」電話で祝辞を述べる。映画『チャイコフスキー』（一部） 7　お祝いカードを書く。映画『ハムレット』（一部） 8　お祝いカードを書く。形容詞＋名詞の格変化。映画『アンナ・カレーニナ』（一部） 9　クロスワードパズルを解こう。不完了体と完了体。／検定試験対策。映画『テルミン』（一部） 10　「何月にーします」不完了体と完了体。／検定試験対策。映画『テルミン』（一部） 11　「暑い」「楽しい」「ーすべきだ」「ーしてはだめ」無人称文／検定試験対策。映画『両棲人間』（一部） 12　映画鑑賞。
テキスト、参考文献	**評価方法**
中島由美他著『ロシア語へのパスポート』（改訂版）白水社　2005 年（CD 付き） その他、プリントを適宜配布します。	レポートを提出してもらいますが、出席率を最重要視します。

02 年度以前	ロシア語Ⅱ（講読）	担当者	佐藤　千登勢

講義目的、講義概要	授業計画
「ロシア語ⅡBa」の続きとなります。自分の趣味を話したり、電話番号を伝えたり聴きとったりできるようにします。また、ロシアの祝日（ロシア正教や農耕儀礼に基づく祭日やソ連時代からの祝日など）について、またお祝いに招待された場合のマナーについて情報を得、お祝いの決まり文句を身につけましょう。欧米とも日本とも異なる、ロシアの独特なクリスマスや新年、イースターの祝い方について知ることができるでしょう。 教科書を最後まで終えたら、ロシア語でクイズを解いてみましょう。さまざまなかたちの疑問文とこれに対する応え方を習得したり、ばらばらに並べられた電話での会話文をコンテクストを考えながら組み立て直したりします。口語的表現はもちろんのこと、ロシアに関する情報や雑学を知ることができ、楽しいと思います。 映画やインタヴューなど、映像・音声資料も楽しみますが、聴きとれる表現が徐々に増えて、さらに面白くなることでしょう。	1　前置詞のまとめ。動詞の接頭辞／検定試験対策。 2　「ーするのが好き」「ーにはまっている」趣味の言い方。映画『ざくろの色』（一部） 3　自分の趣味を語る。映画『カメラを持った男』（一部） 4　自分の趣味を語る。「ピアニスト、リフシッツ・インタヴュー」 5　電話番号を伝える。住居について語る。「リフシッツ・インタヴュー」 6　年月日の練習。関係代名詞。「作家ペレーヴィン・インタヴュー」 7　ロシアの祝日について。能動形動詞。「作家ペレーヴィン・インタヴュー」 8　ロシアの祝日について。お祝いの席で。映画『シベリアの理髪師』（一部） 9　お祝いの席で。映画『モスクワは涙を信じない』（一部） 10　ロシア語でクイズ。最上級。さまざまな疑問文に適切な解答を選択する。映画『惑星ソラリス』（一部） 11　ロシア語でクイズ。アニメ映画『ミトン』 12　映画鑑賞。
テキスト、参考文献	**評価方法**
中島由美他著『ロシア語へのパスポート』（改訂版）白水社　2005 年（CD 付き） その他、プリントを適宜配布します。	レポートを提出してもらいますが、出席率を最重要視します。

02 年度以前	韓国語 I （文法）	担当者	森　勇俊

講義目的、講義概要	授業計画
日本と韓国は古来から密接な関係を保ってきており、今後とも政治、経済、社会、文化などの諸分野にわたり、特に民間レベルでのより盛んな交流の進展が期待される。さらに日本における韓国語の需要も今後ますます増えていくと思われる。このような観点から本科目では、読解力、生きたコミュニケーションができる表現力、新聞や雑誌などから時事情報を得る基本的な能力の総合的な定着を目指し、多角的な授業を行う。	1 回　本講義に対する紹介、概要説明 2 ～ 5 回　韓国語の文字・文章の理解と解読 6 ～11 回　次のような内容を題材に会話・読解・作文力の基礎を定着させる。 「自己紹介」 「あいさつ」 「学校生活①」 「学校生活②」 「家族①」 「家族②」 12 回　期末試験
テキスト、参考文献	**評価方法**
「韓国語学習－基礎から完成までー」森　勇俊（プリント）	評価は原則として定期試験を基本に授業への取り組み方、出席状況等を含め、総合的に判定する。

02 年度以前	韓国語 I （文法）	担当者	森　勇俊

講義目的、講義概要	授業計画
日本と韓国は古来から密接な関係を保ってきており、今後とも政治、経済、社会、文化などの諸分野にわたり、特に民間レベルでのより盛んな交流の進展が期待される。さらに日本における韓国語の需要も今後ますます増えていくと思われる。このような観点から本科目では、読解力、生きたコミュニケーションができる表現力、新聞や雑誌などから時事情報を得る基本的な能力の総合的な定着を目指し、多角的な授業を行う。	1 ～11 回　次のような内容を題材に会話・読解・作文力の基礎を定着させる。 「友人①」 「友人②」 「買い物①」 「買い物②」 「趣味①」 「趣味②」 「海外旅行①」 「海外旅行②」 「伝統文化」 「衣食住①」 「衣食住②」 12 回　期末試験
テキスト、参考文献	**評価方法**
「韓国語学習－基礎から完成までー」森　勇俊（プリント）	評価は原則として定期試験を基本に授業への取り組み方、出席状況等を含め、総合的に判定する。

02 年度以前	韓国語 I （文法）	担当者	金　貞我

講義目的、講義概要	授業計画
韓国語の基礎を、文字の読み書きを中心に習得し、基礎的な表現力を高める。授業中に、音読、暗誦、会話などの練習を行う。 前期の授業目標は、韓国語で簡単な自己紹介ができるようにすること。また、韓国・朝鮮の歴史や文化、最近の映画などについても紹介する。初級の人にもわかり安く説明する。	●授業の進め方 ４月：文字(ハングル)の基礎と発音の練習 ５月：ハングルの習得と文法の基礎 ６月：自己紹介や挨拶など簡単な自己表現 ７月：前期の復習と試験
テキスト、参考文献	**評価方法**
授業中に紹介する。他に必要な資料はコピーして配布する。	出席と平常点を重視する。授業中に行う簡単なテストと期末試験の成績を総合して評価する。

02 年度以前	韓国語 I （文法）	担当者	金　貞我

講義目的、講義概要	授業計画
前期に引き続き、韓国語の基礎を勉強しながら、語彙を増やしていく。発音、会話などは授業中に集中して練習に取り組む。 韓国・朝鮮の歴史や日常文化、最近の映画などを紹介しながら、興味をもって言葉の習得ができる授業をめざす。	●授業の進め方 ９月：ハングルの習得と文法の基礎、前期の復習 １０月：文法の基礎と日常会話の練習 １１月：総合的な表現力を高める １２月：後期の復習と試験
テキスト、参考文献	**評価方法**
授業中に紹介する。他に必要な資料はコピーして配布する。	出席と平常点を重視する。授業中に行う簡単なテストと期末試験の成績を総合して評価する。

02 年度以前	韓国語 I （講読）	担当者	森　貞美

講義目的、講義概要	授業計画
韓国語を初めて学ぶ人を対象に韓国語と日本語の共通点、類似点を示し、学習の容易さと有用性を理解させながらハングル文字の読み書き、辞書の活用ができるようにするとともに、実用会話を入門指導する。 会話の学習については、韓国固有の民俗、歴史、生活、芸術、衣食住などのストリー性のある題材、日常生活で当面する様々な典型的局面や節目での文型、会話を選び、そのような場面を想定、再現することで実感を深めながら反復指導する。また、写真、スライド、ビデオ等をも活用することで臨場感を深め、積極的に学習に取り組むようにする。	1 回　本講義に対する紹介、概要説明 2 ～ 5 回　韓国語の文字・文章の理解と解読 6 ～11 回　次のような多様な生活場面を設定し、柔軟に対応できるような表現力の定着をめざす。 「市場」 「スーパーマーケット」 「薬局」 「喫茶店」 「郵便局」 「洋服点」 12 回　期末試験
テキスト、参考文献	**評価方法**
「韓国語学習－基礎から完成までー」森　勇俊（プリント）	評価は原則として定期試験を基本に授業への取り組み方、出席状況等を含め、総合的に判定する。

02 年度以前	韓国語 I （講読）	担当者	森　貞美

講義目的、講義概要	授業計画
韓国語を初めて学ぶ人を対象に韓国語と日本語の共通点、類似点を示し、学習の容易さと有用性を理解させながらハングル文字の読み書き、辞書の活用ができるようにするとともに、実用会話を入門指導する。 会話の学習については、韓国固有の民俗、歴史、生活、芸術、衣食住などのストリー性のある題材、日常生活で当面する様々な典型的局面や節目での文型、会話を選び、そのような場面を想定、再現することで実感を深めながら反復指導する。また、写真、スライド、ビデオ等をも活用することで臨場感を深め、積極的に学習に取り組むようにする。	1 回　本講義に対する紹介、概要説明 2 ～11 回　次のような内容を題材に読解・作文力の基礎を定着させる。多様な生活現場を設定し柔軟に対応できるような表現力の定着をめざす。 「映画館」 「スポーツ」 「図書館」 「クリーニング店」 「銀行」 「役所」 「銭湯」 「美容院」 「趣味」 「国際電話」 「健康管理」 12 回　期末試験
テキスト、参考文献	**評価方法**
「韓国語学習－基礎から完成までー」森　勇俊（プリント）	評価は原則として定期試験を基本に授業への取り組み方、出席状況等を含め、総合的に判定する。

02 年度以前	韓国語 I （講読）	担当者	金　貞我

講義目的、講義概要	授業計画
韓国語の基礎を、文字の読み書きを中心に習得し、基礎的な表現力を高める。授業中に、音読、暗誦、会話などの練習を行う。 前期の授業目標は、韓国語で簡単な自己紹介ができるようにすること。そのためには多くの慣用表現を習得する必要がある。	●授業の進め方 ４月：文字(ハングル)の基礎と発音の練習 ５月：ハングルの習得と文法の基礎 ６月：自己紹介や挨拶など簡単な自己表現 ７月：前期の復習と試験
テキスト、参考文献	**評価方法**
授業中に紹介する。他に必要な資料はコピーして配布する。	出席と平常点を重視する。授業中に行う簡単なテストと期末試験の成績を総合して評価する。

02 年度以前	韓国語 I （講読）	担当者	金　貞我

講義目的、講義概要	授業計画
前期に引き続き、韓国語の基礎を勉強しながら、語彙を増やしていく。発音、会話などは授業中に集中して練習に取り組む。 韓国・朝鮮の歴史や日常文化、最近の映画などを紹介しながら、興味をもって言葉の習得ができる授業をめざす。講読・会話に重点をおく。	●授業の進め方 ９月：ハングルの習得と文法の基礎、前期の復習 １０月：文法の基礎と日常会話の練習 １１月：講読の練習 １２月：後期の復習と試験
テキスト、参考文献	**評価方法**
授業中に紹介する。他に必要な資料はコピーして配布する。	出席と平常点を重視する。授業中に行う簡単なテストと期末試験の成績を総合して評価する。

02 年度以前	韓国語Ⅱ（総合）	担当者	森　貞美

講義目的、講義概要	授業計画
韓国語の読解、会話、作文力を基盤に多様かつ実用的な表現力を身につけるため、それぞれについて毎時間くわしいプリントを作成配布し、学習を進めていく。また、韓国の文学（詩や小説）や映画、音楽などを題材に取り上げることで文化や芸術に関する理解を深めるとともに多様な表現力の習得をめざす。	1 回　本講義に対する紹介、概要説明 2～11 回　次のような内容を題材に読解・作文力の基礎を定着させる。 「誕生日」 「遺跡」 「旅行」 「登山」 「正月の風俗」 「民俗衣装」 「虎と干し柿」（民話） 12 回　期末試験
テキスト、参考文献	**評価方法**
「韓国語学習－基礎から完成までー」森　勇俊（プリント）	評価は原則として定期試験を基本に授業への取り組み方、出席状況等を含め、総合的に判定する。

02 年度以前	韓国語Ⅱ（総合）	担当者	森　貞美

講義目的、講義概要	授業計画
韓国語の読解、会話、作文力を基盤に多様かつ実用的な表現力を身につけるため、それぞれについて毎時間くわしいプリントを作成配布し、学習を進めていく。また、韓国の文学（詩や小説）や映画、音楽などを題材に取り上げることで文化や芸術に関する理解を深めるとともに多様な表現力の習得をめざす。	1 回～11 回　次のような内容の題材を取り上げ、読解・作文の学習を行っていく。 「農楽」 「端午」 「世宗大王」 「交通」 「記念日」 「手紙」 「済州島」 「牛になった怠け者」（民話） 「韓国の風俗」 「韓国の礼節」 「伝統芸能」 12 回　期末試験
テキスト、参考文献	**評価方法**
「韓国語学習－基礎から完成までー」森　勇俊（プリント）	評価は原則として定期試験を基本に授業への取り組み方、出席状況等を含め、総合的に判定する。

02 年度以前	韓国語Ⅱ（講読）	担当者	森　勇俊

講義目的、講義概要	授業計画
韓国語の多面的な会話表現力の定着をめざし、日本人が韓国で遭遇する様々な状況を設定し、臨機応変に対応できるように実際に使われる表現・文型などを身につけさせる。また、外国語は異文化の集積体であることを感得させ、背景となっている当該外国文化の諸相への関心と探求意欲を育てて行くことにも留意していく。スライド・ビデオ・テープ等の視聴覚教材を用い、韓国の歴史・文化・時事情報を題材に選び、多様で実用的な表現力を定着させていく。	1 回　本講義に対する紹介、概要説明 2～11 回　次のような内容を題材にクラスをいくつかのグループに分け、会話を交わす実演を通じて会話文を暗唱できるようにしていく。 「入国審査」 「外国人登録」 「両替」 「国際電話」 「地下鉄」 「ホテル」 「観光」 「名刺交換」 「伝統的行事」 12 回　期末試験
テキスト、参考文献	**評価方法**
「韓国語学習－基礎から完成までー」森　勇俊（プリント）	評価は原則として定期試験を基本に授業への取り組み方、出席状況等を含め、総合的に判定する。

02 年度以前	韓国語Ⅱ（講読）	担当者	森　勇俊

講義目的、講義概要	授業計画
韓国語の多面的な会話表現力の定着をめざし、日本人が韓国で遭遇する様々な状況を設定し、臨機応変に対応できるように実際に使われる表現・文型などを身につけさせる。また、外国語は異文化の集積体であることを感得させ、背景となっている当該外国文化の諸相への関心と探求意欲を育てて行くことにも留意していく。スライド・ビデオ・テープ等の視聴覚教材を用い、韓国の歴史・文化・時事情報を題材に選び、多様で実用的な表現力を定着させていく。	1～11 回　以下のような内容の題材を取り上げ、幅広い会話力の定着をめざす。 「出身地」 「伝言」 「ビザの延長」 「健康管理」 「演劇」 「予約」 「病状」 「余暇」 「韓国料理」 「忘れ物」 「観光地」 12 回　期末試験
テキスト、参考文献	**評価方法**
「韓国語学習－基礎から完成までー」森　勇俊（プリント）	評価は原則として定期試験を基本に授業への取り組み方、出席状況等を含め、総合的に判定する。

02 年度以前	社会学	担当者	圓岡　偉男

講義目的、講義概要	授業計画
本講義は＜社会学＞の入門として、社会学の基礎知識の習得を第一の目標とする。具体的には、社会学の代表的な学説の基礎理解をめざし、そして、そこから現代社会を理解するための基礎づくりを目標とする。代表的な学説には＜社会＞について考えられてきた学問の歴史が詰まっている。これらの理解は、深い＜社会理解＞のための基礎であると言える。さらに、この学説をふまえ＜現代社会＞を理解するための基礎づくりとして、具体的な事例の検討を行う。事例の内容は、福祉、家族、少年犯罪など現代日本社会で社会問題となっているものを適宜選択したい。	1　イントロダクション 2　社会学小史 3　社会的人間発達論 4　社会集団論 5　社会変動論 6　家族論 7　都市論 8　現代社会の諸問題(1) 9　現代社会の諸問題(2) 10　現代社会の諸問題(3) 11　現代社会の諸問題(4) 12　まとめ
テキスト、参考文献	評価方法
圓岡偉男編『社会学的問いかけ』新泉社。	出席、講義時に課す小レポート、定期試験を総合して評価する。

02 年度以前	社会学	担当者	圓岡　偉男

講義目的、講義概要	授業計画
本講義は現代社会の理解のため入門として、社会理解の基礎知識の習得を第一の目標とする。具体的には、社会学的な視点から現代社会を検討する。特に、ここでは＜現代日本社会＞で問題となっている事柄を社会学という学問水準で検討する。実際の事例を通して、＜現代社会＞を理解するための基礎づくりとしたい。取り上げる事例については、それぞれの特徴に従い解説や検討を加えるが、そこには、事例固有の問題だけではなく、＜現代社会＞について考えるための材料が詰まっている。これらの理解も含め、深い＜社会理解＞のための基礎づくりとしたい。事例の内容は、生と死、子どもの社会的発達、家族の諸問題、高齢化問題、障害をもった人にまつわる問題などを扱う。	1　イントロダクション 2　生と死１：(生きることの意味) 3　子どもの諸問題１（社会的人間発達） 4　子どもの諸問題２（児童虐待の現実） 5　家族の諸問題１（若者の結婚と離婚） 6　家族の諸問題２（少子化問題の背景） 7　障害者福祉の諸問題１（福祉の意味） 8　障害者福祉の諸問題２（障害者の自立） 9　高齢化社会の諸問題１（高齢者の介護） 10　高齢化社会の諸問題２（高齢者の生き甲斐） 11　生と死２：(再考・生きることの意味) 12　まとめ
テキスト、参考文献	評価方法
木戸功・圓岡偉男編『社会学的まなざし』新泉社。	出席、講義時に課す小レポート、定期試験を総合して評価する。

02 年度以前	心理学	担当者	増田　直衛

講義目的、講義概要	授業計画
心理学とはどんな学問なのでしょう。おそらく多くの人々にとっては、心理学というと TV や雑誌に登場してくる性格診断やフロイトの精神分析学を思いおこすと思います。もちろん、このような分野も心理学の一部ではありますが、それらはほんの一部分なのです。 心理学は人間や動物の行動を科学的に研究することで「心」を理解しようとしてきました。そして行動を個体と環境との相互作用としてとらえようとします。 ここでは、個体がいかに環境からの情報を得て行動しているのか、知覚・認知を中心に講義をします。 心理学 a（知覚・認知）のみでも完結した講義スタイルをとりますが、心理学 b（行動・個性）とあわせて受講すると理解は一層深まります。	1. ガイダンス　心理学では心をどのように理解しようとしたか 2. 個体と環境　心理学のもののとらえ方 3. 物理的世界と心理学的環境 4. 感覚の世界 5. 主観のものさし 6. まとまりのある知覚世界(1) 7. まとまりのある知覚世界(2) 8. 認知的判断 9. 判断と意志決定 10. 態度形成とダイナミクス 11. 社会的現実の構築 12. まとめ

テキスト、参考文献	評価方法
テキストは特に指定しません。 講義中に参考になる図書をそのつど紹介します。 手軽な入門書として以下の２冊を紹介します。 大山　正ほか（著）『心理学のあゆみ（新版）』有斐閣新書 野口　薫ほか（著）『心理学入門（新版）』有斐閣新書	定期テストと随時行う出席調査を兼ねる小レポートなどによります。

02 年度以前	心理学	担当者	増田　直衛

講義目的、講義概要	授業計画
心理学とはどんな学問なのでしょう。おそらく多くの人々にとっては、心理学というと TV や雑誌に登場してくる性格診断やフロイトの精神分析学を思いおこすと思います。もちろん、このような分野も心理学の一部ではありますが、それらはほんの一部分なのです。 心理学は人間や動物の行動を科学的に研究することで「心」を理解しようとしてきました。そして行動を個体と環境との相互作用としてとらえようとします。 ここでは、環境に適応して生きていくためにどのような行動するか、動物も含めて行動変容のダイナミズムを講義します。また、個性はどのように理解され、それはどのように測定されてきたかを考えます。 心理学 b（行動・個性）のみでも完結した講義スタイルをとりますが、心理学 a（知覚・認知）とあわせて受講すると理解は一層深まります。	1. ガイダンス　行動を理解するために 2. 環境への適応様式 3. 生得的行動・獲得的行動 4. 遺伝的に規定された行動 5. 行動の変容（１）レスポンデント行動 6. 行動の変容（２）オペラント行動 7. 行動分析学とその応用 8. 個性をどのように理解するか 9. パーソナリティをいかに測定するか 10. 知能をいかに測定するか 11. パーソナリティのダイナミクス 12. まとめ

テキスト、参考文献	評価方法
テキストは特に指定しません。 講義中に参考になる図書をそのつど紹介します。 手軽な入門書として以下の２冊を紹介します。 大山　正ほか（著）『心理学のあゆみ（新版）』有斐閣新書 野口　薫ほか（著）『心理学入門（新版）』有斐閣新書	定期テストと随時行う出席調査を兼ねる小レポートなどによります。

02 年度以前	歴史学（日本史）	担当者	新井　孝重

講義目的、講義概要	授業計画
◎　中世は人々の暮らしの中に、宗教が色濃く影を落とした時代であったといわれている。この講座では、平安末期の源平争乱で焼け落ちた東大寺と、これを再建した観進聖重源の活動を観ることによって、中世社会に果たした仏教の役割を考えたい。 （1）　東大寺を再建した男 （2）　重源の時代	（1） ・　炎上する東大寺 ・　誰の力に頼るか ・　重源の業績 ・　木材をどこから運ぶか ・　出現した大群衆 （2） ・　雨を突いて伊勢へ ・　重源の記憶 ・　法然と重源 ・　合戦の中の黒田荘（くろだのしょう） ・　天変地妖（てんぺんちよう）と飢餓・疫癘（えきれい） ・　源平合戦の余燼
テキスト、参考文献	**評価方法**
新井孝重『黒田悪党たちの中世史』（NHK ブックス）	出席状態 試験成績

02 年度以前	歴史学（日本史）	担当者	新井　孝重

講義目的、講義概要	授業計画
◎　中世は一揆の時代であるともいわれている。本講座では伊賀国の黒田荘に展開した中世後期の村の自治生活を、敵対する戦国大名の動きとの関係で観察する。地域の自治とは何か、という問題を通して民主主義の基礎を歴史的に考えたい。 （1）　戦乱の中の伊賀 （2）　自立する村 （3）　戦国のコンミューン	（1） ・　伊賀国の南北朝内乱 ・　錯綜する地侍の行動 （2） ・　大規模な合戦は続けられない ・　国人領主の出現 ・　自立する村 （3） ・　南都への志向 ・　悪党たち、起請文を提出 ・　タテの力とヨコの力 ・　惣国のコンミューン ・　内部の規律と「平和」 ・　織田信長軍、伊賀へ侵攻 ・　崩れ去る惣国・中世の黄昏
テキスト、参考文献	**評価方法**
新井孝重『黒田悪党たちの中世史』（NHK ブックス）	出席状態 試験成績

02 年度以前	歴史学（日本史）	担当者	丸浜　昭

講義目的、講義概要	授業計画
1945.8.15 に終わった戦争で、日本はどこに敗けたと思っているか。この戦争のことを、普通、何と呼ぶか。そもそもこの戦争は、いつ、どこで始まったのか。これらの問いへの答えをみると、日本人のこの戦争への認識が浮かび上がってくる。戦後 60 年を越えた今日でも、首相の靖国神社参拝にもみられるように、日本人のこの戦争への認識は多くの課題をかかえており、政治的な争点にもなっている。春は、現代との関わりを意識しながらこの戦争をとらえることを中心課題とする。 そのために、被害や加害の事実をしっかりとみたい。見るのがつらいところもあるが、ビデオをいくつか使う。そうして、教育や社会の状況も含めてこの戦争の全体像を考えてみたい。	1　8.15 に終わった戦争の呼称・相手をめぐって 2　真珠湾からか、コタバルからか 3　被害の問題①―空襲は何を示すか 4　被害の問題②―原爆投下をどうとらえるか 5　加害の問題①―731 部隊とは何か 6　加害の問題②―南京事件をどうとらえるか 7　加害の問題③―強制連行と従軍慰安婦 8　兵士と民衆①―日本軍隊の特徴をみる 10　兵士と民衆②―教育でどう兵士が育てられたか 11　兵士と民衆③―荷担と抵抗をめぐって 12　まとめとして―戦争の全体像を考える
テキスト、参考文献	**評価方法**
授業の中で紹介する	定期試験の時間の中で、論述の形式で試験を実施する 出欠等による平常点をいくらか加味する予定

02 年度以前	歴史学（日本史）	担当者	丸浜　昭

講義目的、講義概要	授業計画
「15 年戦争」は、戦後 60 年を越えた今日でも、日本と中国、韓国の間で問題になっているように、日本の社会に大きな課題を残している。そこには、戦争そのものの問題だけでなく、戦後史のさまざまな局面の中でこの戦争がどうとらえられ、どう処理されてきたか、ということがからんでいる。たとえば、戦後の日米関係が賠償問題や日本人の戦争認識に大きな影響を与えてきた事実がある。今もなお、中国や韓国・朝鮮の人々から戦後補償が求められる背景には、この戦後の歴史がある。 秋は、戦後の出来事を取り上げて、戦争の実相もふり返りながら、日本の政府が、また民衆が、この戦争をどうとらえどう対処し、どのような課題を残してきたのか考えてみたい。	1　沖縄戦が私たちに投げかけたこと 2　本土決戦と日本の戦争の終わり方 3　日本国憲法はどう生まれたか 4　サンフランシスコ講和のもった問題 5　内外での補償・賠償をめぐって 6　日本とドイツの戦後補償 4　東京裁判をめぐって 7　日韓条約はなぜ 1965 年に結ばれたか 8　日中国交回復への道のり 9　「731 部隊展」の取り組みが意味したこと 10　アジアの民衆からの戦後補償要求 11　戦後 50 年の国会決議をめぐって 12　過去の戦争と現代の戦争
テキスト、参考文献	**評価方法**
授業の中で紹介する	定期試験の時間の中で、論述の形式で試験を実施する 出席点等による平常点をいくらか加味する予定

02 年度以前	歴史学（東洋史）	担当者	熊谷　哲也

講義目的、講義概要	授業計画
（講義の目的） 西アジアの歴史について講述する。イスラーム世界の歴史を知ることにより、彼らが何を規範とし、何に価値を置き、何を理想として求めてきたかを考えてみたい。 （講義概要） 7 世紀における預言者ムハンマドの出現から 16 世紀にいたるまでの歴史を概観し、イスラーム教が拡大して広大なイスラーム世界が形成されるまでを理解する。宗教、社会、文化についての基本的な知識も学ぶ。	1　イスラームにかんする基本事項について説明する。オリエンテーションをかねる。 2　イスラーム教の誕生以前の世界について考える。 3　預言者ムハンマド（マホメット）の出現と、その時代背景について考える。 4　最初の４人のカリフ（正統カリフ）の時代について。第一次内乱、シーア派の出現を理解。 5　ウマイヤ朝の歴史。ヴェルハウゼンの古典理論における「アラブ帝国」の意味を検討する。 6　アッバース朝の歴史。「アラブ帝国」から「イスラーム帝国」への移行の意味を検討する。 7　啓示の書であるコーラン、預言者の言行録であるハディース、それらの解釈をめぐって。 8　アッバース朝時代から発達したアラビア科学と、中世におけるイスラーム神秘主義。 9　アッバース朝の弱体化に伴い、各地に出現した軍事政権とその展開について概観する。 10　マムルーク朝について。とくにイクター制が西欧の封建制と比較される点を検討する。 11　ヨーロッパ世界とイスラーム世界との関係。レコンキスタ、十字軍、大航海時代など。 12　同　その２
テキスト、参考文献	**評価方法**
とくにさだめない。授業で指示する。	毎回出席をとる。期末にレポート。

02 年度以前	歴史学（東洋史）	担当者	熊谷　哲也

講義目的、講義概要	授業計画
（講義の目的） イスラームは今日の国際情勢を読むための主要なキーワードであるが、その鍵を解くためにも、彼らの歴史を理解することはとても大切である。皆さんの視野が広がることを目標とする。 （講義概要） 後期はイスラーム世界の近代化の歴史を地域別・テーマ別に考察する。今日イスラームがかかわるさまざまな国際関係についても，理解が深められるよう留意したい。	1　オスマン朝の成立と発展について。「完成されたイスラーム国家」の定義も検討する。 2　欧米列強による帝国主義とイスラーム世界とのさまざまな関係について概述する。 3　西洋の衝撃によってイスラーム世界の内部にあらわれた改革運動の起こりとその内容。 4　さまざまなイスラーム改革運動、ネオ・スーフィズムなどの問題について考える。 5　エジプトの近代化とその過程について。考える。 6　トルコの近代化とその過程について。トルコナショナリズムとパン・イスラミズムの理解。 7　近代化がイスラーム世界の人々の生活と信仰におよぼした影響とゆくえについて考察する。 8　知識人階層であるウラマー、宗教的寄進であるワクフなど、イスラーム社会について検討。 9　近・現代のアラブ世界の文化について考える。 10　今世紀のイスラーム世界について考える。マイノリティーの問題もとりあげる。 11　現在のアラブ諸国のかかえる問題，東西冷戦終結後における欧米諸国との関係を考える。 12　まとめをおこなう
テキスト、参考文献	**評価方法**
とくにさだめない。授業で指示する。	毎回出席をとる。期末にレポート。

02 年度以前	哲学	担当者	谷口　郁夫

講義目的、講義概要	授業計画
「哲学」と聞くと、難解な学問だと思われるかも知れませんが、実は非常に身近な学問です。というのも、私たちが問うのは、「人を愛するというのはどういうことなのか」、「なぜ人を愛するのか」、「自己自身であるとはどういうことなのか」、「自由とは何か」などという問題だからです。今学期は特にこれらの問題について考えたいと思います。著名であり、なおかつ比較的易しい哲学文献を読みながら、ともに考えるという講義形式になりますので、受講する場合には自分自身の問題として考える姿勢で臨んでください。	1. プラトンの『饗宴』における《エロース》の概念について 2. 引き続き、エロースについて 3. 引き続き、エロースについて 4. フォイエルバッハの『キリスト教の本質』を取り上げます 5. 前回の続き 6. レッシング『ヨハネの遺言』 7. ワルター・トロビッシュ『自分自身を愛する』を取り上げます 8. 前回の続き 9. サルトルの『実存主義とは何か』を取り上げ、「主体的であること」「自由であること」などについて考えます 10. 上の問題を時代とのかかわりに重点を置いて考える予定です 11. 前回の続き 12. 春学期のまとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
講義中に資料を配布します	試験を行ないます

02 年度以前	哲学	担当者	谷口　郁夫

講義目的、講義概要	授業計画
思想はその生き方に反映します。どのような生き方をしたかを見れば、その人がどのような考え方・価値観を持っていたかがわかります。このような観点から、今学期は、ソクラテス、キルケゴール、ニーチェの生涯をその思想と関連させながら、見ていきます。 《注》春学期と継続的に受講する必要はありません	1. ソクラテスの生涯、プラトンの著作に描かれたソクラテスの言動 2. 前回の続き――『ソクラテスの弁明』 3.前回の続き――『クリトン』 4. 前回の続き――『パイドン』 5. キルケゴールの生涯――婚約破棄を中心に 6. キルケゴールの思想[1] 7. キルケゴールの思想[2] 8. キルケゴールの思想[3] 9. ニーチェの生涯 10. ニーチェの思想――神の死 11. ニーチェの思想――ニヒリズムの問題永遠回帰と超人 12. ニーチェの思想――永遠回帰と超人
テキスト、参考文献	**評価方法**
講義中に資料を配布します	試験を行ないます

02 年度以前	哲学	担当者	松丸　壽雄

講義目的、講義概要	授業計画
〔講義目的〕 実地に現代の諸問題の根元を把握し、これらの諸問題に対処する立場と方法を検討し、解決の可能性をディスカッションを通して思索する。実践的な応用哲学を学習する。みずから問題の根源を見つけだし、みずから考究する態度を身につけるべく、課題が与えられて、それを小グループで討議し、解決の方向を検討する講義である。 〔講義概要〕 春学期はさまざまな角度から、愛の問題を扱う。つまり、恋愛から家族愛、社会愛、人類愛などの問題を考える。 ただし、ディスカッションはディベートではない。相手を議論で打ち負かすゲームではない。そうではなく、先ず第一に、相手の言うことを「相手の立場」で理解できることができるようにすることが大事である。その時に大事なことは「我を忘れる」ほどに、相手の立場になる努力をして、相手の話を理解することである。次に、自分の考えを、相手が理解できるようにするには、どういう仕方で伝えることができるかを考えながら、話すことである。その時に大事なことは、やはり相手の立場から見たら、自分はどのように理解されることになるのかを感じ取りながら、自分の中にあるアイデアを表現する努力である。従って、自分の考えを押し付けるような形で、ここでのディスカッションは成立しないことをこの機会に体得することになる。	1　概要説明 2　グループ分け 3　「愛」についての哲学思想 4　小グループディスカッション 5　全体ディスカッション 6　「愛」についてのヴィデオ（1）と説明 7　小グループディスカッション 8　全体ディスカッション 9　「愛」についてのヴィデオ（2）と説明 １０　小グループディスカッション １１　全体ディスカッション １２　調整日 〔受講生への要望〕 ディスカッションにまじめに参加する気のない学生はこの授業を登録しても無意味である。したがって、ディスカッションを遊びに思っている参加者はこの授業を取るべきではない。
テキスト、参考文献	**評価方法**
適宜指示	出席状況（ディスカッションの出席が不足すれば単位は取れない）とレポート

02 年度以前	哲学	担当者	松丸　壽雄

講義目的、講義概要	授業計画
〔講義目的〕 実地に現代の諸問題の根元を把握し、これらの諸問題に対処する立場と方法を検討し、解決の可能性をディスカッションを通して思索する。実践的な応用哲学を学習する。みずから問題の根源を見つけだし、みずから考究する態度を身につけるべく、課題が与えられて、それを小グループで討議し、解決の方向を検討する講義である。 〔講義概要〕 秋学期期はさまざまな角度から、生死の問題を扱う。 ディスカッションにまじめに参加する気のない学生はこの授業を登録しても無意味である。ディスカッションはディベートではない。相手を議論で打ち負かすゲームではない。そうではなく、先ず第一に、相手の言うことを「相手の立場」で理解できることができるようにすることが大事である。その時に大事なことは「我を忘れる」ほどに、相手の立場になる努力をして、相手の話を理解することである。次に、自分の考えを、相手が理解できるようにするには、どういう仕方で伝えることができるかを考えながら、話すことである。その時に大事なことは、やはり相手の立場から見たら、自分はどのように理解されることになるのかを感じ取りながら、自分の中にあるアイデアを表現する努力である。従って、自分の考えを押し付けるような形で、ここでのディスカッションは成立しないことをこの機会に体得することになる。	1　概要説明 2　グループ分け 3　「生きる」についてのヴィデオ（1）と説明 4　小グループディスカッション 5　全体ディスカッション 6　「生きる」についてのヴィデオ（2）と説明 7　小グループディスカッション 8　全体ディスカッション 9　「生きる」についてのヴィデオ（3）と説明 １０　小グループディスカッション １１　全体ディスカッション １２　調整日 〔受講生への要望〕 これは単なる講義ではなく、ディスカッションをまじめに行う限り成立するものである。ただ単位をとるために参加することは意味がないので、真剣にものを考え、しかも他の参加者とそれを共有するつもりのある人だけが参加できる。
テキスト、参考文献	**評価方法**
適宜指示	ディスカッションへの出席点。および、レポートの内容。レポートは、真剣に考えたかどうかを、私の判断によって評価する。

02 年度以前	文学（日本文学）	担当者	佐藤　毅

講義目的、講義概要	授業計画
〔講義目標〕 現代日本におけるベストセラーの傾向と特色を分析することで、現代人がどのような世界に住み、どのような世界を望んでいるか考察する。 〔講義概要〕 現代文学のベストセラーを詳細に分析する。春学期は「恐怖の現代文学」と題して、恐怖や苦悩を扱った作品をブックレビューし、その本質に迫る。 〔受講生への要望〕 講義で紹介した作品は、できるだけ読破してほしい。読書の必要性とか重要性ではなく、読書の楽しみを伝えて行くことが目的なので、とにかく楽しんでほしい。	恐怖の現代文学 ①　恐怖の現代文学のアウトライン ②　③　④ 伝統的手法による恐怖の造形 荒俣宏。京極夏彦。坂東眞砂子。ほか。 ⑤　⑥ 超自然的事象の題材からの造形 梅原克文。鈴木光司。瀬名秀明。ほか。 ⑦　⑧ 心理学的な題材からの造形 貴志祐介。桐野夏生。ほか。 ⑨　⑩ 社会派ミステリー 宮部みゆき。東野圭吾。ほか。 ⑪　⑫ スプラッター。パズラー。ほか。 ⑬以降 総集編
テキスト、参考文献	**評価方法**
その都度紹介する。	出席。レポート。定期試験。

02 年度以前	文学（日本文学）	担当者	佐藤　毅

講義目的、講義概要	授業計画
〔講義目標〕 現代日本におけるベストセラーの傾向と特色を分析することで、現代人がどのような世界に住み、どのような世界を望んでいるか考察する。 〔講義概要〕 現代文学のベストセラーを詳細に分析する。秋学期は「癒しの現代文学」と題して、癒しややさしさを扱った作品をブックレビューし、その本質に迫る。 〔受講生への要望〕 講義で紹介した作品は、できるだけ読破してほしい。読書の必要性とか重要性ではなく、読書の楽しみを伝えて行くことが目的なので、とにかく楽しんでほしい。	癒しの現代文学 ①　癒しの現代文学のアウトライン ②　③　④　⑤ 人間関係による癒しの造形 【家族編・友人編・恋人編】 重松清。恩田陸。浅田次郎。市川拓司。村上龍。 村上春樹。ほか。 ⑥　⑦ 日常のリセットによる癒しの造形 庄司薫。宮本輝。山田詠美。ほか。 ⑧　⑨ 笑いによる癒しの造形 奥田英朗。佐藤多佳子。ほか。 ⑩　⑪ タイムスリップによる癒しの造形 北村薫。浅田次郎。佐藤正午。宮部みゆき。ほか。 ⑫ 美しい生き方による癒しの造形 藤沢周平。浅田次郎。ほか。 ⑬以降 総集編
テキスト、参考文献	**評価方法**
その都度紹介する。	出席。レポート。定期試験。

02 年度以前	文学（日本文学）	担当者	福沢　健

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的 　日本の古典文学史は、上代（奈良）・中古（平安）・中世（鎌倉・室町）・近世（江戸）の五つの時代に区分される。限られた時間の中でこの全ての時代のテクストを取り扱うことは不可能なので、春学期は奈良時代の文学テクストについて講義する。 講義概要 　奈良時代の文学テクストの代表的なものは、古事記・万葉集・風土記である。この中で、興味が持てそうなストーリーを持った、古事記・風土記に載せられている神話・伝説を取り扱う。具体的には、古事記のヤマタノヲロチ神話・風土記の水江の浦島子の伝説を題材として、上代と現代の人々の考え方（特に自然観）の違いについて話をしていきたい。それに際して、同一のテーマを扱った現代のファンタジーの作品として、宮崎駿の「もののけ姫」についても扱うことを予定している。 　なお、前年度の「文学ａ（日本文学－上代から中古前期）とは内容が重なるものなので、受講できない。	1はじめに 2ヤマタノヲロチ神話を読む① 3ヤマタノヲロチ神話を読む② 4ヤマタノヲロチ神話を読む③ 5宮崎駿「もののけ姫」を見る① 6宮崎駿「もののけ姫」を見る② 7宮崎駿「もののけ姫」を見る③ 8ギルガメシュ叙事詩を読む 9水江の浦島子伝説を読む① 10 水江の浦島子伝説を読む② 11 水江の浦島子伝説を読む③ 12 まとめ 授業時に配布したプリントは、 http://www.geocities.jp/nofukuzawa に載せてあります。休んだ人は、そこからダウンロードしてください。
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト　特になし 参考文献　授業時に指示する	試験・レポート・出席の総合点によって決める。

02 年度以前	文学（日本文学）	担当者	福沢　健

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的 　日本の古典文学史は、上代（奈良）・中古（平安）・中世（鎌倉・室町）・近世（江戸）の五つの時代に区分される。限られた時間の中でこの全ての時代のテクストを取り扱うことは不可能なので、秋学期は平安時代の文学テクストについて講義する。 講義概要 　平安時代の文学テクストの代表的なものは、古今和歌集・伊勢物語。枕草子・源氏物語・平家物語である。この中で、古今和歌集・枕草子は時間の関係上取り扱わない。取り扱う作品は、伊勢物語における業平の二つの罪、源氏物語における光源氏の罪、平家物語における平清盛の罪についての物語である。この三つの物語を通して、中古と現代の人々の考え方（特に罪についての考え方）の違いについて話をしていきたい。 　なお、前年度の「文学ｂ（日本文学－中古後期から現代）とは内容が重なるものなので、受講できない。	1はじめに 2伊勢物語を読む① 3伊勢物語を読む② 4伊勢物語を読む③ 5源氏物語を読む① 6源氏物語を読む② 7源氏物語を読む③ 8源氏物語を読む④ 9平家物語を読む① 10 平家物語を読む② 11 平家物語を読む③ 12 まとめ 授業時に配布したプリントは、 http://www.geocities.jp/nofukuzawa に載せてあります。休んだ人は、そこからダウンロードしてください。
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト　特になし 参考文献　授業時に指示する	試験・レポート・出席の総合点によって決める。

02 年度以前	文学（世界文学）	担当者	野々山　ミチコ

講義目的、講義概要	授業計画
近代スペイン文学の名作を解説する。 最後にドン・キホーテも解説する。	1　短篇集　「イワシの埋葬から」ベッケル 2　アソリン 3　アソリン 4　アソリン 5　クラリン 6　クラリン 7　ロルカ 8　ロルカ 9　ドン・キホーテ 10　ドン・キホーテ 11　〃 12　〃
テキスト、参考文献	**評価方法**
野々山　真輝帆編「イワシの埋葬」 ロルカはプリントを用いる。 セルバンテス「ドン・キホーテ」前篇（岩波文庫）	出席とレポートによる。

02 年度以前	文学（世界文学）	担当者	野々山　ミチコ

講義目的、講義概要	授業計画
ラテンアメリカ文学の二つの大きな流れ、モデルニズモと魔術的レアリズモの生んだ名作を解説する。	1　短篇集から　ルベン・ダリオ 2　アマード・ネルボ 3　クレメンテ・パルマ 4　バレット 5　キローガ 6　キローガ 7　キローガ 8　オネッティ 9　アレオラ 10　カルペンティエール・コルタサル（プリント） 11　ボルヘス（岩波文庫） 12　ボルヘス（　〃　）
テキスト、参考文献	**評価方法**
野々山　真輝帆編「ラテンアメリカ短篇集」 ボルヘス「伝奇集」	出席とレポートによる。

02 年度以前	国語	担当者	梅津　正樹

講義目的、講義概要	授業計画
日本語の音声表現によるコミュニケーション技術を獲得する為の基礎を習得する。 日本語（国語）教育では「読む」「書く」「聴く」「話す」を中心に課程が組まれて来た。これらは、「読む」「書く」を重点に文字言語表現（書きことば）を基本とし、その内容把握（理解）を目標としている。しかし、今日の複雑な社会環境で社会人に必須とされるのは、音声表現（はなしことば）によるコミュニケーション能力である。 本講義では、その基本となる発音・発声・アクセント・イントネーション・更に敬語等のことばと表現について学ぶ。 毎講義、実践を主体にする為、受講者数に限度を設ける。	1　オリエンテーション 「ことばと人間」 2　自然な発音・発声 「母音」トレーニング 3　自然な発音・発声 「子音」トレーニング 4　自然な発音・発声 「鼻濁音・拗音・促音・長音・無声化」 5　自然な発音・発声 「総合トレーニング」 6　アクセントの型と種類 「名詞・形容詞・動詞のアクセント」 7　自然なイントネーション 8　敬語 「用法と実践」 9　話して伝える基本 「話を組みたてる」 10　話して伝える基本 「説明する」実践 11　話して伝える基本 「スピーチ」実践 12　気をつけたい表現 「曖昧表現・若者ことば・慣用句」
テキスト、参考文献	**評価方法**
随時配布	毎回の出席、課題の提出・実践

02 年度以前	国語	担当者	梅津　正樹

講義目的、講義概要	授業計画
日本語の音声表現によるコミュニケーション技術を習得する。 日本語（国語）教育では「読む」「書く」「聴く」「話す」を中心に課程が組まれて来た。これらは、「読む」「書く」を重点に文字言語表現（書きことば）を基本とし、その内容把握（理解）を目標としている。しかし、今日の複雑な社会環境で社会人に必須とされるのは、音声表現（はなしことば）によるコミュニケーション能力である。 本講義では、話して伝える能力・対話する能力・読んで伝える能力を習得する。 従って、春学期を受講した上での参加が望ましい。 毎講義、実践を主体にする為、受講者数に限度を設ける。	1　スピーチの実践 「即座にまとまった話をする」 2　リポートの実践 「内容把握と伝達」 3　聴く力 「インタビュー実践」 4　話すと読む 「読んで伝えること」 5　文に則したイントネーション 6　文意と「間」「速さ」「呼吸」 7　意味のつながりと「卓立」「抑揚」「強弱」 8　意味のつながりと句読点/表現技術の復習 9　短文を読む 「告知文」 10　朗読 「随筆」 11　朗読 「小説」 12　読んで伝える 「まとめ」
テキスト、参考文献	**評価方法**
随時配布	毎回の出席、課題の提出・実践

02 年度以前	国語	担当者	佐藤　毅

講義目的、講義概要	授業計画
〔講義目標〕 メールはその簡便性から一般化されてきた。その簡便性ゆえに日本語の持つ叙情性や心配りが失われつつある。本講義では、暗号のようなメールのやり取りから抜け出して、心を打つ手紙、メールの本質に迫る。 〔講義概要〕 手紙文の定型。先人の書簡の分析、鑑賞。手紙を重要なアイテムとした小説の鑑賞。美しいメール作法。 〔受講生への要望〕 連続する授業ですので、やむを得ず休んだ場合は、必ずノートを補っておいてください。	①　②　③ 手紙文の約束。 拝啓ー時候の挨拶ー本文ー敬具ー（追伸）まで。 ④　⑤ 時候の挨拶と季節感 ⑥　⑦ 著名人の手紙鑑賞、解説。 ⑧　⑨ 手紙を題材にした小説の鑑賞 ⑩　⑪　⑫ メール作成の問題点 ⑬以降 添削指導
テキスト、参考文献	**評価方法**
その都度指示します。	出席。レポート。定期試験。

02 年度以前	国語	担当者	佐藤　毅

講義目的、講義概要	授業計画
〔講義目標〕 現代の話し言葉は、ギャル語、若者言葉、おやじ言葉などに代表されるように、それぞれの世代で区分されコミュニケーションの断絶を生んでいる。世代を越えて理解しあえる話し言葉を学びながら、そこに込められた日本人の知恵と繊細さを学び、心に届くことばの本質を考える。 〔講義概要〕 流行語と世相の相関関係を見ながら、現代の世代間ギャップを埋める話し言葉を模索する。学生生活でのことばの問題だけでなく、就職試験の面接に代表されるような世代間のコミュニケーションに役立つ自己表現としての話し言葉について考える。 〔受講生への要望〕 連続する授業ですので、やむを得ず休んだ場合は、必ずノートを補っておいてください。	①　②　③　④ 流行語の変遷（流行語大賞の分析） ⑤　⑥ 若者言葉の問題（世代語についての考察） ⑦ 放送コードの問題 ⑧ 共通語の理想と現実 【実践編】 ⑨ 心を開かせる挨拶のしかた ⑩　⑪　⑫ ３分間スピーチの実践 ⑬以後 総集編
テキスト、参考文献	**評価方法**
その都度指示します。	出席。レポート。定期試験。

02 年度以前	国語	担当者	長野　隆之

講義目的、講義概要	授業計画
ことばは、ことばだけであるものではない。会話をしようとするとき、文章を書こうとするとき、まず、その前に何を話すのか、何を書くのか、その材料となるべきものがなくてはならない。ここでは、我々の身のまわりにある「何でもない事柄」が、どのように記録の対象となり記述されていったのかを検討することによって、自らが話し、書く前提を考えていきたい。	1　ガイダンス 2　生活文化の枠組み 3　情報の蒐集と共有化 4　創作としての読解 5～9　民俗誌を読む 10　民俗調査の方法－観察 11　民俗調査の方法－サーヴェイ・聞き書き 12　民俗調査の方法－記録・カード化
テキスト、参考文献	**評価方法**
授業時に指示。	出欠とレポート

02 年度以前	国語	担当者	長野　隆之

講義目的、講義概要	授業計画
ことばは、発せられてこそ役割を果たす。せっかく調査し、理解したものも、表現されなければ意味を持たない。ここでは、身のまわりで発見した普段見過ごしがちな「何でもない事柄」を主題化し、その理解、記述することによって、ことばの理解と表現を体感したい。	1　記述の意義 2　情報の整理・分析 3　記述の方法 4　主題と構成 5～9　民俗誌を書く 10　批評 11　推敲と校正 12　まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
授業時に指示。	出欠とレポート

02 年度以前	国語	担当者	長野　隆之

講義目的、講義概要	授業計画
生活史とは、集団や社会を把握することを目的として、ひとりの個人の全生涯、もしくは半生を記録したものである。 ことばは、コミュニケーションにおいて、もっとも有効に活用される手段である。それは、他者の理解と自己の表現の仲立ちとして、ことばが使われているということでもある。ここでは、コミュニケーションにおけるもっとも基礎となる他者の理解を、生活史をテキストとして考えてみたい。	1　ガイダンス 2　読解と想像 3　読解と創造 4　生活史とは何か 5　生活史を読むー日記 6　生活史を読むー個人史 7　生活史を読むー民俗誌(1) 8　生活史を読むー民俗誌(2) 9　生活史を読むー個人史と社会史 １０　観察の方法 １１　聞き書きの方法(1) １２　聞き書きの方法(2)
テキスト、参考文献	**評価方法**
授業時に指示。	出欠とレポート

02 年度以前	国語	担当者	長野　隆之

講義目的、講義概要	授業計画
会話であれ、作文であれ、人がことばを発するとき、通常は、情報の蒐集→理解・分析→構成・表現の順でおこなわれる。ここではそれをふまえて、特定の個人を選び、インタビューによって情報を蒐集し、その個人の社会背景を文献資料等によって理解をし、そして、それを文章として表現する、すなわち、個人の生活史を編むことによって、ことばの理解と表現を体感したい。	1　表現とは何か 2　表現の方法 3　用字法 4　表現の工夫 5　文章の種類 6　文章の書き方 7　生活史を書くー情報の蒐集 8　生活史を書くー情報の整理・分析 9　生活史を書くー主題と構成 １０　批評 １１　推敲と校正 １２　まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
授業時に指示。	出欠とレポート

02 年度以前	国語	担当者	福沢　健

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的 　言語の４技能として、「読む」「書く」「話す」「聞く」がある。この授業では、特に「書く」技能の向上を目指す。 講義概要 　「書く」ことには、さまざまな場面が想定されるが、特に大学生活において必須となる論文の書き方について練習する。この練習を通して、客観的に事物を説明し、根拠を示して自らの考えを述べることができる能力の育成を行う。 　具体的には、まず、日本語検定３級程度の問題演習を行いながら基本的な文章能力を向上させる。その後に、その成果をふまえつつ、基本的な形式を備えた短い論文を作成し、論文の形式について理解させる。	１はじめに ２表現の方法①（５Ｗ１Ｈ） ３表現の方法②（文を短く切る） ４意見文を書く①（文が持つ役割） ５意見文を書く②（事実の報告、意見） ６意見文を書く③（事実の報告、意見、意見の正しさの論証） ７意見文を書く④（事実の報告、問題提起、提起された問題の解答） ８論文を書く①（序論） ９論文を書く②（本論①） 10 論文を書く③（本論②、結論） 11 レポート提出 12 まとめ 授業時に配布したプリントは、 http://www.geocities.jp/nofukuzawa に載せてあります。休んだ人は、そこからダウンロードしてください。
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト　特になし 参考文献　授業時に指示する	試験・レポート・出席の総合点によって決める。

02 年度以前	国語	担当者	福沢　健

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的 　言語の４技能として、「読む」「書く」「話す」「聞く」がある。この授業では、特に「話す」技能の向上を目指す。 講義概要 　「話す」ことには、さまざまな場面が想定されるが、特に人前で自分の意見を述べるプレゼンテーションについて練習する。この練習を通して、人前に出て自らの意見をわかりやすく述べることができる能力の育成を行う。 　具体的には、まず、発声練習として朗読を行う。次に、プレゼンテーションの技術について、ビデオを見ながら学習する。さして、その成果を踏まえたかたちで発表を行う。	１はじめに ２発声練習 ３朗読① ４朗読② ５朗読③ ６プレゼンテーションの理論① ７プレゼンテーションの理論② ８プレゼンテーションの理論③ ９発表① 10 発表② 11 発表③ 12 まとめ 授業時に配布したプリントは、 http://www.geocities.jp/nofukuzawa に載せてあります。休んだ人は、そこからダウンロードしてください。
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト　特になし 参考文献　授業時に指示する	試験・レポート・出席の総合点によって決める。

02 年度以前	地球環境論	担当者	鈴木　滋

講義目的、講義概要	授業計画
人類が直面し、避けて通ることの出来ない地球環境問題は自然・環境・人間の相互関係の上で発生している。 この講義の目的は、地球科学・環境資源科学・一般科学技術の立場からその内容を把握すると共に、自然科学の持つ客観的な物の見方を養うことである。 我々の環境は目まぐるしく変化している。その状況を地球規模で、タイムリーに的確に理解するためには、地球環境を自然科学的側面から捉えることが必要である。 この講義では、地球環境の変化とその要因として、地球誕生後の地球環境の変遷とその自然的および人為的要因について検討する。また、地球環境問題に対する地球環境の位置づけや地球規模の問題として環境と資源がどのような因果関係にあるのか考察する。	1　オリエンテーション：授業概要等の説明 2　地球環境とは何か？　今、何が起っているのか？ 3　地球環境の歴史 4　地球環境の構造等：地球という惑星について 5　地球環境と地球システム 6　地球環境と資源（I）：資源の特性 7　地球環境と資源（II）：エネルギー 8　地球環境と材料：地球材料学とは 9　地球環境と科学技術：科学技術は地球環境に何をもたらしたか？ １０　環境：地球環境と広域・地域環境との比較 １１　地球環境問題概論 １２　まとめ 備考：授業の進度により若干の変更がある
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト：特に指定しない。必要に応じてプリントを配布する。 **参考文献：**講義内容によって、適時指示する。	基本的には定期試験による。

02 年度以前	地球環境論	担当者	鈴木　滋

講義目的、講義概要	授業計画
人類が直面し、避けて通ることの出来ない地球環境問題は自然・環境・人間の相互関係の上で発生している。 この講義の目的は、地球科学・環境資源科学・一般科学技術の立場からその内容を把握すると共に、自然科学の持つ客観的な物の見方を養うことである。 地球環境問題は国際的な文化・経済・社会等に大きな影響を与えている。この問題を理解し、把握することは、グローバルなものの見方を養うと共に、地球環境の保全に欠かせないと思われる。 この講義では、地球環境問題と環境保全として、地球環境問題各論を中心に、地球温暖化、オゾン層破壊、酸性雨などの地球環境に生じる具体的現象、その原因と影響ならびに対策について環境論および資源論を交えて検討する。	1　オリエンテーション：授業概要等の説明 2　地球環境問題各論（I）：地球温暖化(a) 3　地球環境問題各論（I）：地球温暖化(b) 4　地球環境問題各論（I）：オゾン層破壊(a) 5　地球環境問題各論（I）：オゾン層破壊(b) 6　地球環境問題各論（II）：酸性雨 7　地球環境問題各論（II）：海洋汚染 8　地球環境問題各論（II）：有害廃棄物の越境移動 9　地球環境問題各論（III）：砂漠化、森林減少 １０　地球環境問題各論（III）：野生生物（種）の減少、開発途上国等の環境（公害）問題など １１　地球環境の保全：環境と開発、文化・経済・社会等の今後のあり方など １２　まとめ 備考：授業の進度により若干の変更がある
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト：特に指定しない。必要に応じてプリントを配布する。 **参考文献：**講義内容によって、適時指示する。	基本的には定期試験による。

02 年度以前	地理学	担当者	秋本　弘章

講義目的、講義概要	授業計画
地理学の扱う内容は多岐にわたるが，本講義では、人間の居住環境が人間にとってどのような意義をもっているのかという視点から、世界の地理を概観し、地理的な知識と地理的見方・考え方を身につけることを目的とする。まず、地理学における主要な概念や方法を説明する。その上で、人間の活動の舞台である自然環境について学習する。自然環境にもとづいて地域区分を行い、地域ごとに自然的基盤とそこで繰り広げられている人々の生活様式を説明する。まとめとして、世界の環境問題について、具体的な問題をとりあげ、地球的視点から検討する。	1　オリエンテーション 2　自然と人間とのかかわり 3　環境の諸要素（1） 4　環境の諸要素（2） 5　環境の諸要素（3） 6　熱帯地域（1）―自然的特質と伝統的農業 7　熱帯地域（2）―アジアの稲作 8　熱帯地域（3）―熱帯の開発と問題（1） 9　熱帯地域（4）―熱帯の開発と問題（2） 10　砂漠地域（1）―自然的特質とイスラム 11　砂漠地域（2）―石油資源と近代化 12　前期のまとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
山本正三（他）著『自然環境と文化』原書房 参考文献は授業中に示す	定期試験および出席状況

02 年度以前	地理学	担当者	秋本　弘章

講義目的、講義概要	授業計画
地理学の扱う内容は多岐にわたるが，本講義では、人間の居住環境が人間にとってどのような意義をもっているのかという視点から、世界の地理を概観し、地理的な知識と地理的見方・考え方を身につけることを目的とする。まず、地理学における主要な概念や方法を説明する。その上で、人間の活動の舞台である自然環境について学習する。自然環境にもとづいて地域区分を行い、地域ごとに自然的基盤とそこで繰り広げられている人々の生活様式を説明する。まとめとして、世界の環境問題について、具体的な問題をとりあげ、地球的視点から検討する。	1　温帯地域（1）自然的特質 2　温帯地域（2）地中海森林地域 3　温帯地域（3）温帯混交林地域（ヨーロッパ） 4　温帯地域（4）温帯混交林地域（アジア） 5　温帯地域（5）新大陸 6　冷帯地域 7　冷帯地域・寒帯地域 8　山地地域 9　世界の環境問題（1）人口 10　世界の環境問題（2）食料 11　世界の環境問題（3）温暖化と砂漠化 12　まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
山本正三（他）著『自然環境と文化』大明堂 参考文献は授業中に示す	定期試験および出席状況

02 年度以前	地理学	担当者	犬井　正

講義目的、講義概要	授業計画
地理学の扱う内容は多岐にわたるが、本講義では、人間の居住環境が人間にとってどのような意義をもっているのかという視点から、世界の諸地域を概観し、地理的な知識と地理的見方・考え方を身につけることを目的とする。まず、環境の諸要素を概観し、熱帯地域、沙漠地域、亜寒帯針葉樹林地域を取り上げ、人間の活動の舞台である自然環境と、そこで繰り広げられている人々の生活様式を説明する。	1. オリエンテーション－地理学とは 2. 環境の諸要素(1) 気候環境 3. 環境の諸要素(2)緯度帯別降水量・蒸発量・気温 4. 環境の諸要素(3) 植生 5. 熱帯地域(1)熱帯林と伝統的生活様式 6. 熱帯地域(2)熱帯林の開発と環境問題 7. 熱帯地域(3)熱帯林の保全 8. 沙漠地域(1)　自然的・文化的特色と伝統的経済活動 9. 沙漠地域(2)　石油資源と近代化、沙漠の開発 10. 亜寒帯森林地域(1)タイガの中の生活 11. 亜寒帯森林地域(2)タイガの開発と保全 12. まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
山本正三他著『自然環境と文化－改訂版』原書房	定期試験等

02 年度以前	地理学	担当者	犬井　正

講義目的、講義概要	授業計画
地理学の扱う内容は多岐にわたるが、本講義では、人間の居住環境が人間にとってどのような意義をもっているのかという視点から、世界の諸地域を概観し、地理的な知識と地理的見方・考え方を身につけることを目的とする。まず、地形環境を概観し、山地地域、地中海森林地域、温帯草原地域、温帯混合林地域を取り上げ、人間の活動の舞台である自然環境と、そこで繰り広げられている人々の生活様式を説明し、自然生態系と社会生態系の枠組みを理解する。	1．環境の諸要素－地形環境 2．山地地域(1)　山地の自然環境 3．山地地域(2)　高度帯の利用と伝統的生業 4．山地地域(3)　山地資源の開発と観光化 5．地中海森林地域の特性 6．地中海地域の生活様式－西欧文化の原点 7．温帯草原地域の自然特性 8．温帯草原地域の開発と環境問題 9．温帯混合林地域(1) 高密度都市化地域の特性 10. 温帯混合林地域(2) 産業革命と都市域の拡大 11. 世界の環境問題－自然生態系と社会生態系の概念 12. まとめ　自然環境の保全と保護
テキスト、参考文献	**評価方法**
山本正三他著『自然環境と文化－改訂版』原書房	定期試験等

01 年度～02 年度 00 年度以前	スポーツ・健康論 a スポーツ・健康論	担当者	和田　智

講義目的、講義概要	授業計画
健康・生涯スポーツの創造へ向けて、自己のライフステージや心身の状態に適した運動・スポーツを生活の中に取り入れて、健康で活力あふれる豊かなライフスタイルを形成するための能力を身につけてほしい。そのために、健康、生涯スポーツの考え方、実践の仕方を学んでもらいたい。 春学期にはわれわれを取り巻く、自由時間、健康問題スポーツなどの現状を把握し、文化的視点からその考え方、価値について考えてもらいます。 秋学期は、春学期で学んだ考え方を実践に移してもらうため、健康つくりやトレーニングについて科学的視点から実践的ノウハウを学んでもらいます。 積極的に講義支援システムほか、インターネットを利用しますのでブラウザを操作する、メールを送る、ワープロで文書が作成できる等の知識が必要です。わからなければ授業時間外で教えますから気軽に質問に来てください。 授業で質問の受付、アンケートへの回答等に携帯電話を利用します。	1　オリエンテーション 2　自由時間とは 3　生活時間の構成と自由時間の現状 4　自由時間をすごす能力「森と老人」 5　現代における自由時間の意味 6　古典的解釈から知るレジャー 7　QOL 8　多様な価値観について 9　生き方の例　その１ 10　生き方の例　その２ 11　あなたのライフデザイン 12　まとめ

テキスト、参考文献	評価方法
中野孝次、「清貧の思想」、草思社 ミヒャエル・エンデ、「モモ」、岩波書店	出席状況（４０％）、学期末試験の結果（４０％）、クイズ・レポート（２０％）

01 年度～02 年度 00 年度以前	スポーツ・健康論 b スポーツ・健康論	担当者	和田　智

講義目的、講義概要	授業計画
健康・生涯スポーツの創造へ向けて、自己のライフステージや心身の状態に適した運動・スポーツを生活の中に取り入れて、健康で活力あふれる豊かなライフスタイルを形成するための能力を身につけてほしい。そのために、健康、生涯スポーツの考え方、実践の仕方を学んでもらいたい。 春学期にはわれわれを取り巻く、自由時間、健康問題スポーツなどの現状を把握し、文化的視点からその考え方、価値について考えてもらいます。 秋学期は、春学期で学んだ考え方を実践に移してもらうため、健康つくりやトレーニングについて科学的視点から実践的ノウハウを学んでもらいます。 積極的に講義支援システムほか、インターネットを利用しますのでブラウザを操作する、メールを送る、ワープロで文書が作成できる等の知識が必要です。わからなければ授業時間外で教えますから気軽に質問に来てください。 授業で質問の受付、アンケートへの回答等に携帯電話を利用します。	1　オリエンテーション 2　自分の体について正しく知ろう 身長・体重・体脂肪率 3　身体計測の結果から 4　肥満 5　運動しない現代生活 6　運動と栄養　ダイエット・サプリメント 7　運動と栄養　いろいろな健康法 8　トレーニングの基本 9　エアロビクストレーニングについて　その１ 10　エアロビクストレーニングについて　その２ 11　筋力トレーニング 12　まとめ

テキスト、参考文献	評価方法
特になし	出席状況（４０％）、学期末試験の結果（４０％）、クイズ・レポート（２０％）

02 年度以前	体育(インラインスケート)	担当者	和田　智

講義目的、講義概要	授業計画
[講義の目標] 　インラインスケートについての知識、技術の習得。これによって、各個人の自由時間をインラインスケートを用いて豊かにすることを目標にしたいと思います。初めは慣れない道具で不自由さに戸惑うかもしれませんが、これを使った時に体が自由に動く感覚を経験することで、自分の新たな可能性に気づくことでしょう。インラインスケートは、舗装された平面があればどこでも楽しめます。自転車と同じような感覚で楽しめれば良いと思います。そのためには安全とモラルが大切になるでしょう。 [講義概要] 　インラインスケートについての知識、技術の習得を毎回の授業の中で行います。内容は、安全知識、危険回避、基本テクニック、応用テクニック、メンテナンスについてです。学生の進歩状況・天候によって、授業計画は変えていきます。 [受講者への要望] 　自分の靴、プロテクター等があれば利用してください。大学では、２２センチから２８センチまでの靴とリストガード、エルボーパッド、ニーパッドを準備してあります。必要に応じてヘルメットも貸すことができます。初心者から受講して下さい。	1 オリエンテーション　インラインスケートとは 2 用具合わせ　立ち方・歩き方・とまり方 3 滑ることに慣れよう： フォアストローク（前方滑走）とバリエーション 4 滑ることに慣れよう： フォアストローク（前方滑走）とバリエーション 5 からだを動かしてみよう： フォアストローク（前方滑走）とバリエーション 6 からだを動かしてみよう： フォアストローク（前方滑走）とバリエーション 7 自由にからだを動かしてみよう： フォアストローク（前方滑走）とバリエーション 8 自由にからだを動かしてみよう： フォアストローク（前方滑走）とバリエーション 9 後ろ向きになれよう：バックストローク（後方滑走）とバリエーション 10 後ろ向きになれよう：バックストローク（後方滑走）とバリエーション 11 後ろ向きになれよう： バックストローク（後方滑走）とバリエーション 12 後ろ向きになれよう：バックストローク（後方滑走）とバリエーション
テキスト、参考文献	**評価方法**
必要に応じて印刷物を配布します。	出席と受講態度、技術の向上度、実技テスト

02 年度以前	体育(インラインスケート)	担当者	和田　智

講義目的、講義概要	授業計画
[講義の目標] 　インラインスケートについての知識、技術の習得。これによって、各個人の自由時間をインラインスケートを用いて豊かにすることを目標にしたいと思います。初めは慣れない道具で不自由さに戸惑うかもしれませんが、これを使った時に体が自由に動く感覚を経験することで、自分の新たな可能性に気づくことでしょう。インラインスケートは、舗装された平面があればどこでも楽しめます。自転車と同じような感覚で楽しめれば良いと思います。そのためには安全とモラルが大切になるでしょう。 　秋学期は、技術のバリエーションを体験してもらいます。 [講義概要] 　インラインスケートについての知識、技術の習得を毎回の授業の中で行います。内容は、安全知識、危険回避、基本テクニック、応用テクニック、メンテナンスについてです。学生の進歩状況・天候によって、授業計画は変えていきます。 [受講者への要望] 　自分の靴、プロテクター等があれば利用してください。大学では、２２センチから２８センチまでの靴とリストガード、エルボーパッド、ニーパッドを準備してあります。必要に応じてヘルメットも貸すことができます。初心者から受講して下さい。	1 久しぶりにインラインスケート 2 自由な動き作り：カーブ 3 自由な動き作り：いくつかの種類のターン 4 自由な動き作り：いくつかの種類のターン 5 自由な動き作り：いくつかの種類のターン 6 自由な動き作り：フォアクロス 7 自由な動き作り：フォアクロス 8 自由な動き作り：バッククロス 9 自由な動き作り：バッククロス 10 インラインホッケー・実技テスト 11 インラインホッケー・実技テスト 12 インラインホッケー・実技テスト・まとめ インラインホッケーは、練習途中で適宜取り入れます。
テキスト、参考文献	**評価方法**
必要に応じて印刷物を配布します。	出席と受講態度、技術の向上度、実技テスト

02 年度以前	体育(ゴルフ)	担当者	山中　邦夫

講義目的、講義概要	授業計画
[講義の目標] 　ゴルフの基礎技術を実習し、あわせて基礎戦術およびルール、マナーについても理解することによって、本コースでのプレーが楽しめるレベル獲得をめざす。 [講義概要] 　ゴルフの理論と実際の技能とのギャップを最小化できるよう、毎時の内容を工夫しながら展開する。まず、全体の動きづくりをめざし、リズミカルなスイング、さらには力強いスイングが出きるよう、グループ練習、VTR を用いた分析等を用いた授業となる。 [受講者への要望] 欠席をしないこと。初心者または初級者の受講を望む。 靴はスニーカーまたはゴルフシューズを持参のこと。	1 オリエンテーション 2 ゴルフ競技の概要（VTR と講義） 3 スイング、グリップ、スタンスについて （学内グランドで実習） 4 スイング、グリップ、スタンスについて （学内グランドで実習） 5 スイング（各種のクラブを用いて）の基本練習 ターゲットバードゴルフも行なう。 6 スイング（各種のクラブを用いて）の基本練習 ターゲットバードゴルフも行なう。 7 スイング（各種のクラブを用いて）の基本練習 ターゲットバードゴルフも行なう。 8（学外の練習場で）　VTR と練習器を用いての個人指導と各種クラブでの打撃練習。(主に 9 番アイアン) 9（学外の練習場で）　VTR と練習器を用いての個人指導と各種クラブでの打撃練習。(　〃　) 10（学外の練習場で）　VTR と練習器を用いての個人指導と各種クラブでの打撃練習。(　〃　) 11（学外の練習場で）　VTR と練習器を用いての個人指導と各種クラブでの打撃練習。(主に 7 番アイアン) 12（学外の練習場で）　VTR と練習器を用いての個人指導と各種クラブでの打撃練習。(　〃　)
テキスト、参考文献	**評価方法**
	授業の出席状況、技能と理論のテストを総合して評価する。

02 年度以前	体育(ゴルフ)	担当者	山中　邦夫

講義目的、講義概要	授業計画
[講義の目標] 　ゴルフの基礎技術を実習し、あわせて基礎戦術およびルール、マナーについても理解することによって、本コースでのプレーが楽しめるレベル獲得をめざす。 [講義概要] 　ゴルフの理論と実際の技能とのギャップを最小化できるよう、毎時の内容を工夫しながら展開する。まず、全体の動きづくりをめざし、リズミカルなスイング、さらには力強いスイングが出きるよう、グループ練習、VTR を用いた分析等を用いた授業となる。 [受講者への要望] 欠席をしないこと。初心者または初級者の受講を望む。 靴はスニーカーまたはゴルフシューズを持参のこと。	1（学外の練習場で）VTR と練習器を用いての個人指導と各種クラブでの打撃練習。(主に 5 番アイアン) 2（学外の練習場で）VTR と練習器を用いての個人指導と各種クラブでの打撃練習。(　〃　) 3（学外の練習場で）VTR と練習器を用いての個人指導と各種クラブでの打撃練習。(主にドライバー、スプーン) 4（学外の練習場で）VTR と練習器を用いて個人指導と各種クラブでの打撃練習。(　〃　) 5（学外の練習場で）VTR と練習器を用いて個人指導と各種クラブでの打撃練習。(　〃　) 6（学外の練習場で）VTR と練習器を用いての個人指導と各種クラブでの打撃練習。(主に 9、7、5 番アイアン) 7（学外の練習場で）VTR と練習器を用いて個人指導と各種クラブでの打撃練習。(　〃　) 8（学外の練習場で）VTR と練習器を用いての個人指導と各種クラブでの打撃練習。(　〃　) 9 実技テスト：ショートアイアン（約 80m 先のグリーンをねらい、まっすぐ安定したボールが打てれば合格）　：ロングアイアンまたはドライバー　（まっすぐ安定したボールが打てれば合格） 10 実技テスト：ショートアイアン（約 80m 先のグリーンをねらい、まっすぐ安定したボールが打てれば合格）　：ロングアイアンまたはドライバー　（まっすぐ安定したボールが打てれば合格） 11 実技テスト：ショートアイアン（約 80m 先のグリーンをねらい、まっすぐ安定したボールが打てれば合格）　：ロングアイアンまたはドライバー　（まっすぐ安定したボールが打てれば合格） 12 実技テスト：ショートアイアン（約 80m 先のグリーンをねらい、まっすぐ安定したボールが打てれば合格）　：ロングアイアンまたはドライバー　（まっすぐ安定したボールが打てれば合格）
テキスト、参考文献	評価方法
	授業の出席状況、技能と理論のテストを総合して評価する。

02 年度以前	体育（ゴルフ）	担当者	吉田　卓司

講義目的、講義概要	授業計画
[講義の目標] ゴルフは、老若男女を問わず容易にできる楽しいスポーツである。基本的な正しい知識や技術が上達の近道であると考えている。ゴルフプレーを通して、社会性やルールを遵守する態度を学び、正しい余暇活動の利用について習得する。 [講義概要] ゴルフ競技をするにあたり、ゴルフの歴史、ゴルフ用具や服装、エチケットについて講義する。次に、基本的技術をビデオにより学習する。クラブの握り方、グリップとスタンスの方法を習得すると同時に正しいアドレス、正しいスイングの方法を反復練習により、フォームを作る。第 7 週までは、学内でプラスティック・ボールを使用して、打球する。第 8 週からゴルフ練習場にて、実習する。 [受講者への要望] 運動のできる服装で出席すること。手袋を必ず購入すること（汗でグリップがすべり、クラブが飛んでしまう危険性があるため）	1 オリエンーション 2 ゴルフの歴史と正しいマナーについて 3 基本的技術のビデオ学習 4 ショートアイアン（8、9、PW、SW）のスウィング（グリップ、スタンス、アドレス、スウィングの方法を習得する） 5 学内でプラスティック・ボールを使用して実習 6 各人の個別指導（正しいグリップ、スタンスの巾、正しいアドレスの入り方、スウィングの方法） 7 各人の個別指導（正しいグリップ、スタンスの巾、正しいアドレスの入り方、スウィングの方法） 8 ゴルフ練習場にて実習（ショートアイアン、ミドルアイアンの基本的なスウィングと打球） 9（反復練習） 10（個別指導：グリップ、スタンス、アドレス、スウィングのフォームなどのチェック 11（個別指導：グリップ、スタンス、アドレス、スウィングのフォームなどのチェック） 12（個別指導：グリップ、スタンス、アドレス、スウィングのフォームなどのチェック）
テキスト、参考文献	**評価方法**
	出席を重視し、普段の履修態度や運動服装等も評価の対象とする。

02 年度以前	体育（ゴルフ）	担当者	吉田　卓司

講義目的、講義概要	授業計画
[講義の目標] ゴルフは、老若男女を問わず容易にできる楽しいスポーツである。基本的な正しい知識や技術が上達の近道であると考えている。ゴルフプレーを通して、社会性やルールを遵守する態度を学び、正しい余暇活動の利用について習得する。 [講義概要] ゴルフ競技をするにあたり、ゴルフの歴史、ゴルフ用具や服装、エチケットについて講義する。次に、基本的技術をビデオにより学習する。クラブの握り方、グリップとスタンスの方法を習得すると同時に正しいアドレス、正しいスイングの方法を反復練習により、フォームを作る。第 7 週までは、学内でプラスティック・ボールを使用して、打球する。第 8 週からゴルフ練習場にて、実習する。 [受講者への要望] 運動のできる服装で出席すること。手袋を必ず購入すること（汗でグリップがすべり、クラブが飛んでしまう危険性があるため）	1 ゴルフ練習場にて実習 2 アイアンショット（3、5、7、9、PW、SW）（個別指導とフォームのチェック） 3 １番ウッド（ドライバー）3 番ウッド（スプーン）の打法と練習 4 ロングアイアン（3、4）ショット練習 5 ロングアイアン（3、4）ショット練習 6 個人個人のスウィングをチェック指導 7 個人個人のスウィングをチェック指導 8 個人個人のスウィングをチェック指導 9 個人個人のスウィングをチェック指導 10 テスト（アイアン、及びウッド）及び実習 11 テスト（アイアン、及びウッド）及び実習 12 テスト（アイアン、及びウッド）及び実習
テキスト、参考文献	**評価方法**
	出席を重視し、普段の履修態度や運動服装等も評価の対象とする。テストは、アイアンとウッドについて実施する。

02 年度以前	体育(サッカー)	担当者	松本　光弘

講義目的、講義概要	授業計画
[講義の目標] 　サッカーの技術、戦術を中心に学習し、ゲームを通して活動量を確保し体力の向上を目標とする。内容的にはより高度なレベルを追求したく、サッカーが特に得意又は好きという学生の参加を希望する。又、自主的にチームを作り活動ができるよう主体的な学習ができるようになることも目標とする。 [講義概要] 　サッカーの技術及び戦術を各時間学習し、そのまとめとして毎時間ゲームを行う。雨天時には体育館でミニサッカーを行うか、教室にて VTR を利用した講義を行う。 [受講者への要望] ゴム底のスパイクシューズ、ストッキング、ショートパンツの用意を希望する。	1 オリエンテーション 2 体力測定、技能測定、簡単なゲーム 3 技術練習とハーフゲーム 4 〃 5 〃 6 ルールの解説（雨天時に割り当てる） 7 個人戦術とハーフゲーム又はフルゲーム 8 〃 9 〃 10 グループ戦術とハーフゲーム又はフルゲーム 11 〃 12 サッカーの歴史（雨天時に割り当てる

テキスト、参考文献	評価方法
[テキスト]「サッカースキル　(技術と戦術)」松本光弘著　学習研究社「サッカーのテクニック」　スピンドラー著　松本光弘訳　ベースボールマガジン社[参考文献]　『イングランド・サッカー教程』アラン・ウェイド著　浅見俊雄訳ベースボールマガジン社	出席状況を重視し、平常の授業態度及び技能の進歩度を含め総合的に評価する。

02 年度以前	体育(サッカー)	担当者	松本　光弘

講義目的、講義概要	授業計画
[講義の目標] 　サッカーの技術、戦術を中心に学習し、ゲームを通して活動量を確保し体力の向上を目標とする。内容的にはより高度なレベルを追求したく、サッカーが特に得意又は好きという学生の参加を希望する。又、自主的にチームを作り活動ができるよう主体的な学習ができるようになることも目標とする。 [講義概要] 　サッカーの技術及び戦術を各時間学習し、そのまとめとして毎時間ゲームを行う。雨天時には体育館でミニサッカーを行うか、教室にて VTR を利用した講義を行う。 [受講者への要望] ゴム底のスパイクシューズ、ストッキング、ショートパンツの用意を希望する。	1 グループ戦術とハーフゲーム又はフルゲーム 2 〃 3 〃 4 特殊戦術とフルゲーム 5 〃 6 グループ戦術、チーム戦術とフルゲーム 7 〃 8 〃 9 〃 10 〃 11 〃 12 フルゲーム、評価

テキスト、参考文献	評価方法
[テキスト]「サッカースキル　(技術と戦術)」松本光弘著　学習研究社「サッカーのテクニック」　スピンドラー著　松本光弘訳　ベースボールマガジン社[参考文献]　『イングランド・サッカー教程』アラン・ウェイド著　浅見俊雄訳ベースボールマガジン社	出席状況を重視し、平常の授業態度及び技能の進歩度を含め総合的に評価する。

02 年度以前	体育(サッカー)	担当者	松原　裕

講義目的、講義概要	授業計画
［講義の目標］ 　運動を通じて、第１番目には、目の前に展開する事象への多面的な理解と適切な対応の選択、第２番目には、集団行動での基本的なルールを尊重した上で個人個人が積極的に授業参加する態度の育成、第３番目には、生涯に渡る健康観の構築、第４番目には、定期的に運動する習慣の獲得を目標とする。 ［講義概要］ 　サッカーを教材とする。サッカーの攻守の切替の中で自然に瞬間的な判断と行動を繰り返し行い、身に付ける。サッカーの試合のルールを充分に理解し、プレーヤーとして、審判として、コーディネーターとして、と関係する役割全てを交代で行う。基本的なことから試合までをビルドアップしていく。 ［受講者への要望］ フェアな態度、団体行動、試してみる勇気。 各自でサッカーにふさわしいシューズと服装を用意すること。	1 オリエンテーション　　個人票の作成 　授業実施上の諸注意 2 受講決定の確認と個人票の写真提出 　トレーニングルームの講習と登録 　授業実施場所の確認 3 ボールコントロール 4 簡易のゲーム 5　　〃 6 競技規則、審判法の理解 7 正規のゲーム 8　　〃 9 ポジションの理解 10 正規のゲーム 11　　〃 12　　〃 ＊コートが使用できない場合には、教室にて講義を行うか場所を変更して実技を行うかになります。
テキスト、参考文献	**評価方法**
必要に応じて紹介する。	毎時間の出欠席、受講態度、期間中の技術の向上度などを総合して評価する。

02 年度以前	体育(サッカー)	担当者	松原　裕

講義目的、講義概要	授業計画
[講義の目標] 　運動を通じて、第１番目には、目の前に展開する事象への多面的な理解と適切な対応の選択、第２番目には、集団行動での基本的なルールを尊重した上で個人個人が積極的に授業参加する態度の育成、第３番目には、生涯に渡る健康観の構築、第４番目には、定期的に運動する習慣の獲得を目標とする。 [講義概要] 　サッカーを教材とする。チームとしての攻守の切替の中で自然に個人の瞬間的な判断と行動を繰り返し行い身に付ける。レベルに応じてサッカーの試合の楽しみ方を考える。プレーヤーとして、審判として、コーディネーターとして、と関係する役割全てを交代で行う。基本的なことから試合の進め方までをビルドアップしていく。 [受講者への要望] フェアな態度、団体行動、試してみる勇気。 各自でフットサルにふさわしいシューズと服装を準備すること。	1 オリエンテーション　個人票の作成 2 受講決定の確認　個人票の写真提出 3 簡易のゲーム 4 班分け・班別練習 5 リーグ戦① 6 リーグ戦② 7 リーグ戦③ 8 リーグ戦④ 9 リーグ戦⑤ 10 リーグ戦⑥ 11 リーグ戦⑦ 12 リーグ戦⑧ ＊コートが使用できない場合には、教室にて講義を行うか場所を変更して実技を行うかになります。
テキスト、参考文献	**評価方法**
必要に応じて紹介する。	毎時間の出欠席、受講態度、期間中の技術の向上度などを総合して評価する。

02 年度以前	体育(サッカー)	担当者	檜山　康

講義目的、講義概要	授業計画
[講義の目標] スポーツには、歴史的、系統的に発展してきた種目独自の運動文化が存在する。運動文化としてのルール、戦術、それらをとりまく社会環境というものは、人間が長い歴史の中で試行錯誤を重ねながら作り上げてきた。この授業では、サッカーを学びながら、独自の運動文化に触れ、サッカー本来の楽しさに触れることを目標としたい。 [講義概要] ゲームを中心に行っていくが、その準備段階において技術、戦術を発展させられるようなハンドリングゲームや予備ゲームをとりいれていく。つまり技術、戦術を個別に取り出して練習するのではなく、常にゲームを意識して、ゲーム形式の中で実際に体を動かして学習してもらいたいと考えている。また参加者の意見を積極的に出してもらい、有効なゲームの進め方について考える場にしたいと思っている。 [受講者への要望] 1. 遅刻はしないようにする。特にチームで行動するので他人に迷惑がかかる。 2. 服装はスポーツのできるものを身につけること。 3. アクセサリー、ピアスは外すこと。	1. オリエンテーション。 2. ボールに慣れること。試しのゲーム。 3. １対１の守備。 4. １対１の攻撃。 5. オフザボールの動き。 6. ボールを持っていない選手に対する守備。 7. パス＆コントロール。 8. ゴール前での守備。 9. ゴール前での攻撃。 10. フルコートでのゲーム。リーグ戦。 11. フルコートでのゲーム。リーグ戦。 12. フルコートでのゲーム。リーグ戦。
テキスト、参考文献	**評価方法**
特に指定しない。	授業への出席を重視する。加えて参加態度、意欲などを加味する。実技試験、レポートなどを課す場合もある。

02 年度以前	体育(サッカー)	担当者	檜山　康

講義目的、講義概要	授業計画
[講義の目標] スポーツには、歴史的、系統的に発展してきた種目独自の運動文化が存在する。運動文化としてのルール、戦術、それらをとりまく社会環境というものは、人間が長い歴史の中で試行錯誤を重ねながら作り上げてきた。この授業では、サッカーを学びながら、独自の運動文化に触れ、サッカー本来の楽しさに触れることを目標としたい。 [講義概要] ゲームを中心に行っていくが、その準備段階において技術、戦術を発展させられるようなハンドリングゲームや予備ゲームをとりいれていく。つまり技術、戦術を個別に取り出して練習するのではなく、常にゲームを意識して、ゲーム形式の中で実際に体を動かして学習してもらいたいと考えている。また参加者の意見を積極的に出してもらい、有効なゲームの進め方について考える場にしたいと思っている。 [受講者への要望] 1. 遅刻はしないようにする。特にチームで行動するので他人に迷惑がかかる。 2. 服装はスポーツのできるものを身につけること。 3. アクセサリー、ピアスは外すこと。	1. 積極的にボールを奪う守備 2. ビルドアップ。 3. CF を使った崩し。 4. サイドでの有効な突破 5. 攻撃的に進めながらカウンターを受けない守備 6. カウンターアタック 7. 高い位置でのプレッシャー 8. プレッシャーの中でのフィニッシュ。 9. チームごとの課題練習。リーグ戦①。 10. リーグ戦② 11. リーグ戦③ 12. リーグ戦④
テキスト、参考文献	**評価方法**
特に指定しない。	授業への出席を重視する。加えて参加態度、意欲などを加味する。実技試験、レポートなどを課す場合もある。

02 年度以前	体育(スポーツエクササイズ)	担当者	梶野　克之

講義目的、講義概要	授業計画
心身ともに健康な生涯を送るためには、積極的な身体運動が必要な時代を向かえている。日常生活の中に能動的な活動を取り入れる態度を養い、健康な生活を視野の入れた考え方を確立したい。健康であるための条件である運動・食事・環境なども考え、適正な運動量を設定して実行できるようにする。 自己の体力の現状を認識し、その段階的な向上を目標にトレーニング・プログラムを作成する。目標を設定して定期的に実行し、全体的な体力について考える。	1、オリエンテーション　年間授業計画の説明　実施上の諸注意 2．トレーニングルームの使い方　体力測定について 3．トレーニングの理論と実践　筋力について（1） 4．トレーニングの理論と実践　筋力について（2） 5．トレーニングの理論と実践　筋力について（3） 6．トレーニングの理論と実践　最大酸素摂取量について（1） 7．トレーニングの理論と実践　最大酸素摂取量について（2） 8．トレーニングの理論と実践　最大酸素摂取量について（3） 9．トレーニングの理論と実践　筋持久性について（1） 10．トレーニングの理論と実践　筋持久性について（2） 11．トレーニングの理論と実践　筋持久性について（3） 12．トレーニングの理論と実践　体力測定及び評価
テキスト、参考文献	**評価方法**
宮下充正　「トレーニングの科学的基礎」 ブックハウス HD	授業への参加態度、トレーニングの達成度等により決定する。

02 年度以前	体育(スポーツエクササイズ)	担当者	梶野　克之

講義目的、講義概要	授業計画
心身ともに健康な生涯を送るためには、積極的な身体運動が必要な時代を向かえている。日常生活の中に能動的な活動を取り入れる態度を養い、健康な生活を視野に入れた考え方を確立したい。健康であるための条件である運動・食事・環境なども考え、適正な運動量を設定して実行できるようにする。 自己の体力の現状を認識し、その段階的な向上を目標にトレーニング・プログラムを作成する。目標を設定して定期的に実行し、全体的な体力について考える。	1．トレーニングの理論と実践　食事について（1） 2．トレーニングの理論と実践　食事について（2） 3．トレーニングの理論と実践　食事について（3） 4．トレーニングの理論と実践　体力測定及び評価 5．トレーニングの理論と実践　心拍数について（1） 6．トレーニングの理論と実践　心拍数について（2） 7．トレーニングの理論と実践　心拍数について（3） 8．トレーニングの理論と実践　歩行について（1） 9．トレーニングの理論と実践　歩行について（2） 10．トレーニングの理論と実践　ジョギングについて（1） 11．トレーニングの理論と実践　ジョギングについて（2） 12．トレーニングの理論と実践　体力測定及び評価
テキスト、参考文献	**評価方法**
宮下充正　「トレーニングの科学的基礎」 ブックハウス HD	授業への参加態度、トレーニングの達成度等により決定する。

02 年度以前	体育（ソフトボール）	担当者	池垣　功一

講義目的、講義概要	授業計画
［講義の目標］ 　正しいソフトボールの理解と、技術を体得するとともに、チームプレーを通して人間性を養う機会とし、さらに、生涯体育の一環として、楽しく実践していく態度を身につける。 ［講義概要］ 　前半は個人技術中心の練習内容とし、後半からチームを編成して、チームごとの練習ならびに試合に移る。 ［受講者への要望］ 　雨天時およびグランド・コンディションの悪い時には、空いている体育施設での実施または教室内でのビデオによる学習に切り替えることがある。	1. 年間スケジュールおよび履修上の諸注意 　ソフトボールの特質、ルール等について説明 2. キャッチボール 　（ソフトボールに適したボールの握り方、フォーム） ピッチング（スリングショット投法） トスバッティング 3. ピッチング（スリングショット投法の復習および ウインドミル投法） ハーフバッティング 4. 守備練習（基本的なゴロと飛球の捕り方） フリーバッティング 5. 守備練習（各ポジションの守備方法）　シートノック 6. 審判の方法についての説明　　チームの編成（1） （ポジション・打順を決める）　練習試合 7. チーム練習（シートノック）　　試合　A～B C～D 8. チーム練習（トスバッティング）　試合　A～C B～D 9. チーム練習（バント）　　試合　A～D B～C 10. チーム編成（2）　チーム練習（ダブルプレー） 試合　E～F G～H 11. チーム練習（シートノック）　　試合　E～G F～H 12. チーム練習（バント）　　試合　E～H F～G
テキスト、参考文献	**評価方法**
	評価は、出席点に技能点（努力・服装・態度等）を加味して行う。

02 年度以前	体育（ソフトボール）	担当者	池垣　功一

講義目的、講義概要	授業計画
［講義の目標］ 　正しいソフトボールの理解と、技術を体得するとともに、チームプレーを通して人間性を養う機会とし、さらに、生涯体育の一環として、楽しく実践していく態度を身につける。 ［講義概要］ 　試合を主とした展開となるが、適宜、チームごとにテーマを決めたチーム練習を加える。 ［受講者への要望］ 　雨天時およびグランド・コンディションの悪い時には、空いている体育施設での実施または教室内でのビデオによる学習に切り替えることがある。	1. 総合的練習　　審判方法の復習 2. 総合的練習　　スコアブックのつけ方について説明 3. チーム編成（3）（以下、3 試合ごとに編成をかえる） 練習試合 4. チーム練習（毎週、チームごとにテーマを決めて実施） 試合　I ～J K～L 5. チーム練習　　試合　I ～K J～L 6. チーム練習　　試合　I ～L J～K 7. チーム編成（4） チーム練習　　試合　M～N O～P 8. チーム練習　　試合　M～O N～P 9. チーム練習　　試合　M～P N～0 10. チーム編成（5） チーム練習　　試合 Q～R S～T 11. チーム練習　　試合　Q～S R～T 12. チーム練習　　試合　Q～T R～S
テキスト、参考文献	**評価方法**
	評価は、出席点に技能点（努力・服装・態度等）を加味して行う。

02 年度以前	体育(ソフトボール)	担当者	萩野　元祐

講義目的、講義概要	授業計画
[講義の目標] 基本的練習により、個人的技能、集団的技能を高め、より高いゲーム展開ができることを目指す。またそのなかで、ソフトボールを楽しむということも目標のひとつである。 [講義概要] 初心者から中級者に合わせる内容であり、個人的技能、集団的技能練習の内容は、基本練習中心で展開される。また、ゲームを通して、ソフトボールの特性や、技術、戦術を高める。 [受講者への要望] 技術力はともかくとして、ソフトボールに興味があり真剣に取り組み、そして楽しんでもらいたい。	1 オリエンテーション 登録の確認と授業内容の説明。個人資料の作成など。 2 ソフトボールの特性、基本的ルールなどの説明。個人的技能練習。ボールの握り方、送球、捕球の基本練習 3 前回の復習 ゲームの実施 4 バッティング練習（握り方、スタンス、位置、構え方、スイング）　リーグ戦 5 前回の復習。リーグ戦 6 リーグ戦 7 守備における送球、捕球（ゴロ、フライ）練習 リーグ戦 8 前回の復習 リーグ戦 9 リーグ戦 10 リーグ戦 11 リーグ戦 12 リーグ戦
テキスト、参考文献	評価方法
	出席点を基本として評価。授業態度、技術の向上などを加味する。欠席時数 1/3 回以上の者については評価の対象としない。特別な理由以外の遅刻は認めない。

02 年度以前	体育(ソフトボール)	担当者	萩野　元祐

講義目的、講義概要	授業計画
[講義の目標] 基本的練習により、個人的技能、集団的技能を高め、より高いゲーム展開ができることを目指す。またそのなかで、ソフトボールを楽しむということも目標のひとつである。 [講義概要] 初心者から中級者に合わせる内容であり、個人的技能、集団的技能練習の内容は、基本練習中心で展開される。また、ゲームを通して、ソフトボールの特性や、技術、戦術を高める。 [受講者への要望] 技術力はともかくとして、ソフトボールに興味があり真剣に取り組み、そして楽しんでもらいたい。	1 基本練習。 リーグ戦 2 基本練習。 リーグ戦 3 集団技能（守備）、リレープレーを練習。 リーグ戦 4 前回の復習。 リーグ戦 5 リーグ戦 6 リーグ戦 7 リーグ戦 8 リーグ戦 9 リーグ戦 10 リーグ戦 11 リーグ戦 12 リーグ戦
テキスト、参考文献	**評価方法**
	出席点を基本として評価。授業態度、技術の向上などを加味する。欠席時数 1/3 回以上の者については評価の対象としない。特別な理由以外の遅刻は認めない。

02 年度以前	体育(ソフトボール)	担当者	太田　朝博

講義目的、講義概要	授業計画
[講義の目標] ソフトボールは、走る、投げる、打つ等の運動の基本的要素を持ち、スピード、正確さ、力、機敏さ、注意力、判断力、勇気等を基礎としたスポーツである。その基本技術を身につけ、互いに協力し合い、安全にスポーツを楽しみながら、体力の維持、増進の一助とすることを目標に行なう。 [講義概要] 個人的技能と集団的技能を交互に繰り返し、正しいスローイング、バッティング、キャッチングを身につけ、チームプレーに於ける連携プレーの習得を目指し授業を展開し、ゲームを通し攻守のプレーを個々に確認していく。	1 オリエンテーション 2 個人的技能　基本技能　キャッチング 3 スローイング　1 対 1 での正確な技能の修得 バッティング　ノックとトスバッティング 4 フリーバッティング正確なキャッチングと スローイング、バッティングをしっかり身につける 5 ピッチング 6 集団的技能　連携プレー攻撃＝バント及び ヒットエンドラン 7 タッチアッププレー守備＝フォースプレー 8 ダブルプレーバントの処理と各野手の動き 9 カバーリング　あらゆるプレーに対する フォーメーション 10 ルールの解説とスコアーのつけ方 (ワンプレーに対する判定法) 11 簡易ゲーム　簡易なゲームを通し事前に練習した プレーの確認とルールの習得。 12 簡易ゲーム　簡易なゲームを通し事前に練習した プレーの確認とルールの習得。
テキスト、参考文献	**評価方法**
	出席点を中心に、授業態度、技能の進歩などを加味し、総合的に評価する。・個人的技能（捕球、送球、遠投）・ゲーム結果（集団、個人技能）欠席時数 4 回以上の者は、評価の対象としない。

02 年度以前	体育(ソフトボール)	担当者	太田　朝博

講義目的、講義概要	授業計画
[講義の目標] ソフトボールは、走る、投げる、打つ等の運動の基本的要素を持ち、スピード、正確さ、力、機敏さ、注意力、判断力、勇気等を基礎としたスポーツである。その基本技術を身につけ、互いに協力し合い、安全にスポーツを楽しみながら、体力の維持、増進の一助とすることを目標に行なう。 [講義概要] 個人的技能と集団的技能を交互に繰り返し、正しいスローイング、バッティング、キャッチングを身につけ、チームプレーに於ける連携プレーの習得を目指し授業を展開し、ゲームを通し攻守のプレーを個々に確認していく。	1 個人技能　　ゲーム　・個々の技量を考えチーム間の力量の差が大きくならないようにチーム編成し、リーグ戦を行なう。集団技能の反復練習 2 キャッチボールトス、フリーバッティングピッチング・簡単なスコアーをつけ個々の成績（打率、盗塁、打点など）を集計し成績を出し、技能を競い合う 3　〃 4　〃 5　〃 6　〃 7　〃 8　〃 9　〃 10　〃 11　〃 12　〃
テキスト、参考文献	**評価方法**
	出席点を中心に、授業態度、技能の進歩などを加味し、総合的に評価する。・個人的技能（捕球、送球、遠投）・ゲーム結果（集団、個人技能）欠席時数 4 回以上の者は、評価の対象としない。

02 年度以前	体育(バスケットボール)	担当者	依田　珠江

講義目的、講義概要	授業計画
〔講義の目標〕 バスケットボールの基本技術を身につけ、ゲームを楽しむ。バスケットボールというチームスポーツを通して、コミュニケーションの重要性を理解し、自主性や協調性を養う。また生涯を通してスポーツに親しむ足がかりとする。 〔講義概要〕 バスケットボールの基本技術を習得し、ルールを理解し楽しくゲームができるようにする。毎回ゲームを行い、その日の課題を確認する。ゲーム時には各チームから審判、オフィシャルを出し、学生自らがゲーム運営を行い、バスケットボールの競技特性をより深く学ぶ。 学生同士の教えあいの機会を積極的に作り、個々のレベルだけでなくチームの力の向上を図る。 〔受講者への要望〕 体育館用のシューズ、バスケットボールを行うのにふさわしい服装で出席してください。	1. オリエンテーション 2. ファンダメンタルを身につけよう ボールハンドリング・シュート・パス・ドリブル 3. ファンダメンタルを身につけよう 様々なシュート、ストップ・ターンの使い方 4. ファンダメンタルを身につけよう ディフェンスの基本、パスのもらい方、動きの中でのシュート 5. 1 対 1：ハーフコート・オールコート 6. 2 対 2：スクリーンプレー 7. 速攻：基本 ワンマン・ツーメン・スリーメン 8. 速攻：応用 2 対 1、3 対 2 9. オールコートでゲーム 10. オールコートでゲーム 11. オールコートでゲーム 12. オールコートでゲーム （9～12：審判、オフィシャルのやり方）
テキスト、参考文献	**評価方法**
	出席、受講態度を重視して評価を行います。遅刻は減点の対象とします。

02 年度以前	体育(バスケットボール)	担当者	依田　珠江

講義目的、講義概要	授業計画
〔講義の目標〕 バスケットボールの基本技術を身につけ、ゲームを楽しむ。バスケットボールというチームスポーツを通して、コミュニケーションの重要性を理解し、自主性や協調性を養う。また生涯を通してスポーツに親しむ足がかりとする。 〔講義概要〕 バスケットボールの基本技術を習得し、ルールを理解し楽しくゲームができるようにする。ゲーム時には各チームから審判、オフィシャルを出し、学生自らがゲーム運営を行い、バスケットボールの競技特性をより深く学ぶ。 学生同士の教えあいの機会を積極的に作り、個々のレベルだけでなくチームの力の向上を図る。 〔受講者への要望〕 体育館用のシューズ、バスケットボールを行うのにふさわしい服装で出席してください。	1. ファンダメンタルの確認 2. チーム編成のためのゲーム 3. チームごとの練習およびゲームプラン 4. リーグ戦 5. リーグ戦 6. リーグ戦 7. リーグ戦 8. リーグ戦 9. リーグ戦 10. リーグ戦 11. リーグ戦 12. リーグ戦
テキスト、参考文献	**評価方法**
	出席、受講態度を重視して評価を行います。遅刻は減点の対象とします。

02 年度以前	体育(バドミントン)	担当者	梶野　克之

講義目的、講義概要	授業計画
ラケットとシャトルを使用してプレーするバドミントン競技を種目として取り上げ、基本的なルールや技術について理解する。 シングルス、ダブルスの試合方法について理解して実践できるようにし、ルールの理解とともに、ゲームの進行方法の理解を深める。 練習した技術がゲームの中で生かせるようにするとともに、試合中に生じた問題点を解決し、よりレベルの高いゲームを求めていく。審判法のついても理解して、進んで審判を努めるとともに、全体的な試合の進行にも関心を持ち、円滑な進行を心掛ける。	１．年間授業計画の説明　実技実施上の諸注意　連絡事項の確認 ２．バドミントン競技の全般的説明　クリヤーの基本 ３．ハイクリヤーの基本練習　ドロップの基本 ４．クリヤー、ドロップの練習　ヘアピンの基本 ５．各種ストロークの復習　サービスの基本練習 ６．半面シングルスの実施　カウント方法の確認 前後へのフットワークの基本 ７．半面シングルス　審判法の理解　審判の実施 ８．ドライブの基本　正規のシングルスゲーム ９．スマッシュの基本　シングルスゲーム １０．各種ストロークの練習　ダブルスの基本 １１．ダブルスのルールの理解　試合の実施と審判 １２．リーグ戦の実施
テキスト、参考文献	**評価方法**
相沢マチ子　「やさしいバドミントンレッスン」 ベースボールマガジン社	出席回数、授業への参加態度、実技の達成度等によって決定する。

02 年度以前	体育(バドミントン)	担当者	梶野　克之

講義目的、講義概要	授業計画
ラケットとシャトルを使用してプレーするバドミントン競技を種目として取り上げ、基本的なルールや技術について理解する。 シングルス、ダブルスの試合方法について理解して実践できるようにし、ルールの理解とともに、ゲームの進行方法の理解を深める。 練習した技術がゲームの中で生かせるようにするとともに、試合中に生じた問題点を解決し、よりレベルの高いゲームを求めていく。審判法についても理解して、進んで審判を努めるとともに、全体的な試合の進行にも関心を持ち、円滑な進行を心掛ける。	１．基本的なストロークの復習　ダブルスの試合方法と審判法の確認 ２．ダブルスの組み合わせの決定　いくつかのグループによるリーグ戦 ３．ダブルスの基本的フォーメーションの確認をしてゲームの中に生かす。 ４．ゲーム結果の分析　問題点の整理　ダブルスゲームの実施 ５．ゲームの進行状況の確認　組み合わせを変えてのリーグ戦 ６．ダブルスゲームの進行　課題をゲーム内で解決 ７．ダブルスゲームの進行　ゲームの面白さの理解 ８．ダブルスゲームの進行　高いレベルのゲーム ９．ゲームの中での課題の練習　組み合わせの変更 １０．ゲームの中での課題の練習　相手のプレーヤーの動きに合わせたプレーの練習 １１．ゲームの進行　ゲーム・審判とも全員が実施 １２．ゲームの進行　勝敗・順位について整理
テキスト、参考文献	**評価方法**
相沢マチ子　「やさしいバドミントンレッスン」 ベースボールマガジン社	出席回数、授業への参加態度、実技の達成度等によって決定する。

02 年度以前	体育(バドミントン)	担当者	太田　朝博

講義目的、講義概要	授業計画
[講義の目標] バドミントンの特性である①性別・年令を問わず技能レベルに応じて誰でも手軽に楽しめる生涯スポーツとして最適、②シャトルから生まれるスピードの緩急や特殊な飛び方の変化に対応するための身体的能力(敏捷性・瞬発力・全身持久力など)が必要、③空中でとらえる、空間感覚の重要性、④相手の動き、シャトルの飛び方に応じた作戦の工夫、判断力、そしてパートナーとの協調性、これらの特性を基本的なプレーの練習を通して、身につける。 [講義概要] バドミントンに関する基本的なルールや技術について理解する。手の延長としてのラケットを使用した各種のストロークを身につける。シングルス・ダブルスの試合の実施を通して、ルールの理解とともに、ゲームの進行方法の理解を深める。ゲームの中で練習した技術が生かせるようにするとともに、試合中に生じた疑問を克服してよりレベルの高いゲームを求めていく。審判法についても理解して進んで審判をつとめるとともに、全体的な試合の進行状況にも関心を持ち、円滑な進行を心掛ける [受講者への要望] 毎回授業に出席し、真面目に取り組むこと。 体育館シューズを用意すること。	1 オリエンテーション、年間授業計画の説明、次回から開始する実技実施上の諸注意ならびに連絡事項の確認。 2 バドミントンの全般的な説明を行なう。 コート、ラケット、シャトル等についての説明。基本的なグリップと素振りを行ない、ストロークの基本を学ぶ 3 基本的技術ストローク・オーバーヘット（バック、フォア）・サイドアーム（フォア、バック） アンダーハンド（フォア、バック） 4 基本的技術○フットワーク前後、左右フライトの理解 ラケットワークとフライト（クリアー･ドライブ） 5 身につけた技術を実際のゲームで使えるようにする。 ○ロングサービス○ショートサービス（フォア・バック） ○ショートサービスに対する対応（プッシュ） ○基本的技術の復習 6　〃 7　〃 8 ○いろいろなフォーメーション ○基本的技術の復習簡単なゲーム（シングルス） 審判法の習得 9 前回までの復習 10 前回までの復習 11 前回までの復習 12 前回までの復習
テキスト、参考文献	**評価方法**
	出席点を中心に評価し授業にのぞむ態度、実技の達成度等を加味する。欠席４回以上の者に対しては、評価の対象としない。

02 年度以前	体育(バドミントン)	担当者	太田　朝博

講義目的、講義概要	授業計画
[講義の目標] バドミントンの特性である①性別・年令を問わず技能レベルに応じて誰でも手軽に楽しめる生涯スポーツとして最適、②シャトルから生まれるスピードの緩急や特殊な飛び方の変化に対応するための身体的能力(敏捷性・瞬発力・全身持久力など)が必要、③空中でとらえる、空間感覚の重要性、④相手の動き、シャトルの飛び方に応じた作戦の工夫、判断力、そしてパートナーとの協調性、これらの特性を基本的なプレーの練習を通して、身につける。 [講義概要] バドミントンに関する基本的なルールや技術について理解する。手の延長としてのラケットを使用した各種のストロークを身につける。シングルス・ダブルスの試合の実施を通して、ルールの理解とともに、ゲームの進行方法の理解を深める。ゲームの中で練習した技術が生かせるようにするとともに、試合中に生じた疑問を克服してよりレベルの高いゲームを求めていく。審判法についても理解して進んで審判をつとめるとともに、全体的な試合の進行状況にも関心を持ち、円滑な進行を心掛ける。 [受講者への要望] 毎回授業に出席し、真面目に取り組むこと。 体育館シューズを用意すること。	1 グループ別でのシングルスのリーグ戦 毎回基本的技術の復習 2　〃 3　〃 4　〃 5　〃 6 シングルスの決勝リーグ戦 7　〃 8　〃 9 ダブルスのリーグ戦 10　〃 11　〃 12　〃
テキスト、参考文献	**評価方法**
	出席点を中心に評価し授業にのぞむ態度、実技の達成度等を加味する。欠席４回以上の者に対しては、評価の対象としない。

02 年度以前	体育(バレーボール)	担当者	小川　又八朗

講義目的、講義概要	授業計画
[講義の目標] 生涯にわたってバレーボールが楽しめるように、技能を高め、戦術を考えバレーボールの特性をゲームで味わえるようにする。 [講義概要] バレーボールのルールを理解し、個人的及び集団的技能を習得するとともにそれらをもとにした戦術を習得し、ゲームの展開方法を学習する。 [受講者への要望] 出席を重視するが、履修態度や運動服装等もチェックする、体育館用シューズを用意すること。	1 オリエンテーション 授業の登録確認と授業内容の説明、個人資料の作成。 2 基本技と動き（アンダー　オーバー)、パスゲーム１。 3 レシーブとトス（ボールのつなぎ)、パスゲーム２。 4 レシーブとカバーリング (守りのフォーメーション)、パスゲーム３ 5 基本技と動き（アンダー　フローターサーブ）サーブレシーブ　基本技と動き（スパイク）攻撃の組立、スパイクを含んだミニゲーム１ 6 基本技と動き（スパイク）攻撃の組立、スパイクを含んだミニゲーム２。 7 チーム編成（スターティングポジションの決定） サーブレシーブのフォーメーション サーレシーブからの攻撃の組立、 スパイクを含んだゲーム。 8 ゲーム、６チームによるリーグ戦。 9 上記と同じ。8 ゲーム、６チームによるリーグ戦。 10 上記と同じ。 11 上記と同じ。 12 上記と同じ。まとめテスト
テキスト、参考文献	**評価方法**
『スポーツ・人間・社会』ライナー・マートンズ　ベースボール・マガジン社『人と人の間』木村敏　弘文堂 『スポーツの倫理』体育原理分科会編　不昧堂出版	出席点を中心にして評価し授業態度、技能の進歩などを加味する。欠席時数４回以上の者については、評価の対象としない。交通機関及び体調等やむを得ない事由以外の遅刻は認めない。

02 年度以前	体育(バレーボール)	担当者	小川　又八朗

講義目的、講義概要	授業計画
[講義の目標] 生涯にわたってバレーボールが楽しめるように、技能を高め、戦術を考えバレーボールの特性をゲームで味わえるようにする。 [講義概要] バレーボールのルールを理解し、個人的及び集団的技能を習得するとともにそれらをもとにした戦術を習得し、ゲームの展開方法を学習する。 [受講者への要望] 出席を重視するが、履修態度や運動服装等もチェックする、体育館用シューズを用意すること。	1 チーム編成（スターティングポジションと 攻守のフォーメーション)。 2 上記と同じ。 3 サーブレシーブからの攻撃の組立、スパイクを含んだゲーム。 4 上記と同じ。 5 スパイクレシーブのフォーメーション、スパイクを含んだゲーム。ゲーム（リーグ戦）記録、チーム (特に攻撃スパイク　サーブ) 6 上記と同じ。 7 上記と同じ。 8 ゲーム（リーグ戦）記録、チーム (特に守りレシーブ　ブロック)。 9 上記と同じ。 10 ゲーム（リーグ戦）記録、攻撃の組立能力、 ゲームの評価と練習課題。 11 上記と同じ 12 ゲームの攻防を通して攻撃貢献度をテストする。ルールやセオリー審判法など知的理解度をテストする。
テキスト、参考文献	**評価方法**
『スポーツ・人間・社会』ライナー・マートンズ　ベースボール・マガジン社『人と人の間』木村敏　弘文堂 『スポーツの倫理』体育原理分科会編　不昧堂出版	出席点を中心にして評価し授業態度、技能の進歩などを加味する。欠席時数４回以上の者については、評価の対象としない。交通機関及び体調等やむを得ない事由以外の遅刻は認めない。

02 年度以前	体育(バレーボール)	担当者	依田　珠江

講義目的、講義概要	授業計画
〔講義の目標〕 バレーボールの基礎的技術を身につけ、ゲームを楽しむ。バレーボールというチームスポーツを通して協調性、自主性など社会性を養う。生涯スポーツとして楽しむことのできるバレーボールの魅力を知る。 〔講義概要〕 バレーボールの技術、戦術、ルールを理解し、グループごとにゲームの運営を行う。毎回ゲームを行い、その授業で行ったことの確認をする。学生同士の教えあいの機会を積極的に作り、個々のレベルだけでなく、チーム力の向上を図る。 〔受講者への要望〕 バレーボールにふさわしい服装、および体育館用のシューズで授業に参加してください。	1. オリエンテーション 2. パスの基本を身につけよう 3. パスの基本を身につけよう 4. 得意なサーブをみつけよう 5. レシーブとつなぎ 6. スパイクとレシーブ 7. ゲームの流れ（攻撃の組み立て、レシーブフォーメーション） 8. チーム分けのためのゲーム 9. リーグ戦 10. リーグ戦 11. リーグ戦 12. リーグ戦
テキスト、参考文献	**評価方法**
	出席、授業態度を重要視します。遅刻は減点の対象とします。

02 年度以前	体育(バレーボール)	担当者	依田　珠江

講義目的、講義概要	授業計画
〔講義の目標〕 バレーボールの基礎的技術を身につけ、ゲームを楽しむ。バレーボールというチームスポーツを通して協調性、自主性など社会性を養う。生涯スポーツとして楽しむことのできるバレーボールの魅力を知る。 〔講義概要〕 バレーボールの技術、戦術、ルールを理解し、グループごとにゲームの運営を行う。学生同士の教えあいの機会を積極的に作り、個々のレベルだけでなく、チーム力の向上を図る。 〔受講者への要望〕 バレーボールにふさわしい服装、および体育館用のシューズで授業に参加してください。	1. オリエンテーション 2. 基本技術の確認 3. チーム戦術の確認 4. チーム分けのためのゲーム 5. リーグ戦 6. リーグ戦 7. リーグ戦 8. リーグ戦 9. リーグ戦 10. リーグ戦 11. リーグ戦 12. リーグ戦　まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
	出席、授業態度を重要視します。遅刻は減点の対象とします。

02 年度以前	体育(フットサル)	担当者	松原　裕

講義目的、講義概要	授業計画
［講義の目標］ 　運動を通じて、第１番目には、目の前に展開する事象への多面的な理解と適切な対応の選択、第２番目には、集団行動での基本的なルールを尊重した上で個人個人が積極的に授業参加する態度の育成、第３番目には、生涯に渡る健康観の構築、第４番目には、定期的に運動する習慣の獲得を目標とする。 ［講義概要］ 　フットサルを教材とする。フットサルのスピーディーな攻守の切替の中で自然に瞬間的な判断と行動を繰り返し行い、身に付ける。フットサルの試合のルールを充分に理解し、プレーヤーとして、審判として、コーディネーターとして、と関係する役割全てを交代で行う。基本的なことから試合までをビルドアップしていく。 **［受講者への要望］** フェアな態度、団体行動、試してみる勇気。 各自でフットサルにふさわしいシューズと服装を用意すること。	1 オリエンテーション　　個人票の作成 授業実施上の諸注意 2 受講決定の確認と個人票の写真提出 トレーニングルームの講習と登録 授業実施場所の確認 3 ボールコントロール 4 簡易のゲーム 5　　〃 6 競技規則、審判法の理解 7 正規のゲーム 8　　〃 9 ポジションの理解 10 正規のゲーム 11　　〃 12　　〃
テキスト、参考文献	**評価方法**
必要に応じて紹介する。	毎時間の出欠席、受講態度、期間中の技術の向上度などを総合して評価する。

02 年度以前	体育(フットサル)	担当者	松原　裕

講義目的、講義概要	授業計画
[講義の目標] 　運動を通じて、第１番目には、目の前に展開する事象への多面的な理解と適切な対応の選択、第２番目には、集団行動での基本的なルールを尊重した上で個人個人が積極的に授業参加する態度の育成、第３番目には、生涯に渡る健康観の構築、第４番目には、定期的に運動する習慣の獲得を目標とする。 [講義概要] 　フットサルを教材とする。フットサルのスピーディーな攻守の切替の中で自然に瞬間的な判断と行動を繰り返し行い、身に付ける。レベルに応じてフットサルの試合の楽しみ方を考える。プレーヤーとして、審判として、コーディネーターとして、と関係する役割全てを交代で行う。基本的なことから試合の進め方までをビルドアップしていく。 [受講者への要望] フェアな態度、団体行動、試してみる勇気。 各自でフットサルにふさわしいシューズと服装を準備すること。	1 オリエンテーション　個人票の作成 2 受講決定の確認　個人票の写真提出 3 簡易のゲーム 4 班分け・班別練習 5 リーグ戦① 6 リーグ戦② 7 リーグ戦③ 8 リーグ戦④ 9 リーグ戦⑤ 10 リーグ戦⑥ 11 リーグ戦⑦ 12 リーグ戦⑧
テキスト、参考文献	**評価方法**
必要に応じて紹介する。	毎時間の出欠席、受講態度、期間中の技術の向上度などを総合して評価する。

02 年度以前	体育(フットサル)	担当者	檜山　康

講義目的、講義概要	授業計画
[講義の目標] スポーツには、歴史的、系統的に発展してきた種目独自の運動文化が存在する。運動文化としてのルール、戦術、それらをとりまく社会環境というものは、人間が長い歴史の中で試行錯誤を重ねながら作り上げてきた。この授業では、フットサルを学びながら、独自の運動文化に触れ、フットサル本来の楽しさに触れることを目標としたい。 [講義概要] ゲームを中心に行っていくが、その準備段階において技術、戦術を発展させられるようなハンドリングゲームや予備ゲームをとりいれていく。つまり技術、戦術を個別に取り出して練習するのではなく、常にゲームを意識して、ゲーム形式の中で実際に体を動かして学習してもらいたいと考えている。また参加者の意見を積極的に出してもらい、有効なゲームの進め方について考える場にしたいと思っている。 [受講者への要望] 1. 遅刻はしないようにする。特にチームで行動するので他人に迷惑がかかる。 2. 服装はスポーツのできるものを身につけること。 3. アクセサリー、ピアスは外すこと。	1. オリエンテーション。 2. ボールに慣れること。試しのゲーム。 3. １対１の守備。 4. １対１の攻撃。 5. オフザボールの動き。 6. ボールを持っていない選手に対する守備。 7. パス＆コントロール。 8. ゴール前での守備。 9. ゴール前での攻撃。 10. フルコートでのゲーム。リーグ戦。 11. フルコートでのゲーム。リーグ戦。 12. フルコートでのゲーム。リーグ戦。
テキスト、参考文献	**評価方法**
特に指定しない。	授業への出席を重視する。加えて参加態度、意欲などを加味する。実技試験、レポートなどを課す場合もある。

02 年度以前	体育(フットサル)	担当者	檜山　康

講義目的、講義概要	授業計画
[講義の目標] スポーツには、歴史的、系統的に発展してきた種目独自の運動文化が存在する。運動文化としてのルール、戦術、それらをとりまく社会環境というものは、人間が長い歴史の中で試行錯誤を重ねながら作り上げてきた。この授業では、フットサルを学びながら、独自の運動文化に触れ、フットサル本来の楽しさに触れることを目標としたい。 [講義概要] ゲームを中心に行っていくが、その準備段階において技術、戦術を発展させられるようなハンドリングゲームや予備ゲームをとりいれていく。つまり技術、戦術を個別に取り出して練習するのではなく、常にゲームを意識して、ゲーム形式の中で実際に体を動かして学習してもらいたいと考えている。また参加者の意見を積極的に出してもらい、有効なゲームの進め方について考える場にしたいと思っている。 [受講者への要望] 1. 遅刻はしないようにする。特にチームで行動するので他人に迷惑がかかる。 2. 服装はスポーツのできるものを身につけること。 3. アクセサリー、ピアスは外すこと。	1. 積極的にボールを奪う守備 2. ビルドアップ。 3. ピヴォを使った崩し。 4. サイドでの有効な突破 5. 攻撃的に進めながらカウンターを受けない守備 6. カウンターアタック 7. 高い位置でのプレッシャー 8. プレッシャーの中でのフィニッシュ。 9. チームごとの課題練習。リーグ戦①。 10. リーグ戦② 11. リーグ戦③ 12. リーグ戦④
テキスト、参考文献	**評価方法**
特に指定しない。	授業への出席を重視する。加えて参加態度、意欲などを加味する。実技試験、レポートなどを課す場合もある。

02 年度以前	体育(フリスビー)	担当者	和田　智

講義目的、講義概要	授業計画
[講義の目標] フリスビーは商標名です。一般名はフライングディスクです。このディスクを使用したスポーツの技術を習得し、アルティメット、ガッツ、ディスクゴルフなど特徴的な種目を経験します。各個人が日常で友人や恋人に教えたり、家族と楽しめるだけの実力をつけることを目標とします。 [講義概要] フライングディスクスローイングの基本テクニックから、応用テクニックまでを習得します。またそれを利用したいくつかの競技種目を経験します。種目の中心は、アルティメットというアメリカンフットボールのようなルールで行うスポーツ種目です。身体接触はありませんから、安全です。あまり聞いたことがないでしょうが世界選手権大会も行われるほど海外では普及しているスポーツです。学生の進歩状況・天候によって授業計画は変えていきます。雨天の場合は別の種目を行います。	1 オリエンテーション　フライングディスクとは 2 バックハンドスロウとサイドアームスロー 3 バックハンドスロウとサイドアームスロー 4 バックハンドスロウとサイドアームスローから、バリエーション 5 バックハンドスロウとサイドアームスローから、バリエーション 6 バックハンドスロウとサイドアームスローから、バリエーション 7 バックハンドスロウとサイドアームスローから、バリエーション 8 バックハンドスロウとサイドアームスローから、バリエーション・ゲームの導入 9 バックハンドスロウとサイドアームスローから、バリエーション・ゲームの導入 10 バックハンドスロウとサイドアームスローから、バリエーション・ゲーム 11 バックハンドスロウとサイドアームスローから、バリエーション・ゲームの導入 12 バックハンドスロウとサイドアームスローから、バリエーション・ゲーム
テキスト、参考文献	**評価方法**
必要に応じて印刷物を配布します。	出席と受講態度、技術の向上度

02 年度以前	体育(フリスビー)	担当者	和田　智

講義目的、講義概要	授業計画
[講義の目標] フリスビーは商標名です。一般名はフライングディスクです。このディスクを使用したスポーツの技術を習得し、アルティメット、ガッツ、ディスクゴルフなど特徴的な種目を経験します。各個人が日常で友人や恋人に教えたり、家族と楽しめるだけの実力をつけることを目標とします。 [講義概要] フライングディスクスローイングの基本テクニックから、応用テクニックまでを習得します。またそれを利用したいくつかの競技種目を経験します。種目の中心は、アルティメットというアメリカンフットボールのようなルールで行うスポーツ種目です。身体接触はありませんから、安全です。あまり聞いたことがないでしょうが世界選手権大会も行われるほど海外では普及しているスポーツです。学生の進歩状況・天候によって授業計画は変えていきます。雨天の場合は別の種目を行います。 秋学期は、チームを編成し、アルテミットの試合を行います。	1 秋学期授業についてのオリエンテーションとアルティメットについての説明 2 アルティメットのためのトレーニングとゲーム 3 アルティメットのためのトレーニングとゲーム 4 チーム編成とリーグ戦 5 リーグ戦 6 リーグ戦 7 リーグ戦 8 リーグ戦 9 リーグ戦 10 リーグ戦 11 リーグ戦 12 リーグ戦・まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
必要に応じて印刷物を配布します。	出席と受講態度、技術の向上度

02 年度以前	体育(ボールルームダンス)	担当者	青柳　多恵子

講義目的、講義概要	授業計画
ボールルームダンス（社交ダンス）とは、音楽にのって歩くこと。エアロビックエクササイズの一つで、西欧では、紳士淑女のマナーの重要な一つとして日常のもので、身体言語を使い、目の前の相手とコミュニケーションをとること。踊る本人は素より、見ている者をも楽しくさせることもかのうです。靴を履いて美しく歩くことが基本です太古以来人間は踊ることを楽しんできました。厳しい現代で人は笑うことと、踊ることを忘れていませんか。 　目的 基本は、歩くこと。前に後ろに、ゆっくり・速く音楽にのって、右・左・右と交互に歩くのみ。一番難しいのは、ダンスは難しいという概念を捨てさせることでしょう。特にダンスは女性のもの、と思っている男性の多いことです。生涯スポーツの一つとして、ストレスの知的解消法の一つとして基礎を、脳と筋肉運動を連結させ、自然に動けることを目的とします。 ダンス靴を使用のこと。 休まない事	１・ダンスとは ２・正しく歩く・カップルで音楽に乗って歩く 3 拍子（ワルツ）で歩く（ステップ） ３・ワルツの音楽を踊る ４・ラテンのリズム・ジルバ&サンバをステップする ５・ブルース（4 拍子）に馴染む ６・タンゴらしくステップすることとは？ ７・ラテンのリズム・ルンバ&チャチャチャ ８・ダンスでのマナーとパーティ

テキスト、参考文献	評価方法
適宜プリント配布	ＶＴＲで自己採点

02 年度以前	体育(ボールルームダンス)	担当者	青柳　多恵子

講義目的、講義概要	授業計画
春学期にボールルームダンスを受講し基礎をマスターしていること。 前学期より自然に踊ることを目的とし、楽しく誰とでも踊れるフィガー（ステップ）を身に着ける。 英国で行われているシークエンスダンス（１６小節）を、姿勢を正しく保ち、楽しく・大勢の人と踊ることを学ぶ。 ラテンリズムのサルサ 回転する事とは、そんなに難しくない。 楽しく踊りながら、コミュニケーションしよう。 休まないこととあきらめないこと。	１・シークエンスダンスについて ２・音楽を楽しんで歩く（ダンスの基本） ３・誰とでも踊れる（ダンスの基本） ４・サルサで自由に踊る ５・速いリズム・クイックステップ ６・タンゴ・リンクをステップ ７・ワルツ・で回転する（スピンターン）

テキスト、参考文献	評価方法
適宜プリント配布	ＶＴＲで自己採点

02 年度以前	体育(硬式テニス)	担当者	松原　裕

講義目的、講義概要	授業計画
[講義の目標] 運動を通じて、第１番目には、目の前に展開する事象への多面的な理解と適切な対応の選択、第２番目には、集団行動での基本的なルールを尊重した上で個人個人が積極的に授業参加する態度の育成、第３番目には、生涯に渡る健康観の構築、第４番目には、定期的に運動する習慣の獲得を目標とする。 **[講義概要]** 硬式テニスを教材とする。硬式テニスには、シングルスとダブルスの２つの代表的な試合形式があるが、この授業ではダブルスの試合をすることを中心とする。 ダブルスの試合のルールを充分に理解し、プレーヤーとして、審判として、コーディネーターとして、と関係する役割全てを交代で行う。基本的なことから試合が出来るまでをビルドアップしていく。 **[受講者への要望]** フェアな態度、団体行動、試してみる勇気。 各自でテニスシューズを必ず用意し、受講にふさわしい服装で参加して下さい。	1　オリエンテーション　　個人票の作成 授業実施上の諸注意 2　受講決定の確認と個人票の写真提出 トレーニングルームの講習と登録 授業実施場所の確認 3　基本トレーニング　　ラケットコントロール 4　基本トレーニング　　ラケットコントロール 5　基本戦術　　サーブ・レシーブ・ストローク 6　基本戦術　　サーブ・レシーブ・ボレー 7　試合に必要な準備　　競技場の設営 審判の仕方　　試合の進め方 8　ミックスダブルスによる試合 9　ミックスダブルスによる試合 10　男子ダブルス・女子ダブルス 11　男子ダブルス・女子ダブルス 12　テスト　ルール・技術・審判法 ＊コートが使用できない場合には、教室にて講義をするか場所を変更して実技を行うかになります。
テキスト、参考文献	**評価方法**
必要に応じて紹介する。	毎時間の出欠席、受講態度、期間中の技術の向上度などを総合して評価する。

02 年度以前	体育(硬式テニス)	担当者	松原　裕

講義目的、講義概要	授業計画
[講義の目標] 運動を通じて、第１番目には、目の前に展開する事象への多面的な理解と適切な対応の選択、第２番目には、集団行動での基本的なルールを尊重した上で個人個人が積極的に授業参加する態度の育成、第３番目には、生涯に渡る健康観の構築、第４番目には、定期的に運動する習慣の獲得を目標とする。 [講義概要] 硬式テニスを教材とするが、この授業ではダブルスの試合をすることを中心とする。 ダブルスの試合のルールを充分に理解し、レベルに応じて試合の楽しみ方を考える。プレーヤー、審判、コーディネーターと関係する役割全てを交代で行う。基本的なことから応用的なことまでをビルドアップしていく。 **[受講者への要望]** フェアな態度、団体行動、試してみる勇気。 各自でテニスシューズを必ず用意し、受講にふさわしい服装で参加して下さい。	1　オリエンテーション　個人票の作成 授業実施上の諸注意 2　受講決定の確認と個人票の写真提出 授業実施場所の確認 3　基本戦術 プレーの組み合わせ　ゲームプラン 4　班に班分け 班別に練習　　オーダーの検討 5　リーグ戦（一巡目） 6　リーグ戦（一巡目） 7　リーグ戦（一巡目） 8　チームとしてリーグ戦（二順目） 9　チームとしてリーグ戦（二順目） 10　チームとしてリーグ戦（二順目） 11　トーナメント 12　トーナメント ＊コートが使用できない場合には、教室にて講義をするか場所を変更して実技を行うかになります。
テキスト、参考文献	**評価方法**
必要に応じて紹介する。	毎時間の出欠席、受講態度、期間中の技術の向上度などを総合して評価する。

02 年度以前	体育(硬式テニス)	担当者	田中　茂宏

講義目的、講義概要	授業計画
［講義の目標］ 　学生自身が運動種目に必要なウォーミング・アップ、クーリング・ダウンを行えるようになり、主体性を発揮、身につけることを目的とする。 技術的には、フォア・バックのストロークを中心にラリーができるようになり、ゲームの中で必要とされる技術を身につけ、ゲームの進め方・ルールを学ぶ。レポート提出を実施することで、目的、問題意識を持たせる。 テニスシューズを用意して出席すること。 基本技術の練習を中心に行い、ゲーム時には結果を記録する。ダブルス・シングルスのゲームを通じて，ルール・ゲームの進め方を学ぶ。 雨天でも行いますが、コートが使用不可能な時には、３棟１階の体育掲示板・体育館の掲示板で指示する。授業に相応しい服装で出席すること(見学者も更衣後に、コートにて見学する。) 原則として遅刻は認めない。	1 授業登録の確認と授業内容の説明、 個人資料の作成。 2 用具の準備と片付けの指示、軽い練習。 3 基本技術の練習。 4　〃 5　〃 6　〃 7　〃 8 ゲームを行い、ルール、ゲームの進め方を学ぶ。 9　〃 10　〃 11　〃 12　〃

テキスト、参考文献	評価方法
	出欠状況、授業態度を中心として、技能の向上、ゲームの結果、レポート等を加味して評価する。レポートについては必要だと思われる回数提出してもらう。

02 年度以前	体育(硬式テニス)	担当者	田中　茂宏

講義目的、講義概要	授業計画
［講義の目標］ 　学生自身が運動種目に必要なウォーミング・アップ、クーリング・ダウンを行えるようになり、主体性を発揮、身につけることを目的とする。 技術的には、フォア・バックのストロークを中心にラリーができるようになり、ゲームの中で必要とされる技術を身につけ、ゲームの進め方・ルールを学ぶ。レポート提出を実施することで、目的、問題意識を持たせる。 テニスシューズを用意して出席すること。 基本技術の練習を中心に行い、ゲーム時には結果を記録する。ダブルス・シングルスのゲームを通じて，ルール・ゲームの進め方を学ぶ。 雨天でも行いますが、コートが使用不可能な時には、３棟１階の体育掲示板・体育館の掲示板で指示する。授業に相応しい服装で出席すること(見学者も更衣後に、コートにて見学する。) 原則として遅刻は認めない。	1 授業登録の確認と授業内容の説明。軽い運動。 2 基本技術の練習。 3　〃 4　〃 5　〃 6　〃 7 ゲームを行い、ルール、ゲームの進め方を学ぶ。 8　〃 9　〃 10　〃 11　〃 12　〃

テキスト、参考文献	評価方法
	出欠状況、授業態度を中心として、技能の向上、ゲームの結果、レポート等を加味して評価する。レポートについては必要だと思われる回数提出してもらう。

02 年度以前	体育(硬式テニス)	担当者	依田　珠江

講義目的、講義概要	授業計画
〔講義の目標〕 　生涯にわたってスポーツを楽しむきっかけとなるよう、テニスの魅力を知り、ゲームを楽しむ。 〔講義概要〕 　テニスの基本技術の習得と、ルール、マナーを身につける。目標であるテニスのゲームを楽しむためにゲーム時には、協力してゲームの運営を行う。ゲームはダブルスをメインとして行う。 〔受講者への要望〕 　各自、テニスシューズを必ず用意してください。テニスにふさわしい服装で参加してください。 ★コートが使用できない場合には、教室で講義を行うか、場所を変えて実技を行います。	1.　オリエンテーション 2.　ラケットとボールに慣れよう 3.　ラケットとボールに慣れよう 4.　ストローク（フォア・バック） 5.　ストローク（フォア・バック） 6.　ボレーの形 7.　サーブとレシーブ 8.　ルールを知って、ゲームを始めてみよう 9.　ダブルスゲームの中で動きの確認 10.　ゲーム 11.　ゲーム 12.　ゲーム
テキスト、参考文献	**評価方法**
	出席、授業態度を重要視します。遅刻は減点の対象とします。

02 年度以前	体育(硬式テニス)	担当者	依田　珠江

講義目的、講義概要	授業計画
〔講義の目標〕 　生涯にわたってスポーツを楽しむきっかけとなるよう、テニスの魅力を知り、ゲームを楽しむ。 〔講義概要〕 　テニスの基本技術の習得と、ルール、マナーを身につける。目標であるテニスのゲームを楽しむためにゲーム時には、協力してゲームの運営を行う。ゲームはダブルスをメインとして行う。 〔受講者への要望〕 　各自、テニスシューズを必ず用意してください。テニスにふさわしい服装で参加してください。 ★コートが使用できない場合には、教室で講義を行うか、場所を変えて実技を行います。	1.　オリエンテーション 2.　基本技術の確認 3.　基本技術の確認 4.　ゲームの中で動きの確認 5.　リーグ戦 6.　リーグ戦 7.　リーグ戦 8.　リーグ戦 9.　リーグ戦 10.　リーグ戦 11.　リーグ戦 12.　リーグ戦
テキスト、参考文献	**評価方法**
	出席、授業態度を重要視します。遅刻は減点の対象とします。

02 年度以前	体育(卓球)	担当者	神宮司　親治

講義目的、講義概要	授業計画
〔講義の目標〕 卓球というスポーツを楽しめるように、基本技術を習得し、ゲームを楽しみながら、ルール、審判法、ゲームの進め方などを学ぶ。将来も生涯スポーツとして卓球を通じて、社会生活を豊かにし、健康の保持増進に努めること。 〔講義概要〕 初心者から中級者に合わせる内容であり、基本的練習や簡易ゲームにより、技術を習得し、シングルス、ダブルスゲームを通して、卓球の面白さや戦術を習得する。 〔受講者への要望〕 技術力のあるなしに関わらず、卓球に興味を持って、真剣に取り組み、楽しんでもらいたい。服装は運動服、体育館用シューズを用意すること。	1 オリエンテーション 授業の登録確認と授業内容の説明、個人資料の作成 2 用具の準備と片付け方 基本知識（ラケットの種類・持ち方、基本姿勢） 3 ボールの打ち方　スイングの基本 4 フォアハンド・バックハンドの練習　簡易ゲーム 5 サービス・レシーブの練習　簡易ゲーム 6 フォアハンドロング・バックハンドショート シングルスゲームの審判法と進め方 7 カット・スマッシュ　シングルスゲーム 8 シングルスゲーム 9 ダブルスゲームの進め方・シングルスゲームとの違い ダブルスゲーム 10 ダブルスゲーム　パートナーとの動きを考える 11 ダブルスゲーム 12 まとめ（シングルスゲーム　ダブルスゲーム）
テキスト、参考文献	**評価方法**
	評価は出席点を重視し、授業態度、技術の向上などを加味し実施する。欠席時数４回以上の者については、評価の対象としない。交通機関等の特別な事情以外の遅刻は認めない。

02 年度以前	体育(卓球)	担当者	神宮司　親治

講義目的、講義概要	授業計画
〔講義の目標〕 卓球というスポーツを楽しめるように、基本技術を習得し、ゲームを楽しみながら、ルール、審判法、ゲームの進め方などを学ぶ。将来も生涯スポーツとして卓球を通じて、社会生活を豊かにし、健康の保持増進に努めること。 〔講義概要〕 初心者から中級者に合わせる内容であり、基本的練習や簡易ゲームにより、技術を習得し、シングルス、ダブルスゲームを通して、卓球の面白さや戦術を習得する。 〔受講者への要望〕 技術力のあるなしに関わらず、卓球に興味を持って、真剣に取り組み、楽しんでもらいたい。服装は運動服、体育館用シューズを用意すること。	1 復習　基本練習　シングルスゲーム 2 決定打までの組み立て チーム編成とシングルスゲーム・チーム内リーグ戦 3 シングルスゲーム・チーム内リーグ戦 4 シングルスゲーム・チーム対抗戦 5 上に同じ 6 ダブルスゲーム・チーム内リーグ戦 7 上に同じ 8 ダブルスゲーム・チーム対抗戦 9 上に同じ 10 シングルス・トーナメント戦 11 ダブルス・トーナメント戦 12 総まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
	評価は出席点を重視し、授業態度、技術の向上などを加味し実施する。欠席時数４回以上の者については、評価の対象としない。交通機関等の特別な事情以外の遅刻は認めない。

02 年度以前	体育（卓球）	担当者	松原　裕

講義目的、講義概要	授業計画
［講義の目標］ 敏捷性・集中力を養い、基本技術を習得して、簡単なルール、審判、ゲームの進め方などを学び、将来も卓球を通じて、社会生活を豊かにし、健康の維持増進にも貢献できること。 ［講義概要］ 基本的練習や簡易ゲームで能力別グループ編成をして、シングルス、ダブルスゲームを通して、卓球の面白さや、卓球についての知識も習得する。 ［受講者への要望］ 授業の前日は早寝、当日は早起をして　コンディションを整えて出席するように、欠席.遅刻はその理由を届けてもらう。服装は運動服、上靴を用意し動きやすくする。初心者はフォームだけでもしっかりマスターして少しでも上達するように。尚ラケットは個人で用意することが望ましい。	1 授業内容の説明と個人資料カード作成 （写真を必ず用意すること） 2 用具の準備、片付けの仕方と基本知識、 動作などについて 3 能力別グループ編成と、初心者は、構え、スイング フットワークなどの基本練習 4 サーブ・レシーブ　簡易ゲーム 5 フォアーハンドロング・バックハンドショート 簡易ゲーム 6 バックハンドロング・ショートカット 能力別シングルスゲーム 7 カット・スマッシュ・シングルスゲーム 8 ダブルスゲームの進め方・シングルスゲームとの違い ダブルスゲーム 9 ダブルスゲーム　パートナーと動きを考える 10 ダブルスゲーム 11 シングルス・トーナメント戦 12 シングルス・トーナメント戦
テキスト、参考文献	**評価方法**
『指導者のための卓球』Ⅰ．Ⅱ．Ⅲ． 倉木常夫他著　不昧堂出版　　他	出席点、平常点、技能点、の３つで行う。（出席点は、無欠席は特Ａ，欠席１回Ａ、欠席２回Ｂ、欠席３回Ｃ、欠席４回以上はＦとする。平常点は遅刻、服装などで行い、特に服装の悪い者、上靴の用意のない者は「やる気」に欠けるとして減点する。技能点は進歩の度合で行う）

02 年度以前	体育（卓球）	担当者	松原　裕

講義目的、講義概要	授業計画
［講義の目標］ 敏捷性・集中力を養うとともに、基本技術を応用して、ルール、審判、ゲームの進め方などを学び、将来も卓球を通じて、社会生活を豊かにし、健康の維持増進にも貢献できること。 ［講義概要］ シングルスゲームで能力別グループ編成をして、シングルス、ダブルスゲームをはじめ、団体戦なども行い、卓球の面白さや、卓球についての知識も習得する。 ［受講者への要望］ 授業の前日は早寝、当日は早起をして　コンディションを整えて出席するように、欠席.遅刻はその理由を届けてもらう。服装は運動服、上靴を用意し動きやすくする。初心者はフォームだけでもしっかりマスターして少しでも上達するように。尚ラケットは個人で用意することが望ましい。	1 チーム編成とチーム内シングルスリーグ戦 2 キャップ・マネージャーなどの選出と シングルスリーグ戦。 3 チーム対抗戦１ 4 チーム対抗戦２ 5 チーム対抗戦３ 6 チーム対抗戦４ 7 抽選によるシングルス・予選リーグ戦 8 シングルス・予選リーグ戦 9 決勝リーグ戦 10 決勝リーグ戦 11 シングルス・トーナメント戦 12 技能テスト
テキスト、参考文献	**評価方法**
『指導者のための卓球』Ⅰ．Ⅱ．Ⅲ． 倉木常夫他著　不昧堂出版　　他	出席点、平常点、技能点、の３つで行う。（出席点は無欠席特Ａ，欠席１回Ａ、欠席２回Ｂ、欠席３回Ｃ、欠席４回以上はＦとする。平常点は遅刻、服装などで行い、特に服装の悪い者、上靴の用意のない者は「やる気」に欠けるとして減点する。技能点は進歩の度合で行う）

02 年度以前	体育(卓球)	担当者	小山　さなえ

講義目的、講義概要	授業計画
【講義目的】 　生涯にわたって卓球を楽しめるように、卓球の基本技術を習得して、ルール、審判法、ゲームの進め方などを学び、健康の維持増進にも貢献できること。 【講義概要】 　基本的練習や簡易ゲームで能力別グループを編成し、シングルス、ダブルスゲームを通して、卓球の面白さ楽しさを体感し、卓球の基本技術・戦術を習得する。 【受講者への要望】 　自己の健康管理を含めた出席を重視するので、体調を整えて授業に参加すること。スポーツにふさわしい服装（運動服)、体育館シューズを用意すること。尚、ラケットは個人で用意するのが望ましい。	1 オリエンテーション 　授業内容の説明と個人カード作成 　（写真を必ず用意すること４×３） 2 用具の準備、片付けの仕方と基礎知識 3 グループ編成と、構え、ボールに慣れるための練習、 4 サーブ・レシーブ、簡易ゲーム 5 ロングとサービス（1)、簡易ゲーム 6 ロングとサービス（2)、簡易ゲーム 7 カット・スマッシュ・シングルスゲーム 8 ダブルスゲームの進め方（ルールの確認） 9 ダブルスゲーム　（パートナーと動きを考える） 10 ダブルスゲーム　リーグ戦 11 ダブルスゲーム　リーグ戦 12 ダブルスゲーム　能力別トーナメント戦
テキスト、参考文献	**評価方法**
「図解コーチ・卓球」長谷川信彦・他著　成美堂出版	出席点を重視し、授業態度、技術の習熟度なども加味して総合的に評価する。欠席 4 回以上の者は、評価の対象にはならない。遅刻も減点の対象となる。

02 年度以前	体育(卓球)	担当者	小山　さなえ

講義目的、講義概要	授業計画
【講義目的】 　生涯にわたって卓球を楽しめるように、卓球の基本技術を習得して、ルール、審判法、ゲームの進め方などを学び、健康の維持増進にも貢献できること。 【講義概要】 　基本的練習や簡易ゲームで能力別グループを編成し、シングルス、ダブルスゲームを通して、卓球の面白さ楽しさを体感し、卓球の基本技術・戦術を習得する。 【受講者への要望】 　自己の健康管理を含めた出席を重視するので、体調を整えて授業に参加すること。スポーツにふさわしい服装（運動服)、体育館シューズを用意すること。尚、ラケットは個人で用意するのが望ましい。	1 春学期の復習とチーム編成 2 チーム別シングルスリーグ戦 3 チーム対抗戦① 4 チーム対抗戦② 5 チーム対抗戦③ 6 チーム対抗戦④ 7 チーム対抗戦⑤ 8 シングルス・予選リーグ戦 9 シングルス・予選リーグ戦 10 シングルス・決勝リーグ戦 11 シングルス・決勝リーグ戦 12 講評・まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
「図解コーチ・卓球」長谷川信彦・他著　成美堂出版	出席点を重視し、授業態度、技術の習熟度なども加味して総合的に評価する。欠席 4 回以上の者は、評価の対象にはならない。遅刻も減点の対象となる。

02 年度以前	体育（アウトドアレクリエーション）	担当者	青柳　多恵子

講義目的、講義概要	授業計画
社会的構造の変化や子供を含めた生活様式の変化に伴う、余暇生活の計画性が大きな社会問題である。健康・余暇についての知識と経験を積み重ねることを重視し、個人・チームの中で集団をコーディネートできる能力も養う。 概要 自然と人間行動を充分に理解する。また人間として、自然環境の保全の意味や、責任を理解する事と、自然環境に踏み込むルール（気象の読み方・地図の見方）を学び、安全と自然体系を乱さない知識と配慮を研究し、危険防止の観点から、事前実施計画の作成と、将来にわたってのグループ形成と、楽しい企画・運営を「山」を対象として行う。 （教職を取る学生にも参考になる）	１：ガイダンス ２：基礎体力測定 ３：ゲームと班分け ４：・志賀高原ルートと自然観察 ５：山間を想定しての調理訓練（１） 食材の選定とごみの処理の原則 ６：自然の楽しみ方１）山野草観察・ ７：サバイバル体験の知識と危険度について ８：救急法 ９：キャンプ地での調理訓練 事前食材購入とキャンプ地の安全度 10：テントの調整法と危険度について 11：山行の個人装備品・団体装備品 山行パンフつくり 12：事前実施計画の最終検討・参加人員決定 時期　　未定 １案「志賀高原」にて合宿 トレッキング靴・雨具必携 ２案キャンプ「志賀」 キャンプ装備・ゲーム
テキスト、参考文献	**評価方法**
プリント配布	出席重視・レポート作成

02 年度以前	体育（アウトドア山岳）（夏季集中）	担当者	青柳　多恵子

講義目的、講義概要	授業計画
集中授業（山岳） 軽登山と自然観察 班でのトレッキングと飯ごう炊飯 地域ボランティア活動 山野草・温泉見学・地域祭りに参加	７月定期テスト終了後を予定 ４泊５日 志賀高原 個人での携帯品 トレッキングシュウズ 雨具・日用洗面用具
テキスト、参考文献	**評価方法**
	合宿参加と実施

02 年度以前	体育(アウトドアレクリエーション)	担当者	和田　智

講義目的、講義概要	授業計画
[講義の目標] 　レクリエーション活動のうち、主に自然環境と関連するいくつかの種目を経験し、安全と管理、自然と環境、自由時間の意味、価値について考え、現在と将来の自由時間をデザインします。実技だけでなく講義も含み、健康について、環境についても学習します。また、グループワーク活動を重視し、クラスの中での良好な人間関係育成を図りたいと思います。 [講義概要] 　学内の授業では、グループゲーム、アウトドアクッキング、マップ＆コンパス、ペタンク、フリスビー、インラインスケート、ウォークラリー等、多くの種目を紹介し、経験します。種目については学生の要望に応えて選択しようと思います。各種目は内容と難易度などにより、各種目に当てる時間数は異なります。	1. 授業の内容と計画についての説明 2. 仲間つくりの時間：グループゲーム 3. 仲間つくりの時間：グループゲーム 　野外炊飯の計画 4. 仲間つくりの時間：アウトドアクッキング 5. アウトドアレクリエーション種目 6. アウトドアレクリエーション種目 7. アウトドアレクリエーション種目 8. アウトドアレクリエーション種目 9. アウトドアレクリエーション種目 10. アウトドアレクリエーション種目 11. アウトドアレクリエーション種目 12 合宿についてのオリエンテーション
テキスト、参考文献	**評価方法**
なし	出席と受講態度、レポート

02 年度以前	体育(アウトドア海浜･ウィンドサーフィン)(夏季集中)	担当者	和田　智

講義目的、講義概要	授業計画
夏季集中合宿は、新潟県佐渡島で行う海浜型野外活動、または千葉県館山市で行うウィンドサーフィンの２つの合宿のうち、どちらかに参加してもらいます。 　海浜型野外活動では、スキンダイビング、シーカヤック、蛍狩り、夜空の観察、釣り等、良好な自然環境と地域の利点を活かすプログラムを体験してもらいます。 　ウィンドサーフィンでは、技術の習得を通して海浜環境の特徴を知ることにより、安全で楽しく過ごすためのノウハウを知ってもらいます。 　どちらの活動も自然環境を背景としますので、天候により、活動内容を変えることがあります。 　内容の詳細については、スポーツ・レクリエーションのホームページを見てください。 [受講者への要望] 　夏季集中授業は海での活動が中心になりますので、受講は心疾患、耳鼻科系疾患、皮膚科系疾患のないことを条件とします。安全管理上、あまり多くの受講生は受け入れられません。また、どちらかに集中してしまう場合には、人数の振り分けをすることもあります。	[集中授業]　「海浜型アウトドアレクリエーション」 場所：新潟県佐渡市 期日：2006 年 7 月 31 日（月）～8 月 4 日（金） 4 泊 5 日 費用：35000 円（宿泊費、傷害保険、プログラム費） [集中授業]　「ウインドサーフィン」 場所：千葉県館山市 期日：2006 年 9 月 11 日(月)～15 日(金)　4 泊 5 日 費用：20000 円（宿泊費、食費、傷害保険料、プログラム費）
テキスト、参考文献	**評価方法**
特になし	全日程良好な健康状態で参加することを前提に、取り組み姿勢を評価・レポート作成

02 年度以前	体育（バランストレーニング）	担当者	松原　裕

講義目的、講義概要	授業計画
[講義の目標] 運動を通じて、第１番目には、目の前に展開する事象への多面的な理解と適切な対応の選択、第２番目には、集団行動での基本的なルールを尊重した上で個人個人が積極的に授業参加する態度の育成、第３番目には、生涯に渡る健康観の構築、第４番目には、定期的に運動する習慣の獲得を目標とする。 **[講義概要]** インラインスケートその他を教材とする。滑走するスポーツとして、用具を利用し、通常では味わえない感覚を経験する。基本的な滑走方法とバランス感覚を身に付けたら、インラインホッケーに挑戦する。また、冬のスノースポーツへの導入としてスラローム滑走、ジャンプ等も視野に入れる。 **[受講者への要望]** フェアな態度、団体行動、試してみる勇気。 受講にふさわしい服装の用意。	1 オリエンテーション　　個人票の作成 授業実施上の諸注意 トレーニングルームの講習と登録 2 用具合わせ　　基本スケーティング 3 基本スケーティング フォア、バック、ターン、ストップ 4 基本スケーティング　　スラローム 5 インラインホッケー 6 インラインホッケー 7 スラローム滑走　　ジャンプ 8 インラインホッケー 9 インラインホッケー 10 スラローム競争 11 総合練習 12 テスト ＊コートが使用できない場合には、教室にて講義を行うか場所を変更して実技を行うかになります。
テキスト、参考文献	**評価方法**
必要に応じて紹介する。	毎時間の出欠席、受講態度、期間中の技術の向上度などを総合して評価する。

02 年度以前	体育(スノースポーツ) (冬季集中)	担当者	松原　裕

講義目的、講義概要	授業計画
[講義の目標] 運動を通じて、第１番目には、目の前に展開する事象への多面的な理解と適切な対応の選択、第２番目には、集団行動での基本的なルールを尊重した上で個人個人が積極的に授業参加する態度の育成、第３番目には、生涯に渡る健康観の構築、第４番目には、定期的に運動する習慣の獲得を目標とする。 **[冬期集中講義]** 滑走するスポーツとして、用具を利用し、自然の斜面を利用することで通常では味わえない感覚を経験する。スノースポーツの基本的な滑走方法とバランス感覚を身に付ける。挑戦するスノースポーツは、スノーブレード・ファンスキー・ビッグフット・カービングスキー・スノーボードなど。 実施期間：12 月 26 日(火)～30 日(土)予定(4 泊 5 日) 実施場所：秋田県たざわ湖スキー場 実施費用：40,000 円（交通費含まず） **[受講者への要望]** フェアな態度、団体行動、試してみる勇気。 受講にふさわしい服装の用意	秋学期中に学内でオリエンテーションを行い、要項を配布する。 個人票の作成に伴い写真を提出しる。 費用の納入など、学内授業とは異なる負担がある。 注:02 年度以前の受講生はバランストレーニングとのセット履修となる。 ＊不明な点は３棟１階体育準備室にて指示を受けること
テキスト、参考文献	**評価方法**
必要に応じて紹介する。	毎時間の出欠席、受講態度、期間中の技術の向上度などを総合して評価する。

02 年度以前	体育(スケートトレーニング)	担当者	和田　智

講義目的、講義概要	授業計画
アウトドアレクリエーション活動のうち、日常では体験できないアイススケート、カーリングについての知識、技術を学びます。 メディアにはたびたび登場する種目ですが、体験することは難しい種目となっています。体験すると、そのスポーツに対する見方が大きく変わります。これを機会に、新しいスポーツ種目にチャレンジしてみませんか。 秋学期と冬季集中授業の組み合わせです。春学期には、最初のオリエンテーションだけは参加してください。秋学期には、インラインスケートを使ってスケートトレーニングを行います。インラインスケートならではの技術も行います。初心者の方から受講できます。	1　オリエンテーション 2　用具あわせ、基本動作 3　フォアストロークとバリエーション　その１ 4　フォアストロークとバリエーション　その１ 5　ホッケーにチャレンジ　その１ 6　ホッケーにチャレンジ　その２ 7　バックストロークとバリエーション　その１ 8　バックストロークとバリエーション　その２ 9　フォアクロッシング　その１ 10　フォアクロッシング　その２ 11　バッククロッシング 12　集中授業についてのオリエンテーション
テキスト、参考文献	**評価方法**
授業で紹介します。	出席回数、授業への参加姿勢、課題達成度によって評価

02 年度以前	体育（アイススポーツ）（冬季集中）	担当者	和田　智

講義目的、講義概要	授業計画
秋学期のスケートトレーニングの授業との組み合わせで受講してもらいます。アウトドアレクリエーション活動のうち、日常では体験できないアイススケート、カーリングについての知識、技術を学びます。また、合宿生活ですので、親しい友人を持つ絶好のチャンスとなります。宿泊地近隣に温泉があるので希望者は毎日の日程終了後利用することが可能です。	3 泊 4 日を午前と午後の 6 コマに分け、アイススケートとカーリングを行います。 アイススケート 4 コマ、カーリング 2 コマの予定です。 アイススケートは、技術の進歩度や天候によって内容を変えます。 カーリングは、試合を楽しめるまでを行います。 詳細については、オリエンテーション時に説明します。 時期：　2007 年 2 月中旬予定　3 泊 4 日 場所：　長野県軽井沢町　現地集合解散 費用：　28000 円（宿泊費、傷害保険料、入場料、貸靴代、プログラム費他）
テキスト、参考文献	**評価方法**
授業で紹介します。	出席回数、授業への参加姿勢、課題達成度によって評価

シラバス 経済学部

2006年4月1日発行

獨協大学教務部

〒340-0042 埼玉県草加市学園町1-1
電　話　048-946-1657

※この冊子は、再生紙を使用しています。

DOKKYO UNIVERSITY